

SYLLABUS

【授業の概要と授業計2021】

九州情報大学



【九州情報大学の三つのポリシー】

○大学（学部）

ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

本学が養成しようとする人材は、経営情報の高度で専門的な知識・技能を収め、建学の精神「至心」を進んで実践しようとする豊かな人間性を備えたビジネスパーソン・IT エキスパートです。こうした‘全人格的人間’を社会に輩出するために、本学は以下に示す方針の通り、学則および諸規程が定める基準に達し、併せて学士としてふさわしい力（「学士力」1. 知識・理解 2. 汎用的技能 3. 態度・志向性 4. 統合的な学習経験と創造的思考力）を修得したと認められる学生に対して「学士（経営情報学）」の学位を授与します。

- I 必修科目の単位を含めて124単位以上を修得していること。
- II 学修の成果を卒業研究（またはこれと同等と認められるもの）によって示すことができること。
- III 建学の精神を理解し自ら進んで実践しようとする姿勢を備えるとともに、社会人として必要な態度・志向性を修得していること。
- IV 経営情報学の汎用的技能や知識・理解について基礎から応用まで修得し、併せて日本商工会議所簿記検定3級以上およびITパスポート合格（またはこれらと同等以上と認められる外部標準試験の合格）と同水準の技能を有していると認められること。
- V 社会の様々な事象について、複眼的な知識・理解や汎用的技能を獲得し、それらを総合的に活用して、自らが立てた新たな課題に適用させることにより、その課題を解決することができる主体的かつ創造的な思考力や実践力を修得していること。

※参考「学士力」の評価項目は下記の通りです。

1. 知識・理解
 - ①多文化・異文化に関する知識の理解
 - ②人類の文化、社会と自然に関する知識の理解
2. 汎用的技能
 - ①コミュニケーションスキル ②数量的スキル ③情報リテラシー
 - ④論理的思考力 ⑤問題解決
3. 態度・志向性
 - ①建学の精神②自己管理能力③チームワーク④リーダーシップ⑤倫理観
 - ⑥市民としての社会的責任⑦生涯学習
4. 統合的な学習経験と創造的思考力

（参考資料 文部科学省：各専攻分野を通じて培う「学士力」ー学士課程共通の「学習成果」に関する参考指針ー）

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

経営情報の高度で専門的な知識・技能を収め、建学の精神に基づく豊かな人間性を備えたビジネスパーソン・IT エキスパートを養成するために、本学の教育課程は次のような特色の2つの科目群から構成されています。それは、幅広い教養と人格を陶冶するための「基礎総合科目」、そして経営情報学の諸分野を体系的に学ぶための「専門教育科目」です。2つの科目群は基礎から応用へと段階的に学べるように設定されており、以下に示す方針に従って編成され実施されます。

学生の成績は、卒業までに修得してほしい「学士力」（1. 知識・理解 2. 汎用的技能 3. 態度・志向性 4. 統合的な学習経験と創造的思考力）のそれぞれの観点から評価されます。

- I 建学の精神を理解させ、社会人として必要な態度・志向性を養うこと。
建学の精神に基づいた全人格的教育を行います。そのために人間性を高め、感性を豊かにすることを目的とした科目や少数人数教育を通じて社会的協調性を体得させるための科目（とくに「建学の精神と人生」、「ゼミ」、「演習」、「コミュニケーションと自己発見Ⅰ・Ⅱ」など）を設定します。
- II 経営情報学の基礎から応用までの汎用的技能や知識・理解を修得させること。
経営情報学の諸分野について、汎用的技能や知識・理解を段階的に修得できるように科目（「専門教育科目」群、「ゼミ」、「演習」など）を設定します。とくに本学の専門教育の学修成果を具体的に示すために、日本商工会議所簿記検定3級以上、ITパスポート（またはこれらと同等以上の外部標準試験）の合格を目標とします。そのための対策科目を設定します。
- III 社会の諸問題についての知識・理解や汎用的技能を高めること。
社会の様々な事象についての複眼的な知識・理解や汎用的技能を修得した有為な社会人を養成するため、本学の教育課程においては、「基礎総合科目」（人文・社会・自然科学、語学、スポーツ科学など）および「専門教育科目」（社会・法律など）の中に多様な科目を設定します。
- IV 主体的かつ創造的な思考力や実践力を修得させること。
能動型学習（アクティブラーニング）を積極的に推進して、学生が自分で課題を設定して、その解決に取り組むことができるような主体的で創造的な思考力・実践力を養います。そのための科目として「ゼミ」、「演習」などを設定します。
- V 基礎学力・技能を確認・強化すること。
学生が主体的な学びの力をなるべく早く体得できるように、コミュニケーションや学びのスキルのための初年次科目を設定します。また基礎学力を確認・強化するための科目、コンピューターリテラシーを修得するための科目を設定します。
- VI キャリア開発の技能を培い、将来の進路に備えること。
学生が卒業後の進路を自ら考え、切り開いていけるように初年次からキャリア教育科目を設定します。エントリーシートの書き方や面接の受け方、就職試験対策などの学生のニーズに応じた科目、地域の経営者団体と提携して行う産学連携の実践的な科目を設定します。

アドミッションポリシー（入学者受入れの方針）

本学が養成しようとする人材は、経営情報の高度で専門的な知識・技能を収め、建学の精神「至心」を進んで実践しようとする豊かな人間性を備えたビジネスパーソン・IT エキスパートです。この基本的理念に基づき、経営情報学科、情報ネットワーク学科共通で、以下の方針に従って入学者を受入れます。

- I 建学の精神を理解し、実践しようとする意欲を持っていること。
本学建学の精神「至心」を理解し、実践しようとする意欲があり、勉学に進んで取り組み、そして進取の精神に溢れた人を求めます。
- II 経営情報の分野に関心を持ち、学ぶ意欲があること。
経営情報の諸分野に関心を持ち、知識や技能を身につけ、深めていこうとする意欲がある人、特に経営情報の諸分野に関する検定試験や資格取得に積極的に取り組む意欲がある人を求めます。
- III 基礎的な学力を身につけていること。
大学で学ぶにあたって必要とされる学力（学校教育法第30条の第2項による）
 - (1) 基礎的・基本的な知識・技能
 - (2) 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等
 - (3) 主体的に学習に取り組む態度を入学までに修得している人を求めます。
- IV 社会の諸問題を広く多様な視点から理解し、その解決に貢献したいという意欲があること。
広範な知識・技能を体得し、社会の発展のために積極的に参画していく気概がある人を求めます。
- V 上記の方針に基づき、本学では下記の入学試験を実施して多様な学生を受け入れます。（本学の入学試験の詳細については「九州情報大学入試概要」をご覧ください。）

●推薦入試（特別推薦・一般推薦）

本学が指定した出願資格を満たしている受験生に対して、学力、経験、関心、目標、適性（コミュニケーション能力、独創性、積極性等）などを出身高等学校長による調査書と推薦書および面接と小論文（一般推薦のみ）に基づいて総合的に選考します。

●AO入試

本学が指定した出願資格を満たしている受験生に対して、学力、経験、関心、目標、適性（コミュニケーション能力、独創性、積極性等）などを受験生が作成したエントリーシートやインタビュー及び出身高等学校長による調査書を参考にして、面接に基づいて総合的に選考します。

本学のAO入試が求める学生像は次の三点です

- ① 「経営・会計・情報」に強い関心を持つ者
- ② 企業家を目指す者や家業を継ぐ予定の者
- ③ 部活動（運動・文化）、課外活動（ボランティア等）、資格・検定の取得に熱心に取り組んだ者

●吹奏楽奨学生入試およびスポーツ奨学生入試

本学が指定した出願資格を満たしている受験生に対して、学力、経験（実績）、関心、目標、適性（コミュニケーション能力、独創性、積極性等）などを受験生が作成したエントリーシートやインタビュー及び出身高等学校長による調査書を参考にして、面接と小論文（吹奏楽奨学生入試のみ）に基づいて総合的に選考します。

●一般入試

本学が指定した出願資格を満たしている受験生に対して、高等学校までに修得した基礎学力を筆記試験によって選考します。本学の一般入試の試験科目については「九州情報大学入試概要」をご覧ください。

●大学入試センター試験利用入試

本学が指定した出願資格を満たしている受験生に対して、高等学校までに修得した基礎学力をセンター試験の得点によって選考します。

●外国人留学生入試

本学が指定した出願資格を満たしている受験生に対して、学力、経験、関心、目標、適性（コミュニケーション能力、独創性、積極性等）などを受験生が作成した日本語作文(AO入試の場合は、エントリーシートやインタビューを含む)及び出身学校からの日本語能力証明書を参考にして、面接と日本留学試験(AO入試の場合は本学指定の試験)の成績に基づいて総合的に選考します。

●社会人入試

本学が指定した出願資格を満たしている受験生に対して、学力、経験、関心、目標、適性（コミュニケーション能力、独創性、積極性等）などを受験生が作成した志願理由書(AO入試の場合は、エントリーシートやインタビュー)を参考にして、面接に基づいて総合的に選考します。

●編入学入試

本学が指定した出願資格を満たしている受験生に対して、学力、経験、関心、目標、適性（コミュニケーション能力、独創性、積極性等）などを(指定校推薦の場合は、出身学校長の推薦書)を参考にして、面接と小論文（一般のみ）に基づいて総合的に選考します。

VI 本学が指定する「入学前学習」を指示に従って最後まで履行できること。

入学予定者に対しては、大学で学ぶにあたって必要と思われる基礎学力を確認・強化するために、課題や必要に応じて入学前のスクーリング等を課します。入学予定者は本学の指示に必ず従ってください。

○経営情報学科

ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

経営情報学科は、経営・会計を中心とする経営情報分野の全般にわたって高度で専門的な知識・技能を備えたビジネスパーソンを養成することを目指しています。この目標を達成するために経営情報学科は、大学が定めるディプロマポリシーの基準に達し、併せて次の要件を備えた学生に対して卒業を認定し、「学士（経営情報学）」の学位を授与します。

- I 経営学の諸分野、および流通・マーケティング、ベンチャーの諸分野について高度で専門的な知識・理解および汎用的技能を修得していること。
- II 会計学の諸分野、および簿記について高度で専門的な知識・理解および汎用的技能を修得していること。
- III ビジネス社会で必要とされる社会・法律・経済の諸分野について高度で専門的な知識・理解および汎用的技能を修得していること。
- IV ビジネス社会で必要とされる情報学の諸分野について汎用的技能および知識・理解を修得していること。

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

経営情報学科は、経営・会計を中心とする経営情報分野の全般にわたって高度で専門的な知識・技能を備えたビジネスパーソンを養成することを目指しています。この目標を達成するために経営情報学科の教育課程は、大学が定めるカリキュラムポリシーに基づき、以下の方針に沿って教育課程を編成し実施します。

- I 経営学の諸分野、および流通・マーケティング、ベンチャーの諸分野について高度で専門的な知識・理解および汎用的技能を修得させること。
経営の概念や理論全般をはじめとして、労務・財務・生産部門の知識と理論、流通や商業およびベンチャーや経営戦略に関する知識と理論等について、基礎から応用まで学ぶことができる科目を年次に応じて設定します。またインターネットを駆使したビジネスのあり方などアップデートなテーマを扱った科目も設定します。
- II 会計学の諸分野、および簿記について高度で専門的な知識・理解および汎用的技能を修得させること。
会計の概念や理論全般をはじめとして、財務・税務・管理・原価会計部門の知識と理論、経営分析や監査に関する知識と理論等について、基礎から応用まで学ぶことができる科目を年次に応じて設定します。また簿記については、より高度な技能を身につけるために少人数クラスを設定します。とくに学修成果を具体的に示すために、日本商工会議所簿記検定2級以上（またはこれと同等と認められる外部標準試験）の合格を目標として、そのための対策科目を設定します。
- III ビジネス社会で必要とされる社会・法律・経済について高度で専門的な知識・理解および汎用的技能を修得させること。
税法、商法、知的所有権などの法律についての科目、国際経済や金融事情を理解するための科目、ビジネスで用いられる英語を学ぶ科目などを設定します。
- IV ビジネス社会で必要とされる情報学の諸分野の汎用的技能および知識・理解を修得させること。
情報の基礎的概念や理論をはじめとして、情報技術、プログラミング、データベース、Webデザイン、情報セキュリティ、マネージメントゲームなどビジネスに必要な情報関連科目を設定します

アドミッションポリシー（入学者受入れの方針）

経営情報学科は、経営・会計を中心とする経営情報分野の全般にわたって高度で専門的な知識・技能を備えたビジネスパーソンを養成することを目指しています。この目標を達成するために経営情報学科は、大学が定めるアドミッションポリシーに基づき、以下のような意欲・目標を持った入学者を求めます。

- I ビジネス・マネジメント全般にわたって関心がある人
- II 情報処理全般にわたって関心がある人
- III 経営・会計分野の検定試験に意欲的に取り組める人
- IV 学習の目的と将来の進路について意識を持っている人

○情報ネットワーク学科

ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

情報ネットワーク学科は、情報を中心とする経営情報分野の全般にわたって高度で専門的な知識・技能を備えた IT エキスパートを養成することを目指しています。この目標を達成するために情報ネットワーク学科は、大学が定めるディプロマポリシーの基準に達し、併せて次の要件を備えた学生に対して卒業を認定し、「学士（経営情報学）」の学位を授与します。

- I 情報理論・技術全般、プログラミング、情報システム、ネットビジネス、情報ネットワークの諸分野について高度で専門的な知識・理解および汎用的技能を修得していること。
- II IT社会で必要とされる経営・会計・社会・法律・経済の諸分野について汎用的技能および知識・理解を修得していること。

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

情報ネットワーク学科は、情報を中心とする経営情報分野の全般にわたって高度で専門的な知識・技能を備えた IT エキスパートを養成することを目指しています。この目標を達成するために情報ネットワーク学科は、大学が定めるカリキュラムポリシーに基づき、以下の方針に沿って教育課程を編成し、実施します。

- I 情報理論・技術全般、プログラミング、情報システム、ネットビジネス、情報ネットワークの諸分野について高度で専門的な知識・理解および汎用的技能を修得させること。
情報の概念や理論全般をはじめとして、情報技術に関する科目、プログラミングの基礎から応用までの科目、情報システムの理論および開発や管理に関する科目、Web デザインやアプリケーションの構築を学ぶ科目、ネットワークやインターネット技術に関する科目、マネージメントゲームやマルチメディアなど最先端の IT 事情に関する科目などを設定します。とくに学修成果を具体的に示すために、基本情報技術者試験（またはこれと同等と認められる外部標準試験）の合格を目標として、そのための対策科目を設定します。
- II IT社会で必要とされる経営・会計・社会・法律・経済の諸分野についての汎用的技能および知識・理解を修得させること。
経営・会計分野の基礎的概念や理論をはじめとして、流通・マーケティング、ベンチャー、簿記、法律などの分野に関して、必要な科目を設定します。

アドミッションポリシー（入学者受入れの方針）

情報ネットワーク学科は、情報を中心とする経営情報分野の全般にわたって高度で専門的な知識・技術を備えた IT エキスパートを養成することを目指しています。この目標を達成するために情報ネットワーク学科は、大学が定めるアドミッションポリシーに基づき、以下のような意欲・目標を持った入学者を求めます。

- I 情報処理全般にわたって関心がある人
- II ビジネス・マネジメント全般にわたって関心がある人
- III 情報分野の検定試験に意欲的に取り組める人
- IV 学習の目的と将来の進路について意識を持っている人

2021年度 学年暦

| 日 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 日 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 日 |
|----|---|----------------|-------|-------------|---------------------|-------------------------------------|-----------------|----------|-----------------------|-------------------|--------------------|----------|----|----|
| 1 | 木 入学前オリエンテーション | 土 休日 | 火 7 | 木 12 | 日 | 水 | 1 金 2 | 月 6 | 水 9 | 土 元日 | 火 | 火 | 1 | |
| 2 | 金 在学生オリエンテーション | 日 休日 | 水 7 | 金 13 | 月 | 木 | 2 土 | 火 6 | 木 10 | 日 | 水 | 水 | 2 | |
| 3 | 土 新入生合宿 | 月 憲法記念日 | 木 8 | 土 | 火 定期試験 (7/30~8/10) | 金 | 3 日 | 水 文化の日 | 金 10 | 月 | 木 | 木 | 3 | |
| 4 | 日 新入生合宿 | 火 みどりの日 | 金 9 | 日 | 水 | 土 | 4 月 2 | 木 6 | 土 | 火 | 金 | 金 | 4 | |
| 5 | 月 4年生履修登録期間 (4/2~4/7) | 水 こどもの日 | 土 | 月 12 | 木 | 日 | 5 火 2 | 金 6 | 日 | 水 | 土 | 土 | 5 | |
| 6 | 火 入学式 新入生オリエンテーション 新入生オリエンテーション 新入生健康診断 | 木 4 | 日 | 火 12 | 金 | 月 | 6 水 2 | 土 | 月 11 | 木 | 日 | 日 | 6 | |
| 7 | 水 1年生プレテスト | 金 5 | 月 8 | 水 12 | 土 | 火 | 7 木 2 | 日 | 火 10 | 金 13 授業開始 | 月 | 月 | 7 | |
| 8 | 木 前期開講 1 | 土 | 火 8 | 木 13 | 日 山の日 | 水 | 8 金 3 | 月 7 | 水 10 | 土 | 火 | 火 | 8 | |
| 9 | 金 1~3年生履修登録期間 (4/9~15) | 日 | 水 8 | 金 14 | 月 山の日振替休日 | 木 | 9 土 | 火 7 | 木 11 | 日 | 水 | 水 | 9 | |
| 10 | 土 | 月 4 | 木 9 | 土 | 火 | 金 | 10 日 | 水 6 | 金 11 | 月 成人の日 | 木 | 木 | 10 | |
| 11 | 日 | 火 4 | 金 10 | 日 | 水 iパス・簿記コンテスト | 土 | 11 月 3 | 木 7 | 土 | 火 13 | 金 建国記念日 | 金 | 11 | |
| 12 | 月 | 水 4 | 土 | 月 13 | 木 夏季休業 (8/12~9/21) | 日 | 12 火 3 | 金 7 | 日 | 水 13 | 土 | 土 | 12 | |
| 13 | 火 1 | 木 5 | 日 | 火 13 | 金 事務室夏季休業 (8/13~15) | 月 | 13 水 3 | 土 | 月 12 | 木 14 | 日 | 日 | 13 | |
| 14 | 水 1 | 金 6 | 月 9 | 水 13 | 土 | 火 | 14 木 3 | 日 | 火 11 | 金 14 | 月 | 月 | 14 | |
| 15 | 木 1 | 土 | 火 9 | 木 14 | 日 | 水 | 15 金 4 | 月 8 | 水 11 | 土 | 火 | 火 | 15 | |
| 16 | 金 2 | 日 | 水 9 | 金 15 | 月 | 木 | 16 土 | 火 8 | 木 12 | 日 | 水 | 水 | 16 | |
| 17 | 土 | 月 5 | 木 10 | 土 補講日 | 火 | 金 | 17 日 | 水 7 | 金 12 | 月 14 | 木 | 木 | 17 | |
| 18 | 日 | 火 5 | 金 11 | 日 | 水 | 土 | 18 月 4 | 木 8 | 土 | 火 14 | 金 | 金 学位記授与式 | 18 | |
| 19 | 月 2 | 水 5 | 土 | 月 14 | 木 | 日 | 19 火 4 | 金 8 | 日 | 水 14 | 土 | 土 | 19 | |
| 20 | 火 2 | 木 6 | 日 | 火 14 | 金 | 月 敬老の日 | 20 水 4 | 土 | 月 13 | 木 15 | 日 | 日 | 20 | |
| 21 | 水 2 | 金 7 | 月 10 | 水 14 | 土 | 火 | 21 木 4 | 日 | 火 12 | 金 15 | 月 | 月 春分の日 | 21 | |
| 22 | 木 2 | 土 補講日 | 火 10 | 木 海の日 | 日 | 水 後期オリエンテーション | 22 金 5 | 月 9 | 水 12 | 土 補講日 | 火 後期追再試験 (2/21~24) | 火 | 火 | 22 |
| 23 | 金 3 | 日 | 水 10 | 金 スポーツの日 | 月 | 木 秋分の日 | 23 土 補講日 | 火 勤労感謝の日 | 木 13 | 日 | 水 天皇誕生日 | 水 | 水 | 23 |
| 24 | 土 | 月 6 | 木 11 | 土 | 火 | 金 1 後期開講 | 24 日 | 水 8 | 金 補講日 | 月 15 | 木 | 木 | 24 | |
| 25 | 日 | 火 6 | 金 12 | 日 | 水 | 土 1~3年生履修登録期間 4年生履修登録変更期間 (9/24~30) | 25 月 5 | 木 9 | 土 冬季休業 (12/25~1/6) | 火 15 | 金 春季休業 (3/25~3/31) | 金 | 25 | |
| 26 | 月 3 | 水 6 | 土 補講日 | 月 15 | 木 前期追再試験 (8/25~27) | 日 | 26 火 5 | 金 9 | 日 | 水 15後期授業終了 | 土 | 土 | 26 | |
| 27 | 火 3 | 木 開学記念日 (通常授業) | 日 | 火 15 | 金 | 月 | 27 水 5 | 土 | 月 | 木 | 日 | 日 | 27 | |
| 28 | 水 3 | 金 8 学生総会 | 月 11 | 水 15 | 土 | 火 1 | 28 木 5 | 日 | 火 | 金 | 月 | 月 | 28 | |
| 29 | 木 3 昭和の日 (通常授業) | 土 | 火 11 | 木 15 前期授業終了 | 日 | 水 1 | 29 金 休講 (学園祭準備) | 月 10 | 水 事務室冬季休業 (12/29~1/3) | 土 定期試験 (1/27~2/4) | 火 | 火 | 29 | |
| 30 | 金 4 | 日 | 水 11 | 金 | 月 | 木 1 | 30 土 学園祭 | 火 9 | 木 | 日 | 水 | 水 | 30 | |
| 31 | | 月 7 | | 土 定期試験 | 火 | | 31 日 学園祭 | | 金 | 月 | | 木 | 31 | |

九州情報大学 履修案内

1. はじめに

履修とは「決められた学科などを習い修めること」です。大学では、必ず履修しなければならない授業科目（必修科目・選択必修科目）と履修したい授業科目（選択科目）を、自分自身で選択して教務課に届け出なければなりません。学生全員の届け出が終了した後でこれを集計し、授業科目ごとの名簿が作成されます。この一連の手続きを履修登録といい、この履修登録が正しくされないと、卒業にも重大な影響が出てきます。従って履修登録は慎重に行ってください。

本学では1年間を前期と後期の2学期に分けて授業を行います。各学期の1授業科目の授業回数は、15回です。授業は講義・演習、実験・実習および実技などの形態で行われ、各学期または年1回の定期試験の後、60点以上の評価であれば所定の単位を与えます。4年以上在学して、学則第23条第2項別表第Iおよび別表第IIに定めるところにより所定の授業科目を履修し、合計124単位以上を修得した者を卒業と認め「学士（経営情報学）」の学位を授与します。

以下では、「九州情報大学学則（以下「学則」といいます。）」および「九州情報大学授業科目履修規程（以下「履修規程」といいます。）」に沿って履修登録から卒業までの学習に関することがらについて、順を追って説明します。また、学則や履修規程は、改正されることがありますが、**卒業要件は、原則として入学時の規定が適用されます。従って、入学時に配布する学生便覧は、卒業するまで大切に保管してください。**

2. 教育課程

本学の授業科目は、「基礎総合科目」、「専門教育科目」および「教職に関する科目」に分けて編成されています。教職課程科目（「教職に関する科目」を含む）については、別冊「教職課程の手引き」で詳細に説明していますので、ここでは、「学則」第23条第2項別表第Iおよび別表第IIに定める授業科目（「基礎総合科目」、「専門教育科目」）について説明します。開設する授業科目、必修・選択の別、単位数などはこの別表第Iおよび別表第IIに示されています。卒業するためには、別表第Iおよび別表第IIの教育課程表に従って授業科目を履修し、124単位以上を修得しなければなりません。履修規程別表Iおよび別表IIでは、学則別表第Iおよび別表第IIの教育課程表を各学年別に整理して掲げていますが、この履修案内では、入学年度別に分けて「授業科目一覧」を掲げています。履修登録時の参考にしてください。

単位計算の基準は次のとおりです。

| 区分 | 授業時間 | 単位 |
|-------|-----------|-----|
| 講義・演習 | 1コマ/週×15週 | 2単位 |
| 演習 | 1コマ/週×30週 | 4単位 |
| 実習 | 1コマ/週×30週 | 2単位 |
| 実技 | 1コマ/週×15週 | 1単位 |

1コマの授業時間90分を2時間とみなす

また、卒業までの年次別修得単位数の目安は次のとおりです。

| 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 | 合計 |
|--------|--------|--------|-------|---------|
| 40単位以上 | 40単位以上 | 36単位以上 | 8単位以上 | 124単位以上 |

これは卒業することだけを主眼に置いた目安です。従って大学生にふさわしい広い視野と豊富な知識を身につけるためには、更に多くの科目を履修し単位を修得することが必要です。とりわけ就職活動を有利に進めたり、各分野で経営情報学部の卒業生として活躍したりするためには、3・4年次に専門教育科目を数多く履修することと、必修科目でもあるゼミナール・演習活動に力を注ぐことが重要です。

3. 授業

授業科目は、その授業が行われる時期によって次のように分類されます。

- ・ 前期科目 前期開講、前期終了科目
- ・ 後期科目 後期開講、後期終了科目
- ・ 通年科目 1年間の継続開講科目
- ・ 集中講義科目 時期的に集中開講される科目

授業は、「授業時間割」によって行われますが以下の点に注意してください。やむを得ない事情により開講又は継続ができなくなった授業科目については、開講時期（集中講義を含む）若しくは担当教員等を変更することがあります。授業科目によっては、あらかじめ受講者数を制限することがあります。

授業時間は、次のとおりです。

| | |
|------|---------------|
| 1時限目 | 8時50分～10時20分 |
| 2時限目 | 10時30分～12時00分 |
| 3時限目 | 12時50分～14時20分 |
| 4時限目 | 14時30分～16時00分 |
| 5時限目 | 16時10分～17時40分 |

◇交通機関の運休による授業の取扱い

公共交通機関において天候（降雪、台風）等のため運休になった場合、当日の授業は、下記のとおり取り扱われます。

- ア.午前7時までに運休が解除されたときは、当日の授業は平常どおり行います。
- イ.午前7時を過ぎ午前9時までの間に運休が解除されたときは、午前の授業は休講とし、午後の授業は平常どおり行います。
- ウ.午前9時を過ぎても運休が解除されないときは、終日休講とします。
- エ.西鉄大牟田線・太宰府線以外の私鉄の交通機関において運休になった場合でも、西鉄大牟田線・太宰府線が通常どおり運行されていれば、授業は平常どおり行います。
- オ.以上のほか、交通機関が麻痺し、通学不能と本学が認めた場合は休講とします。

◇休講と補講

都合により授業が実施されない場合があります。この場合は、教務課掲示板に休講日時、休講科目、担当教員等を掲示します。また、休講情報はインターネットを利用したサービスも行っています。アドレス等詳細は、教務課掲示板を確認してください。



・インターネット（九州情報大学→在学生の皆様へ→休講情報）

※ ID と Pass は教務課掲示板をご覧ください。

補講は、原則として指定の土曜日および各学期定期試験前に特別に期間を設けて実施しますが、授業によっては、変則な日時で実施することもありますので注意してください。

4. 履修登録

履修登録とは、各授業科目の受講者名簿に、その科目の履修を希望する学生の学籍番号・氏名を登録することです。

授業科目には、必修科目および選択科目があります。各授業科目間には、それぞれつながりのある科目がありますので、選択科目の履修登録にあたっては、オリエンテーションでの話、講義要目（シラバス）、授業時間割、卒業要件および卒業単位数等をよく検討し、学習計画をたてた上で選択してください。

履修しようとする授業科目は、年度又は学期の初めの指定された期間に教務課に登録しなければなりません。ただし、万一事故等のため指定された期間に登録できないときは、教務課に相談してください。本学の場合、1年次前期以外は web 上で履修登録を実施しています。学年暦で指定された期間内に履修登録を行ってください。1年次前期については、履修登録用紙を指定された期間内に教務課に提出してください。

履修登録を行わない人は、授業および定期試験を受けることができません。したがって単位の認定もできなくなります。ただし、正当な理由があつて指定された期間に手続きできなかった人は、後日各授業担当教員の承認を得て登録できることもありますので必ず申し出てください。

履修登録後、履修科目確認リストまたは Web 上で、各自確認してください。

※履修登録期間・登録方法等詳細は、その都度掲示等でも連絡します。

履修規定より抜粋 <参考>

第5条

2 本学学生が、1年間に履修登録できる単位数は、原則として 49 単位（教職に関する科目は含まない）を上限とする。

5. 定期試験等

◇試験の種類

「試験」には次の4種類があります。

- ・定期試験：前期および後期の学期末に、一定期間内で実施される試験をいいます。
- ・臨時試験：授業科目担当教員（以下、「担当教員」といいます。）の判断により、定期試験期間以外に実施される試験をいいます。
- ・追試験：正当な理由により、定期試験を受験できなかった人に対して実施される試験をいいます(後述、追試験の項参照)。
- ・再試験：定期試験の結果、不合格の判定を受けた人に対して実施される試験をいいます。再試験は担当教員の判断により実施されないときがあります(後述、再試験の項参照)。

◇試験の実施方法

試験は、原則として筆記試験で行われます。授業科目によっては、レポート、実技、口頭試問等で行われます。

試験時間割は、試験開始日の10日前に掲示で発表します（試験室は試験当日発表）。

試験時間は、原則として60分とします。

◇受験資格

次のいずれかに該当する人は、試験を受けることができません。

- ・試験を受けようとする授業科目の履修登録をしていない者（ただし、なんらかの過失により履修登録が行われておらず、かつ当該受験科目を常時受講していた場合は、担当教員の承認を得て直ちに履修登録を行うことにより、受験できる場合がある。）
- ・当該学期分の授業料を前納していない者（ただし、事前に延納願を提出し、学長の許可を得た者を除く。）
- ・休学中又は停学中の者
- ・受験時に学生証を携帯していない者（ただし、学生課で当日限り有効の仮学生証の交付を受け、これを学生証に代えることができる。仮学生証の発行は試験期間中2回まで。）
- ・試験開始後20分以上遅刻した者
- ・原則として当該授業の3分の1以上欠席した者

◇受験前の注意

試験を受けるまでに、次のことを確認してください。

- ・試験が行われる日時と場所。
- ・持ち込み（辞書、自筆のノート等）が許可されている試験か否か。
- ・筆記用具が指定されている試験か否か。
- ・学生証は有るか。
- ・受験許可の有無。

◇受験時の注意

試験を受けるときは次のことに留意し、監督者の指示に従ってください。

- ・必ず指定された教室で、指定又は指示された席で受験してください。
- ・机の中にノート、教科書等を入れないようにしてください。
- ・学生証は、試験監督の指定する場所に置いてください。
- ・参考書、辞書、六法全書等の使用が許可されている場合でも、複写（コピー）したものは認められていません。
- ・特別に許可がある以外、電子辞書の試験場への持込みはできません。
- ・図書館(すべての図書館)の図書および資料は試験中利用できません。
- ・試験中の私語、物品の貸借等はしてはいけません。
- ・退室は、試験開始から 30 分以降とします。
- ・答案用紙は、試験監督者の指定する場所に提出し、提出後は速やかに退室してください。
- ・答案用紙を持ち帰ることは禁止されています。
- ・試験終了後、答案の回収が終わるまでは、次の時間の人は入室してはいけません。
- ・試験中に、試験室横の廊下等での立話は、受験中の人に迷惑をかけることとなりますので慎んでください。
- ・試験開始後、当該試験を棄権したい場合は、採点欄に「キケン」と記入してください。この場合当該科目の単位を放棄したものとします。従って追・再試験を受験することはできません。

◇レポート

レポートは、担当教員から指示された方式、提出期日・提出場所等を守って提出してください。なお、郵便および代理人による提出は認められません。

レポート用紙は、A 4 の大きさで提出してください。ただし、担当教員から別途指示があるときはこの限りではありません。

レポートには授業科目名・題名・学籍番号・氏名を明記した表紙をつけ、ホッチキス等で留めて提出してください。

◇不正行為

試験中に不正行為を行った場合、原則として即時受験停止とします。

不正行為は、学則第 41 条に基づいて懲戒の対象となります。



不正行為は、履修規定第 13 条に基づき当該学期の全受験科目が 0 点となります。

◇試験結果の発表

試験の結果については、定期試験終了後、学内に掲示で発表します。学内掲示には次のように表示されます。

| | | | |
|----|------|-------|---------------|
| 表示 | ○ | × | 欠席 |
| 内容 | (合格) | (不合格) | (欠席または棄権した場合) |

追・再試験終了後（各学期成績確定後）「成績通知書」を次のように配布します。「成績通知書」は、秀、優、良、可で表示されます。

教務課  ゼミまたはクラス担任 ⇒ 学生個人へ
 保護者（郵送）

6. 追試験

正当な理由で定期試験を受験できなかった授業科目については、追試験を受けることができます。

追試験を受けようとする人は、定期試験の最終日から 7 日以内に、理由を明記した欠席届とその証明書を教務課に提出しなければなりません。

追試験を受験できる理由と提出する証明書等の事例は、次のとおりです。

- ・本人の病気または怪我（医師の診断書）
- ・二親等以内（父母兄弟など）の危篤または死亡（医師の診断書または会葬礼状等）
- ・就職試験の受験（受験証明書）
- ・天候不順や事故等による交通機関の乱れ（遅延証明書）
- ・天災等の非常災害（証明できるもの）
- ・その他やむを得ないと判断されたとき（証明できるもの）

追試験は、最高 80 点で評価されます。

◇追試験の申込み

追試験を受けようとする人は、指定された期間に「追・再試験受験願書」を教務課に提出してください。

追試験を申込みときは、1 授業科目につき 1,500 円の試験料が必要です。

7. 再試験

試験の結果、不合格となった授業科目（成績発表時に「×」で表示）については、再試験を受けることができます。ただし、再試験が行われない科目もありますので注意してください。また、本試験を棄権した場合も再試験の受験はできません。

再試験は、最高 60 点で評価されます。

◇再試験の申込み

再試験を受けようとする人は、指定された期間に「追・再試験受験願書」を教務課に提出してください。

再試験を申込みときは、1 授業科目につき 1,500 円の試験料が必要です。

8. 再履修

不合格となった授業科目は、次年度に再度履修（以下、「再履修」という）することができます。

当該年度に再履修しようとする授業科目が開講されなかったときや廃止されたときは、指定された代替科目を履修してください。

◇必修科目の再履修について

在籍学年に再履修クラスが設けられているときは、再履修クラスで登録してください。在籍学年の必修科目と再履修科目の時間が重複しているときは、教務課に相談してください。

◇選択科目の再履修について

選択科目の再履修は、必修科目の再履修と同じ方法で時間割を組むか、卒業単位等をよく検討して別の科目を選択することもできます。

9. 成績の評価

授業科目の成績は、次の基準により評価され、学則第27条により、秀、優、良、可、が合格、不可が不合格となります。

| | |
|----|----------|
| 秀 | 100点～90点 |
| 優 | 89点～80点 |
| 良 | 79点～70点 |
| 可 | 69点～60点 |
| 不可 | 59点～0点 |

合格した科目は、単位が認定され、「成績証明書」には、秀、優、良、可で表示されます。ただし、不合格となった科目については単位が認定されず、同証明書には、何の表示もされません。

入学前に修得した科目が本学の授業科目に振り替えられた場合、資格が単位として認定された場合は、その表示は「認」で表示されます。

※本学では、提出された成績評価をGPAで計算する場合があります。

GPA (Grade Point Average) とは、各科目の成績から特定の方式によって算出された学生の成績評価値のこと、あるいはその成績評価方式のことです。

一般的に試験の成績100～90を4点、89～80を3点、79～70を2点、69～60を1点、59以下を0点換算し、各科目の(単位数×ポイント)の合計÷総単位数(履修登録単位の総数)で求めます。

10. 単位の認定

授業科目を履修し、その試験に合格した者には、所定の単位を与えます。

合格した授業科目の再履修、再受験、取消はできません。

11. 卒業延期、退学勧告

授業科目の内容を理解するには、少なくともその総授業時間の3分の2以上出席していることが望まれます。出席状況が悪いと授業内容がわからなくなり勉学の意欲が薄れ、定期試験の受験資格を得られなかったり、若しくは、合格率が悪くなり、卒業延期(留年)や退学等の原因ともなりますので注意してください。

【学則年度 220～】

専門ゼミⅠまたは、経営学演習Ⅰ・情報学演習Ⅰを履修登録するためには、条件があります。この条件を満たしていない場合、専門ゼミⅠまたは、経営学演習Ⅰ・情報学演習Ⅰと専門ゼミⅡまたは、経営学演習Ⅱ・情報学演習Ⅱは同時に履修できないので4年間で卒業することができなくなります。履修規程で必ず確認してください。

履修規程から抜粋<参考>

第8条 専門ゼミⅠまたは、経営学演習Ⅰ・情報学演習Ⅰは、原則としてその履修登録時において基礎ゼミまたは、経営学基礎演習・情報学基礎演習を修得した者でなければ履修登録できない。

【学則年度 219～】

専門ゼミⅠを履修登録するためには、条件があります。この条件を満たしていない場合、専門ゼミⅠと専門ゼミⅡは同時に履修できないので4年間で卒業することができなくなります。履修規程で必ず確認してください。

履修規程から抜粋<参考>

第8条 専門ゼミⅠは、原則としてその履修登録時において基礎ゼミを修得した者でなければ履修登録できない。
ただし、編入学生については、これを適用しない。

【学則年度 214～】

専門ゼミⅠまたは、経営学演習Ⅰ・情報学演習Ⅰを履修登録するためには、条件があります。この条件を満たしていない場合、専門ゼミⅠまたは、経営学演習Ⅰ・情報学演習Ⅰと専門ゼミⅡまたは、経営学演習Ⅱ・情報学演習Ⅱは同時に履修できないので4年間で卒業することができなくなります。履修規程で必ず確認してください。

履修規程から抜粋<参考>

第8条 専門ゼミⅠまたは、経営学演習Ⅰ・情報学演習Ⅰは、原則としてその履修登録時において基礎ゼミまたは、経営学基礎演習・情報学基礎演習を修得した者でなければ履修登録できない。

各学年の授業科目をできるだけ多く受講し、確実に単位を修得してください。なお、3年生までの成績は「成績証明書」として就職試験時の参考資料にもなりますし、修得単位数によっては「卒業見込証明書」が発行されず、就職活動ができません。

*「卒業見込証明書」は、4年生以上で履修登録をした科目を修得すれば、卒業要件を満たす場合に発行されます。

4年終了までに、卒業要件である124単位以上の単位を修得できないとき、又は必修科目を1科目でも修得できないときは、卒業延期(留年)となります。

正当な理由がなく、各学年において修得単位が著しく少ない人には、事情をよく聞いた上で退学を勧告することがあります。

9月卒業について

4年以上在学した者で次の要件を満たす場合は、9月（前期）に卒業することができます。

- (1) 前期科目を修得することによって卒業要件を満たす場合

12. 入学年度別授業科目一覧

履修規程の別表Ⅰ・Ⅱでは、学則別表第Ⅰ・Ⅱの教育課程表を各学年別に整理して掲げています。履修登録時の参考にしてください。

GPA (Grade Point Average) 制度について

GPA (Grade Point Average) とは

九州情報大学では、2017年度から GPA 制度を導入しました (2017年度以降入学生のみ対象)。GPA 制度の評価方法は、科目の成績評価にグレード・ポイント(GP)を付与することにより、1単位あたりの成績の平均値を示すものです。

(1) 成績評価基準とグレード・ポイント (GP)

| 点数 | 評価 | 可否 | GP | |
|--------|----|--------------|------------|-----------------------------|
| 100-90 | 秀 | 合格 (単位修得) | 4 | GPA<成績評価を受けた科目の単位> (分母) の対象 |
| 89-80 | 優 | | 3 | |
| 79-70 | 良 | | 2 | |
| 69-60 | 可 | | 1 | |
| 59-0 | 不可 | 不合格 | 0 | |
| 棄権・欠席 | - | | 0 | |
| 認定 | 認 | 認定(合格) | GPA の計算対象外 | |

※認定：編入学および資格取得における単位認定科目

(2) GPA の算出式

$$\text{GPA} = \frac{\text{【 成績評価を受けた科目の単位数 } \times \text{ 科目の GP } \text{】 の 合計}}{\text{【 成績評価を受けた科目の単位数 } \text{】 の 合計}}$$

(3) GPA の確認方法

- ・成績通知書：通算 GPA が表示されます。
- ・Campus Plan：成績状況参照の「GPA 欄」にて各学期・各年度の GPA を確認することができます。

(4) GPA の目安

| GPA の値 | 評価の平均値 | 学修・生活面の状態 |
|---------|----------------|---------------------------------------|
| 4.0～3.0 | 優評価を平均的に修得 | 非常に優秀です。問題はありません。 |
| 2.9～2.0 | 優評価～良評価を平均的に修得 | 問題はありませんが、セメスターごとに下がってきている場合は注意が必要です。 |
| 1.9～1.0 | 良評価～可評価を平均的に修得 | ぎりぎり合格しているレベルです。今後の学修姿勢に注意が必要です。 |
| 0.9～ | 不合格の割合が多い | 学修状況や生活面での見直しが必要です。 |

以上

社会福祉主事

(1) 取得できる資格について

社会福祉主事とは、福祉事務所現業員 (老人福祉指導主事、母子相談員等) として任用される者に要求される資格です。また、社会福祉施設の職員等 (施設長、生活指導員等) の資格にも準用されています。

社会福祉各法に定める援護又は更生の措置に関する事務を行うために、福祉事務所には必置義務があります。(福祉事務所のない町村には任意設置)

「社会福祉主事」の任用資格は、卒業までに(2)に記載の授業科目のうち3科目分の単位を取得すると得ることができます。

同資格の取得を希望する者は、取得に必要な講義の履修登録に留意すること。

社会福祉主事任用資格の必要な職種は以下のとおり。

| | | |
|----|--------|---|
| 行政 | 福祉事務所 | 現業員、査察指導員、老人福祉指導主事、母子相談員、家庭児童福祉主事[児童福祉事業主事2年以上等]、家庭相談員[児童福祉事業従事2年以上等] |
| | 各種相談所 | 知的障害者福祉司[知的障害者福祉事業従事2年以上等]、 身体障害者福祉司[身体障害者福祉事業従事2年以上等] 児童福祉司[児童福祉事業従事2年以上等] |
| | 社会福祉施設 | 施設長、生活指導員 等 |

※ []内は、社会福祉主事任用資格に加えて必要な要件

(2) 修得すべき授業科目について

| 授業科目名 | 配当年次 | H31(2019)以降入学 | H24(2012)～H30(2018)入学 |
|-------------|------|---------------|-----------------------|
| 法学 | 1年 | 法学 | 法学 |
| 民法 | 2年 | 民事法 | 民法Ⅰ・民法Ⅱ |
| 経済学 | 1年 | 経済学 | 経済学Ⅰ・経済学Ⅱ |
| 社会学 | 1年 | 社会学 | 社会学Ⅰ・社会学Ⅱ |
| 心理学 | 1年 | 心理学 | 心理学Ⅰ・心理学Ⅱ |
| 資格取得に必要な科目数 | | 上記科目のうち3科目 | |

※ 2012年度以降入学者適用

授業科目一覧 経営情報学科

※シラバスの詳細を確認する際は
各科目をクリックしてください。

○卒業要件
必修科目42単位を含めて124単位以上を修得すること

基礎総合科目の開講時期と単位数

- (注1) * 印のついた科目は必修科目
- (注2) 「総合」の分野から * を含み12単位以上修得
- (注3) 「語学」の分野から * を含み6単位以上修得
- (注4) 「演習」の分野から * を含み16単位以上修得
- (注5) ☆ 印のついた科目は外国人留学生のみ選択可
- (注6) (前)は前期開講、(後)は後期開講科目を表します。

履修規定より抜粋 <参考>
第5条 2 本学学生が、1年間に履修登録できる単位数は、原則として49単位(教職に関する科目は含まない)を上限とする。

【学籍番号】
214以降

| | | 1年生 | | 2年生 | | 3年生 | | 4年生 | |
|-----------|-------------------------|----------------------|----------------------|------|----|------|----|------|----|
| | | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 |
| 基礎総合科目 | 人文科学 | * 建学の精神と人生 (前) 2 | | | | | | | |
| | | 宗教と人生 (後) 2 | | | | | | | |
| | | * 情報倫理 (後) 2 | | | | | | | |
| | | 心理学Ⅰ (前) 2 | | | | | | | |
| | | 心理学Ⅱ (後) 2 | | | | | | | |
| | | 文学 (前) 2 | | | | | | | |
| | | 日本文化論 (後) 2 | | | | | | | |
| | | 芸術論Ⅰ (前) 2 | | | | | | | |
| | | 芸術論Ⅱ (後) 2 | | | | | | | |
| | | 基礎デザイン (後) 2 | | | | | | | |
| | ☆ 日本事情A (前) 2 | | | | | | | | |
| | 社会科学 | 法学 (前) 2 | 民法Ⅰ(契約総論) (前) 2 | | | | | | |
| | | 日本国憲法 (後) 2 | 民法Ⅱ(契約各論・不法行為) (後) 2 | | | | | | |
| | | 社会学Ⅰ (前) 2 | | | | | | | |
| | | 社会学Ⅱ (後) 2 | | | | | | | |
| | | 政治学Ⅰ (前) 2 | | | | | | | |
| | | 政治学Ⅱ (後) 2 | | | | | | | |
| | | 経済学Ⅰ (前) 2 | | | | | | | |
| | | 経済学Ⅱ (後) 2 | | | | | | | |
| | | ☆ 日本事情B (後) 2 | | | | | | | |
| 自然科学 | | 基礎数学 (前) 2 | | | | | | | |
| 統計学 (後) 2 | | | | | | | | | |
| 言語学 | ウェルネス (前) 1 | スポーツ理論 (前) 2 | | | | | | | |
| | スポーツ (後) 1 | ウェルネス理論 (後) 2 | | | | | | | |
| | 英会話BasicⅠ (前) 2 | 英会話AdvancedⅠ (前) 2 | | | | | | | |
| | 英会話BasicⅡ (後) 2 | 英会話AdvancedⅡ (後) 2 | | | | | | | |
| | * 総合英語 (前) 2 | 英検上級Ⅰ・TOEIC応用Ⅰ (前) 2 | | | | | | | |
| | 英検中級・TOEIC基礎 (後) 2 | 英検上級Ⅱ・TOEIC応用Ⅱ (後) 2 | | | | | | | |
| | 中国語 入門中国語 (前) 2 | 中級中国語 (前) 2 | | | | | | | |
| | 中国語 初級中国語 (後) 2 | | | | | | | | |
| | 韓国語 入門韓国語 (前) 2 | 中級韓国語 (前) 2 | | | | | | | |
| | 韓国語 初級韓国語 (後) 2 | 上級韓国語 (後) 2 | | | | | | | |
| 特別講義 | ☆ 日本語Ⅰ (前) 2 | | | | | | | | |
| | ☆ 日本語Ⅱ (後) 2 | | | | | | | | |
| | ☆ 日本語Ⅲ (前) 2 | | | | | | | | |
| | ☆ 日本語Ⅳ (後) 2 | | | | | | | | |
| 特別講義 | 特別講義(語学) 2~4 | | | | | | | | |
| 演習 | * 大学基礎総合Ⅰ (前) 2 | * キャリアデザイン入門Ⅰ (前) 2 | キャリアデザインⅠ (前) 2 | | | | | | |
| | 大学基礎総合Ⅱ (後) 2 | キャリアデザイン入門Ⅱ (後) 2 | キャリアデザインⅡ (後) 2 | | | | | | |
| | * 情報リテラシー演習Ⅰ (前) 2 | | | | | | | | |
| | 情報リテラシー演習Ⅱ (後) 2 | | | | | | | | |
| | * コミュニケーションと自己発見Ⅰ (前) 2 | | | | | | | | |
| | * コミュニケーションと自己発見Ⅱ (後) 2 | | | | | | | | |

専門教育科目の開講時期と単位数

- (注1) * 印のついた科目は必修科目
- (注2) 「Ⅰ類(経営・会計・社会と経済)」、「演習」の分野から必修科目を含み64単位以上修得
- (注3) 「Ⅱ類(情報)」の分野から必修科目を含み26単位以上修得
- (注4) (前)は前期開講、(後)は後期開講される科目を表します。

履修規程から抜粋<参考>
第8条 専門ゼミⅠまたは、経営学演習Ⅰ・情報学演習Ⅰは、原則としてその履修登録時において基礎ゼミまたは、経営学基礎演習・情報学基礎演習を修得した者でなければ履修登録できない。
ただし、編入学生については、これを適用しない。

| | | 1年生 | | 2年生 | | 3年生 | | 4年生 | | |
|----------|--------------|----------------------|------------------|---------------------|----------------------|--------------------|--------------------|------|----|--|
| | | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 | |
| 専門教育科目 | 経営 | * 経営学入門 (前) 2 | | ビジネス実務Ⅰ (前) 2 | | 国際経営論 (前) 2 | | | | |
| | | * 経営学総論 (後) 2 | | ビジネス実務Ⅱ (後) 2 | | 財務管理論Ⅰ (前) 2 | | | | |
| | | | | 経営統計 (後) 2 | | 財務管理論Ⅱ (後) 2 | | | | |
| | | | | 労務管理論 (前) 2 | | 生産管理論 (後) 2 | | | | |
| | マーケティング | マーケティング論 (前) 2 | | | | | マーケティング・リサーチ (前) 2 | | | |
| | | 消費者行動論 (後) 2 | | | | | Webサービス論 (後) 2 | | | |
| | | 初級小売商業Ⅰ (前) 2 | | 中級小売商業Ⅰ (前) 2 | | 上級小売商業Ⅰ (前) 2 | | | | |
| | | 初級小売商業Ⅱ (後) 2 | | 中級小売商業Ⅱ (後) 2 | | 上級小売商業Ⅱ (後) 2 | | | | |
| | ベンチャー | ベンチャービジネス入門 (前) 2 | | 経営戦略論 (前) 2 | | ビジネスプランニング (前) 2 | | | | |
| | | ベンチャー企業論 (後) 2 | | 中小企業論 (後) 2 | | | | | | |
| | 会計 | 簿記Ⅰ (前) 2 | | 中級簿記Ⅰ (前) 2 | | コンピュータ会計Ⅰ (前) 2 | | | | |
| | | 簿記Ⅱ (後) 2 | | 中級簿記Ⅱ (後) 2 | | コンピュータ会計Ⅱ (後) 2 | | | | |
| | | * 会計学入門 (前) 2 | | 財務会計論Ⅰ (前) 2 | | 経営分析 (前) 2 | | | | |
| | | * 会計学総論 (後) 2 | | 財務会計論Ⅱ (後) 2 | | 監査論 (後) 2 | | | | |
| | 社会・法律 | | | 税法学入門 (前) 2 | | 知的所有権 (前) 2 | | | | |
| | | | 税法学総論 (後) 2 | | 国際政治学 (前) 2 | | | | | |
| | | | 組織心理学 (前) 2 | | ビジネス英語Ⅰ (前) 2 | | | | | |
| | | | 会社法 (前) 2 | | ビジネス英語Ⅱ (後) 2 | | | | | |
| 経済 | | | 商法 (後) 2 | | 職業指導 (通年) 4 | | | | | |
| | | | 地域経済論 (前) 2 | | 国際経済論 (後) 2 | | | | | |
| 特別講義 | 特別講義(経営) 2~4 | | | | | | | | | |
| | 特別講義(会計) 2~4 | | | | | | | | | |
| Ⅱ類(情報) | 情報基礎 | * 情報学入門 (前) 2 | | オペレーティングシステム論 (前) 2 | | | | | | |
| | | * 情報テクノロジー (前) 2 | | ビジネスソフト活用演習Ⅰ (通年) 2 | | | | | | |
| | | 情報数学 (後) 2 | | ビジネスソフト活用演習Ⅱ (通年) 2 | | | | | | |
| | プログラミング | プログラミング入門 (後) 2 | | ビジネスプログラミング (前) 2 | | プログラミング論 (前) 2 | | | | |
| | | 初級プログラミング実習 (後) 2 | | | | 中級プログラミング実習 (前) 2 | | | | |
| | 情報システム | ネットワーク情報システム入門 (後) 2 | | 計算機システム論 (前) 2 | | 情報システムの開発と管理 (前) 2 | | | | |
| | | | | アルゴリズムとデータ構造 (後) 2 | | | | | | |
| | | | | 情報テクノロジー演習 (通年) 2 | | | | | | |
| | | | | データベース論 (前) 2 | | | | | | |
| | ビジネス | | | 経営情報論Ⅰ (前) 2 | | | | | | |
| | | | 経営情報論Ⅱ (後) 2 | | | | | | | |
| 情報ネットワーク | | | Webデザイン (後) 2 | | Webシステム (前) 2 | | | | | |
| | | | | | コミュニケーションデザイン (後) 2 | | | | | |
| 情報応用 | | | 情報ネットワーク入門 (後) 2 | | * 情報セキュリティ (後) 2 | | | | | |
| | | | | | ネットワーク演習 (前) 2 | | | | | |
| 特別講義 | 特別講義(情報) 2~4 | | | | | | | | | |
| | | | マネジメント科学 (前) 2 | | コンピュータグラフィックス論 (前) 2 | | | | | |
| 演習 | ゼミⅠ (前) 2 | | マネジメントゲーム (後) 2 | | マルチメディア論 (前) 2 | | | | | |
| | ゼミⅡ (後) 2 | | * 基礎ゼミ (通年) 4 | | 計測・制御論 (前) 2 | | | | | |
| | | | * 経営学基礎演習 (通年) 4 | | * 専門ゼミⅠ (通年) 4 | | | | | |
| | | | | | * 専門ゼミⅡ (通年) 4 | | | | | |

授業科目一覧 情報ネットワーク学科

○卒業要件

必修科目42単位を含めて124単位以上を修得すること

基礎総合科目の開講時期と単位数

- (注1) * 印のついた科目は必修科目
- (注2) 「総合」の分野から*を含み12単位以上修得
- (注3) 「語学」の分野から*を含み6単位以上修得
- (注4) 「演習」の分野から*を含み16単位以上修得
- (注5) ☆ 印のついた科目は外国人留学生のみ選択可
- (注6) (前)は前期開講、(後)は後期開講科目を表します。

履修規定より抜粋 <参考>
 第5条
 2 本学学生が、1年間に履修登録できる単位数は、原則として49単位(教職に関する科目は含まない)を上限とする。

【学籍番号】
214以降

※シラバスの詳細を確認する際は
各科目をクリックしてください。

| | | 1年生 | | 2年生 | | 3年生 | | 4年生 | |
|--------------------|-----------------|---------------------------|-------------------------|-------------------|----|------|----|------|----|
| | | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 |
| 基礎総合科目 | 総合 | 人文科学 | * 建学の精神と人生 (前) 2 | | | | | | |
| | | | 宗教と人生 (後) 2 | | | | | | |
| | | | * 情報倫理 (後) 2 | | | | | | |
| | | | 心理学 I (前) 2 | | | | | | |
| | | | 心理学 II (後) 2 | | | | | | |
| | | | 文学 (前) 2 | | | | | | |
| | | | 日本文化論 (後) 2 | | | | | | |
| | | | 芸術論 I (前) 2 | | | | | | |
| | | | 芸術論 II (後) 2 | | | | | | |
| | | | 基礎デザイン (後) 2 | | | | | | |
| | ☆ 日本事情A (前) 2 | | | | | | | | |
| | 社会科学 | 法学 (前) 2 | 民法 I (契約総論) (前) 2 | | | | | | |
| | | 日本国憲法 (後) 2 | 民法 II (契約各論・不法行為) (後) 2 | | | | | | |
| | | 社会学 I (前) 2 | | | | | | | |
| | | 社会学 II (後) 2 | | | | | | | |
| | | 政治学 I (前) 2 | | | | | | | |
| 政治学 II (後) 2 | | | | | | | | | |
| 自然科学 | 基礎数学 (前) 2 | | | | | | | | |
| | 統計学 (後) 2 | | | | | | | | |
| 総合 | ウェルネス (前) 1 | スポーツ理論 (前) 2 | | | | | | | |
| | スポーツ (後) 1 | ウェルネス理論 (後) 2 | | | | | | | |
| | 英語 | 英会話Basic I (前) 2 | 英会話Advanced I (前) 2 | | | | | | |
| | | 英会話Basic II (後) 2 | 英会話Advanced II (後) 2 | | | | | | |
| * 総合英語 (前) 2 | | 英検上級 I・TOEIC応用 I (前) 2 | | | | | | | |
| 英検中級・TOEIC基礎 (後) 2 | | 英検上級 II・TOEIC応用 II (後) 2 | | | | | | | |
| 中国語 | 入門中国語 (前) 2 | | | | | | | | |
| | 初級中国語 (後) 2 | | | | | | | | |
| 韓国語 | 入門韓国語 (前) 2 | 中級韓国語 (前) 2 | | | | | | | |
| | 初級韓国語 (後) 2 | 上級韓国語 (後) 2 | | | | | | | |
| 日本語 | ☆ 日本語 I (前) 2 | | | | | | | | |
| | ☆ 日本語 II (後) 2 | | | | | | | | |
| | ☆ 日本語 III (前) 2 | | | | | | | | |
| | ☆ 日本語 IV (後) 2 | | | | | | | | |
| 特別講義 | 特別講義(語学) 2~4 | | | | | | | | |
| 演習 | 基礎 | * 大学基礎総合 I (前) 2 | * キャリアデザイン入門 I (前) 2 | キャリアデザイン I (前) 2 | | | | | |
| | | 大学基礎総合 II (後) 2 | キャリアデザイン入門 II (後) 2 | キャリアデザイン II (後) 2 | | | | | |
| | | * 情報プレゼン演習 I (前) 2 | | | | | | | |
| | | 情報プレゼン演習 II (後) 2 | | | | | | | |
| | | * コミュニケーションと自己発見 I (前) 2 | | | | | | | |
| | | * コミュニケーションと自己発見 II (後) 2 | | | | | | | |

専門教育科目の開講時期と単位数

- (注1) * 印のついた科目は必修科目
- (注2) 「I 類(情報)」、「演習」の分野から必修科目を含み64単位以上修得
- (注3) 「II 類(経営・会計・社会と経済)」の分野から必修科目を含み26単位以上修得
- (注4) (前)は前期開講、(後)は後期開講される科目を表します。

履修規程から抜粋<参考>
 第8条 専門ゼミ I または、経営学演習 I・情報学演習 I は、原則としてその履修登録時において基礎ゼミまたは、経営学基礎演習・情報学基礎演習を修得した者でなければ履修登録できない。
 ただし、編入学生については、これを適用しない。

| | | 1年生 | | 2年生 | | 3年生 | | 4年生 | | |
|-------------------|------------------------------|--------------------|----------------------|-----------------------|--------------------|------------------|------------------------|--------------------|----|--|
| | | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 | |
| 専門教育科目 | I 類(情報) | 情報基礎専修 | * 情報学入門 (前) 2 | オペレーティングシステム論 (前) 2 | | | | | | |
| | | | * 情報テクノロジー (前) 2 | ビジネスソフト活用演習 I (通年) 2 | | | | | | |
| | | | 情報数学 (後) 2 | ビジネスソフト活用演習 II (通年) 2 | | | | | | |
| | | プログラミング | * プログラミング入門 (後) 2 | ビジネスプログラミング (前) 2 | | | プログラミング論 (前) 2 | | | |
| | | | 初級プログラミング実習 (後) 2 | | | | 中級プログラミング実習 (前) 2 | | | |
| | | 情報システム | ネットワーク情報システム入門 (後) 2 | | 計算機システム論 (前) 2 | | | 情報システムの開発と管理 (前) 2 | | |
| | | | | | アルゴリズムとデータ構造 (後) 2 | | | 情報システム設計 (後) 2 | | |
| | | | | | 情報テクノロジー演習 (通年) 2 | | | | | |
| | | | | | データベース論 (前) 2 | | | | | |
| | | ビジネス | | | 経営情報論 I (前) 2 | | | | | |
| | | | 経営情報論 II (後) 2 | | | | | | | |
| | ネットワーク | | | Webデザイン (後) 2 | | | Webシステム (前) 2 | | | |
| | | | | | | | ネットワークアプリケーション構築 (前) 4 | | | |
| | | | | | | | コミュニケーションデザイン (後) 2 | | | |
| | | * 情報ネットワーク入門 (後) 2 | ネットワーク基礎 (前) 6 | イントラネット技術 (前) 6 | | | | | | |
| | 情報 | | | ルーティング技術 (後) 6 | | | インターネット技術 (後) 6 | | | |
| | | | | | モバイルネットワーク (前) 2 | | | | | |
| 情報応用 | | | | | | * 情報セキュリティ (後) 2 | | | | |
| | | | | | | ネットワーク演習 (前) 2 | | | | |
| 特別講義 | 特別講義(情報) 2~4 | | | | | | | | | |
| II 類(経営・会計・社会と経済) | 経営 | * 経営学入門 (前) 2 | ビジネス実務 I (前) 2 | | | 財務管理論 I (前) 2 | | | | |
| | | 経営学総論 (後) 2 | ビジネス実務 II (後) 2 | | | 生産管理論 (後) 2 | | | | |
| | | | 経営統計 (後) 2 | | | | | | | |
| | マーケティング | マーケティング論 (前) 2 | | | | | Webサービス論 (後) 2 | | | |
| | | 消費者行動論 (後) 2 | | | | | | | | |
| | | 初級小売商業 I (前) 2 | 中級小売商業 I (前) 2 | | | | | | | |
| | | 初級小売商業 II (後) 2 | 中級小売商業 II (後) 2 | | | | | | | |
| | ベンチャー | ベンチャー企業論 (後) 2 | 経営戦略論 (前) 2 | | | | | | | |
| | 会計 | 簿記 I (前) 2 | 中級簿記 I (前) 2 | | | 経営分析 (前) 2 | | | | |
| | | 簿記 II (後) 2 | 中級簿記 II (後) 2 | | | 原価計算論 (前) 2 | | | | |
| * 会計学入門 (前) 2 | | 財務会計論 I (前) 2 | | | 管理会計論 I (前) 2 | | | | | |
| 会計学総論 (後) 2 | | 財務会計論 II (後) 2 | | | 管理会計論 II (後) 2 | | | | | |
| 社会・法律 | | | 組織心理学 (前) 2 | | | 知的所有権 (前) 2 | | | | |
| | | | 会社法 (前) 2 | | | ビジネス英語 I (前) 2 | | | | |
| 経済 | | | 商法 (後) 2 | | | ビジネス英語 II (後) 2 | | | | |
| | | | | | | 職業指導 (通年) 4 | | | | |
| 特別講義 | 特別講義(経営) 2~4 特別講義(会計) 2~4 | | | | | | | | | |
| 演習 | ゼミ | プレゼミ I (前) 2 | * 基礎ゼミ (通年) 4 | | | * 専門ゼミ I (通年) 4 | | * 専門ゼミ II (通年) 4 | | |
| | | プレゼミ II (後) 2 | 情報学基礎演習 (通年) 4 | | | 情報学演習 I (通年) 4 | | 情報学演習 II (通年) 4 | | |

※シラバスの詳細を確認する際は
各科目をクリックしてください。

授業科目一覧 経営情報学科

○卒業要件

必修科目42単位を含めて124単位以上を修得すること

【学籍番号】
220以降
編入生を除く

基礎総合科目の開講時期と単位数

- (注1) * 印のついた科目は必修科目
- (注2) 「総合教養」の分野から*(必修)4単位を含み12単位以上修得
- (注3) 「語学」の分野から*(必修)2単位を含み6単位以上修得
- (注4) 「実践力養成・キャリア開発」の分野から*(必修)10単位を含み12単位以上修得
- (注5) ☆ 印のついた科目は外国人留学生のみ選択可
- (注6) (前)は前期開講、(後)は後期開講科目を表します。

履修規定より抜粋 <参考>
第5条
2 本学学生が、1年間に履修登録できる単位数は、原則として49単位(教職に関する科目は含まない)を上限とする。

| 大分類 | 中分類 | 小分類 | 1年生 | | 2年生 | | 3年生 | | 4年生 | |
|-------------------------|--------------|-----------------|---------------------|--------------------|-----------------|----|------|----|------|----|
| | | | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 |
| 基礎総合 | 総合教養 | 人文科学 | * 建学の精神と人生 (前) | 2 | | | | | | |
| | | | 宗教学 (後) | 2 | | | | | | |
| | | | 心理学 (前) | 2 | | | | | | |
| | | | 文学 (前) | 2 | | | | | | |
| | | | 哲学 (後) | 2 | | | | | | |
| | | | * 日本文化論 (後) | 2 | | | | | | |
| | | * 情報倫理 (後) | 2 | | | | | | | |
| | | 社会科学 | 法学 (前) | 2 | | | | | | |
| | | | 日本国憲法 (後) | 2 | | | | | | |
| | | | 社会学 (後) | 2 | | | | | | |
| 政治学 (前) | 2 | | | | | | | | | |
| 科目学 | 経済学 (前) | 2 | | | | | | | | |
| | ☆ 日本事情 (前) | 2 | | | | | | | | |
| 自然科学 | 基礎数学 (前) | 2 | | | | | | | | |
| | ツスポ学I | | | | | | | | | |
| 総合科目 | 英語 | * 総合英語 (前) | 2 | 英会話Advanced I (前) | 2 | | | | | |
| | | 英会話Basic I (前) | 2 | 英会話Advanced II (後) | 2 | | | | | |
| | | 英会話Basic II (後) | 2 | | | | | | | |
| | 中国語 | | | 初級中国語 (前) | 2 | | | | | |
| | | | | 中級中国語 (後) | 2 | | | | | |
| | 韓国語 | | | 初級韓国語 (前) | 2 | | | | | |
| | | | | 中級韓国語 (後) | 2 | | | | | |
| | 日本語 | ☆ 日本語 I (前) | 2 | ☆ 日本語III (前) | 2 | | | | | |
| | | ☆ 日本語 II (後) | 2 | ☆ 日本語IV (後) | 2 | | | | | |
| | 実践力養成・キャリア開発 | * 情報リテラシー演習 (前) | 2 | 文章表現 I (前) | 2 | | | | | |
| * コミュニケーションと自己発見 I (前) | | 2 | 文章表現 II (後) | 2 | | | | | | |
| * コミュニケーションと自己発見 II (後) | | 2 | | | | | | | | |
| 特別講義 | キャリア開発 | | * キャリアデザイン入門 I (前) | 2 | キャリアデザイン I (前) | 2 | | | | |
| | | | * キャリアデザイン入門 II (後) | 2 | キャリアデザイン II (後) | 2 | | | | |
| 特別講義 | 特別講義 | | 特別講義「語学」 | 1~4 | | | | | | |
| | 特別講義 | | 特別講義「実践力養成」 | 1~4 | | | | | | |
| | 特別講義 | | 特別講義「キャリア」 | 1~4 | | | | | | |

専門教育科目の開講時期と単位数

- (注1) * 印のついた科目は必修科目
- (注2) 「専門基礎」の分野から必修科目8単位を含み20単位以上修得
- (注3) 「専門発展」の分野から必修科目6単位を含み14単位以上修得
- (注4) 「専門応用」の分野から24単位以上修得
- (注4) (前)は前期開講、(後)は後期開講される科目を表します。

履修規程から抜粋<参考>
第8条 専門ゼミ I または、経営学演習 I ・情報学演習 I は、原則としてその履修登録時において基礎ゼミまたは、経営学基礎演習・情報学基礎演習を修得した者でなければ履修登録できない。
ただし、編入学生については、これを適用しない。

| 大分類 | 中分類 | 小分類 | 1年生 | | 2年生 | | 3年生 | | 4年生 | |
|----------------|-------------|-----------------|-----------------|-------------------|------------------|------------------|-------------------|--------------------|------|----|
| | | | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 |
| 専門基礎 | 経営・会計 | * 経営学総論 I (前) | 2 | マネージメント科学 (前) | 2 | | | | | |
| | | 会計学入門 (前) | 2 | ビジネス実務 (前) | 2 | | | | | |
| | | * 初級簿記 (前) | 2 | 民法 (前) | 2 | | | | | |
| | | * 簿記演習 (後) | 2 | 経営情報論 I (前) | 2 | | | | | |
| | 情報 | 情報学入門 (前) | 2 | 統計学入門 (前) | 2 | * 情報セキュリティ (前) | 2 | | | |
| | | 情報数学 I (後) | 2 | | | 情報システムの開発と管理 (前) | 2 | | | |
| | | 情報ネットワーク入門 (後) | 2 | | | マルチメディア論 (前) | 2 | | | |
| | | ビジネスソフト活用演習 (後) | 4 | | | | | | | |
| | 専門発展 | 経営・会計 | * マーケティング論 (前) | 2 | 企業金融 (前) | 2 | 組織心理学 (前) | 2 | | |
| | | | ベンチャービジネス入門 (後) | 2 | コマース論 I (前) | 2 | 知的所有権 (前) | 2 | | |
| * 経営学総論 II (後) | | | 2 | 日本経営史 (前) | 2 | 労務管理論 (前) | 2 | | | |
| | | | | * 会計学 (後) | 2 | 経営思想 (前) | 2 | | | |
| 情報 | | 計算機システム論 (後) | 2 | | | | | | | |
| | | 情報テクノロジー (前) | | 2 | | | プログラミング論 (前) | 2 | | |
| | | | | アルゴリズムとデータ構造 (前) | 2 | | | 中級プログラミング実習 (後) | 2 | |
| | | | | データベース論 (前) | 2 | | | コンピュータグラフィックス論 (前) | 2 | |
| | | | | 情報テクノロジー演習 I (前) | 4 | | | 計測・制御論 (後) | 2 | |
| | | | | 情報テクノロジー演習 II (後) | 4 | | | | | |
| 専門応用 | 会計 | | | 中級簿記演習 I (前) | 2 | 税務会計論 (前) | 2 | | | |
| | | | | 中級簿記演習 II (後) | 2 | 税法学 (後) | 2 | | | |
| | | | | 原価計算論 I (前) | 2 | | | | | |
| | | | | 原価計算論 II (後) | 2 | | | | | |
| | 経営 | 経営戦略論 (前) | 2 | マーケティング・リサーチ (前) | 2 | ビジネスプランニング (後) | 2 | | | |
| | | 消費者行動論 (後) | 2 | Webサービス論 (後) | 2 | 計量経済分析 (後) | 2 | | | |
| | | | | SNS活用と問題解決 (前) | 2 | | | | | |
| | | | | コマース論 II (後) | 2 | | | | | |
| | | | | 経営情報論 II (後) | | 2 | | | | |
| | | | | ベンチャー企業論 (後) | | 2 | | | | |
| 国際ビジネス | | | | 国際経営論 (後) | 2 | 国際経済論 (前) | 2 | | | |
| | | | | 国際情報分析 (後) | 2 | 国際政治学 (前) | 2 | | | |
| | | | | ビジネス英語 I (前) | 2 | | | | | |
| | | | | ビジネス英語 II (後) | 2 | | | | | |
| | | | | TOEIC I (前) | 2 | | | | | |
| ゼミ | プレゼミ I (前) | 2 | * 基礎ゼミ (通年) | 4 | * 専門ゼミ I (通年) | 4 | * 専門ゼミ II (通年) | 4 | | |
| | プレゼミ II (後) | 2 | * 経営学基礎演習 (通年) | 4 | * 経営学専門演習 I (通年) | 4 | * 経営学専門演習 II (通年) | 4 | | |
| 特別講義 | 特別講義 | | 特別講義「経営」 | 1~4 | | | | | | |
| | 特別講義 | | 特別講義「会計」 | 1~4 | | | | | | |
| | 特別講義 | | 特別講義「情報」 | 1~4 | | | | | | |

授業科目一覧 情報ネットワーク学科

○卒業要件

必修科目42単位を含めて124単位以上を修得すること

基礎総合科目の開講時期と単位数

- (注1) * 印のついた科目は必修科目
- (注2) 「総合教養」の分野から*(必修)4単位 を含む12単位以上修得
- (注3) 「語学」の分野から*(必修)2単位 を含む6単位以上修得
- (注4) 「実践力養成・キャリア開発」の分野から*(必修)10単位 を含む12単位以上修得
- (注5) ☆ 印のついた科目は外国人留学生のみ選択可
- (注6) (前)は前期開講、(後)は後期開講科目を表します。

履修規定より抜粋 <参考>
第5条
2 本学学生が、1年間に履修登録できる単位数は、原則として49単位
(教職に関する科目は含まない)を上限とする。

| 大分類 | 中分類 | 小分類 | 1年生 | | 2年生 | | 3年生 | | 4年生 | |
|--------------|-------------------------|-----------------|-----------------|--------------|--------------------|-----------|------|----|------|----|
| | | | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 |
| 基礎総合科目 | 総合教養 | 人文科学 | * 建学の精神と人生 (前) | 2 | | | | | | |
| | | | 宗教学 (後) | 2 | | | | | | |
| | | | 心理学 (前) | 2 | | | | | | |
| | | | 文学 (前) | 2 | | | | | | |
| | | | 哲学 (後) | 2 | | | | | | |
| | | * 情報倫理 (後) | 2 | | | | | | | |
| | | 社会科学 | 法学 (前) | 2 | | | | | | |
| | | | 日本国憲法 (後) | 2 | | | | | | |
| | | | 社会学 (後) | 2 | | | | | | |
| | | | 政治学 (前) | 2 | | | | | | |
| | 経済学 (前) | | 2 | | | | | | | |
| | ☆ 日本事情 (前) | 2 | | | | | | | | |
| | 自然科学 | 基礎数学 (前) | 2 | | | | | | | |
| | | ウェルネス (前) | 1 | スポーツ理論 (前) | 2 | | | | | |
| | スポーツ | ウェルネス (後) | 1 | ウェルネス理論 (後) | 2 | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | 言語学 | 英語 | * 総合英語 (前) | 2 | 英会話Advanced I (前) | 2 | | | | |
| | | | 英会話Basic I (前) | 2 | 英会話Advanced II (後) | 2 | | | | |
| | | | 英会話Basic II (後) | 2 | | | | | | |
| | | 中国語 | | | | 初級中国語 (前) | 2 | | | |
| | | | | | 中級中国語 (後) | 2 | | | | |
| 韓国語 | | | | | 初級韓国語 (前) | 2 | | | | |
| | | | | | 中級韓国語 (後) | 2 | | | | |
| 日本語 | | ☆ 日本語 I (前) | 2 | ☆ 日本語III (前) | 2 | | | | | |
| | | ☆ 日本語 II (後) | 2 | ☆ 日本語IV (後) | 2 | | | | | |
| 実践力養成・キャリア開発 | | * 情報リテラシー演習 (前) | 2 | 文章表現 I (前) | 2 | | | | | |
| | * コミュニケーションと自己発見 I (前) | 2 | 文章表現 II (後) | 2 | | | | | | |
| | * コミュニケーションと自己発見 II (後) | 2 | | | | | | | | |
| | * キャリアデザイン入門 I (前) | 2 | キャリアデザイン I (前) | 2 | | | | | | |
| | * キャリアデザイン入門 II (後) | 2 | キャリアデザイン II (後) | 2 | | | | | | |
| 特別講義 | 特別講義 | | 特別講義「語学」 | 1~4 | | | | | | |
| | 特別講義 | | 特別講義「実践力養成」 | 1~4 | | | | | | |
| | 特別講義 | | 特別講義「キャリア」 | 1~4 | | | | | | |

※シラバスの詳細を確認する際は各科目をクリックしてください。

【学籍番号】
220以降
編入生を除く

専門教育科目の開講時期と単位数

- (注1) * 印のついた科目は必修科目
- (注2) 「専門基礎」の分野から必修科目8単位を含み20単位以上修得
- (注3) 「専門発展」の分野から必修科目6単位を含み14単位以上修得
- (注4) 「専門応用」の分野から24単位以上修得
- (注4) (前)は前期開講、(後)は後期開講される科目を表します。

履修規程から抜粋<参考>
第8条 専門ゼミ I または、経営学演習 I・情報学演習 I は、原則としてその履修登録時において基礎ゼミまたは、経営学基礎演習・情報学基礎演習を修得した者でなければ履修登録できない。
ただし、編入学生については、これを適用しない。

| 大分類 | 中分類 | 小分類 | 1年生 | | 2年生 | | 3年生 | | 4年生 | |
|--------|------|-------------|-------------------|------------------|-------------------|-----------------------|--------------------|--------------------|------------------|----|
| | | | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 |
| 専門教育科目 | 専門基礎 | 情報 | 情報学入門 (前) | 2 | 統計学入門 (前) | 2 | * 情報セキュリティ (前) | 2 | 情報システムの開発と管理 (前) | 2 |
| | | | 情報数学 I (後) | 2 | | | マルチメディア論 (前) | 2 | | |
| | | | 情報ネットワーク入門 (後) | 2 | | | | | | |
| | | | ビジネスソフト活用演習 (後) | 4 | | | | | | |
| | 専門基礎 | 経営・会計 | * 経営学総論 I (前) | 2 | マネジメント科学 (前) | 2 | | | | |
| | | | 会計学入門 (前) | 2 | ビジネス実務 (前) | 2 | | | | |
| | | | * 初級簿記 (前) | 2 | 民法法 (前) | 2 | | | | |
| | | | * 簿記演習 (後) | 2 | 経営情報論 I (前) | 2 | | | | |
| | 専門発展 | 情報 | 計算機システム論 (後) | 2 | アルゴリズムとデータ構造 (前) | 2 | 計測・制御論 (後) | 2 | | |
| | | | * プログラミング初歩 I (前) | 2 | 情報数学 II (前) | 2 | モバイルネットワーク (前) | 2 | | |
| | | | プログラミング初歩 II (後) | 2 | データベース論 (前) | 2 | | | | |
| | | | | | オペレーティングシステム論 (後) | 2 | | | | |
| | | | | | プログラミング実践 I (前) | 4 | | | | |
| | | | | | プログラミング実践 II (後) | 4 | * 情報テクノロジー演習 I (前) | 4 | | |
| | 専門発展 | 情報 | | | 情報テクノロジー演習 II (後) | 4 | | | | |
| | | | ネットワーク | Webコンテンツ制作 I (後) | 2 | Webコンテンツ制作 II (前) | 2 | インターネット技術 (前) | 2 | |
| | | | | | | Webプログラミング I (後) | 2 | Webプログラミング II (前) | 2 | |
| | | | | | | スイッチング技術 (前) | 2 | Webプログラミング III (後) | 2 | |
| | | | | ルーティング技術 (後) | 2 | ネットワークアプリケーション構築 (通年) | 4 | | | |
| | 専門発展 | ネットワーク | | | SNS活用と問題解決 (前) | 2 | | | | |
| | | | | Webサービス論 (後) | 2 | | | | | |
| 専門応用 | | | データサイエンス | マーケティング論 (前) | 2 | 統計学 (後) | 2 | 多変量解析 (前) | 2 | |
| | | | | 消費者行動論 (後) | 2 | ビジネスプログラミング (前) | 2 | データ解析 (前) | 2 | |
| | | | | マーケティング・リサーチ (前) | 2 | データモデリング (後) | 2 | | | |
| | | | | 経営分析 (前) | 2 | 統計プログラミング (後) | 2 | | | |
| | | 会計学 (後) | 2 | 機械学習 (前) | 2 | | | | | |
| | | | | 人工知能 (後) | 2 | | | | | |
| | | | | 計量経済分析 (後) | 2 | | | | | |
| 演習 | ゼミ | プレゼミ I (前) | 2 | * 基礎ゼミ (通年) | 4 | * 専門ゼミ I (通年) | 4 | * 専門ゼミ II (通年) | 4 | |
| | | プレゼミ II (後) | 2 | * 情報学基礎演習 (通年) | 4 | * 情報学専門演習 I (通年) | 4 | | | |
| 特別講義 | 特別講義 | | | 特別講義「経営」 | 1~4 | | | | | |
| | | | | 特別講義「会計」 | 1~4 | | | | | |
| | | | | 特別講義「情報」 | 1~4 | | | | | |

※シラバスの詳細を確認する際は
各科目をクリックしてください。

授業科目一覧 経営情報学科

別表Ⅰ－Ⅰ 基礎総合科目の開講時期と単位数 ※必修16単位を含み、40単位以上修得

- (注1) * 印のついた科目は必修科目
 (注2) 「総合教養」の分野から*(必修)4単位を含み12単位以上修得
 (注3) 「語学」の分野から*(必修)2単位を含み6単位以上修得
 (注4) 「実践力養成・キャリア開発」の分野から*(必修)10単位を含み12単位以上修得
 (注5) ☆ 印のついた科目は外国人留学生のみ選択可
 (注6) (前)は前期開講、(後)は後期開講科目を表します。

【学籍番号】
221

履修規定より抜粋 <参考>
 第5条
 2 本学学生が、1年間に履修登録できる単位数は、原則として49単位(教職に関する科目は含まない)を上限とする。

| 大分類 | 中分類 | 小分類 | 1年生 | | 2年生 | | 3年生 | | 4年生 | |
|-------------------------|-----------------|---------------------|----------------------|-------------|------|----|------|----|------|----|
| | | | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 |
| 基礎総合科目 | 総合教養 | 人文科学 | * 建学の精神と人生 (前) 2 | | | | | | | |
| | | | 宗教学 (後) 2 | | | | | | | |
| | | | 心理学 (前) 2 | | | | | | | |
| | | | 文学 (前) 2 | | | | | | | |
| | | | 日本文化論 (後) 2 | | | | | | | |
| | * 情報倫理 (後) 2 | | | | | | | | | |
| | 社会科学 | 法学 (前) 2 | | | | | | | | |
| | | 日本国憲法 (後) 2 | | | | | | | | |
| | | 社会学 (後) 2 | | | | | | | | |
| | | 政治学 (前) 2 | | | | | | | | |
| 経済学 (前) 2 | | | | | | | | | | |
| ☆ 日本事情 (前) 2 | | | | | | | | | | |
| 自然科学 | 基礎数学 (前) 2 | | | | | | | | | |
| ツスコボ学I | ウェルネス (前) 1 | スポーツ理論 (前) 2 | | | | | | | | |
| | スポーツ (後) 1 | ウェルネス理論 (後) 2 | | | | | | | | |
| 総合語学 | 英語 | * 総合英語 (前) 2 | 英会話Advanced I (前) 2 | | | | | | | |
| | | 英検中級・TOEIC基礎 (後) 2 | 英会話Advanced II (後) 2 | | | | | | | |
| | | 英会話Basic I (前) 2 | | | | | | | | |
| | | 英会話Basic II (後) 2 | | | | | | | | |
| | | 中国語 | | 初級中国語 (前) 2 | | | | | | |
| | 韓国語 | | 中級中国語 (後) 2 | | | | | | | |
| | 韓国語 | | 初級韓国語 (前) 2 | | | | | | | |
| | 日本語 | ☆ 日本語Ⅰ (前) 2 | ☆ 日本語Ⅲ (前) 2 | | | | | | | |
| | ☆ 日本語Ⅱ (後) 2 | ☆ 日本語Ⅳ (後) 2 | | | | | | | | |
| | 実践力養成・キャリア開発 | * 情報リテラシー演習 (前) 2 | | | | | | | | |
| * コミュニケーションと自己発見Ⅰ (前) 2 | | | | | | | | | | |
| * コミュニケーションと自己発見Ⅱ (後) 2 | | | | | | | | | | |
| 大学基礎総合 (前) 2 | | | | | | | | | | |
| 文章表現 (後) 2 | | | | | | | | | | |
| アキ開ヤ発リ | | * キャリアデザイン入門Ⅰ (前) 2 | キャリアデザインⅠ (前) 2 | | | | | | | |
| | | * キャリアデザイン入門Ⅱ (後) 2 | キャリアデザインⅡ (後) 2 | | | | | | | |
| 特別講義 | 特別講義「語学」 1～4 | | | | | | | | | |
| 特別講義 | 特別講義「実践力養成」 1～4 | | | | | | | | | |
| 特別講義 | 特別講義「キャリア」 1～4 | | | | | | | | | |

別表Ⅰ－Ⅱ 専門教育科目の開講時期と単位数 ※必修24単位を含み、84単位以上修得

- (注1) * 印のついた科目は必修科目
 (注2) 「専門基礎」の分野から必修科目8単位を含み20単位以上修得
 (注3) 「専門発展」の分野から必修科目4単位を含み14単位以上修得
 (注4) 「専門応用」の分野から24単位以上修得
 (注4) (前)は前期開講、(後)は後期開講される科目を表します。

| 大分類 | 中分類 | 小分類 | 1年生 | | 2年生 | | 3年生 | | 4年生 | |
|------|----------------------|--------------------|-------------------|----|------------------|----------------------|------|----|------|----|
| | | | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 |
| 専門基礎 | 経営・会計 | * 経営学総論Ⅰ (前) 2 | マネージメント科学 (前) 2 | | | | | | | |
| | | * 会計学入門 (前) 2 | ビジネス実務 (前) 2 | | | | | | | |
| | | * 簿記Ⅰ (前) 2 | 民法法 (前) 2 | | | | | | | |
| | | 簿記Ⅱ (後) 2 | 経営情報論Ⅰ (前) 2 | | | | | | | |
| | | | 経営情報論Ⅱ (後) 2 | | | | | | | |
| | 情報 | 情報学入門 (前) 2 | 統計学入門 (前) 2 | | | * 情報セキュリティ (前) 2 | | | | |
| | | 情報数学Ⅰ (後) 2 | | | | 情報システムの開発と管理 (前) 2 | | | | |
| | | 情報ネットワーク入門 (後) 2 | | | | マルチメディア論 (前) 2 | | | | |
| | | ビジネスソフト活用演習 (後) 4 | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| 専門発展 | 経営・会計 | * マーケティング論 (前) 2 | 企業金融 (前) 2 | | | 組織心理学 (前) 2 | | | | |
| | | ベンチャービジネス入門 (後) 2 | コマー論Ⅰ (前) 2 | | | 知的所有権 (前) 2 | | | | |
| | | * 経営学総論Ⅱ (後) 2 | 日本経営史 (前) 2 | | | 労務管理論 (前) 2 | | | | |
| | | 会計学 (後) 2 | 経営分析 (前) 2 | | | 経営思想 (前) 2 | | | | |
| | | | 統計学 (後) 2 | | | | | | | |
| | 情報 | 計算機システム論 (後) 2 | 経営組織論 (後) 2 | | | | | | | |
| | | 情報テクノロジー (前) 2 | | | | プログラミング論 (前) 2 | | | | |
| | | | | | | 中級プログラミング実習 (後) 2 | | | | |
| | | | | | | コンピュータグラフィックス論 (前) 2 | | | | |
| | | | | | | 計測・制御論 (後) 2 | | | | |
| 専門応用 | 経営 | アルゴリズムとデータ構造 (前) 2 | プログラミング入門 (前) 2 | | | | | | | |
| | | データベース論 (前) 2 | 初級プログラミング実習 (後) 2 | | | | | | | |
| | | 情報テクノロジー演習Ⅰ (前) 4 | マネージメントゲーム (後) 2 | | | | | | | |
| | | 情報テクノロジー演習Ⅱ (後) 4 | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | 会計 | 中級簿記演習Ⅰ (前) 2 | 中級簿記演習Ⅱ (後) 2 | | | 税務会計論 (前) 2 | | | | |
| | | 原価計算論Ⅰ (前) 2 | | | | 税法学 (後) 2 | | | | |
| | | 原価計算論Ⅱ (後) 2 | | | | | | | | |
| | | 財務会計論 (前) 2 | | | | | | | | |
| | | 財務管理 (後) 2 | | | | | | | | |
| 経営 | 経営戦略論 (前) 2 | マーケティング・リサーチ (前) 2 | | | ビジネスプランニング (後) 2 | | | | | |
| | 消費者行動論 (後) 2 | Webサービス論 (後) 2 | | | 計量経済分析 (後) 2 | | | | | |
| | | SNS活用と問題解決 (前) 2 | | | | | | | | |
| | | コマー論Ⅱ (後) 2 | | | | | | | | |
| | | ベンチャー企業論 (後) 2 | | | | | | | | |
| ゼミ | 国際経営論 (後) 2 | 国際経済論 (前) 2 | | | | | | | | |
| | 国際情報分析 (後) 2 | 国際政治学 (前) 2 | | | | | | | | |
| | 英検上級Ⅰ・TOEIC応用Ⅰ (前) 2 | ビジネス英語Ⅰ (前) 2 | | | | | | | | |
| | 英検上級Ⅱ・TOEIC応用Ⅱ (後) 2 | ビジネス英語Ⅱ (後) 2 | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| 演習 | プレゼミⅠ (前) 2 | 基礎ゼミ (通年) 4 | * 専門ゼミⅠ (通年) 4 | | | | | | | |
| | プレゼミⅡ (後) 2 | * 経営学基礎演習 (通年) 4 | * 経営学専門演習Ⅰ (通年) 4 | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| 特別講義 | 特別講義「経営」 1～4 | | | | | | | | | |
| | 特別講義「会計」 1～4 | | | | | | | | | |
| | 特別講義「情報」 1～4 | | | | | | | | | |

授業科目一覧 情報ネットワーク学科

※シラバスの詳細を確認する際は
各科目をクリックしてください。

別表Ⅱ－Ⅰ 基礎総合科目の開講時期と単位数 ※必修16単位を含み、40単位以上修得

【学籍番号】
221

- (注1) * 印のついた科目は必修科目
 (注2) 「総合教養」の分野から*(必修)4単位を含み12単位以上修得
 (注3) 「語学」の分野から*(必修)2単位を含み6単位以上修得
 (注4) 「実践力養成・キャリア開発」の分野から*(必修)10単位を含み12単位以上修得
 (注5) ☆ 印のついた科目は外国人留学生のみ選択可
 (注6) (前)は前期開講、(後)は後期開講科目を表します。

履修規定より抜粋 <参考>
 第5条
 2 本学学生が、1年間に履修登録できる単位数は、原則として49単位
 (教職に関する科目は含まない)を上限とする。

| 大分類 | 中分類 | 小分類 | 1年生 | | 2年生 | | 3年生 | | 4年生 | |
|--------------|--------------|-------------------------|----------------------|-----------------|------|----|------|----|------|----|
| | | | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 |
| 基礎総合科目 | 総合教養 | 人文科学 | * 建学の精神と人生 (前) 2 | | | | | | | |
| | | | 宗教学 (後) 2 | | | | | | | |
| | | | 心理学 (前) 2 | | | | | | | |
| | | | 文学 (前) 2 | | | | | | | |
| | | | 日本文化論 (後) 2 | | | | | | | |
| | * 情報倫理 (後) 2 | | | | | | | | | |
| | 総合教養 | 社会科学 | 法学 (前) 2 | | | | | | | |
| | | | 日本国憲法 (後) 2 | | | | | | | |
| | | | 社会学 (後) 2 | | | | | | | |
| | | | 政治学 (前) 2 | | | | | | | |
| 経済学 (前) 2 | | | | | | | | | | |
| ☆ 日本事情 (前) 2 | | | | | | | | | | |
| 総合教養 | 自然科学 | 基礎数学 (前) 2 | | | | | | | | |
| | | ツズ科ボ学Ⅰ | | | | | | | | |
| 総合科目 | 英語 | * 総合英語 (前) 2 | 英会話Advanced I (前) 2 | | | | | | | |
| | | 英検中級・TOEIC基礎 (後) 2 | 英会話Advanced II (後) 2 | | | | | | | |
| | | 英会話Basic I (前) 2 | | | | | | | | |
| | | 英会話Basic II (後) 2 | | | | | | | | |
| | 総合科目 | 中国語 | | 初級中国語 (前) 2 | | | | | | |
| | | | | 中級中国語 (後) 2 | | | | | | |
| | 総合科目 | 韓国語 | | 初級韓国語 (前) 2 | | | | | | |
| | | | | 中級韓国語 (後) 2 | | | | | | |
| | 総合科目 | 日本語 | ☆ 日本語Ⅰ (前) 2 | ☆ 日本語Ⅲ (前) 2 | | | | | | |
| | | | ☆ 日本語Ⅱ (後) 2 | ☆ 日本語Ⅳ (後) 2 | | | | | | |
| 実践力開発・キャリア開発 | 実践スキル | * 情報リテラシー演習 (前) 2 | | | | | | | | |
| | | * コミュニケーションと自己発見Ⅰ (前) 2 | | | | | | | | |
| | | * コミュニケーションと自己発見Ⅱ (後) 2 | | | | | | | | |
| | | 大学基礎総合 (前) 2 | | | | | | | | |
| | 文章表現 (後) 2 | | | | | | | | | |
| 実践力開発・キャリア開発 | アキ開ヤ発リ | | * キャリアデザイン入門Ⅰ (前) 2 | キャリアデザインⅠ (前) 2 | | | | | | |
| | | | * キャリアデザイン入門Ⅱ (後) 2 | キャリアデザインⅡ (後) 2 | | | | | | |
| 特別講義 | 特別講義 | 特別講義「語学」 | 1～4 | | | | | | | |
| | | 特別講義「実践力養成」 | 1～4 | | | | | | | |
| | | 特別講義「キャリア」 | 1～4 | | | | | | | |

別表Ⅱ－Ⅱ 専門教育科目の開講時期と単位数 ※必修24単位を含み、84単位以上修得

- (注1) * 印のついた科目は必修科目
 (注2) 「専門基礎」の分野から必修科目6単位を含み20単位以上修得
 (注3) 「専門発展」の分野から必修科目6単位を含み14単位以上修得
 (注4) 「専門応用」の分野から24単位以上修得
 (注4) (前)は前期開講、(後)は後期開講される科目を表します。

| 大分類 | 中分類 | 小分類 | 1年生 | | 2年生 | | 3年生 | | 4年生 | | | | |
|----------|----------|------------------|--------------------|----------------|---------------------|--------------------|-------------------------|-------------------|--------------------|-------------------|--|--|--|
| | | | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 | | | |
| 専門基礎 | 情報 | 情報 | 情報学入門 (前) 2 | | 統計学入門 (前) 2 | | * 情報セキュリティ (前) 2 | | 情報システムの開発と管理 (前) 2 | | | | |
| | | | 情報数学Ⅰ (後) 2 | | | | マルチメディア論 (前) 2 | | | | | | |
| | | | 情報ネットワーク入門 (後) 2 | | | | | | | | | | |
| | | | ビジネスソフト活用演習 (後) 4 | | | | | | | | | | |
| | 経営・会計 | 経営・会計 | * 経営学総論Ⅰ (前) 2 | | マネジメント科学 (前) 2 | | | | | | | | |
| | | | * 会計学入門 (前) 2 | | ビジネス実務 (前) 2 | | | | | | | | |
| | | | 簿記Ⅰ (前) 2 | | 民法法 (前) 2 | | | | | | | | |
| | | | 簿記Ⅱ (後) 2 | | 経営情報論Ⅰ (前) 2 | | | | | | | | |
| | | | | | 経営情報論Ⅱ (後) 2 | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| 専門発展 | 情報 | 情報 | 計算機システム論 (後) 2 | | アルゴリズムとデータ構造 (前) 2 | | 計測・制御論 (後) 2 | | | | | | |
| | | | * プログラミング初歩Ⅰ (前) 2 | | 情報数学Ⅱ (前) 2 | | モバイルネットワーク (前) 2 | | | | | | |
| | | | プログラミング初歩Ⅱ (後) 2 | | データベース論 (前) 2 | | | | | | | | |
| | | | | | オペレーティングシステム論 (後) 2 | | | | | | | | |
| | | | | | プログラミング実践Ⅰ (前) 4 | | | | | | | | |
| | | | | | プログラミング実践Ⅱ (後) 4 | | | | | | | | |
| | | | | | * 情報テクノロジー演習Ⅰ (前) 4 | | | | | | | | |
| | | | | | 情報テクノロジー演習Ⅱ (後) 4 | | | | | | | | |
| | | | 専門応用 | ネットワーク | ネットワーク | Webコンテンツ制作Ⅰ (後) 2 | | Webコンテンツ制作Ⅱ (前) 2 | | インターネット技術 (前) 2 | | | |
| | | | | | | | | WebプログラミングⅠ (後) 2 | | WebプログラミングⅡ (前) 2 | | | |
| | | スイッチング技術 (前) 2 | | | | | WebプログラミングⅢ (後) 2 | | | | | | |
| | | ルーティング技術 (後) 2 | | | | | ネットワークアプリケーション構築 (通年) 4 | | | | | | |
| | | SNS活用と問題解決 (前) 2 | | | | | | | | | | | |
| データサイエンス | データサイエンス | データサイエンス | | | | Webサービス論 (後) 2 | | | | | | | |
| | | | | マーケティング論 (前) 2 | | 統計学 (後) 2 | | 多変量解析 (前) 2 | | | | | |
| | | | | 消費者行動論 (後) 2 | | ビジネスプログラミング (前) 2 | | データ解析 (前) 2 | | | | | |
| | | | | 会計学 (後) 2 | | マーケティング・リサーチ (前) 2 | | データモデリング (後) 2 | | | | | |
| | | | | | | 経営分析 (前) 2 | | 統計プログラミング (後) 2 | | | | | |
| 演習 | 演習 | 演習 | プレゼミⅠ (前) 2 | | * 基礎ゼミ (通年) 4 | | * 専門ゼミⅠ (通年) 4 | | * 専門ゼミⅡ (通年) 4 | | | | |
| | | | プレゼミⅡ (後) 2 | | * 情報学基礎演習 (通年) 4 | | * 情報学専門演習Ⅰ (通年) 4 | | * 情報学専門演習Ⅱ (通年) 4 | | | | |
| 特別講義 | 特別講義 | 特別講義 | 特別講義「経営」 | 1～4 | | | | | | | | | |
| | | | 特別講義「会計」 | 1～4 | | | | | | | | | |
| | | | 特別講義「情報」 | 1～4 | | | | | | | | | |

九州情報大学教育課程表（カリキュラム）のナンバリング（科目番号付け）について

学生生活を送るにあたって、学生の皆さんが必ずしなければいけないことの一つに履修登録（学生が授業で学ぶ科目を届け出ること）があります。この履修登録の時に、自分がどの科目を登録したらよいか、判断の材料にさせていただきたいのが科目のナンバリング（科目番号付け）です。

ナンバリングは3つのゾーンに分かれており、それぞれを「-」（ハイフン）で繋いでいます。各ゾーンは左から順に「科目情報」、「開講情報」、「履修情報」を表します。それぞれ、「科目情報」は4桁、「開講情報」は4桁、「履修情報」は3～4桁で構成されており、ナンバリング変数を以下の様にしていきます。

ナンバリング変数 $S_1S_2S_3S_4-C_1C_2C_3C_4-T_1T_2T_3T_4$

科目情報 開講情報 履修情報

S_1 は科目を開講する教育課程を表します。 S_2S_3 は科目群、 S_2 はカリキュラム表の大分類、 S_3 は中分類ならびに小分類を表します。 S_4 は科目水準を表します。

$C_1C_2C_3$ は S_1 の教育課程内で3桁の連番（501～999）を付し、科目名のヨミガナ昇順とします。両学科や他コースに配置される同一科目名は同じ番号とします。 C_4 は受講に際しての前提条件（前提科目）を表し、前提条件が無ければ0、有れば1以上の値とします。前提条件を備えた一連の科目は、ヨミガナに関わらず $C_1C_2C_3$ を同一とし、履修の順番を C_4 で示しています。

T_1 は開講学年、 T_2 は単位数、 T_3 は選択・必修科目を表します。 T_4 は教職科目のうち、別表Ⅲ(1)ならびに別表Ⅲ(2)の教科に関する科目等を表します。

具体的なコード表は3ページ以降に示します。

【ナンバリングの例】

ナンバリング変数 $S_1S_2S_3S_4-C_1C_2C_3C_4-T_1T_2T_3T_4$

教育課程 科目群 科目水準 連番 前提条件 開講学年 単位数 選択・必修 教職教科（必修）

それではナンバリングについて、「建学の精神と人生」という科目を例にして説明しましょう。この科目の番号とその意味は次の通りです。

建学の精神と人生

1 G G N -5 4 7 0- 1 2 C
 : : : : : : :
 授 分 分 科 科 履 開 単 選
 業 類 類 合 目 修 講 位 択
 開 ① ② 水 連 条 学 数 ・
 設 ① ② 準 番 件 年 ① 必
 学 G G ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫
 部 は は N 0 1 単 ①
 ① 基 総 指 は は 位 C
 1 礎 合 定 条 1 の は
 は 総 教 無 件 年 科 必
 経 合 養 し 無 次 目 修
 営 科 科 し の 科
 情 目 目 科 目
 報 学 部 の 科 目
 学 部 の 科 目

このようにナンバリングは、皆さんが履修の時に必要なその科目に関する様々な情報が表示されています。たとえば科目の分類（基礎総合科目、専門教育科目など）、科目の水準（入門・基礎、応用・発展）、履修条件（授業によっては、関連科目を履修または合格を履修条件にする科目あり）、開講学年、単位数、選択・必修の区別などです。

本学の授業科目は、1年次から4年次まで段階を追って入門基礎から応用発展まで追って無理なく学ぶことができるように編成されています。皆さんは、自分の学年、単位の取得状況、興味関心、将来の進路など考慮したうえで、科目の履修登録をしてください。その際はそれぞれの科目のナンバリングを参考にしましょう。また、科目の内容についてきちんと理解したうえで履修登録をすることが肝心です。ですからシラバスをしっかりと読むことはもちろんですが、わからないところは担当教員や教務課に聞いてみましょう。

ナンバリングは学科、分類、開講年次、単位数などの情報に従って、11桁の番号で表します。ただし、教職科目については12桁としています。

① 授業開設学部 S₁

| 学部 | S ₁ |
|----------|----------------|
| 経営情報学部 | 1 |
| 教職 | 2 |
| 大学院 修士課程 | 3 |
| 大学院 博士課程 | 4 |

② 科目群 1 S₂ 、 ③ 科目群 2 S₃

学士課程

| 科目群 1 (大分類) | S ₂ | 科目群 2 (中 小・分類) | S ₃ |
|-------------|----------------|-------------------|------------------|
| 基礎総合 | G (General) | 総合教養 | G (General) |
| | | 語学 | L (Language) |
| | | 実践力養成・キャリア開発 | C (Career) |
| 専門基礎 | B (Basic) | 経営・会計系 | M (Management) |
| | | 情報系 | I (Information) |
| | | 基礎ゼミ | S (Seminar) |
| 専門発展 | A (Advanced) | 経営・会計系 | M (Management) |
| | | 情報系 | I (Information) |
| | | 専門ゼミ I | S (Seminar) |
| 専門応用 | E (Expand) | 経営系 | M (Management) |
| | | 会計系 | A (Accounting) |
| | | 国際ビジネス系 | G (Global) |
| | | ネットワーク系 | N (Network) |
| | | データサイエンス系 | D (Data science) |
| | | 専門ゼミ II | S (Seminar) |
| 特別講義 | S (Special) | 経営系 | M |
| | | 会計系 | A |
| | | 情報系 | I |
| | | 総合教養系 | G |
| | | 語学系 | L |
| | | 実践力養成・キャリア系 | C |

教職課程

| 科目群 1 (大分類) | S ₂ | 科目群 2 (中小・分類) | S ₃ |
|-------------|----------------|---------------|----------------|
| 教職課程 | T (Teacher) | 教職に関する科目 | T (Teacher) |

大学院 (修士課程、博士課程)

| 科目群 1 (大分類) | S ₂ | 科目群 2 (中小・分類) | S ₃ |
|-------------|----------------|---------------|-----------------|
| 修士課程 | M (Master) | 経営 | M (Management) |
| | | 会計 | A (Accounting) |
| | | 税法 | T (Tax) |
| | | 情報 | I (Information) |
| | | M 演習 | S (Seminar) |
| 博士課程 | D (Doctor) | 経営 | M |
| | | 会計 | A |
| | | 情報 | I |
| | | D 演習 | S |

④ 科目水準 S₄

| 水準 | S ₄ | |
|-------|----------------|------------------|
| 基礎・入門 | B | Basic |
| 応用・発展 | A | Applied・Advanced |
| 無し | N | Neutral |

⑤⑥⑦ 連番 C₁ C₂ C₃

科目群内でアイウエオ順の連番 (3桁、501~999)

| 開講学年 | C ₁ C ₂ C ₃ |
|------|--|
| 学部 | 501~999 |
| 教職課程 | 501~999 |
| 修士課程 | 501~999 |
| 博士課程 | 501~999 |

※ 連番を2グループに分け、001~499 と 501~999 はカリキュラム変更によって、交互に使用する。

⑧ 前提条件 (履修条件) C₄

| 履修条件 内容 | C ₄ |
|---------|--|
| 履修条件なし | 0 |
| 履修条件あり | 1以上の数 1は最初に履修 2は1の後に履修 n+1はnの後に履修 |

⑨ 開講学年 T₁

| 開講学年 | T ₁ |
|------|----------------|
| 1年生 | 1 |
| 2年生 | 2 |
| 3年生 | 3 |
| 4年生 | 4 |
| 1・2 | X |
| 1～4 | Y |
| 3・4 | Z |
| 2・3 | U |
| 1～3 | V |
| 2～4 | W |

⑩ 単位数 T₂

| 単位数 | T ₂ |
|------------|----------------|
| 1単位 | 1 |
| 2単位 | 2 |
| 4単位 | 4 |
| 6単位 | 6 |
| 2～4 (特別講義) | W |
| 1～4 (特別講義) | Y |

⑪ 必修・選択 T₃

| 選択制限 | T ₃ | |
|------|----------------|--------------------|
| 必修科目 | C | Compulsory subject |
| 選択科目 | E | Elective subject |
| 選択必修 | D | |

⑫ 教職 T₄

| 教科に関する科目 | T ₄ | |
|----------|----------------|-------------------------------|
| 必修科目 | T | Teaching subject |
| 選択科目 | S | teaching subject of Selection |

| number | 初期 No. | 大分類 | 中分類 | 小分類 | 科目名 |
|----------------|--------|------|---------|--------|-------------------|
| 1GGN-5470-12C | 1 | 基礎総合 | 総合 | 人文科学 | 建学の精神と人生 |
| 1GGN-5660-12E | 2 | 基礎総合 | 総合 | 人文科学 | 宗教学 |
| 1GGN-5850-12E | 3 | 基礎総合 | 総合 | 人文科学 | 心理学 |
| 1GGN-6400-12E | 4 | 基礎総合 | 総合 | 人文科学 | 文学 |
| 1GGN-6080-12E | 5 | 基礎総合 | 総合 | 人文科学 | 哲学 |
| 1GGN-6260-12E | 6 | 基礎総合 | 総合 | 人文科学 | 日本文化論 |
| 1GGN-6710-12CS | 48 | 基礎総合 | 総合 | 人文科学 | 情報倫理 |
| 1GGN-6450-12E | 7 | 基礎総合 | 総合 | 社会科学 | 法学 |
| 1GGN-6240-12ET | 8 | 基礎総合 | 総合 | 社会科学 | 日本国憲法 |
| 1GGN-5650-12E | 9 | 基礎総合 | 総合 | 社会科学 | 社会学 |
| 1GGN-5890-12E | 10 | 基礎総合 | 総合 | 社会科学 | 政治学 |
| 1GGN-5420-12E | 11 | 基礎総合 | 総合 | 社会科学 | 経済学 |
| 1GGN-6250-12E | 12 | 基礎総合 | 総合 | 社会科学 | 日本事情 |
| 1GGB-5270-12E | 13 | 基礎総合 | 総合 | 自然科学 | 基礎数学 |
| 1GGN-5870-21DT | 15 | 基礎総合 | 総合 | スポーツ科学 | スポーツ実技 I |
| 1GGN-5880-21DT | 16 | 基礎総合 | 総合 | スポーツ科学 | スポーツ実技 II |
| 1GGN-6700-22E | 17 | 基礎総合 | 総合 | スポーツ科学 | スポーツ理論 |
| 1GGN-5140-22E | 18 | 基礎総合 | 総合 | スポーツ科学 | ウェルネス理論 |
| 1GLN-5940-12CS | 19 | 基礎総合 | 語学 | 英語 | 総合英語 |
| 1GLN-0190-12ES | 220 | 基礎総合 | 語学 | 英語 | 英検中級・TOEIC基礎 |
| 1GLN-5170-12ES | 20 | 基礎総合 | 語学 | 英語 | 英会話 Basic I |
| 1GLN-5180-12ES | 21 | 基礎総合 | 語学 | 英語 | 英会話 Basic II |
| 1GLN-5150-22ES | 22 | 基礎総合 | 語学 | 英語 | 英会話 Advanced I |
| 1GLN-5160-22ES | 23 | 基礎総合 | 語学 | 英語 | 英会話 Advanced II |
| 1GLN-5810-22ES | 24 | 基礎総合 | 語学 | 中国語 | 初級中国語 |
| 1GLN-6000-22ES | 25 | 基礎総合 | 語学 | 中国語 | 中級中国語 |
| 1GLN-5800-22ES | 26 | 基礎総合 | 語学 | 韓国語 | 初級韓国語 |
| 1GLN-5990-22ES | 27 | 基礎総合 | 語学 | 韓国語 | 中級韓国語 |
| 1GLN-6200-12E | 28 | 基礎総合 | 語学 | 日本語 | 日本語 I |
| 1GLN-6210-12E | 29 | 基礎総合 | 語学 | 日本語 | 日本語 II |
| 1GLN-6220-22E | 30 | 基礎総合 | 語学 | 日本語 | 日本語 III |
| 1GLN-6230-22E | 31 | 基礎総合 | 語学 | 日本語 | 日本語 IV |
| 1GCB-5780-12CS | 32 | 基礎総合 | 実践力キャリア | 実践スキル | 情報リテラシー演習 |
| 1GCN-5580-12C | 33 | 基礎総合 | 実践力キャリア | 実践スキル | コミュニケーションと自己発見 I |
| 1GCN-5590-12C | 34 | 基礎総合 | 実践力キャリア | 実践スキル | コミュニケーションと自己発見 II |
| 1GBN-1510-12E | 36 | 基礎総合 | 実践力キャリア | 実践スキル | 大学基礎総合 |
| 1GCN-6410-22E | 35 | 基礎総合 | 実践力キャリア | 実践スキル | 文章表現 I |
| 1GCN-5310-22C | 37 | 基礎総合 | 実践力キャリア | キャリア | キャリアデザイン入門 I |
| 1GCN-5320-22C | 38 | 基礎総合 | 実践力キャリア | キャリア | キャリアデザイン入門 II |
| 1GCN-5290-32E | 39 | 基礎総合 | 実践力キャリア | キャリア | キャリアデザイン I |
| 1GCN-5300-32E | 40 | 基礎総合 | 実践力キャリア | キャリア | キャリアデザイン II |
| 1SLN-6160-YYE | 41 | 特別講義 | 語学 | | 特別講義「語学」 |
| 1SCN-6170-YYE | 42 | 特別講義 | 実践力キャリア | | 特別講義「実践力養成」 |
| 1SCN-6140-YYE | 43 | 特別講義 | 実践力キャリア | | 特別講義「キャリア」 |
| 1BMB-5331-12C | 44 | 専門基礎 | 経営・会計 | | 経営学総論 I |
| 1BMB-5220-12E | 45 | 専門基礎 | 経営・会計 | | 会計学入門 |
| 1BMB-5830-12C | 46 | 専門基礎 | 経営・会計 | | 初級簿記 |
| 1BMB-6460-12C | 47 | 専門基礎 | 経営・会計 | | 簿記演習 |
| 1BMN-6510-22ET | 49 | 専門基礎 | 経営・会計 | | マネージメント科学 |
| 1BMB-6300-22E | 50 | 専門基礎 | 経営・会計 | | ビジネス実務 |
| 1BMN-6540-22E | 51 | 専門基礎 | 経営・会計 | | 民事法 |
| 1BMN-5360-22E | 52 | 専門基礎 | 経営・会計 | | 経営情報論 I |
| 1BIN-5690-12ES | 53 | 専門基礎 | 情報 | | 情報学入門 |
| 1BIB-5710-12E | 54 | 専門基礎 | 情報 | | 情報数学 I |
| 1BIN-5770-12ET | 55 | 専門基礎 | 情報 | | 情報ネットワーク入門 |
| 1BIB-6310-14E | 56 | 専門基礎 | 情報 | | ビジネスソフト活用演習 |
| 1BIB-6110-22E | 57 | 専門基礎 | 情報 | | 統計学入門 |
| 1BIN-5730-22CS | 58 | 専門基礎 | 情報 | | 情報セキュリティ |
| 1BIN-5700-22ET | 59 | 専門基礎 | 情報 | | 情報システムの開発と管理 |
| 1BIN-6530-22ET | 60 | 専門基礎 | 情報 | | マルチメディア論 |
| 1AMN-6490-12C | 61 | 専門発展 | 経営・会計 | | マーケティング論 |
| 1AMN-6440-12E | 62 | 専門発展 | 経営・会計 | | ベンチャービジネス入門 |
| 1AMB-5332-12C | 63 | 専門発展 | 経営・会計 | | 経営学総論 II |
| 1AMN-5260-22E | 64 | 専門発展 | 経営・会計 | | 企業金融 |
| 1AMN-5560-22E | 65 | 専門発展 | 経営・会計 | | コマース論 I |
| 1AMB-6190-22E | 66 | 専門発展 | 経営・会計 | | 日本経営史 |
| 1AMN-5400-22E | 67 | 専門発展 | 経営・会計 | | 経営分析 |
| 1AMN-5200-22C | 68 | 専門発展 | 経営・会計 | | 会計学 |
| 1AMB-6091-22E | 69 | 専門発展 | 経営・会計 | | 統計学 |
| 1AMN-5390-22E | 70 | 専門発展 | 経営・会計 | | 経営組織論 |
| 1AMN-5950-22E | 71 | 専門発展 | 経営・会計 | | 組織心理学 |
| 1AMN-5980-22ET | 72 | 専門発展 | 経営・会計 | | 知的所有権 |
| 1AMN-6570-22ET | 73 | 専門発展 | 経営・会計 | | 労務管理論 |
| 1AMA-5350-22E | 74 | 専門発展 | 経営・会計 | | 経営思想 |
| 1AIN-5430-12ES | 75 | 専門発展 | 情報 | | 計算機システム論 |

| number | 初期 No. | 大分類 | 中分類 | 小分類 | 科目名 |
|----------------|--------|------|----------|-----|------------------|
| 1AIN-5740-X2ET | 76 | 専門発展 | 情報 | | 情報テクノロジー |
| 1AIN-5120-22ET | 77 | 専門発展 | 情報 | | アルゴリズムとデータ構造 |
| 1AIN-6060-22ET | 78 | 専門発展 | 情報 | | データベース論 |
| 1AIN-6381-U2ET | 79 | 専門発展 | 情報 | | プログラミング入門 |
| 1AIN-6382-U2ET | 80 | 専門発展 | 情報 | | 初級プログラミング実習 |
| 1AIN-6520-U2ES | 81 | 専門発展 | 情報 | | マネージメントゲーム |
| 1AIN-6383-Z2ES | 82 | 専門発展 | 情報 | | プログラミング論 |
| 1AIN-6384-Z2ES | 83 | 専門発展 | 情報 | | 中級プログラミング実習 |
| 1AIN-5610-Z2ET | 84 | 専門発展 | 情報 | | コンピュータグラフィックス論 |
| 1AIN-5440-Z2ET | 85 | 専門発展 | 情報 | | 計測・制御論 |
| 1EAN-6020-22E | 86 | 専門応用 | 会計 | | 中級簿記演習 I |
| 1EAN-6030-22E | 87 | 専門応用 | 会計 | | 中級簿記演習 II |
| 1EAN-5480-22E | 88 | 専門応用 | 会計 | | 原価計算論 I |
| 1EAN-5490-22E | 89 | 専門応用 | 会計 | | 原価計算論 II |
| 1EAN-5620-22E | 90 | 専門応用 | 会計 | | 財務会計論 |
| 1EAN-5630-22E | 91 | 専門応用 | 会計 | | 財務管理 |
| 1EAN-5230-Z2E | 92 | 専門応用 | 会計 | | 会社法 |
| 1EAN-5240-22E | 93 | 専門応用 | 会計 | | 監査論 |
| 1EAN-5600-22E | 94 | 専門応用 | 会計 | | コンピュータ会計 |
| 1EAN-5910-Z2E | 95 | 専門応用 | 会計 | | 税務会計論 |
| 1EAN-5900-Z2E | 96 | 専門応用 | 会計 | | 税法 |
| 1EMN-5380-12E | 97 | 専門応用 | 経営 | | 経営戦略論 |
| 1EMN-5670-12E | 98 | 専門応用 | 経営 | | 消費者行動論 |
| 1EMN-6320-Z2E | 99 | 専門応用 | 経営 | | ビジネスプランニング |
| 1EMN-6470-22E | 100 | 専門応用 | 経営 | | マーケティング・リサーチ |
| 1EMN-5070-22E | 101 | 専門応用 | 経営 | | Webサービス論 |
| 1EMN-5010-22E | 102 | 専門応用 | 経営 | | SNS活用と問題解決 |
| 1EMN-5570-22E | 103 | 専門応用 | 経営 | | コマース論 II |
| 1EMN-5370-U2ET | 104 | 専門応用 | 経営 | | 経営情報論 II |
| 1EMN-6430-U2E | 105 | 専門応用 | 経営 | | ベンチャー企業論 |
| 1EMN-6040-U2E | 106 | 専門応用 | 経営 | | 中小企業論 |
| 1EMN-5640-Z2E | 107 | 専門応用 | 経営 | | 事業承継論 |
| 1EMN-5450-Z2E | 108 | 専門応用 | 経営 | | 計量経済分析 |
| 1EGN-5510-22E | 109 | 専門応用 | 国際ビジネス | | 国際経営論 |
| 1EGN-5530-22E | 110 | 専門応用 | 国際ビジネス | | 国際情報分析 |
| 1EGN-5500-22E | 111 | 専門応用 | 国際ビジネス | | 国際金融論 |
| 1EGN-6280-22E | 112 | 専門応用 | 国際ビジネス | | ビジネス英語 I |
| 1EGN-6290-22E | 113 | 専門応用 | 国際ビジネス | | ビジネス英語 II |
| 1EGN-5030-22ES | 114 | 専門応用 | 国際ビジネス | | TOEIC I |
| 1EGN-5040-22ES | 115 | 専門応用 | 国際ビジネス | | TOEIC II |
| 1EGN-5550-22E | 116 | 専門応用 | 国際ビジネス | | 国際地域文化論 |
| 1EGA-5520-Z2E | 117 | 専門応用 | 国際ビジネス | | 国際経済論 |
| 1EGA-5540-Z2E | 118 | 専門応用 | 国際ビジネス | | 国際政治学 |
| 1BSB-5280-24C | 119 | 専門基礎 | ゼミ | | 基礎ゼミ |
| 1ASA-5280-34C | 120 | 専門発展 | ゼミ | | 専門ゼミ I |
| 1ESA-5280-44C | 121 | 専門応用 | ゼミ | | 専門ゼミ II |
| 1SMN-6150-YYE | 122 | 特別講義 | 経営 | | 特別講義「経営」 |
| 1SAN-6130-YYE | 123 | 特別講義 | 会計 | | 特別講義「会計」 |
| 1SIN-6180-YYE | 124 | 特別講義 | 情報 | | 特別講義「情報」 |
| 1AIB-5720-22E | 125 | 専門発展 | 情報 | | 情報数学 II |
| 1AIN-5190-22E | 126 | 専門発展 | 情報 | | オペレーティングシステム論 |
| 1AIN-6550-Z2ES | 127 | 専門発展 | 情報 | | モバイルネットワーク |
| 1AIB-6360-12C | 128 | 専門発展 | 情報 | | プログラミング初歩 I |
| 1AIB-6371-12E | 129 | 専門発展 | 情報 | | プログラミング初歩 II |
| 1AIN-6341-24E | 130 | 専門発展 | 情報 | | プログラミング実践 I |
| 1AIN-6342-24E | 131 | 専門発展 | 情報 | | プログラミング実践 II |
| 1AIN-5750-24C | 132 | 専門発展 | 情報 | | 情報テクノロジー演習 I |
| 1AIN-5760-24E | 133 | 専門発展 | 情報 | | 情報テクノロジー演習 II |
| 1ENN-5050-12E | 134 | 専門応用 | ネットワーク | | Webコンテンツ制作 I |
| 1ENN-5060-22E | 135 | 専門応用 | ネットワーク | | Webコンテンツ制作 II |
| 1ENN-5091-22E | 136 | 専門応用 | ネットワーク | | Webプログラミング I |
| 1ENN-5092-Z2E | 137 | 専門応用 | ネットワーク | | Webプログラミング II |
| 1ENN-5093-Z2E | 138 | 専門応用 | ネットワーク | | Webプログラミング III |
| 1ENN-6270-Z4ES | 139 | 専門応用 | ネットワーク | | ネットワークアプリケーション構築 |
| 1ENN-5861-22E | 140 | 専門応用 | ネットワーク | | スイッチング技術 |
| 1ENN-5862-22E | 141 | 専門応用 | ネットワーク | | ルーティング技術 |
| 1ENN-5863-Z2E | 142 | 専門応用 | ネットワーク | | インターネット技術 |
| 1ENN-5010-22E | 143 | 専門応用 | ネットワーク | | SNS活用と問題解決 |
| 1ENN-5070-22E | 144 | 専門応用 | ネットワーク | | Webサービス論 |
| 1EDB-6091-22E | 145 | 専門応用 | データサイエンス | | 統計学 |
| 1EDN-6372-22E | 146 | 専門応用 | データサイエンス | | ビジネスプログラミング |
| 1EDN-6092-Z2E | 147 | 専門応用 | データサイエンス | | 多変量解析 |
| 1EDN-6050-Z2E | 148 | 専門応用 | データサイエンス | | データ解析 |
| 1EDN-6070-Z2E | 149 | 専門応用 | データサイエンス | | データモデリング |
| 1EDN-6120-Z2E | 150 | 専門応用 | データサイエンス | | 統計プログラミング |

| number | 初期 No. | 大分類 | 中分類 | 小分類 | 科目名 |
|----------------|--------|------|----------|-----|----------------|
| 1EDN-5251-Z2E | 151 | 専門応用 | データサイエンス | | 機械学習 |
| 1EDN-5252-Z2E | 152 | 専門応用 | データサイエンス | | 人工知能 |
| 1EDN-6490-12E | 153 | 専門応用 | データサイエンス | | マーケティング論 |
| 1EDN-5670-12E | 154 | 専門応用 | データサイエンス | | 消費者行動論 |
| 1EDN-6470-22E | 155 | 専門応用 | データサイエンス | | マーケティング・リサーチ |
| 1EDN-5400-22E | 156 | 専門応用 | データサイエンス | | 経営分析 |
| 1EDN-5200-22E | 157 | 専門応用 | データサイエンス | | 会計学 |
| 1EDN-5450-Z2E | 158 | 専門応用 | データサイエンス | | 計量経済分析 |
| 2TTB-5010-32ET | 159 | 教職課程 | 教職科目 | | 「情報」教科教育法Ⅰ |
| 2TTB-5020-32ET | 160 | 教職課程 | 教職科目 | | 「情報」教科教育法Ⅱ |
| 2TTB-5030-22ET | 161 | 教職課程 | 教職科目 | | 教育課程論(特別活動を含む) |
| 2TTA-5040-43ET | 162 | 教職課程 | 教職科目 | | 教育実習 |
| 2TTB-5050-22ET | 163 | 教職課程 | 教職科目 | | 教育社会学 |
| 2TTB-5060-22ET | 164 | 教職課程 | 教職科目 | | 教育心理学 |
| 2TTA-5070-32ET | 165 | 教職課程 | 教職科目 | | 教育相談 |
| 2TTB-5080-22ET | 166 | 教職課程 | 教職科目 | | 教育哲学 |
| 2TTB-5090-32ET | 167 | 教職課程 | 教職科目 | | 教育方法学 |
| 2TTB-5100-12ET | 168 | 教職課程 | 教職科目 | | 教師入門 |
| 2TTA-5110-42ET | 169 | 教職課程 | 教職科目 | | 教職実践演習(高) |
| 2TTA-5120-32ET | 170 | 教職課程 | 教職科目 | | 生徒指導(進路指導を含む) |
| 2TTN-5130-32ET | 171 | 教職課程 | 教職科目 | | 総合的な探求の時間の指導法 |
| 2TTN-5140-22ET | 172 | 教職課程 | 教職科目 | | 特別支援教育 |
| 3MMB-5060-X2E | 173 | 修士課程 | 経営 | | 経営学特論 |
| 3MMB-5280-X2E | 174 | 修士課程 | 経営 | | 日本経営史特論 |
| 3MMB-5090-X2E | 175 | 修士課程 | 経営 | | 経営組織特論 |
| 3MMB-5110-X2E | 176 | 修士課程 | 経営 | | 財政学特論 |
| 3MMB-5120-X2E | 177 | 修士課程 | 経営 | | 財務管理特論 |
| 3MMB-5080-X2E | 178 | 修士課程 | 経営 | | 経営戦略特論 |
| 3MMB-5310-X2E | 179 | 修士課程 | 経営 | | 労働経済特論 |
| 3MMB-5100-X2E | 180 | 修士課程 | 経営 | | 国際経営特論 |
| 3MMB-5320-X2E | 181 | 修士課程 | 経営 | | ロジスティックス特論 |
| 3MMB-5050-X2E | 182 | 修士課程 | 経営 | | 経営科学特論 |
| 3MAB-5040-X2E | 183 | 修士課程 | 会計 | | 会計情報学特論 |
| 3MAB-5030-X2E | 184 | 修士課程 | 会計 | | 会計監査特論 |
| 3MAB-5230-X2E | 185 | 修士課程 | 会計 | | 税務会計特論 |
| 3MTB-5190-X2E | 186 | 修士課程 | 税法 | | 税法学特論Ⅰ |
| 3MTB-5200-X2E | 187 | 修士課程 | 税法 | | 税法学特論Ⅱ |
| 3MTB-5210-X2E | 188 | 修士課程 | 税法 | | 税法学特論Ⅲ |
| 3MTB-5220-X2E | 189 | 修士課程 | 税法 | | 税法学特論Ⅳ |
| 3MTB-5290-X2E | 190 | 修士課程 | 税法 | | 民事・行政訴訟特論Ⅰ |
| 3MTB-5300-X2E | 191 | 修士課程 | 税法 | | 民事・行政訴訟特論Ⅱ |
| 3MIB-5130-X2E | 192 | 修士課程 | 情報 | | 情報科学特論 |
| 3MIB-5160-X2E | 193 | 修士課程 | 情報 | | 情報メディア特論 |
| 3MIB-5150-X2E | 194 | 修士課程 | 情報 | | 情報ネットワーク特論 |
| 3MIB-5140-X2E | 195 | 修士課程 | 情報 | | 情報セキュリティ特論 |
| 3MIB-5070-X2E | 196 | 修士課程 | 情報 | | 経営情報システム設計特論 |
| 3MIB-5250-X2E | 197 | 修士課程 | 情報 | | データベース特論 |
| 3MIB-5240-X2E | 198 | 修士課程 | 情報 | | データ解析特論 |
| 3MIB-5180-X2E | 199 | 修士課程 | 情報 | | 数値解析特論 |
| 3MIB-5170-X2E | 200 | 修士課程 | 情報 | | 人工知能特論 |
| 3MSA-5010-14C | 201 | 修士課程 | M 演習 | | 演習Ⅰ |
| 3MSA-5260-14C | 202 | 修士課程 | M 演習 | | 特別演習Ⅰ |
| 3MSA-5020-24C | 203 | 修士課程 | M 演習 | | 演習Ⅱ |
| 3MSA-5270-24C | 204 | 修士課程 | M 演習 | | 特別演習Ⅱ |
| 4DMB-5080-V2E | 205 | 博士課程 | 経営 | | 経営学特別研究 |
| 4DMB-5150-V2E | 206 | 博士課程 | 経営 | | 日本経営史特別研究 |
| 4DMB-5070-V2E | 207 | 博士課程 | 経営 | | 企業経済分析特別研究 |
| 4DMB-5090-V2E | 208 | 博士課程 | 経営 | | 国際経営特別研究 |
| 4DAB-5060-V2E | 209 | 博士課程 | 会計 | | 会計情報学特別研究 |
| 4DAB-5050-V2E | 210 | 博士課程 | 会計 | | 会計監査論特別研究 |
| 4DIB-5100-V2E | 211 | 博士課程 | 情報 | | 情報科学特別研究 |
| 4DIB-5120-V2E | 212 | 博士課程 | 情報 | | 情報メディア特別研究 |
| 4DIB-5110-V2E | 213 | 博士課程 | 情報 | | 情報セキュリティ特別研究 |
| 4DIB-5140-V2E | 214 | 博士課程 | 情報 | | 数値解析特別研究 |
| 4DIB-5040-V2E | 215 | 博士課程 | 情報 | | 応用数値解析特別研究 |
| 4DIB-5130-V2E | 216 | 博士課程 | 情報 | | 人工知能特別研究 |
| 4DSA-5010-14C | 217 | 博士課程 | D 演習 | | 演習Ⅰ |
| 4DSA-5020-24C | 218 | 博士課程 | D 演習 | | 演習Ⅱ |
| 4DSA-5030-34C | 219 | 博士課程 | D 演習 | | 演習Ⅲ |

基礎総合科目

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1GGN-5470-12C | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 建学の精神と人生 | 共通 | 1年生・前期 | 2単位 | 必修 | 副学長・担当教員 | |
| 履修の前提条件 | 学生便覧の「建学の精神をたずねて」を読んでおくこと。※禁止事項:遅刻厳禁 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>麻生学園グループの創立者 麻生繁樹先生は、建学の精神を 1.「至心」、2.「報恩感謝・慈愛と奉仕」3.「容(かたち)は心を呼び、心は容を呼ぶ」に定めた。これらの精神は、本学の教育・研究活動の根幹をなすものであるが、同時にわれわれすべてが日々の暮らしを営むにあたって従うべき行動準則となり、目標となりうるものである。本講義では、建学の精神がひとりひとりの人間存在そのものにとっていかなる意義を持ちうるのかというその根源的意味を探求していく。そして本学の由来や創立の経緯、麻生繁樹先生の軌跡や言葉を辿ることにより、建学の精神の背景や内容を考察していく。さらに、建学の精神と本学の教育・研究活動の関連性について説明する。また、建学の精神に則った学生生活のあり方について提唱する。さらに、太宰府や地域の歴史や事情を学ぶことにより、われわれと太宰府・地域との紐帯についての自覚を学生に促していく。以上をもって、学生諸君が建学の精神を体得し、全人格的な人間性を備えた有為な社会人として世に貢献できるように、その素地を涵養していく。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>この授業の目標は以下の通りである。</p> <p>①建学の精神 1.「至心」、2.「報恩感謝・慈愛と奉仕」、3.「容(かたち)は心を呼び、心は容を呼ぶ」の意味を理解できること。</p> <p>②太宰府・地域の歴史や諸事情を理解できること。</p> <p>③その他</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|--|---|-------------------|
| <p>毎回の授業の内容に関して理解度を確認するために課題を出すので、Googleクラスルームの所定のページに提出すること。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>担当教員の研究室を確認すること。 授業についての問い合わせ等は、各教員のメールまたはGoogleクラスルームの所定のページを介して行うこと。</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>「KIIS学修ポートフォリオ & ルーブリック」に必要事項を記入し最終講義後にGoogleクラスルームの所定のページに提出すること。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| プリント配布 | | | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 幼児教育と親心 新菅家御伝 改訂つくし風土記 菅原道真 大学的福岡・太宰府ガイド 国宝 天神さま | 麻生繁樹 味酒安則・村田眞理 (社)つくし青年会議所 滝川幸司 西高辻・赤司・高倉 編 九州国立博物館 | 三晃書房 太宰府天満宮文化研究 所 (社)つくし青年会議所 中公新書 昭和堂 | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>定期試験80% 平常点(毎回の授業に関する課題の提出、ポートフォリオ&ルーブリックの提出状況、その他)20%</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | |
|------------------------|--|
| テーマ Theme | |
| 第1回 | 4月13日(火) 副学長 ①1回～15回の概要 ②日本の教育制度 ③大学の教育力 ③建学の精神・教育理念・校訓 |
| | 事前学習 (内容・時間) 学生便覧「建学の精神を訪ねて」を読み、本学の教育理念について理解を深めておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) 「大学で何を学び、何に挑戦するのか」まとめておく。(2時間) |
| 第2回 | 4月20日(火) 教務部長 本学の教育目的と教育課程 |
| | 事前学習 (内容・時間) 学生便覧の教育課程表(学則別表第Ⅰ、第Ⅱ、第Ⅲ)を読んでおくこと、自分が履修した科目の シラバス(授業計画)を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) 四年間の履修計画を立てること。(2時間) |
| 第3回 | 4月27日(火) 学生部長 出身高校で多くの先生方から学んだ生きる力(誇り等)と4年後を見据えた学生 生活の在り方について |
| | 事前学習 (内容・時間) 出身高校3年間で学習や生活、特別活動において、自分自身が変化したと感じた強く印象に残る先生についてまとめておくこと。(その時の自分を変えた言葉や自分を奮い立たせた理由等)(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) 先生たちの思いで自身を変えるきっかけとなった瞬間の言葉、行動を、これからの学生生活にどのように生かしたいか(このことだけは続けたい等)まとめること。(2時間) |
| 第4回 | 5月11日(火) 学長 建学の精神Ⅰ (至心について) |
| | 事前学習 (内容・時間) 本学が公表している「至心」の意味を調べておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) 「至心」と関係する自らの行動について考察する。(2時間) |
| 第5回 | 5月18日(火) 学部長 いま大学で「学ぶ」ということⅠ ～「大学」の歴史的・社会的な意義～ |
| | 事前学習 (内容・時間) Classroomで 事前配布の資料を読み、事前課題に取り組む。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) 今日の課題に取り組む、・授業の振り返りと整理・まとめを行う。(2時間) |
| 第6回 | 5月25日(火) 学長 建学の精神Ⅱ (四恩の学び舎とは) |
| | 事前学習 (内容・時間) 四恩とは何かを調べておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) 四恩の学び舎において自らが実践出来る事を考察する。(2時間) |
| 第7回 | 6月1日(火)学部長 いま大学で「学ぶ」ということⅡ～大学での「学び」はあなたの人生に何をもたらすのか～ |
| | 事前学習 (内容・時間) Classroomで 事前配布の資料を読み、事前課題に取り組む。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) 今日の課題に取り組む、・授業の振り返りと整理・まとめを行う。(2時間) |
| 第8回 | 6月8日(火) 経営情報学科長 経営情報学と経営情報学科について |
| | 事前学習 (内容・時間) 学生便覧、大学のパンフレット(大学HPにあるWebパンフレットをダウンロード)を読むこと(特に経営情報学科についての部分)。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) 経営情報学科と情報ネットワーク学科との役割について考えてもらう。(2時間) |

| | |
|----------------|---|
| 第9回 | 6月15日(火) 情報ネットワーク学科長 本学における情報教育のあり方について |
| | 事前学習 (内容・時間) 学生便覧、大学のパンフレット(大学HPにあるWebパンフレットをダウンロード)を読むこと(特に情報ネットワーク学科についての部分)。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) 身に着けたい情報技術を3点以上調べまとめて提出すること。(2時間) |
| 第10回 | 6月22日(火) 教務部長 麻生学園グループの創業者 麻生繁樹先生の軌跡 |
| | 事前学習 (内容・時間) プリントを読んで、あなたが特に興味を持った点について明確にしておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) 麻生繁樹先生の精神・思想の重要性について、あなたの考えをまとめること。(2時間) |
| 第11回 | 6月29日(火)教務部長 菅原道真と太宰府天満宮について その1 |
| | 事前学習 (内容・時間) プリントを読んで、あなたが特に興味を持った点について明確にしておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) 授業の内容に関する課題を作成して提出すること。(2時間) |
| 第12回 | 7月6日(火)教務部長 菅原道真と太宰府天満宮について その2 |
| | 事前学習 (内容・時間) プリントを読んで、あなたが特に興味を持った点について明確にしておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) 授業の内容に関する課題を作成して提出すること。(2時間) |
| 第13回 | 7月13日(火)国際交流室 国際社会の中の太宰府 |
| | 事前学習 (内容・時間) プリントを読んで、あなたが特に興味を持った点について明確にしておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) 授業の内容に関する課題を作成して提出すること。(2時間) |
| 第14回 | 7月20日(火)副学長 地域の社会と文化 |
| | 事前学習 (内容・時間) プリントを読んで、あなたが特に興味を持った点について明確にしておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) 授業の内容に関する課題を作成して提出すること。(2時間) |
| 第15回 | 7月27日(火) 副学長 講義第1回～第15回まとめ |
| | 事前学習 (内容・時間) 「至心」と生活行動についてまとめる。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) 第1回～第15回までの講義内容をまとめておく。(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験およびポートフォリオ & ルーブリックの作成と提出 |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1GGN-5660-12E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 宗教学 | 219～ | 1年・後期 | 2単位 | 選択 | 中山 彰信 | |
| 宗教と人生 | ～218 | | | | | |
| 履修の前提条件 | 建学の精神「至心(至誠心・真実心)」の考察が前提となる。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>古代宗教の起源を考察し、日本の宗教思想の根拠を求め、日本の宗教思想の本質が大陸の宗教思想を無視できない歴史的過程にあることを考察し、民俗宗教、世界宗教の神、佛の考え方をまなび、自己の心・精神がこの考えの中に存在していることを考察していく。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>「自己」が人生の中でどのような生き方を求めているか。その人生を考える中で宗教文化としてかわり無視できないことを捉える。また、民族宗教・世界宗教の中中でも東洋のイデオロギイ(佛教)の精神面を学ぶことの大切さを考える。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|---------------------------|----------------------|-------------------|
| <p>毎回の講義終了後、カーボン・ノートを提出する際、講義で考えたことや感じたこと、意見などを下欄に記入してください。テーマにおけるディスカッションもさせていただきます。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>連絡、問い合わせ、相談等は授業の前後に中山まで。</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>講義のカーボン・コピー・ノートを毎時講義終了後提出していただきます。 学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| レジメ、プリント配布 | | | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 世界の宗教 日本の神々 陰陽道の神々 他 | 岸本 英夫 上田 正昭 斉藤 英喜 他 | 大明堂 大和書房 思文閣出版 | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>定期試験60% レポート10% 平常点(カーボン・コピー・ノート等)30% 到達目標・・・宗教の本質</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|---------------------------------|---------------------------------------|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | はじめに(講義の概要、受験上の諸注意) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 講義受講の態度を考えさせる。(講義ノートの大切さを)50分程度 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「建学の精神について」(400字程度にまとめて次回提出のことを話す) |
| 第2回 | 建学の精神より(「報恩感謝」の本質的意味)(講師:学長) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「建学の精神」の宗教的意味を考えさせる。(ローテーションで発表)10分程度 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「建学の精神」より「真実心」の考え方をまとめさせ提出 |
| 第3回 | 宗教の意味考察(「真の宗教・偽の宗教」について) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「真実心」について(ローテーションで発表)10分程度 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「宗教」の本質的意味を考察させ提出 |
| 第4回 | 世界宗教と民族宗教Ⅰ(キリスト教、イスラーム教、佛教について) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「宗教の意味」について(ローテーションで発表)10分程度 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 世界三大宗教を調べさせる |
| 第5回 | 世界宗教と民族宗教Ⅱ(日本の古代民族宗教について) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 世界宗教について(発表させて)10分程度 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 世界宗教の相違について文面でまとめ提出 |
| 第6回 | 神話の性格と思想(神社、神宮、秀倉などの意味を通して) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 世界宗教で気づいたことを(発表)10分程度 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 世界宗教と民族宗教の相違をまとめさせる(提出) |
| 第7回 | 日本の古代文化の流れⅠ(北九州文化圏について) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 民族宗教の「神」のとらえ方と世界宗教の「神」について考え発表(10分程度) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教会、神社、神宮の相違を文面にまとめて提出 |
| 第8回 | 日本の古代文化の流れⅡ(「神話」の流れの意味の考察) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「神」の考えの相違が建物に影響していることを考えさせる(10分程度) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 日本古代の宗教観について考察させ、提出 |

| | | |
|----------------|-------------------------------|---|
| 第9回 | 日本の古代文化の流れⅢ(「古事記」を通しての古代宗教文化) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 古代文化の流山の中心が大陸の宗教文化に関連している事について(10分程度) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「古事記」の「神」に対する部分を抜き出させて提出 |
| 第10回 | 大和朝廷から国家宗教文化について | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「神」のあり方が古代文化に強くあらわれていることを「古事記」より発表(10分) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 国家の古代宗教文化について考察させて提出 |
| 第11回 | 京都と大陸の宗教文化 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 古代宗教文化について(ローテーションで発表)(10分程度) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 古代宗教文化が大陸の宗教文化に関連していることを文面で提出 |
| 第12回 | 「祭り」の意味するもの(「天神の祭り」の由来を通して) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 古代の宗教文化について(ローテーションで発表)(10分程度) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「祭り」の本質的意味より、日本の「祭り」を調べさせてその意味を文面に |
| 第13回 | 京都に現存する道教関係の文化財① | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「祭り」の本質的意味について(ローテーションで発表)(10分程度) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 日本の文化が中間道教の宗教文化であることを調べさせる |
| 第14回 | 京都に現存する道教関係の文化財② | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 道教の宗教と最も関係のあるものを発表させる |
| | 事後学習 (内容・時間) | 日本の宗教文化が正しく捉えられているかを考察し、文面で提出 |
| 第15回 | まとめ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 宗教の是・非について(発表・ローテーションで)30分程度 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 試験の内容について考えさせる |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 | |

| | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
| 1GGN-6710-12CS | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 情報倫理 (教職関連科目 必 高等学校 情報) | 共通 | 1年・後期 | 2単位 | 必修 | 丹羽 崇之 荒平 高章 | |
| 履修の前提条件 | 新聞の切り抜きなどを続けて、情報社会、メディアの動向に注意すること。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>情報通信技術の発達により、利便性は飛躍的に向上した。一方で、大規模な情報漏洩やサイバー攻撃、個人情報 不正利用、プライバシー侵害など、犯罪や権利侵害も深刻になっている。豊かで安心して暮らせる社会を目 指すためには、情報に関するモラルやルールを構築することは極めて重要である。この授業では、情報社会を構 成する個人として、情報倫理の知識を身につけ、自ら考え行動する力を養う。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ |
| | 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>情報社会の構成員として、情報倫理の知識を十分に修得し、責任ある行動ができる。また、自分にかかわる人々 の権利・利益を守ることができる。</p> | | | | | | |

| | | | |
|--|-------------|---------------|-------------------|
| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
| <p>情報とモラルをめぐる事例を取り上げ、ディスカッションする。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>質問は授業の前後のほか、オフィスアワーを積極的に活用してほしい。</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ & ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>情報学系の科目に加え、「知的所有権」、「法学」、「日本国憲法」、「民法」、「会社法」などの法学系科目を受講 することにより、理解を深めてもらいたい。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 『情報倫理[第2版]』 | 高橋・原田・佐藤・岡部 | 技術評論社 | 978-4297110819 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 『情報社会と情報倫理』 | 梅本吉彦【編著】 | 丸善出版 | 978-4621304686 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>平常点(ディスカッションへの参加や小テスト)が30点、レポート(前半と後半の2回)が70点で総合的に評価す る。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|-----------------|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | はじめに | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「情報社会」にはどのような問題があるのか、新聞などで調べる(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配付資料を読み返し、学んだこと、理解したことをまとめる(2時間) |
| 第2回 | 情報倫理について | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第1章を読み、「倫理」の意味と「情報倫理」の範囲を調べる(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書と配付資料を読み返し、「情報倫理」の重要性を確認する(2時間) |
| 第3回 | 情報社会について | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第2章を読み、「情報社会」の歴史を調べる(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書と配付資料を読み返し、「情報社会」の特性を確認する(2時間) |
| 第4回 | メディアの変遷について | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第4章を読み、「メディア」の歴史について調べる(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書と配付資料を読み返し、現代における「倫理」の重要性を確認する(2時間) |
| 第5回 | メディア・リテラシー | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第5章を読み、「メディア・リテラシー」の定義について調べる(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書と配付資料を読み返し、「メディア・リテラシー」の重要性を確認する(2時間) |
| 第6回 | 個人情報とプライバシー | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第8章を読み、「個人情報」「プライバシー」の意味を調べる(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書と配付資料を読み返し、「個人情報保護」の重要性を確認する(2時間) |
| 第7回 | 知的所有権とコンテンツ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第9章を読み、「知的所有権」の意味と種類を調べる(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書と配付資料を読み返し、「知的所有権」の保護について確認する(2時間) |
| 第8回 | 企業と情報倫理 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第10章を読み、情報に関する企業の社会的責任について調べる(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書と配付資料を読み返し、企業の関係者が守るべき倫理について確認する(2時間) |

| | | |
|----------------|--------------------------|--|
| 第9回 | ネット時代のコミュニケーション | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第2章を読み、情報化に伴うコミュニケーション手段の変遷について調べる(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書および講義内容について復習をし、第2章の内容を整理する(2時間) |
| 第10回 | 情報技術とセキュリティ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第6章を読み、情報技術とセキュリティについて調べる(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書および講義内容について復習をし、第6章の内容を整理する(2時間) |
| 第11回 | インターネットと犯罪 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第7章を読み、インターネットと犯罪について調べる(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書および講義内容について復習をし、第7章の内容を整理する(2時間) |
| 第12回 | ビッグデータとAIの倫理 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第12章を読み、ビッグデータとAIについて調べる(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書および講義内容について復習をし、12章の内容を整理する(2時間) |
| 第13回 | デジタルデバイスとユニバーサルデザイン | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第13章を読み、ユニバーサルデザインについて調べる(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書および講義内容について復習をし、13章の内容を整理する(2時間) |
| 第14回 | ソーシャルネットワークサービスと情報モラル | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第14章を読み、ソーシャルネットワークサービスについて調べる(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書および講義内容について復習をし、14章の内容を整理する(2時間) |
| 第15回 | 情報通信社会とリテラシー | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第15章を読み、情報リテラシーとメディアリテラシーについて調べる(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書および講義内容について復習をし、15章の内容を整理する(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 講義前半および講義後半で2回レポート課題を課す。 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1GGN-5850-12E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 心理学 | 219～ | 1年生・前期 | 2単位 | 選択 | 松尾 公孝 | |
| 心理学 I | ～218 | | | | | |
| 履修の前提条件 | 日常生活を心理学的な視点から理解しようとする意欲を持っていること。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>生まれて10数年生きてきた哺乳動物としての「私」が、これまでの生活過程をふり返し、あらためて「人間」としての価値や生き方に取り組むための視点や課題を心理学という学問的視点から確認・理解することを援助する授業にしたいと考えています。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | ○ |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | ○ |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>自分が自分自身に対し、現実から目をそらさずに積極的に向き合い、課題と取り組むための冷静さと積極性をもって日常を生きるヒントとなる知識や態度を心理学という学問・方法から出来るだけ多く学びとれること。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|------------|---------------|-------------------|
| 各授業テーマに関連して受講生の身近な体験を通して確認したり深めたりするためのグループワークを導入します。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 授業の前後、メールmatsuo@g.kiis.ac.jpにて受け付けます。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 配布資料 | | | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 心理学から見る日常生活 | 今井芳昭 | 谷地よ出版 | 978-4-8429-1551-7 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 定期試験(60%) 授業中のレポート(10%) 授業の振り返り(10%) 課題図書レポート(20%) | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|-----------------|-------------------|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | オリエンテーション 心理学概説 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 本授業のシラバスを読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料を読む(2時間) |
| 第2回 | 情緒的人間関係 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布した資料を読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料を読んで整理する(2時間) |
| 第3回 | 日常的人間関係 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布した資料を読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料を読んで整理する(2時間) |
| 第4回 | 睡眠と心の関係 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布した資料を読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料を読んで整理する(2時間) |
| 第5回 | 食事と睡眠の関係 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布した資料を読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料を読んで整理する(2時間) |
| 第6回 | 家族の中で心は作られる | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布した資料を読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料を読んで整理する(2時間) |
| 第7回 | 集団行動と心理 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布した資料を読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料を読んで整理する(2時間) |
| 第8回 | 心の不調を整える | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布した資料を読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料を読んで整理する(2時間) |

| | | |
|----------------|---------------------|-------------------|
| 第9回 | 心と身体の関係 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布した資料を読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料を読んで整理する(2時間) |
| 第10回 | 個人差という尺度 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布した資料を読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料を読んで整理する(2時間) |
| 第11回 | 認知 ～物事をどうとらえるか～ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布した資料を読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料を読んで整理する(2時間) |
| 第12回 | 行動の変化を起こすにはどうしたらいいか | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布した資料を読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料を読んで整理する(2時間) |
| 第13回 | 記憶 ～思い出があるから生きられる～ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布した資料を読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料を読んで整理する(2時間) |
| 第14回 | 障害人間発達論 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布した資料を読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料を読んで整理する(2時間) |
| 第15回 | まとめ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布した資料を読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料を読んで整理する(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験(筆記試験) | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1GGN-6400-12E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 文学 | 共通 | 1年生・前期 | 2単位 | 選択 | 全 彰煥 | |
| 履修の前提条件 | ① 各作品の「あらすじ」と「作品の背景」を事前に熟読すること。 ② 与えられる資料を理解すること。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| ① 近・現代のアメリカ文学の代表作の内容、背景と作家について説明する。 ② 作品の主な部分を日本語で輪読する。 ③ 各作品の映画を鑑賞し、原作と比較した感想文を提出しなければならない。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ |
| | 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| グローバル時代の世界文化の理解、国境を越えた情報化時代の教養知識を、世界の文学作品を通して習得することを目標とする。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|---------------------------|---------------|-------------------|
| ① 作品別に関連資料を自主的に調査して、演劇・映画・音楽・美術等を鑑賞、経験する。 ② 作品別に原作(日本語版)と映画(DVD)の比較感想文を作成して、討論会を実施する。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| ① 連絡・問い合わせ・相談: 研究室(453)にて随時受け付ける。 ② オフィスアワー: <水>2-5限目 ③ メール: jonhan@kiis.ac.jp | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| ① 外部試験: 該当なし ② 学習確認: ポートフォリオ「科目別履修確認チェック表」必要事項を記入して提出する。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 1)『黒猫・アッシャー家の崩壊』 | エドガー・アラン・ポー 巽 孝之 訳 | 新潮文庫 | 978-4-10-202804-9 |
| 2)『グレート・ギャツビー』 | スコット・フィッツジェラルド 村上 春樹 訳 | 中央公論新社 | 4-12-403504-7 |
| 3)『ライ麦畑でつかまえて』 | J.D. サリンジャー 野崎 孝 訳 | 白水ブックス | 4-560-07051-2 |
| 4)『カッコーの巣の上で』 | ケン・キージー 岩元 巖 訳 | 白水社 | 978-4-560-07192-2 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 『面白いほどよくわかる世界の文学』 | 世界文学研究会 | 日本文芸社 | 978-4-537-25197-5 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| ① 定期試験 ⇒ 40%、感想文 ⇒ 30%、平常点 ⇒ 30% ② 平常点は、「討論会」と発表を基本とする。 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|---|-------------------------------|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | オリエンテーション (アメリカ文学の過去と現在) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | アメリカの文学史に関する基礎調査をする。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「アメリカ文学」の資料論文を熟読する。(2時間) |
| 第2回 | 『アッシュヤー家の崩壊』① / 『The Fall of the House of Usher』: Edgar Allan Poe | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 和訳文を熟読する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 作家と文体の特徴を確認し、作品の感想文を考える。(2時間) |
| 第3回 | 『アッシュヤー家の崩壊』② / DVD映画鑑賞-1 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 和訳文を熟読する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 和訳文と映画を比較する。(2時間) |
| 第4回 | 『アッシュヤー家の崩壊』③ / DVD映画鑑賞-2 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 和訳文を熟読する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 和訳文と映画を比較する。(2時間) / 感想文の作成、提出 |
| 第5回 | 『グレート・ギャツビー』① / 『The Great Gatsby』: Scott Fitzgerald | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 和訳文を熟読する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 作家と文体の特徴を確認し、作品の感想文を考える。(2時間) |
| 第6回 | 『グレート・ギャツビー』② / DVD映画鑑賞-1 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 和訳文を熟読する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 和訳文と映画を比較する。(2時間) |
| 第7回 | 『グレート・ギャツビー』③ / DVD映画鑑賞-2 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 和訳文を熟読する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 和訳文と映画を比較する。(2時間) / 感想文の作成、提出 |
| 第8回 | 『グレート・ギャツビー』④ / DVD映画鑑賞-3 <2013年版> | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 和訳文を熟読する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | DVD1、2と比較する。(2時間) |

| | | |
|----------------|---|-------------------------------|
| 第9回 | 『ライ麦畑でつかまえて』① / 『The catcher in the rye』: Jerome David Salinger | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 和訳文を熟読する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 作家と文体の特徴を確認し、作品の感想文を考える。(2時間) |
| 第10回 | 『ライ麦畑でつかまえて』② / DVD映画鑑賞-1 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 和訳文を熟読する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 和訳文と映画を比較する。(2時間) |
| 第11回 | 『ライ麦畑でつかまえて』③ / DVD映画鑑賞-2 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 和訳文を熟読する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 和訳文と映画を比較する。(2時間) / 感想文の作成、提出 |
| 第12回 | 『カッコーの巣の上で』① / 『One flew over the cuckoo's nest』: Kenneth Elton Kesey | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 和訳文を熟読する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 作家と文体の特徴を確認し、作品の感想文を考える。(2時間) |
| 第13回 | 『カッコーの巣の上で』② / DVD映画鑑賞-1 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 和訳文を熟読する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 和訳文と映画を比較する。(2時間) |
| 第14回 | 『カッコーの巣の上で』③ / DVD映画鑑賞-2 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 和訳文を熟読する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 和訳文と映画を比較する。(2時間) / 感想文の作成、提出 |
| 第15回 | 4作品のまとめと各作者の名言について | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 配布資料を熟読する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 各作者の名言を「英文」「和文」で覚える。(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 1. 指定作品の「背景」の説明と「主題」に関する意見を述べる。 2. 指定作者の名言を翻訳する。(英語⇄和文) | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1GGN-6260-12E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 日本文化論 | 共通 | 1年生・後期 | 2単位 | 選択 | 進藤 康子 | |
| 履修の前提条件 | 日本の文化について関心を持っていること。日本語で日常会話が理解できること。授業中のディスカッションには積極的に参加すること。私語、遅刻厳禁です。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>留学生にも親しみやすい資料を用い、なるべく平易に解説する。授業の前に課題や問題点を調べておく。授業が終わってから自分の意見をまとめレポートを出すことを課する。①北斎漫画・浮世絵などの「絵画資料」②歌舞伎・浄瑠璃などの「演劇資料を見る。③「ひらがなの成り立ち」や「漢字・カタカナの歴史」の「文字資料」をわかりやすく教えることにより、多彩な日本文化を学ぶことができる。④和歌や俳句を実作指導することにより、日本文化を体感し、より深い理解に到達できるようになる。⑤「武道」「神道」「茶道」「香道」「書道」を担当を決めて発表することにより、「道」の文化をより身近に具体的に理解できるようになる。江戸時代の漫画や浮世絵など日本独自の文化を学ぶことにより、現代にもつながる日本文化として興味を持って理解できるようになる。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>日本の伝統文化、および歴史への考察を深め、正しく理解するために、この学科では、歌舞伎や人形浄瑠璃鑑賞や、江戸時代の実物のカルタ遊びや、「茶道」、「書道」、「武士道」、「香道」、「忍者」、「和食」など「道」の文化について学ぶ。日本文化の根底にある、八百万神への畏敬の念を、留学生にもわかる様にかみ砕いて教えることにより、よりの確に日本文化を理解できるようになることを目指している。又、百人一首や、福岡(博多)の歌人大隈言道の和歌を学び、和歌、俳句を実作することにより、言語感覚と、リズムを体感し、かつ、日本文化の「雅と俗」の基礎知識を身につけることができる。江戸時代の漫画、現代につづくマンガについても採り上げ、浮世絵の歴史にも言及する。ヨーロッパにおける日本文化の評価の高さは、江戸時代の浮世絵になど関するジャポニズムの流行を知ることにより更に理解が深まる。これらの日本文化の質の高さを知ることにより、学生のアイデンティティーの確立に寄与するものとなることをも目指している。</p> | | | | | | |

| | | | |
|--|-------------------|---------------|-------------------|
| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
| <p>学生が自主的にテーマを設定して、レポートを作成してもらいます。対話型の授業を心がけています。学生から積極的に自分の考えを発言することを期待します。毎回の授業の終わりには、コメントカード、ミニレポートの作成・提出をお願いします。感じたことや意見などを自由に書いてください。 教室内の学習30時間→1コマ2時間(90分)×15週、 授業時間外学習60時間→事前学習2時間+事後学習2時間×15週</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>連絡、問い合わせ、相談、質問は随時授業の終わりに受け付ける。また、ミニレポート提出先でも受け付ける。</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>ポートフォリオの作成と提出をお願いします。履修の目的、毎回の授業の内容、予習、復習、自己評価を記入し、授業第7回目の終わりと第15回目の終わりに提出してください。提出先は、ミニレポート提出と同じです。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| プリントを配布する | | | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 日本文学の歴史9 和歌文学大系 74 草徑集 | ドナルド・キーン 進藤 康子 | 中央公論社 明治書院 | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>平常点(10%)レポート(10%)定期試験(80%)。平常点は、科目別履修状況チェック表の提出状況、授業の中で行うディスカッションの様子、積極的な発言、提案、質問の様子で判断する。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|---|---|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | オリエンテーション (授業の概要・授業の方針・受講上の諸注意などを説明する) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 日本文化に興味のあるものは何かを自分で考え、いくつか見つけてくる(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業の概要・授業の方針を復習する。ポートフォリオを作成する。以後毎回。(2時間) |
| 第2回 | 日本文化と伝統的年中行事 1 (日本文化の概観と世界の中の日本文化の特色の説明をする) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 日本の伝統文化といえば、代表的なものは何かをいくつか調べて100字でまとめる(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 年中行事について復習し、授業で習ったことと自分の感想をミニレポートを提出する(2時間) |
| 第3回 | 日本文化と伝統的年中行事 2 (月の異称について説明する。) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 日本の伝統的な年中行事を調べ、それはどんな願いが込められているか考えてくる(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 年中行事と月の関係など授業で習ったことを200字でミニレポートに提出する。(2時間) |
| 第4回 | 日本文化と絵画資料1(まんが資料・鳥獣戯画などを説明する) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 日本のまんがで、あなたが好きなものは何か。また、北斎漫画についても調べてくる(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 日本のまんがの歴史をまとめて、さらに興味をもったことは調べて、ミニレポート提出する。(2時間) |
| 第5回 | 日本文化と絵画資料2(浮世絵・ジャポニズムについて説明する) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 浮世絵について調べて200字でまとめておく。授業中に発表する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ジャポニズムとは何か。授業で習ったことを200字でまとめ、自分の感想も加えて。ミニレポート提出する。(2時間) |
| 第6回 | 日本文化と絵画資料3(カルタ遊び・百人一首について説明する) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 日本のカルタ遊びとは何か。また百人一首の歌を一首調べて意味を書いてくる。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 百人一首かるたについて、授業で習ったことを200字で、ミニレポート提出する。(2時間) |
| 第7回 | 日本文化と演劇・芸能 (歌舞伎・人形浄瑠璃文楽を説明する) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 歌舞伎とはどんなものが調べて100字にまとめておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ポートフォリオを提出する。(2時間) |
| 第8回 | いろは歌「いろはにほへと」、50音図「あいうえお」の歴史を説明する。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「いろは」うたについて調べてくる。疑問点をまとめておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「はひふへほ」と「ぱびふべぽ」の歴史をまとめて、ミニレポート提出する。(2時間) |

| | | |
|----------------|---|--|
| 第9回 | 俳句の実作(松尾芭蕉・小林一茶・仙漕和尚・与謝蕪村などの楽しい俳句を紹介する) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 俳句とは何かを調べて100字でまとめておく。また、有名な俳句を一句調べてくる。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 自分のオリジナルで、季節の俳句を作って、ミニレポート提出する。(2時間) |
| 第10回 | 和歌1 和歌の実作(西行・家持などを知り、和歌の歴史を説明する) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 和歌とは何かを調べて100字でまとめておく。第6回の「百人一首」の復讐をしておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 和歌のすばらしさを200字でまとめ、また、和歌を一首作って、ミニレポート提出する。(2時間) |
| 第11回 | 和歌2 歌人、大隈言道(おおくまことみち)と、橘曙覧(たちばなあけみ)の和歌について鑑賞する。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回の授業の疑問点、質問点をまとめておく(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 橘曙覧「たのしみは」で始まる和歌にならって、あなたの「たのしみは」の和歌を作る(2時間) |
| 第12回 | 日本を代表する物語、源氏物語について説明する | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 源氏物語について調べて100字でまとめておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業で習った源氏物語の特色を200字でまとめてミニレポート提出する。(2時間) |
| 第13回 | 神道・茶道・華道・弓道・香道・武道・書道 など「道」のつく日本文化の根本理念について説明する。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 神道・茶道・華道・弓道・香道・武道・書道のうち、自分の興味がある「道」を選んで調べる。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業で習った「道」について200字でまとめてミニレポート提出する。(2時間) |
| 第14回 | 2回～13回までの授業の中で、一番興味があった自己のテーマを設定してレポート作成&ミニテスト | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 2回～13回までの授業の中での振り返りテストのための質問を考えてくる。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 2回～13回までの授業の中で、一番興味があった自己のテーマを考えてくる。(2時間) |
| 第15回 | レポートを発表し、内容についてディスカッションする。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 自分のテーマのレポートをまとめ、発表の練習をしておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 定期テストのための勉強をして準備をする。ポートフォリオを提出する。(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験を行う。 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 基礎デザイン | ~218 | 1年生・後期 | 2単位 | 選択 | 富田 真矢 | |
| 履修の前提条件 | ①色彩や造形について関心を持ち、発想を展開することに興味を持っていること。 ②毎回、色鉛筆での作品制作となるので、丁寧に描く技術が必要となります。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| 毎回、課題制作の方向性について対話形式で説明しますので、積極的な発言をお願いします。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| デザイン分野の中において特に発想する力と、それを表現する描写力を身につけていきます。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|------------|---------------|-------------------|
| 毎回、課題制作の方向性について対話形式で説明しますので、積極的な発言をお願いします。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 出講日は水曜日1時限目のみとなりますので、それ以外の連絡等は教務課の方へお願いします。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 毎回、制作用のプリントを配布します | | | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 色彩の科学 | 金子 隆芳 | 岩波書店 | 4004300444 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 平常点(60%)作品(40%)平常点は授業中の制作態度、用具の準備などです。 ①課題の意図に沿った発想をしているか②発想したことを効果的に、丁寧に表現しているか。 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|---|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 「連想イラスト①」形態からの連想 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 物の形を○□△などに分類して調べておく。○△□が組み合わさった物についても調べておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | さらに複雑な形について共通の物をさがし描写する。(2時間) |
| 第2回 | 「連想イラスト②」色彩からの連想 ※この回から毎回、色鉛筆を使います。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 物の色を赤・青・黄などに分類して調べておく。それらが組み合わさった物についても調べておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | さらに複雑な色の組み合わせられた物について共通の物をさがし描写する。(2時間) |
| 第3回 | 「連想イラスト③」イメージの連想 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 月とウサギ、蚊と注射器などイメージのつながるものを探しておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 一つの物からイメージのつながるものをできる限り多く探し出し描写する。(2時間) |
| 第4回 | 「蝶①」寒暖・軽重などの感覚と色彩・形態の関係を考え蝶の模様で表現する。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 寒く感じるもの、暖かく感じるもの、重く感じるもの、軽く感じるものについて探しておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 中性色について調べておく。(2時間) |
| 第5回 | 「蝶②」性質・性格と色彩・形態の関係を考え蝶の模様で表現する。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 赤、青、黄、緑、黒、白のそれぞれの色に対する自分なりのイメージをまとめておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | さらに他の性質や性格と色彩との関係を調べておく。(2時間) |
| 第6回 | 「3イメージ」異なるカテゴリー同士の共通点をさがし、組み合わせる一つの画面を作成する。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 共通のカテゴリーでくくることのできる3つの物を30種類ほど考えておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 違うタイプの画面をもう1点制作する。(2時間) |
| 第7回 | 「グリッド①」グリッドに沿って形態をつくる 植物・動物 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 植物、動物の形態をよく調べておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 家電、文具、小物類などをグリッドで表現する。(2時間) |
| 第8回 | 「グリッド②カラーカレンダー」月ごとの色を考えグリッドにそって構成する。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 1月から12月までの月ごとの色のイメージをまとめておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 春夏秋冬のそれぞれの色のイメージをグリッドで表現する。(2時間) |

| | | |
|----------------|---|--|
| 第9回 | 「オノマトペ」擬音語、擬態語を色と形で制作する。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | オノマトペについて調べておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | オノマトペ以外の形容詞、副詞などを形態化して描写する。(2時間) |
| 第10回 | 「書体とイメージ」書体を変化させて、喜怒哀楽を表現する。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | マンガなどを見てどんな場面でどんな書体(書体のデフォルメ)がなされているか調べておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | さらに複雑な感情と書体の関係について調べる。(2時間) |
| 第11回 | 「ミニ絵本①」5つの場面を展開させて絵本を作る。アイデアスケッチ(10タイプ) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 好きな絵本について、どこが気に入っているのかまとめておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | アイデアについて何度も吟味する。(知人や家族などに見てもらう)(2時間) |
| 第12回 | 「ミニ絵本②」ダミー制作(等倍)、製本、下描き | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 製本の種類について調べておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 下描きを完成させ、修正がないかチェックする。(2時間) |
| 第13回 | 「ミニ絵本③」本画制作 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 色鉛筆で描かれた絵本について調べておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 完成した作品についての自己評価をまとめておく。(2時間) |
| 第14回 | 「レリーフ表現」色鉛筆の濃淡で形態を立体的に表現する。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 表面が凸凹しているものを探し、陰影がどのようにできているか観察しておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | さらに複雑な形態について描写する。(2時間) |
| 第15回 | 「透明感の表現」加法混色、減法混色を用いて透明感のある画面をつくる。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 加法混色、減法混色について調べておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 加法混色、減法混色によらない透明感の表現を試みて描写する。(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 課題評価、まとめ | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1GGN-6080-12E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 哲学 | 219-220 | 1年生・後期 | 2単位 | 選択 | 坂上 宏 | |
| 政治学Ⅱ | ～218 | | | | | |
| 履修の前提条件 | ①哲学や思想について関心を持っていること。②プラトン『ソクラテスの弁明・クリトン』を読了しておくことが望ましい。③3年生については、「政治学」の単位を取得した者の履修を認めません(履修規程第5条3項に基づく)。④4年生については、「政治学Ⅰ」の単位を取得した者の履修を認めません(履修規程第5条3項に基づく)。※禁止事項:不必要な私語。正当な理由でない遅刻および許可のない入退室。携帯電話の使用。その他指定する事項。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>下記に掲げた古代ギリシアの哲学者の思想をとりあげて、国家(社会)と人間の相克と調和について考えていきます。また彼らの思想のうちで理想と現実の関係、ものの認識のありかたについても併せて講義し、古代ギリシア思想についての理解を深めていきたいと思います。特にアテナイにおける「徳」の意味するものについて留意しながら講義を進めていきますが、「徳」について考えることは、混迷の時代に暮すわれわれ現代人にとって、「善い生」についての何らかの示唆を与えることでしょう。なおこの授業は、主として本学の建学の精神「至心」「報恩感謝・慈愛と奉仕」「容は心を呼び、心は容を呼ぶ。」およびカリキュラムポリシー「Ⅰ 建学の精神を理解させ、社会人として必要な態度・志向性を養うこと。」「Ⅲ 社会の諸問題についての知識・理解や汎用的技能を高めること。」に則り行われるものです。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ |
| | 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>古代ギリシア世界の偉大な哲学者の思想を通して、理想と現実の関係、国家(社会)と人間のあり方について学習し、その要点が理解できるようになることを目指しています。そして受講者それぞれが、国家(社会)と人間のあるべき姿について深く考え、「徳」のある生活を送るための素養を培うことがさらなる目標です。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|------------|---------------|-------------------|
| <p>対話型の授業を心がけます。学生からの積極的な発言を期待します。毎回の授業の終わりにポートフォリオ&ルーブリックへの記入をお願いします。感じたことや意見などを自由に書いてください。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>連絡、問い合わせ、相談等は研究室(363)およびメール(sakagami@g.kiis.ac.jp)にて随時受け付けます。提出物はGoogleクラスルームへ出してください。</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>学習の確認:ポートフォリオ&ルーブリックに必要事項を記入して、指定する日時までに提出してください。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| プリントを配布する。 | | | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 『ソクラテスの弁明・クリトン』『国家上・下』『パイドン』『法律上・下』(プラトン) 『政治学』『ニコマコス倫理学』『形而上学上・下』(アリストテレス) 『生の短さについて他二篇』(セネカ) 『エピクロス—教説と手紙—』(エピクロス) | | 岩波文庫 | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>成績評価の方法:試験90%。平常点10%(毎回の授業の事前学習と事後学習の提出、ポートフォリオ&ルーブリックの提出)。 成績評価の基準 ①ソフィストの思想について、特にプロタゴラスの思想およびフィシスとノモスについて理解しているか。②ソクラテスの思想について、特に無知の知、魂の配慮、真の知恵、国法と正義について理解しているか。③プラトンの思想について、特にイデアと洞窟の比喻、エロス(愛)、正しい国家と正しい人間の徳(四つの徳)、哲人政治について理解しているか。④アリストテレスの思想について、特に最高善と観照、中庸の徳、国制(民主制)、正義と友愛について理解しているか。⑤ストア派とエピクロス派の思想について、特に禁欲主義や不動心、快楽主義について理解しているか。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|---|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 授業の方針等、古代ギリシャ世界の形成と哲学の誕生 :プリント1 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 徳のある生活とはどのようなものですか。第1回授業プリントを読んで説明してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 自然哲学の特徴、内容について授業ではどのように述べられていましたか。(2時間) |
| 第2回 | 古代ギリシャ世界の形成と哲学の誕生(続き)、ポリスと政治学の誕生 :プリント2 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | アテナイの民主政と市民の立場について、第2回授業プリントを読んで教えてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | アリストテレスの言葉「人間は自然に(本性上)国的(ポリス的)動物である」の意味について説明してください。(2時間) |
| 第3回 | ポリスとソフィスト「あらゆるものの尺度であるのは人間だ」 :プリント3 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ソフィストとはどのような人たちですか。第3回授業プリントを読んで説明してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | プロタゴラスの言葉「あらゆるものの尺度であるのは人間だ」の内容について説明してください。(2時間) |
| 第4回 | ソクラテスの思想—生涯と思想、無知の知、魂の配慮、真の知恵 :プリント4 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ソクラテスが述べる「無知の知」とはどのような意味ですか。第4回授業プリントを読んで教えてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 魂の配慮についてソクラテスの考えを説明してください。(2時間) |
| 第5回 | ソクラテスの思想—福德一致と知行合一、ソクラテスの死について :プリント5 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ソクラテスは、「幸福」についてどのように考えていますか。第5回授業プリントを読んで教えてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ソクラテスは、なぜ逃げずに死刑を受け入れたのでしょうか。授業の内容を説明してください。(2時間) |
| 第6回 | ソクラテスの思想—ソクラテスの死について(続き)、プラトンの思想—その生涯と思想 :プリント6 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ソクラテスの死と知行合一、福德一致について第6回授業プリントを読んで教えてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 哲人政治とはどういう意味ですか。授業の内容を説明してください。(2時間) |
| 第7回 | プラトンの思想—認識論、イデア論 :プリント7 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | あなたが見たものや考えたこと、言葉にして表した事物は、その事物の本当の姿でしょうか。第7回授業プリントを読んで教えてください。答えの理由も書いてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | イデアについてプラトンはどのように述べていますか。授業の内容を説明してください。(2時間) |
| 第8回 | プラトンの思想—イデア論(洞窟の比喩)、哲人政治 :プリント8 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 洞窟の比喩に関するプラトンの主張の要点について、第8回授業プリントを読んで教えてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「理想国家の徳」と「正しい国家、正しい人間」について、プラトンはどのように述べていますか。授業の内容を説明してください。(2時間) |

| | | |
|----------------|---|--|
| 第9回 | プラトンの思想—哲人政治(続き)、四つの徳 :プリント9 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | プラトンは「真の哲学者」についてどのように述べていますか。第9回授業プリントを読んで教えてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 正しい国家の四つの徳について授業の内容を説明してください。(2時間) |
| 第10回 | アリストテレスの思想—プラトン哲学への批判、形相と質量 :プリント10 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | プラトンのイデア論に対するアリストテレスの批判の要点について、第10回授業プリントを読んで教えてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 形相と質料の関係についてアリストテレスはどのように考えていますか。授業の内容を説明してください。(2時間) |
| 第11回 | アリストテレスの思想—可能態と現実態、善と幸福と徳、観照的な活動 :プリント11 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | あらゆる事物、あらゆる運動の目的についてアリストテレスはどのように考えていますか。第11回授業プリントを読んで教えてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 観照的な活動とはどのような意味ですか。授業の内容を説明してください。(2時間) |
| 第12回 | アリストテレスの思想—知性的徳と倫理的徳、徳のあり方～中庸、国制論 :プリント12 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 知性的徳と倫理的徳についてのアリストテレスの考えを第12回の授業プリントを読んで教えてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | アリストテレスは正しい政治(国制)のあり方についてどのように述べていますか。授業の内容を説明してください。(2時間) |
| 第13回 | アリストテレスの思想—国制論(続き)、正義と友愛 :プリント13 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 配分的正義と矯正的正義の意味について、アリストテレスの考えを第13回の授業プリントを読んで教えてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | アリストテレスは、最善の政治についてどのように述べていますか。授業の内容を説明してください。(2時間) |
| 第14回 | ヘレニズム時代の思想—ストア派の思想 :プリント14 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ヘレニズム時代の思想の特徴と代表的思想について、第14回授業プリントを読んで教えてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ストア派の主張する禁欲主義について、授業の内容を説明してください。(2時間) |
| 第15回 | ヘレニズム時代の思想—エピクロス派の思想 :プリント15 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | エピクロスの主張「魂の平静さ」とはどのような意味ですか。第15回の授業プリントを読んで教えてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | エピクロスの主張「快樂主義」について、授業の内容を説明してください。(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験、ポートフォリオ & ルーブリック作成等 | |

| | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
| 1GGN-6450-12E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 法学 | 共通 | 1年生・前期 | 2単位 | 選択 | 丹羽 崇之 | |
| 履修の前提条件 | 常日頃から新聞をよく読んでおくこと。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>現代社会は社会的・経済的諸活動などあらゆる生活領域が法的関係に取り囲まれている。とりわけ、経営・情報などの分野では多様かつ複雑な法的問題に触れる機会も多く、これらの分野の従事者は法的なものの見方、リーガルマインドの涵養が要請される。そこで、本科目では、これからの個別領域での法律学の習得のための端緒としてその導入的理解を進めた上で、適宜経営・情報等の分野での事例を素材としながら、法学の基礎を学ぶ。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>本科目は、以下の授業計画にしたがって法学領域全般にかかわる法学の基礎的理解を得ることにより、「法的なものの考え方」「リーガルマインド」習得のための第一歩を踏み出し、法学部門で中心的領域を占める憲法・刑法・民法など各法令の特質と相違の概略を知ることにある。そのうえで、この科目を出発点とし、今後の各種法分野の知見を習得し、研修を重ねることにより、リーガルマインドが涵養されることとなる。</p> | | | | | | |

| | | | |
|--|------------|---------------|-------------------|
| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
| 事例をあげながら、学生諸君に適用法令、法律関係を考えてもらう。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 質問等は、授業の前後の時間やオフィスアワーを積極的に利用してもらいたい。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>欠席した場合には、その回の授業内容を学習したレポートを提出してもらう。(提出しない場合は、定期試験の受験を認めない。)</p> <p>学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出すること。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| プレステップ法学 | 池田真朗編 | 弘文堂 | 978-4335000997 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| ポケット六法 令和3年版 | 佐伯・大村編 | 有斐閣 | 978-4641009219 |
| 法律学小辞典 | 高橋和之他 | 有斐閣 | 978-4641000292 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 平常点(ミニテスト、レポート)30%、定期試験70%により総合評価する。 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|-----------------|---|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | ガイダンス 法の学び方 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 法とはなにか、考える(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 法とはなにか、法の学び方について復習する(2時間) |
| 第2回 | 法の目的、法の適用、法の体系 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第1章を読み、法の目的、法の適用、法の体系について考える(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第1章を読み返し、法の目的、法の適用、法の体系について復習する(2時間) |
| 第3回 | 民法(契約法) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第2章を読み、契約法について考える(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第2章を読み返し、契約法について復習する(2時間) |
| 第4回 | 民法(消費者法) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第3章を読み、消費者法について考える(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第3章を読み返し、消費者法について復習する(2時間) |
| 第5回 | 民法(不法行為) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第4章を読み、不法行為について考える(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第4章を読み返し、不法行為について復習する(2時間) |
| 第6回 | 民法(家族法) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第5章を読み、家族法について考える(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第5章を読み返し、家族法について復習する(2時間) |
| 第7回 | 刑法(犯罪と刑罰) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第6章を読み、犯罪と刑罰について考える(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第6章を読み返し、犯罪と刑罰について復習する(2時間) |
| 第8回 | 刑法(刑事手続) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第7章を読み、刑事手続について考える(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第7章を読み返し、刑事手続について復習する(2時間) |

| | | |
|----------------|-----------------|-------------------------------------|
| 第9回 | 憲法(総論) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第8章を読み、憲法の意義、基本原理について考える(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第8章を読み返し、憲法の意義、基本原理について復習する(2時間) |
| 第10回 | 憲法(統治) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第9章を読み、統治について考える(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第9章を読み返し、統治について復習する(2時間) |
| 第11回 | 憲法(人権) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第10章を読み、基本的人権について考える(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第10章を読み返し、基本的人権について復習する(2時間) |
| 第12回 | 会社法 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第11章を読み、会社法について考える(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第11章を読み返し、会社法について復習する(2時間) |
| 第13回 | 労働法 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第12章を読み、労働法について考える(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第12章を読み返し、労働法について復習する(2時間) |
| 第14回 | 国際法(国連) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第13章を読み、国際法と国連について考える(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第13章を読み返し、国際法と国連について復習する(2時間) |
| 第15回 | 国際法(人権) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第14章を読み、国際人権法について考える(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第14章を読み返し、国際人権法について復習する(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 | |

| | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
| 1GGN-6240-12ET | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 日本国憲法 (教職関連科目 必 高等学校 情報) | 共通 | 1年生・後期 | 2単位 | 選択 | 吉野 正 | |
| 履修の前提条件 | 前期の法学を履修済みであることが望ましい。また、日本社会に関心をもっていること | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| めまぐるしく発展する現代社会の中で生きてきた憲法のさまざまな論点を理解することを通じて、憲法の基本的な知識としくみについて解説します。この講義では、特に日本国憲法において実際の社会で生じた具体的な事件に焦点を当てながら皆さん自身の立場や価値観を見つめなおす機会にしたいと思います。なお、教職課程を目指す受講者には、教育者として学生のもつ人権に配慮することの意味と役割について理解することができるようになることを求めます。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ |
| | 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| 以下の3点を授業の目標とします。 ①日本国憲法の基礎知識・用語法を習得し、説明できること ②日本国憲法をめぐって生じた争いや具体的な事件の背後にある立場や考え方の違いを説明できること ③日本国憲法の学説や判例の立場の違いを理解したうえで自分自身の立場を明確にしなが説明できること | | | | | | |

| | | | |
|---|------------|---------------|-------------------|
| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
| 毎回、講義においてかなりの文章量を小レポートとして書くように求めます。日本国憲法の裁判例では意見や立場の違いから争いがしばしば生じますが、受講生には自分としてはどちらが正しいのかを主張してもらい、その主張に対する理由づけをしてもらうつもりです。このことには受講生の能動的な参加が不可欠です。積極的に取り組んでください。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 講義の開始前後を使って質問などは受け付けます。時間がない場合などはコメントカードを通じて質問の受付を行う予定です。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 講義は板書を用いて行いますので、初回からノートを必ず持参してください。また、初回のガイダンスにおいて教員作成の毎回の学習確認のチェックリストを配布します。そこに毎回の予習・復習の範囲を書いていますので、必ず初回のガイダンスには出席してください。ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 目で見える憲法【第5版】 | 初宿正典ほか | 有斐閣 | 978-4-641-22735-4 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 別途、配布資料にて紹介します。 | | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 定期試験(授業内容15回分に関して到達目標①と②の観点から出題)…70% 毎回の小レポート(到達目標③の観点から出題、1回2点×15回)…30% | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|-------------------------------|--------------------------|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 憲法と法律のちがい | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 憲法と法律のちがいを教科書で読んでおく(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートの復習(2時間) |
| 第2回 | 日本国憲法の成立史 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 憲法の成立史を教科書で読んでおく(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートの復習(2時間) |
| 第3回 | 日本国憲法の基本原理、国民主権、基本的人権の尊重、平和主義 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 3原理を教科書で読んでおく(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートの復習(2時間) |
| 第4回 | 国民主権と天皇制 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 天皇制を教科書で読んでおく(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートの復習(2時間) |
| 第5回 | 平和主義 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 憲法前文を5回読んでおく(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートの復習(2時間) |
| 第6回 | 基本的人権 幸福追求権 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 憲法11条から13条まで考えておく(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートの復習(2時間) |
| 第7回 | 基本的人権 法の下での平等 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 平等と自由の違いを教科書で読んでおく(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートの復習(2時間) |
| 第8回 | 精神的自由権 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 表現の自由を教科書で読んでおく(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートの復習(2時間) |

| | | |
|----------------|-------------------|--------------------------------|
| 第9回 | 経済的自由権 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 営業の自由を教科書で読んでおく(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートの復習(2時間) |
| 第10回 | 社会権(生存権と教育を受ける権利) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ストライキ権を教科書で読んでおく(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートの復習(2時間) |
| 第11回 | 参政権 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 一票の価値の不平等について教科書で読んでおく(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートの復習(2時間) |
| 第12回 | 民主政治のしくみ 立法(国会) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 何故二院があるのか教科書で読んでおく(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートの復習(2時間) |
| 第13回 | 行政(内閣) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 内閣総理大臣の選任手続きについて教科書で読んでおく(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートの復習(2時間) |
| 第14回 | 司法(裁判所) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 違憲審査権について教科書で読んでおく(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートの復習(2時間) |
| 第15回 | 地方自治 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 県知事と県議会の関係について教科書で読んでおく(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートの復習(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験など | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 社会学 I | ~218 | 1年生・前期 | 2単位 | 選択 | 平田 毅 | |
| 履修の前提条件 | 自己と、自己をとりまく他者(=社会)について、洞察しようとする姿勢をもっていること。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| 大きく変容している現代社会を読み解く視点を手に入れるために「社会学」が培ってきた方法論に学ぶことを目的とする。社会学 I では、そのための一歩として、社会学で用いられる基本的な概念や諸領域を学ぶこと通して、その基礎力を身につける。いわば「社会学入門」の授業である。「社会学する」うえで様々な概念(社会学用語)をしっかり把握しようとする態度は極めて重要な事柄である。板書や授業の内容を各自ノートの作成を通して、整理し・まとめることにより、授業内容の定着化を図る。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | ○ |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 社会学の基礎概念について、自らの生活感覚(リアル)と重ね合わせて理解し検証する力を養う。 社会学的な道具立てを用いて、現実社会の諸事象を考察することのできる力を身につける。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|-----------------------|---------------|-------------------|
| <p>基本的には対話型の授業スタイルで学習を進めていきます。授業時間中の私の問いかけには主体的に応えてください。みなさんから質問や疑問点がある場合も適宜発話してください。相互のコミュニケーションを通して学習を深められることを期待しています。必要に応じて、全体もしくはグループでの討論・討議を通じた授業も実施します。自ら考え、積極的に発言することで、みんなで学ぶ場を豊かにしていきましょう。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>授業終了後に声を掛けるか、もしくは研究室を訪ねてください。オフィスアワーの時間は、掲示案内を参照してください。メールアドレス: t-hirata@kiis.ac.jp</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>GoogleClassroomを活用して授業を進めていきます。毎授業時間に「社会学『学び』のまとめシート」を記入し、今日の学びを振り返ってもらいます。しっかり、文章で記入するようにしてください。また、この授業では、学びの足跡を定着させるために各人の「ノート」の作成を重視しています。それぞれが自分の「社会学のノートをつくる」ことを念頭に置いて取り組んでください。学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| なし (学習資料等を配布します) | | | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 命題コレクション 社会学 | 作田 啓一(編集) 井上 俊(編集) | ちくま学芸文庫 | 978-4480094247 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>プレレポート(15%) ・ミニ課題(15%) ・各自作成のノート(10%) および、論述式の期末試験(60%)の成績によって、総合的に評価する。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|------------------------------------|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 授業ガイダンス、「社会って何？」 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | シラバスを読む。「社会学」という学問領域についてネット等で下調べをしておく。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「振り返りシート」の記入。プレレポートのテーマに即して作成の構想を練る。[2h] |
| 第2回 | 「社会」へのアプローチ 社会学的方法論と基礎概念 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | プレレポートを作成する。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「振り返りシート」の記入。配布資料の見直しとノートの整理を行う。(復習)[2h] |
| 第3回 | 社会学の基礎概念① 「社会の構成単位としての行為・相互行為」 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 提示された次時授業のキーワードについて下調べをする。(予習)[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「振り返りシート」の記入。配布資料の見直しとノートの整理を行う。(復習)[2h] |
| 第4回 | 社会学の基礎概念② 「行為の種類と構造」 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 提示された次時授業のキーワードについて下調べをする。(予習)[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「振り返りシート」の記入。配布資料の見直しとノートの整理を行う。(復習)[2h] |
| 第5回 | 社会学の基礎概念③ 「パーソナリティ・自我・社会化」 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 提示された次時授業のキーワードについて下調べをする。(予習)[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「振り返りシート」の記入。配布資料の見直しとノートの整理を行う。(復習)[2h] |
| 第6回 | 社会学の基礎概念④ 「アイデンティティとアイデンティティクライシス」 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 提示された次時授業のキーワードについて下調べをする。(予習)[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「振り返りシート」の記入。配布資料の見直しとノートの整理を行う。(復習)[2h] |
| 第7回 | 社会学の基礎概念⑤ 「地位と役割」 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 提示された次時授業のキーワードについて下調べをする。(予習)[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「振り返りシート」の記入。配布資料の見直しとノートの整理を行う。(復習)[2h] |
| 第8回 | 社会学の基礎概念⑥ 「集団・組織」 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 提示された次時授業のキーワードについて下調べをする。(予習)[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「振り返りシート」の記入。配布資料の見直しとノートの整理を行う。(復習)[2h] |

| | | |
|----------------|--|--|
| 第9回 | 社会学の基礎概念⑦ 「コミュニケーション」 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 提示された次時授業のキーワードについて下調べをする。(予習)[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「振り返りシート」の記入。配布資料の見直しとノートの整理を行う。(復習)[2h] |
| 第10回 | 社会学の基礎概念⑧ 「記号と言語」 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 提示された次時授業のキーワードについて下調べをする。(予習)[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「振り返りシート」の記入。配布資料の見直しとノートの整理を行う。(復習)[2h] |
| 第11回 | 社会学の基礎概念⑨ 「文化」 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 提示された次時授業のキーワードについて下調べをする。(予習)[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「振り返りシート」の記入。配布資料の見直しとノートの整理を行う。(復習)[2h] |
| 第12回 | 社会学の基礎概念⑩ 「ジェンダーとセクシュアリティ」 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 提示された次時授業のキーワードについて下調べをする。(予習)[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「振り返りシート」の記入。配布資料の見直しとノートの整理を行う。(復習)[2h] |
| 第13回 | 社会学研究の諸領域: 家族 「家族」とは何か 家族の機能 とこれからの家族 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 提示された次時授業のキーワードについて下調べをする。(予習)[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「振り返りシート」の記入。配布資料の見直しとノートの整理を行う。(復習)[2h] |
| 第14回 | 社会学研究の諸領域: 地域 「地域」「コミュニティ」の概念 と 地域 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 提示された次時授業のキーワードについて下調べをする。(予習)[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「振り返りシート」の記入。配布資料の見直しとノートの整理を行う。(復習)[2h] |
| 第15回 | 「社会学する」ということ。社会のなかで生きるということ。(「学び」の振り返りと討議) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | これまでの授業のキーワードを復習し、授業全体を振り返っておく。(予習)[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | これまでの配付資料とノートを見直し・整理し総復習をする。[2h] |
| 第16回 (定期試験) | 論述問題にて出題します。 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1GGN-5650-12E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 社会学 | 219～ | 1年生・後期 | 2単位 | 選択 | 平田 毅 | |
| 社会学Ⅱ | ～218 | | | | | |
| 履修の前提条件 | 自己と、自己をとりまく他者 (=社会) について、洞察しようとする姿勢をもっていること。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>現代社会の諸事象について社会的に考察していきます。その際、最も大切なことは、自らの生活感覚(リアル)と重ね合わせて理解し検証することです。つまり自ら論理的に「考える」ことです。そこでこの授業では、現代社会について、都市化、消費文化、情報化の3つの領域をとりあげ、それぞれの観点を通して現代社会のあり方を考察していきます。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | ○ |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 現代社会の諸事象の文化的特質と構造を理解し、それを自らのリアリティと重ねて検証することができる。 レポート作成や定期試験、授業での討議活動などを通して、自らの「考え」を論理的の根拠づけて展開できる力を養う。 | | | | | | |

| | | | |
|--|------------|---------------|-------------------|
| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
| <p>基本的には対話型の授業スタイルで学習を進めていきます。授業時間中の私の問いかけには主体的に応えてください。みなさんから質問や疑問点がある場合も適宜発話してください。相互のコミュニケーションを通して学習を深められることを期待しています。必要に応じて、全体もしくはグループでの討論・討議を通じた授業も実施します。自ら考え、積極的に発言することで、みんなで学ぶ場を豊かにしていきましょう。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>授業終了後に声を掛けるか、もしくは研究室を訪ねてください。オフィスアワーの時間は、掲示案内を参照してください。メールアドレス: t-hirata@kiis.ac.jp</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>GoogleClassroomを活用して「学び」の構築を図ります。毎授業時間に「社会学『学び』のまとめシート」を記入し、今日の学びを振り返ってもらいます。しっかり、文章で記入するようにしてください。また、この授業では、学びの足跡を定着させるために各人の「ノート」の作成を重視しています。それぞれが自分の「社会学のノートをつくる」ことを念頭に置いて取り組んでください。学習の確認: ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| なし (資料等を配布します) | | | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 放課後の社会学 | 大多和直樹 | 北樹出版 | 978-4-7793-0427 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>プレレポート(15%)・ミニ課題(15%)・各自作成のノート(10%)および、論述式の期末試験(60%)の成績によって、総合的に評価する。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|---|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 社会学概論(1) 社会学一步前(授業ガイダンス、「社会学」とはどんな学問だろう? 社会学で学ぶこと) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | シラバスを読む。「社会学」という学問領域についてネット等で下調べをしておく。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「振り返りシート」の記入。プレレポートのテーマに即して作成の構想を練る。[2h] |
| 第2回 | 社会学概論(2) 社会学はじめの一步(「社会」とは何か? 「社会」研究・2つのアプローチ、社会学の方法論) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | プレレポートを作成する。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「振り返りシート」の記入。配布資料の見直しとノートの整理を行う。(復習)[2h] |
| 第3回 | マックス・ウェーバーの社会学(方法論的個人主義、社会的行為と行為連関) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 提示された次時授業のキーワードについて下調べをする。(予習)[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「振り返りシート」の記入。配布資料の見直しとノートの整理を行う。(復習)[2h] |
| 第4回 | 現代社会を読み解く(1) 都市社会としての現代社会① 都市とは何か、「都市」の社会学的定義 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 提示された次時授業のキーワードについて下調べをする。(予習)[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「振り返りシート」の記入。配布資料の見直しとノートの整理を行う。(復習)[2h] |
| 第5回 | 現代社会を読み解く(2) 都市社会としての現代社会② 都市と村落の比較、都市/村落二分法 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 提示された次時授業のキーワードについて下調べをする。(予習)[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「振り返りシート」の記入。配布資料の見直しとノートの整理を行う。(復習)[2h] |
| 第6回 | 現代社会を読み解く(3) 都市社会としての現代社会③ ゲマインシャフトからゲゼルシャフト 近代的価値原理としての都市文化 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 提示された次時授業のキーワードについて下調べをする。(予習)[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「振り返りシート」の記入。配布資料の見直しとノートの整理を行う。(復習)[2h] |
| 第7回 | 現代社会を読み解く(4) 都市社会としての現代社会④ 都市化とアーバンイズム 都市文化の特徴 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 提示された次時授業のキーワードについて下調べをする。(予習)[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「振り返りシート」の記入。配布資料の見直しとノートの整理を行う。(復習)[2h] |
| 第8回 | 現代社会を読み解く(5) 都市文化の浸透と消費文化の興隆① 都市文化のスペクタクル 祝祭空間としての都市 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 提示された次時授業のキーワードについて下調べをする。(予習)[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「振り返りシート」の記入。配布資料の見直しとノートの整理を行う。(復習)[2h] |

| | | |
|----------------|---|--|
| 第9回 | 現代社会を読み解く(6) 都市文化の浸透と消費文化の興隆② 百貨店と都市・消費文化の形成 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 提示された次時授業のキーワードについて下調べをする。(予習)[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「振り返りシート」の記入。配布資料の見直しとノートの整理を行う。(復習)[2h] |
| 第10回 | 現代社会を読み解く(7) 記号的消費と消費社会① 消費社会とは何か 記号消費の時代 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 提示された次時授業のキーワードについて下調べをする。(予習)[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「振り返りシート」の記入。配布資料の見直しとノートの整理を行う。(復習)[2h] |
| 第11回 | 現代社会を読み解く(8) 記号的消費と消費社会② ボードリヤールの消費社会論 記号化する社会・情報化する社会 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 提示された次時授業のキーワードについて下調べをする。(予習)[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「振り返りシート」の記入。配布資料の見直しとノートの整理を行う。(復習)[2h] |
| 第12回 | 現代社会を読み解く(9) 情報社会としての現代社会① 情報化と情報社会(IT化の進展と情報文化) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 提示された次時授業のキーワードについて下調べをする。(予習)[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「振り返りシート」の記入。配布資料の見直しとノートの整理を行う。(復習)[2h] |
| 第13回 | 現代社会を読み解く(10) 情報社会としての現代社会② ICT化の進展とコミュニケーションの変容 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 提示された次時授業のキーワードについて下調べをする。(予習)[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「振り返りシート」の記入。配布資料の見直しとノートの整理を行う。(復習)[2h] |
| 第14回 | 現代社会を読み解く(11) グローバル化する現代社会 グローバル化する社会、ローカル化する社会、地球規模化のなか社会と文化の行方 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 提示された次時授業のキーワードについて下調べをする。(予習)[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「振り返りシート」の記入。配布資料の見直しとノートの整理を行う。(復習)[2h] |
| 第15回 | まとめ 現代の社会を生きるために、「社会学する」ということ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | これまでの授業のキーワードを復習し、授業全体を振り返っておく。(予習)[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | これまでの配付資料とノートを見直し・整理し総復習をする。[2h] |
| 第16回 (定期試験) | 論述問題にて出題します。 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|---|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1GGN-5890-12E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 政治学 | 219～ | 1年生・前期 | 2単位 | 選択 | 坂上 宏 | |
| 政治学 I | ～218 | | | | | |
| 履修の前提条件 | ①政治学や政治思想について関心を持っていること。②下記の参考書のうちでいずれかに目を通しておくことが望ましい。③4年生については、「政治学Ⅱ」の単位を取得した者の履修は認めません(履修規程第5条3項に基づく)。※禁止事項: 不必要な私語。正当な理由でない遅刻および許可のない入退室。携帯電話の使用。その他指定する事項。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| 近代西欧において、個人の諸権利の擁護を目的とした民主主義思想が生まれ、さらに自律的な人格を目指す近代的自我の思想が確立しました。本講義では主としてホッブズ、ロック、ルソーの思想をとりあげて、このような近代民主主義思想の軸をなす社会契約論と「独立した個人」のあり方について講義します。なおこの授業は、主として本学の建学の精神「至心」「報恩感謝・慈愛と奉仕」「容は心を呼び、心は容を呼ぶ。」およびカリキュラムポリシー「Ⅰ 建学の精神を理解させ、社会人として必要な態度・志向性を養うこと。」Ⅲ 社会の諸問題についての知識・理解や汎用的技能を高めること。」に則り行われるものです。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ |
| | 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| 近代西欧思想の歴史に燦然とそびえ立つホッブズ、ロック、ルソーの思想の学習を通して、受講者が近代民主主義思想の特質とその歴史的背景、および個人の主体性と道徳的自由の意味について理解できるようになることを目指しています。そして受講者自身が、国家(社会)と人間のあるべき姿について深く考え、真の自由(人間らしい自由)を実践しようとする資質を養うことがさらなる目標です。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|------------|---------------|-----------------------|
| 対話型の授業を心がけます。学生からの積極的な発言を期待します。毎回の授業の終わりにポートフォリオ & ルーブリックへの記入をお願いします。感じたことや意見などを自由に書いてください。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 連絡、問い合わせ、相談等は研究室(363)およびメール(sakagami@g.kiis.ac.jp)にて随時受け付けます。提出物はGoogleクラスルームへ出してください。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 学習の確認: ポートフォリオ & ルーブリックに必要事項を記入して、指定する日時までに提出してください。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| プリントを配布する。 | | | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 『リヴァイアサン1-4』 | ホッブズ | 岩波文庫 | 4003362330,4003300000 |
| 『完訳 統治二論』『人間知性論1-4』 | ロック | | 4003362217,2225,2233 |
| 『社会契約論』 | ルソー | | 4003362330 |
| 『人間不平等起原論』 | ルソー | | 4003300000 |
| 『エミール上中下』 | ルソー | | 4003362217,2225,2233 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 成績評価の方法: 試験90%。平常点10%(毎回の授業の事前学習と事後学習の提出、ポートフォリオ & ルーブリックの提出)。 成績評価の基準: ①近代民主主義思想の誕生の歴史的背景およびデカルトの合理論、ベーコンの経験論の要点を説明できるか。②ホッブズの社会契約説について、自然権(自己保存を追求する自由)、「各人の各人に対する戦い」という言葉を使って説明できるか。③ロックの社会契約説について、固有権、信託、抵抗権という言葉を使って説明できるか。④ルソーの社会契約説について、「人間はいたるところで鎖につながれている」、憐みの情、一般意志という言葉を使って説明できるか。 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|--|---|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 授業の方針など、国家における個人の権利と義務、ホッブズの思想—その生涯と清教徒革命 :プリント1 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 社会契約説とは何ですか。第1回授業プリントを読んで説明してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ホッブズの著書『リヴァイヤサン』の出版の目的について、授業ではどのように述べられていますか。(2時間) |
| 第2回 | ホッブズの思想—その生涯と清教徒革命(続き)、認識論 :プリント2 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ホッブズの機械論的自然観と社会観について、第2回授業プリントを読んで説明してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ホッブズは、人間の認識がどのようにして生まれると考えていましたか。授業の内容を説明してください。(2時間) |
| 第3回 | ホッブズの思想—人間性について、自己保存と戦争、自然権と自然状態 :プリント3 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ホッブズの考える人間性の本質について、第3回授業プリントを読んで説明してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ホッブズの言葉「各人の各人に対する戦争」について、自然権と自然状態という言葉を使って説明してください。(2時間) |
| 第4回 | ホッブズの思想—自然法、社会契約 :プリント4 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ホッブズが述べている第一の自然法、第二の自然法、第三の自然法について、第4回授業プリントを読んでその内容を説明してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ホッブズの世界契約説について、授業ではどのように述べられていますか。 |
| 第5回 | ホッブズの思想—社会契約(続き) :プリント5 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ホッブズが述べている統治者(主権者)の主権のあり方について、第5回授業プリントを読んで説明してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ホッブズの政治思想に対する批判と意義について、授業ではどのように述べられていますか。(2時間) |
| 第6回 | ロックの思想—ジョン・ロックの生涯と名誉革命 :プリント6 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ロックの政治思想の意義について、第6回授業プリントを読んで説明してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ロックの著書『統治二論』の主な内容について説明してください。(2時間) |
| 第7回 | ロックの思想—ロックの認識論 :プリント7 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ロックは生得観念についてどのように考えていましたか。第7回授業プリントを読んで説明してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 経験の種類としての「感覚」と「内省」について、ロックの考えを説明してください。(2時間) |
| 第8回 | ロックの思想—絶対王政批判(父権論批判)、自然状態、自然権、自然法 :プリント8 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 『統治二論』の主な内容と出版の社会的・政治的背景について、第8回授業プリントを読んで説明してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ロックは自然状態における人間性についてどのように述べていますか。(2時間) |

| | | |
|----------------|---|--|
| 第9回 | ロックの思想—自然状態、自然権、自然法(続き):固有権 :プリント9 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ロックは、固有権についてどのように述べていますか。第9回の授業プリントを読んで説明してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ロックは、自然法についてどのように説明していますか。(2時間) |
| 第10回 | ロックの思想—社会契約説 :プリント10 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ロックの社会契約説について、第10回の授業プリントを読んで、「信託」という言葉を使って説明してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ロックの社会契約説に関して、「抵抗権」とはどのような意味ですか。(2時間) |
| 第11回 | ルソーの思想—ルソーの生涯と思想、自然状態における人間 :プリント11 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ルソーの理想とする社会について、第11回授業プリントを読んで説明してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ルソーは、人間の自然状態をどのように説明していますか。(2時間) |
| 第12回 | ルソーの思想—自然状態における人間(続き)~憐れみの情、自然状態、自然権、自然法、社会状態と不平等 :プリント12 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ルソーは、憐れみの情についてどのように述べていますか。第12回授業プリントを読んで説明してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ルソーは、社会状態と不平等についてどのように説明していますか。(2時間) |
| 第13回 | ルソーの思想—社会状態と不平等(続き)、社会契約説 :プリント13 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ルソーの社会契約説の特徴A~Fについて、第13回授業プリントを読んで書いてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ルソーの言葉「個人のすべての権利や身体を国家へ譲渡する」とはどういう意味ですか。その目的は何ですか。(2時間) |
| 第14回 | ルソーの思想—社会契約説(続き)「一般意思」 :プリント14 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ルソーの思想「一般意志」について、第14回授業プリントを読んで説明してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ルソーが主張する直接民主政について説明してください。(2時間) |
| 第15回 | ルソーの思想—社会契約説(続き)「政治と人間の改革」 :プリント15 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ルソーの社会契約説の意義と目的として、「政治と人間の改革」とはどのような意味ですか。第15回授業プリントといままでの授業の内容を踏まえて説明してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ルソーの思想がその後の世界に与えた影響について説明してください。(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験、ポートフォリオ&ルーブリック作成等 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1GGN-5420-12E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 経済学 | 219～ | 1年生・前期 | 2単位 | 選択 | 坂本 徹 | |
| 経済学 I | ～218 | | | | | |
| 履修の前提条件 | テキスト1章～10章までを通読して、家計や企業が日々どのような経済活動をし、結果としてどのような市場の様相を引き起こしているか、著者の見方と考え方に接しておいて欲しい。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>経済学は歴史的にみると、当初は交換価値としての価格を研究対象とするミクロ経済学と、世界恐慌を境にインフレと失業の克服を目的として国民所得を研究対象としたマクロ経済学に大別できる。本講義では前者について、その構成要素である、家計・企業・市場の仕組みと考え方を学習し、我々の日常生活が過不足無い生産と消費の上に成立している事実を確認する。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>一国全体で生産と消費のバランスが取れていることの自覚とそれが崩れた時いかなる問題が生じて、どう修正しようとする力が働くかを理解する。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|------------|---------------|------------------------|
| <p>テキストの通読、事前学習を通して自身の考えをまとめておいて下さい。それから生じる疑問点・意見は、できるだけその場で聞いて、理解を深める訓練を習慣付けて行きたい。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>授業中に生じた疑問点・意見は、できるだけその場で採り上げて行きます。その他については月曜の3・4時間目(12:50～16:00)をオフィスアワーとしていますので、この時間帯は事前連絡無しでお待ちしています。</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>経済学検定、ファイナンシャルプランナー、日商簿記検定などの外部試験を受験した者は成績評価の対象とします。 ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 大学4年間の経済学が10時間でざっと学べる | 井堀利宏 | 角川文庫 | ISBN-978-4-04-604057-2 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 明快ミクロ経済学 | 荏開津 典生 | 日本評論社 | ISBN4-535-55198-7 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>評価 = 受講姿勢 + 定期試験評価 3 : 7</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|-----------------|---|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 経済学の成り立ち | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 経済学が取り扱う範囲、経済学の歴史、家計・企業の経済行動のいずれか1つについて、下調べをしておいて下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 自身の関心事がどういう経済的背景を持っているかについてまとめて下さい。(2時間) |
| 第2回 | ミクロ経済学 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「市場経済」について下調べをしておいて下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 我々の日常生活に必要なモノやサービスが国全体として何がどれだけ必要か、1個人の立場を離れて、その供給方法について、考えをまとめてみて下さい。(2時間) |
| 第3回 | 需要曲線・供給曲線 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 需要と効用最大化、供給と利潤最大化について下調べをしておいて下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 価格・数量平面においてその第1象限にひかれた曲線はある価格と数量の組み合わせを表していることを具体例で示す練習をしてみてください。(2時間) |
| 第4回 | 市場の均衡 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 市場における価格決定のメカニズムについて下調べをしておいて下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 市場均衡点を示す均衡数量と均衡価格の解釈を具体例を挙げてまとめてみて下さい。(2時間) |
| 第5回 | 家計の行動、効用最大化 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | あなたは収入の内、何%を支出していますか？大体が良いですから直近一か月の収支について下調べをしておいて下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 予算制約の下で効用を最大化することについて、身近な具体例をあげた説明をまとめてみて下さい。(2時間) |
| 第6回 | 所得効果、代替効果 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「所得効果」「代替効果」について下調べをしておいて下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 消費者である家計の所得が変化するとき、消費の内容がどう変化するかについてまとめてみて下さい。(2時間) |
| 第7回 | 企業の行動 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 投資の分類について下調べをしておいて下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 一国の集計量でみた投資が貯蓄となることを説明して見て下さい。(2時間) |
| 第8回 | 利潤最大化 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「利潤最大化」について下調べをしておいて下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | Y軸に費用・収入、X軸に数量をとって、利潤最大化を図で示してみてください。(2時間) |

| | | |
|----------------|------------------|--|
| 第9回 | 市場の競争構造 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「市場の構造」について下調べをしておいて下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「見えざる手」の考え方についてまとめてみて下さい。(2時間) |
| 第10回 | 完全競争をさまたげる要因 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「完全競争をさまたげる要因」について下調べをしておいて下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 市場均衡点から外れたところで決まる数量と価格はどのような不利益をもたらすかをまとめてみて下さい。(2時間) |
| 第11回 | 市場取引の利益 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「社会的余剰」について下調べをしておいて下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「消費者余剰」「生産者余剰」が市場均衡点において最大となることを確かめてみて下さい。(2時間) |
| 第12回 | 資源配分の効率性、「見えざる手」 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「本源的生産要素」について下調べをしておいて下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 土地・労働・資本が一国の中で適正に利用されている状態とはどんな時かまとめてみて下さい。(2時間) |
| 第13回 | 所得配分 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「生産要素市場」について下調べをしておいて下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 土地に対しては「地代」が、労働に対しては「賃金」が、資本に対しては「利子」(2時間) |
| 第14回 | 所得再配分政策 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「所得再配分」について下調べをしておいて下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 日々の暮らしには経済活動以外にも、健康や安全といった社会資本も必要だが、そのための現行制度には何があって、どう作用しているかをまとめてみて下さい。(2時間) |
| 第15回 | 公共財と外部経済 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「外部経済」について下調べをしておいて下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 完全競争市場で決定できない問題とその解決方法についてまとめてみて下さい。(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|---|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 経済学Ⅱ | ～218 | 1年生・後期 | 2単位 | 選択 | 坂本 徹 | |
| 履修の前提条件 | 一国の経済活動を示すGDPの対前年伸び率が何故変動を繰り返すのか、その制御方法と目的について考えつつ、テキストの11・12・13・15・17の各章を読んで欲しい。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>国民所得の対前年伸び率が年々変化する様子を見ると、好景気・不景気がある周期で繰り返されていることが分かる。その原因については諸説あるものの、ある範囲内の上下動は通常の経済活動の結果であって、経営手腕のみせどころでさえある。ただ過度の変動はインフレーションや失業を引き起こし、経済問題を越えた社会不安の震源となることから、安定成長を図って種々の対策が採られる。本講義ではそれ等(例えば増減税、公共支出の増加と抑制、利子率の上げ下げ)がどのような考え方に基づいて決定され、どのような結果をもたらすかを説明する。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | ○ |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| 日頃見聞する経済ニュースを手がかりにして現況を判断し、将来を見通す力を養う。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|------------|---------------|------------------------|
| <p>テキストの通読、事前学習を通して自身の考えをまとめておいて下さい。それから生じる疑問点・意見は、できるだけその場で聞いて、理解を深める訓練を習慣付けて行きたい。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>授業中に生じた疑問点・意見は、できるだけその場で採り上げて行きます。その他については月曜の3・4時間目(12:50～16:00)をオフィスアワーとしていますので、この時間帯は事前連絡無しでお待ちしております。</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>経済学検定、ファイナンシャルプランナー、日商簿記検定などの外部試験を受験した者は成績評価の対象とします。ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 大学4年間の経済学が10時間でざっと学べる | 井堀利宏 | 角川文庫 | ISBN-978-4-04-604057-2 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 明快マクロ経済学 | 荏開津 典生 | 日本評論社 | ISBN4-535-55310-6 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>評価 = 受講姿勢 + 定期試験評価 3 : 7</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|------------------------|---|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 経済学の成り立ち | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 経済学が取り扱う範囲、経済学の歴史、家計・企業の経済行動のいずれか1つについて、下調べをしておいて下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 自身の関心事がどういった経済的背景を持っているかについてまとめて下さい。(2時間) |
| 第2回 | バブル経済とその崩壊 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | バブル経済、失われた20年、の2つについて下調べをしておいて下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「貨幣数量説」の立場で1960年代～現在までのGDPとマネーサプライの関係をまとめて下さい。(2時間) |
| 第3回 | GDP(国内総生産)とは何か | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 主たる経済指標の1つであるGDPについて下調べをしておいて下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「国民所得」をどの指標でどうとらえるかについてまとめて下さい。(2時間) |
| 第4回 | GDPには生産機械の価値の目減り分が含まれる | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 会計学でいう減価償却について下調べをしておいて下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | GDPに含まれないものとその理由について、あなたの理解をまとめて下さい。(2時間) |
| 第5回 | フローとストック | |
| | 事前学習 (内容・時間) | フローとストックの意味を経済学の視点から調べてみて下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | GDPが毎年の生産物(フロー)であり、それを生み出しているのが国内の生産設備(ストック)であるが、おおまかな循環についての理解をまとめてみて下さい。(2時間) |
| 第6回 | 三面等価の原則 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 経済学における「生産」「分配」「支出」について下調べをしておいて下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 生産物がどのように分配され、それがどのように支出に回るかの循環についてあなたの理解をまとめてみて下さい。(2時間) |
| 第7回 | 物価指数 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 金額表示(=価格×数量)が引き起こす問題点について下調べをしておいて下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | GDP統計が名目と実質で表されていることの説明をまとめてみて下さい。(2時間) |
| 第8回 | 国民所得の決定メカニズム | |
| | 事前学習 (内容・時間) | もう一度GDPの三面等価を復習しておいて下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 有効需要の大きさが現実のGDPを決めるが、これと資源配分との関係について下調べをしておいて下さい。(2時間) |

| | | |
|----------------|-----------------|--|
| 第9回 | 家計の消費行動 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | あなたは収入の内、何%を支出していますか？大体で良いですから直近一か月の収支について下調べをしておいて下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 予算制約の下で効用を最大化することについて、身近な具体例をあげた説明をまとめてみて下さい。(2時間) |
| 第10回 | 企業の投資行動 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 投資の分類について下調べをしておいて下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 一国の集計量でみた投資が貯蓄となることを説明して見て下さい。(2時間) |
| 第11回 | 政府の存在 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 政府の一般会計(2018年度)について下調べをしておいて下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 租税と公共支出が有効需要を制御する過程をまとめてみて下さい。(2時間) |
| 第12回 | 貨幣の役割 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「マネー・サプライ」が示す金額について下調べをしておいて下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 資産保有の観点から貨幣について説明できるようにまとめて下さい。(2時間) |
| 第13回 | ハイパワード・マネーと信用創造 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「ベースマネー」、「マネー・サプライ」について下調べをしておいて下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 1年度間に「ベースマネー」から「マネー・サプライ」に至る大まかな過程についてまとめて下さい。(2時間) |
| 第14回 | 中央銀行の役割 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「金融政策」について下調べをしておいて下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 利率と投資の関係、マネーサプライとGDPの関係についてまとめてみて下さい。(2時間) |
| 第15回 | 金融政策の考え方 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「利率」と「投資」の関係について下調べをしておいて下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 景気回復と景気過熱にたいする対処方と予想される効果について説明できるようにまとめてみて下さい。(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|---|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1GGN-6250-12E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 日本事情 | 219～ | 1年生・前期 | 2単位 | 選択 | 坂上 宏 | |
| 日本事情B | ～218 | 1年生・後期 | | | | |
| 履修の前提条件 | 大日本帝国憲法および日本国憲法の条文に目を通しておくことが望ましい。※履修規程第5条3項に基づいて原則として留学生は全員履修すること、日本人の履修は認めない。※禁止事項: 不必要な私語。正当な理由でない遅刻および許可のない入退室。携帯電話の使用。その他指定する事項。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>授業では、近現代における日本の政治・経済に関わる事情をなるべく平易に解説します。まず政治については、天皇、国会、内閣の権能について、大日本帝国憲法および日本国憲法の条文を比較しながら説明します。次にサンフランシスコ講和条約以降の日本の平和外交の歩みについて説明します。経済については、第二次大戦後の経済復興、高度経済成長、バブル経済とその破綻などについて説明します。必要に応じて、現代日本が直面している主要な問題についても言及したいと思います。本講義によって、留学生が近現代の日本の政治経済事情について理解を深めることができれば幸いです。なおこの授業は、主として本学の建学の精神「至心」「報恩感謝・慈愛と奉仕」「容は心を呼び、心は容を呼ぶ。」およびカリキュラムポリシー「Ⅰ 建学の精神を理解させ、社会人として必要な態度・志向性を養うこと。」「Ⅲ 社会の諸問題についての知識・理解や汎用的技能を高めること。」に則り行われるものです。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>①明治維新以後の天皇の立場および日本の政治制度(特に国会、内閣)の変化について理解できるようになること。 ②現代日本外交の主な特徴について理解できるようになること。 ③現代日本の経済発展の経緯と特徴、産業構造とその変容について理解できるようになること。 ④現代日本社会の諸問題について理解できるようになること。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|------------|---------------|-------------------|
| <p>対話型の授業を心がけます。学生からの積極的な発言を期待します。毎回の授業の終わりにポートフォリオ & ルーブリックへの記入をお願いします。感じたことや意見などを自由に書いてください。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>連絡、問い合わせ、相談等は研究室(363)およびメール(sakagami@g.kiis.ac.jp)にて随時受け付けます。提出物はGoogleクラスルームへ出してください。</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ & ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>学習の確認: ポートフォリオ & ルーブリックに必要事項を記入して、指定する日時までに提出してください。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| プリントを配布する。 | | | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 『詳説 政治・経済』 | 山崎 広明 | 山川出版 | 463470062X |
| 『もういちど読む山川政治経済』 | 〃 | 〃 | 4634590670 |
| 『日本の歴史(26)よみがえる日本』 | 蠟山 政道 | 中公文庫 | 412204748X |
| 『戦後と高度成長の終焉 日本の歴史24』 | 河野 康子 | 講談社学術文庫 | 4062919249 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>成績評価の方法: 試験90%。平常点10%(毎回の授業の事前学習と事後学習の提出、ポートフォリオ & ルーブリックの提出)。 成績評価の基準: ①大日本帝国憲法および日本国憲法における天皇、国会、内閣の権能について理解しているか。②日本外交の平和主義の特徴について理解しているか。③日米同盟と日本の戦後外交の歩みについて理解しているか。④戦後の日本の経済再建と経済の民主化について理解しているか。⑤日本の高度経済成長とその要因および産業構造の特徴について理解しているか。⑥戦後日本の主要な社会問題の内容と原因について理解しているか。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|--|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 近代日本の出発:立憲主義について、江戸時代から明治時代へ(立憲国家への歩み) :プリント1 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 立憲主義とは何ですか。第1回授業プリントを読んで教えてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 江戸時代から明治時代になって、日本の政治は大きく変わりました。授業ではどのように述べられていましたか。(2時間) |
| 第2回 | 近代日本の出発:江戸時代から明治時代へ(立憲国家への歩み 続き)、大日本憲法の制定と国会の開設 :プリント2 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 日本における近代立憲国家の誕生について、第2回授業プリントを読んで説明してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 大日本帝国憲法の主な特徴について、授業ではどのように述べられていましたか。(2時間) |
| 第3回 | 日本国憲法の成立と民主主義の発展～太平洋戦争の敗戦、民主化と非武装、日本国憲法の公布と施行、日本国憲法の三大要素 :プリント3 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 日本国憲法の三大要素について、第3回授業プリントを読んで説明してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 日本国憲法は、「天皇の地位と主権在民」についてどのように定めていますか。(2時間) |
| 第4回 | 大日本帝国憲法における天皇の立場(元首、万世一系、天皇主権)、日本国憲法における天皇の立場(象徴としての存在) :プリント4 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 大日本帝国憲法における天皇の地位について、第4回授業プリントを読んで説明してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 日本国憲法における天皇の地位について、授業ではどのように述べられていましたか。(2時間) |
| 第5回 | 日本国憲法における天皇の立場 続き(権限と国事行為)、天皇と日本の宗教、文化、大日本帝国憲法における国会の役割(天皇の立法権に対する協賛機関) :プリント5 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 日本国憲法における天皇の権限と国事行為について、第5回授業プリントを読んで説明してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 大日本帝国憲法における帝国議会(国会)の役割について、授業ではどのように述べられていましたか。(2時間) |
| 第6回 | 大日本帝国憲法における国会の役割 続き(貴族院と衆議院、立憲主義)、なぜ帝国議会は戦争を防げなかったか(議会と軍部) :プリント6 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 帝国議会における貴族院と衆議院の違いについて、第6回授業プリントを読んで説明してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 帝国議会と立憲主義について、授業ではどのように述べられていましたか。(2時間) |
| 第7回 | 日本国憲法における国会の役割(国民主権と代表民主制、国権の最高機関、国の唯一の立法機関、衆議院と参議院):プリント7 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 日本国憲法前文と第一条は、主権についてどのように述べていますか。第7回授業プリントを読んで説明してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 日本国憲法第41条は、「国会は、国権の最高機関であつて、国の唯一の立法機関である。」と規定していますが、その意味について説明してください。(2時間) |

| | | |
|----------------|--|---|
| 第8回 | 大日本帝国憲法における内閣の立場(天皇の輔弼機関)、日本国憲法における内閣の立場(最高の行政権、議院内閣制):プリント8 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 大日本帝国憲法における内閣の立場について、第8回授業プリントを読んで説明してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 日本国憲法における内閣の立場について説明してください。(2時間) |
| 第9回 | 日本国憲法における内閣の立場 続き(内閣総理大臣の立場と権限、内閣の職務)、三権分立と民主主義 :プリント9 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 内閣総理大臣の立場と権限について、第9回授業プリントを読んで説明してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 三権分立について説明してください。(2時間) |
| 第10回 | 戦後日本の外交(平和主義と日本国憲法第9条、現在の防衛政策の原則、日米同盟と日米安全保障条約) :プリント10 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 日本国憲法第9条の内容について、第10回授業プリントを読んで説明してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 日米安全保障条約の特徴とその意味について説明してください。(2時間) |
| 第11回 | 戦後日本の外交(国際連合への加盟と対ソ連(ロシア)関係、日・中関係、日・朝鮮半島関係)、第二次世界大戦後の日本経済の民主化と改革(財閥解体、農地改革、労働の民主化) :プリント11 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 日中平和条約(1978年)第2条で規定している「反覇権」とはどのような意味ですか。第11回授業プリントを読んで説明してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 戦後日本の経済の三大改革について説明してください。(2時間) |
| 第12回 | 高度経済成長、産業構造の高度化、オイルショックと低成長 :プリント12 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 高度経済成長の5つの要因について、第12回授業プリントを読んで説明してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | オイルショックが日本経済に与えた影響について説明してください。(2時間) |
| 第13回 | バブル経済とその崩壊、資源・エネルギー問題 :プリント13 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 日本のバブル経済はなぜ生まれたのでしょうか。第13回授業プリントを読んで説明してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 日本の資源・エネルギー対策について授業ではどのように述べられていましたか。(2時間) |
| 第14回 | 公害問題、少子高齢化と社会福祉 :プリント14 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 公害問題が日本で深刻になった理由について、第14回授業プリントを読んで説明してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 憲法第25条が規定している生存権とはどのような意味ですか。(2時間) |
| 第15回 | 少子高齢化と社会福祉 続き :プリント15 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 少子高齢化の問題点について、第15回授業プリントを読んで説明してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 社会福祉の問題解決の2つの見方について説明してください。(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験、ポートフォリオ & ルーブリック作成等 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1GGB-5270-12E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 基礎数学 | 共通 | 1年生・前期 | 2単位 | 選択 | 荒平 高章 | |
| 履修の前提条件 | 高校までの数学を復習して講義に臨むこと。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>情報、経済、経営などの分野では、現象のモデル化やシミュレーションによって現状把握や将来予測などが盛んに行われています。モデル化の基礎となる数学を理解し、数学がどのように使われ、活用されているかを学びます。また、統計学に必要となってくる確率についても学習します。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>【知識】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定義・定理を説明できる。 ・問題演習において、適切な定義・定理を選択できる。 ・定義・定理を適切に使用できる。 <p>【態度・習慣】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疑問点を尋ねることができる。 ・講義に参加できる。 <p>【技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例題を模倣し、演習問題を解くことができる。 ・時間内で、与えられた問題を解くことができる。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|-------------------|---------------|-----------------------|
| <p>講義中にはできなかった練習問題・応用問題などを自ら進んで解くこと。講義中に随時演習時間を設けるので、積極的に取り組むこと。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>教員との連絡方法は、授業の終了後、あるいは研究室(653)を訪ねること。オフィスアワーの時間は、掲示を参照すること。</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>学習の確認:ポートフォリオ・ルーブリックシートに必要事項を記入し8回目講義および最終講義時に提出すること。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 基礎数学 式計算から微積の初歩まで | 小澤善隆 編集 永井 敦 他 | 裳華房 | ISBN978-4-7853-1556-6 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 適宜紹介する。 | | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>平常点(確認プリント、提出物など)、定期試験の総合評価とします。</p> | | | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|---|----------------------------------|---------------|----------|---------------------|----------|
| 1GGN-5870-21DT | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| ウェルネス (教職関連科目 必 高等学校 情報) | 220～ | 1年生・前期 | 1単位 | 選択 | 竹石 洋介 | |
| スポーツ実技 I (教職関連科目 必 高等学校 情報) | 219 | 2年生・前期 | | 選択 必修 | | |
| ウェルネス (教職関連科目 必 高等学校 情報) | ～218 | 1年生・前期 | | 選択 | | |
| 履修の前提条件 | 必ず運動の出来る服装を準備して下さい。体育館は土足禁止です。授業中はマナーを守りましょう。(私語を慎む、携帯電話を触らない。) | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>今日、生活習慣病やストレスによる精神的疾患が急増し、大学教育における健康・体力づくりの意義が強調されています。また、高齢化社会、余暇社会への移行などを背景に、生涯にわたって健康を維持し、生きがいある生活を実現するため運動の重要性が著しく高まりつつあります。授業は、まず、形態・体力の測定を行い、次に運動の方法を学びます。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | ○ |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | ○ |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>①健康・体力づくりの必要性と方法を理解し、客観的に自身の生活を見直すことができる ②基本的な運動を実践できる ③運動を通じてマナーの修得や人間関係の改善と向上を図ることの出来る</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|------------|---------------|-------------------|
| 健康に関するテーマに基づいてディスカッションを行います。生活習慣病の予防は食事の内容が大切だったり、大学生の期間、つまり青年期にフォーカスを充てた、規則正しい生活の基本。壮年期における健康診断の重要性など様々な健康におけるテーマをディスカッションしながら積極的に参加してスキルを身に付けて欲しい。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 連絡、問い合わせ、相談等は研究室(502)にて随時受け付けます。yousuke@kiis.ac.jp | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ & ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 学習の確認:ポートフォリオシートに必要事項を記入して竹石までメールで提出してください。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 第1回目の時に受講人数を確認してから実習ノートを作成します | | | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 必要に応じて指示します。 | | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 平常点70%、授業態度等30%を加味して総合的に評価します。本授業は実技授業のため、特に授業に取り組む姿勢を重視します。 ※体育館の使用規則を守れない学生は評価しません。 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|---------------------------------------|---|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | オリエンテーション(実習ノート作成・クラス分け・他) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | シラバスの確認(30分) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容の復習(30分) |
| 第2回 | 形態・脈拍数のチェック、肥満度・運動強度の設定(心拍数測定、BMI計算) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 健康維持増進のために必要だと思うことを具体的にピックアップしておく(30分) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 日常の中でのウォーキング、ジョギングを、心拍数を計測して評価する(30分) |
| 第3回 | ①体力測定(握力・上体起こし・長座体前屈)・バドミントン(基礎的技術習得) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ストレッチの種類・方法について調べる・バドミントンのルール確認(30分) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実施したストレッチの目的と方法を確認し実践する・バドミントンの技術確認(30分) |
| 第4回 | ②体力測定(立ち幅跳び・反復横跳び)・バドミントン(ルール説明と試合) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ストレッチの種類・方法について調べる・バドミントンのルール確認(30分) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実施したストレッチの目的と方法を確認し、実践する・バドミントンの技術確認(30分) |
| 第5回 | ゴルフ・ソフトボール ※天候により変更有 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ゴルフ・ソフトボールのルールの確認(30分) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ストレッチ、ゴルフ・ソフトボールのルールの復習(30分) |
| 第6回 | ゴルフ・ソフトボール ※天候により変更有 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ゴルフ・ソフトボールの技術の確認(30分) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ストレッチ、ゴルフ・ソフトボールの技術の復習(30分) |
| 第7回 | ゴルフ・ソフトボール ※天候により変更有 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ゴルフ・ソフトボールの技術の確認(30分) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ストレッチ、ゴルフ・ソフトボールの技術の復習(30分) |
| 第8回 | ③体力測定(50m走)・バドミントン(ルール説明と試合) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 無酸素運動とは何か、またその効果を調べる・バドミントンのルールの確認(30分) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 各自の目的に応じた運動強度を把握する・バドミントンの技術の確認(30分) |

| | | |
|----------------|---|--------------------------------------|
| 第9回 | ④体力測定(ハンドボール投げ)・卓球(基礎的技術習得) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ストレッチの種類・方法について調べる・卓球のルールの確認(30分) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ストレッチ、卓球の技術の復習(30分) |
| 第10回 | ⑤体力測定(シャトルラン)・卓球(ルール説明と試合) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 有酸素運動とは何か、またその効果を調べる・卓球のルールの確認(30分) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 各自の目的に応じた運動強度を把握する・卓球の技術の復習(30分) |
| 第11回 | 体力測定と自己評価・卓球(試合) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 健康維持増進のために必要だと思うことを考える・卓球の技術の確認(30分) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 現在の生活の中でできる健康維持を考える・卓球の技術の復習(30分) |
| 第12回 | ウォーキングアップとストレッチ・フリースポーツ(バドミントン/卓球選択) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ストレッチの種類・方法について調べておく(30分) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実施したストレッチの目的と方法を確認し、実践する(30分) |
| 第13回 | 目標心拍数を用いたウォーキング及びジョギング・フリースポーツ(バドミントン/卓球選択) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 有酸素運動の効果を調べておく(30分) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 有酸素運動に応じた運動強度のエクササイズを実践してみる(30分) |
| 第14回 | SAQトレーニングとバランストレーニング | |
| | 事前学習 (内容・時間) | バランスボールの特徴と効果について調べる(30分) |
| | 事後学習 (内容・時間) | プリントのエクササイズのポイントを確認しておく(30分) |
| 第15回 | レポート発表と提出 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 健康や身体づくりのために必要なエクササイズを調べる(30分) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 習得した運動を生かして健康を考える(30分) |
| 第16回 (定期試験) | オリエンテーション(まとめ) | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|---|----------------------------------|---------------|----------|---------------------|----------|
| 1GGN-5880-21DT | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| スポーツ (教職関連科目 必 高等学校 情報) | 220～ | 1年生・後期 | 1単位 | 選択 | 竹石 洋介 | |
| スポーツ実技Ⅱ (教職関連科目 必 高等学校 情報) | 219 | 2年生・後期 | | 選択 必修 | | |
| スポーツ (教職関連科目 必 高等学校 情報) | ～218 | 1年生・後期 | | 選択 | | |
| 履修の前提条件 | 必ず運動の出来る服装を準備して下さい。体育館は土足禁止です。授業中はマナーを守りましょう。(私語を慎む、携帯電話を触らない。) | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>スポーツには、「するスポーツ」・「見るスポーツ」・「ささえるスポーツ」・「きわめるスポーツ」と様々な性質を持っており、私達の身近な生活に存在しています。特に、現代は高齢化社会、余暇社会への移行などを背景に健康・体力づくりの意識が高まりつつある中、スポーツは運動の一つとして捉えられ、より健康で充実した生活を送るための方法として役割を担うようになってきました。</p> <p>授業では、指定されているスポーツを実践していく中で、ルールを理解し、基本的な技術を学びます。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | ○ |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | ○ |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| | 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>①各スポーツを通じて健康・体力づくりの必要性を理解できる。</p> <p>②各スポーツの基本的なルールや技術を養い、ゲーム(試合)ができる。</p> <p>③各スポーツのルールからマナーを養い、より良い人間関係を構築できる。</p> <p>これらの実践を通じてスポーツの心地よさを体感し、生涯にわたってスポーツを実践していくための基礎的能力と態度を身につける。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|----------------|------------------|-------------------|
| スポーツに関してのテーマに基づいてディスカッションを行います。積極的に参加することを望みます。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 連絡、問い合わせ、相談等は研究室(502)にて随時受け付けます。yousuke@kiis.ac.jp | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 学習の確認:ポートフォリオシートに必要事項を記入して竹石までメールで提出してください。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 実習ノート ソフトボール教室 | 吉村 正 | 大修館書店 | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| The GOLFRULES 日本一わかりやすいゴルフの教科書 | マイク青木 深見 悦司 | 日本ヴォーグ社 成美堂出版 | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 平常点70%、授業態度等30%を加味して総合的に評価します。本授業は実技授業のため、特に授業に取り組む姿勢を重視します。 ※体育館の使用規則を守れない学生は評価しません。 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|---|---|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | オリエンテーション 実習ノート作成 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | シラバスの確認(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容の復習(2時間) |
| 第2回 | バドミントン(基礎的技術習得) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | サーブ・ドライブについて調べる(30分) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 改善点をまとめる(30分) |
| 第3回 | バドミントン(ルール説明と試合) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | スマッシュについて調べる(30分) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 改善点をまとめる(30分) |
| 第4回 | バドミントン(試合) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | シングルの目標を立てる(30分) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 試合結果を振り返り、まとめる(30分) |
| 第5回 | ゴルフ・ソフトボール ※天候により変更有 ゴルフに関する基礎知識(ルール・マナー)・ソフトボールの基礎 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ゴルフのルール確認・ソフトボールの必要なルールを確認する(30分) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 次回への改善点をまとめる(30分) |
| 第6回 | ゴルフ・ソフトボール ※天候により変更有 スイングの基礎(グリップ、スイング)・(キャッチング、バッティング) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | スイング技術を理解する・ソフトボールに必要な基本技術を確認する(30分) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 次回への改善点をまとめる(30分) |
| 第7回 | ゴルフ・ソフトボール ※天候により変更有 実践的なショット・ソフトボール(チーム練習・試合) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ゴルフの技術確認をしておくこと・ソフトボールの試合のルールを確認する(30分) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 次回への改善点をまとめる(30分) |
| 第8回 | 卓球(基礎的技術習得) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 卓球の技術確認(30分) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 卓球の技術の復習(30分) |

| | | |
|----------------|----------------------|------------------------|
| 第9回 | 卓球(ルール説明と試合) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 卓球のルール確認(30分) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 卓球のルール、技術の復習(30分) |
| 第10回 | 卓球(試合) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 卓球のルール確認(30分) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 試合の改善点をまとめる(30分) |
| 第11回 | フリースポーツ(バドミントン/卓球選択) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 各種目のルール確認(30分) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 次回への改善点をまとめる(30分) |
| 第12回 | フリースポーツ(バドミントン/卓球選択) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 各種目のルール確認(30分) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 次回への改善点をまとめる(30分) |
| 第13回 | フリースポーツ(バドミントン/卓球選択) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 各種目のルール確認(30分) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 次回への改善点をまとめる(30分) |
| 第14回 | フリースポーツ(バドミントン/卓球選択) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 各種目のルール確認(30分) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 次回への改善点をまとめる(30分) |
| 第15回 | レポートの発表と提出 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 習得した競技のまとめ(30分) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 習得した競技を生かして健康を考える(30分) |
| 第16回 (定期試験) | オリエンテーション(まとめ) | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1GGN-6700-22E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| スポーツ理論 | 220～ ～218 | 2年生・前期 | 2単位 | 選択 | 桑野裕文 | |
| 履修の前提条件 | スポーツに関心があり、スポーツの実践を心掛けている人。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| 1. 発育発達に応じた運動とスポーツの実践。2. 各種トレーニング法。3. スポーツ文化。4. スポーツの歴史 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | ○ |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ |
| | 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| 豊かなスポーツライフを送るための基礎知識とスポーツ実践法への理解を深める。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|------------|---------------|-------------------|
| ①スポーツクラブでのトレーニング体験。②スポーツイベントへの参加及びボランティア活動 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 研究室(359研究室)、オフィスアワー時間内、部活動指導時間内に随時受け付ける。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| スポーツ関連の講座参加者、シスポーツ関係資格有資格者は成績評価の対象とする。ポートフォリオシートに必要事項記入し提出。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 教員作成資料配布。 | | | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 教養としてのスポーツ科学 | 鈴木一行 | 大修館 | 4-469-26521-7 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 発表・レポート(20%)、小テスト・有資格者(20%)、定期試験(60%) | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|--|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 1. スポーツ (1)スポーツと体育の違い(成り立ち) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「運動」「体育」「スポーツ」がどのように使い分けられているか調べる。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 好きなスポーツの起源について調べる。(2時間) |
| 第2回 | (2)日本のスポーツ(歴史、競技スポーツ、ニュースポーツ)と世界のスポーツ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | スポーツ人口の多いスポーツ種目を調べる。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 日本版スポーツ起源年表を作成する。(2時間) |
| 第3回 | (3)世界のスポーツ(歴史、組織) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 世界のスポーツ起源年表を作成する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 世界(日本を含む)スポーツ起源年表を完成させる。(2時間) |
| 第4回 | (4)オリンピック(歴史、商業オリンピック、オリンピックムーブメント) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 1964年東京オリンピックと2020東京オリンピックの実施種目について調べる。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | オリンピックの将来像(2024パリオリンピック)を考える。(2時間) |
| 第5回 | 2. トレーニング (1)トレーニングの原則、栄養・休養・運動 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 生活の様々な場面での心拍数(脈拍数)を計る。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 運動前と運動中と運動後の心拍数(脈拍数)を計る。(2時間) |
| 第6回 | (2)年齢別・種目別トレーニング | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 室内でできるトレーニングを作る。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 日常生活の中で実践可能なトレーニングを作る。(2時間) |
| 第7回 | (3)スポーツマッサージ、テーピング、準備運動とクールダウン | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 体の一部のスポーツマッサージを実践する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 回りの人(家族、友人、他)にスポーツマッサージを実践する。(2時間) |
| 第8回 | (4)ウェイトトレーニング(ベンチプレスの測定、ダンベルを使ってのトレーニング) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | トレーニング機器に触れてみる。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | トレーニング機器を使ってトレーニングを実践する。(2時間) |

| | | |
|----------------|---|--|
| 第9回 | 3. スポーツライフ (1)スポーツクラブ(企業スポーツクラブ、総合型スポーツクラブ、他) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | スポーツの盛んな会社を調べる。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | スポーツクラブ所有する会社の種目別・業種別一覧を作成する。(2時間) |
| 第10回 | (2)スポーツイベント(参加型イベント、観るイベント、世界規模のスポーツイベント) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | これまでに出場したスポーツ大会の主催者について調べる。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | スポーツイベントの規模別の主催、主管、後援、協賛を調べる。(2時間) |
| 第11回 | (3)プロスポーツ(プロ野球、サッカー、相撲、他) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 回り・身近なプロスポーツ選手の経歴について調べる。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 回り・身近なプロスポーツ選手の引退後について調べる。(2時間) |
| 第12回 | (4)スポーツメディア | |
| | 事前学習 (内容・時間) | スポーツメディア一覧を作成する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | スポーツ番組とバラエティ番組の視聴率の比較を行いその要因について考える。(2時間) |
| 第13回 | (5)スポーツ傷害(傷害と障害、発育期の障害、種目別傷害)と予防 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 回りの人(家族、友人、他)のスポーツにおける怪我防止策について情報収集する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 回りの人(家族、友人、他)リハビリの方法・手段についてインタビューしまとめる。(2時間) |
| 第14回 | (6)スポーツとルール(ルールの機能と構造) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 好きなスポーツのルールの変遷について調べる。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 好きなスポーツのルール改正案提示する。(2時間) |
| 第15回 | (7)スポーツ行政とスポーツの将来像 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | スポーツ庁の設立について調べる。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | オリンピックの将来像について考える。(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1GGN-5140-22E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| ウェルネス理論 | 220～ | 2年生・後期 | 2単位 | 選択 | 桑野裕文 | |
| | 219 | 2年生・前期 | | | | |
| | ～218 | 2年生・後期 | | | | |
| 履修の前提条件 | 「スポーツ・健康に関する意識調査」及び「食生活の調査」の提出者。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| ①健康の維持増進のための能力、②運動・栄養・休養のバランスのとれた生活、③生活習慣病、疾病・感染症への理解とその予防法について | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | ○ |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ |
| | 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| ①食生活、②病気、予防・医療へ理解を深める ②健康診断の習慣化。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|------------|---------------|-------------------|
| 定期的に体重と血圧の測定を行う。「熱中症対策」「感染症対策」のポスター作成・掲示の広報活動。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 研究室(359研究室)、オフィスアワー時間内、部活動指導時間内に随時受け付ける。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 医療機関を利用しての健康診断の受診を促す。献血の広報活動等への積極的な関与を促す。ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 適宜プリントを配布します。 | | | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 健康・運動・スポーツの科学 | 鈴木一行 | 大修館書店 | 978-4-469-26654-2 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 発表・レポート提出(20%)、小テスト(20%)、定期試験(60%) | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|--|---|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 1. ウェルネスとは (1)健康観の変遷とヒトの発育発達 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「感染症対策」のポスター作成。スポーツ・健康に関する意識調査と「食生活調査」の確認。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 自分の生活スタイルを考え「健康〇〇」としてまとめる(書きだす)。第2回目に提出。(2時間) |
| 第2回 | (2)健康寿命(平均寿命と健康寿命の違い、死因の推移、他) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 第1回目授業中に配布したプリントを読んで疑問点などをまとめる。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 次回の小テスト(第2回の振り返りテスト)勉強・復習。小テスト対策としての復習の習慣化はかる。(2時間) |
| 第3回 | 2. 体の仕組みと疾病 (1)仕組み(脳・感覚器官、血液・血圧・循環器官、呼吸器官、消化器官)と痛み | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 自分自身のこれまでの病気歴をまとめる。及び「母子手帳」の確認。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 履修前提条件に提出した「スポーツ・健康にかんする意識調査」と疾病についてまとめる。(2時間) |
| 第4回 | (2)生活習慣病とメタボリックシンドローム | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 自分の日常生活と周りの人々(家族や友人など)の生活習慣の違いについて調べておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | インフルエンザなどの感染症の現状について調べている。(2時間) |
| 第5回 | (3)感染症生活習慣病とメタボリックシンドローム | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 食生活を記録する(第10回「ライフスタイル」の時間に発表する)。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「感染症対策」のポスター作成(次回提出)。(2時間) |
| 第6回 | (4)健康と生活環境(住居、気象) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 自分の住んでいる部屋の掃除及び家の周辺的安全確認(危険な場所の有無)。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 屋内(家の中、自分の部屋、他)でできる手軽な運動の実践。(2時間) |
| 第7回 | 3. 健康生活 (1)健康と運動(有酸素性運動、水中運動、ウォーキング) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 屋外でできる手軽な運動の実践。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 屋内外でできる手軽な運動を企画・立案し、実践する。(2時間) |
| 第8回 | (2)癒し(睡眠、入浴、温泉、森林浴) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 国内の温泉地について調べる。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 近くの公園での散歩または軽登山の実践。(2時間) |

| | | |
|----------------|---|---|
| 第9回 | (3)薬(西洋薬・漢方薬、飲み方・保管方法)と医療行政(保険、介護) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 自分の「お薬手帳」の確認。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 常備薬の保存方法の確認及び見直し。(2時間) |
| 第10回 | 4. ウェルネスの危機 (1)ライフスタイル(栄養摂取と食習慣) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 履修前提条件提出の「食生活調査」の調査内容について確認。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 周りの人(家族、友人、他)のBMIを計算する。(2時間) |
| 第11回 | 4. ウェルネスの危機 (1)ライフスタイル(未病、健康診断、予防医療) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 自分のこれまでの健康診断の確認。(健康診断表等記録があれば授業時に持参する)(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | これまでの予防接種について接種歴について確認する。(2時間) |
| 第12回 | 5. 発表とディスカッション (1)学生個々の興味・関心の高いテーマについて発表(1テーマ10分)。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 発表資料の作成。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 発表内容に対する、意見・質問について調べる。(2時間) |
| 第13回 | (2)学生個々の興味・関心の高いテーマについて発表(1テーマ10分)。ディスカッション(1テーマ5分) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 第12回で発表した発表への意見・質問等について調べる。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 第13回での発表内容に対する、意見・質問について調べる。(2時間) |
| 第14回 | 6測定結果の集計と分析(1)各自の摂取カロリーの集計と分析 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 1週間の自分の食事(摂取した食物)についてまとめる。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 回りの人(家族、友人、他)の食事生活について調査する。(2時間) |
| 第15回 | (2)血圧測定の集計と分析 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業内(第2回から14回まで血圧測定実施)での血圧測定値を集計する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 第1回から15回までの内容について定期試験に備えて復習する。(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 | |

| | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
| 1GLN-5940-12CS | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 総合英語 | 共通 | 1年生・前期 | 2単位 | 必修 | 藤内 響子 内田 水生 | |
| 履修の前提条件 | 事前学習をきちんと行うこと。熱意を持って授業に取り組むこと。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| TOEICへの架け橋として活用されているTOEIC Bridgeの問題を利用して、基礎的また実用的な英語を学ぶ。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| | 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ |
| 日常的で身近な英語に慣れ親しみ、近年次第に重要視されつつある、英検やTOEIC受験にも役立つような基礎的、実用的な英語を学ぶ。 | | | | | | |

| | | | |
|---|---------------------|---------------|-------------------|
| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
| 学生の積極的な参加を期待します。疑問に感じたことは必ず質問として用意し、他人の質問についても授業の中の議論に積極的に参加して常に考え続ける姿勢を持ってください。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 随時研究室(272)にて受け付けます。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 外部試験として英検やTOEICの受験を推奨します。受験者には成績評価時に加点します。ポートフォリオシートは、Google Classroom を用いてやり取りを行います。必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| Practical TOEIC Bridge: L&R Tests | アリソン キツマン 三原 京 他 | 南雲堂 | 978-4-523-17908-5 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 特に指定しません。 | | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 受講態度1割、授業中の発表および宿題2割、小テスト2割、期末テスト5割で評価します。 | | | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1GLN-0190-12ES | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 英検中級・TOEIC基礎 | 221～ | 1年生・後期 | 2単位 | 選択 | 藤内 響子 | |
| | ～218 | | | | | |
| 履修の前提条件 | 事前学習をきちんと行うこと。熱意を持って授業に取り組むこと。前期に総合英語を受講していることが望ましい。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| 特にTOEICを受験する場合に必要な文法事項を厳選し、必要な項目を効率的に学習する。学習者にとって必要不可欠なもの無駄なく学ぶ。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| 英語の基本的な文法事項の再確認を効率的に行い、高校までに学んだ英語の力を活性化させる。英語のより高度な運用技能を養うための基礎力の確保および維持を目的とする。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|----------------------|---------------|-------------------|
| 学生の積極的な参加を期待します。疑問に感じたことは必ず質問として用意し、他人の質問についても授業中の議論に積極的に参加して常に考え続ける姿勢を持ってください。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 随時研究室(272)にて受け付けます。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 外部試験として英検やTOEICの受験を推奨します。受験者には成績評価時に加点します。ポートフォリオシートは、Google Classroom を用いてやり取りを行います。必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| Practical Grammar for the TOEIC Test | 古家 聡、櫻井千佳子、マーク・ショールム | 南雲堂 | 978-4-523-17679-4 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 特に指定しません。講義中、適宜資料を配布します。 | | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 受講態度1割、授業中の発表および宿題2割、小テスト2割、期末テスト5割で評価します。 | | | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1GLN-5170-12ES | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 英会話Basic I | 共通 | 1年生・前期 | 2単位 | 選択 | クリス フリン | |
| 履修の前提条件 | ①積極的に声を出して授業に参加すること②資格試験を積極的にとること | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| テキストに沿って海外旅行で使う英会話をプレゼンテーションを交えながら、日本人が苦手とする発音や文法を徹底的に学ぶ。テキストに加えて動画、オーディオ、歌、ゲームなどを使い、楽しく英語を身につけるように工夫する。英検の2次試験の模擬試験も毎週練習する。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | ○ |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| | 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| 21世紀のボーダーレス時代に対応できる人々を生み出すことを目指して、英語の読み書きだけでなく、話し言葉によるコミュニケーションのツールとして習得させるように指導する。多くの単語を知るよりも、数少ない単語をいかに効率よく使うかで会話を豊かにできることを体得させる。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|-------------------------------------|-------------------------|--------------------|
| 会話の授業ということで積極的に発言をしてもらいます。ENGLISH PORTFOLIOの作成、提出あり。クラスの前に立って声を出して発言をします。Active Learning Activities に参加します。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 連絡、問い合わせ、相談等は研究室(362)にて随時受け付けます。 オフィスアワー: 火曜日2時限目と5時限目 flynn-c@g.kiis.ac.jp | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 外部試験: 英検検定2~3級を受験すること。試験結果を成績評価の対象とします。 試験日 6月、会場 CDCセンター、詳細は後日連絡します。 学習の確認: ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入して、7月30日までに フリンまでメールで提出してください。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| Passport 1 English for International Communication | Angela Buckingham Lewis Lansford | Oxford University Press | 978-0-19-4718186-5 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| その他の教材や宿題はLANに掲載 ¥\$svr260007¥share¥flynnc¥index.htm | | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| ・成績評価の方法: 定期試験30%、外部試験10%、平常点30%、レポート・提出物・スピーチ・面接30% ・成績評価の基準: ①外部試験は学内・学外の英検。②定期試験は学生自身が作成した英語の会話を発表③英検の面接試験の練習や成果は成績に反映する。 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|--|---|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | Introduction to spoken English | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第2回 | Introducing yourself and your family | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第3回 | Speaker controlling techniques | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第4回 | Text Chapter 1 Ordering a meal on a plane | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第5回 | Text Chapter 2 Going through | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第6回 | Text Chapter 3 Talking about your family | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第7回 | Text Chapter 4 Staying at a friend's house | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第8回 | Text Chapter 5 Ordering at a restaurant | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |

| | | |
|----------------|---|---|
| 第9回 | Text Chapter 6 Asking directions | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第10回 | Text Chapter 7 Going to a bank | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第11回 | Text Chapter 8 Booking a hotel room | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第12回 | Text Chapter 9 Buying medicine | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第13回 | Eiken interview techniques L3, LP2, L2 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第14回 | Text Chapter 10 Small talk with friends | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第15回 | BUILD MY TEST preparation | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 定期試験のための原稿をまとめる、講義中添削してもらう。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | BUILD MY TEST 原稿をペアと一緒に練習する。(2hr) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験。テストを参考にした原稿を(先生の前で)発表する。 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1GLN-5180-12ES | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 英会話Basic II | 共通 | 1年生・後期 | 2単位 | 選択 | クリス フリン | |
| 履修の前提条件 | ①積極的に声を出して授業に参加すること②資格試験を積極的にとること | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| 英会話Basic 1 に続いてテキストに沿って海外旅行で使う英会話をプレゼンテーションを交えながら、日本人が苦手とする発音や文法を徹底的に学ぶ。テキストに加えて動画、オーディオ、歌、ゲームなどを使い、楽しく英語を身につけるように工夫する。英検の2次試験の模擬試験も毎週練習する。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | ○ |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| 21世紀のボーダーレス時代に対応できる人々を生み出すことを目指して、英語の読み書きだけでなく、話し言葉によるコミュニケーションのツールとして習得させるように指導する。多くの単語を知るよりも、数少ない単語をいかに効率よく使うかで会話を豊かにできることを体得させる。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|-------------------------------------|-------------------------|--------------------|
| <p>会話の授業ということで積極的に発言をしてもらいます。ENGLISH PORTFOLIOの作成、提出あり。クラスの前立って声を出して発言をします。Active Learning Activities に参加します。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>連絡、問い合わせ、相談等は研究室(362)にて随時受け付けます。 オフィスアワー: 火曜日2時限目と5時限目 flynn-c@g.kiis.ac.jp</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>外部試験: 英検検定試2~3級を受験すること。試験結果を成績評価の対象とします。 試験日 1月、会場 CDCセンター、詳細は後日連絡します。 学習の確認: ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入して、1月30日までに フリンまでメールで提出してください。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| Passport 1 English for International Communication | Angela Buckingham Lewis Lansford | Oxford University Press | 978-0-19-4718186-5 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| その他の教材や宿題はLANIに掲載 ¥\$svr260007¥share¥flynnc¥index.htm | | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>・成績評価の方法: 定期試験30%、外部試験10%、平常点30%、レポート・提出物・スピーチ・面接30% ・成績評価の基準: ①外部試験は学内・学外の英検。②定期試験は学生自身が作成した英語の会話を発表③英検の面接試験の練習や成果は成績に反映する。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|---|---|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | Orientation | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書を事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第2回 | Text Chapter 11 Visiting a Tourist Information Center | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第3回 | Text Chapter 12 Talking about experiences | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第4回 | Text Chapter 13 Talking about sport | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第5回 | Text Chapter 14 Organising meeting times | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第6回 | Text Chapter 15 Shopping and bargaining | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第7回 | Text Chapter 16 Sending mail and parcels | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第8回 | Text Chapter 17 Discussing things to do at tourist destinations | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |

| | | |
|----------------|---|---|
| 第9回 | Text Chapter 18 Dealing with lost property | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第10回 | Text Chapter 19 Using public transportation | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第11回 | Text Chapter 20 Looking back on a trip | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第12回 | Eiken test interview techniques LP2 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第13回 | Eiken interview techniques L3, LP2, L2 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第14回 | Speech presentation | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第15回 | Review/Speech | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 定期試験のための原稿をまとめる、講義中添削してもらう。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | BUILD MY TEST 原稿をペアと一緒に練習する。(2hr) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験。テストを参考にした原稿を(先生の前で)発表する。 | |

| | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
| 1GLN-5150-22ES | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 英会話Advanced I | 共通 | 2年生・前期 | 2単位 | 選択 | クリス フリン | |
| 履修の前提条件 | ①積極的に声を出して授業に参加すること ②資格試験を積極的に受験すること | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| テキストに沿って海外旅行で使うTOEIC問題を交学びながら、日本人が苦手とする発音や文法を徹底的に学ばせる。テキストに加えて動画、オーディオ、歌、ゲームなどを使い、楽しく英語を身につけるように工夫したい。定期的にトピックについて賛成反対の主張を述べさせる。TOEICの学習としてテキストを宿題とし、講義で復習。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | ○ |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| 21世紀のボーダーレス時代に対応できる人々を生み出すことを目指して、英語の読み書きだけでなく、話し言葉によるコミュニケーションのツールとして英語を習得させるように指導する。多くの単語を知るよりも、数少ない単語をいかに効率よく使うかで会話を豊かにできることを体得させる。そしてそのスキルを生かして、自分の意見や主張を議論(DEBATE)できるようになることとTOEIC 800、英検の2・準1級の2次試験を合格できるレベルを目標とする。 | | | | | | |

| | | | |
|---|---------------|----------------------|-------------------|
| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
| 会話の授業ということで積極的に発言をしてもらいます。ENGLISH PORTFOLIOの作成、提出あり。クラスの前に立って声を出して発言をします。Active Learning Activities に参加します。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 連絡、問い合わせ、相談等は研究室(362)にて随時受け付けます。 オフィスアワー: 火曜日2時限目と5時限目 flynn-c@g.kiis.ac.jp | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 外部試験: 英検検定2~3級を受験すること。試験結果を成績評価の対象とします。試験日 1月、会場 CDCセンター、詳細は後日連絡します。 TOEICは学外で受験。 学習の確認: ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入して、1月30日までに フリン までメールで提出してください。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| Challenge Book #4 | Helene Uchida | Little America Press | 978-4-947736-55-0 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| その他の教材や宿題はLANに掲載 | | | |
| ¥\$svr260007¥share¥flynn¥index.htm | | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| ・成績評価の方法: 定期試験30%、外部試験10%、平常点30%、レポート・提出物30% ・成績評価の基準: ①外部試験は学内・学外の英検。②定期試験はTOEICの模擬試験となる | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|--|---|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | Introductions 自己紹介 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書を事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第2回 | Introducing family and friends 家族の紹介 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第3回 | English quiz and games 英語のクイズ大会 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第4回 | English quiz and games 英語のクイズ大会 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第5回 | Presentation Test 発表テスト | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第6回 | Study a movie scene 映画シーンのせりふを覚えよう | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第7回 | Restaurants 好きなレストランの紹介 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第8回 | Studying the lyrics of a song 歌の歌詞を勉強しよう | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |

| | | |
|----------------|--|---|
| 第9回 | My school days 懐かしい学校時代を思い出そう | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第10回 | Talking about travel 思い出の旅行 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第11回 | Presentation Test 発表テスト | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第12回 | Talking about music 好きなアーティスト | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第13回 | Talking about movies 好きな映画 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第14回 | Eiken interview test techniques L2 英検2次試験演習 2級 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第15回 | Presentation test practice 発表テスト練習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 学生が準備した会話を発表する。ペアでプリントなしで会話を発表。 | |

| | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
| 1GLN-5160-22ES | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 英会話Advanced II | 共通 | 2年生・後期 | 2単位 | 選択 | クリス フリン | |
| 履修の前提条件 | ①積極的に声を出して授業に参加すること②資格試験を積極的にとること | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| テキストに沿って英語の対話力を身に付ける。毎週のダイアログを復習して、教室で発表する。日本人が苦手とする発音や文法を徹底的に学ぶ。また毎週スピーチや会話を発表する。テキストに加えて動画、ネットコンテンツ、歌、ゲームなどを使い、楽しく英語を身につけるようにする。英検の準2級と2級の2次試験形式を毎週練習する。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | ○ |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| | 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| 21世紀のボーダーレス時代に対応できる人々を生み出すことを目指して、英語の読み書きだけでなく、話し言葉によるコミュニケーションのツールとして習得させるように指導する。多くの単語を知るよりも、数少ない単語をいかに効率よく使うかで会話を豊かにできることを体得させる。 | | | | | | |

| | | | |
|---|---------------|----------------------|-------------------|
| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
| 会話の授業ということで積極的に発言をしてもらいます。ENGLISH PORTFOLIOの作成、提出あり。クラスの前に立って声を出して発言をします。英検のLISTENING問題も定期的に行います。Active Learning Activities に参加します。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 連絡、問い合わせ、相談等は研究室(362)にて随時受け付けます。 オフィスアワー: 火曜日2時限目と5時限目 flynn-c@g.kiis.ac.jp | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 外部試験: 英検検定2~3級を受験すること。試験結果を成績評価の対象とします。 試験日 6月、会場 CDCセンター、詳細は後日連絡します。 学習の確認: ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入して、7月30日までに フリンまでメールで提出してください。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| Challenge Book #4 | Helene Uchida | Little America Press | 978-4-947736-55-0 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| その他の教材や宿題はLANIに掲載 | | | |
| ¥\$svr260007¥share¥flynnc¥index.htm | | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| ・成績評価の方法: 定期試験30%、外部試験10%、平常点30%、レポート・提出物・スピーチ・面接30% ・成績評価の基準: ①外部試験は学内・学外の英検。②定期試験は学生自身が作成した英語の会話を発表③英検の面接試験の練習や成果は成績に反映する。 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|--|---|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | Introductions 自己紹介 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書を事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第2回 | Introducing family and friends 家族の紹介 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第3回 | English quiz and games 英語のクイズ大会 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第4回 | English quiz and games 英語のクイズ大会 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第5回 | Presentation Test 発表テスト | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第6回 | Study a movie scene 映画シーンのせりふを覚えよう | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第7回 | Restaurants 好きなレストランの紹介 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第8回 | Studying the lyrics of a song 歌の歌詞を勉強しよう | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |

| | | |
|----------------|--|---|
| 第9回 | My school days 懐かしい学校時代を思い出そう | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第10回 | Talking about travel 思い出の旅行 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第11回 | Presentation Test 発表テスト | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第12回 | Talking about music 好きなアーティスト | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第13回 | Talking about movies 好きな映画 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第14回 | Eiken interview test techniques L2 英検2次試験演習 2級 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | テストで使う会話原稿を準備して、提出。(2hr) |
| 第15回 | Presentation test practice 発表テスト練習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 添削されたテストで使う会話原稿を練習。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 学生が準備した会話を発表する。ペアでプリンどなしで会話を発表。 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1GLN-5810-22ES | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 初級中国語 | 219～ | 2年生・前期 | 2単位 | 選択 | 喬 秦寧 | |
| | ～218 | 1年生・後期 | | | | |
| 履修の前提条件 | ①中国文化・中国語に興味があること ②授業に積極的に参加すること。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| この授業は初めて中国語を学習する人を対象とする。発音編では、声調、母音、子音などを学ぶ。発音練習を繰り返し行うことにより、発音の基礎を身に着ける。本篇では、日常的な講読を中心にして、基本的な文法項目、語彙などを学ぶ。問題練習を通して学習事項の定着を図る。さらに、視聴覚資料を使って、中国や中国文化に関する理解を深める。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | ○ |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| 1. 初級の中国語文型表現を説明できる 2. 中国語で挨拶、自己紹介ができる。 3. 中国語検定試験準4級の合格を指導する。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|-------------|---------------|-------------------|
| グループを分けて、会話を練習した通訳などを練習する。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 授業終了後、あるいはメールにて連絡する。 kyo@g.kiis.ac.jp | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・学習の確認: ポートフォリオ「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し、学期末にメールで提出してください。 ・外部試験: 「中国語検定試験」の受験を勧める。試験日: 3月、6月、11月。詳細は後日連絡する。 http://www.chuken.gr.jp | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 「初級中国語」 | 奥村佳代子、塩山正純ら | 金星堂 | 978-4-7647-0704-7 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 「作文のルール」 | 相原茂 他 | 朝日出版社 | 978-4-255-45138-1 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 定期試験(50%)、宿題・練習問題の完成度(30%)、授業態度(20%) | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | |
|------------------------|--|
| テーマ Theme | |
| 第1回 | 1.中国概況 2.発音(1) 声調、母音、複合母音 |
| | 事前学習 (内容・時間) なぜ中国語を履修するのか、中国の何について興味があるのかを考えて、授業の時に発表する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) 声調、単母音、複合母音を復習する。繰り返しP6-7のCDを聞き、特に声調に慣れる。(2時間) |
| 第2回 | 発音(2) 子音 |
| | 事前学習 (内容・時間) CDを繰り返し聞き、特にそり舌音に慣れる。P8(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) CDを繰り返し聞き、特に「有気音と無気音」になれる。 P8-9(2時間) |
| 第3回 | 発音(3) 鼻母音、「r化」及び簡単な挨拶言葉 |
| | 事前学習 (内容・時間) 鼻母音のCDを繰り返し聞く。 P9(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) CDを聞き、前鼻音と後鼻音の違いになれる。 P9(2時間) |
| 第4回 | 轻声、数字の読み方と年月日の言い方と聞き方 |
| | 事前学習 (内容・時間) 単語帳をつくる。新しい単語を読めるように頑張る。P10(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) 繰り返しCDを聴き、習った内容を復習する。P10-11(2時間) |
| 第5回 | 発音のまとめ、年齢、値段、時刻の言い方と聞き方 |
| | 事前学習 (内容・時間) 単語帳をつくる。新しい単語を読めるように頑張る。P12(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) 繰り返しCDを聞き、中国語の発音リズムになれる。P13(2時間) |
| 第6回 | 物事の説明ができる。人称代名詞、指示代名詞と「是」を用いる文 |
| | 事前学習 (内容・時間) 単語帳をつくる。新しい単語を読めるように頑張る。P14(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) 繰り返しCDを聴き、文法ポイントを日本語に翻訳する。P16(2時間) |
| 第7回 | 誰がいつ何をするかを伝えることができる。動詞述語文、疑問詞疑問文 |
| | 事前学習 (内容・時間) CDを繰り返し聞き、本文を流暢に読めるように頑張る。P 15(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) 本文を日本語に翻訳し、暗記できるように頑張る。P15 (2時間) |
| 第8回 | 名前、身分、所属、専門を言ったり、尋ねたりできる。 |
| | 事前学習 (内容・時間) 単語帳をつくる。新しい単語を読めるように頑張る。P18(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) 繰り返しCDを聴き、文法ポイントを日本語に翻訳する。P20 (2時間) |

| | |
|----------------|--|
| 第9回 | 何をするかを言ったり、尋ねたりできる。(疑問詞、動詞を使う) |
| | 事前学習 (内容・時間) CDを繰り返し聞き、本文を読めるように頑張る。P19(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) 本文を日本語に翻訳し、暗記できるように頑張る。P19(2時間) |
| 第10回 | 自分が住んでいる場所やどこに何があるかを説明できる。 |
| | 事前学習 (内容・時間) 単語帳をつくる。新しい単語を読めるように頑張る。P22(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) 繰り返しCDを聴き、文法ポイントを日本語に翻訳する。 P24 (2時間) |
| 第11回 | 自分の |
| | 事前学習 (内容・時間) CDを繰り返し聞き、本文を読めるように頑張る。P23(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) 本文を日本語に翻訳し、暗記できるように頑張る。P23(2時間) |
| 第12回 | 家族のことを紹介したり尋ねたりできる。名詞述語文 |
| | 事前学習 (内容・時間) 単語帳をつくる。新しい単語を読めるように頑張る。P26(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) 繰り返しCDを聴き、文法ポイントを日本語に翻訳する。P28(2時間) |
| 第13回 | 年齢や身長、体重を表現できる。 |
| | 事前学習 (内容・時間) 繰り返しCDを聞き、本文を読めるように頑張る。P27 (2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) 本文を日本語に翻訳し、暗記できるように頑張る。P27(2時間) |
| 第14回 | 空間的 |
| | 事前学習 (内容・時間) 単語帳をつくる。新しい単語を読めるように頑張る。P30 (2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) 繰り返しCDを聴き、文法ポイントを日本語に翻訳する。 P32 (2時間) |
| 第15回 | 動作の順序、手段、目的を表現できる。 総合復習 |
| | 事前学習 (内容・時間) 繰り返しCDを聞き、本文を流暢に読めるように頑張る。P31(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) 総合復習(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1GLN-6000-22ES | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 中級中国語 | 219～ | 2年生・後期 | 2単位 | 選択 | 喬 秦寧 | |
| | ～218 経営情報学科 | 2年生・前期 | | | | |
| 履修の前提条件 | ①中国文化、中国語に興味があること。 ②会話練習を中心にする授業なので、積極的に参加すること。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| 中国語、中国文化を楽しみながら、様々な場面で必要とされる中国語を身につける。ペアワークを通して学習事項の定着を図る。さらに、視聴覚資料を使って、中国や中国文化に関する理解を深める。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | ○ |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 中国語の正確な発音とより多くの語彙、文型、豊かな表現、中国語特有の「会話のコツ」を習い、それに、繰り返し練習することを通して、中国語の「聴く・話す・読む・書く」の基礎能力を高める。 中国語検定試験4級の合格を目指す。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|--------------|---------------|-------------------|
| グループを分けて会話練習、同時通訳など協同学習の方法で授業を進めていく。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 授業終了後、あるいはメールにて連絡する。 kyo@g.kiis.ac.jp | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し、学期末にメールで提出してください。 外部試験:「中国語検定試験」の受験を勧める。試験日:3月、6月、11月。詳細は後日連絡する。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 「準中級中国語」 | 奥村佳代子、塩山正純など | KINSEIDO | 978-4-7647-0711-5 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 「中国語辞書」 | 相原 茂 | 朝日出版社 | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 定期試験(40%)、平常点(60%)により総合評価する。 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|---|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 「自己紹介(1)」。名前や所属、日常について伝えることができる。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ①授業の前に単語を予習する。②単語リストをつくる。P6 (2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ①CDを繰り返し聴き、文法ポイントの文を日本語に訳す。P8 (2時間) |
| 第2回 | 「自己紹介(2)」。趣味や興味のあることを表現することができる。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | P59 ドリル1-3を完成する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ①P7の本文を暗記する。②P9の練習問題を指示通りに完成する。(2時間) |
| 第3回 | 「就職(1)」。予定や心づくりを詳細に説明することができる。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ①授業の前に単語を予習する。②単語リストをつくる。P10(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ①CDを繰り返し聴き、文法ポイントの文を日本語に訳す。P12(2時間) |
| 第4回 | 「就職(2)」。結果補語を使って動作・行為の結果を表現することができる。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | P61 ドリル1-3を完成する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ①P11の本文を暗記する。②P13の練習問題を指示通りに完成する。(2時間) |
| 第5回 | 「新しい仕事(1)」。仕事やアルバイト、職場の様子などを詳細に紹介することができる。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ①授業の前に単語を予習をする。②単語リストをつくる。P14 (2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ①CDを繰り返し聴き、P16の文法ポイントを日本語に翻訳する。P16 (2時間) |
| 第6回 | 「新しい仕事(2)」。複文で複数の特徴を伝えることができる。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | P63 ドリル1-3を完成する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ①P15の本文を暗記する。②P17の練習問題を指示通りに完成する。(2時間) |
| 第7回 | 「学校の図書館(1)」。学校や職場、地元で特徴のある施設について説明することができる。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ①授業の前に単語を予習する。②単語リストをつくる。P18 (2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ①CDを繰り返し聴き、文法ポイントを日本語に翻訳する。P20 (2時間) |
| 第8回 | 「学校の図書館(2)」。伝聞について表現することができる。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | P65 ドリル1-3を完成する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ①P19の本文を暗記する。②P21の練習問題を指示通りに完成する。(2時間) |

| | | |
|----------------|---|--|
| 第9回 | 「試験前勉強(1)」。ものごとの理由とその結果について説明することができる。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ①授業の前に単語を予習する。②単語リストをつくる。P22 (2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ①CDを繰り返し聴き、文法ポイントを日本語に翻訳する。P24 (2時間) |
| 第10回 | 「試験前勉強(2)」。受け身表現で誰かに何かをされる・されたことを説明できる。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | P67 ドリル1-3を完成する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ①P23の本文を暗記する。②P25の練習問題を指示通りに完成する。(2時間) |
| 第11回 | 「試験の後(1)」。気持ち、手応えなどを説明することができる。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ①授業の前に単語を予習する。②単語リストをつくる。P26 (2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ①CDを繰り返し聴き、文法ポイントを日本語に翻訳する。P28 (2時間) |
| 第12回 | 「試験の後(2)」。予定について説明することができる。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | P67 ドリル1-3を完成する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ①P27の本文を暗記する。②P29の練習問題を指示通りに完成する。(2時間) |
| 第13回 | 「夏休みの生活(1)」。休暇の過ごし方を説明することができる | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ①授業の前に単語を予習する。②単語リストをつくる。P30 (2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ①CDを繰り返し聴き、文法ポイントを日本語に翻訳する。P32 (2時間) |
| 第14回 | 「夏休みの生活(2)」。物事の様子や程度、状態を詳細な表現で説明することができる。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | P71 ドリル1-3を完成する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ①P31の本文を暗記する。②P33の練習問題を指示通りに完成する。(2時間) |
| 第15回 | 総合復習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 単語帳のまとめ(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | テスト勉強(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1GLN-5800-22ES | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 初級韓国語 | 219～ | 2年生・前期 | 2単位 | 選択 | 全 彰煥 | |
| | ～218 | 1年生・後期 | | | | |
| 履修の前提条件 | 韓国国籍所持者以外の学生として、ハングル(韓国語)を母国語としていない日本人と留学生を該当者とする。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>① 学習内容は、ハングル文字の構造、発音を説明して読み・書きを通じて習得させる。 また、テキストの会話文を覚えて発表させる。</p> <p>② 学習者は毎週、出席カード用の小テストを提出しなければならない。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | ○ |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>① 生活に必要な基礎的な言語技能を遂行することができ、「自分自身、家族、趣味、天気」などたいへん私的で身近な話題に関連した内容を理解し表現することができる。</p> <p>② 約800個の基礎語彙と基本文法に関する理解を基に簡単な文章を生成することができる。</p> <p>③ 簡単な生活文と実用文を理解し構成することができる。</p> <p>④ 「初級韓国語」の受講及び「韓国語能力試験(TOPIK)」I - 1、2級の受験を指導する。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|------------|---------------|-------------------|
| <p>① 対話型授業を中心とする。</p> <p>② 授業中のグループ、チーム発表に積極的に参加しなければならない。</p> <p>③ レポート代わりに1:1の確認発表をする。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>① 連絡・問い合わせ・相談: 研究室(453)にて随時受け付ける。</p> <p>② オフィスアワー: <水>2-5限目</p> <p>③ メール: jonhan@kiis.ac.jp</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>① 外部試験: 「韓国語能力試験(TOPIK)」I (1・2級)、または「ハングル検定試験」(5級)を受験する。 試験結果は成績評価の対象とする。試験日、会場に関する案内の詳細は授業中に告知する。</p> <p>② 学習確認: ポートフォリオ「科目別履修確認チェック表」必要事項を記入して提出する。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 「韓国語の世界へ」入門編 | 李 潤玉 外4人 | 朝日出版社 | 978-4-255-55647-5 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 「ゼロからスタート」 韓単語 BASIC1400 | 鶴見ユミ | Jリサーチ出版 | 978-4-901429-66-5 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>① 定期試験 ⇒ 50%、確認発表/1:1発表 ⇒ 30%、平常点 ⇒ 20%</p> <p>② 平常点は、「外部試験」と発表を基本とする。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|---------------------------|---|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 「イントロダクション」と 第1課 文字と発音(1) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ハングルの子音と母音の確認しておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「反切表」の暗記と「練習1～9」を解く。(2時間) |
| 第2回 | 文字と発音(2) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「説明2-1から2-4」を熟読する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習1～8」を解く。(2時間) |
| 第3回 | 第3課 文字と発音(3) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「説明3-1から3-4」を熟読する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習1～9」を解く。(2時間) |
| 第4回 | 第4課 한국 사람입니다. | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「説明4-1から4-3」を熟読する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習1～5」を解く。(2時間) |
| 第5回 | 第5課 한국어는 전공이 아니에요. | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「説明5-1から5-3」を熟読する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習1～5」を解く。(2時間) |
| 第6回 | 第6課 강의실은 계단 옆에 있어요.. | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「説明6-1から6-3」を熟読する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習1～5」を解く。(2時間) |
| 第7回 | 復習(第4課・第5課・第6課) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「4課の復習」、「まとめ4」、「5課の復習」、「6課の復習」、「まとめ5, 6」を熟読する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「4課の復習」、「まとめ4」、「5課の復習」、「6課の復習」、「まとめ5, 6」を解く。(2時間) |
| 第8回 | 第7課 오후에 시간 괜찮아요? | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「説明7-1から7-3」を熟読する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習1～3」を解く。(2時間) |

| | | |
|----------------|------------------------------|--|
| 第9回 | 第8課 초등학생에게 태권도를 가르쳐요.. | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「説明8-1から8-3」を熟読する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習1～3」を解く。(2時間) |
| 第10回 | 第9課 보통 여섯 시에 일어나요. | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「説明9-1から9-4」を熟読する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習1～3」を解く。(2時間) |
| 第11回 | 復習(第7課・第8課・第9課) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「7課の復習」、「8課の復習」、「まとめ7, 8」、「9課の復習」を熟読する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「7課の復習」、「8課の復習」、「まとめ7, 8」、「9課の復習」を解く。(2時間) |
| 第12回 | 第10課 야구를 아주 좋아해요. | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「説明10-1から10-3」を熟読する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習1～4」を解く。(2時間) |
| 第13回 | 第11課 점심 안 먹었어요? | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「説明11-1から11-3」を熟読する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習1～4」を解く。(2時間) |
| 第14回 | 第12課 봄 방학 때 뭐 할 거예요? | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「説明12-1から12-3」を熟読する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習1～6」を解く。(2時間) |
| 第15回 | 復習(第10課・第11課・第12課) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「10課の復習」、「まとめ9, 10」、「11課の復習」、「12課の復習」、「まとめ11, 12」を熟読する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「10課の復習」、「まとめ9, 10」、「11課の復習」、「12課の復習」、「まとめ11, 12」を解く。(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 各課の「練習問題」と「復習問題」を基本とする試験を行う。 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|---|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1GCN-6420-22E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 中級韓国語 | 219～ | 2年生・後期 | 2単位 | 選択 | 全 彰煥 | |
| | ～218 | 2年生・前期 | | | | |
| 履修の前提条件 | 基本的に、ハングル(韓国語)を母国語としていない日本人と留学生として、「入門韓国語」の履修者か、90時間以上の韓国語教育履修者を該当者とする。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>① 前期学習内容の復習、各課の文法説明、テキストの会話文暗記を通して会話文を習得させる。</p> <p>② 学習者は毎週、出席カード用の小テストを提出しなければならない。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | ○ |
| 倫理観 Ethical Sense | | | | | | |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>① 「電話する、頼みごとをする」などの日常生活に必要な技能と「郵便局、銀行」などの公共施設の利用に必要な技能を遂行することができる。</p> <p>② 約1,500～2,000個の語彙を利用して私的で身近な話題に関して段落単位で理解し使用することができる。</p> <p>③ 公式的な状況と非公式的な状況での言語を区分して使用することができる。</p> <p>④ 「中級韓国語」の受講及び「韓国語能力試験(TOPIK)」I - 1、2級の受験を指導する。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|------------|---------------|-------------------|
| <p>① 対話型授業を中心とする。</p> <p>② 授業中のグループ、チーム発表に積極的に参加しなければならない。</p> <p>③ レポート代わりに1:1の確認発表をしなければならない。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>① 連絡・問い合わせ・相談: 研究室(453)にて随時受け付ける。</p> <p>② オフィスアワー: <水>2～5限目</p> <p>③ メール: jonhan@kiis.ac.jp</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>① 外部試験: 「韓国語能力試験(TOPIK)」I (1・2級)、または「ハングル検定試験」(4級)を受験する。 試験結果は成績評価の対象とする。試験日、会場に関する案内の詳細は授業中に告知する。</p> <p>② 学習確認: ポートフォリオ「科目別履修確認チェック表」必要事項を記入して提出する。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 「韓国語の世界へ」初・中級編 | 李 潤玉外4人 | 朝日出版社 | 978-4-255-55644-4 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 「キゾー式 パーフェクトハングル」 | 小倉紀蔵 | 精興社 | 4-88724-417-7 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>① 定期試験 ⇒ 50%、確認発表/1:1発表 ⇒ 30%、平常点 ⇒ 20%</p> <p>② 平常点は、「外部試験」と発表を基本とする。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|----------------------------|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 第1課 몇 학번이에요? | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 会話文と「説明1-1」から「説明1-2」を熟読する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習1」「練習2」を解く。(2時間) |
| 第2回 | 第2課 한국어를 열심히 공부할 거예요. | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 会話文と「説明2-1」から「説明2-3」を熟読する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習1」から「練習5」を解く。(2時間) |
| 第3回 | 第3課 저 구두 좀 보여 주세요. | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 会話文と「説明3-1」から「説明3-3」を熟読する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習1」から「練習4」を解く。(2時間) |
| 第4回 | 第4課 자주 가는 한식집 있으면 소개해 주세요. | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 会話文と「説明4-1」から「説明4-3」を熟読する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習1」から「練習6」を解く。(2時間) |
| 第5回 | 復習(第1課～第4課) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「1課の復習」「2課の復習」「聞いてみよう1」「3課の復習」「4課の復習」「ステップアップ1」予習(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「1課の復習」「2課の復習」「聞いてみよう1」「3課の復習」「4課の復習」「ステップアップ1」復習(2時間) |
| 第6回 | 第5課 함께 찍은 사진을 첨부했어요. | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 会話文と「説明5-1」から「説明5-3」を熟読する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習1」から「練習5」を解く。(2時間) |
| 第7回 | 第6課 발표 시간에 늦어서 죄송합니다.. | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 会話文と「説明6-1」から「説明6-4」を熟読する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習1」から「練習6」を解く。(2時間) |
| 第8回 | 第7課 더운 여름에 삼계탕을 먹어요. | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 会話文と「説明7-1」から「説明7-3」を熟読する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習1」から「練習4」を解く。(2時間) |

| | | |
|----------------|------------------------------|---|
| 第9回 | 第8課 안 무거우니까 혼자 할게요... | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 会話文と「説明8-1」から「説明8-3」を熟読する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習1」から「練習4」を解く。(2時間) |
| 第10回 | 復習(第5課～第8課) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「5課の復習」「6課の復習」「聞いてみよう2」「7課の復習」「8課の復習」「ステップアップ2」予習(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「5課の復習」「6課の復習」「聞いてみよう2」「7課の復習」「8課の復習」「ステップアップ2」復習(2時間) |
| 第11回 | 第9課 컴퓨터 잠깐 빌려도 돼요? | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 会話文と「説明9-1」から「説明9-3」を熟読する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習1」から「練習4」を解く。(2時間) |
| 第12回 | 第10課 리무진 버스가 편하겠죠? | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 会話文と「説明10-1」から「説明10-3」を熟読する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習1」から「練習3」を解く。(2時間) |
| 第13回 | 第11課 도자기도 만들어 봤어요? | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 会話文と「説明11-1」から「説明11-3」を熟読する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習1」から「練習5」を解く。(2時間) |
| 第14回 | 第12課 한국 회사에 취직하려고 해요. | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 会話文と「説明12-1」から「説明12-3」を熟読する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習1」から「練習4」を解く。(2時間) |
| 第15回 | 復習(第9課～第12課) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「9課の復習」「10課の復習」「聞いてみよう3」「11課の復習」「12課の復習」「ステップアップ3」予習(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「9課の復習」「10課の復習」「聞いてみよう3」「11課の復習」「12課の復習」「ステップアップ3」予習(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 各課の「練習問題」と「復習問題」を基本とする試験を行う。 | |

| ナンバリング(Numbering) | | | | | | |
|--|---|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1GCN-6420-22E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 上級韓国語 | ~218 | 2年生・後期 | 2単位 | 選択 | 全 彰煥 | |
| 履修の前提条件 | 原則的に、受講生は「入門韓国語」「初級韓国語」「中級韓国語」の履修済みか270時間以上の韓国語教育を受けている学生を該当者とする。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>① 各課ごとの【語彙】【文法と表現1・2】【会話1・2】【聞き取りとしゃべり】【読みと書き】【課題】【文化散策】【発音】【自己評価】の内容を4回に分けて授業する。</p> <p>② (練習)(1) 学習した文法や構文を熟練するために文型を対話で練習する。 (2) 学習内容を実際の生活に適用出来るように多様な練習をする。 (課題) 専用のPractice Bookをもって毎週、課題を与えて総合反復学習させる。</p> <p>③ 対話型授業を中心として、1:1発表を基本とする。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | ○ |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| 270時間以上の韓国語学習者として、見慣れた日常主題と機能に対する言語運用能力を身に付けて、基本的な韓国語の意思疎通能力を備えるようにする。 | | | | | | |

| | | | |
|--|------------|---------------|------------------------|
| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
| <p>① 対話型授業を中心とする。</p> <p>② 授業中のグループ、チーム発表に積極的に参加しなければならない。</p> <p>③ レポート代わりに「1:1の会話確認発表」を実施する。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>① 連絡・問い合わせ・相談: 研究室(453)にて随時受け付ける。</p> <p>② オフィスアワー: <水>2~5限目</p> <p>③ メール: jonhan@kiis.ac.jp</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>① 外部試験: 「韓国語能力試験(TOPIK)」Ⅱ(3、4級以上)、または「ハングル検定試験」(3級以上)を受験する。 試験結果は成績評価の対象とする。</p> <p>② 学習確認: ポートフォリオ「科目別履修確認チェック表」必要事項を記入して提出する。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 話せる! 中級韓国語 | 黄聖媛/黄晷瑗 | 朝日出版社 | 978-4-255-55651-2 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 「韓国語へ旅しよう」初級 | 李 昌圭 | 朝日出版社 | 978-4-255-55622C1087 |
| 「韓国語へ旅しよう」中級 | 李 昌圭 | 朝日出版社 | 978-4-255-55630-7C1087 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>① 定期試験 ⇒ 50%、確認発表/1:1発表 ⇒ 30%、平常点 ⇒ 20%</p> <p>② 平常点は、「外部試験」、「ポートフォリオ:科目別履修確認チェック表」の評価を含む。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|--------------------------|-----------------------------|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 第1課 부산으로 가기로 했어요. | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「文型1-1」から「文型1-4」を熟読する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習問題」を解く。(2時間) |
| 第2回 | 第2課 리포트가 많아서 힘들어요.. | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「文型1-1」から「文型1-4」を熟読する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習問題」を解く。(2時間) |
| 第3回 | 第3課 서클 모임에 가야 돼요.. | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「文型1-1」から「文型1-4」を熟読する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習問題」を解く。(2時間) |
| 第4回 | 会話練習(第1課～第3課) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 会話練習1、2予習(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 会話練習1、2復習(2時間) |
| 第5回 | 第4課 좀 싸게 주세요.. | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「文型1-1」から「文型1-4」を熟読する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習問題」を解く。(2時間) |
| 第6回 | 第5課 나오아가 여행을 간다고 해서..... | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「文型1-1」から「文型1-4」を熟読する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習問題」を解く。(2時間) |
| 第7回 | 第6課 2시까지 여기에 오라고 했어요.. | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「文型1-1」から「文型1-4」を熟読する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習問題」を解く。(2時間) |
| 第8回 | 会話練習(第4課～第6課) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 会話練習1、2予習(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 会話練習1、2復習(2時間) |

| | | |
|----------------|----------------------------|-----------------------------|
| 第9回 | 第7課 그 영화가 재미있다고 해요... | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「文型1-1」から「文型1-4」を熟読する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習問題」を解く。(2時間) |
| 第10回 | 第8課 피곤해 보여요.. | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「文型1-1」から「文型1-4」を熟読する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習問題」を解く。(2時間) |
| 第11回 | 第9課 포기해 버렸어요... | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「文型1-1」から「文型1-4」を熟読する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習問題」を解く。(2時間) |
| 第12回 | 会話練習(第7課～第9課) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 会話練習1、2予習(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 会話練習1、2復習(2時間) |
| 第13回 | 第10課 늦잠을 자서 지각할 뻔했어요.... | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「文型1-1」から「文型1-4」を熟読する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習問題」を解く。(2時間) |
| 第14回 | 第11課 갈까 말까 생각 중이에요. | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「文型1-1」から「文型1-4」を熟読する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習問題」を解く。(2時間) |
| 第15回 | 第12課 지금 한국에 가 있어요. | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「文型1-1」から「文型1-4」を熟読する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習問題」を解く。(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 各課の「練習問題」と「会話」を基本とする試験を行う。 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|---|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1GLN-6200-12E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 日本語 I (J1) | 共通 | 1年生・前期 | 2単位 | 選択 | 古川 幸子 | |
| 履修の前提条件 | 非漢字圏の学生で漢字学習を深めたいと思っていること。日本語1を履修したものは日本語2も履修することが望ましい。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| 日本での留学生活はもちろん、大学での学習に必要な漢字(初級後半から中級程度)を授業で扱いながら、日本語力の総合的な向上を目標とする。読み書きを中心に、聞く、話す力を総合的に身につける。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| 留学生活で目の当たりにする様々な書類やテキストなどの漢字が読め、また必要なことが書けるようになる。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|-----------------|---------------|-------------------|
| 漢字学習がメインとはいえ、日本語力を高めることを目標にしているので、対話をしながら進めます。積極的な日本語での発話を期待しています。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 授業時間の前後の休み時間など。教務課内にて受け付けます。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 学習の確認: 進度に合わせた小テストなどで学習理解度を確認します。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 日本語漢字トレーニング | 松浦真理子・上妻直博・半田健一 | アスク出版 | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| | | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 成績評価の方法: 定期試験70%、小テスト20%、平常点10% | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|-------------------------------|---------------|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | オリエンテーション: 授業方針説明、受講上の注意、自己紹介 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの準備(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 次回の予習(2時間) |
| 第2回 | 漢字をきれいに書くルールとポイント | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当ページの予習(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習(2時間) |
| 第3回 | 漢字の読み方がわかるルール① | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当ページの予習(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習(2時間) |
| 第4回 | 漢字の読み方がわかるルール② | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当ページの予習 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習 |
| 第5回 | 漢字の読み方が変わるルール① | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当ページの予習(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習(2時間) |
| 第6回 | 漢字の読み方が変わるルール② | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当ページの予習(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習(2時間) |
| 第7回 | 漢字の意味が分かる記号 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当ページの予習(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習(2時間) |
| 第8回 | 漢字一字の意味を考える | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当ページの予習(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習(2時間) |

| | | |
|----------------|--------------------|---------------|
| 第9回 | 少しの漢字から言葉を増やす | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当ページの予習(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習(2時間) |
| 第10回 | 漢字の前について言葉を作る漢字 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当ページの予習(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習(2時間) |
| 第11回 | 漢字の前後について言葉を作る漢字 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当ページの予習(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習(2時間) |
| 第12回 | 同じ読み方の漢字を覚える | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当ページの予習(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習(2時間) |
| 第13回 | 同じ意味を持つ漢字 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当ページの予習(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習(2時間) |
| 第14回 | 文章の中の漢字を考える | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当ページの予習(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習(2時間) |
| 第15回 | 身近なものから情報を得る | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当ページの予習(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 筆記試験を行います。(持ち込み不可) | |

| | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
| 1GLN-6200-12E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 日本語 I (J2) | 共通 | 1年生・前期 | 2単位 | 選択 | 全 彰煥 | |
| 履修の前提条件 | 本講義は留学生を対象とする基礎日本語講座である。 主に、初級から中級へのレベルアップするための学習をする。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>① 「日本語能力試験2級(N2)」の語彙、文法と「漢字検定4級」の漢字を学習する。 ② 学習者は、毎週与えられる「漢字検定4級」の問題と「ワークブック問題」をレポートで提出しなければならない。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | ○ |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>① 日本語基礎文法を学び、中級レベルと漢字検定4級以上の日本語力取得を目指す。 ② 「日本語能力試験2級(N2)」の語彙、文法を学習する。 ③ 「日本語能力試験2級(N2)」と「漢字検定4級」の受験・取得を目指す。</p> | | | | | | |

| | | | |
|---|------------|---------------|-------------------|
| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
| <p>① 対話型例文を熟知して、「1:1チーム発表」で発表をする。 ② レベル別漢字テストの基本漢字の関連単語と語句を自主的に調査し、課題として提出する。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>① 連絡・問い合わせ・相談: 研究室(453)にて随時受け付ける。 ② オフィスアワー: <水>2-5限目 ③ メール: jonhan@kiis.ac.jp</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>① 外部試験: 「日本語能力試験(JLPT)N2」と「漢字検定」4級を受験する。 試験結果は成績評価の対象とする。試験日、会場に関する案内の詳細は授業中に告知する。 ② 学習確認: ポートフォリオ「科目別履修確認チェック表」必要事項を記入して提出する。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 日本語能力試験N2文法 必修パターン | 氏原庸子/佐伯玲子 | Jリサーチ出版 | 978-4-86392-331-7 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 「書き込み式、漢字の学習」 一漢検対応一 | 明治書院教科書編集部 | 明治書院 | 978-4-625-23302-9 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>① 定期試験 ⇒ 50%、課題/1:1チーム発表 ⇒ 30%、平常点 ⇒ 20% ② 平常点は、「外部試験」と発表を基本とする。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|---|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 基礎の復習－1. 助詞、2. 副詞 / インターネットニュース:聞き取り練習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 特定無し (2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習問題」「応用問題」を解く。 / 【課題】漢検4級一過去問① (2時間) |
| 第2回 | 基礎の復習－3. 接続詞、4. 敬語① / インターネットニュース:聞き取り練習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「意味・機能」「例文」を予習する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習問題」「応用問題」を解く。 / 【課題】漢検4級一過去問② (2時間) |
| 第3回 | 基礎の復習－4. 敬語② / インターネットニュース:聞き取り練習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「敬語資料」を熟読する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「敬語資料」暗記する。 / 【課題】漢検4級一過去問③ (2時間) |
| 第4回 | 「N3文型」の整理 (1)、(2)、(3)、(4) / インターネットニュース:聞き取り練習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「意味・機能」「例文」を予習する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習問題」「応用問題」を解く。 / 【課題】漢検4級一過去問④ (2時間) |
| 第5回 | 「N3文型」の整理 (5)、(6)、(7)、(8) / インターネットニュース:聞き取り練習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「意味・機能」「例文」を予習する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習問題」「応用問題」を解く。 / 【課題】漢検4級一過去問⑤ (2時間) |
| 第6回 | 「N3文型」の整理 (9)、(10)、(11)、(12) / インターネットニュース:聞き取り練習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「意味・機能」「例文」を予習する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習問題」「応用問題」を解く。 / 【課題】漢検4級一過去問⑥ (2時間) |
| 第7回 | 「N2文型」の整理 (1)、(2) / インターネットニュース:聞き取り練習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「意味・機能」「例文」を予習する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習問題」「応用問題」を解く。 / 【課題】漢検4級一過去問⑦ (2時間) |
| 第8回 | 「N2文型」の整理 (3)、(4) / インターネットニュース:聞き取り練習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「意味・機能」「例文」を予習する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習問題」「応用問題」を解く。 / 【課題】漢検4級一過去問⑧ (2時間) |

| | | |
|----------------|--|--|
| 第9回 | 「N2文型」の整理 (5)、(6) / インターネットニュース:聞き取り練習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「意味・機能」「例文」を予習する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習問題」「応用問題」を解く。 / 【課題】漢検4級一過去問⑨ (2時間) |
| 第10回 | 「N2文型」の整理 (7)、(8) / インターネットニュース:聞き取り練習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「意味・機能」「例文」を予習する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習問題」「応用問題」を解く。 / 【課題】漢検4級一過去問⑩ (2時間) |
| 第11回 | 「N2文型」の整理 (9)、(10) / インターネットニュース:聞き取り練習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「意味・機能」「例文」を予習する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習問題」「応用問題」を解く。 / 【課題】漢検4級一過去問⑪ (2時間) |
| 第12回 | 「N2文型」の整理 (11)、(12) / インターネットニュース:聞き取り練習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「意味・機能」「例文」を予習する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習問題」「応用問題」を解く。 / 【課題】漢検4級一過去問⑫ (2時間) |
| 第13回 | 「N2文型」の整理 (13)、(14) / インターネットニュース:聞き取り練習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「意味・機能」「例文」を予習する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習問題」「応用問題」を解く。 / 【課題】漢検4級一過去問⑬ (2時間) |
| 第14回 | 「N2文型」の整理 (15)、(16) / インターネットニュース:聞き取り練習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「意味・機能」「例文」を予習する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習問題」「応用問題」を解く。 / 【課題】漢検4級一過去問⑭ (2時間) |
| 第15回 | 「N2文型」の整理 (17)、(18) / インターネットニュース:聞き取り練習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「意味・機能」「例文」を予習する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習問題」「応用問題」を解く。 / 【課題】漢検4級一過去問⑮ (2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 1. テキストの「練習問題」「応用問題」「実践問題」「模擬試験問題」を基本とする試験を行う。 2. 漢字検定4級の課題を基本とする試験を行う。 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1GLN-6210-12E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 日本語Ⅱ (J1) | 共通 | 1年生・後期 | 2単位 | 選択 | 古川 幸子 | |
| 履修の前提条件 | 漢字の読み書き、また、作文論文表現能力への向上意欲を持っていること。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| 正しい文法で短い文章を作る(書く)練習から始め、最後には長い文章(レポートなど)が書けるようになるよう、課題に取り組む。書くことだけにとどまらず、コミュニケーション能力の向上も目指し、お互いの異文化に触れながらでいずカッションをして理解を深める。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| 日本の留学生活における様々な場面で必要とされる文章を読み書きできる力を身につける。自分の意思を自分の力で表現する力、また相手の意見を明確に理解できる力を身につける。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|-----------------|-----------------|-------------------|
| 自分の考えを正しく表現することが目標であるので、考える→話す→聞く→書く→(まとめる)という順番で行う。授業中は意見を求めることも多いので、予告されたテーマについて準備しておくこと。最後の課題、レポートはwordで提出。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 授業時間前後の休み時間など。教務課内にて受け付けます。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 学習の確認: 進度に合わせて小テストなどを行い、理解度を確認します。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| | | | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 大学で学ぶための日本語ライティング | 佐々木瑞枝、細井和代、藤尾清子 | The Japan Times | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 成績評価の方法: 定期試験70%、平常点30% | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|-------------------------------|------------------|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | オリエンテーション: 講義内容、方針説明、受講上の注意など | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの準備 (2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 次回の予習 (指示) (2時間) |
| 第2回 | 書き言葉と話し言葉、文体について。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当箇所の予習 (2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習 (2時間) |
| 第3回 | 状況を説明し、意見を述べる① | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当箇所の予習 (2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習 (2時間) |
| 第4回 | 状況を説明し、意見を述べる② | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当箇所の予習 (2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習 (2時間) |
| 第5回 | 段落を作る① | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当箇所の予習 (2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習 (2時間) |
| 第6回 | 段落を作る② | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当箇所の予習 (2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習 (2時間) |
| 第7回 | 文や段落をつなぐ練習 (接続詞など) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当箇所の予習 (2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習 (2時間) |
| 第8回 | 体験したことを書く | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当箇所の予習 (2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習 (2時間) |

| | | |
|----------------|---|---------------------------------|
| 第9回 | テーマに沿って意見文を書く①(疑問提示、伝聞、因果関係、予想、意見主張の表明) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当箇所の予習 (2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習 (2時間) |
| 第10回 | テーマに沿って意見文を書く② | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当箇所の予習 (2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習 (2時間) |
| 第11回 | レポート書くための基礎知識と構成① | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当箇所の予習 (2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習 (2時間) |
| 第12回 | レポート書くための基礎知識と構成②引用の表現 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当箇所の予習 (2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習 (2時間) |
| 第13回 | レポートを書くために基礎知識③資料を引用して書く | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当箇所の予習 (2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習 (2時間) |
| 第14回 | レポートを書く(資料をまとめる) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当箇所の予習 (レポートの資料等をまとめておく) (2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習 (2時間) |
| 第15回 | レポートを書く(レポートの大筋を立てて書く準備をする) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当箇所の予習 (2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習 (2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 筆記試験を行います。持ち込み不可。 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1GLN-6210-12E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 日本語Ⅱ (J2) | 共通 | 1年生・後期 | 2単位 | 選択 | 全 彰煥 | |
| 履修の前提条件 | 留学生を対象者とする中級日本語講座である。 主に、中級から上級へレベルアップするための学習をする。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| ① 「日本語能力試験」N1の語彙、文法と「漢字検定3級」の漢字を学習する。 ② 「日本語能力試験」N1の重要表現を文型を中心に学習する。 ③ 「日本語能力試験」N1の文法問題を課題として熟知する。 ④ インターネット・ニュースを持って時事問題を接し、聴解力と発表力を鍛えさせる。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | ○ |
| 倫理観 Ethical Sense | | | | | | |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| ① 「日本語能力試験」N1の語彙、文法を学習する。 ② 「日本語能力試験」N1と「漢字検定」3級以上の受験・取得を目指す。 ③ インターネット・ニュースを通して聴解力と発表力の向上を目指す。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|------------|---------------|-------------------|
| ① 指定のインターネット・ニュースを発表する。 ② レベル別漢字テストの基本漢字の関連単語と語句を自主的に調査し、課題として提出する。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| ① 連絡・問い合わせ・相談: 研究室(453)にて随時受け付ける。 ② オフィスアワー: <水>2-5限目 ③ メール: jonhan@kiis.ac.jp | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| ① 外部試験: 「日本語能力試験(JLPT)」N1と「漢字検定」3級を受験する。 試験結果は成績評価の対象とする。試験日、会場に関する案内の詳細は授業中に告知する。 ② 学習確認: ポートフォリオ「科目別履修確認チェック表」必要事項を記入して提出する。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 日本語能力試験N1文法 必修パターン | 氏原庸子/岡本牧子 | Jリサーチ出版 | 978-4-86392-233-4 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 「日本語総まとめ」 —N1、文法— | 佐々木仁子・松本紀子 | アスク出版 | 978-4-87217-726-8 |
| 「書き込み式、漢字の学習」 —漢検対応— | 明治書院教科書編集部 | 明治書院 | 978-4-625-23302-9 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| ① 定期試験 ⇒ 50%、課題/聴解・発表 ⇒ 30%、平常点 ⇒ 20% ② 平常点は、「外部試験」と発表を基本とする。 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|---|---------------------------------------|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 文法の復習1、2、3 / インターネットニュース:聞き取り練習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 特定無し(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習問題」「応用問題」を解く。 / 【課題】漢検3級一過去問①(2時間) |
| 第2回 | 文法の復習4. 敬語 / インターネットニュース:聞き取り練習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「敬語資料」を熟読する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「敬語資料」暗記する。 / 【課題】漢検3級一過去問②(2時間) |
| 第3回 | N2・N3の復習1. 2、3、4 / インターネットニュース:聞き取り練習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「意味・機能」「例文」を予習する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習問題」「応用問題」を解く。 / 【課題】漢検3級一過去問③(2時間) |
| 第4回 | N2・N3の復習5、6、7、8 / インターネットニュース:聞き取り練習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「意味・機能」「例文」を予習する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習問題」「応用問題」を解く。 / 【課題】漢検3級一過去問④(2時間) |
| 第5回 | N2・N3の復習9、10、11、12 / インターネットニュース:聞き取り練習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「意味・機能」「例文」を予習する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習問題」「応用問題」を解く。 / 【課題】漢検3級一過去問⑤(2時間) |
| 第6回 | N1文型の整理(1)、(2) / インターネットニュース:聞き取り練習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「意味・機能」「例文」を予習する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習問題」「応用問題」を解く。 / 【課題】漢検3級一過去問⑥(2時間) |
| 第7回 | N1文型の整理(3)、(4) / インターネットニュース:聞き取り練習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「意味・機能」「例文」を予習する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習問題」「応用問題」を解く。 / 【課題】漢検3級一過去問⑦(2時間) |
| 第8回 | N1文型の整理(5)、(6) / インターネットニュース:聞き取り練習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「意味・機能」「例文」を予習する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習問題」「応用問題」を解く。 / 【課題】漢検3級一過去問⑧(2時間) |

| | | |
|----------------|--|---------------------------------------|
| 第9回 | N1文型の整理(7)、(8) / インターネットニュース:聞き取り練習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「意味・機能」「例文」を予習する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習問題」「応用問題」を解く。 / 【課題】漢検3級一過去問⑨(2時間) |
| 第10回 | N1文型の整理(9)、(10) / インターネットニュース:聞き取り練習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「意味・機能」「例文」を予習する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習問題」「応用問題」を解く。 / 【課題】漢検3級一過去問⑩(2時間) |
| 第11回 | N1文型の整理(11)、(12) / インターネットニュース:聞き取り練習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「意味・機能」「例文」を予習する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習問題」「応用問題」を解く。 / 【課題】漢検3級一過去問⑪(2時間) |
| 第12回 | N1文型の整理(13)、(14) / インターネットニュース:聞き取り練習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「意味・機能」「例文」を予習する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習問題」「応用問題」を解く。 / 【課題】漢検3級一過去問⑫(2時間) |
| 第13回 | N1文型の整理(15)、(16) / インターネットニュース:聞き取り練習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「意味・機能」「例文」を予習する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習問題」「応用問題」を解く。 / 【課題】漢検3級一過去問⑬(2時間) |
| 第14回 | N1文型の整理(17)、(18) / インターネットニュース:聞き取り練習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「意味・機能」「例文」を予習する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習問題」「応用問題」を解く。 / 【課題】漢検3級一過去問⑭(2時間) |
| 第15回 | N1文型の整理(19)、(20) / インターネットニュース:聞き取り練習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「意味・機能」「例文」を予習する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「練習問題」「応用問題」を解く。(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 1. テキストの「練習問題」「応用問題」「実践問題」「模擬試験問題」を基本とする試験を行う。 2. 漢字検定3級の課題を基本とする試験を行う。 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1GLN-6220-22E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 日本語Ⅲ (J1) | 219～ | 2年生・前期 | 2単位 | 選択 | 古川 幸子 | |
| | ～218 | 1・2年生・前期 | | | | |
| 履修の前提条件 | 留学生を対象とする日本語講座です。日本語運用能力向上に意欲のある学生の受講を求めます。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| 日本語を学び活用するうえで、学習者が陥りやすい誤用や不自然さを意識しながら語彙力をつける。日本語の基礎力と応用力を身につける。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| 日本の大学で学ぶ上で必要な日本語運用能力、また多数ある類似語を場面で使い分けて表現し円滑なコミュニケーションがとれるようになる。また、語彙から日本の文化や習慣、価値観などに関して知り、日本社会について理解を深めます。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|------------|---------------|-------------------|
| 特定の場面を提案するので、それぞれが既習の語彙を使って会話をし、さらによりよい表現になるように新しい言葉を学びながら練習をします。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 授業時間前後の休み時間など、教務課内にて受け付けます。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 学習の確認: 進度に合わせた小テストなどで学習理解度を確認します。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 授業中に指示 | | | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| | | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 成績評価の方法: 定期試験70%、小テスト20%、平常点10% | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|-------------------------------|---------------|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | オリエンテーション: 授業方針説明、受講上の注意、自己紹介 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの準備(二時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 次回の予習(二時間) |
| 第2回 | 4月の言葉(花見) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当ページの予習(二時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習(二時間) |
| 第3回 | 4月の言葉(入学) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当ページの予習(二時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習(二時間) |
| 第4回 | 5月の言葉(ゴールデンウィーク) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当ページの予習(二時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習(二時間) |
| 第5回 | 5月の言葉(こどもの日、こどもに関する言葉) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当ページの予習(二時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習(二時間) |
| 第6回 | 手の動きに関する言葉 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当ページの予習(二時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習(二時間) |
| 第7回 | 6月の言葉(梅雨など天気に関する言葉) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当ページの予習(二時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習(二時間) |
| 第8回 | 6月の言葉(ジューンブライド、結婚式など) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当ページの予習(二時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習(二時間) |

| | | |
|----------------|--------------------|---------------|
| 第9回 | 7月の言葉(海に関する言葉) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当ページの予習(二時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習(二時間) |
| 第10回 | 7月の言葉(景色に関する言葉) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当ページの予習(二時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習(二時間) |
| 第11回 | 7月の言葉(話すことに関する言葉) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当ページの予習(二時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習(二時間) |
| 第12回 | 心に関する言葉(気持ちなど) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当ページの予習(二時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習(二時間) |
| 第13回 | お祭りに関する言葉 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当ページの予習(二時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習(二時間) |
| 第14回 | 秋に関する言葉 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当ページの予習(二時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習(二時間) |
| 第15回 | 身近なものから情報を得る | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当ページの予習(二時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習(二時間) |
| 第16回 (定期試験) | 筆記試験を行います。(持ち込み不可) | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1GLN-6230-22E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 日本語Ⅳ(J1) | 219～ | 2年生・後期 | 2単位 | 選択 | 古川 幸子 | |
| | ～218 | 1・2年生・後期 | | | | |
| 履修の前提条件 | 留学生を対象とする日本語講座です。日本語運用能力向上に意欲のある学生の受講を求めます。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| 論理的思考を養うために様々な文章を読み、練習問題を重ねながらアカデミックジャパニーズを身につけます。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| 様々な文章に触れながら、読解力を深め、さらには考えることを習慣化し、表現できるようになります。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|------------|---------------|-------------------|
| トピックスを正しく読み取り、ディスカッションしたりして意見をまとめ発表します。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 授業時間の前後の休み時間など。教務課内にて受け付けます。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 授業時間の前後の休み時間など。教務課内にて受け付けます。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 日本語ロジカルトレーニング 中級 | 西隈俊哉 | アルク | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| | | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 成績評価の方法: 定期試験70%、小テスト20%、平常点10% | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|-------------------------|---------------|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | オリエンテーション: 授業方針説明、評価の方法 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの準備(二時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習(二時間) |
| 第2回 | 発想力: 言葉の地図を作ってみよう | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当ページの予習(二時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習(二時間) |
| 第3回 | イラストを見て考えよう | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当ページの予習(二時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習(二時間) |
| 第4回 | 文章を読んで図や表にしてみよう | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当ページの予習(二時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習(二時間) |
| 第5回 | 標グラフの内容を読み取ってみよう | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当ページの予習(二時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習(二時間) |
| 第6回 | マッピングをしながら読んでみよう | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当ページの予習(二時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習(二時間) |
| 第7回 | 登場人物になったつもりで読んでみよう | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当ページの予習(二時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習(二時間) |
| 第8回 | 理由を考えながら読んでみよう | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当ページの予習(二時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習(二時間) |

| | | |
|----------------|-------------------|---------------|
| 第9回 | 意味を考えながら読んでみよう | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当ページの予習(二時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習(二時間) |
| 第10回 | キーワードをつなげて書いてみよう | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当ページの予習(二時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習(二時間) |
| 第11回 | イラストを見て書いてみよう | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当ページの予習(二時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習(二時間) |
| 第12回 | 文章を読んで考えてみよう | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当ページの予習(二時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習(二時間) |
| 第13回 | 文章を読んで考えてみよう | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当ページの予習(二時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習(二時間) |
| 第14回 | 文章を読んで考えてみよう | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当ページの予習(二時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習(二時間) |
| 第15回 | まとめ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当ページの予習(二時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習済内容の復習(二時間) |
| 第16回 (定期試験) | 筆記試験を行います。持ち込み不可。 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1AIN-6341-24E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 情報リテラシー演習 (教職関連科目 必 高等学校 情報) | 219～ | 1年生・前期 | 2単位 | 必修 | リテラシー担当教員 | |
| 情報リテラシー演習Ⅰ (教職関連科目 必 高等学校 情報) | ～218 | | | | | |
| 履修の前提条件 | パソコンの基本操作やタイピングに慣れていることが望ましい。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>少人数クラスに分かれて担当教員が分担して情報リテラシーの基礎となるワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトなどに関する基礎技能を学ぶ。また、これらの基礎技能を用いて、実データの収集、分析、応用の方法について体験する。さらに、情報教育の基礎となる情報検索方法や情報モラル・セキュリティ、ネットワークコミュニケーションについても概説する。必要に応じて合同授業を実施することがある。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>【知識】 ・パソコンの基礎的事項(五大装置、通信方法)を説明できる。・情報の定義、情報モラル、セキュリティについて説明できる。 ・インターネットの利点・欠点、SNSの利点・欠点を列挙できる。</p> <p>【態度・習慣】 ・疑問点を尋ねることができる。・講義に参加できる。</p> <p>【技能】 ・タッチタイピングができる。・ビジネス文書の例を模倣し、自分で作成することができる。・Excelで表やグラフの作成、数式の利用ができる。・Powerpointで発表スライドを作成し、発表できる。・講義レポートを作成することができる。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|------------|---------------|-------------------|
| <p>ただ実習をこなすだけでなく、卒業論文や科目レポートの作成を念頭に、学ぶ機能がどう使えるかを意識しながら取り組む。必要に応じて、自主的に発展的内容・機能の実践・習熟に努力する。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>問い合わせ、報告、連絡、相談などは、各担当教員の研究室で受け付けます。なお、オフィスアワーについては掲示を確認すること。</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ & ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>MOS(Microsoft Office Specialist)の合格者については、その内容に応じて成績評価の際に優遇します。 学習の確認:ポートフォリオ・ルーブリックシートに必要事項を記入し8回目講義および最終講義時に提出すること。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| リメディアル教育のための 情報リテラシー | 鈴木和也・荒平高章 | 八千代出版 | 978-4-8429-1812-9 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| なし | | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>提出課題、講義中の発表、実習試験、筆記試験を総合的に評価する。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|-------------------------------------|---|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | パソコンの基本設定1(学内ネットワーク接続、メール環境構築) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | シラバスを通読し、本科目の内容について把握する。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 大学が配布した冊子を通読し、本時で終わらなかった部分を補う。(2.0h) |
| 第2回 | パソコンの基本設定2(オフィスソフトのインストール、共有フォルダ設定) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 大学が配布した冊子を通読し、本時で終わらなかった部分を補う。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 大学が配布した冊子を通読し、本時で終わらなかった部分を補う。(2.0h) |
| 第3回 | 授業計画説明、メールの書き方、第1章 パソコン入門 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストや資料の該当箇所を音読する。不明な箇所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。(2.0h) |
| 第4回 | 第2章 タイピングの基礎、第3章 文書作成の基礎(1) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストや資料の該当箇所を音読する。不明な箇所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。(2.0h) |
| 第5回 | 第4章 文書作成の基礎(2) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストや資料の該当箇所を音読する。不明な箇所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。(2.0h) |
| 第6回 | 第5章 文書作成の応用 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストや資料の該当箇所を音読する。不明な箇所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。(2.0h) |
| 第7回 | 第6章 表作成の基礎 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストや資料の該当箇所を音読する。不明な箇所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。(2.0h) |
| 第8回 | 第7章 グラフ作成の基礎 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストや資料の該当箇所を音読する。不明な箇所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。(2.0h) |

| | | |
|----------------|--------------------------------|---|
| 第9回 | 第8章 表計算の応用 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストや資料の該当箇所を音読する。不明な箇所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。(2.0h) |
| 第10回 | 第9章 レポート作成の基礎 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストや資料の該当箇所を音読する。不明な箇所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。(2.0h) |
| 第11回 | 第10章 プレゼンテーションの基礎 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストや資料の該当箇所を音読する。不明な箇所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。(2.0h) |
| 第12回 | 第11章 プレゼンテーションの応用 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストや資料の該当箇所を音読する。不明な箇所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。(2.0h) |
| 第13回 | 第12章 学生生活と情報、第13章 インターネットと情報検索 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストや資料の該当箇所を音読する。不明な箇所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。(2.0h) |
| 第14回 | 第14章 情報モラルとセキュリティ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストや資料の該当箇所を音読する。不明な箇所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。(2.0h) |
| 第15回 | 第15章 最新のネットワークコミュニケーション | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストや資料の該当箇所を音読する。不明な箇所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。(2.0h) |
| 第16回 (定期試験) | 実習試験および筆記試験を実施する。 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 情報リテラシー演習Ⅱ | ～218 | 1年生・後期 | 2単位 | 選択 | リテラシー担当教員 | |
| 履修の前提条件 | <ul style="list-style-type: none"> ・情報リテラシー演習Ⅰに合格し、Excelの基本操作を修得していること。 ・受講マナーを守ること。 ・使用するPCのOSはWindowsで、Office2019であること。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・企業人に必須とされる数値の管理、分析、報告に利用されているのが表計算ソフトです。その代表であるMicrosoft Excelを効果的に活用する力を身につけることを目標にします。 ・MOS試験の出題範囲を網羅しているため、MOS Excel Expertの受験を視野に入れることができます。 ・Excel Expert レベルの Lesson問題に取り組みながら、表計算ソフトの応用力、問題解決力を養います。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics ○ | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy ○ | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving ○ | | | | | |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management ○ | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・国際的な資格であり、MS社が認定するMicrosoft Office Specialist Excel Expert資格の取得を志します。 ・経営情報学の基礎から応用までの汎用的技能を習得するために、この科目ではビジネスシーンにおける表計算ソフトの活用方法を学び、実践で効果的に利用できるようなことを目指します。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|-----------------|---------------|-------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ Lesson問題を一緒に操作して解くだけでは、操作スキルの向上は望めません。どのようなビジネスシーンで利用されるのか、他の操作方法はないのか、もっと効率的な方法はないかと考えて、学習効果を高めてください。 ・配布する習熟度チェックリストを確認して、目標に対する進捗状況などについて自己管理に努めていただきます。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 講義日、2号館1階の講師控室にお越しください。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 外部試験: Microsoft Office Specialist 2019 試験日: 随時試験 ※月に複数回実施 試験会場: 任意で選択 ※パソコン教室など多くの場所で受験可能 受験料: 7,800円(税抜) ※学割価格 ※受験には、事前に受験者IDの登録が必要 MOS公式HP: http://mos.odyssey-com.co.jp/index.html 学習の確認: ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| Microsoft Office Specialist Excel 365&2019 Expert 対策テキスト&問題集 | 富士通エフ・オー・エム株式会社 | FOM出版 | 未発売 ※1月現在 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| | | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価方法: 平常点 20%、課題 20%、定期試験 60% ※平常点は、学習意欲、受講マナー等を見て総合的に評価。 注) 受講マナーを守れない者は、「減点」、「欠席」、「受講停止」とする場合がある。 ※定期試験をMOS受験(外部試験)に代えることを認める。(事前に申し出ること。) 可否に関係なく、試験の得点を評価する。(試験結果の提出義務有り) ※定期試験前にMOS試験を受験した者は、定期試験を免除する。 ・成績評価の基準: 表計算ソフトを正しく活用することができるか。 MOS試験の合格レベルに達しているか。 Excel: 関数やグラフなど自主的な判断により選択し、応用利用することができるか。 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|--|---|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 出題範囲1：ブックの管理 (テキスト P.26～40) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業内容に関する用語を調べ、その操作方法について確認しておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 再度、授業で確認したLesson問題を解き直す復習と、苦手分野の克服に努めること。(2.0h) |
| 第2回 | 出題範囲1：ブックの校閲を管理する (テキスト P.41～56) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業内容に関する用語を調べ、その操作方法について確認しておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 再度、授業で確認したLesson問題を解き直す復習と、苦手分野の克服に努めること。(2.0h) |
| 第3回 | 出題範囲2：ユーザー定義の表示形式と入力規則をデータに適用する (テキスト P.58～74) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業内容に関する用語を調べ、その操作方法について確認しておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 再度、授業で確認したLesson問題を解き直す復習と、苦手分野の克服に努めること。(2.0h) |
| 第4回 | 出題範囲2：詳細な条件付き書式やフィルターを適用する (テキスト P.75～88) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業内容に関する用語を調べ、その操作方法について確認しておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 再度、授業で確認したLesson問題を解き直す復習と、苦手分野の克服に努めること。(2.0h) |
| 第5回 | 出題範囲2：ユーザー設定のブックの要素を作成する、変更する (テキスト P.89～125) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業内容に関する用語を調べ、その操作方法について確認しておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 再度、授業で確認したLesson問題を解き直す復習と、苦手分野の克服に努めること。(2.0h) |
| 第6回 | 出題範囲2：ほかの言語に対応したブックを準備する (テキスト P.126～132) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業内容に関する用語を調べ、その操作方法について確認しておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 再度、授業で確認したLesson問題を解き直す復習と、苦手分野の克服に努めること。(2.0h) |
| 第7回 | 出題範囲3：名前付き範囲とオブジェクトを定義する (テキスト P.134～143) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業内容に関する用語を調べ、その操作方法について確認しておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 再度、授業で確認したLesson問題を解き直す復習と、苦手分野の克服に努めること。(2.0h) |
| 第8回 | 出題範囲3：数式に関数を適用する (テキスト P.144～156) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業内容に関する用語を調べ、その操作方法について確認しておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 再度、授業で確認したLesson問題を解き直す復習と、苦手分野の克服に努めること。(2.0h) |

| | | |
|----------------|---|---|
| 第9回 | 出題範囲3：関数を使用してデータを検索する (テキスト P.157～166) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業内容に関する用語を調べ、その操作方法について確認しておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 再度、授業で確認したLesson問題を解き直す復習と、苦手分野の克服に努めること。(2.0h) |
| 第10回 | 出題範囲3：高度な日付と時刻の関数を適用する (テキスト P.167～179) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業内容に関する用語を調べ、その操作方法について確認しておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 再度、授業で確認したLesson問題を解き直す復習と、苦手分野の克服に努めること。(2.0h) |
| 第11回 | 出題範囲3：データ分析、ビジネス分析を行う (テキスト P.180～227) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業内容に関する用語を調べ、その操作方法について確認しておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 再度、授業で確認したLesson問題を解き直す復習と、苦手分野の克服に努めること。(2.0h) |
| 第12回 | 出題範囲3：数式のトラベルシューティングを行う (テキスト P.228～238) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業内容に関する用語を調べ、その操作方法について確認しておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 再度、授業で確認したLesson問題を解き直す復習と、苦手分野の克服に努めること。(2.0h) |
| 第13回 | 出題範囲4：高度な機能を使用したグラフを作成する (テキスト P.240～249) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業内容に関する用語を調べ、その操作方法について確認しておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 再度、授業で確認したLesson問題を解き直す復習と、苦手分野の克服に努めること。(2.0h) |
| 第14回 | 出題範囲4：ピボットテーブルを作成する、管理する (テキスト P.250～270) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業内容に関する用語を調べ、その操作方法について確認しておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | MOS Excel Expert 模擬試験プログラムにチャレンジして、結果を報告すること。(2.0h) |
| 第15回 | 出題範囲4：ピボットグラフを作成する、管理する (テキスト P.271～280) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業内容に関する用語を調べ、その操作方法について確認しておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | MOS Excel Expert 模擬試験プログラムにチャレンジして、結果を報告すること。(2.0h) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 ※MOS試験に準じた内容で実施します。 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1GCN-5580-12C | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| コミュニケーションと自己発見 I | 共通 | 1年生・前期 | 2単位 | 必修 | 担任 | |
| 履修の前提条件 | 入学前課題を提出していること。必修科目であるため、1年生は履修すること。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>授業内で実施するさまざまな学習・実践を通して、順調に大学生活がスタート出来るよう、担任制による少人数クラス、または合同クラス講義を通じて将来の自分の考え、将来の自分を見つける出発点とすることを学びます。個人での活動やグループでの活動など、さまざまな「活動」が中心の授業となりますので、主体的に授業に取り組んで「動く」、「考える」、「表現する」ことが重要になります。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | ○ |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | ○ |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>大学生活をスムーズにスタートさせるための仲間づくりと、教員との親睦を図り、大学生活を有意義なものとするための基礎となるさまざまな人間力を身につけようとする態度を養います。また、大学における講義や試験などの受け方を理解し、「聞く」、「読む」、「書く」、「話す(発表する)」という、大学生活において最も基本的な技能(技術&能力)を身に付けます。授業での活動を通じて「動く」、「考える」、「表現する」ことが重要になります。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|------------|---------------|------------------------|
| <p>授業毎の内容に関して、レポート作成し提出する。 個人・集団(グループ)での調査学習、グループワークの場でグループディスカッションやディベートなどを行う。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>担任教員の研究室を訪ねてください。 研究室の場所、オフィスアワーの時間帯は授業内にプリントにて配布します。</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>外部試験: 日本漢字能力検定協会の実施する日本漢字能力検定、文章読解・作成能力検定の3級以上を受験すること。2級以上の合格は文章表現 I・II の成績評価の対象となります。 試験日、会場(受験教室、本学にて受験します)、詳細は後日連絡します。 学習の確認: ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入して、授業内で指定された期日までに各担任へ提出すること。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 講義スライド | 担当教員 | | |
| 配布テキスト | | | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 大学学びのことはじめ | 佐藤智明ほか 編 | ナカニシヤ出版 | 978-4-7795-0227-9C0037 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>・成績評価の方法: 授業での活動状況、提出レポート、発表等の成績により総合的に評価する。 ・成績評価の基準: ①集団の中で他者と協力・協調できているか、②責任もった行動がとれているか、③提出物や発表(プレゼンテーション)で大学生としての自己表現ができているか、など。また、8月に行われるITパスポート&簿記コンテストに積極的に参加してもらおう。試験期間後だが、出席状況とコンテストの成績も単位認定の参考にする。 ・最初に提供する、「自己紹介シート」を必ず提出すること。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|---|------------------------------|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 大学での学び入門(1): 大学生の学び、基本的な生活習慣について(プレテスト予定) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 入学前に配布された課題を済ませること。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 当日配布される資料を作成して、来週提出すること。(2h) |
| 第2回 | 大学での学び入門(2): 「学力」と「人間力」を身につける | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 先週提示した課題を済ませしておくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 当日配布される資料を作成して、来週提出すること。(2h) |
| 第3回 | 大学での学び入門(3): 授業(講義)の受け方、ノートの取り方 / オフィスアワーを活用しよう | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 先週提示した課題を済ませしておくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 当日配布される資料を作成して、来週提出すること。(2h) |
| 第4回 | 大学での学び入門(4): チームで動く(動画 & コンテンツを考える) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 先週提示した課題を済ませしておくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 当日配布される資料を作成して、来週提出すること。(2h) |
| 第5回 | 大学での学び入門(5): チームで動く(動画の企画立案、撮影計画を考える) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 先週提示した課題を済ませしておくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 当日配布される資料を作成して、来週提出すること。(2h) |
| 第6回 | 大学での学び入門(6): 4年後の自分を考える～「働く」ことの意味とキャリア開発(1) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 先週提示した課題を済ませしておくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 当日配布される資料を作成して、来週提出すること。(2h) |
| 第7回 | 大学での学び入門(7): 社会人としての常識的なマナーを身につけよう | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 先週提示した課題を済ませしておくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 当日配布される資料を作成して、来週提出すること。(2h) |
| 第8回 | 大学での学び入門(8): イベントを計画しよう: 学園祭への準備(1)概要と計画 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 先週提示した課題を済ませしておくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 当日配布される資料を作成して、来週提出すること。(2h) |

| | | |
|----------------|--|------------------------------|
| 第9回 | 大学での学び入門(9): イベントを計画しよう: 学園祭への準備(2)企画を考える | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 先週提示した課題を済ませしておくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 当日配布される資料を作成して、来週提出すること。(2h) |
| 第10回 | 大学での学び入門(9): イベントを計画しよう: 学園祭への準備(3)概要と計画 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 先週提示した課題を済ませしておくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 当日配布される資料を作成して、来週提出すること。(2h) |
| 第11回 | 大学での学び入門(11): イベントを計画しよう: 学園祭への準備(4)企画案発表 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 先週提示した課題を済ませしておくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 当日配布される資料を作成して、来週提出すること。(2h) |
| 第12回 | 大学での学び入門(12): イベントを計画しよう: 学園祭への準備(5)企画案発表 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 先週提示した課題を済ませしておくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 当日配布される資料を作成して、来週提出すること。(2h) |
| 第13回 | 仲間とイベントをつくらう[1]: 学園祭への参加について、前年度の取り組み(学友会から) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 先週提示した課題を済ませしておくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 当日配布される資料を作成して、来週提出すること。(2h) |
| 第14回 | 仲間とイベントをつくらう[2]: 実践的な販売計画の立て方 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 先週提示した課題を済ませしておくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 当日配布される資料を作成して、来週提出すること。(2h) |
| 第15回 | 仲間とイベントをつくらう[3]: 申請書の書き方、計画書の作成 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 先週提示した課題を済ませしておくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 後期に向けて課題をまとめること。(2h) |
| 第16回 (定期試験) | 基本的に提出資料を中心に試験を行う。試験前にルーブリックならびにポートフォリオの提出もしてもらい。その進捗状況も試験の一部とみなす。 | |

| | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
| 1GCN-5590-12C | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| コミュニケーションと自己発見Ⅱ | 共通 | 1年生・後期 | 2単位 | 必修 | 担任 | |
| 履修の前提条件 | 積極的に課題に取り組み、他者と協力できること。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>仲間とともに学園祭でのイベント事業を成し遂げることを中心に授業は進んでいきます。グループメンバーで協力して、話し合い・作業すること求められますので、無断欠席やサボタージュ、他者依存は、本授業での趣旨から逸脱する事態を引き起こします。「チームではたらく力」を実践的に身につけるためにも、積極的にグループでの活動に関わるようにしましょう。それがあなた自身の力と自信、そしてキャリアになります。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | ○ |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | ○ |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>小人数クラスの中でコミュニケーションを積極的に行うことにより、大学生活を成功に導くための、仲間づくりと教員と関係を積極的に築き上げていく力と態度を育てる。また、イベント計画、その実践と反省を通じて、他者と協力して事業を成功に導くことの大切さに気づき、「チームではたらく力」を育む。さらには、小人数クラスの中での相互協力と高め合いを通して、「聞く」、「読む」、「書く」、「話す(発表する)」という、大学生活において最も基本的な技能(技術&能力)を身に付ける。</p> | | | | | | |

| | | | |
|---|------------|---------------|------------------------|
| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
| <p>授業毎の内容に関して、レポート作成し提出する。 個人・集団(グループ)での調査学習、グループワークの場でグループディスカッションやディベートなどを行う。 後期は前期で企画したイベントの実践の場で、体験を通じて問題の解決を行う。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>担任教員の研究室を訪ねてください。 研究室の場所、オフィスアワーの時間帯は授業開始時にプリントにて配布します。</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>外部試験: 日本漢字能力検定協会の実施する日本漢字能力検定、文章読解・作成能力検定の3級以上を受験すること。2級以上の合格は文章表現Ⅰ・Ⅱの成績評価の対象となります。 試験日、会場(受験教室、本学にて受験します)、詳細は後日連絡します。 学習の確認: ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入して、授業内で指定された期日までに各担任へ提出すること。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 講義スライド | 担当教員 | | |
| 配布テキスト | | | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 大学学びのことはじめ | 佐藤智明ほか 編 | ナカニシヤ出版 | 978-4-7795-0227-9C0037 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>・成績評価の方法: 授業での活動状況、提出レポート、発表等の成績により総合的に評価する。 ・成績評価の基準: ①集団の中で他者と協力・協調できているか、②責任もった行動がとれているか、③提出物や発表(プレゼンテーション)で大学生としての自己表現ができているか、など。 ・通常の講義時間外にも参加、または活動しなければならない。(第7回、第8回、第15回) また、2月に行われるITパスポート&簿記コンテストに積極的に参加してもらおう。試験期間後だが、出席状況とコンテストの成績も単位認定の参考にする。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|-------------------------------------|------------------------------|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 授業ガイダンス / イベント事業の企画を練り上げる(1):企画書の作成 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前期の課題を仕上げてくること。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 与えられた課題を来週までに仕上げてくること。(2h) |
| 第2回 | イベント事業の企画を練り上げる(2):報告書を見据えた準備をしよう。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 先週提示した課題を済ませておくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 当日配布される資料を作成して、来週提出すること。(2h) |
| 第3回 | 仲間とイベントの計画・準備をしよう(1) 作業 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 先週提示した課題を済ませておくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 当日配布される資料を作成して、来週提出すること。(2h) |
| 第4回 | 仲間とイベントの計画・準備をしよう(1) 報告 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 先週提示した課題を済ませておくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 当日配布される資料を作成して、来週提出すること。(2h) |
| 第5回 | 仲間とイベントの計画・準備をしよう(1) 作業 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 先週提示した課題を済ませておくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 当日配布される資料を作成して、来週提出すること。(2h) |
| 第6回 | 仲間とイベントの計画・準備をしよう(1) 報告 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 先週提示した課題を済ませておくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 当日配布される資料を作成して、来週提出すること。(2h) |
| 第7回 | イベント報告準備①(報告書作成) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 先週提示した課題を済ませておくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 当日配布される資料を作成して、来週提出すること。(2h) |
| 第8回 | イベント報告準備②(提出) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 先週提示した課題を済ませておくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 当日配布される資料を作成して、来週提出すること。(2h) |

| | | |
|----------------|--|-------------------------------------|
| 第9回 | イベント報告準備③(提出) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 先週提示した課題を済ませておくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 当日配布される資料を作成して、来週提出すること。(2h) |
| 第10回 | イベント報告準備④(発表用PowerPointの作成・発表練習) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 先週提示した課題を済ませておくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 当日配布される資料を作成して、来週提出すること。(2h) |
| 第11回 | 大学での学びの方向を決める(基礎ゼミ・基礎演習説明会) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 先週提示した課題を済ませておくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 当日配布される資料を作成して、来週提出すること。(2h) |
| 第12回 | 学園祭イベント報告会① | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 先週提示した課題を済ませておくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 当日配布される資料を作成して、来週提出すること。(2h) |
| 第13回 | 「働く」ことの意味とキャリア開発(2)※2コマ分 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 先週提示した課題を済ませておくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 当日配布される資料を作成して、来週提出すること。(2h) |
| 第14回 | 学園祭イベント報告会② | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 先週提示した課題を済ませておくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 当日配布される資料を作成して、来週提出すること。(2h) |
| 第15回 | 学園祭イベント報告会③ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 先週提示した課題を済ませておくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 提出課題は試験の代用になる場合もある。きちんとまとめておくこと(2h) |
| 第16回 (定期試験) | 一年を振り返って(総括)基本的に提出資料を中心に試験を行う。試験前にループリックならびにポートフォリオの提出もしてもらい。その進捗状況も試験の一部とみなす。 | |

| | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|-----------------------------|----------|
| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
| 1GBN-1510-12E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 大学基礎総合 | 221 | 1年生・前期 | 2単位 | 選択 | 平田 毅・全 彰煥 堀 治夫・宮崎 裕 士 | |
| 履修の前提条件 | 履修規程第5条3項に基づいて、原則として次の事項に該当する者の履修を許可します。①4月に実施する「プレテスト」の結果、この科目の履修を勧奨された者、②担当教員から特に履修の必要ありと認められた1年生、③その他。※原則として2～4年生の履修は認めません。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| この授業では、習熟度に応じたクラス編成を行い、それぞれの実態に即した内容で学習を行います。漢字・日本語学習を中心に課題(自主学習を含む)に取り組みながら、国語力(漢字能力、日本語表現力)を中心に、その他専門領域で必要とされる基礎的な能力の充実と学習習慣の形成を図ります。授業は、反復学習や自宅での学習を軸に構成されていますので、自学自習の意欲に基づいた主体的な取り組みと継続的な課題の提出が毎回要求されます。なおこの授業は、主として本学の建学の精神「至心」「報恩感謝・慈愛と奉仕」「容は心を呼び、心は容を呼ぶ。」およびカリキュラムポリシー「I 建学の精神を理解させ、社会人として必要な態度・志向性を養うこと。」「V 基礎学力・技能を確認・強化すること。」に則り行われるものです。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| | 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| ①大学での授業を理解し知識や技能を習得していく上で、必要とされる基礎的な学力(漢字力・日本語力等)の充実を図る。 ②各自の漢字・日本語能力の向上と定着を図るために漢字能力検定・日本語能力検定の合格をめざした課題学習に取り組む。 ③授業および自宅での課題に積極的に取り組むことを通して、意欲的に学習する習慣と態度を養う。 | | | | | | |

| | | | |
|---|------------|---------------|-------------------|
| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
| 授業そのものは、漢字力・日本語力の向上のための反復学習が中心となります。各自で自分の弱点を見つけ、日常的に学習することを習慣づける取り組みは非常に大切です。また、漢字能力検定・日本語能力検定に関連する参考書や問題集を自ら購入し、主体的に取り組んでほしいと願っています。「自学自習」の姿勢こそが、自らの漢字力・日本語力を向上させるうえで欠かせない要素です。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 授業終了後に担当教員に声を掛けるか、もしくは研究室を訪ねてください。 各教員のオフィスアワーの時間は、掲示案内を参照してください。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 漢字能力検定・日本語能力検定の目標級の取得を目指して取り組みます。 本学で実施される検定試験は必ず受験してください。 学習の確認:ポートフォリオ&ルーブリックに必要事項を記入して、指定する日時までに提出してください。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| プリント配布 | | | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 漢字検定2級5分間対策ドリル(増進堂) 日本語能力試験公式問題集N2 (日本国際教育支援協会) その他多数 | | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 次の3点に基づき総合的に評価します。 ①漢字能力検定・日本語能力検定の受験・合否、 ②定期試験の結果、 ③平常点(課題の提出、ポートフォリオ&ルーブリックの提出、その他)。 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|--|------------------------------------|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 授業ガイダンス、漢字能力検定・日本語能力検定の概要説明、練習問題と解説 :プリント① | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 配布プリントを予習して、分からない点を明確にしておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 不正答だった問題を中心に、配布プリントを復習すること。(2時間) |
| 第2回 | 練習問題と解説 :プリント② | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 配布プリントを予習して、分からない点を明確にしておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 不正答だった問題を中心に、配布プリントを復習すること。(2時間) |
| 第3回 | 練習問題と解説 :プリント③ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 配布プリントを予習して、分からない点を明確にしておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 不正答だった問題を中心に、配布プリントを復習すること。(2時間) |
| 第4回 | 練習問題と解説 :プリント④ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 配布プリントを予習して、分からない点を明確にしておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 不正答だった問題を中心に、配布プリントを復習すること。(2時間) |
| 第5回 | 練習問題と解説 :プリント⑤ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 配布プリントを予習して、分からない点を明確にしておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 不正答だった問題を中心に、配布プリントを復習すること。(2時間) |
| 第6回 | 練習問題と解説 :プリント⑥ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 配布プリントを予習して、分からない点を明確にしておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 不正答だった問題を中心に、配布プリントを復習すること。(2時間) |
| 第7回 | 練習問題と解説 :プリント⑦ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 配布プリントを予習して、分からない点を明確にしておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 不正答だった問題を中心に、配布プリントを復習すること。(2時間) |
| 第8回 | 練習問題と解説 :プリント⑧ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 配布プリントを予習して、分からない点を明確にしておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 不正答だった問題を中心に、配布プリントを復習すること。(2時間) |

| | | |
|----------------|--------------------------|------------------------------------|
| 第9回 | 練習問題と解説 :プリント⑨ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 配布プリントを予習して、分からない点を明確にしておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 不正答だった問題を中心に、配布プリントを復習すること。(2時間) |
| 第10回 | 練習問題と解説 :プリント⑩ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 配布プリントを予習して、分からない点を明確にしておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 不正答だった問題を中心に、配布プリントを復習すること。(2時間) |
| 第11回 | 練習問題と解説 :プリント⑪ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 配布プリントを予習して、分からない点を明確にしておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 不正答だった問題を中心に、配布プリントを復習すること。(2時間) |
| 第12回 | 練習問題と解説 :プリント⑫ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 配布プリントを予習して、分からない点を明確にしておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 不正答だった問題を中心に、配布プリントを復習すること。(2時間) |
| 第13回 | 練習問題と解説 :プリント⑬ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 配布プリントを予習して、分からない点を明確にしておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 不正答だった問題を中心に、配布プリントを復習すること。(2時間) |
| 第14回 | 練習問題と解説 :プリント⑭ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 配布プリントを予習して、分からない点を明確にしておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 不正答だった問題を中心に、配布プリントを復習すること。(2時間) |
| 第15回 | 練習問題と解説 :プリント⑮ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 配布プリントを予習して、分からない点を明確にしておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 不正答だった問題を中心に、配布プリントを復習すること。(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験、ポートフォリオ & ルーブリック作成等 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1GCN-6410-22E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 文章表現 I | 219・220 | 2年生・前期 | 2単位 | 選択 | 平田 毅 | |
| 大学基礎総合 I | ～218 | 1年生・前期 | | 必修 | | |
| 履修の前提条件 | 日本語文章力、漢字能力を向上・充実させようとする姿勢をもっていること。毎週提出を求められる課題に対して、真摯に取り組める継続力をもっていること。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>この授業では、自らの日本語による文章表現の力(技能)を身につけるための基礎となる課題をこなしていきます。その前提としての「漢字能力」の充実・向上にも同時に取り組みます。</p> <p>この授業では、大学での「学び」にとって不可欠な“文章を「読む」力”を軸とした学習内となります。大学のテキストをきちんと読め、理解できる文章力・読解力を身につけることを目的としています。</p> <p>併せて、毎授業の課題を毎週取り組むことで、文章読解・作成能力検定(文章検)準2級レベルおよび漢字能力検定3級レベルの力を身につけることを目指します。</p> <p>自らの基礎学力(文章力・漢字力)の欠点を把握し、それらを授業および自学自習によって克服・向上させることが大切ですので、授業時間だけでなく、各自家庭で課題に取り組んでくれることも求められます。</p> | | | | | | |
| | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | ○ |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| | 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>①大学での授業(講義)を理解し、知識や技能を習得していくうえで必要とされる漢字能力、文章読解力の充実と定着を図る。</p> <p>②大学での卒業論文やレポート作成に必要なとされる漢字能力、文章読解能力の向上を図り、文章検・漢字検定の合格を目指す。</p> <p>③自己の学力(漢字力・文章力)を見極め、向上のため目的・意欲的に学習する習慣と態度を身につけ、授業および家庭での課題に積極的に取り組む姿勢を育む。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|------------|----------------------|-------------------|
| <p>授業は、文章力・漢字能力の向上のための反復した取組・練習が中心となります。全員の前(もしくはグループ内)で音読、つまり声に出して読む授業形態をとります。また、お互いに批評し合う場面もあります。よって、一人一人の主体的で能動的な取り組みが必要となります。</p> <p>また、この授業の時だけでなく、他の様々な「文章を書く」場面で、この授業で身につけたことを「意識して」文章を書くことを習慣づけることが非常に大切です。また、検定に関連する参考書や問題集を自ら購入し、主体的に取り組んでほしいと願っています。「自学自習」の姿勢こそが、自らの文章力を向上させるうえで欠かせない要素です。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>授業終了後に担当教員に声を掛けるか、もしくは研究室を訪ねてください。</p> <p>各教員のオフィスアワーの時間は、掲示案内を参照してください。</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>GoogleClassroomを活用して授業を進めていきます。</p> <p>文章検(文章読解・作成能力検定)準2級および日本漢字能力検定3級以上の合格を目指して取り組みます。</p> <p>学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 基礎から学べる!文章カステップ【文章検準2級対応】 | | 公益財団法人 日本漢字能力検定協会 | 978-4-89096-351-5 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| なし | | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>毎回の課題(予習・復習)への取り組み(30%)、中間テスト(10%)、期末試験(60%)および、検定試験の結果をもとに、総合的に評価します。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|--|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 授業ガイダンス～文章を読む力の大切さ。「文章検」の概要。(漢字検定の概要)プレテストの実施 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | これまでの生活における自分自身の文章を読んだり書いたりしてきた経験を振り返っておく。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | プレテストの見直し(復習)[2h] |
| 第2回 | 簡単な文(単文)を読む。音読の技術と漢字の読み。文の意味の把握。語彙力の増強。(1) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 予習問題に取り組む。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業課題の見直しをする。[2h] |
| 第3回 | 簡単な文(単文)を読む。音読の技術と漢字の読み。文の意味の把握。語彙力の増強。(2) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 予習問題に取り組む。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題問題の復習シートに取り組む。[2h] |
| 第4回 | 簡単な文(単文)を読む。音読の技術と漢字の読み。文の意味の把握。語彙力の増強。(3) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 予習問題に取り組む。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題問題の復習シートに取り組む。[2h] |
| 第5回 | 短い文章を読む・読み解く。音読の技術と漢字の読み。文章の意味の把握(読解)。語彙力の増強。(1) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 予習問題に取り組む。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題問題の復習シートに取り組む。[2h] |
| 第6回 | 短い文章を読む・読み解く。音読の技術と漢字の読み。文章の意味の把握(読解)。語彙力の増強。(2) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 予習問題に取り組む。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題問題の復習シートに取り組む。[2h] |
| 第7回 | 短い文章を読む・読み解く。音読の技術と漢字の読み。文章の意味の把握(読解)。語彙力の増強。(3) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 予習問題に取り組む。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題問題の復習シートに取り組む。[2h] |
| 第8回 | 中間テスト(短文の読解力、漢字力、音読技術) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 中間テストへの準備をする。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 中間テストの復習シートに取り組む。[2h] |

| | | |
|----------------|---|--------------------------------|
| 第9回 | 長文を読む・読み解く。音読の技術と漢字の読み。段落構成。文章の意味の把握(読解)。語彙力の増強。(1) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 予習問題に取り組む。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題問題の復習シートに取り組む。[2h] |
| 第10回 | 長文を読む・読み解く。音読の技術と漢字の読み。段落構成。文章の意味の把握(読解)。語彙力の増強。(2) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 予習問題に取り組む。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題問題の復習シートに取り組む。[2h] |
| 第11回 | 長文を読む・読み解く。音読の技術と漢字の読み。段落構成。文章の意味の把握(読解)。語彙力の増強。(3) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 予習問題に取り組む。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題問題の復習シートに取り組む。[2h] |
| 第12回 | 長文を読む・読み解く。音読の技術と漢字の読み。段落構成。文章の意味の把握(読解)。語彙力の増強。(4) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 模擬試験対策の学習に取り組む。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 模擬試験問題の復習シートに取り組む。[2h] |
| 第13回 | 自分の考えや感じたことを文章で表現してみる(1) 写真から文を紡ぐ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 予習問題に取り組む。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題問題の復習シートに取り組む。[2h] |
| 第14回 | 自分の考えや感じたことを文章で表現してみる(1) 自分意見を文章で表現する | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 予習問題に取り組む。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | これまでの課題問題の総復習をする。[2h] |
| 第15回 | 学習の振り返りと今後の文章読解・作成能力の充実に向けて | |
| | 事前学習 (内容・時間) | これまでの課題問題の総復習をする。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | これまでの課題問題の総復習をし、定期試験対策をする。[2h] |
| 第16回 (定期試験) | 文章読解問題および文章作成問題を出題 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 文章表現 | 221 | 1年生・後期 | 2単位 | 選択 | 平田 毅 | |
| 文章表現Ⅱ | 219～ | 2年生・後期 | | | | |
| 大学基礎総合Ⅱ | ～218 | 1年生・後期 | | | | |
| 履修の前提条件 | 漢字能力検定3級以上レベル、文章検準2級レベルの技能を持ち、さらに文章作成の能力を伸ばしたい者を対象とします。 また、毎週提出を求められる課題に対して、真摯に取り組める継続力をもっていることが必要です。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| この授業、文章読解・作成能力検定(文章検)2級レベルの課題を熟せるようになることを目的とします。そのことは、卒業論文や就職などで課せられる小論文作成の力(技能)を身につけることにも繋がります。各自が取り組んだ課題文は、毎回、授業担当者が添削して返却します。課題に毎回怠ることなくしっかりと取り組むこと(つまり「書くこと」)以外には、文章を書く力を向上させる方法はありません。このことを肝に銘じて取り組んでください。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | ○ |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| ①大学でのレポート作成や卒業論文や就職試験での小論文の作成に対応できる文章作成の技能の向上・充実に図り、文章検の合格を目指す。 ②自己の文章力を向上させるため目的・意欲的に学習する習慣と態度を身につけ、授業および家庭での課題に積極的に取り組む姿勢を育む。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|------------|----------------------|-------------------|
| 授業は、文章作成能力の向上のための反復した取組が中心となりますが、自分が作成した課題文を全員の前(もしくはグループ内)で声に出して読み、批評し合う場面では、一人一人の主体的で能動的な取り組みが必要となります。 また、この授業の時だけでなく、レポートや卒論、就活など様々な「文章を書く」場面で、この授業で身につけたことを「意識して」文章を書くことが非常に大切です。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 授業終了後に担当教員に声を掛けるか、もしくは研究室を訪ねてください。 各教員のオフィスアワーの時間は、掲示案内を参照してください。 メールアドレス: t-hirata@kiis.ac.jp | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| GoogleClassroomを活用して授業を進めます。毎回の課題の提出、添削の返却もGoogleClassroomで行います。 文章検(文章読解・作成能力検定)2級の合格を目指して取り組みます。 自らの文章読解・作成能力の水準を客観的に把握するため、1月に本学で実施される「文章検」の検定試験には原則として全員申し込みをし受検してもらいます。 学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 基礎から学べる!文章カステップ【文章検 2級対応】 | | 公益財団法人 日本漢字能力検定協会 | 978-4-89096-368-3 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 文章検 公式テキスト 2級 | | 公益財団法人 日本漢字能力検定協会 | 978-4-89096-336-2 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 毎回の課題(予習・復習)への取り組み(30%)、模擬試験(10%)、期末試験(60%) および、検定試験の結果をもとに、総合的に評価します。 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|---|-------------------------------------|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 文章を書くということ(再び) ~「文章作成能力」とは何か。「文章検」の概要。プレテスト(論説文を書く) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | これまでの生活における自分自身の文章作成経験を振り返っておく。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 履修にあたってのアンケートに回答し、テストに取り組む。⇒提出[2h] |
| 第2回 | 文章検問題の概要と具体例、プレテスト課題01への講評と解説 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 課題01(プレテスト)に取り組む⇒提出[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題01復習シートに取り組む[2h] |
| 第3回 | 文章作成力(考える力・論説文)の課題02への講評・解説 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 課題02(論説文)に取り組む⇒提出[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題02復習シートに取り組む[2h] |
| 第4回 | 文章作成力(考える力・論説文)の課題03への講評・解説 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 課題03(論説文)に取り組む⇒提出[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題03復習シートに取り組む[2h] |
| 第5回 | 文章作成力(考える力・論説文)の課題04の講評・解説 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 課題04(論説文)に取り組む⇒提出[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題04復習シートに取り組む[2h] |
| 第6回 | 文章作成力(考える力・論説文)の課題05の講評・解説 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 課題05(論説文)に取り組む⇒提出[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題05復習シートに取り組む[2h] |
| 第7回 | 文章作成力(レポートの構成)の課題06の講評・解説 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 課題06(レポートの構成)に取り組む⇒提出[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題06復習シートに取り組む[2h] |
| 第8回 | 文章作成力(レポートの構成)の課題07の講評・解説 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 課題07(レポートの構成)に取り組む⇒提出[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題07復習シートに取り組む。[2h] |

| | | |
|----------------|----------------------------|-------------------------------|
| 第9回 | 文章作成力(手紙文)の課題08の講評・解説 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 課題08(手紙文)に取り組む⇒提出[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題08復習シートに取り組む。[2h] |
| 第10回 | 文章作成力(手紙文)の課題09の講評・解説 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 課題09(手紙文)に取り組む⇒提出[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題09復習シートに取り組む。[2h] |
| 第11回 | 文章作成力(手紙文)の課題10の講評・解説 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 課題10(手紙文)に取り組む⇒提出[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題10復習シートに取り組む。[2h] |
| 第12回 | 文章作成力(文章の読解と要約)の課題11の講評・解説 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 課題11(文章の読解と要約)に取り組む⇒提出[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題11復習シートに取り組む。[2h] |
| 第13回 | 文章作成力(文章の読解と要約)の課題12の講評・解説 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 課題12(文章の読解と要約)に取り組む⇒提出[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題12復習シートに取り組む。[2h] |
| 第14回 | 模擬試験 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | これまでの課題の復習をする。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 模擬試験問題の自己採点とやり直し。[2h] |
| 第15回 | 総復習とまとめ。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | これまでの課題を再度総復習する。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | これまでの課題を再度総復習し、定期試験対策をする。[2h] |
| 第16回 (定期試験) | 「文章検」2級水準の問題を出題 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1GCN-5310-22C | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| キャリアデザイン入門 I | 共通 | 2年生・前期 | 2単位 | 必修 | 大多 正人 | ○ |
| 履修の前提条件 | 自分の将来について充実したものにしたいという思いと関心を持つこと | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>キャリアコンサルタントとして多くの大学でのキャリア教育や就業支援に取り組む一方、人事採用コンサルタントとして企業の採用支援を担ってきた講師が、実社会で必要となる能力・資質を示し、大学生活を充実させることでそれらを磨くよう促します。この講座は、様々なグループワークや体験を通じて、自分で考え、行動し、周りとの協働して結果を出すことで、「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」といった社会人基礎力を少しずつ修得していく構成としています。学生が自らの将来を主体的に「キャリアデザイン」できるようサポートします。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | ○ |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | ○ |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>社会で必要になる以下の様々な能力・資質の修得を目指して、イメージし、感じ、行動することを通じて、社会の諸問題についての知識・理解や汎用的技能を高めます。</p> <p>1) 自分を肯定する～「これでいいのだ」 2) 自分らしさを知る～「私の強みは○○だ」 3) 社会を知る～「仕事は、大人は、面白い」 4) 社会で必要となる資質を磨く～「コミュニケーションってこういうことか」 5) 卒業後のイメージを具体的に描く～「10年後はこうありたい」 6) そのために今から取り組むべきことを明確にする～「ここからはじめよう」 7) 毎日を充実させるためのアクションを起こす～「やるなら、今」</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|------------|---------------|-------------------|
| <p>対話型の授業を実施していきます。また、グループワークの機会も多くあります。積極的にコミュニケーションを図り、周囲に働きかけることを期待します。 授業の最後にミニッツペーパーに「気づいたこと・発見したこと」「今後どう活かしたいか」「質問事項」を記入、提出してもらいます。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>授業担当者への相談は基本的に授業の前後にお願いします。 その講義の問い合わせ他、キャリアに関する相談は随時「キャリアデザインセンター(CDC)」までご連絡下さい。</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>学習の確認: ポートフォリオシート「科目別履修チェック表」に各回の授業終了後に都度必要事項を記載し、完成したシートを最終講義終了後試験前日までに、CDCまでメールで提出ください。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 「キャリアデザイン入門 I」 テキスト・ワークブック (専用テキスト) | 大多正人・CDC | 九州情報大学作成 | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 随時紹介 | | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>①遅刻・途中退席は原則認めない。 ②テキスト・筆記具を持たない学生は受講できない。 ③授業中のノートパソコンやスマートフォンなど情報機器端末の使用を禁ずる。 ④「社会基準」に則り、授業を行う。それに従えない場合は講師の判断で退席させる。 ⑤10回以上の出席が単位付与の必要最低条件。試験未受験者は単位付与しない。 ⑥毎回提出するミニッツペーパーで出席を確認し、その記載内容のレベルも平常点に反映する。 ⑦成績評価の方法…平常点(60%)・課題レポート点(20%)・定期試験(20%) * 平常点では、受講態度、遅刻、提出課題の内容、ポートフォリオの提出、グループワーク活動状況を重視。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|--|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | オリエンテーション(受講ルール説明、講座の趣旨・進め方について説明します) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストを準備し、一通り目を通しておく。大学生活をどう充実させるか、卒業後の進路選択をどうするのか、自分なりのイメージを描いておく。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ポートフォリオ作成を通して、到達目標を明確にし、自身の学びのプランを立てる。(2.0h) |
| 第2回 | コミュニケーション① 仲間づくり(講義、仲間づくりの体験型ワーク、課題・レポート作成を行います) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの授業内容に該当するページを事前に読み、わからない部分を調べる。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業で指示した課題を完成する。授業での気づきを日常生活の言動に反映させる。(2.0h) |
| 第3回 | コミュニケーション② 協働ゲーム(講義、協働ゲームの体験型ワーク、課題・レポート作成を行います) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの授業内容に該当するページを事前に読み、わからない部分を調べる。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業で指示した課題を完成する。授業での気づきを日常生活の言動に反映させる。(2.0h) |
| 第4回 | コミュニケーション③ アサーション(講義、アサーションの体験型ワーク、課題・レポート作成を行います) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの授業内容に該当するページを事前に読み、わからない部分を調べる。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業で指示した課題を完成する。授業での気づきを日常生活の言動に反映させる。(2.0h) |
| 第5回 | 自分を知る① キャリアアンカー(講義、キャリアアンカーの体験型ワーク、課題・レポート作成を行います) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの授業内容に該当するページを事前に読み、わからない部分を調べる。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業で指示した課題を完成する。授業での気づきを日常生活の言動に反映させる。(2.0h) |
| 第6回 | 自分を知る② 自分らしさについて(講義、自分マッピングなど体験型ワーク、課題・レポート作成を行います) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの授業内容に該当するページを事前に読み、わからない部分を調べる。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業で指示した課題を完成する。授業での気づきを日常生活の言動に反映させる。(2.0h) |
| 第7回 | 自分を知る③ ストレスマネジメント(講義、ストレスマネジメントの体験型ワーク、課題・レポート作成を行います) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの授業内容に該当するページを事前に読み、わからない部分を調べる。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業で指示した課題を完成する。授業での気づきを日常生活の言動に反映させる。(2.0h) |
| 第8回 | 社会を知る① 働くってどういうこと?(講義、働くことの意味の体験型ワーク、課題・レポート作成を行います) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの授業内容に該当するページを事前に読み、わからない部分を調べる。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業で指示した課題を完成する。授業での気づきを日常生活の言動に反映させる。(2.0h) |

| | | |
|----------------|--|--|
| 第9回 | 社会を知る② 仕事で実現できること(講義、事例に基づく体験型ワーク、課題・レポート作成を行います) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの授業内容に該当するページを事前に読み、わからない部分を調べる。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業で指示した課題を完成する。授業での気づきを日常生活の言動に反映させる。(2.0h) |
| 第10回 | 社会を知る③ 社会人訪問のすすめ(講義、社会人訪問の体験型ワーク、課題・レポート作成を行います) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの授業内容に該当するページを事前に読み、わからない部分を調べる。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業で指示した課題を完成する。授業での気づきを日常生活の言動に反映させる。中間課題に取り組む。(2.0h) |
| 第11回 | 社会を知る④ 社会が求める人材(講義、人材採用の体験型ワーク、課題・レポート作成を行います) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの授業内容に該当するページを事前に読み、わからない部分を調べる。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業で指示した課題を完成する。授業での気づきを日常生活の言動に反映させる。(2.0h) |
| 第12回 | 社会を知る⑤ 学生と社会人の違い(講義、ビジネスマナーの体験型ワーク、課題・レポート作成を行います) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの授業内容に該当するページを事前に読み、わからない部分を調べる。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業で指示した課題を完成する。授業での気づきを日常生活の言動に反映させる。(2.0h) |
| 第13回 | ロールモデルを探す～先輩に学ぶ学生生活の過ごし方(講義、先輩への質疑応答、課題・レポート作成を行います) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの授業内容に該当するページを事前に読み、わからない部分を調べる。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業で指示した課題を完成する。授業での気づきを日常生活の言動に反映させる。(2.0h) |
| 第14回 | 自分を知る④ 社会人基礎力(講義、社会人基礎力の体験型ワーク、課題・レポート作成を行います) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの授業内容に該当するページを事前に読み、わからない部分を調べる。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業で指示した課題を完成する。授業での気づきを日常生活の言動に反映させる。(2.0h) |
| 第15回 | 総括～大学生活を充実させるために(講義、行動計画作成など体験型ワーク、課題・レポート作成を行います) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの授業内容に該当するページを事前に読み、わからない部分を調べる。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ポートフォリオを完成させ、自身の大学生活を充実させる行動計画を立て、卒業後の進路選択のイメージを具体化する。(2.0h) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験の実施 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1GCN-5320-22C | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| キャリアデザイン入門Ⅱ | 219～ | 2年生・後期 | 2単位 | 必修 | 堀 治彦 | |
| | ～218 | | | 選択 | | |
| 履修の前提条件 | キャリアデザイン入門Ⅰを履修していることが望ましい。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>この講義は、就職試験の代表的な適性検査として知られる「SPI(エスピーアイ)の「能力検査」に対応した能力を身に付けるためのものです。出題形式を理解し、解法のためのテクニックを習得し、限られた時間内で正確に問題を解き進めるための実践力を養います。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | ○ |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| | 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ |
| <p>本講義では下記の到達目標を設定しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分らしい将来の生活設計のために必要なキャリアに対する理解と考え方を身に付けること。 ・必要に応じて自身の将来設計を見直し、意欲的に行動できる能力と態度を身に付けること。 ・将来のキャリアの通過点である就職試験に対応できる基本的な能力を身に付けること。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|------------|---------------|-------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・対話型の授業を心がけるので、質問など積極的な取組みを期待します。 ・授業内で実施する小テストを活用し、授業内容の理解を深めるとともに授業への積極的な参加を促します。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・講義に関する質問、相談等は、講義終了後の教室又は研究室にて随時受け付けます。 ・オフィスアワー時間帯は●曜日●●時～、研究室(●●●)で受け付けます。オフィスアワーの時間帯以外でも必要に応じて対応します。 * 研究室にお越しの際は、事前にメール(●●●●@kuis.ac.jp)などでご相談ください。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ & ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>テキスト以外に必要なに応じてレジュメを配布します。その場合には、各自保管をしておいてください。学習の確認として、ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 『2023年度版 ワザあり全力解説！ゼロからわかるSPI』 | 山口 卓 監修 | 永岡書店 | 978-4522460016 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 『2023年度版7日で作成！SPI [頻出]問題集』 | 就職対策研究会 編集 | 高橋書店 | 978-4471500276 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>1. 定期試験(80%) 2. 平常点20% * 平常点の内訳: 小テスト(10%)、授業への取組み(10%)</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|---|---|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | オリエンテーション(授業の内容と進め方)、小数の計算／四則の混合算／連立方程式 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | まずは教科書を一読し、講義の全体像をイメージしてみましょう。また学習予定範囲の問題にトライしてみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | みなさんが講義で特に分からなかったところなどを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第2回 | 割合・比／金銭計算／速さ・時間・距離 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の学習範囲を読み、予習をしながら、実際に問題を解いてみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | みなさんが講義で特に分からなかったところなどを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第3回 | 流水算・通過算／鶴亀算 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の学習範囲を読み、予習をしながら、実際に問題を解いてみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | みなさんが講義で特に分からなかったところなどを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第4回 | 濃度算／年齢算 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の学習範囲を読み、予習をしながら、実際に問題を解いてみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | みなさんが講義で特に分からなかったところなどを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第5回 | 仕事算・水槽算／集合／推論 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の学習範囲を読み、予習をしながら、実際に問題を解いてみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | みなさんが講義で特に分からなかったところなどを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第6回 | 順列・組み合わせ／確率 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の学習範囲を読み、予習をしながら、実際に問題を解いてみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | みなさんが講義で特に分からなかったところなどを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第7回 | 十の位と一の位の数の計算／時間の範囲 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の学習範囲を読み、予習をしながら、実際に問題を解いてみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | みなさんが講義で特に分からなかったところなどを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第8回 | 電車の発車時間／平均の計算 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の学習範囲を読み、予習をしながら、実際に問題を解いてみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | みなさんが講義で特に分からなかったところなどを中心に復習をしてみましょう(2時間) |

| | | |
|----------------|-----------------|---|
| 第9回 | 表の読み取り／条件と領域 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の学習範囲を読み、予習をしながら、実際に問題を解いてみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | みなさんが講義で特に分からなかったところなどを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第10回 | 物の流れと比率 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の学習範囲を読み、予習をしながら、実際に問題を解いてみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | みなさんが講義で特に分からなかったところなどを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第11回 | 対義語 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の学習範囲を読み、予習をしながら、実際に問題を解いてみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | みなさんが講義で特に分からなかったところなどを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第12回 | 同義語・類語 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の学習範囲を読み、予習をしながら、実際に問題を解いてみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | みなさんが講義で特に分からなかったところなどを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第13回 | 二語の関係 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の学習範囲を読み、予習をしながら、実際に問題を解いてみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | みなさんが講義で特に分からなかったところなどを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第14回 | 文章理解 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の学習範囲を読み、予習をしながら、実際に問題を解いてみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | みなさんが講義で特に分からなかったところなどを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第15回 | SPI適性検査の実際 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | SPI適性検査などについてネットなどで自分で調べてみて、実際に就職活動する際のイメージを掴んでみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | これまでの講義の振り返りを行い、定期試験に向け、わからなかったところを中心に復習をしましょう(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|---|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1GCN-5290-32E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| キャリアデザイン I | 共通 | 3年生・前期 | 2単位 | 選択 | 大多 正人 | ○ |
| 履修の前提条件 | ①「社会基準」としてマナー(時間厳守、挨拶、筆記具・ノート必携など)を実践できること。 ②講演者の話をしっかり聴き、メッセージの要諦を書きとる習慣を身につけておくこと。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>「何のために働くのか?」「働くことで何が得られるのか?」「どんな仕事があるのか?」「働くうえで大切にしたいことは何か?」「社会に出るうえで学生生活を通してどんな準備をすればいいのか?」地場中小企業の経営者6人の講話から「生の声」を聴くことができる貴重な「体験」の機会です。経営理念や指針、ビジネスの現場の具体事例などに触れ、実社会で求められる思考特性・行動特性の理解を深めます。複数の企業を経験の後、キャリアコンサルタントとして多くの大学でのキャリア教育や就業支援を豊富に経験し、更に人事採用コンサルタントして企業の採用支援を担ってきた講師が、経営者と学生との間に立ち理解がより深まるように講演をコーディネートします。また、経営者の講話を受けて学生同士でディスカッションするアクティブラーニングの場を通じ、「学んだこと・発見したことを今後どう活かすか」を共有し、語り合うことで、自分ではキャッチできなかったメッセージに気づく「目からウロコ体験」の機会にもなります。ここでも、学生が相互に気づきを共有し、自分の糧として活かせるように、講師がこれまでのキャリアコンサルタントとしての知識・経験を活かして導きます。これらのアプローチを通して、「社会を知る」ことはもちろん、大学生活をさらに充実したものにし、自身の「キャリアデザイン」に磨きををかけていくことに必ずつながります。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | ○ |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | ○ |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>○社会や組織の中で自分が生きていくために必要な経験・知識とは何か、経営者の生の話を聴き、感じ取り、それを次週のグループ討議でお互いに確認しあう中で、実社会で求められる思考特性・行動特性の理解を深め、自分の行動指針として定着させることを目指します。</p> <p>1)社会を知る～「仕事って、働いてってそういうことか」 2)ビジネスの現場を知る～「想像していたより職場は○○だ」 3)経営者の考えを知る～「会社ってそういうものなのか」 4)仲間の考えを知る～「そんな考え方もあるのか」 5)社会で必要となる資質を磨く～「学生生活を充実させて社会に出る準備をしよう」 6)卒業後のイメージを具体的に描く～「こんなオトナになりたい」「こんな仕事をしたい」</p> | | | | | | |

| | | | |
|---|------------|---------------|-------------------|
| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
| <p>企業経営者の講話の中で、あるいは講話を振り返るグループディスカッションにおいて、学生同士で考え方や価値観を共有する場が設けられます。積極的に意見交換し、刺激を受け合いながら、自身の「キャリアデザインの解像度」を高めてくれることを期待しています。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>授業担当者・ゲストスピーカー(企業経営者)への相談は授業の前後にお願いします。 その他、キャリアに関する相談は随時「キャリアデザインセンター(CDC)まで連絡ください。</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ & ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修チェック表」に各回の授業終了後に都度必要事項を記載し、完成したシートを最終講義終了後試験前日までに、CDCまでメールで提出ください。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 必要に応じて資料を配布 | | | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 随時紹介 | | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>①遅刻・途中退席は原則認めない。 ②ノート・筆記具を持たない学生は受講できない。この科目のためのノートを用意しておくこと。 ③授業中のノートパソコンやスマートフォンなど情報機器端末の使用を禁ずる。 ④「社会基準」に則り、授業を行う。それに従えない場合は講師の判断で退席させる。 ⑤10回以上の出席が単位付与の必要最低条件。試験未受験者は単位付与しない。 ⑥毎回提出するミニツツペーパーで出席を確認し、その記載内容のレベルも平常点に反映する。 ⑦成績評価の方法…平常点(80%)・定期試験(20%) *平常点では、受講態度、遅刻、提出課題の内容、ポートフォリオの提出、グループワーク活動状況を重視。 ⑧定期試験は自筆ノート及び配布資料のみ持ち込み可。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|--|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | オリエンテーション(受講ルール説明、講座の趣旨・進め方) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | シラバスを事前に確認しておく。2年次の必修科目「キャリアデザイン入門Ⅰ」を振り返り、自分なりの職業観について考えを整理しておく。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ポートフォリオ作成を通して、到達目標を明確にし、自身の学びのプランを立てる。中間課題に取り組む。(2.0h) |
| 第2回 | 経営者講演①(地元で活躍されている経営者から直接、自社の経営、自らの生き方について聴きます) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ゲストスピーカーの経歴やその企業の事業活動について事前調査する。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学んだことをノートにまとめて整理し、自身の職業観を磨くことや学生生活の充実に反映させる。(2.0h) |
| 第3回 | アクティブ・ラーニング①(前回講演内容で学んだことについて学生同士でディスカッションし深めます) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回学んだことや気づいたことなどについてディスカッションで伝えられるよう整理しておく。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学生同士で共有した情報や価値観を踏まえ、課題ワークシートを完成させる。(2.0h) |
| 第4回 | 経営者講演②(地元で活躍されている経営者から直接、自社の経営、自らの生き方について聴きます) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ゲストスピーカーの経歴やその企業の事業活動について事前調査する。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学んだことをノートにまとめて整理し、自身の職業観を磨くことや学生生活の充実に反映させる。(2.0h) |
| 第5回 | アクティブ・ラーニング②(前回講演内容で学んだことについて学生同士でディスカッションし深めます) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回学んだことや気づいたことなどについてディスカッションで伝えられるよう整理しておく。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学生同士で共有した情報や価値観を踏まえ、課題ワークシートを完成させる。(2.0h) |
| 第6回 | 経営者講演③(地元で活躍されている経営者から直接、自社の経営、自らの生き方について聴きます) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 次回ゲストスピーカーの経歴やその企業の事業活動について事前調査する。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学んだことをノートにまとめて整理し、自身の職業観を磨くことや学生生活の充実に反映させる。(2.0h) |
| 第7回 | アクティブ・ラーニング③(前回講演内容で学んだことについて学生同士でディスカッションし深めます) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回学んだことや気づいたことなどについてディスカッションで伝えられるよう整理しておく。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学生同士で共有した情報や価値観を踏まえ、課題ワークシートを完成させる。(2.0h) |
| 第8回 | 経営者講演④(地元で活躍されている経営者から直接、自社の経営、自らの生き方について聴きます) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ゲストスピーカーの経歴やその企業の事業活動について事前調査する。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学んだことをノートにまとめて整理し、自身の職業観を磨くことや学生生活の充実に反映させる。(2.0h) |

| | | |
|----------------|---|--|
| 第9回 | アクティブ・ラーニング④(前回講演内容で学んだことについて学生同士でディスカッションし深めます) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回学んだことや気づいたことなどについてディスカッションで伝えられるよう整理しておく。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学生同士で共有した情報や価値観を踏まえ、課題ワークシートを完成させる。(2.0h) |
| 第10回 | 経営者講演⑤(地元で活躍されている経営者から直接、自社の経営、自らの生き方について聴きます) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ゲストスピーカーの経歴やその企業の事業活動について事前調査する。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学んだことをノートにまとめて整理し、自身の職業観を磨くことや学生生活の充実に反映させる。(2.0h) |
| 第11回 | アクティブ・ラーニング⑤(前回講演内容で学んだことについて学生同士でディスカッションし深めます) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回学んだことや気づいたことなどについてディスカッションで伝えられるよう整理しておく。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学生同士で共有した情報や価値観を踏まえ、課題ワークシートを完成させる。(2.0h) |
| 第12回 | 経営者講演⑥(地元で活躍されている経営者から直接、自社の経営、自らの生き方について聴きます) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ゲストスピーカーの経歴やその企業の事業活動について事前調査する。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学んだことをノートにまとめて整理し、自身の職業観を磨くことや学生生活の充実に反映させる。(2.0h) |
| 第13回 | アクティブ・ラーニング⑥(前回講演内容で学んだことについて学生同士でディスカッションし深めます) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回学んだことや気づいたことなどについてディスカッションで伝えられるよう整理しておく。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学生同士で共有した情報や価値観を踏まえ、課題ワークシートを完成させる。(2.0h) |
| 第14回 | IT業界を知る(業界に精通した講師を招き、その実情や企業選びのポイントについて伺います) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ゲストスピーカーの経歴やその企業の事業活動について事前調査する。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学んだことをノートにまとめて整理し、自身の職業観を磨くことや学生生活の充実に反映させる。(2.0h) |
| 第15回 | 企業(業界)研究の進め方 アクティブ・ラーニング⑦(学んだことをどう活かすかそれぞれに考えます) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 自分自身の職業観や仕事を選ぶ基準について整理しておく。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ポートフォリオを完成させ、自身の卒業後のキャリアのイメージを具体化する。(2.0h) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験の実施 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1GCN-5300-32E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| キャリアデザインⅡ | 共通 | 3年生・後期 | 2単位 | 選択 | 大多 正人 | ○ |
| 履修の前提条件 | ①「社会基準」としてマナー(時間厳守、挨拶、筆記具・ノート必携など)を実践できること。 ②実践的なアプローチ(グループワークなど)において能動的に取り組めること。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>キャリアコンサルタントとして多くの大学でのキャリア教育や就業支援に取り組む一方、人事採用コンサルタントして企業の採用支援を担ってきた講師が、進路決定する上で必要な最新の情報を提供するとともに、実践的な就職活動の準備をエスコートします。悔いのない進路選択、納得のいく就職先に進むための準備講座です。キャリア科目の集大成となる「実戦」的なアプローチで、直前に迫った就職活動に自信を持って臨めるよう最新情報でチューンナップしていきます。そのためには、正しくリアルな情報を手にして、コツコツと準備し、模擬体験を重ねることが必要で、それにより自信をもって採用の場に臨むことができます。就職を希望する3年生には是非とも履修して欲しい科目です。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | ○ |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | ○ |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ |
| | 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>1) 就職活動の実像を知り、疑問や不安を解消する。具体的には、 ①就職活動のルールと流れを知る ②マナーや心構えをつくる ③すべきことを明確にする 2) 実践的なワークやアクティビティを通して、「雄気堂々」本番に臨めるように準備する。具体的には、 ④希望する業界・企業を絞り、事前に研究する ⑤自己分析を通して履歴書・エントリーシートを準備する ⑥グループディスカッションや面接の対策をする</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|------------|---------------|-------------------|
| <p>就職活動はすべてが「アクティブ」です。自己分析や履歴書・エントリーシートの作成では、自分自身の「強み・改善点」「学生生活で得たもの」「志望動機」「ビジョン」などを整理し、わかりやすく自己表現することが必要です。また、面接では、それらを全身でアピールすることが求められます。さらに、グループディスカッションでは、意見交換を通して、異なる見解や対立を乗り越えながら集団で意思決定しなければなりません。授業では皆さんがこれから遭遇するだろうと思われる場面を極力「リアルに再現」して、実践的なトレーニングを行います。本番で「後悔しない」よう、積極的に取り組むことを期待します。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>授業担当者への相談は授業の前後にお願いします。その他、キャリアに関する相談は随時「キャリアデザインセンター」(CD C)までご連絡ください。</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>学習の確認: ポートフォリオシート「科目別履修チェック表」に各回の授業終了後に都度必要事項を記載し、完成したシートを最終講義終了後試験前日までに、CDCまでメールで提出ください。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 「キャリアデザインⅡ」テキスト・ワークブック(専用テキスト) | 大多正人・CDC | 九州情報大学作成 | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 随時紹介 | | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>①遅刻・途中退席は原則認めない。 ②テキスト・筆記具を持たない学生は受講できない。 ③授業中のノートパソコンやスマートフォンなど情報機器端末の使用を禁ずる。 ④「社会基準」に則り、授業を行う。それに従えない場合は講師の判断で退席させる。 ⑤10回以上の出席が単位付与の必要最低条件。試験未受験者は単位付与しない。 ⑥毎回提出するミニッツペーパーで出席を確認、その記載内容のレベルも平常点に反映する。 ⑦成績評価の方法…平常点(80%)・定期試験(20%) * 平常点では、受講態度、遅刻、提出課題の内容、ポートフォリオの提出、グループワーク活動状況を重視。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|--|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | オリエンテーション(「就職活動はなんのため?」「どうすればいいのか?」について説明します) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストを準備し、一通り目を通しておく。2年次の必修科目「キャリアデザイン入門Ⅰ」及び3年次前期「キャリアデザインⅠ」(履修者のみ)を振り返り、自分なりの職業観について考えを整理しておく。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ポートフォリオ作成を通して、到達目標を明確にし、自身の学びのプランを立てる。(2.0h) |
| 第2回 | 就活を知る① 就職活動の全体像(講義、ワーク、課題・レポートを作成します) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの読み込みと前回の指示に基づき事前ワークシートを作成する。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | テキストを見直して理解を深めておく。自身で就職活動に関する情報収集を行う。(2.0h) |
| 第3回 | 社会が求める人物像① ビジスマナーの重要性とコミュニケーション、コンピテンシー、モチベーション(講義、体験型ワーク、課題・レポートを作成します) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの読み込みと前回の指示に基づき事前ワークシートを作成する。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | テキストを見直して理解を深めておく。自身で就職活動に関する情報収集を行う。(2.0h) |
| 第4回 | 仕事を知る① 企業研究の手がかり(講義、ワーク、課題・レポートを作成します) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの読み込みと前回の指示に基づき事前ワークシートを作成する。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | テキストを見直して理解を深め、自身の職業観を整理しておく。自身で就職活動に関する情報収集を行う。(2.0h) |
| 第5回 | 仕事を知る② 企業研究の進め方(講義、ワーク、課題・レポートを作成します) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの読み込みと前回の指示に基づき事前ワークシートを作成する。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | テキストを見直して理解を深め、自身の職業観を整理しておく。自身で就職活動に関する情報収集を行う。(2.0h) |
| 第6回 | 仕事を知る③ 後悔しない企業(職場)選び(講義、ワーク、課題・レポートを作成します) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの読み込みと前回の指示に基づき事前ワークシートを作成する。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | テキストを見直して理解を深め、自身の職業観を整理しておく。自身で就職活動に関する情報収集を行う。中間課題に取り組む。(2.0h) |
| 第7回 | 自分を知る① 自己分析ノススメ(講義、ワーク、課題・レポートを作成します) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの読み込みと前回の指示に基づき事前ワークシートを作成する。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | テキストを見直して理解を深めておく。各種自己分析ワークシートに取り組む。(2.0h) |

| | | |
|----------------|--|---|
| 第8回 | 自分を知る② コンピテンシーから考える自己分析(講義、ワーク、課題・レポートを作成します) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの読み込みと前回の指示に基づき事前ワークシートを作成する。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | テキストを見直して理解を深めておく。各種自己分析ワークシートに取り組む。(2.0h) |
| 第9回 | 履歴書・エントリーシート① 自己PRと短所(講義、ワーク、課題・レポートを作成します) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの読み込みと前回の指示に基づき事前ワークシートを作成する。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | テキストを見直して理解を深めておく。履歴書・エントリーシート作成に取り組む。(2.0h) |
| 第10回 | 履歴書・エントリーシート② 学生時代に力を注いだこと(講義、ワーク、課題・レポートを作成します) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの読み込みと前回の指示に基づき事前ワークシートを作成する。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | テキストを見直して理解を深めておく。履歴書・エントリーシート作成に取り組む。(2.0h) |
| 第11回 | 履歴書・エントリーシート③ 志望動機、履歴欄の書き方(講義、ワーク、課題・レポートを作成します) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの読み込みと前回の指示に基づき事前ワークシートを作成する。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | テキストを見直して理解を深めておく。履歴書・エントリーシート作成に取り組む。(2.0h) |
| 第12回 | 就活を知る② 内定者による就職活動報告会(講義、ワーク、課題・レポートを作成します) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | インターンシップに参加するなど自身で就職活動に関する情報収集を行う。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 自身の就職準備に向けた行動計画を具体的に立てる。(2.0h) |
| 第13回 | グループディスカッション② 実践編(講義、ワーク、課題・レポートを作成します) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの読み込みを通して、ディスカッションへの臨み方をシミュレーションする。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 自分たちでグループディスカッションやグループワークの経験を積む。(2.0h) |
| 第14回 | 面接① 基本編(講義、ワーク、課題・レポートを作成します) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの読み込みを通して、面接への臨み方をあらかじめシミュレーションする。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で目撃・体験したことを踏まえ、改めてテキストを読み込み、面接への臨み方をシミュレーションする。(2.0h) |
| 第15回 | 面接② 実践編(講義、ワーク、課題・レポートを作成します) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 自身のアピール内容を整理し、表現できるよう準備しておく。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ポートフォリオを完成させ、提出する。自分たちで面接の経験を積む。(2.0h) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験の実施 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|---|
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 | |
| 特別講義(キャリア)基礎教養(公務員・警察官・消防士・教員採用試験対策) | 219～ | 3年生・前期 | 2単位 | 選択 | 坂上 宏 | | |
| 履修の前提条件 | ①公務員・警察官・消防士・教員を志望していること②作文「自分はなぜ公務員・警察官・消防士・教員になりたいのか」(400字以上、A4、Wordで入力)を第1回目の授業の前にGoogleクラスルームへ必ず提出すること。提出しない者の履修は認めない(履修規程第5条第3項による)。※禁止事項:私語。正当な理由のない遅刻、許可のない入退室。携帯電話の使用。その他指定する事項。4年生の受講も可能だが、この科目は新教育課程(2019年度入学生～)に配置されているため単位は付与できない。 | | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | | |
| 地方公務員初級・警察官3類・消防士3類・教員採用の教養試験のうちで、文系分野を中心にして過去問題・予想問題に取り組みます。授業では学生どうして問題を解きあうことに主眼を置き、基礎的な教養力の向上を目指します。 | | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | ○ | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ | |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | ○ | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | | | ○ |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | | |
| この授業の目標は次の二つです。第一に過去問題・予想問題の読解を通じて、基礎的な教養力の向上を目指す。第二に過去問題・予想問題の読解を通じて、地方公務員初級・警察官3類・消防士3類・教員採用試験に合格できる力を修得する。 | | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|------------|---------------|-------------------|
| 学生どうして問題を解きあい、説明しあうようなゼミナール形式の授業を目指します。積極的な参加が望まれます。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 連絡、問い合わせ、相談等は研究室(363)およびメール(sakagami@g.kiis.ac.jp)にて随時受け付けます。提出物はGoogleクラスルームへ出してください。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ & ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 学習の確認:ポートフォリオ & ルーブリックに必要事項を記入して、指定する日時までに提出してください。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| プリント配布 | | | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 地方初級教養試験過去問350(東京アカデミー) 教員採用試験対策問題集(東京アカデミー) 警察官Ⅲ類・B過去問題集(成美堂出版) 消防官3類・B過去問題集(成美堂出版) | | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 成績評価の方法:試験45%、毎回の練習問題45%、平常点10%(毎回の授業の事前学習と事後学習の提出、ポートフォリオ & ルーブリックの提出、その他)。 成績評価の基準:①定期試験の正答率が60%以上②毎回の練習問題の評価 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|-----------------------|------------------------------------|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 授業の方針など、練習問題と解説:プリント1 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 配布プリントを予習して、分からない点を明確にしておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 不正答だった問題を中心に、配布プリントを復習すること。(2時間) |
| 第2回 | 練習問題と解説:プリント2 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 配布プリントを予習して、分からない点を明確にしておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 不正答だった問題を中心に、配布プリントを復習すること。(2時間) |
| 第3回 | 練習問題と解説:プリント3 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 配布プリントを予習して、分からない点を明確にしておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 不正答だった問題を中心に、配布プリントを復習すること。(2時間) |
| 第4回 | 練習問題と解説:プリント4 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 配布プリントを予習して、分からない点を明確にしておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 不正答だった問題を中心に、配布プリントを復習すること。(2時間) |
| 第5回 | 練習問題と解説 :プリント5 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 配布プリントを予習して、分からない点を明確にしておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 不正答だった問題を中心に、配布プリントを復習すること。(2時間) |
| 第6回 | 練習問題と解説 :プリント6 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 配布プリントを予習して、分からない点を明確にしておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 不正答だった問題を中心に、配布プリントを復習すること。(2時間) |
| 第7回 | 練習問題と解説 :プリント7 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 配布プリントを予習して、分からない点を明確にしておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 不正答だった問題を中心に、配布プリントを復習すること。(2時間) |
| 第8回 | 練習問題と解説 :プリント8 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 配布プリントを予習して、分からない点を明確にしておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 不正答だった問題を中心に、配布プリントを復習すること。(2時間) |

| | | |
|----------------|--------------------------|------------------------------------|
| 第9回 | 練習問題と解説 :プリント9 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 配布プリントを予習して、分からない点を明確にしておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 不正答だった問題を中心に、配布プリントを復習すること。(2時間) |
| 第10回 | 練習問題と解説 :プリント10 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 配布プリントを予習して、分からない点を明確にしておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 不正答だった問題を中心に、配布プリントを復習すること。(2時間) |
| 第11回 | 練習問題と解説 :プリント11 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 配布プリントを予習して、分からない点を明確にしておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 不正答だった問題を中心に、配布プリントを復習すること。(2時間) |
| 第12回 | 練習問題と解説 :プリント12 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 配布プリントを予習して、分からない点を明確にしておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 不正答だった問題を中心に、配布プリントを復習すること。(2時間) |
| 第13回 | 練習問題と解説 :プリント13 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 配布プリントを予習して、分からない点を明確にしておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 不正答だった問題を中心に、配布プリントを復習すること。(2時間) |
| 第14回 | 練習問題と解説 :プリント14 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 配布プリントを予習して、分からない点を明確にしておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 不正答だった問題を中心に、配布プリントを復習すること。(2時間) |
| 第15回 | 練習問題と解説 :プリント15 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 配布プリントを予習して、分からない点を明確にしておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 不正答だった問題を中心に、配布プリントを復習すること。(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験、ポートフォリオ & ルーブリック作成等 | |

專門教育科目
(兩学科共通)

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|---|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1BMB-5331-12C | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 経営学総論 I | 219～ | 1年生・前期 | 2単位 | 必修 | 遠藤 真紀 | ○ |
| 経営学入門 | ～218 | | | | | |
| 履修の前提条件 | 両学科とも必修科目であり、IT人材となるための基礎として、経営情報および企業の経営・マネジメントに関心を持っている事。 日頃から社会(世の中)の出来事や経済・企業に関するニュース等に関心を持つ事。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>中小企業診断士として、企業の経営戦略立案や事業計画作成の支援等、経営コンサルタントの経験を持つ教員が担当します。企業経営に関する基本理論を体系的に理解するとともに、その理論の背景や意義などについても考察していきます。テキストを基に、伝統的な理論から現代の経営学まで、その形成過程や今日的課題について講義を進めます。現代企業の経営は、情報システムやネットワーク技術との関わりで進化していることから、これまでの実務経験を踏まえた実践的な議論を展開していきます。</p> <p>「経営学総論 I (経営学入門)」では、企業と社会についての基本的な視点から考察を進めます。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | ○ |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>1. 生活者としての企業との関わり方、近現代における企業の発展の歴史、企業がもたらす社会への貢献と負の影響の側面の理解。</p> <p>2. 企業を取り巻く大きな環境の変化の理解。</p> <p>3. 個人個人が、企業との関わりの中でどのようにセルフコントロールしていくべきかの理解。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|------------|---------------|-------------------|
| <p>基本的に対話型の講義になります。よってただ単に出席し、講義を聴いているだけでは単位取得できません。講義中に行われる教員からの質問等へ積極的に対応し、自身の意見を発言していくことが求められます。また企業経営や経営戦略に関するビデオ聴講による演習等を行います。聴講したビデオに基づき、ディスカッションを行うため、ビデオ内容の聞き取り力、メモ力、聴講した内容や関連情報との考察力を養っていきます。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>教員への講義内容および企業情報や企業経営等に関する質問および関連資格の取得方法等を含む学生生活全般に関するアドバイス・相談等は研究室で対応します。オフィスアワー以外の不在時には、研究室のメッセージボードやEメール(endo@kiis.ac.jp)等を活用してください。自主性を重要視するので「来る者拒まず、去る者追わず」のスタンスで対応しますが、「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」という格言の通りです。積極的な教員へのコンタクトおよびコミュニケーションが期待されます。</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ & ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>希望者には、必要に応じて、販売士(3級～1級)、経営学検定(マネジメント検定:初級、中級、上級)、中小企業診断士等、経営学に関連する資格試験の受験指導を行います。 宿題となる課題レポートの提出以外に、資格試験への積極的な取り組みや関連するレポートおよび学習記録(ポートフォリオ等)の提出は平常点として加味します。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 初めて学ぶ人のための 経営学入門 バージョン2 | 片岡信之 他 | 文真堂ブックス | 978-4-8309-4970-8 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 経営学要論 | 岸川善光 | 同文館出版 | 978-4-4953-9010-5 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>成績評価方法: 定期試験、平常点(出席率、ディスカッションへの参加、各種レポート提出、資格試験への取り組み、ポートフォリオ提出、教員とのコミュニケーションなど学習に対する積極性)等を総合的に考慮して評価します。</p> <p>評価基準: 学習に対する積極性および環境変化と企業の役割・機能などについて基礎的な理解が図られている。自身と企業とのかかわりが理解でき、自律的・自発的な行動への判断基準が持っている。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|--------------------------------|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 講義の目的と進め方(講義内容のアウトラインの理解) | |
| | 1. 生活を支える企業 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの事前確認および企業経営等に関連する事例などがWEBや雑誌等に多く掲載されているため、積極的にアクセスし、自分の挑戦材料として頭に入れておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき、ビデオ演習を含む、講義内容の復習(2時間) |
| 第2回 | 2. 環境の変化と企業経営 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき、ビデオ演習を含む、講義内容の復習(2時間) |
| 第3回 | 3. 現代の企業社会と経営学を学ぶ意義 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき、ビデオ演習を含む、講義内容の復習(2時間) |
| 第4回 | 4. 企業は誰が所有し、経営しているのか | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき、ビデオ演習を含む、講義内容の復習(2時間) |
| 第5回 | 5. 企業は何を目指して活動しているのか | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき、ビデオ演習を含む、講義内容の復習(2時間) |
| 第6回 | 6. 企業が利用できる経営資源は、どのようなものがあるのか | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき、ビデオ演習を含む、講義内容の復習(2時間) |
| 第7回 | 7. 企業はどのようにして経営し、組織をつくるのか | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき、ビデオ演習を含む、講義内容の復習(2時間) |
| 第8回 | 8. 情報と意思決定は企業の組織をどのように動かしているのか | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき、ビデオ演習を含む、講義内容の復習(2時間) |

| | | |
|----------------|------------------------------------|-----------------------------------|
| 第9回 | 10. 企業はどのように競争し合い、そして互いに協力しあっているのか | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき、ビデオ演習を含む、講義内容の復習(2時間) |
| 第10回 | 11. 企業はどのようにして製品やサービスを販売するのか | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき、ビデオ演習を含む、講義内容の復習(2時間) |
| 第11回 | 11. 企業はどのようにして製品を開発し、生産しているのか | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき、ビデオ演習を含む、講義内容の復習(2時間) |
| 第12回 | 12. 企業はどのようにして資本を調達し、資金を運用するのか | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき、ビデオ演習を含む、講義内容の復習(2時間) |
| 第13回 | 13. 企業はどのようにして人材を活用するのか | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき、ビデオ演習を含む、講義内容の復習(2時間) |
| 第14回 | 14. 企業はどのようにして文化をはぐくむのか | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき、ビデオ演習を含む、講義内容の復習(2時間) |
| 第15回 | 講義のまとめ(講義内容全体の総括) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき、ビデオ演習を含む、講義内容の復習(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|---|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1BMB-5220-12E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 会計学入門 | 221～ | 1年生・前期 | 2単位 | 必修 | 宮崎 裕士 | |
| | 219・220 | | | 選択 | | |
| | ～218 | | | 必修 | | |
| 履修の前提条件 | <p>会計には計算がつきものになりますので、電卓は必ず持参してください。そうはいつでも、基本的には足し算、引き算、掛け算しか使いませんので計算自体は簡単です。力を抜いて履修していただければと思います。ただし、講義を受ける上でのマナーは守ってください。</p> <p>なお、会計学入門の履修者は、必ず簿記Ⅰ（前期）と簿記Ⅱ（後期）を履修するようにしてください。</p> | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>会計学とは何を学ぶのか、どのように社会で役に立っているのか、学修によって何ができるようになるのかを網羅的に学習していきます。また、簿記や他の会計関係の講義への橋渡しになるスタートアップの授業となります。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | ○ |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>会計学の知識は、現在、ビジネスに関わる人にとっては、身に付けておかねばならない重要な常識になっています。本講義は、このような社会的要請に応えるため、下記の目標を設定しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会計学分野のすべての科目に通じる基礎的な知識を習得すること。 ・習得した基礎的な知識を通じて、企業経営に参画するビジネスパーソンとしての手掛かりを得ること。 ・より発展したものとして、簿記などの資格取得にトライする意欲を養うこと。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|------------|---------------|-------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・対話型の授業を心がけるので、質問など積極的な取組みを期待します。 ・授業内で適宜実施する小テスト・レポートを活用し、授業内容の理解を深めるとともに授業への積極的な参加を促します。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・講義に関する質問、相談等は、講義終了後の教室又は研究室にて随時受け付けます。 ・オフィスアワー時間帯に受け付けます。オフィスアワーの時間帯以外でも必要に応じて対応します。 * 研究室にお越しの際は、事前にメールなどでご相談ください。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオの作成と提出)について | | | |
| <p>学習の確認として、ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| スタートアップ会計学 第2版 | 上野清貴 編著 | 同文館出版 | 978-4495203221 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 税理士・会計士・簿記検定 はじめての会計基準 [第2版] | 並木秀明 | 中央経済社 | 978-4502350214 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>1.定期試験(60%) 2.平常点40% * 平常点の内訳: 各回の小テスト(30%)、授業への取組み(10%)</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|--|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | オリエンテーション(授業の内容と進め方)・なぜ会計を学ぶのか(第2章相当)? | |
| | 事前学習 (内容・時間) | まずは教科書を一読し、講義の全体像をイメージしてみましょう。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第2回 | 第1章 会計ってなに—くらしと会計 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第1章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第3回 | 第3章 会計はどう利用するの—財務分析 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第3章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第4回 | 第4章 企業の成績はどうやってみるの—財務諸表 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第4章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第5回 | 第5章 会計は経営にどう役立つの—管理会計 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第5章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第6回 | 第6章 モノがいくらでできたかはどうやって決まるの—原価計算 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第6章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第7回 | 第7章 会計情報はどうやってつくられるの—簿記入門 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第7章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう(2時間) |

| | | |
|----------------|--|---|
| 第8回 | 第8章 会計制度はどうなっているの—制度会計 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第8章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第9回 | 第9章 財務諸表は信頼できるの—財務諸表監査 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第9章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第10回 | 第10章 会社の経営にどう役立つの—管理会計 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第10章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第11回 | 第11章 グローバル経済における会計ルールってなに—国際会計 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第11章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第12回 | 第12章 持続可能な社会づくりに会計はどう貢献できるの—環境会計・CSR会計 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第12章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第13回 | 第13章 ボランティア活動にも儲けが必要なNPOの会計 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第13章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第14回 | 第14章 自治体の会計はどうなっているの—公会計 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第14章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第15回 | 第15章 簿記・会計はどこからやってきたの—簿記・会計史・これまでのまとめ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第15章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | これまでの講義の振り返りを行い、定期試験に向け、わからなかったところを中心に復習をしましょう(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----------------|---------------------|----------|
| 1BMB-5830-12C | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 簿記 I | 221～ 経営情報学科 | 1年生・前期 | 2単位 | 経・必 NW・ 選 | 岩下 昌美 | |
| 履修の前提条件 | テキストを購入すること。使用するテキストは市販されていませんので、4月7日、8日のオリエンテーションの空き時間を利用して岩下(270号室)研究室で購入してください。12桁程度の電卓を準備してください。初回に推奨電卓のご案内をいたします。連続した積み重ねの授業ですから欠席をしないこと。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>ビジネス社会において必要不可欠といわれる会計の知識、その基礎となっているのが、複式簿記の原理と技術です。複式簿記とは、企業の日々の経営活動を記録・計算・整理して経営成績と財政状態を明らかにする技能のことです。</p> <p>本講義では、小規模な株式会社を前提した複式簿記の原理と技術の基礎的知識を習得します。企業の経営活動の記帳方法、簿記一巡の手続き、決算資料(財務諸表)の作成について学習します。日本商工会議所主催の簿記検定3級の内容です。後期の「簿記Ⅱ」の講義内容を含めて簿記検定3級の範囲を網羅しますので、必ず受講をするようにしてください。簿記知識の習得は積み重ねです。そのためには毎回の講義に必ず出席することがとても重要です。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>本学では4年間で簿記検定3級、全員取得を掲げています。そこで本講義では、簿記一巡の手続きを理解し、小規模な株式会社における帳簿記帳の基礎的知識を習得することを目標とします。</p> <p>そして「簿記Ⅰ」「簿記Ⅱ」の履修により日本商工会議所簿記検定3級取得を目指します。簿記検定のペーパー試験(統一試験)は6月、11月、2月(翌年)に実施されます。今年度(2021.4月)からWEB検定(受験日自由選択)も実施されることになりました。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|------------|---|-------------------|
| <p>授業は対話型を心がけ進めていきます。不明な点や疑問などが生じた時は積極的に発言してください。授業終了時には毎回の理解度をチェックするため、ミニテストを実施します。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>連絡、問い合わせ、相談などは2号館2階270室の研究室にてオフィスアワー時(年度はじめに掲示)、あるいは電子メール(アドレス:masami-i@g.kiis.ac.jp)で受け付けます。</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入して前期定期試験日に岩下までメールで提出してください。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 『2021 日商簿記3級テキスト』, 1,500円 | 岩下昌美 | 市販されていませんので、4月7日、8日のオリエンテーションの空き時間を利用して岩下(270号室)研究室で購入すること。 | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| | | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>成績評価の方法:定期試験(70%)、平常点(15%)、復習課題(15%)。平常点は科目別履修状況チェック表の提出状況、毎回の授業最後の成果物提出状況で判断する。</p> <p>成績評価の基準:①3級の取引の仕訳ができるか。②試算表が作成できるか。③伝票が起票できるか。④決算整理事項から精算表および財務諸表(貸借対照表・損益計算書)が作成できるか。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|--|---------------------------------------|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | オリエンテーション(講義の進め方, 講義内容, 受講上の諸注意, 評価方法など)を確認します。 第1章 簿記の基礎(簿記の意味, 目的, 種類, 簿記一巡の手続, 簿記上の取引, 5大要素)について学習します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの第1章を一読してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布する復習問題を解いてください。(2時間) |
| 第2回 | 第1章 簿記の基礎(「貸借対照表」と「損益計算書」の構造)について学習します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの第1章を一読してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。(2時間) |
| 第3回 | 第2章 取引と仕訳(取引の種類と仕訳のルール)について学習します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの第2章を一読してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。(2時間) |
| 第4回 | 第2章 取引と仕訳(勘定記入の方法と帳簿の種類)について学習します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの第2章を一読してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。(2時間) |
| 第5回 | 第3章 株式会社の設立・剰余金の配当, 資金の借入れ・貸付けの会計処理について学習します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの第3章を一読してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。(2時間) |
| 第6回 | 第4章 商品売買(商品の仕入れ, 売上げ, 付随費用, 請求書・領収証など証憑類)の会計処理について学習します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの第4章を一読してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。(2時間) |
| 第7回 | 第5章 現金・預金・小口現金の会計処理について学習します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの第5章を一読してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。(2時間) |
| 第8回 | 第6章 掛け取引(売掛金, 買掛金, 貸倒れ, 貸倒引当金)の会計処理について学習します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの第6章を一読してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。(2時間) |

| | | |
|----------------|---|---------------------------------------|
| 第9回 | 第7章 手形取引と電子記録債権・債務(手形の振出しや受取り, 電子記録債権・債務の発生や消滅)の会計処理について学習します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの第7章を一読してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。(2時間) |
| 第10回 | 第8章 固定資産(種類, 取得, 減価償却, 売却)の会計処理について学習します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの第8章を一読してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。(2時間) |
| 第11回 | 第9章 その他の取引(債権・債務, 未収入金と未払金, 仮払金と前受金, 立替金と預り金, 受取商品券, 差入保証金)の会計処理について学習します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの第9章を一読してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。(2時間) |
| 第12回 | 第10章 税金(税金の種類, 法人税等, 消費税)の会計処理について学習します。 第11章 伝票会計(3伝票制, 入金伝票・出金伝票・振替伝票の作成)について学習します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの第10章, 第11章を一読してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。(2時間) |
| 第13回 | 第12章 試算表(勘定記入の検証, 合計試算表・残高試算表・合計残高試算表の作成)について学習します。 第13章 決算(決算の意義, 手続き, 決算整理)の会計処理について学習します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの第12章, 第13章を一読してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。(2時間) |
| 第14回 | 第13章 決算(商品の棚卸し, 売上原価の算定, 費用・収益の前払い・前受けと未払い・未収)の会計処理について学習します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの第13章を一読してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。(2時間) |
| 第15回 | 第13章 決算(精算表および財務諸表の作成, 元帳の締切りと繰越試算表の作成)について学習します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの第13章を一読してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 60分の定期試験(電卓持ち込み可) | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|---|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1BMB-5830-12C | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 簿記 I | 221～ 情報ネットワーク学科 | 1年生・前期 | 2単位 | 選択 | 長友 陸富 | |
| 初級簿記 | 219・220 | | | 必修 | | |
| 簿記 I | ～218 | | | 選択 | | |
| 履修の前提条件 | <p>本学では、日本商工会議所主催の簿記検定3級の取得を大きな目的としています。この簿記を学んだことのない学生も基礎基本をしっかりと学習することで、簿記3級の内容を理解し、簿記検定3級の検定に合格できると思います。「大原で合格する日商簿記3級」のCHAPTER0～11を読み、その内容を確認し、学習項目の流れを理解しておきましょう。本講義では、簿記検定3級の内容を学習項目ごとに段階的に修得するために、簿記の基礎基本の内容をしっかりと繰り返し学習します。</p> <p>なお、計算することがありますので、電卓を購入しておいてください。</p> <p>また、配布プリント等をとじる紙ファイルを準備してください。なお、講義中の注意事項は以下の通りです。</p> <p>1 私語はしない 2 時間を守る 3 飲食禁止(ペットボトルや食べ物など机の上に置かない) 4 携帯電話の利用は禁止です。</p> <p>なお、ネットワーク学科の学生で、前期の会計学入門履修者は、簿記検定3級合格のために、必ず簿記 I (前期)と簿記 II (後期)を履修してください。</p> | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>企業を経営管理するためには会計情報の知識(会社がどういった経営状態か)が必要です。必要な情報として会計情報を正確に理解するためには、簿記を理解することが不可欠です。経営情報学部を卒業する学生は、将来企業の経営管理に関わる可能性が高いことを考えると、簿記の知識習得は必須となります。本科目では、企業が行う経済活動により発生する、資産、負債、純資産、費用、収益の増減を一定のルールに従って、記録・計算・整理することを実践します。最終的に簿記の基礎基本の学習修得を確認する、日本商工会議所簿記検定3級合格を目指します。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| | 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>①簿記の基本概念及び記帳計算の基礎を理解できる。</p> <p>②日常の手続きを理解し、仕訳及び勘定記入ができ、決算の意味を理解し、試算表の作成ができる。</p> <p>③簿記一巡の手続きを理解し、財務諸表作成までの計算構造を理解できる。</p> <p>④簿記の機能と役割を理解させ、簿記への興味関心を持たせ、学習習慣と学ぶ姿勢を確立し、日本商工会議所簿記検定3級合格を目指します。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|------------|---------------|--------------------|
| <p>学生からの積極的な発言を期待し、毎回授業中に知識の定着を図るための口頭試問を実施します。また、学生自ら段階別の問題を作成し解答の具体的な説明を行います。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>連絡、問い合わせ、相談等は研究室(556)にて随時受け付けます。連絡先はnagatomoy@kiis.ac.jpです。なお、出勤日は火曜日、水曜日、木曜日です。</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオの作成と提出)について | | | |
| <p>外部試験:日本商工会議所主催の簿記検定3級を必ず受験します。(検定月は、6月、11月、2月です。検定料は¥2,850です。CDC就職課から申し込みの案内が2か月前にあります。)</p> <p>学習の確認:ポートフォリオシートの作成に関しては講義中に説明します。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 大原で合格する日商簿記3級 ¥1,210 | 資格の大原 | 中央経済社 | 978-4-502-30111-7 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 日商簿記3級過去問への ステップアップ問題集 ¥1,320 | 資格の大原 | 大原出版 | 978-4-864-86-620-0 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>成績評価の方法</p> <p>(1)講義回数数の3分の2以上の出席を必須条件とします。</p> <p>(2)定期試験50%</p> <p>口頭試問10%</p> <p>提出物 15%</p> <p>簿記コンテスト及び日本商工会議所簿記検定受験15%</p> <p>学習意欲10%</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | |
|------------------------|--|
| テーマ Theme | |
| 第1回 | 簿記で学ぶこと(簿記の基本を学ぶための、資産、負債、純資産、費用、収益について説明) また、学習に対する取り組み姿勢や時間管理、注意事項など受講の在り方についての説明を行います。 |
| | 事前学習 (内容・時間) 簿記で学ぶこと CHAPTER 0(2～8ページ)までを読、貸借対照表項目と損益計算書項目を記憶すること。(2時間)ステップアップ問題集(P4～7) 事後学習 (内容・時間) CHAPTER 0(P2～P8)で学んだことを復習し、配布プリントを再確認すること。(2時間)ステップアップ問題集(P4～7) |
| 第2回 | 簿記の意味と目的、意義、必要性等を興味深く説明し、目的を達成する財務諸表として貸借対照表及び損益計算書の作成を行います。(貸借対照表から企業の必要な資金の状態が分かり、記載するカテゴリーとして、資産、負債、純資産の分類を理解し、カテゴリーの中の勘定科目を記憶します。 |
| | 事前学習 (内容・時間) 貸借対照表カテゴリーのそれぞれの勘定科目を区別して記憶すること。教科書P4～P5までの勘定科目及び配布プリントの勘定科目を明確に記憶し作成できること。ステップアップ問題集(P4～7)(2時間) 事後学習 (内容・時間) 講義中に学習した内容を教科書と配布プリントでしっかり振り返り、カテゴリー別の勘定科目を確認すること。ステップアップ問題集(P4～7)(2時間) |
| 第3回 | 財務諸表の1つ損益計算書のカテゴリーの中のそれぞれの勘定科目を区別して、内容理解と共に記憶すること。また、損益計算書の算式を理解すること。(P6～8)ステップアップ問題集(P2～5) |
| | 事前学習 (内容・時間) 教科書P4～5の確認とP6～8までをしっかりと確認し学習内容の把握をすること。ステップアップ問題集(P2～5)(2時間) 事後学習 (内容・時間) 貸借対照表カテゴリーのそれぞれの勘定科目の理解、損益計算書のカテゴリーのそれぞれの勘定科目の理解を、配布プリントで確認しそれぞれの表を作成できるようにする。ステップアップ問題集(P2～5)(2時間) |
| 第4回 | 貸借対照表に関する勘定科目と、損益計算書に関する勘定科目の分類の説明と取引の意味を踏まえて仕訳を行い、それぞれの勘定への転記を教科書、配布プリント及び問題集で説明する。(P10～16) |
| | 事前学習 (内容・時間) 貸借対照表項目と損益計算書項目の分類と簿記上の取引について事前学習を行う。ステップアップ問題集(4～10)(2時間) 事後学習 (内容・時間) 貸借対照表及び損益計算書に関する勘定科目を区別して配布プリントを参考に理解し、簿記上の取引を見分け仕訳を行い、各勘定への転記を理解する。ステップアップ問題集(P4～10)(2時間) |
| 第5回 | 各勘定への転記が正しいかどうかの判断を行うために試算表を作成する。一定期間の範囲の中で取引と判断できる取引を仕訳し、それぞれの勘定へ転記する。この一連の流れが正しいかどうか判断するための資料作成を説明する。(P10～18)ステップアップ問題集(P11～17) |
| | 事前学習 (内容・時間) 各項目の勘定科目の意味と分類をしっかりと理解し、取引か取引でないかの判断をしたうえで仕訳を行い、それぞれの勘定に転記する意味を考え、記入方法を理解しておくこと。(P10～18)(2時間) 事後学習 (内容・時間) 取引か取引でないかの判断を行い、仕訳しそれぞれの勘定に転記して、その一連の行為が正しいか判断する試算表の作成を理解する。ステップアップ問題集(P11～17)(2時間) |
| 第6回 | 商品売買に関する記帳を3分法で行う説明を行います。繰越商品勘定と仕入勘定と売上勘定の関係を説明し、繰越商品と仕入勘定は原価が記帳されている意味を理解させる。また、現金で商品を買入する、掛取引で売入する場合の処理方法、並びに返品や値引きを受ける時やした場合の会計処理、商品購入時の引取り費用の会計処理、販売時の発送費の会計処理方法について説明する。(P20～27)ステップアップ問題集(P14～20) |
| | 事前学習 (内容・時間) 3分法の意味や会計処理、掛取引の会計処理、値引き返品の会計処理、引き取り費用及び発送費の会計処理について意味の理解をしておく。(P20～27)ステップアップ問題集(P14～20)(2時間) 事後学習 (内容・時間) 商品購入の会計処理、商品売入の会計処理に関して現金使用時、掛取り引き時、商品購入時の引取運賃や商品販売時の発送費の会計処理を配布プリントで確認し理解を深める。ステップアップ問題集(P14～20)(2時間) |
| 第7回 | 商品売買契約を確実に履行するため、商品受け渡し前に代金の一部を内金または手付金とする会計処理、ギフトカードや商店街や自治体が発行したものなど、売上取引に関連して、他者発行の商品券の会計処理について説明します。(P28～34) |
| | 事前学習 (内容・時間) 内金や手付金の会計処理や商品券の会計処理の方法について、その内容を把握しておくこと。また、前回の内容の確認をしておくこと。ステップアップ問題集(P14～20)(2時間) 事後学習 (内容・時間) 第7回講義内容、前払い金と前受け金の簿記上の意味を理解し、その会計処理について配布プリントで確認理解を深めておくこと。ステップアップ問題集(P14～20)(2時間) |
| 第8回 | 簿記上の現金とは何か、その会計処理について、また、現金勘定の帳簿残高と実際有高との不一致の場合の会計処理について、プリントを配布し説明します。(P36～41) |
| | 事前学習 (内容・時間) 内金や手付金の確認と同時に、現金勘定の会計処理についてその内容を把握しておくこと。また、現金過不足の意味や会計処理を把握しておくこと。(P36～41)(2時間) 事後学習 (内容・時間) 第8回講義内容、現金勘定の会計処理及び現金過不足の意味や会計処理について勘定記入を含めて、配布プリント及び問題集で確認し理解を深める。ステップアップ問題集(P21～23)(2時間) |

| | |
|----------------|---|
| 第9回 | 支払手段としての普通預金、当座預金勘定の意味と会計処理及び約束手形の意味と会計処理、電子記録債権債務の会計処理について、教科書やプリントを配布し説明します。(P42～52) |
| | 事前学習 (内容・時間) 支払手段としての現金の理解を確認したうえで、現金以外の支払い手段の内容について理解をしておくこと。(P42～52)ステップアップ問題集(P24～32)(2時間) 事後学習 (内容・時間) 支払手段としての普通預金及び当座預金、約束手形の意味や処理方法、そして勘定記入を配布プリントで理解を深めること。ステップアップ問題集(P24～32)(2時間) |
| 第10回 | 有形固定資産の購入、改善と改良の会計処理、クレジット取引の会計処理、金銭を貸す場合や借りる場合の会計処理について教科書及び配布プリントに従って説明します。(P54～62) |
| | 事前学習 (内容・時間) 約束手形の確認をプリントで行ったうえで、有形固定資産の会計処理とクレジット売掛金の会計処理について配布プリントで理解を深める。(P54～62)(2時間) 事後学習 (内容・時間) 有形固定資産の会計処理と金銭の貸借の会計処理、クレジット売買の会計処理の理解をプリント、問題集を使って深めること。ステップアップ問題集(P33～38)(2時間) |
| 第11回 | 金銭の貸し付けや借り入れを行うとき、手形を用いる場合の会計処理、商品以外の売買取引で代金を後日受取る場合と後日支払う場合の会計処理、従業員のために一時的に金銭を立て替えた場合、給料の源泉所得税を差し引いて一時的に預かり、後日税務署に支払う会計処理をプリント等で説明します。(P63～70) |
| | 事前学習 (内容・時間) 有形固定資産の会計処理と金銭の貸借の会計処理、クレジット売買の会計処理の理解をプリントを使って深める。また、給料の会計処理や手形による金銭貸借等について理解しておく。(63～70)ステップアップ問題集(P33～40)(2時間) 事後学習 (内容・時間) 手形を用いて金銭貸借の会計処理や商品以外の掛取引の会計処理、給料の会計処理についてプリントなどで理解を深めること。ステップアップ問題集(P33～40)(2時間) |
| 第12回 | 従業員の出張に関する会計処理、従業員が出張中に取引先から金銭を送金してくる場合の会計処理契約を実行する担保として債務者が債権者に対して差し入れた保証金についての会計処理、消費税の会計処理について(間接税)プリントを交えて説明します。(P71～78)ステップアップ問題集(P36～38) |
| | 事前学習 (内容・時間) 手形を用いて金銭貸借の会計処理や商品以外の掛取引の会計処理、給料の会計処理についてプリントなどで理解を深め、また、従業員の出張に関する会計処理を理解しておく。ステップアップ問題集(P33～38)(2時間) 事後学習 (内容・時間) 出張に関する会計処理、消費税の会計処理について、配布プリントで確認し、理解を深める。ステップアップ問題集(P33～38)(2時間) |
| 第13回 | 主要簿と補助簿の記入方法、仕訳帳の記入方法、総勘定元帳の記入方法、受取手形記入帳や支払手形記入帳、仕入帳や売上帳についてプリントを配布し、記帳練習を繰り返し説明します。(P96～108) |
| | 事前学習 (内容・時間) 出張に関する会計処理、消費税の会計処理について、配布プリントで確認し、理解を深める。また、主要簿や補助簿、仕入帳、売上帳、受取手形記入帳などの理解をしておく。(2時間) 事後学習 (内容・時間) 総勘定元帳や仕入帳、受取手形記入帳や支払手形記入帳、仕入帳、売上帳の記入についてプリントなどで繰り返し記入方法を理解する。(P96～108)ステップアップ問題集(P59～62・66・67・68)(2時間) |
| 第14回 | 売掛金元帳、買掛金元帳の記載方法、商品有高帳の記載方法についてプリントを配布して説明します。(P109～116)ステップアップ問題集(P63～71) |
| | 事前学習 (内容・時間) 総勘定元帳や仕入帳、受取手形記入帳や支払手形記入帳、仕入帳、売上帳の記入についてプリントなどで繰り返し記入方法を理解した上で、商品有高帳の記載について理解しておく。(P109～116)(2時間) 事後学習 (内容・時間) 売掛金元帳、買掛金元帳の記載方法、商品有高帳の記載方法について、配布したプリントで確認し理解を深める。(P109～116)ステップアップ問題集(P63～65・68～71)(2時間) |
| 第15回 | 伝票会計の会計処理を行い、仕訳日計表の作成をプリント等を使用して説明します。(118～124) |
| | 事前学習 (内容・時間) 売掛金元帳、買掛金元帳の記載方法、商品有高帳の記載方法について、配布したプリントで確認し理解を深める。また、伝票会計について理解しておく。(P118～124)(2時間) 事後学習 (内容・時間) 伝票会計の会計処理を行い、仕訳日計表の作成をプリント等で確認し理解を深める。(P118～124)ステップアップ問題集(P76～82)(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 商工会議所簿記検定3級試験の検定範囲の中(学習した内容)で、決算問題を中心に60分間で実施します。 ①電卓のみ |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|---|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1BMB-6460-12C | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 簿記Ⅱ | 221～ 経営情報学科 | 1年生・後期 | 2単位 | 選択 | 岩下 昌美 | |
| 簿記演習 | 219・220 | | | 必修 | | |
| 簿記Ⅱ | ～218 | | | 選択 | | |
| 履修の前提条件 | 「簿記Ⅰ」または「初級簿記」の単位を取得していること。 テキストを必ず購入すること。使用するテキストは市販されていませんので、後期オリエンテーションの空き時間を利用して岩下(270号室)研究室で購入してください。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>本講義は、日本商工会議所主催の簿記検定3級の範囲、小規模な株式会社を前提した複式簿記の原理と技術の基礎的知識を習得するため、「簿記Ⅰ」と連続した内容になりますので、必ず受講をするようにしてください。簿記知識の習得は積み重ねです。そのためには毎回の講義に必ず出席することがとても重要です。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>本学では4年間で簿記検定3級、全員取得を掲げています。そこで本講義では、簿記一巡の手続きを理解し、小規模な株式会社における帳簿記帳の基礎的知識を習得することを目標とします。 そして「簿記Ⅰ」「簿記Ⅱ」の履修により日本商工会議所簿記検定3級取得を目指します。簿記検定のペーパー試験(統一試験)は6月、11月、2月(翌年)に実施されます。今年度(2021.4月)からWEB検定(受験日自由選択)も実施されることになりました。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|------------|--|-------------------|
| <p>授業は対話型を心がけ進めていきます。不明な点や疑問などが生じた時は積極的に発言してください。授業終了時には毎回の理解度をチェックするため、ミニテストを実施します。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>連絡、問い合わせ、相談などは2号館2階270室の研究室にてオフィスアワー時(年度はじめに掲示)、あるいは電子メール(アドレス:masami-i@g.kiis.ac.jp)で受け付けます。</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入して前期定期試験日に岩下までメールで提出してください。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 『2021 日商簿記3級テキスト』, 1,500円 2021年度前期の「簿記Ⅰ」テキストと同じです。 | 岩下昌美 | 市販されていませんので、後期のオリエンテーションの空き時間を利用して岩下(270号室)研究室で購入すること。 | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| | | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>成績評価の方法:定期試験(70%)、平常点(15%)、復習課題(15%)。平常点は科目別履修状況チェック表の提出状況、毎回の授業最後の成果物提出状況で判断する。 成績評価の基準:①3級の取引の仕訳ができるか。②補助簿の作成できるか。⑤決算整理事項から精算表および財務諸表(貸借対照表・損益計算書)が作成できるか。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|---|---|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | オリエンテーション(講義の進め方, 講義内容, 受講上の諸注意, 評価方法など)を確認します。前期「簿記Ⅰ」の復習として, 総合的な仕訳問題その1(株式会社の設立等, 商品売買, 掛け取引, 現金預金等)を解いていきます。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前期「簿記Ⅰ」の復習および勘定科目一覧表を確認しておいてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布する復習問題を解いてください。(2時間) |
| 第2回 | 前期「簿記Ⅰ」の復習として, 総合的な仕訳問題その2(貸倒れ, 手形取引等, 固定資産, その他の債権・債務, 税金, 決算整理)を解いていきます。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前期「簿記Ⅰ」の復習および勘定科目一覧表を確認しておいてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。(2時間) |
| 第3回 | 第14章 分記法(商品売買)の会計処理について学習します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの第14章を一読してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。(2時間) |
| 第4回 | 第15章 補助簿(商品有高帳, 仕入帳, 売上帳, 得意先元帳, 仕入先元帳, 現金出納帳)の作成方法について学習します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの第15章を一読してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。(2時間) |
| 第5回 | 第15章 補助簿(当座預金出納帳, 小口現金出納帳, 手形記入帳, 固定資産台帳,)の作成方法について学習します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの第15章を一読してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 前回の復習問題の解答確認および当該回の復習問題を解いてください。(2時間) |
| 第6回 | 日本商工会議所簿記検定3級の過去の仕訳問題を配布資料①をもとに解いていきます。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 勘定科目一覧表で資産・負債・純資産・費用・収益について確認してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 当該回の仕訳問題で分からなかった個所をテキストで再度復習してください。(2時間) |
| 第7回 | 日本商工会議所簿記検定3級の過去の仕訳問題を配布資料②をもとに解いていきます。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回の配布資料の仕訳問題を復習しておいてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 当該回の仕訳問題で分からなかった個所をテキストで再度復習してください。(2時間) |
| 第8回 | 日本商工会議所簿記検定3級の過去の仕訳問題を配布資料③をもとに解いていきます。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回の配布資料の仕訳問題を復習しておいてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 当該回の仕訳問題で分からなかった個所をテキストで再度復習してください。(2時間) |

| | | |
|----------------|--|---|
| 第9回 | 日本商工会議所簿記検定3級の過去の補助簿作成・穴埋め問題を配布資料④をもとに解いていきます。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回の配布資料の仕訳問題を復習しておいてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 当該回の仕訳問題で分からなかった個所をテキストで再度復習してください。(2時間) |
| 第10回 | 日本商工会議所簿記検定3級の過去の補助簿作成・穴埋め問題を配布資料⑤をもとに解いていきます。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回の配布資料の仕訳問題を復習しておいてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 当該回の配布資料の問題で分からなかった個所をテキストで再度復習してください。(2時間) |
| 第11回 | 日本商工会議所簿記検定3級の過去の伝票問題を配布資料⑥をもとに解いていきます。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回の配布資料の仕訳問題を復習しておいてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 当該回の配布資料の問題で分からなかった個所をテキストで再度復習してください。(2時間) |
| 第12回 | 日本商工会議所簿記検定3級の過去の決算整理・精算表作成問題を配布資料⑦をもとに解いていきます。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回の配布資料の仕訳問題を復習しておいてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 当該回の配布資料の問題で分からなかった個所をテキストで再度復習してください。(2時間) |
| 第13回 | 日本商工会議所簿記検定3級の過去の決算整理・財務諸表作成問題を配布資料⑧をもとに解いていきます。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回の配布資料の仕訳問題を復習しておいてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 当該回の配布資料の問題で分からなかった個所をテキストで再度復習してください。(2時間) |
| 第14回 | 日本商工会議所簿記検定3級の過去の決算整理後試算表作成問題を配布資料⑨をもとに解いていきます。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回の配布資料の仕訳問題を復習しておいてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 当該回の配布資料の問題で分からなかった個所をテキストで再度復習してください。(2時間) |
| 第15回 | 日本商工会議所簿記検定3級の過去の帳簿記入と締切り, 繰越試算表作成問題を配布資料⑩をもとに解いていきます。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回の配布資料の仕訳問題を復習しておいてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 当該回の配布資料の問題で分からなかった個所をテキストで再度復習してください。(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 60分の定期試験(電卓持ち込み可) | |

| | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
| 1BMB-6460-12C | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 簿記Ⅱ | 221～ 情報ネットワーク学科 | 1年生・後期 | 2単位 | 選択 | 長友 陸富 | |
| 履修の前提条件 | <p>本学では、日本商工会議所主催の簿記検定3級の取得を大きな目的としています。この簿記を学んだことのない学生も基礎基本をしっかり学習することで、簿記3級の内容を理解し、簿記検定3級の検定に合格できると思います。「大原で合格する日商簿記3級」のCHAPTER0～11を読み、その内容を確認し、学習項目の流れを理解しておきましょう。本講義では、簿記検定3級の内容を学習項目ごとに段階的に修得するために、簿記の基礎基本の内容をしっかりと繰り返し学習します。なお、計算することがありますので、電卓を購入すると共に配布プリント等をとじる紙ファイルを準備してください。</p> <p>また、講義中の注意事項は以下の通りです。</p> <p>1 私語はしない 2 時間を守る 3 飲食禁止(ペットボトルや食べ物など机の上に置かない)</p> <p>4 携帯電話の利用は禁止です。なお、前期に会計学入門及び簿記Ⅰ(前期)履修者は必ず簿記Ⅱ(後期)を履修してください。</p> | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>企業を経営管理するためには会計情報の知識(会社がどういう経営状態か)が必要です。必要な情報として会計情報を正確に理解するためには、簿記を理解することが不可欠です。経営情報学部を卒業する学生は、将来企業の経営管理に関わる可能性が高いことを考えると、簿記の知識修得は必須となります。本科目では、企業が行う経済活動により発生する、資産、負債、純資産、費用、収益の増減を一定のルールに従って、整理・記録計算することを実践します。最終的に簿記の基礎基本の学習修得を確認する、日本商工会議所簿記検定3級合格を目指します。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | ○ |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>①簿記の基本概念及び記帳計算の基礎を理解できる。</p> <p>②日常の手続きを理解し、仕訳及び勘定記入ができ、決算の意味を理解し、試算表の作成ができる。</p> <p>③簿記一巡の手続きを理解し、財務諸表作成までの計算構造を理解できる。</p> <p>④簿記の機能と役割を理解させ、簿記への興味関心を持たせ、学習習慣と学ぶ姿勢を確立し、日本商工会議所簿記検定3級合格を目指します。</p> | | | | | | |

| | | | |
|--|------------|---------------|--------------------|
| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
| <p>学生からの積極的な発言を期待し、毎回授業中に知識の定着を図るための口頭試問を実施します。また、学生自ら段階別の問題を作成し解答を含め説明・発表します。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>連絡、問い合わせ、相談等は研究室(556)にて随時受け付けます。連絡先はnagatomoy@kiis.ac.jpです。なお、出勤日は火曜日、水曜日、木曜日です。</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオの作成と提出)について | | | |
| <p>外部試験: 日本商工会議所主催の簿記検定3級を必ず受験します。(検定月は、6月、11月、2月です。検定料は¥2,850です。CDC就職課から申し込みの案内が2か月前にあります。)</p> <p>学習の確認: ポートフォリオシートの作成に関しては講義中に説明します。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 大原で合格する日商簿記3級 ¥1,210 | 資格の大原 | 中央経済社 | 978-4-502-30111-7 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 日商簿記3級過去問への ステップアップ問題集 ¥1,320 | 資格の大原 | 大原出版 | 978-4-864-86-620-0 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>成績評価の方法</p> <p>(1)講義回数3分の2以上の出席を必須条件とします。</p> <p>(2)定期試験50%</p> <p>口頭試問10%</p> <p>提出物 15%</p> <p>簿記コンテスト及び日本商工会議所簿記検定受験15%</p> <p>学習意欲10%</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | |
|------------------------|---|
| テーマ Theme | |
| 第1回 | 会計学入門や簿記 I で学習した内容を振り返る。そのうえで精算表の作成を説明し、貸し倒れの会計処理、貸借対照表における貸倒引当金の表示、有形固定資産の減価償却の会計処理について説明する。(教科書P161～177) |
| | <p>事前学習 (内容・時間) 前期の会計学入門と簿記 I の講義の内容を、教科書やプリントで振り返り理解を深め、精算表の作成についてその方法を理解しておくこと。(P161～177) (2時間)</p> <p>事後学習 (内容・時間) 精算表の作成に決算整理事項として出題される貸し倒れと減価償却の計算方法、会計処理について、その仕訳と記帳方法を配布プリントで理解すること。ステップアップ問題集 (P90～115) (2時間)</p> |
| 第2回 | 会計学入門や簿記 I で学習した内容を振り返る。そのうえで精算表の作成を説明し、貸し倒れの会計処理、貸借対照表における貸倒引当金の表示、有形固定資産の減価償却の計算及び会計処理について説明する。(P161～177)ステップアップ問題集(P90～115) |
| | <p>事前学習 (内容・時間) 第1回講義内容、精算表の作成に決算整理事項として出題される貸し倒れと減価償却について、その仕訳と記帳方法を配布プリントで理解し、有形固定資産の売却の会計処理について理解しておく。(P161～177)ステップアップ問題集(P90～115) (2時間)</p> <p>事後学習 (内容・時間) 精算表の作成に関して、貸倒の設定、減価償却の計算及び会計処理、有形固定資産の売却時の会計処理について配布プリントや問題集で確認する(P161～177)ステップアップ問題集(P90～115) (2時間)</p> |
| 第3回 | 精算表の作成に関して、費用収益の前払い・前受け、費用収益の未払い・未収についてプリントを交え説明する。(P182～196)ステップアップ問題集(P98～100) |
| | <p>事前学習 (内容・時間) 貸倒れと減価償却等を配布プリントで理解を深め、費用収益の前払いや前受け、未払い・未収について、理解しておくこと。(P182～196)ステップアップ問題集(P90～100) (2時間)</p> <p>事後学習 (内容・時間) 精算表の作成を理解する。費用収益の前払い・前受け、費用収益の未払い・未収についてプリントを交え理解を深める(P183～196)ステップアップ問題集(P98～99・112～115) (2時間)</p> |
| 第4回 | 精算表の作成に関して、費用収益の前払い・前受け、費用収益の未払い・未収についてプリントを交え説明する。(P182～196)ステップアップ問題集(P98～100) |
| | <p>事前学習 (内容・時間) 貸倒れと減価償却等を配布プリントで理解を深め、費用収益の前払いや前受け、未払い・未収について、理解しておくこと。(P182～196)ステップアップ問題集(P90～100) (2時間)</p> <p>事後学習 (内容・時間) 精算表の作成を理解する。費用収益の前払い・前受け、費用収益の未払い・未収についてプリントを交え理解を深める(P182～196)ステップアップ問題集(P98～99・112～115)</p> |
| 第5回 | 精算表の作成をプリント・問題集を利用して決算整理事項を含めて、作成の理解を深める。(P161～212)ステップアップ問題集(P86～115) |
| | <p>事前学習 (内容・時間) 決算整理事項に関係する、貸倒、減価償却、売上原価、現金過不足、前受金、税金関係、費用・収益の見越し繰り延べ、貯蔵品等を含めた精算表作成の理解を深めておくこと。(161～212)ステップアップ問題集(P86～115) (2時間)</p> <p>事後学習 (内容・時間) 精算表の作成手順をプリント・問題集を活用して明確に理解を深めること。(P161～212)ステップアップ問題集(P86～115) (2時間)</p> |
| 第6回 | 帳簿の締め切り及び財務諸表の作成までの一連の手続きについて、プリントと教科書で説明します。損益勘定の締め切り、資産・負債・資本書簡上の締め切りを行い、損益計算書と貸借対照表の作成を説明します。(P214～221)ステップアップ問題集(P116～125) |
| | <p>事前学習 (内容・時間) 決算整理事項を終了した後、各勘定を締め切る流れについて理解を深めること。また、一連の流れの中から損益計算書及び貸借対照表の作成について理解しておくこと。(P214～221) (2時間)</p> <p>事後学習 (内容・時間) 第5回講義内容、損益計算書と貸借対照表の作成の手順と受取手形や売掛金に対する貸倒引当金及び減価償却累計額の表示の方法について明確に理解すること。ステップアップ問題集(P116～125) (2時間)</p> |
| 第7回 | 帳簿の締め切り及び財務諸表の作成までの一連の手続きについて、プリントと教科書で説明します。損益勘定の締め切り、資産・負債・資本書簡上の締め切りを行い、損益計算書と貸借対照表の作成を説明します。(P214～221)ステップアップ問題集(P116～125) |
| | <p>事前学習 (内容・時間) 決算整理事項を終了した後、各勘定を締め切る流れについて理解を深めること。また、一連の流れの中から損益計算書及び貸借対照表の作成について理解しておくこと。(P214～221) (2時間)</p> <p>事後学習 (内容・時間) 第6回講義内容、損益計算書と貸借対照表の作成の手順と受取手形や売掛金に対する貸倒引当金及び減価償却累計額の表示の方法について明確に理解すること。ステップアップ問題集(P116～125) (2時間)</p> |

| | |
|----------------|--|
| 第8回 | 日商簿記検定3級の総合問題をジャンル別に学習する。1、過去に出題された仕訳問題をプリントを活用して解く。ステップアップ問題集(P22～125) |
| | <p>事前学習 (内容・時間) 取引から仕訳に関係する、今までに配布したプリントや問題集を振り返り、理解を深めておくこと。ステップアップ問題集(P22～125) (2時間)</p> <p>事後学習 (内容・時間) 取引と判断できる場合の仕訳をあらゆるジャンルで出来るように繰り返し行い、理解を深めること。ステップアップ問題集(P22～125) (2時間)</p> |
| 第9回 | 日商簿記検定3級の総合問題をジャンル別に学習する。1、過去に出題された仕訳問題をプリントを活用して解く。ステップアップ問題集(P22～125) |
| | <p>事前学習 (内容・時間) 取引から仕訳に関係する、今までに配布したプリントや問題集を振り返り、理解を深めておくこと。ステップアップ問題集(P22～125) (2時間)</p> <p>事後学習 (内容・時間) 取引と判断できる場合の仕訳をあらゆるジャンルで出来るように繰り返し行い、理解を深めること。ステップアップ問題集(P22～125) (2時間)</p> |
| 第10回 | 日商簿記検定3級の総合問題をジャンル別に学習する。2、過去に出題された試算表の作成をプリント及び問題集を活用して解く。(P130～142)ステップアップ問題集(P74～75) |
| | <p>事前学習 (内容・時間) 試算表の作成を行うためには、日々の取引の簡単な仕訳と転記が必要です。地道なことの繰り返し根気強く取り組んでください。(P130～142)ステップアップ問題集(P74～75) (2時間)</p> <p>事後学習 (内容・時間) 試算表の作成は多くの時間を要します。根気よく問題に向かって解くこと以外に方法はありません。繰り返し解くことで理解を深めてください。(130～142)ステップアップ問題集(P74～75) (2時間)</p> |
| 第11回 | 日商簿記検定3級の総合問題をジャンル別に学習する。2、過去に出題された試算表の作成をプリント及び問題集を活用して解く。(P130～142)ステップアップ問題集(P74～75) |
| | <p>事前学習 (内容・時間) 試算表の作成を行うためには、日々の取引の簡単な仕訳と転記が必要です。地道なことの繰り返しですので根気強く取り組んでください。(P130～142)ステップアップ問題集(P74～75) (2時間)</p> <p>事後学習 (内容・時間) 試算表の作成は多くの時間を要します。根気よく問題に向かって解くこと以外に方法はありません。繰り返し解くことで理解を深めてください。(130～142)ステップアップ問題集(P74～75) (2時間)</p> |
| 第12回 | 日商簿記検定3級の総合問題をジャンル別に学習する。3、過去に出題された精算表、損益計算書・貸借対照表の作成をプリント及び問題集を活用して解く。(P144～212)ステップアップ問題集(P86～125) |
| | <p>事前学習 (内容・時間) 過去に出題された精算表・損益計算書・貸借対照表を教科書や問題集及びプリントを活用して、しっかり理解し正確な解答が出るように会計処理を高めること。(P144～212)ステップアップ問題集(P86～125) (2時間)</p> <p>事後学習 (内容・時間) 第12回の講義内容、精算表・損益計算書・貸借対照表の作成時間が40分で完成できるように繰り返し問題を解き、正確性とスピード力を身につけること。(P144～212)ステップアップ問題集(P86～125) (2時間)</p> |
| 第13回 | 日商簿記検定3級の総合問題をジャンル別に学習する。3、過去に出題された精算表、損益計算書・貸借対照表の作成をプリント及び問題集を活用して解く。(P144～212)ステップアップ問題集(P86～125) |
| | <p>事前学習 (内容・時間) 過去に出題された精算表・損益計算書・貸借対照表を教科書や問題集及びプリントを活用して、しっかり理解し正確な回答が出るように会計処理を高めること。(P144～212)ステップアップ問題集(P86～125) (2時間)</p> <p>事後学習 (内容・時間) 第13回講義内容、精算表・損益計算書・貸借対照表の作成時間が40分で完成できるように繰り返し問題を解き正確性とスピード力を身につけること。(P144～212)ステップアップ問題集(P86～125) (2時間)</p> |
| 第14回 | 日商簿記検定3級の総合問題をジャンル別に学習する。4、伝票の起票、集計、をプリント及び問題集を活用して解く。売掛金元帳・買掛金元帳、商品有高帳、仕入帳・売上帳の記入方法について理解しておくこと。(P96～124)ステップアップ問題集(P59～71) (2時間) |
| | <p>事前学習 (内容・時間) 総勘定元帳や仕入帳、受取手形記入帳や支払手形記入帳、仕入帳、売上帳の記入についてプリントなどで繰り返し記入方法を理解した上で、商品有高帳の記載について理解しておく。(P96～124)ステップアップ問題集(P59～71) (2時間)</p> <p>事後学習 (内容・時間) 売掛金元帳、買掛金元帳の記載方法、商品有高帳の記載方法について、配布したプリントで確認し理解を深める。(P96～124)ステップアップ問題集(P59～71) (2時間)</p> |
| 第15回 | 日商簿記検定3級の総合問題の理解度確認し、抑えるべき項目の把握と理解度を高める。(3級検定試験全体) |
| | <p>事前学習 (内容・時間) 日商簿記3級検定試験範囲を繰り返し学習する過程で、時間配分や配点の部分まで考えて合格に結びつけられるよう問題を解く習慣を身につけておく。(2時間)</p> <p>事後学習 (内容・時間) 3級全体の問題に対する解答をバランスよく出来るように確認を最大限に行う。ステップアップ問題集(全体) (2時間)</p> |
| 第16回 (定期試験) | 商工会議所簿記検定3級試験の検定範囲の中(学習した内容)で、決算問題を中心に60分間で実施します。 持ち込み可能なもの ①電卓のみ |

| | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
| 1BMN-6510-22ET | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| マネジメント科学 (教職関連科目 必 高等学校 情報) | 共通 | 2年生・前期 | 2単位 | 選択 | 古川 哲也 | |
| 履修の前提条件 | 「情報リテラシー演習Ⅰ、Ⅱ」を履修済であること。数学関連科目を受講していることが望ましい。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| 問題を解決するための理論やモデル作成について学習すると共に、結果を身近な問題に応用して演習をする。分析やシミュレーション結果をグラフ等を用いて視覚的に表現し解決策を解りやすくする。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics ○ | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy ○ | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking ○ | | | | | |
| | 問題解決力 Problem Solving ○ | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| 経営には需要を予測することや在庫を適切に管理する等の問題がある。それら経営上の問題を科学的に解決する初歩的な解決技法を理解し習得する。 | | | | | | |

| | | | |
|---|-------------------|-------------------|---|
| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
| 授業で学習した問題解決の手法を実際の問題に適用し、自ら問題を解決する実習を行う。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 連絡にはメールを用いる。 furukawa@econ.kyushu-u.ac.jp | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| ポートフォリオ「科目別履修状況チェック表」を作成し、第5回、第10回、第15回の授業時に提出する。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 必要に応じて資料を配布します。 | | | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| ・経営科学と情報処理 ・問題解決のための オペレーションズ・リサーチ入門 | 宮川 公男、他 高井英造、他 | 実教出版株式会社 日本評論社 | ISBN 4-407-02775-4 ISBN978-4-535-55191-6 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 課題の提出結果(30%) + 定期試験(70%) | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|------------------------------|---|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 1) 授業内容、授業の進め方、成績評価の仕方を説明する。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 資料を読んで、経営上の問題を科学的に解くとはどういうことなのか理解しておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 説明内容を復習し、技術用語、専門用語など不明なものは調べるなどして確認する。(2時間) |
| 第2回 | 2) 統計データの分析 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 資料を読んで、必要な数学の知識を復習しておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業で用いた例題を完成し、練習問題を解く。(2時間) |
| 第3回 | 3) 需要予測： 時系列データの分析手法 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 資料を読んで、移動平均法、最小二乗法、季節変動の考え方を理解しておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業で用いた例題を完成する。(2時間) |
| 第4回 | 3) 需要予測： 時系列分析による予測 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 資料の正規方程式の導出と計算の部分を読んでおく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業で用いた例題を完成し、練習問題を解く。(2時間) |
| 第5回 | 3) 需要予測： 回帰分析による予測 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 資料の決定係数と相関の部分を読んでおく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業で用いた例題を完成し、練習問題を解く。(2時間) |
| 第6回 | 4) 在庫管理： 最適在庫管理と確定需要の在庫管理 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 資料を読んで、確定需要の場合の在庫費用の計算を理解しておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 最適発注量の導出を理解し、練習問題を解く。(2時間) |
| 第7回 | 4) 在庫管理： 不確定需要で発注が独立している場合 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 資料を読んで、不確定性を期待値で考えることを理解する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業で用いた例題を完成し、練習問題を解く。(2時間) |
| 第8回 | 4) 在庫管理： 不確定需要で発注が独立していない場合 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 資料を読んで、在庫基準量の計算方法を理解しておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業で用いた例題を完成し、練習問題を解く。(2時間) |

| | | |
|----------------|-------------------------------|--|
| 第9回 | 5) 線形計画法： 線形計画問題 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 文章による記述から目的関数、制約条件式を求めることができるようにしておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 線形計画問題の最適解がどのようなものになるのか復習し、十分に理解する。(2時間) |
| 第10回 | 5) 線形計画法： グラフによる解法 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 2変数の線形計画問題での実行可能領域を理解しておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 連立二元一次方程式の解、線形計画問題の解、実行可能領域の関係を復習する。(2時間) |
| 第11回 | 5) 線形計画法： シンプレックス法による解法 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 資料を読んで、シンプレックス法の考え方を理解する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 例題を完成し、シンプレックス法の計算手順を確認する。(2時間) |
| 第12回 | 5) 線形計画法： シンプレックス法の計算 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | シンプレックス法の各計算手順で何を求めているのかを理解する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 練習問題をシンプレックス法で解き、最適解を導く。(2時間) |
| 第13回 | 6) 日程計画： 日程計画表とネットワーク表示、日程の計算 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 資料を読み、日程計画の考え方を理解する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業で用いた例題を完成し、日程を完成する。(2時間) |
| 第14回 | 6) 日程計画： クリティカルパス、AonAとAonN | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 資料を読み、AonAとAonNの考え方の違いを理解する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 練習問題を解き、2つの方法でクリティカルパスを求める。(2時間) |
| 第15回 | 7) 全体のまとめ： マネージメント科学で何を学習したか。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | この授業で学習した内容を復習しておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 最終レポートをまとめる。(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 8) 定期試験 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1BMN-6540-22E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 民法法 | 219～ | 2年生・前期 | 2単位 | 選択 | 丹羽 崇之 | |
| 民法 I (契約総論) | ～218 | | | | | |
| 履修の前提条件 | 「法学」、「日本国憲法」を履修済みであることが望ましい。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>私たちの私生活関係は、二つの生活関係から成り立っている。契約のような、経済的取引活動を中心とする生活関係と、夫婦や親子、相続などの家族に関する生活関係である。前者に関する法規を財産法といい、後者に関する法規を家族法という。民法は、この二つを規律して、市民生活の基本となる法律である。本講では、民法を中心に、民事手続法、会社法について学ぶ。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ |
| | 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| 私法のルールを理解し、市民生活を営むうえで必要となる民法の基本的知識、考え方を身につける。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|------------|---------------|-------------------|
| 判例を簡略化した事例を題材にするので、学生諸君に適用条文や法律関係を考えてもらう。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 質問等は、授業の前後の時間やオフィスアワーを積極的に利用してもらいたい。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>欠席した場合には、その回の授業内容を学習したレポートを提出してもらう。(提出しない場合は、定期試験の受験を認めない。)</p> <p>学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出すること。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 民法法入門〔第8版〕 | 野村豊弘 | 有斐閣 | 978-4641221369 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 民法Visual Materials〔第2版〕 | 池田真朗他編 | 有斐閣 | 978-4641137745 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 平常点(ミニテスト、レポート)30%、定期試験70%により総合評価する。 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|-----------------|--------------------------------------|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 民事法の意義 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第1章を読み、民事法、民法の意義を考える。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第1章を読み返し、設例の解答を書いてみる。(2時間) |
| 第2回 | 民法と民法典、権利と義務 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第2章・第3章を読み、民法の基本原則を考える。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第2章・第3章を読み返し、設例の解答を書いてみる。(2時間) |
| 第3回 | 法律行為 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第4章を読み、法律行為、権利の主体について考える。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第4章を読み返し、設例の解答を書いてみる。(2時間) |
| 第4回 | 代理 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第5章を読み、代理のしくみについて考える。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第5章を読み返し、設例の解答を書いてみる。(2時間) |
| 第5回 | 時効 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第6章を読み、時効について考える。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第6章を読み返し、設例の解答を書いてみる。(2時間) |
| 第6回 | 契約 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第7章を読み、時効について考える。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第7章を読み返し、設例の解答を書いてみる。(2時間) |
| 第7回 | 所有権 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第8章を読み、物権について考える。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第8章を読み返し、設例の解答を書いてみる。(2時間) |
| 第8回 | 不法行為 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第9章を読み、不法行為の意義、要件、効果について考える。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第8章を読み返し、設例の解答を書いてみる。(2時間) |

| | | |
|----------------|-----------------|--|
| 第9回 | 事務管理・不当利得 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第10章を読み、事務管理、不当利得の意義、要件、効果について考える。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第10章を読み返し、設例の解答を書いてみる。(2時間) |
| 第10回 | 債務の弁済 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第11章を読み、債務の担保、債務の弁済について考える。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第11章を読み返し、設例の解答を書いてみる。(2時間) |
| 第11回 | 家族 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第12章を読み、親族法の意義、基本原則について考える。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第12章を読み返し、設例の解答を書いてみる。(2時間) |
| 第12回 | 親子、扶養 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第13章を読み、親子、親権、親族扶養について考える。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第13章を読み返し、設例の解答を書いてみる。(2時間) |
| 第13回 | 相続 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第14章を読み、相続の意義、法定相続、遺言について考える。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第14章を読み返し、設例の解答を書いてみる。(2時間) |
| 第14回 | 団体 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第15章を読み、法人、会社について考える。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第15章を読み返し、設例の解答を書いてみる。(2時間) |
| 第15回 | 権利の実現 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第16章を読み、権利実現の方法、紛争の解決、裁判制度について考える。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第15章を読み返し、設例の解答を書いてみる。(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 民法Ⅱ (契約各論・不法行為) | ~218 | 2年生・後期 | 2単位 | 選択 | 丹羽 崇之 | |
| 履修の前提条件 | 「民法Ⅰ(契約総論)」、「法学」、「日本国憲法」を履修していることが望ましい。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>私たちの私生活関係は、二つの生活関係から成り立っている。契約のような、経済的取引活動を中心とする生活関係と、夫婦や親子、相続などの家族に関する生活関係である。前者に関する法規を財産法といい、後者に関する法規を家族法という。民法は、この二つを規律して、市民生活の基本となる法律である。本講では、財産法のうち、債権総則や物権、不法行為などを学ぶ。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ |
| | 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| 私法のルールを理解し、市民生活を営むうえで必要となる民法の基本的知識、考え方を身につける。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|------------|---------------|-------------------|
| 判例を簡略化した事例を題材にするので、学生諸君に適用条文や法律関係を考えてもらう。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 質問等は、授業の前後の時間やオフィスアワーを積極的に利用してもらいたい。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>欠席した場合には、その回の授業内容を学習したレポートを提出してもらう。(提出しない場合は、定期試験の受験を認めない。)</p> <p>学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出すること。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 民法法入門[第8版] | 野村豊弘 | 有斐閣 | 978-4641221369 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 民法Visual Materials[第2版] | 池田真朗他編 | 有斐閣 | 978-4641137745 |
| ポケット六法 令和3年版 | 佐伯・大村編 | 有斐閣 | 978-4641009219 |
| 科目名Class | 遠藤浩・川井健編 | 勁草書房 | 978-4326451227 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 平常点(ミニテスト、レポート)30%、定期試験70%により総合評価する。 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|----------------------|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | ガイダンス、民法 I の復習(1) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第1章から第3章を読み、民法の意義、基本原理について確認する(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第1章から第3章を読み返し、民法の意義、基本原理について復習する(2時間) |
| 第2回 | 民法 I の復習(2) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第4章から第6章を読み、権利・義務、法律行為、代理について確認する(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 科目名Class |
| 第3回 | 不法行為(1) 不法行為の意義、要件 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第9章を読み、不法行為の意義、要件について考える(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第9章を読み返し、不法行為の意義、要件について確認する(2時間) |
| 第4回 | 不法行為(2) 不法行為の効果・損害賠償 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第9章を読み、不法行為の効果・損害賠償について考える(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第9章を読み返し、不法行為の効果・損害賠償について確認する(2時間) |
| 第5回 | 不法行為(3) 不法行為の種類 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第9章を読み、不法行為の種類について考える(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第9章を読み返し、不法行為の種類について確認する(2時間) |
| 第6回 | 事務管理、不当利得 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第10章を読み、事務管理・不当利得の意義、要件、効果について考える(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第10章を読み返し、事務管理・不当利得の意義、要件、効果について確認する(2時間) |
| 第7回 | 所有権(1) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第8章を読み、物権の種類、物権の効力、各種の物権について考える(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第8章を読み返し、物権の種類、物権の効力、各種の物権について確認する(2時間) |
| 第8回 | 所有権(2) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第8章を読み、所有権以外の物権について考える(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第8章を読み返し、所有権以外の物権について確認する(2時間) |

| | | |
|----------------|-----------------|--|
| 第9回 | 時効(1) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第6章を読み、時効制度について考える(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第6章を読み返し、時効制度について復習する(2時間) |
| 第10回 | 時効(2) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第6章を読み、取得時効・消滅時効について考える(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第6章を読み返し、取得時効・消滅時効について復習する(2時間) |
| 第11回 | 債務の弁済 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第11章を読み、債務の担保、債務の弁済について考える(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第11章を読み返し、債務の担保、債務の弁済について確認する(2時間) |
| 第12回 | 家族・親族 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第12章を読み、家族・親族について考える(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第12章を読み返し、家族・親族について確認する(2時間) |
| 第13回 | 親子・扶養 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第13章を読み、親子、親権、扶養について考える(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第13章を読み返し、親子、親権、扶養について確認する(2時間) |
| 第14回 | 相続 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第14章を読み、相続の意義、相続人、相続分、遺言について考える(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第14章を読み返し、相続の意義、相続人、相続分、遺言について確認する(2時間) |
| 第15回 | 団体 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第15章を読み、団体、法人、会社について考える(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第15章を読み返し、団体、法人、会社について確認する(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|---|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1BMN-5360-22E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 経営情報論 I | 共通 | 2年生・前期 | 2単位 | 必修 | 秋吉浩志 | |
| 履修の前提条件 | 「経営学総論 I」「情報学入門」を履修していること。「情報テクノロジー(情報処理入門)」を履修し、ストラテジー分野について理解していることが望ましい。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>経営情報学とはなにか。その入り口の内容をさまざまな分野から説明を行っていく。 業種毎(製造業、流通業、金融業)のシステム構成や具体的システム事例(家電メーカー、コンビニエンスストア、銀行等)について解説する。 ITパスポート試験(ストラテジー分野)から出題した小テストを毎回実施する。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>経営情報の基本的な理論の理解を目指す。さらに業種毎の経営情報システムの仕組み、特徴について正しく理解し、説明が出来るようになる。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|-------------------------------------|---------------------------|--|
| <p>毎回の授業で、授業内容をまとめた課題と実体験のレポート提出があります。意見、感想なども記入してください。 ①基本的にプレゼン方式で行い、学生と積極的にコミュニケーションをとりながら講義を展開する。 ②動画、テキスト以外の教材などのように実際見たり、感じたりする教材も準備し、より体感できるような講義も行う。 ③ミニテスト、アンケート、学生からの意見なども教材として取り上げ、講義を展開していく。 ④考える、議論する、主張することなどができるような雰囲気づくりを行い、受講学生の積極性なども導き出す。など</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>基本的に研究室(2号館5階555研究室)にて月曜日、水曜日オフィスアワーを設定している。 研究室訪問の際、メール;akiyoshi@kiis.ac.jpにメール連絡をしておくことを薦める。(遠隔授業の場合はGoogleクラスルームを活用して連絡を随時行う)</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>外部試験:ITパスポート資格の未取得者は受験すること。資格取得状況を成績評価の対象とする。 学修の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に該当事項を記入して、次回授業までに共有フォルダもしくは指定したGoogleクラスルームへ提出すること。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 経営情報論 (テキストは変更になる場合がある) | 遠山 暁, 村田 潔他 | 有斐閣アルマ | 978-4641220577 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 情報・技術経営シリーズ10 ビジネス情報システム 経営の基礎から学ぶ 経営情報システム教科書 経営情報システム 第3版 | 薦田憲久、水野浩孝他 武藤明則 島田達己、高原康彦 | コロナ社 同文館出版 日科技連 | 4339026301 9784495384111 9784817192141 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>成績評価の方法:平常点(60%)、定期試験(40%)。平常点は授業への参加状況、毎回の課題提出状況、小テスト、レポート提出状況で総合的に判断する。 成績評価の基準:利用部門での情報リーダーに必要な、情報系システムの企画・開発に関する知識がある。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|---|---------------------------------------|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | オリエンテーション(授業の概要・受講上の諸注意) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストもしくは資料を読んで、重要なポイントを把握しておく(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ミニッツペーパーにて課題を提出(2h) |
| 第2回 | 経営情報システムの概要(経営情報システムの構成、体系について学習する) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト&資料の指定したページを事前に読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義時に与えられた課題をミニッツペーパーに書いて提出をしてもらう。(2h) |
| 第3回 | 製造業情報システム(製造業における情報システムの構成について学習する) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト&資料の指定したページを事前に読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義時に与えられた課題をミニッツペーパーに書いて提出をしてもらう。(2h) |
| 第4回 | 製造業情報システム(生産計画、在庫管理、資材調達、需要予測、顧客管理等について学習する) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト&資料の指定したページを事前に読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義時に与えられた課題をミニッツペーパーに書いて提出をしてもらう。(2h) |
| 第5回 | 製造業情報システム(家電メーカー等を事例にして具体的に学習する) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト&資料の指定したページを事前に読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義時に与えられた課題をミニッツペーパーに書いて提出をしてもらう。(2h) |
| 第6回 | 流通業情報システム(流通業における情報システムの構成について学習する) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト&資料の指定したページを事前に読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義時に与えられた課題をミニッツペーパーに書いて提出をしてもらう。(2h) |
| 第7回 | 流通業情報システム(販売管理、在庫管理、受発注、物流・配送、売れ筋分析等について学習する) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト&資料の指定したページを事前に読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義時に与えられた課題をミニッツペーパーに書いて提出をしてもらう。(2h) |
| 第8回 | 流通業情報システム(コンビニエンスストア等を事例にして具体的に学習する) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト&資料の指定したページを事前に読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義時に与えられた課題をミニッツペーパーに書いて提出をしてもらう。(2h) |

| | | |
|----------------|---|---------------------------------------|
| 第9回 | 金融業情報システム(金融業情報システムの発展について学習する) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト&資料の指定したページを事前に読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義時に与えられた課題をミニッツペーパーに書いて提出をしてもらう。(2h) |
| 第10回 | 金融業情報システム(金融業における情報システムの構成について学習する) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト&資料の指定したページを事前に読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義時に与えられた課題をミニッツペーパーに書いて提出をしてもらう。(2h) |
| 第11回 | 金融業情報システム(勘定系、営業店、ファームバンキング、リスク管理等について学習する) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト&資料の指定したページを事前に読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義時に与えられた課題をミニッツペーパーに書いて提出をしてもらう。(2h) |
| 第12回 | 金融業情報システム(銀行等を事例にして具体的に学習する) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト&資料の指定したページを事前に読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義時に与えられた課題をミニッツペーパーに書いて提出をしてもらう。(2h) |
| 第13回 | ワークフロー管理システム(企業内でのグループ業務を支えるシステムについて学習する) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト&資料の指定したページを事前に読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義時に与えられた課題をミニッツペーパーに書いて提出をしてもらう。(2h) |
| 第14回 | テレワーク(企業内での遠隔業務を支えるシステムについて学習する) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト&資料の指定したページを事前に読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義時に与えられた課題をミニッツペーパーに書いて提出をしてもらう。(2h) |
| 第15回 | TCO(情報システムにかかる費用を把握し、削減対策について学習する) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト&資料の指定したページを事前に読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義時に与えられた課題をミニッツペーパーに書いて提出をしてもらう。(2h) |
| 第16回 (定期試験) | 基本的に対面ペーパーテストを行う。試験前にループリックならびにポートフォリオの提出もしてもらい。その進捗状況も試験の一部とみなす。 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1BIN-5690-12ES | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 情報学入門 (教職関連科目 選 高等学校 情報) | 219～ | 1年生・前期 | 2単位 | 選択 | 合田 和正 | |
| | ～218 | | | 必修 | | |
| 履修の前提条件 | 情報について学ぶ意識を強く持つことを期待します。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>本講義は、情報処理や情報ネットワークのような技術的な内容ではなく、情報や情報メディアおよびそれらの活用、活用する際の姿勢・態度について学ぶ。情報ネットワーク学科の他の先生方とのオムニバス形式で運用するため、順番が前後したり、内容に若干の変更があったりすることがあります。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>情報や情報技術に興味を持ち、それを扱う際に欠かせない基礎知識を学び、またメディアリテラシーの素養を育む。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|------------|---------------|-------------------|
| <p>ただ授業を受けるだけでなく、ネットショッピングサイトのデザインを目標に、学習内容をどう応用するかを意識しながら取り組む。必要に応じて、自主的に発展的内容・機能の実践・習熟に努力する。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>問い合わせ、報告、連絡、相談などは、担当教員の研究室で受け付けます。なお、オフィスアワーについては掲示を確認すること。</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>初回からノートPCを持参。紙のノート・ルーズリーフでの学習を推奨。 ITパスポート試験、基本情報技術者試験の内容の一部を含む。 授業の振り返りを毎回提出。情報処理関連の資格合格者、 関連内容の模擬試験の受験者・高得点者については、その内容に応じて成績評価の際に優遇する。 学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 資料を配布します。 | | | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 「痛快! コンピュータ学」 | 坂村健 | 集英社 | 978-4087474282 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>平常点として、授業への参加態度、毎回の課題、授業振り返りなどの提出状況、小テスト等、および定期試験等で総合的に判断する。オムニバス形式のため、各回の担当者の評価を合計して科目全体の評価とする。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|-------------------------------------|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 入門(1) 身近な例から始める情報と社会、情報とは(値、データなど) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 大学入学までの情報に関する学習を振り返ってまとめる。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | データ、情報、知識についてまとめておく。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第2回 | 入門(2) 情報の種類と特性(アナログ、デジタル)、意味、価値 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 身近なアナログ、デジタルの例を探してまとめておく。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | アナログ、デジタルの違い、特徴、利点欠点についてまとめておく。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第3回 | メディア(1) 媒体:メディアの種類と特性、媒介される対象としての情報 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 身近なメディアについて、書き出してまとめておく。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | ノートをまとめ直す。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第4回 | データサイエンス(1) データ、情報、知識 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | データサイエンス、データリテラシーという用語について調べておく。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | データサイエンスの概要についてまとめる。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第5回 | データサイエンス(2) 人材、技術、実例 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | データサイエンスの応用事例について調べる。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | データサイエンティストの活躍分野、就職先について調べる。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第6回 | 情報通信システム(1) 情報通信産業、スマートシティ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | スマートシティ、スマートソサエティ、スマートスピーカについて調べる。[3.0] |
| | 事後学習 (内容・時間) | インターネットを支えるインフラについて調べる。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第7回 | 情報通信システム(2) モバイル通信 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | IoT, ToSという用語、便利と危険のバランスについて調べる。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 5Gで広帯域通信が可能になったらしてみたいことについてまとめる。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第8回 | 情報と医療(1) 遠隔医療 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 遠隔教育、通信教育、テレワークについて調べる。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 遠隔医療に不可欠なインフラとその維持についてまとめる。振り返りを書く。[1.0h] |

| | | |
|----------------|--|--|
| 第9回 | 情報と医療(2) 再生医療と情報 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 人工物と自然物の融合について考察し、まとめる。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 開発競争と情報共有における問題、産業機密について考察。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第10回 | 情報セキュリティ入門(1) 暗号入門 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 暗号の歴史、暗号をトリックにした小説について調べる。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 暗号の有用性についてまとめる。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第11回 | 情報セキュリティ入門(2) PKI(Public Key Infrastructure) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 暗号の活用とそのためのインフラ(社会基盤)について調べる。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 量子暗号について調べる。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第12回 | 生体情報(1) 脳、生物、歩行 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 人間の五感覚とセンサーとの対応、人間の代理としてのセンサーについて考察。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 二足歩行、四つ足、這うということの観察の仕方と再現についてまとめる。[1.0h] |
| 第13回 | 生体情報(2) スポーツと情報 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | eスポーツについて調べる。従来のスポーツとの違いをまとめる。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 従来のスポーツとeスポーツとゲームとの関係を考察してまとめる。[1.0h] |
| 第14回 | メディア(2) 情報メディアの光と影 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 情報メディア、伝達メディア、表現メディアについて調べる。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 情報の容器、道具としてのメディアの利点欠点をまとめる。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第15回 | まとめ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 14回の内容をまとめる。できるだけ紙のノートに書きだしてまとめる。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 定期試験に向けて、想定問題を考え、対策を立てる。[1.0h] |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験等 | |

| | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
| 1BIB-5710-12E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 情報数学 I | 219～ | 1年生・後期 | 2単位 | 選択 | 橋爪 善光 | |
| 情報数学 | ～218 | | | | | |
| 履修の前提条件 | 基礎数学を履修していることが望ましい。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>本講義では、大量データの処理に欠かせない数学の一分野である「線形代数」について学びます。「線形代数」は、統計学や情報処理の基礎知識である重要な科目です。個々のデータを一括表現することで、データ分析の本質的な要素を理解したり、大局的な視点を持つ素養を身に着けます。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | ○ |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| | 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>線形代数の基礎知識である①行列の演算、②逆行列と行列式の関係、③連立一次方程式の解法、④ベクトル空間と線形写像の性質、⑤固有値・固有ベクトルなどを理解することを目標とします。</p> | | | | | | |

| | | | |
|---|------------|---------------|-----------------------|
| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
| <p>毎回授業の終わりに小テストを行います。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>連絡、問い合わせ、相談などは研究室(361)にて受け付けます。オフィスアワーの時間については掲示を確認してください。</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| テキスト線形代数 | 小寺 平治 | 共立出版 | ISBN978-4-320-01710-8 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 必要に応じて指示します。 | | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>平常点(小テスト・提出物・授業中の発言など)、定期試験の総合評価</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|-----------------|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | ガイダンス | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 高校の頃に勉強した数学の復習をしておく(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う(2h) |
| 第2回 | ベクトルと行列の表現 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 高校の頃に勉強した数学の復習をしておく(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h) |
| 第3回 | 行列の演算 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h) |
| 第4回 | 行列の基本変形 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h) |
| 第5回 | ベクトルの一次独立性 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h) |
| 第6回 | 行列の階数 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h) |
| 第7回 | 連立一次方程式 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h) |
| 第8回 | 逆行列 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h) |

| | | |
|----------------|-----------------|---|
| 第9回 | 中間試験 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回までの授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書やノートを見ながら試験問題を解く(2h) |
| 第10回 | 行列式 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | これまでの授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h) |
| 第11回 | ベクトル空間 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h) |
| 第12回 | 基底と次元 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h) |
| 第13回 | 線形写像 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h) |
| 第14回 | 固有値・固有ベクトル | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h) |
| 第15回 | まとめ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う。これまでに間違えた問題を理解できるまで何度も解く(2h) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 | |

| ナンバリング(Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|----------|----------|---------------------|
| 1BIN-5770-12ET | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | | 授業担当者 Instructor |
| 情報ネットワーク入門 (教職関連科目 必 高等学校 情報) | 219～ | 1年生・後期 | 2単位 | 選択 | | 車 炳 圮 |
| | ～218 | | | 経営 選択 | NW 必修 | |
| 履修の前提条件 | 情報検索機器の操作やWebアプリケーションの操作等に慣れること。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| Webシステムを通して通信ネットワークの役割やネットワークシステムの基本構成、データ転送の仕組み、通信プロトコルなどを修得する。さらにWWW、電子メール、ネットニュースなどについて理解を深めることによりコミュニケーションの目的や仕組みについて習得する。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | ○ |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| 情報ネットワークに関する基礎知識の習得及び最近技術動向を修得することにより、ITパスポートおよび基本情報技術者試験のネットワーク分野の出題問題に対応できるレベルに達することを目標とする。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|------------|---------------|-------------------|
| 情報ネットワークに関する最新のトレンドをつかむため、2人から4人のグループで必修用語や最新技術等をWeb上で調べ(5回以上)、ポートフォリオに記入すること。また、個人ホームページを作成し、第15回目の授業時間に提出すること。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 連絡方法: 学生番号、氏名、受講科目、内容等をメール(宛先: cha@kiis.ac.jp)で送ってください。対面相談の場合はなるべくオフィスアワーの時間を利用してください。 オフィスアワー: 水曜日2、3時限、木曜日3時限 研究室: 656号室 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 外部試験: 次の試験の内一つ以上を受験すること。試験結果を成績評価の対象とする。(CCENT、ITパスポート、基本情報技術者) 学習の確認: 情報ネットワーク関連用語のテスト及びポートフォリオ[科目別履修確認チェック表]を第12回目の授業時間に提出すること。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| かんたんネットワーク入門 改訂3版 | 三輪賢一 | 技術評論社 | 978-4-7741-8190-5 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| | | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 定期試験(30%)、Webテスト(20%)、Web学習(30%)、その他(20%、専用ノート、レポート、実習課題、外部試験の結果) | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|-----------------------|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 情報通信ネットワークの役割・歴史 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストP3～P21を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。2時間 |
| 第2回 | ネットワークシステムの基本構成 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストP24～P37を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。Web学習を行うこと。2時間 |
| 第3回 | クライアント・サーバモデル | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストP38～P47を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。Web学習を行うこと。2時間 |
| 第4回 | イントラネット及びLANの管理 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストP48～P53を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。Web学習を行うこと。2時間 |
| 第5回 | デジタルデータの仕組み及びOSI参照モデル | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストP56～P63を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。Web学習を行うこと。2時間 |
| 第6回 | イーサネットとTCP/IP | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストP64～P71を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。Web学習を行うこと。2時間 |
| 第7回 | IPアドレスとポート番号 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストP72～P77を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。Web学習を行うこと。2時間 |
| 第8回 | 経路選択及びルーティングプロトコル | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストP78～P79を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。Web学習を行うこと。2時間 |

| | | |
|----------------|--------------------|--|
| 第9回 | インターネットの仕組み | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストP84～P89を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。Web学習を行うこと。2時間 |
| 第10回 | ドメインについて | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストP90～P91を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。Web学習を行うこと。2時間 |
| 第11回 | インターネット接続技術 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストP92～P113を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。Web学習を行うこと。2時間 |
| 第12回 | インターネットプロトコル | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストP116～P119を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。Web学習を行うこと。2時間 |
| 第13回 | ネットワークアプリケーションの仕組み | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストP120～P145を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。Web学習を行うこと。2時間 |
| 第14回 | インターネットの現状 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストP148～P155を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。Web学習を行うこと。2時間 |
| 第15回 | セキュリティ対策 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストP156～P167を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。Web学習を行うこと。2時間 |
| 第16回 (定期試験) | | |

| | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
| 1BIB-6310-14E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| ビジネスソフト活用演習 | 219～ | 1年生・後期 | 4単位 | 選択 | 平川 淳一 | |
| 履修の前提条件 | ① MOS資格の取得に意欲があること。 ② 2時限続けて必ず受講すること。 ③ 受講マナーを守れること。 ④ 使用するPCのOSはWindowsで、Office2019であること。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| ・Microsoft Office Specialist試験の出題範囲を、演習問題に取り組みながら網羅するとともに、ビジネスソフトの知識と技能向上を目指します。(演習内容:MOS Specialistレベル Word、Excel、PowerPoint、Access) ・ビジネスシーンにおけるMS Office活用を想定したMission(課題)に取り組み、ビジネスソフトの応用力や問題解決力を養います。コンピュータ操作に自信がなくてもスキルアップできます。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| ・修了目標:国際的な資格であり、MS社が認定するMicrosoft Office Specialist『 Master 』資格の取得を志します。 (MOS Masterの要件は、4科目の合格となります。※詳細は授業の中で紹介します。) ・経営情報学の基礎から応用までの汎用的技能を習得するために、この科目ではビジネスシーンにおけるソフトウェアの活用方法を学び、実践できるようになることを目指します。 | | | | | | |

| | | | |
|--|-----------------|---------------|-------------------|
| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
| ・ビジネスシーンにおけるソフト活用を想定した一部のMission(課題)は、学生の自主的な作成となります。ビジネスソフト活用能力を発揮してすべてのMissionをコンプリートしてください。 ・毎回、カルテ(自己管理表)を配付して授業の終わりに回収します。習得状況や目標スケジュール、進捗状況等、自分自身の管理に努めてください。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 講義日、2号館1階の講師控室にお越しください。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 外部試験:Microsoft Office Specialist 2019 試験日:随時試験 ※月に複数回実施 試験会場:任意で選択 ※パソコン教室など多くの場所で受験可能 受験料:7,800円(税抜) ※学割価格 ※受験には、事前に受験者IDの登録が必要 MOS公式HP: http://mos.odyssey-com.co.jp/index.html 学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| Microsoft Office Specialist PowerPoint 365&2019 対策テキスト&問題集 | 富士通エフ・オー・エム株式会社 | FOM出版 | 978-4-86510-440-0 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| Microsoft Office Specialist PowerPoint 365&2019 対策テキスト&問題集 | 富士通エフ・オー・エム株式会社 | FOM出版 | 978-4-86510-429-5 |
| Microsoft Office Specialist Word 365&2019 対策テキスト&問題集 | 富士通エフ・オー・エム株式会社 | FOM出版 | 978-4-86510-430-1 |
| Microsoft Office Specialist Access 365&2019 対策テキスト&問題集 | 富士通エフ・オー・エム株式会社 | FOM出版 | 未発売 ※1月現在 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| ・成績評価方法:平常点 20%、課題 20%、定期試験 60% ※平常点は、学習意欲、受講マナー等を見て総合的に評価。 注)受講マナーを守れない者は、「減点」、「欠席」、「受講停止」とする場合がある。 ※定期試験をMOS受験(外部試験)に代えることを認める。(事前に申し出ること。) 可否に関係なく、試験の得点を評価する。(試験結果の提出義務有り) ※定期試験前にMOS試験を受験した者は、定期試験を免除する。 | | | |
| ・成績評価の基準: MOS試験の合格レベルに達しているか。ビジネスソフトを正しく利活用できているか。 Word:ビジネス文書やビジュアル文書を効率よく作成できているか。 Excel:関数やグラフなど自主的な判断により選択し、活用できているか。 PowerPoint:ソフトの特性を理解して効果的に利用できているか。 Access:データベースの作成や管理の基礎的内容が理解できているか。 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|---|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | オリエンテーション:科目とMOS試験の概要、ビジネスソフトの操作力を確認する演習を行います。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前期必修科目「情報リテラシー演習Ⅰ」で学んだ内容を復習しておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | Checkテストの内容を再度確認し、苦手分野や間違えた箇所の再確認を行うこと。(2.0h) |
| 第2回 | Excel Specialist ① : ワークシートやブックの作成と管理 (テキストP.16~64) Word Specialist ① : 文書の管理 (テキスト P.16~65) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業範囲の内容を確認して、わからない操作用語について、調べておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 【Mission】Word活用:「ビジネス文書の作成」にTRYして、提出してください。(2.0h) |
| 第3回 | Excel Specialist ② : セルやセル範囲のデータの管理 (テキスト P.66~122) Word Specialist ② : 文字、段落、セクションの挿入と書式設定 (テキスト P.68~90) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業範囲の内容を確認して、わからない操作用語について、調べておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 【Mission】Excel活用「複雑な表の作成」にTRYして、提出してください。(2.0h) |
| 第4回 | Excel Specialist ③ : テーブルとテーブルのデータ管理 (テキスト P.124~144) Word Specialist ③ : 表やリストの管理 (テキスト P.92~129) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業範囲の内容を確認して、わからない操作用語について、調べておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 【Mission】Word活用「掲示物の作成」にTRYして、提出してください。(2.0h) |
| 第5回 | Excel Specialist ④ : 数式や関数を使用した演算の実行 (テキスト P.146~171) Word Specialist ④ : 参考資料の作成と管理 (テキスト P.130~154) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業範囲の内容を確認して、わからない操作用語について、調べておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 【Mission】Excel「管理表の作成」にTRYして、提出してください。(2.0h) |
| 第6回 | Excel Specialist ⑤ : グラフの管理 (テキスト P.174~200) Word Specialist ⑤ : グラフィック要素の挿入と書式設定 (テキスト P.156~204) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業範囲の内容を確認して、わからない操作用語について、調べておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 【Mission】Word活用:「ビジュアル文書の作成」にTRYして、提出してください。(2.0h) |
| 第7回 | Excel Specialist ⑥ : MOS Excel Specialist 模擬試験 問題 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業範囲の内容を確認して、わからない操作用語について、調べておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 【Mission】Excel「報告書の作成」にTRYして、提出してください。(2.0h) |
| 第8回 | Word Specialist ⑥ : MOS Word Specialist 模擬試験 問題 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業範囲の内容を確認して、わからない操作用語について、調べておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 【Mission】Word「案内状の作成」にTRYして、提出してください。(2.0h) |

| | | |
|----------------|--|--|
| 第9回 | PowerPoint Specialist ① : プレゼンテーションの管理 (テキスト P.16~94) Access Specialist ① : データベースの作成と管理 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業範囲の内容を確認して、わからない操作用語について、調べておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 【Mission】PowerPoint活用:「広告の作成」にTRYして、提出してください。(2.0h) |
| 第10回 | PowerPoint Specialist ② : スライドの管理 (テキスト P.96~122) Access Specialist ② : テーブルの作成 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業範囲の内容を確認して、わからない操作用語について、調べておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 【Mission】PowerPoint 活用「企画書の作成」にTRYして、提出してください。(2.0h) |
| 第11回 | PowerPoint Specialist ③ : テキスト、図形、画像の挿入と書式設定 (テキスト P.124~168) Access Specialist ③ : クエリの作成 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業範囲の内容を確認して、わからない操作用語について、調べておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 【Mission】PowerPoint活用:「案内板の作成」にTRYして、提出してください。(2.0h) |
| 第12回 | PowerPoint Specialist ④ : 表、グラフ、SmartArt、メディアの挿入 (テキスト P.170~218) Access Specialist ④ : フォームの作成 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業範囲の内容を確認して、わからない操作用語について、調べておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 【Mission】PowerPoint活用:「マニュアルの作成」にTRYして、提出してください。(2.0h) |
| 第13回 | PowerPoint Specialist ⑤ : 画面切り替えやアニメーションの適用 (テキスト P.220~242) Access Specialist ⑤ : レポートの作成 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業範囲の内容を確認して、わからない操作用語について、調べておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | MOS Word Specialist 模擬試験プログラムにチャレンジして、結果を報告すること。(2.0h) |
| 第14回 | PowerPoint Specialist ⑥ : MOS PowerPoint Specialist 模擬試験 問題 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業範囲の内容を確認して、わからない操作用語について、調べておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | MOS Excel Specialist 模擬試験プログラムにチャレンジして、結果を報告すること。(2.0h) |
| 第15回 | Access Specialist ⑥ : MOS Access Specialist 模擬試験 問題 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業範囲の内容を確認して、わからない操作用語について、調べておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | MOS PowerPoint Specialist 模擬試験プログラムにチャレンジして、結果を報告すること。(2.0h) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 ※MOS試験に準じた内容で、実施します。 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|---|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| ビジネスソフト活用演習 I | ~218 | 2年生・通年 | 2単位 | 選択 | 平川 淳一 | |
| 履修の前提条件 | ① MOS資格の取得に意欲があること。 ② 2時限続けて必ず受講すること。 ③ 受講マナーを守れること。 ④ 使用するPCのOSはWindowsで、Office2019であること。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| Microsoft Office Specialist試験の出題範囲を、演習問題に取り組みながら網羅するとともに、ビジネスソフトの知識と技能向上を目指します。(演習内容:MOS Specialistレベル Word、Excel、PowerPoint、Access) ビジネスシーンにおけるMS Office活用を想定したMission(課題)に取り組み、ビジネスソフトの応用力や問題解決力を養います。パソコンの操作に自信がなくてもスキルアップできます。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| ・修了目標: 国際的な資格であり、MS社が認定するMicrosoft Office Specialist『Master』資格の取得を志します。 (MOS Masterの要件は、4科目の合格となります。※詳細は授業の中で紹介します。) ・この科目では、① Word2016 Specialist ② Excel2016 Specialist ③ PowerPoint2016 Specialistの取得を目指します。 ・経営情報学の基礎から応用までの汎用的技能を習得するために、この科目ではビジネスシーンにおけるソフトウェアの活用方法を学び、実践できるようになることを目指します。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|-----------------|---------------|-------------------|
| ・ビジネスシーンにおけるソフト活用を想定した一部のMission(課題)は、学生の自主的な作成となります。ビジネスソフト活用能力を発揮してMissionコンプリートを目指してください。 ・毎回、カルテ(自己管理表)を配付して授業の終わりに回収します。 習得状況や目標スケジュール、進捗状況等、自分自身の管理に努めてください。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 講義日、2号館1階の講師控室にお越しください。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 外部試験: Microsoft Office Specialist 2019 試験日: 随時試験 ※月に複数回実施 試験会場: 任意で選択 ※パソコン教室など多くの場所で受験可能 受験料: 7,800円(税抜) ※学割価格 ※受験には、事前に受験者IDの登録が必要 MOS公式HP: http://mos.odyssey-com.co.jp/index.html 学習の確認: ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| Microsoft Office Specialist PowerPoint 365&2019 対策テキスト&問題集 | 富士通エフ・オー・エム株式会社 | FOM出版 | 978-4-86510-440-0 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| Microsoft Office Specialist PowerPoint 365&2019 対策テキスト&問題集 | 富士通エフ・オー・エム株式会社 | FOM出版 | 978-4-86510-429-5 |
| Microsoft Office Specialist Word 365&2019 対策テキスト&問題集 | 富士通エフ・オー・エム株式会社 | FOM出版 | 978-4-86510-430-1 |
| Microsoft Office Specialist Access 365&2019 対策テキスト&問題集 | 富士通エフ・オー・エム株式会社 | FOM出版 | 未発売 ※1月現在 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| ・成績評価方法: 平常点 20%、課題 20%、定期試験 60% ※平常点は、学習意欲、受講マナー等を見て総合的に評価。 注) 受講マナーを守れない者は、「減点」、「欠席」、「受講停止」とする場合がある。 ※定期試験をMOS受験(外部試験)に代えることを認める。(事前に申し出ること。) 可否に関係なく、試験の得点を評価する。(試験結果の提出義務有り) ※定期試験前にMOS試験を受験した者は、定期試験を免除する。 | | | |
| ・成績評価の基準: MOS試験の合格レベルに達しているか。ビジネスソフトを正しく利活用することができるか。 Word: ビジネス文書やビジュアル文書を効率よく作成できているか。 Excel: 関数やグラフなど自主的な判断により選択し、活用することができるか。 PowerPoint: ソフトの特性を理解して効果的に利用することができるか。 Access: データベースの作成や管理の基本的内容が理解できているか。 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|---|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | オリエンテーション:科目とMOS試験の概要、ビジネスソフトの操作力を確認する演習を行います。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前期必修科目「情報リテラシー演習Ⅰ」で学んだ内容を復習しておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | Checkテストの内容を再度確認し、苦手分野や間違えた箇所の再確認を行うこと。(2.0h) |
| 第2回 | Excel Specialist ① : ワークシートやブックの作成と管理 (テキストP.16~64) Word Specialist ① : 文書の管理 (テキスト P.16~65) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業範囲の内容を確認して、わからない操作用語について、調べておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 【Mission】Word活用:「ビジネス文書の作成」にTRYして、提出してください。(2.0h) |
| 第3回 | Excel Specialist ② : セルやセル範囲のデータの管理 (テキスト P.66~122) Word Specialist ② : 文字、段落、セクションの挿入と書式設定 (テキスト P.68~90) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業範囲の内容を確認して、わからない操作用語について、調べておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 【Mission】Excel活用「複雑な表の作成」にTRYして、提出してください。(2.0h) |
| 第4回 | Excel Specialist ③ : テーブルとテーブルのデータ管理 (テキスト P.124~144) Word Specialist ③ : 表やリストの管理 (テキスト P.92~129) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業範囲の内容を確認して、わからない操作用語について、調べておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 【Mission】Word活用「掲示物の作成」にTRYして、提出してください。(2.0h) |
| 第5回 | Excel Specialist ④ : 数式や関数を使用した演算の実行 (テキスト P.146~171) Word Specialist ④ : 参考資料の作成と管理 (テキスト P.130~154) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業範囲の内容を確認して、わからない操作用語について、調べておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 【Mission】Excel「管理表の作成」にTRYして、提出してください。(2.0h) |
| 第6回 | Excel Specialist ⑤ : グラフの管理 (テキスト P.174~200) Word Specialist ⑤ : グラフィック要素の挿入と書式設定 (テキスト P.156~204) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業範囲の内容を確認して、わからない操作用語について、調べておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 【Mission】Word活用:「ビジュアル文書の作成」にTRYして、提出してください。(2.0h) |
| 第7回 | Excel Specialist ⑥ : MOS Excel Specialist 模擬試験 問題 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業範囲の内容を確認して、わからない操作用語について、調べておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 【Mission】Excel「報告書の作成」にTRYして、提出してください。(2.0h) |
| 第8回 | Word Specialist ⑥ : MOS Word Specialist 模擬試験 問題 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業範囲の内容を確認して、わからない操作用語について、調べておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 【Mission】Word「案内状の作成」にTRYして、提出してください。(2.0h) |

| | | |
|----------------|--|--|
| 第9回 | PowerPoint Specialist ① : プレゼンテーションの管理 (テキスト P.16~94) Access Specialist ① : データベースの作成と管理 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業範囲の内容を確認して、わからない操作用語について、調べておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 【Mission】PowerPoint活用:「広告の作成」にTRYして、提出してください。(2.0h) |
| 第10回 | PowerPoint Specialist ② : スライドの管理 (テキスト P.96~122) Access Specialist ② : テーブルの作成 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業範囲の内容を確認して、わからない操作用語について、調べておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 【Mission】PowerPoint 活用「企画書の作成」にTRYして、提出してください。(2.0h) |
| 第11回 | PowerPoint Specialist ③ : テキスト、図形、画像の挿入と書式設定 (テキスト P.124~168) Access Specialist ③ : クエリの作成 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業範囲の内容を確認して、わからない操作用語について、調べておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 【Mission】PowerPoint活用:「案内板の作成」にTRYして、提出してください。(2.0h) |
| 第12回 | PowerPoint Specialist ④ : 表、グラフ、SmartArt、メディアの挿入 (テキスト P.170~218) Access Specialist ④ : フォームの作成 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業範囲の内容を確認して、わからない操作用語について、調べておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 【Mission】PowerPoint活用:「マニュアルの作成」にTRYして、提出してください。(2.0h) |
| 第13回 | PowerPoint Specialist ⑤ : 画面切り替えやアニメーションの適用 (テキスト P.220~242) Access Specialist ⑤ : レポートの作成 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業範囲の内容を確認して、わからない操作用語について、調べておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | MOS Word Specialist 模擬試験 |
| 第14回 | PowerPoint Specialist ⑥ : MOS PowerPoint Specialist 模擬試験 問題 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業範囲の内容を確認して、わからない操作用語について、調べておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | MOS Excel Specialist 模擬試験プログラムにチャレンジして、結果を報告すること。(2.0h) |
| 第15回 | Access Specialist ⑥ : MOS Access Specialist 模擬試験 問題 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業範囲の内容を確認して、わからない操作用語について、調べておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | MOS PowerPoint Specialist 模擬試験プログラムにチャレンジして、結果を報告すること。(2.0h) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 ※MOS試験に準じた内容で、実施します。 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|---|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| ビジネスソフト活用演習Ⅱ | ～218 | 2年生・通年 | 2単位 | 選択 | 平川 淳一 | |
| 履修の前提条件 | ① MOS資格の取得に意欲があること。 ② 2時限続けて必ず受講すること。 ③ 受講マナーを守れること。 ④ 使用するPCのOSはWindowsで、Office2019であること。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| ・MOS試験の出題範囲を、演習問題に取り組みながら理解していくとともに、ビジネスソフトの知識と技能向上を目指す。(演習内容:MOS Expertレベル Word, Excel) ・ビジネスシーンにおけるソフト活用を想定したMission(課題)に取り組み、ビジネスソフトの活用力や問題解決力を養います。最終日にはプレゼン発表会を開催し、全員で相互評価を行います。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| ・修了目標:国際的な資格であり、MS社が認定するMicrosoft Office Specialistの『Master』資格取得を志します。(MOS Masterの要件は、4科目の合格となります。※詳細は授業の中で紹介します。) ・この科目では、① Word 2019 Expert、② Excel 2019 Expertの取得を目指します。 ・経営情報学の基礎から応用までの汎用的技能を習得するために、この科目ではビジネスシーンにおけるソフトウェアの活用方法を学び、実践できるようになることを目指します。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|-----------------|---------------|-------------------|
| ・ビジネスシーンにおけるソフト活用を想定した一部のMission(課題)は、学生の自主的な作成となります。ビジネスソフト活用能力を発揮して、すべてのMissionをコンプリートしてください。 ・毎回、カルテ(自己管理表)を配付して授業の終わりに回収します。習得状況や目標スケジュール、進捗状況等、自分自身の管理に努めてください。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 講義日、2号館1階の講師控室にお越しください。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 外部試験:Microsoft Office Specialist 2019 試験日:随時試験 ※月に複数回実施 試験会場:任意で選択 ※パソコン教室など多くの場所で受験可能 受験料:7,800円(税抜) ※学割価格 ※受験には、事前に受験者IDの登録が必要 MOS公式HP: http://mos.odyssey-com.co.jp/index.html 学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| Microsoft Office Specialist Excel 365&2019 Expert 対策テキスト&問題集 | 富士通エフ・オー・エム株式会社 | FOM出版 | 未発売 ※1月現在 |
| Microsoft Office Specialist Word 365&2019 Expert 対策テキスト&問題集 | 富士通エフ・オー・エム株式会社 | FOM出版 | 未発売 ※1月現在 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| | | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| ・成績評価方法:平常点 20%、課題 20%、定期試験 60% ※平常点は、学習意欲、受講マナー等を見て総合的に評価。 注)受講マナーを守れない者は、「減点」、「欠席」、「受講停止」とする場合がある。 ※定期試験をMOS受験(外部試験)に代えることを認める。(事前に申し出ること。) 可否に関係なく、試験の得点を評価する。(試験結果の提出義務有り) ※定期試験前にMOS試験を受験した者は、定期試験を免除する。 | | | |
| ・成績評価の基準:MOS試験の合格レベルに達しているか。ビジネスソフトの活用力に、応用力があるか。 Word:差し込み印刷や計算、他のソフトとの連携など応用力があるか。 Excel:関数や分析ツール等を自主的に判断でき、かつ応用的に活用できているか。 PowerPoint:聞き手が興味を抱き、かつ訴求力のあるプレゼンテーションを実施できるか。 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|---|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | オリエンテーション: 授業概要とMOS試験の内容、ビジネスソフト活用力をチェックする演習を行います。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前期科目「ビジネスソフト活用演習 I」で学んだ内容を復習しておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | Checkテストの内容を再度確認し、苦手分野や間違えた箇所の再確認を行うこと。(2.0h) |
| 第2回 | Word Expert ① : 文書のオプションと設定の管理 (テキスト P.26~100) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業範囲の内容を確認して、わからない操作用語について、調べておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 【Mission】Word活用:「市場調査報告書」の作成にTRYして、提出してください。(2.0h) |
| 第3回 | Word Expert ② : 高度な機能を使用した文書のデザイン (テキスト P.102~130) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業範囲の内容を確認して、わからない操作用語について、調べておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 【Mission】Word活用:「パンフレット」の作成にTRYして、提出してください。(2.0h) |
| 第4回 | Word Expert ③ : 高度な機能を使用した参考資料の作成 (テキスト P.132~178) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業範囲の内容を確認して、わからない操作用語について、調べておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 【Mission】Word活用:「注文書」(Wordの計算式)の作成にTRYして、提出してください。(2.0h) |
| 第5回 | Word Expert ④ : ユーザー設定のWord要素の作成 (テキスト P.180~225) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業範囲の内容を確認して、わからない操作用語について、調べておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 【Mission】Word活用:「請求書」の作成にTRYして、提出してください。(2.0h) |
| 第6回 | Word Expert ⑤ : MOS Word Expert 模擬試験 問題 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業範囲の内容を確認して、わからない操作用語について、調べておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 【Mission】Word活用:「お礼状」の作成の作成にTRYして、提出してください。(2.0h) |
| 第7回 | Excel Expert ① : ブックのオプションと設定の管理 (テキスト P.26~56) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業範囲の内容を確認して、わからない操作用語について、調べておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 【Mission】Excel活用:「請求書」にTRYして、提出してください。(2.0h) |
| 第8回 | Excel Expert ② : ユーザー定義の表示形式やレイアウトの適用 (テキスト P.58~132) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業範囲の内容を確認して、わからない操作用語について、調べておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 【Mission】Excel活用:「人事考査表」にTRYして、提出してください。(2.0h) |

| | | |
|----------------|--|--|
| 第9回 | Excel Expert ③ : 高度な機能を使用した数式の作成 (テキスト P.134~238) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業範囲の内容を確認して、わからない操作用語について、調べておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 【Mission】Excel活用:「社員満足度調査表」の作成にTRYして、提出してください。(2.0h) |
| 第10回 | Excel Expert ④ : 高度な機能を使用したグラフやテーブルの作成 (テキスト P.240~280) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業範囲の内容を確認して、わからない操作用語について、調べておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 【Mission】Excel活用:「施設利用状況表」の作成にTRYして、提出してください。(2.0h) |
| 第11回 | Excel Expert ⑤ : MOS Excel Expert 模擬試験 問題 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業範囲の内容を確認して、わからない操作用語について、調べておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 【Mission】Excel活用:「ABC分析」の作成にTRYして、提出してください。(2.0h) |
| 第12回 | Excel活用: グラフを使った分析 (損益分岐点図表、ヒストグラム、パレート図) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業範囲の内容を確認して、わからない操作用語について、調べておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | MOS Word Expert 模擬試験プログラムにチャレンジして、結果を報告すること。(2.0h) |
| 第13回 | Excel活用: マクロの利用 (予約表、売上データ抽出) Excel活用: 多角的分析 (ピボットテーブル、ピボットグラフ) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業範囲の内容を確認して、わからない操作用語について、調べておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | MOS Excel Expert 模擬試験プログラムにチャレンジして、結果を報告すること。(2.0h) |
| 第14回 | Excel 活用: What-If分析の利用 (経営シミュレーション) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業範囲の内容を確認して、わからない操作用語について、調べておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | MOS Word Expert 模擬試験プログラムにチャレンジして、結果を報告すること。(2.0h) |
| 第15回 | Excel活用: (フォームコントロールの利用 (入力フォーム)) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業範囲の内容を確認して、わからない操作用語について、調べておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | MOS Excel Expert 模擬試験プログラムにチャレンジして、結果を報告すること。(2.0h) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 ※MOS試験に準じた内容で実施します。 | |

| | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
| 1BIB-5710-12E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 統計学入門 | 219～ | 2年生・前期 | 2単位 | 選択 | 橋爪 善光 | |
| 履修の前提条件 | 基礎数学を履修していることが望ましい。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>統計データには、アンケートや計測などで得られた1次データ(生データともいう)と、それらを何らかの目的で第三者がまとめた2次データがある。</p> <p>本講義では、2次データの読み取りや、目的に沿ったデータのまとめ方や視覚化と分析について学ぶ。また、実際の調査データや実験データなどを用いてデータ解析の意味や現代社会における統計スキルの必要性について学ぶ。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | ○ |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| | 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>データの視覚化や基本統計量などを踏まえて、データの特性や関連性を理解し、統計データを通じた社会の見方や、エビデンス(証拠や根拠)を基にした議論の素養を身につけることを目標とします。また、データを読む力、説明する力の基礎を身につけ、データを扱えるようになることを目標とします。</p> | | | | | | |

| | | | |
|--|------------|---------------|-------------------------|
| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
| 毎回の授業終わりに小テストを行います。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 連絡、問い合わせ、相談などは研究室(361)にて受け付けます。オフィスアワーの時間については掲示を確認してください。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| プレステップ統計学I 記述統計学(プレステップシリーズ 14) | 稲葉 由之(著) | 弘文堂 | 13: 978-4335000843 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| ①統計データはためになる | ① 本川 裕 | ① 技術評論社 | ① ISBN978-4-7741-5293-6 |
| ②地理B 統計・データの読み方が面白いほどわかる本 | ② 伊藤 彰芳 | ② KADOKAWA | ② ISBN978-4-04-601537-2 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 平常点(小テスト・提出物・授業中の発言など)、定期試験の総合評価 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|-----------------|---|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | ガイダンス | |
| | 事前学習 (内容・時間) | データに意識をしてニュースや新聞を読む(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う(2h) |
| 第2回 | 統計データの分類 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h) |
| 第3回 | 統計データの集計 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h) |
| 第4回 | 集計表と各種グラフ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h) |
| 第5回 | 度数分布表とヒストグラム | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h) |
| 第6回 | 中心の位置の統計量 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h) |
| 第7回 | 平均値 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h) |
| 第8回 | 中間試験 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回までの授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書やノートを見ながら試験問題を解く(2h) |

| | | |
|----------------|-----------------|---|
| 第9回 | 変化を表す統計量 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | これまでの授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h) |
| 第10回 | 散らばりの統計量 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h) |
| 第11回 | 散らばりのグラフ表現 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h) |
| 第12回 | データの分布 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h) |
| 第13回 | 2変数の関連性 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h) |
| 第14回 | 記述統計と推測統計 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h) |
| 第15回 | まとめ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う。これまでに間違えた問題を理解できるまで何度も解く(2h) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 | |

| ナンバリング(Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1BIN-5730-Z2CS | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 情報セキュリティ (教職関連科目 必 高等学校 情報) | 219～ | 3・4年生・前期 | 2単位 | 必修 | 車 炳玘 | |
| | ～218 | 3・4年生・後期 | | | | |
| 履修の前提条件 | インターネットの最新技術の動向をセキュリティの観点から調べること。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>情報漏えいに関する事例紹介を通して情報通信技術に潜む危険について認識した上で、情報セキュリティの基本概念、セキュリティリスク及びその対策などについて調べる。情報セキュリティに関する最新技術、関連法規及び個人や企業の情報セキュリティに対する取組み動向について調べる。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | ○ |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>情報セキュリティに関する事例や基礎知識の習得を通して、情報化社会における情報セキュリティの理解及びその全体像を把握するとともに、SPREAD情報セキュリティサポーター能力検定、情報セキュリティ管理士、ITパスポート、基本情報技術者試験のセキュリティ分野の出題問題に対応できる知識レベルに達することを目標とする。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|------------|---------------|-------------------|
| <p>情報セキュリティに関する最新のトレンドをつかむため、2人から4人のグループで必修用語や最近の出来事等をWeb上で調べ(5回以上)、ポートフォリオに記入すること。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>連絡方法: 学生番号、氏名、受講科目、内容等をメール(宛先: cha@kiis.ac.jp)で送ってください。対面相談の場合はなるべくオフィスアワーの時間を利用してください。 オフィスアワー: 水曜日2、3時限、木曜日3時限 研究室: 656号室</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>外部試験: 次の試験の内一つ以上を受験すること。試験結果を成績評価の対象とする。(SPREAD情報セキュリティサポーター能力検定、情報セキュリティ管理士、ITパスポート、基本情報技術者) 学習の確認: 情報セキュリティ関連用語のテスト及びポートフォリオ[科目別履修確認チェック表]を第12回目の授業時間に提出すること。学習の確認: ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 情報セキュリティ読本(四訂版) | 情報処理推進機構 | 実業出版 | 978-4-407-33076-2 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 情報セキュリティの基本と仕組み | 相戸浩志 | 秀和システム | 978-4-7980-2558-2 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>定期試験(30%)、Webテスト(20%)、Web学習(30%)その他(20%、専用ノート、外部試験の結果)</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|-------------------------|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | セキュリティリスクの実例 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストP2～P5を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。2時間 |
| 第2回 | 危険の認識と対策 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストP6～P8を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。Web学習を行うこと。2時間 |
| 第3回 | 情報セキュリティの基本概念及び外部のリスク要因 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストP10～P18を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。Web学習を行うこと。2時間 |
| 第4回 | 内部のリスク要因 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストP19～P24を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。Web学習を行うこと。2時間 |
| 第5回 | マルウェアの種類及び感染の原 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストP26～P37を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。Web学習を行うこと。2時間 |
| 第6回 | マルウェア対策 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストP38～P49を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。Web学習を行うこと。2時間 |
| 第7回 | 標的型攻撃と誘導型攻撃への対策 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストP50～P52を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。Web学習を行うこと。2時間 |
| 第8回 | フィッシング詐欺及びスマートフォンの脅威と対策 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストP53～P61を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。Web学習を行うこと。2時間 |

| | | |
|----------------|-----------------|--|
| 第9回 | 無線LANに潜む脅威とその対策 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストP62～P64を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。Web学習を行うこと。2時間 |
| 第10回 | 組織のセキュリティ対策 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストP65～P72を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。Web学習を行うこと。2時間 |
| 第11回 | 情報漏えいについて | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストP73～P78を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。Web学習を行うこと。2時間 |
| 第12回 | アカウントとパスワードについて | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストP79～P85を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。Web学習を行うこと。2時間 |
| 第13回 | 脆弱性を悪用する攻撃とその対策 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストP86～P96を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。Web学習を行うこと。2時間 |
| 第14回 | 暗号とデジタル証明 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストP97～P106を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。Web学習を行うこと。2時間 |
| 第15回 | 情報セキュリティ関連法規と制度 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストP107～P116を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本日の授業内容を専用のノートにまとめておくこと。Web学習を行うこと。2時間 |
| 第16回 (定期試験) | | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1BIN-5700-Z2ET | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 情報システムの開発と管理 (教職関連科目 必 高等学校 情報) | 共通 | 3・4年生・前期 | 2単位 | 選択 | 荒平 高章 | |
| 履修の前提条件 | プログラミングの基礎知識があり, 情報リテラシー演習を履修していること. | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>本講義では, 様々な分野で利用されている情報システムを念頭に, 事例等を提示しながら, 情報システムについて概説する. また, システム開発に必要な基本計画や設計について学び, 簡単な仕様書の作成を通して, システム開発の手順を経験する.</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| | 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>情報システムの例をあげることができ, システムについて説明することができる. システム開発の技法について説明することができる, 基本計画や設計について述べるができる. 講義に積極的に参加することができ, 自分の意見を表現することができる. 仕様書の作成について, 自分から作成方法を工夫することができる.</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|------------|---------------|-------------------|
| 講義内容について, 議論やグループワークを実施する. | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 連絡, 問い合わせ, 相談などは研究室にて受け付ける. オフィスアワーの時間については掲示を確認すること. | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 学習の確認:ポートフォリオ・ルーブリックシートに必要事項を記入し8回目講義および最終講義時に提出すること. | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 基礎シリーズ 最新情報システムの開発 | 伏見正則 | 実教出版株式会社 | 978-4-407-30957-7 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| | | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 平常点, 課題提出, 定期試験によって総合的に評価する. | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|-----------------|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 講義ガイダンス | |
| | 事前学習 (内容・時間) | シラバスを通読し、受講理由を明確にする。(0.5h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する。(0.5h) |
| 第2回 | 情報システム概論 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の当該箇所(pp.6-7)を通読する。(0.5h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する。(0.5h) |
| 第3回 | 情報システムの構造 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の当該箇所(pp.8-9)を通読する。(0.5h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する。(0.5h) |
| 第4回 | 情報システム開発の技法 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の当該箇所(pp.10-13)を通読する。(0.5h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する。(0.5h) |
| 第5回 | 情報システム開発手順 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の当該箇所(pp.14-17)を通読する。(0.5h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する。(0.5h) |
| 第6回 | 情報システム開発の効率化 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の当該箇所(pp.18-19)を通読する。(0.5h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する。(0.5h) |
| 第7回 | 基本計画 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の当該箇所(pp.24-25)を通読する。(0.5h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する。(0.5h) |
| 第8回 | 現状調査と現状分析 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の当該箇所(pp.26-28)を通読する。(0.5h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する。(0.5h) |

| | | |
|----------------|-----------------|--|
| 第9回 | 外部設計 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の当該箇所(pp.34-43)を通読する。(0.5h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する。(0.5h) |
| 第10回 | 内部設計 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の当該箇所(pp.56-62)を通読する。(0.5h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する。(0.5h) |
| 第11回 | プログラム設計 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の当該箇所(pp.82-122)を通読する。(0.5h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する。(0.5h) |
| 第12回 | テスト工程 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の当該箇所(pp.172-182)を通読する。(0.5h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する。(0.5h) |
| 第13回 | 運用保守 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の当該箇所(pp.188-200)を通読する。(0.5h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する。(0.5h) |
| 第14回 | 仕様書作成(1) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 第2回から第13回までの講義内容を復習する。(0.5h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する。(0.5h) |
| 第15回 | 仕様書作成(2) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回の仕様書の確認をする。(0.5h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する。(0.5h) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験を実施する | |

| | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
| 1BIN-6530-Z2ET | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| マルチメディア論 (教職関連科目 選 高等学校 情報) | 共通 | 3・4年生・前期 | 2単位 | 選択 | 荒平 高章 | |
| 履修の前提条件 | 情報リテラシー演習に合格していること。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>コンピュータ, およびネットワークで取り扱うマルチメディア情報について概説する。また, 現代社会で活用されているマルチメディアにも触れ, どのような場面でどのような技術が使用されているかを学ぶ。さらに, マルチメディアに関する調査研究を実施し, 発表を行うことでマルチメディアに関する理解を深めてもらう。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>マルチメディアに関する基礎的事項(マルチメディア構成要素, メディア処理技術, インターネット通信, ネットビジネス)について分類や列挙, 説明をすることができ, 現代社会におけるマルチメディア技術の例を列挙し, 説明することができる。</p> | | | | | | |

| | | | |
|--|------------|---------------|-------------------|
| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
| 一方向型講義ではなく双方向型講義を実施する。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 連絡, 問い合わせ, 相談などは研究室にて受け付ける。オフィスアワーの時間については掲示を確認すること。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 学習の確認: ポートフォリオ・ルーブリックシートに必要事項を記入し8回目講義および最終講義時に提出すること。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 入門マルチメディア 改訂新版 | 松阪喜幸 | 画像情報教育振興協会 | 978-4903474601 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| | | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 調査研究課題, 発表と定期試験をもとに総合的に判断する。 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|-----------------|---|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 講義ガイダンス | |
| | 事前学習 (内容・時間) | シラバスを通読し, 受講理由を明確にする. (0.5h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する. (0.5h) |
| 第2回 | マルチメディアの特徴 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の当該箇所(pp.12-27)を通読する. (0.5h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する. (0.5h) |
| 第3回 | デジタル端末 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の当該箇所(pp.29-42)を通読する. (0.5h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する. (0.5h) |
| 第4回 | メディア処理(1) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の当該箇所(pp.44-53)を通読する. (0.5h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する. (0.5h) |
| 第5回 | メディア処理(2) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の当該箇所(pp.54-62)を通読する. (0.5h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する. (0.5h) |
| 第6回 | インターネットと通信 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の当該箇所(pp.64-76)を通読する. (0.5h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する. (0.5h) |
| 第7回 | インターネットサービス | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の当該箇所(pp.78-91)を通読する. (0.5h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する. (0.5h) |
| 第8回 | インターネットビジネス | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の当該箇所(pp.94-112)を通読する. (0.5h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する. (0.5h) |

| | | |
|----------------|------------------|---|
| 第9回 | デジタルとネットワーク | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の当該箇所(pp.114-124)を通読する. (0.5h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する. (0.5h) |
| 第10回 | 社会に広がるマルチメディア(1) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の当該箇所(pp.126-133)を通読する. (0.5h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する. (0.5h) |
| 第11回 | 社会に広がるマルチメディア(2) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の当該箇所(pp.135-142)を通読する. (0.5h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する. (0.5h) |
| 第12回 | セキュリティと情報リテラシー | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の当該箇所(pp.144-156)を通読する. (0.5h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する. (0.5h) |
| 第13回 | テーマ決定, 調査研究(1) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 第2回から第12回までの講義内容を復習する. (0.5h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する. (0.5h) |
| 第14回 | 調査研究(2) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回の調査内容を確認する. (0.5h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する. (0.5h) |
| 第15回 | 調査研究結果発表 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回の調査内容を確認する. 発表準備をする. (0.5h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する. (0.5h) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験を実施する | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|---|----------------------------------|---------------|---------|---------|---------------------|
| 1EDN-6490-12E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | | 授業担当者 Instructor |
| マーケティング論 | 219～ | 1年生・前期 | 2単位 | 経営 必 | NW 選 | 秋吉 浩志 |
| | ～218 | | | 選択 | | |
| 履修の前提条件 | 経営やマーケティングに興味をもつ学生は積極的に履修をすすめる。本学の経営情報学に関する1分野としてとても大事な科目のひとつである。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>マーケティングの基礎理論を包括的に講義する。毎回講義ではパワーポイントを使用し、プレゼンテーション方式で授業を行う。それに合わせて、テキストを使用、適宜プリントも配布するが、その回限定のプリントなので、再配布することはしない。よって、必ず出席すること。また、最新のマーケティング&消費者行動に関するテキストを紹介するので、必ず読むことをすすめる。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | ○ |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | ○ |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>マーケティング論の基礎的な講義である。後期または2年次以降の科目受講に向けての基礎科目であるので、この授業でマーケティングの基礎理論を学んで、2年次以降のとくにマーケティング及び流通関連科目、ビジネス関連科目を理解する力を養うことが目標である。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|---------------|---------------|-----------------------|
| <p>①基本的にプレゼン方式で行い、学生と積極的にコミュニケーションをとりながら講義を展開する。 ②動画、テキスト以外の教材などのように実際見たり、感じたりする教材も準備し、より体感できるような講義も行う。 ③ミニテスト、アンケート、学生からの意見なども教材として取り上げ、講義を展開していく。 ④考える、議論する、主張することなどができるような雰囲気づくりを行い、受講学生の積極性なども導き出す。など</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>基本的に研究室(2号館5階555研究室)にて月曜日、水曜日オフィスアワーを設定している。 研究室訪問の際、メール:akiyoshi@kuis.ac.jpにメール連絡をしておくことを薦める。(遠隔授業の場合はGoogleクラスルームを活用して連絡を随時行う)</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ & ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>この科目は経営学検定試験の初級「マーケティング」部分の基礎内容にもふれている。また販売士(リテールマーケティング)受験希望者は、必ず履修することを薦める。 学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入して、指定日までに秋吉までメール(akiyoshi@kuis.ac.jp)で提出してください。 また、遠隔授業の際は主にZoomと動画にて、授業を行い、課題等はGoogleクラスルームを活用する</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 図解マーケティング大全 | 安部徹也他 | 洋泉社MOOK | ISBN978-8003-1479-6 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| マーケティング基礎読本 増補改訂版 | 日経デジタルマーケティング | 日経BP社 | ISBN978-4-8222-3559-8 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>出席・遅刻に関しては厳しく管理し、成績に反映する。パソコン(タブレット型も含む)、携帯(スマートフォン)その他電子機器の使用は出席登録以外では一切禁止し、使用した場合には科目受講失格(0点)にする。基本的に座席指定を行う。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|--|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | マーケティングとは何か&ガイダンス(社会のなかでのマーケティングの役割について) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの指定したページを事前に読んでおくこと。特にマーケティングの基礎知識解説を読んでおくように。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義時に与えられた課題をミニッツペーパーに書いて提出をしよう。(2h) |
| 第2回 | アメリカと日本のマーケティングの歴史と定義の変遷について | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの指定したページを事前に読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義時に与えられた課題をミニッツペーパーに書いて提出をしよう。(2h) |
| 第3回 | マーケティングミックス(マーケティングの4Pとターゲット層を考える) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの指定したページを事前に読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義時に与えられた課題をミニッツペーパーに書いて提出をしよう。(2h) |
| 第4回 | 製品戦略①(メーカーの製品づくりと製品コンセプトを考える) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの指定したページを事前に読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義時に与えられた課題をミニッツペーパーに書いて提出をしよう。(2h) |
| 第5回 | 製品戦略②(コモディティ化とメーカーの製品づくり、製品コンセプトを考える) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの指定したページを事前に読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義時に与えられた課題をミニッツペーパーに書いて提出をしよう。(2h) |
| 第6回 | 価格戦略①(価格決定について損益分岐点法など価格決定のプロセスについて) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの指定したページを事前に読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義時に与えられた課題をミニッツペーパーに書いて提出をしよう。(2h) |
| 第7回 | 価格戦略②(現代の価格決定法を考える:サブスクリプションなど新たな動きについて) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの指定したページを事前に読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義時に与えられた課題をミニッツペーパーに書いて提出をしよう。(2h) |
| 第8回 | 流通(チャネル)戦略①(商業の発展と流通の役割) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの指定したページを事前に読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義時に与えられた課題をミニッツペーパーに書いて提出をしよう。(2h) |

| | | |
|----------------|---|-------------------------------------|
| 第9回 | 流通(チャネル)戦略②(流通システム、流通チャネル、取引数削減の原理など、流通の問題を考える) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの指定したページを事前に読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義時に与えられた課題をミニッツペーパーに書いて提出をしよう。(2h) |
| 第10回 | プロモーション戦略①(広義のプロモーション戦略を考える) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの指定したページを事前に読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義時に与えられた課題をミニッツペーパーに書いて提出をしよう。(2h) |
| 第11回 | プロモーション戦略②(広告、イベントなど狭義のプロモーションについて考える) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの指定したページを事前に読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義時に与えられた課題をミニッツペーパーに書いて提出をしよう。(2h) |
| 第12回 | サービスマーケティング(サービスとはなにか、サービスの諸特徴について) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの指定したページを事前に読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義時に与えられた課題をミニッツペーパーに書いて提出をしよう。(2h) |
| 第13回 | 電子商取引とe-マーケティング(電子商取引の劇的な発展に伴う問題点を考える) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの指定したページを事前に読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義時に与えられた課題をミニッツペーパーに書いて提出をしよう。(2h) |
| 第14回 | IT & ICTとマーケティング(ITやIOTの発展によるマーケティング情報システムの諸問題を考える) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの指定したページを事前に読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義時に与えられた課題をミニッツペーパーに書いて提出をしよう。(2h) |
| 第15回 | 現代におけるマーケティング概念の劇的な変化と進展について&まとめ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの指定したページを事前に読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 最後にマーケティング論のまとめレポートを書いてもらいます。(2h) |
| 第16回 (定期試験) | 基本的に対面ペーパーテストを行う。試験前にルーブリックならびにポートフォリオの提出もしてもらい。その進捗状況も試験の一部とみなす。 | |

| ナンバリング(Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|----------|----------|---------------------|
| 1EDN-5200-22E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | | 授業担当者 Instructor |
| 会計学 | 221～ | 1年生・後期 | 2単位 | 選択 | | 宮崎 裕士 |
| | 219・220 | 2年生・後期 | | 経営 必修 | NW 選択 | |
| 会計学総論 | ～218 | 1年生・後期 | | | | |
| 履修の前提条件 | 「会計学入門Ⅰ」、商業簿記など会計学の初歩的な知識を習得していることが望ましい | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>企業は株式をとおして投資家から資金を調達したり、銀行などの債権者から借り入れによる資金調達をしたりして、それを元手に製品の製造・販売や、サービスの提供を行っています。しかし、投資家や債権者は資金を提供する企業がどれだけ儲ける力があるのか、資産を有効活用しているのか等の企業の経営成績や財務の状況を判断材料にするため、それらを理解するためには会計が深く関係しています。</p> <p>この授業では、複式簿記に関する初歩的な理解を基礎にして、企業会計制度、とくに財務会計制度の全体像と主要な概念・問題点について学習し、会計情報を読み解くことを目標にします。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | ○ |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ |
| | 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>会計学の知識は、現在、ビジネスに関わる人にとっては、身に付けておかねばならない重要な常識になっています。本講義は、このような社会的要請に応えるため、下記の目標を設定しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会計学の中でも財務会計と財務諸表分析に通じる基礎的な知識を習得すること。 ・習得した基礎的な知識を通じて、企業経営に参画するビジネスパーソンとしての手掛かりを得ること。 ・より発展したものとして、簿記などの資格取得にトライする意欲を養うこと。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|--------------|---------------|-------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・対話型の授業を心がけるので、質問など積極的な取組みを期待します。 ・授業内で適宜実施する小テスト・レポートを活用し、授業内容の理解を深めるとともに授業への積極的な参加を促します。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・講義に関する質問、相談等は、講義終了後の教室又は研究室にて随時受け付けます。 ・オフィスアワー時間帯に受け付けます。オフィスアワーの時間帯以外でも必要に応じて対応します。 * 研究室にお越しの際は、事前にメールなどでご相談ください。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>テキスト以外に必要なに応じてレジェメを配布します。</p> <p>学習の確認として、ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 『入門会計学 改訂版』 | 片山 覺 山内 暁 ほか | 実教出版 | 978-4407349542 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 税理士・会計士・簿記検定 はじめての会計基準 [第2版] | 並木 秀明 | 中央経済社 | 978-4502350214 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>1.定期試験(60%) 2.平常点40% * 平常点の内訳: 小テスト(30%)、授業への取組み(10%)</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|---|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | オリエンテーション(授業の内容と進め方)、簿記・会計システムの基礎的な仕組み(1章・2章) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | まずは教科書を一読し、講義の全体像をイメージしてみましょう。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第2回 | 企業会計制度の全体像—会計情報とは 3章 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第1章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第3回 | 会計情報の入手方法とその利用 4章 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第2章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第4回 | 財務諸表の体系 5章 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第3章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第5回 | 貸借対照表(1)貸借対照表の配列および資産—流動資産 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第4章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第6回 | 貸借対照表(2)資産—固定資産 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第5章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第7回 | 貸借対照表(3)負債および資産と負債の評価 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第5章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第8回 | 貸借対照表(4)純資産 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第6章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところを中心に復習をしてみましょう(2時間) |

| | | |
|----------------|--|---|
| 第9回 | 損益計算書(1)損益計算書の意義と営業利益の計算 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第7章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第10回 | 損益計算書(2)経常利益の計算と当期純利益および包括利益の計算 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第7章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第11回 | キャッシュ・フロー計算書(1)キャッシュ・フロー計算書の意義と営業キャッシュ・フロー | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第8章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第12回 | キャッシュ・フロー計算書(2)投資キャッシュ・フローと財務キャッシュ・フロー | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第8章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第13回 | 株主資本等変動計算書—株主資本等変動計算書の意義 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第9章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第14回 | 会計情報を読む—ケーススタディによる財務諸表分析手法 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第10・11章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第15回 | これまでの講義のまとめ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第12章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | これまでの講義の振り返りを行い、定期試験に向け、わからなかったところを中心に復習をしましょう(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|---|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1AMN-5400-22E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 経営分析 | 219～ | 2年生・前期 | 2単位 | 選択 | 春日 克則 | |
| | ～218 | 3・4年生・前期 | | | | |
| 履修の前提条件 | 簿記や会計学の基本的な知識を習得していることが望ましいが、企業の健康診断(経営分析)に興味を持つことが必要である。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| 企業が公表する財務諸表は企業情報の宝庫である。財務諸表等から得られる情報を利用した分析理論と手法を学習し、企業の経営成績・財政状態・キャッシュフローの状況を判断できる力を養う。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| 授業では、企業が作成した貸借対照表、損益計算書(財務諸表)を使用して、様々な分析(診断)を行っていく。この過程で、収益性・安全性・成長性などの各種分析手法を身につける。さらに、この計算結果に基づいて企業経営の問題点を指摘し、これを解決するための提案力を養うことができる。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|------------|---------------|-------------------|
| 授業では、毎回、事例や練習問題に取り組む時間を設けている。そこで、当該時間において、双方向で課題に対する見解を昇華させて行きたい。なお、授業の最後には成果を提出してもらい、翌週添削して返却する。成果を提出する際には、授業中に解決できなかった疑問なども記入する。返却されたペーパーには、私のコメントが書いてあるので互いわかり合えるまで、キャッチボールを行いたい。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 連絡、問い合わせ、相談等は研究室(455研究室)にて随時受け付けている。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 外部試験:大阪商工会議所主催のビジネス会計検定試験3級の内容と授業内容が関連している。 学習の確認:ポートフォリオシートの作成に関しては講義中に適宜指示する。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 『ビジネス会計検定試験 公式テキスト3級[第4版]』 | 大阪商工会議所 | 中央経済社 | 978-4-502-30181-0 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 必要に応じて指示する。 | | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 定期試験40%、中間テスト20%、毎回の課題提出40%として評価する。講義の理解を深めるために、各回ごとに課題の提出、添削、返却がなされるが、この課題への取り組みは疑問点に関する質問・回答というコミュニケーションツールとして皆さんの理解の手助けとなる。 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|------------------------|------------------------------------|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | オリエンテーションと会計情報の利用法について | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 pp.1～8 を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第2回 | 貸借対照表①－意義と様式－ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 pp.9～13 を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第3回 | 貸借対照表②－資産の内容と表示－ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 pp.14～21 を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第4回 | 貸借対照表③－流動資産・固定資産・繰延資産－ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 pp.22～39 を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第5回 | 貸借対照表⑤－負債と純資産－ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 pp.40～53 を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第6回 | 損益計算書①－意義と様式－ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 pp.55～65 を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第7回 | 損益計算書②－売上高から営業利益まで－ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 pp.66～79 を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第8回 | 損益計算書③－経常利益・当期純利益－ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 pp.80～98 を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |

| | | |
|----------------|-------------------------------|---------------------------------------|
| 第9回 | 中間テスト(これまで学習した項目の理解度テスト)とその解説 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 第1回から前回までの総復習を行うこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 中間テストの問題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第10回 | 財務諸表分析の基礎 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 pp.131～138 を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された中間テストと授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第11回 | 財務諸表分析の基本体系－比率分析と実数分析－ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 pp.138～156 を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第12回 | 成長性の分析－企業の伸びや推移を知る－ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 pp.157～167 を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第13回 | 安全性の分析－企業が支払い不能によって倒産しないために－ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 pp.168～185 を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第14回 | 収益性の分析－様々な項目と収益とを比較する－ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 pp.186～202 を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第15回 | まとめ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 第10回から前回までの総復習を行うこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1GGB-5270-12E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 統計学 | 219～ | 2年生・後期 | 2単位 | 選択 | 荒平 高章 | |
| | ～218 | 1年生・後期 | | | | |
| 履修の前提条件 | 【219～】 統計学入門を履修していること。 【～218】 Webで「統計とは」と「確率とは」のキーワードをそれぞれ検索し、特に入門的な複数のサイトを選んでその内容を読んでおくこと。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| 記述統計学と推測統計学の違いを意識しながら、データの縮約・視覚化、母集団と標本分布の違い、統計的仮説検定の基本的な手順を学びます。また、データ解析の目的にあわせた基本的な統計処理と確率分布との関連性について、さらに統計処理をする目的やその限界についても学びます。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | ○ |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| 【知識】 ・母集団と標本、標本抽出法を説明できる。・質的データと量的データの違いを説明できる。・データを記述するための基礎事項(代表値、散布度、標準化、相関係数、回帰直線)を説明できる。・統計的検定やその他の検定法について説明できる。 【態度・習慣】 ・疑問点を尋ねることができる。・講義に参加できる。 【技能】 ・教科書の例題を模倣し、演習問題を解くことができる。・時間内で、与えられた問題を解くことができる。 ・任意のデータを適切に記述できる。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|------------|---------------|-----------------------|
| 講義内容に関する応用問題を講義の終わりにほぼ毎回実施します。 また、Excel の分析ツールを用いて、統計的検定の理解と実習を行いますので、積極的に取り組む様に心掛けてください。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 教員との連絡方法は、授業の終了後、あるいは研究室(653)を訪ねること。 オフィスアワーの時間は、掲示を参照すること。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 学習の確認:ポートフォリオ・ルーブリックシートに必要事項を記入し8回目講義および最終講義時に提出すること。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 読む統計学 使う統計学 | 広田すみれ | 慶応義塾大学出版会 | ISBN978-4-7664-2036-4 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| なし | | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 平常点(確認プリント、提出物など)、期末試験の総合評価 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|-----------------|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 統計とは | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2時間) |
| 第2回 | 記述統計学と推測統計学 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2時間) |
| 第3回 | 確率分布の期待値と分散 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2時間) |
| 第4回 | 正規分布と確率分布 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2時間) |
| 第5回 | 標準正規分布 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2時間) |
| 第6回 | 母集団と標本 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2時間) |
| 第7回 | 母数の推定 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2時間) |
| 第8回 | 母平均と標本平均 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2時間) |

| | | |
|----------------|---------------------|--|
| 第9回 | 区間推定とt-分布 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2時間) |
| 第10回 | 統計的仮説検定の考え方 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2時間) |
| 第11回 | カイ2乗検定 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2時間) |
| 第12回 | 平均値の差の検定 (t検定-対応なし) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2時間) |
| 第13回 | 平均値の差の検定 (t検定-対応あり) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2時間) |
| 第14回 | 分散分析-1 要因 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2時間) |
| 第15回 | まとめ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験を実施する | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1AIN-5430-12ES | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 計算機システム論 (教職関連科目 選 高等学校 情報) | 219～ | 1年生・後期 | 2単位 | 選択 | 朝廣 雄一 | |
| | ～218 | 2年生・前期 | | | | |
| 履修の前提条件 | 「基礎数学」を合格していることを前提とする(履修規程第5条3項に基づく)。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>計算機(コンピュータ)は広く普及し、社会基盤としての役割を担っている。そのため、コンピュータの基本原則について教養として理解しておくことが重要である。本講義では、計算機における3つの基幹技術であるハードウェア、ソフトウェア、通信について取り上げる。例えば、以下のような話題について紹介する。</p> <p>ハードウェア:コンピュータの中はどのように動作して、情報をどのように格納しているのか ソフトウェア:コンピュータへの指示はどのようにして行うのか、どのような処理をおこなえるのか 通信:どのようにしてネットワーク上での通信が行われているのか</p> <p>なお問題演習やPCを用いた実習を適宜取り入れる。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | ○ |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>経営情報学分野の基礎的な知識を修得するために、この科目では計算機を構成するハードウェア・ソフトウェア・通信がどのような働きをしているかについての基礎的な知識を習得することを目指している。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|--------------------------------|---------------|-------------------|
| 演習問題に自力で取り組み、疑問点などについて積極的に発言して下さい。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| オフィスアワーはなし。電子メールにてasahiro@is.kyusan-u.ac.jp宛てに連絡を取ってください。ただし、携帯電話やフリーメールアドレスからではなく、大学のアドレスから発信して下さい。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 授業で扱う内容の一部は、基本情報技術者試験の試験範囲に含まれる。 学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修状況チェック表」に必要事項を記入すること。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| デジタル作法 | Brian W. Kernighan 著 久野 靖 訳 | オーム社 | 978-4-274-06909-3 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| (なし) | | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>・成績評価の方法 レポート(10%) 中間試験(30%) 定期試験(60%)</p> <p>・成績評価の基準 授業計画の欄に示した各項目について理解しているかが成績評価の基準である。具体的には、それぞれの項目についてレポート課題、中間試験、定期試験のいずれかに出題し、合計得点で評価することにより、総合的な理解度を評価する。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|-------------------|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | コンピュータとは何か? | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 p.26 までを読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容ならびに演習問題の復習を行うとともに、提示される課題に取り組む(2時間) |
| 第2回 | ビット・バイトと情報の表現 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 pp.27-46 を読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容ならびに演習問題の復習を行うとともに、提示される課題に取り組む(2時間) |
| 第3回 | CPUの中身 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 pp.47-66 を読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容ならびに演習問題の復習を行うとともに、提示される課題に取り組む(2時間) |
| 第4回 | まとめと中間試験1 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | これまでに学習した内容の復習を行う(3時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | よく分からなかった問題について復習を行う(1時間) |
| 第5回 | アルゴリズム | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 pp.67-86 を読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容ならびに演習問題の復習を行うとともに、提示される課題に取り組む(2時間) |
| 第6回 | プログラミングとプログラミング言語 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 pp.87-114 を読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容ならびに演習問題の復習を行うとともに、提示される課題に取り組む(2時間) |
| 第7回 | ソフトウェアシステム | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 pp.115-140 を読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容ならびに演習問題の復習を行うとともに、提示される課題に取り組む(2時間) |
| 第8回 | まとめと中間試験2 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | これまでに学習した内容の復習を行う(3時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | よく分からなかった問題について復習を行う(1時間) |

| | | |
|----------------|--------------------------|---|
| 第9回 | プログラミングを学ぶ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 pp.141-158 を読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容ならびに演習問題の復習を行うとともに、提示される課題に取り組む(2時間) |
| 第10回 | ネットワーク | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 pp.159-184 を読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容ならびに演習問題の復習を行うとともに、提示される課題に取り組む(2時間) |
| 第11回 | インターネット | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 pp.185-220 を読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容ならびに演習問題の復習を行うとともに、提示される課題に取り組む(2時間) |
| 第12回 | まとめと中間試験3 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | これまでに学習した内容の復習を行う(3時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | よく分からなかった問題について復習を行う(1時間) |
| 第13回 | World Wide Web | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 pp.221-256 を読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容ならびに演習問題の復習を行うとともに、提示される課題に取り組む(2時間) |
| 第14回 | データ、情報、プライバシー | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 pp.257-290 を読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容ならびに演習問題の復習を行うとともに、提示される課題に取り組む(2時間) |
| 第15回 | 計算機(コンピュータ)を用いた演習(実習を含む) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | PCの準備(アダプターやケーブルなどの準備、ならびに事前設定など)を行う(1時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業中に完了できなかった課題とレポート作成に取り組む(3時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|---|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1AIN-5120-22ET | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| アルゴリズムとデータ構造 (教職関連科目 必 高等学校 情報) | 219～ | 2年生・前期 | 2単位 | 選択 | 朝廣 雄一 | |
| | ～218 | 2年生・後期 | | | | |
| 履修の前提条件 | 「基礎数学」と「プログラミング初歩I」(情報ネットワーク学科), または「基礎数学」と「プログラミング入門」(経営情報学科)を合格していることを前提とする(履修規程第5条3項に基づく)。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>計算機科学の基本的かつ重要な要素であるアルゴリズムとデータ構造を扱い、各種の問題とそれらに対するアルゴリズムの漸近的な性能を解析する手法について解説する。まず単純な問題を対象とし、アルゴリズムとその性能を解析する流れについて概説する。その後、実際に基本的データ構造を用いた、各種の計算などのアルゴリズムについて漸近的な性能の解析を行う。問題演習やPCを用いた実習を適宜取り入れる。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | ○ |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>経営情報学分野の応用的な知識を修得するために、アルゴリズムとデータ構造の知識を習得し、アルゴリズムの漸近的な性能を解析する手法について習得するのを目指している。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|---|---------------|-------------------|
| <p>演習問題に自力で取り組み、疑問点などについて積極的に発言して下さい。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>オフィスアワーはなし。電子メールにてasahiro@is.kyusan-u.ac.jp宛てに連絡を取ってください。ただし、携帯電話やフリーメールアドレスからではなく、大学のアドレスから発信して下さい。</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>授業で扱う内容の一部は、基本情報技術者試験の試験範囲に含まれる。 学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入すること。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 授業は配布プリントに従って実施する | | | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| アルゴリズムイントロダクション 第3版 第1巻 | コルメン、ライザーソン、リベスト、シュタイン(浅野、岩野、梅尾、山下、和田訳) | 近代科学社 | 978-4-7649-0406-4 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>・成績評価の方法 レポート(10%) 中間試験(30%) 定期試験(60%) ・成績評価の基準 授業計画の欄に示した各項目について理解しているかが成績評価の基準である。具体的には、それぞれの項目についてレポート課題、中間試験、定期試験のいずれかに出題し、合計得点で評価することにより、総合的な理解度を評価する。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|----------------------------|---|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 計算におけるアルゴリズムの役割について理解する | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 配布資料に目を通し、授業内容の見通しを立てるとともに、疑問点についてまとめておく(1時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容ならびに演習問題の復習を行うとともに、提示される課題に取り組む(3時間) |
| 第2回 | 疑似プログラムとSRAMモデルの概要について理解する | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 配布資料に目を通し、授業内容の見通しを立てるとともに、疑問点についてまとめておく(1時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容ならびに演習問題の復習を行うとともに、提示される課題に取り組む(3時間) |
| 第3回 | 単純な問題とアルゴリズムについて理解する | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 配布資料に目を通し、授業内容の見通しを立てるとともに、疑問点についてまとめておく(1時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容ならびに演習問題の復習を行うとともに、提示される課題に取り組む(3時間) |
| 第4回 | まとめと中間試験1 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | これまでに学習した内容の復習を行う(3時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | よく分からなかった問題について復習を行う(1時間) |
| 第5回 | 各種演算とアルゴリズムについて理解する | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 配布資料に目を通し、授業内容の見通しを立てるとともに、疑問点についてまとめておく(1時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容ならびに演習問題の復習を行うとともに、提示される課題に取り組む(3時間) |
| 第6回 | 条件分岐と最悪、最良実行時間について理解する | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 配布資料に目を通し、授業内容の見通しを立てるとともに、疑問点についてまとめておく(1時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容ならびに演習問題の復習を行うとともに、提示される課題に取り組む(3時間) |
| 第7回 | 高度な条件分岐について理解する | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 配布資料に目を通し、授業内容の見通しを立てるとともに、疑問点についてまとめておく(1時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容ならびに演習問題の復習を行うとともに、提示される課題に取り組む(3時間) |
| 第8回 | まとめと中間試験2 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | これまでに学習した内容の復習を行う(3時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | よく分からなかった問題について復習を行う(1時間) |

| | | |
|----------------|---|---|
| 第9回 | 数列について理解する | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 配布資料に目を通し、授業内容の見通しを立てるとともに、疑問点についてまとめておく(1時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容ならびに演習問題の復習を行うとともに、提示される課題に取り組む(3時間) |
| 第10回 | ループ構造を持つアルゴリズム(1)数の和を計算するアルゴリズムについて理解する | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 配布資料に目を通し、授業内容の見通しを立てるとともに、疑問点についてまとめておく(1時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容ならびに演習問題の復習を行うとともに、提示される課題に取り組む(3時間) |
| 第11回 | ループ構造を持つアルゴリズム(2)ループ不変式について理解する | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 配布資料に目を通し、授業内容の見通しを立てるとともに、疑問点についてまとめておく(1時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容ならびに演習問題の復習を行うとともに、提示される課題に取り組む(3時間) |
| 第12回 | まとめと中間試験3 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | これまでに学習した内容の復習を行う(3時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | よく分からなかった問題について復習を行う(1時間) |
| 第13回 | ループ構造を持つアルゴリズム(3)自然数の和を計算するアルゴリズムについて理解する | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 配布資料に目を通し、授業内容の見通しを立てるとともに、疑問点についてまとめておく(1時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容ならびに演習問題の復習を行うとともに、提示される課題に取り組む(3時間) |
| 第14回 | O記法について理解する | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 配布資料に目を通し、授業内容の見通しを立てるとともに、疑問点についてまとめておく(1時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容ならびに演習問題の復習を行うとともに、提示される課題に取り組む(3時間) |
| 第15回 | 各種アルゴリズムの実験的評価に取り組む(実習を含む) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | PCの準備(アダプターやケーブルなどの準備, ならびに事前設定など)を行う(1時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業中に完了できなかった課題とレポート作成に取り組む(3時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1AIN-6060-22ET | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| データベース論 (教職関連科目 必 高等学校 情報) | 共通 | 2年生・前期 | 2単位 | 選択 | 橋爪 善光 | |
| 履修の前提条件 | 情報学入門、情報テクノロジーを修得済みであることが望ましい | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| データベースの概要を学ぶ。データベースとしては現在最も広範囲に使用されているリレーショナルデータベースを中心にデータベースの設計方法、アクセス方法を演習を通じて身につける。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| 倫理観 Ethical Sense | | | | | | |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| 自分でデータベースを作成し、アクセスすることができるようになる。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|------------|---------------|-------------------|
| 毎回各自のPCで、実際に手を動かしてデータベースへの操作をしてください。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 連絡、問い合わせ、相談などは研究室(361)にて受け付けます。オフィスアワーの時間については掲示を確認してください。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 毎回必ずパソコンを持参する事。 学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| データベースの基礎 | 永田武 | コロナ社 | 978-4339024562 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 標準MySQL | 田中ナルミ/阿部忠光 | ソフトバンククリエイティブ | 978-4797339550 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 実技試験60%、定期試験40%、iパソコンテストの得点を平常点として加味する | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|---------------------|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | ガイダンス、データベースとは | |
| | 事前学習 (内容・時間) | シラバスを読む(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う、教科書第1章を読む(2h) |
| 第2回 | Xamppのインストールおよび動作確認 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | PCのアップデート等授業中に起こらないよう事前に電源を入れて確認しておく(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | Xamppの起動と終了を何度も行い操作に慣れる(2h) |
| 第3回 | Tableの作成 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | PCのアップデート等授業中に起こらないよう事前に電源を入れて確認しておく(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 毎日1つTableを作成する(2h) |
| 第4回 | データの挿入 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | PCのアップデート等授業中に起こらないよう事前に電源を入れて確認しておく(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 毎日Tableにデータを挿入する(2h) |
| 第5回 | データの修正 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | PCのアップデート等授業中に起こらないよう事前に電源を入れて確認しておく(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 毎日Tableのデータを修正する(2h) |
| 第6回 | データの削除 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | PCのアップデート等授業中に起こらないよう事前に電源を入れて確認しておく(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 毎日Tableのデータを削除する(2h) |
| 第7回 | データの参照 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | PCのアップデート等授業中に起こらないよう事前に電源を入れて確認しておく(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 毎日Tableのデータを参照する(2h) |
| 第8回 | データの抽出条件による参照 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | PCのアップデート等授業中に起こらないよう事前に電源を入れて確認しておく(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 毎日Tableのデータを抽出条件を入れて参照する(2h) |

| | | |
|----------------|----------------------------|---|
| 第9回 | phpプログラムを利用したデータの参照 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | PCのアップデート等授業中に起こらないよう事前に電源を入れて確認しておく(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業中に作成したプログラムを別のtableでもう一度自分で作成する、教科書6.3.1を読む(2h) |
| 第10回 | phpプログラムを利用したデータの抽出条件による参照 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | PCのアップデート等授業中に起こらないよう事前に電源を入れて確認しておく(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業中に作成したプログラムを別のtableでもう一度自分で作成する、教科書6.3.1を読む(2h) |
| 第11回 | データベースの設計、正規化による整理方法 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | PCのアップデート等授業中に起こらないよう事前に電源を入れて確認しておく(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業中に指示のあった作業をもう一度自分で実施する、教科書5.1, 5.2を読む(2h) |
| 第12回 | 複数の表の結合によるデータ参照 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | PCのアップデート等授業中に起こらないよう事前に電源を入れて確認しておく(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業中に作成したプログラムを別のtableでもう一度自分で作成する(2h) |
| 第13回 | 実技試験前半 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | PCのアップデート等授業中に起こらないよう事前に電源を入れて確認しておく(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業中の課題の復習およびこれまでの授業の復習をする(2h) |
| 第14回 | 実技試験後半 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | PCのアップデート等授業中に起こらないよう事前に電源を入れて確認しておく(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業中の課題の復習をする(2h) |
| 第15回 | 総合演習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | PCのアップデート等授業中に起こらないよう事前に電源を入れて確認しておく(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | データ操作言語の命令文をしっかりと復習する(2h) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 | |

| ナンバリング(Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----------|---------------------|----------|
| 1AIN-5750-24C | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 情報テクノロジー演習 I | 220～ | 2年生・前期 | 4単位 | 経選 NW必 | ディンダ プラマンタ | |
| | 219～ 情報ネットワーク学科 | | | 必修 | | |
| 履修の前提条件 | ITパスポート資格取得に意欲的に取り組む意志があること。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| 働く人が共通して備えておきたい情報技術や企業活動に関する基本的な知識を幅広く問われるのが、情報技術者試験のITパスポートである。この国家試験で問われるストラテジ系、マネジメント系、テクノロジー系の3つの分野の出題範囲について、過去問題を通して網羅してしていく。受講者全員のITパスポート試験合格を目標とする。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| ITパスポート資格について説明できる。テクノロジー分野に関する基本事項、用語について説明することができる。ストラテジー分野に関する基本事項、用語について説明することができる。マネジメント分野に関する基本事項、用語について説明することができる。演習に参加することができる。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|-----------------|---------------|-------------------|
| 聴講型講義の他に、学生参加型の演習を行います。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 連絡、問い合わせ、相談などは研究室にて受け付ける。オフィスアワーの時間については掲示を確認すること。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出すること。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 令和02年 ITパスポート合格教本 | 岡嶋 裕史 | 技術評論社 | 978-4-297-10997-4 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| よくわかるマスター ITパスポート試験対策テキスト&過去問題集 2019年度版 | 富士通エフ・オー・エム株式会社 | FOM出版 | 978-4-86510-374-8 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 平常点、定期試験を総合的に判断する。また、平常点の中に、本学開催のiパス・簿記コンテストへの参加も含まれる。積極的な参加を推奨する。 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|--|-----------------------------|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | オリエンテーション(ITパスポート試験の概要と演習の進め方) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の該当箇所を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 解けなかった問題については各自復習すること。(2時間) |
| 第2回 | テクノロジー系① (テキスト P. 196 ~ 215)33. 離散数学~35. 情報に関する理論 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の該当箇所を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 解けなかった問題については各自復習すること。(2時間) |
| 第3回 | テクノロジー系② (テキスト P. 218 ~ 229)36. データ構造~39. その他の言語 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の該当箇所を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 解けなかった問題については各自復習すること。(2時間) |
| 第4回 | テクノロジー系③ (テキスト P. 231 ~ 258)40. プロセッサ~44. システムの評価指標 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の該当箇所を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 解けなかった問題については各自復習すること。(2時間) |
| 第5回 | テクノロジー系④ (テキスト P. 231 ~ 258)45. オペレーティングシステム~49. ハードウェア | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の該当箇所を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 解けなかった問題については各自復習すること。(2時間) |
| 第6回 | 確認テスト | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 第1回~第4回を復習しておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 解けなかった問題については各自復習すること。(2時間) |
| 第7回 | テクノロジー系⑤ (テキスト P. 261 ~ 268)50. ヒューマンインタフェース技術~53. マルチメディア応用 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の該当箇所を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 解けなかった問題については各自復習すること。(2時間) |
| 第8回 | テクノロジー系⑥ (テキスト P. 278 ~ 304)54. データベース方式~57. トランザクション処理 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の該当箇所を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 解けなかった問題については各自復習すること。(2時間) |

| | | |
|----------------|--|-----------------------------|
| 第9回 | テクノロジー系⑧ (テキスト P. 343 ~ 378)61. 情報セキュリティ~63. 情報セキュリティ対策・情報セキュリティ実装技術 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の該当箇所を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 解けなかった問題については各自復習すること。(2時間) |
| 第10回 | テクノロジー系⑧ (テキスト P. 343 ~ 378)61. 情報セキュリティ~63. 情報セキュリティ対策・情報セキュリティ実装技術 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の該当箇所を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 解けなかった問題については各自復習すること。(2時間) |
| 第11回 | 確認テスト | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 第7回~第10回を復習しておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 解けなかった問題については各自復習すること。(2時間) |
| 第12回 | マネジメント系① (テキスト P. 142 ~ 158)25. システム開発技術~26. 開発プロセス・手法 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の該当箇所を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 解けなかった問題については各自復習すること。(2時間) |
| 第13回 | マネジメント系② (テキスト P. 160 ~ 169)27. プロジェクトマネジメント | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の該当箇所を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 解けなかった問題については各自復習すること。(2時間) |
| 第14回 | マネジメント系③ (テキスト P. 172 ~ 185)28. サービスマネジメント~30. ファシリティマネジメント | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の該当箇所を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 解けなかった問題については各自復習すること。(2時間) |
| 第15回 | 確認テスト | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 第12回~第14回を復習しておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 解けなかった問題については各自復習すること。(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 | |

| | | | | | | |
|--|---|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
| 1AIN-5760-24E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 情報テクノロジー演習Ⅱ | 220～ | 2年生・後期 | 4単位 | 選択 | 平川 淳一 | |
| | 219 情報ネットワーク学科 | 2年生・後期 | | | | |
| 履修の前提条件 | 自らの意志で国家資格ITパスポートの取得を望み、最後までやり遂げる強い意志を持っていること。 ※注意事項: プリント類を管理するためのファイルを1冊準備しておいてください。 ・受講マナーを守る者(厳禁: 遅刻/退室/居眠り/スマートフォン/イヤホン) | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| 働く人が共通して備えておきたい情報技術や企業活動に関する基本的な知識を幅広く問われるのが、情報技術者試験のITパスポートです。この国家試験で問われるストラテジ系、マネジメント系、テクノロジー系の3つの分野の出題範囲について、過去問題を通して網羅してまいります。四択一の問題のみならず、他の選択肢についての用語や概念なども併せて確認することで、さらに知識を広げていきます。受講者全員のITパスポート試験合格を目標としています。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| 経営情報学の汎用的技能や知識・理解についての基礎を習得するために、この科目では経営・会計・情報を中心とする経営情報分野全般を横断的に学習し、国家資格情報技術者試験 ITパスポートの取得を目指します。 | | | | | | |

| | | | |
|---|------------|---------------|-------------------|
| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> それぞれの項目ごとに、復習+理解度確認のためのCheckテストを実施します。 配付したプリントはファイリングして管理してください。 配付するプリントにはメモ欄を用意しているので、独自のテキストを作り上げてください。 ※授業終了時にプリントを確認します。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 講義日、2号館1階の講師控室にお越しください。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ & ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 外部試験: ITパスポート試験 試験日 : 随時試験(受験会場に確認) 受験料 : 5,700円(税込) 試験会場: 福岡県4会場(博多駅近隣 2会場、北九州 1会場、久留米 1会場) 受験には、事前に受験者IDの登録が必要となります。 学習の確認: ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 令和02年 ITパスポート合格教本 | 岡嶋 裕史 | 技術評論社 | 978-4-297-10997-4 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| かんたん合格 ITパスポート過去問題集 令和2年度 秋期 | 間久保 恭子 | インプレス | 978-4295008934 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 成績評価方法: 平常点 20%、課題 20%、定期試験 60% ※平常点は、学習意欲、受講マナー、獲得ポイント数を見て総合的に評価する。 注) 受講マナーを守れない者は、「減点」、「欠席」、「受講停止」とする場合がある。 ※学内で実施される『iパス・簿記コンテスト』参加者は、平常点が加算される。 ※定期試験をITパスポート受験(外部試験)に代えることを認める。(事前に申し出ること) 可否に関係なく、試験の得点を成績評価で考慮する。(試験結果の提出義務有り) ※定期試験前にITパスポート試験を受験した者は、定期試験を免除する。 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 成績評価の基準: 第1回授業で把握した苦手分野についての理解度が向上しているか。 ITパスポート試験の過去問題において各分野での正答率が60%以上の実力を要しているか。 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | |
|------------------------|---|
| テーマ Theme | |
| 第1回 | オリエンテーション: 授業概要とITパスポート試験の内容を確認し、過去問題を解く演習を行います。 |
| | 事前学習 (内容・時間) ITパスポート試験の出題範囲を調べ、試験内容と全体像をノートにまとめておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) 授業で取り扱った問題を再度解き、さらに類似問題も解いてノートに記録しておくこと。(2.0h) |
| 第2回 | ストラテジ系①1. 経営・組織、2. OR・IE ストラテジ系②3. 会計・財務 |
| | 事前学習 (内容・時間) 授業範囲の内容を確認し、わからない用語を調べてノートにまとめること。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) 授業で取り扱った問題を再度解き、さらに類似問題も解いてノートに記録しておくこと。(2.0h) |
| 第3回 | ストラテジ系③4. 知的財産権～8. 標準化関連 Checkテスト ストラテジ系 (20問)1: 企業活動と法務 |
| | 事前学習 (内容・時間) 授業範囲の内容を確認し、わからない用語を調べてノートにまとめること。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) 授業で取り扱った問題を再度解き、さらに類似問題も解いてノートに記録しておくこと。(2.0h) |
| 第4回 | ストラテジ系④9. 経営戦略手法～11. ビジネス戦略と目標・評価 ストラテジ系⑤12. 経営管理システム～14. ビジネスシステム |
| | 事前学習 (内容・時間) 授業範囲の内容を確認し、わからない用語を調べてノートにまとめること。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) 授業で取り扱った問題を再度解き、さらに類似問題も解いてノートに記録しておくこと。(2.0h) |
| 第5回 | ストラテジ系⑥15. エンジニアリングシステム～17. 民生機器・産業機器 Checkテスト ストラテジ系 (20問)2: 経営戦略 |
| | 事前学習 (内容・時間) 授業範囲の内容を確認し、わからない用語を調べてノートにまとめること。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) 授業で取り扱った問題を再度解き、さらに類似問題も解いてノートに記録しておくこと。(2.0h) |
| 第6回 | ストラテジ系⑦18. 情報システム戦略～21. システム活用促進・評価 ストラテジ系⑧22. システム化計画～24. 調達計画・実施 |
| | 事前学習 (内容・時間) 授業範囲の内容を確認し、わからない用語を調べてノートにまとめること。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) 授業で取り扱った問題を再度解き、さらに類似問題も解いてノートに記録しておくこと。(2.0h) |
| 第7回 | Checkテスト ストラテジ系 (20問)3: システム戦略 マネジメント系①25. システム開発技術～26. 開発プロセス・手法 |
| | 事前学習 (内容・時間) 授業範囲の内容を確認し、わからない用語を調べてノートにまとめること。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) 授業で取り扱った問題を再度解き、さらに類似問題も解いてノートに記録しておくこと。(2.0h) |
| 第8回 | マネジメント系②27. プロジェクトマネジメント Checkテスト マネジメント系 (20問)4: 開発技術、5: プロジェクトマネジメント |
| | 事前学習 (内容・時間) 授業範囲の内容を確認し、わからない用語を調べてノートにまとめること。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) 授業で取り扱った問題を再度解き、さらに類似問題も解いてノートに記録しておくこと。(2.0h) |

| | |
|----------------|--|
| 第9回 | マネジメント系③28. サービスマネジメント～30. ファシリティマネジメント マネジメント系④31. システム監査～32. 内部統制 |
| | 事前学習 (内容・時間) 授業範囲の内容を確認し、わからない用語を調べてノートにまとめること。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) 授業で取り扱った問題を再度解き、さらに類似問題も解いてノートに記録しておくこと。(2.0h) |
| 第10回 | Checkテスト マネジメント系 (20問)6: サービスマネジメント テクノロジ系①33. 離散数学～35. 情報に関する理論 |
| | 事前学習 (内容・時間) 授業範囲の内容を確認し、わからない用語を調べてノートにまとめること。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) 授業で取り扱った問題を再度解き、さらに類似問題も解いてノートに記録しておくこと。(2.0h) |
| 第11回 | テクノロジ系②36. データ構造～39. その他の言語 Checkテスト テクノロジ系 (20問)7: 基礎理論 |
| | 事前学習 (内容・時間) 授業範囲の内容を確認し、わからない用語を調べてノートにまとめること。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) 授業で取り扱った問題を再度解き、さらに類似問題も解いてノートに記録しておくこと。(2.0h) |
| 第12回 | テクノロジ系③40. プロセッサ～44. システムの評価指標 テクノロジ系④45. オペレーティングシステム～49. ハードウェア |
| | 事前学習 (内容・時間) 授業範囲の内容を確認し、わからない用語を調べてノートにまとめること。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) 授業で取り扱った問題を再度解き、さらに類似問題も解いてノートに記録しておくこと。(2.0h) |
| 第13回 | Checkテスト テクノロジ系 (20問)8: コンピュータシステム テクノロジ系⑤50. ヒューマンインタフェース技術～53. マルチメディア応用 |
| | 事前学習 (内容・時間) 授業範囲の内容を確認し、わからない用語を調べてノートにまとめること。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) 授業で取り扱った問題を再度解き、さらに類似問題も解いてノートに記録しておくこと。(2.0h) |
| 第14回 | テクノロジ系⑥54. データベース方式～57. トランザクション処理 Checkテスト テクノロジ系 (20問)9: 技術要素① |
| | 事前学習 (内容・時間) 授業範囲の内容を確認し、わからない用語を調べてノートにまとめること。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) 授業で取り扱った問題を再度解き、さらに類似問題も解いてノートに記録しておくこと。(2.0h) |
| 第15回 | テクノロジ系⑥58. ネットワーク方式～63. 情報セキュリティ対策・情報セキュリティ実装技術 Checkテスト テクノロジ系 (20問)9: 技術要素② |
| | 事前学習 (内容・時間) 授業範囲の内容を確認し、わからない用語を調べてノートにまとめること。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) 授業で取り扱った問題を再度解き、さらに類似問題も解いてノートに記録しておくこと。(2.0h) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 ※情報技術者試験 ITパスポートの内容に準じた内容で実施します。 |

| | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 情報テクノロジー演習 | ~218 | 2年生・通年 | 2単位 | 選択 | 平川 淳一 | |
| 履修の前提条件 | 自らの意志で国家資格ITパスポートの取得を望み、最後までやり遂げる強い意志を持っていること。 ※注意事項:プリント類を管理するためのファイルを1冊準備しておいてください。 ・受講マナーを守ること。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| 働く人が共通して備えておきたい情報技術や企業活動に関する基本的な知識を幅広く問われるのが、情報技術者試験のITパスポートです。この国家試験で問われるストラテジ系、マネジメント系、テクノロジー系の3つの分野の出題範囲について、過去問題を通して網羅してまいります。四肢択一の正答内容のみならず、他の選択肢についての用語や概念なども併せて確認することで、さらに知識を広げていきます。受講者全員のITパスポート試験合格を目標としています。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| | 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| 経営情報学の汎用的技能や知識・理解についての基礎を習得するために、この科目では経営・会計・情報を中心とする経営情報分野全般を横断的に学習し、国家資格情報技術者試験 ITパスポートの取得を目指します。 | | | | | | |

| | | | |
|--|------------|---------------|-------------------|
| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの項目ごとに、復習+理解度確認のためのCheckテストを実施します。 ・配付したプリントはファイリングして管理してください。 ・配付するプリントにはメモ欄を用意しているので、独自のテキストを作り上げてください。 ※授業終了時にプリントを確認します。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 講義日、2号館1階の講師控室にお越しください。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>外部試験: ITパスポート試験 試験日 : 随時試験(受験会場に確認) 受験料 : 5,700円(税込) 試験会場: 福岡県4会場(博多駅近隣 2会場、北九州 1会場、久留米 1会場) 受験には、事前に受験者IDの登録が必要となります。 学習の確認: ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 令和03年 ITパスポート合格教本 | 岡嶋 裕史 | 技術評論社 | 978-4297117269 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| かんたん合格 ITパスポート過去問題集 令和2年度 秋期 | 間久保 恭子 | インプレス | 978-4295008934 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価方法: 平常点 20%、課題 20%、定期試験 60% ※平常点は、学習意欲、受講マナー、獲得ポイント数を見て総合的に評価する。 注) 受講マナーを守れない者は、「減点」、「欠席」、「受講停止」とする場合がある。 ※学内で実施される『iパス・簿記コンテスト』参加者は、平常点が加算される。 ※定期試験をITパスポート受験(外部試験)に代えることを認める。(事前に申し出ること) 合否に関係なく、試験の得点を成績評価で考慮する。(試験結果の提出義務有り) ※定期試験前にITパスポート試験を受験した者は、定期試験を免除する。 ・成績評価の基準: 第1回授業で把握した苦手分野についての理解度が向上しているか。 ITパスポート試験の過去問題において各分野での正答率が60%以上の実力を要しているか。 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | |
|------------------------|---|
| テーマ Theme | |
| 第1回 | オリエンテーション: 授業概要とITパスポート試験の内容を確認し、過去問題を解く演習を行います。 |
| | 事前学習 (内容・時間) ITパスポート試験の出題範囲を調べ、試験内容と全体像をノートにまとめておくこと。 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) 授業で取り扱った問題を再度解き、さらに類似問題も解いてノートに記録しておくこと。 (2.0h) |
| 第2回 | ストラテジ系①1. 経営・組織、2. OR・IE ストラテジ系②3. 会計・財務 |
| | 事前学習 (内容・時間) 授業範囲の内容を確認し、わからない用語を調べてノートにまとめること。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) 授業で取り扱った問題を再度解き、さらに類似問題も解いてノートに記録しておくこと。 (2.0h) |
| 第3回 | ストラテジ系③4. 知的財産権～8. 標準化関連 Checkテスト ストラテジ系 (20問)1: 企業活動と法務 |
| | 事前学習 (内容・時間) 授業範囲の内容を確認し、わからない用語を調べてノートにまとめること。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) 授業で取り扱った問題を再度解き、さらに類似問題も解いてノートに記録しておくこと。 (2.0h) |
| 第4回 | ストラテジ系④9. 経営戦略手法～11. ビジネス戦略と目標・評価 ストラテジ系⑤12. 経営管理システム～14. ビジネスシステム |
| | 事前学習 (内容・時間) 授業範囲の内容を確認し、わからない用語を調べてノートにまとめること。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) 授業で取り扱った問題を再度解き、さらに類似問題も解いてノートに記録しておくこと。 (2.0h) |
| 第5回 | ストラテジ系⑥15. エンジニアリングシステム～17. 民生機器・産業機器 Checkテスト ストラテジ系 (20問)2: 経営戦略 |
| | 事前学習 (内容・時間) 授業範囲の内容を確認し、わからない用語を調べてノートにまとめること。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) 授業で取り扱った問題を再度解き、さらに類似問題も解いてノートに記録しておくこと。 (2.0h) |
| 第6回 | ストラテジ系⑦18. 情報システム戦略～21. システム活用促進・評価 ストラテジ系⑧22. システム化計画～24. 調達計画・実施 |
| | 事前学習 (内容・時間) 授業範囲の内容を確認し、わからない用語を調べてノートにまとめること。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) 授業で取り扱った問題を再度解き、さらに類似問題も解いてノートに記録しておくこと。 (2.0h) |
| 第7回 | Checkテスト ストラテジ系 (20問)3: システム戦略 マネジメント系①25. システム開発技術～26. 開発プロセス・手法 |
| | 事前学習 (内容・時間) 授業範囲の内容を確認し、わからない用語を調べてノートにまとめること。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) 授業で取り扱った問題を再度解き、さらに類似問題も解いてノートに記録しておくこと。 (2.0h) |
| 第8回 | マネジメント系②27. プロジェクトマネジメント Checkテスト マネジメント系 (20問)4: 開発技術、5: プロジェクトマネジメント |
| | 事前学習 (内容・時間) 授業範囲の内容を確認し、わからない用語を調べてノートにまとめること。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) 授業で取り扱った問題を再度解き、さらに類似問題も解いてノートに記録しておくこと。 (2.0h) |

| | |
|----------------|--|
| 第9回 | マネジメント系③28. サービスマネジメント～30. ファシリティマネジメント マネジメント系④31. システム監査～32. 内部統制 |
| | 事前学習 (内容・時間) 授業範囲の内容を確認し、わからない用語を調べてノートにまとめること。(2.0h) |
| 第10回 | Checkテスト マネジメント系 (20問)6: サービスマネジメント テクノロジ系①33. 離散数学～35. 情報に関する理論 |
| | 事後学習 (内容・時間) 授業で取り扱った問題を再度解き、さらに類似問題も解いてノートに記録しておくこと。 (2.0h) |
| 第11回 | テクノロジ系②36. データ構造～39. その他の言語 Checkテスト テクノロジ系 (20問)7: 基礎理論 |
| | 事後学習 (内容・時間) 授業で取り扱った問題を再度解き、さらに類似問題も解いてノートに記録しておくこと。 (2.0h) |
| 第12回 | テクノロジ系③40. プロセッサ～44. システムの評価指標 テクノロジ系④45. オペレーティングシステム～49. ハードウェア |
| | 事後学習 (内容・時間) 授業で取り扱った問題を再度解き、さらに類似問題も解いてノートに記録しておくこと。 (2.0h) |
| 第13回 | Checkテスト テクノロジ系 (20問)8: コンピュータシステム テクノロジ系⑤50. ヒューマンインタフェース技術～53. マルチメディア応用 |
| | 事後学習 (内容・時間) 授業で取り扱った問題を再度解き、さらに類似問題も解いてノートに記録しておくこと。 (2.0h) |
| 第14回 | テクノロジ系⑥54. データベース方式～57. トランザクション処理 Checkテスト テクノロジ系 (20問)9: 技術要素① |
| | 事後学習 (内容・時間) 授業で取り扱った問題を再度解き、さらに類似問題も解いてノートに記録しておくこと。 (2.0h) |
| 第15回 | テクノロジ系⑥58. ネットワーク方式～63. 情報セキュリティ対策・情報セキュリティ実装技術 Checkテスト テクノロジ系 (20問)9: 技術要素② |
| | 事後学習 (内容・時間) 授業で取り扱った問題を再度解き、さらに類似問題も解いてノートに記録しておくこと。 (2.0h) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 ※情報技術者試験 ITパスポートの内容に準じた内容で実施します。 |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1AIN-5440-Z2ET | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 計測・制御論 (教職関連科目 必 高等学校 情報) | 219～ | 3・4年生・後期 | 2単位 | 選択 | 麻生 隆史 | |
| | ～218 | 3・4年生・前期 | | | | |
| 履修の前提条件 | コンピュータシステムの基礎知識を理解しておくこと。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>現在、私たちの周辺には、産業用・民製用を問わず、エレクトロニクス機器があふれています。そして、それらの内部にはマイコンと呼ばれる超小型のコンピュータが組み込まれ、高性能・高機能な制御システムを構成しています。特に様々な機器がコンピュータを介してどのようなシステムで構築されコントロールされているのかを知ることが重要です。</p> <p>本科目では、高度情報化社会の要請をふまえ、身の回りのエレクトロニクス機器の内部構成を理解する上で、共通して必要となる計測及び制御システムに関する知識を学びます。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | ○ |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | ○ |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>情報学分野のひとつのシステムである計測・制御について深く理解し、パソコンやネットワークを用いてシステム設計が行えるようになることを目指します。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|------------|---------------|-------------------|
| <p>毎講義時間内に計測・制御に関するテーマを提示し、受講者全員でディスカッションを行います。各自の積極的な発言を望みます。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>連絡はメールにて行います。又、オフィスアワーは、研究室にて行います。自由に来室願います。調整が必要な場合はすべてGoogle Classroomを積極的に活用します。</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>毎講義終了前に課題を設定しますので、メールにて課題の回答を提出してください。また、ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| やさしい制御システム(基礎編) | 坂巻 佳壽美 | 日刊工業新聞社 | 4-526-03691-9 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 計測・制御テクノロジーシリーズ11 プロセス制御 | 高津 春雄 | コロナ社 | 4-339-0336108 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>授業に取り組む態度及び定期試験及び毎講義に設定した課題の回答メールにより学習成果を総合的に評価します。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|--------------------------|---------------------------------|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 制御システムとコンピュータ(オリエンテーション) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 制御システムとコンピュータについて調べる(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 制御システムを用いた応用事例を考察する(2時間) |
| 第2回 | センサ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | センサの種類について調べる(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | センサを用いている機器について実例を考察する(2時間) |
| 第3回 | 定位置検知センサ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | GPSの仕組みを調べる(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 定位置検知センサが用いられている事例を考察する(2時間) |
| 第4回 | 光及び温度検知センサ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 光及び温度を検出するシステムを調べる(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 光及び温度検知センサを用いた機器を考察する(2時間) |
| 第5回 | 超音波センサ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 超音波センサが用いられている事例を調べる(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 超音波センサを用いている機器を考察する(2時間) |
| 第6回 | アクチュエータの種類 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | アクチュエータの概念を調べる(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | アクチュエータを用いている機器を考察する(2時間) |
| 第7回 | 直流モータと交流モータ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 直流と交流の違いを調べる(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 直流モータと交流モータの機器への応用を考察する(2時間) |
| 第8回 | ステッピングモータ及びサーボモータ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ステッピングモータ及びサーボモータの違いを調べる(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ステッピングモータ及びサーボモータの実用例を考察する(2時間) |

| | | |
|----------------|-----------------|---------------------------------|
| 第9回 | 圧電素子 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 身近に利用されている圧電素子を調べる(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 圧電素子と静電素子の違いを考察する(2時間) |
| 第10回 | アナログ制御とデジタル制御 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | アナログとデジタルの違いについて調べる(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | アナログ制御とデジタル制御の得意不得意分野を考察する(2時間) |
| 第11回 | フィードバック制御 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | なぜフィードバックが必要なのか調べる(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | フィードバック制御により得られる実例を考察する(2時間) |
| 第12回 | 制御システムのステップ応答 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ステップ応答がなぜ必要なのか調べる(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 制御システムにおけるステップ応答の役割を考察する(2時間) |
| 第13回 | 制御アルゴリズム | |
| | 事前学習 (内容・時間) | アルゴリズムとは何かを調べる(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 制御アルゴリズムの高速化手法を考察する(2時間) |
| 第14回 | 現代制御理論 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | システム制御の歴史を調べる(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 未来における制御システムを考察する(2時間) |
| 第15回 | 制御システムと通信システム | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 身近な通信システムを調べる(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 通信システムにおける制御の実例を考察する(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験等 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|---|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1EMN-5670-12E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 消費者行動論 | 共通 | 1年生・後期 | 2単位 | 選択 | 秋吉 浩志 | |
| 履修の前提条件 | 経営やマーケティング、消費者行動、ブランド論に興味をもつ学生は積極的に履修をすすめる。経営に関する1分野としてとても大切な科目である。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| 消費者行動の基礎理論を包括的に講義する。毎回講義ではパワーポイントを使用し、プレゼンテーション方式で授業を行う。また、講義ではオリジナルプリントを使用するが、プリントの内容について授業中質問をするので、質問に答えられるよう集中しておくこと。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | ○ |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | ○ |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| 景気の動向、経済政策、企業経営、文化・ライフスタイル、ファッション、さらには国際化&グローバル化にいたるまでさまざまな動向を探り、世の中の消費者行動を分析する力を養う。小売店のバイヤー、Webビジネス関係企業、マーケティング関係の企業、マスコミ関係の就職等を望んでいる学生は履修を勧める。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|---------------|------------------|----------------------------------|
| <p>①基本的にプレゼン方式で行い、学生と積極的にコミュニケーションをとりながら講義を展開する。</p> <p>②動画、プリント以外の教材などのように実際見たり、感じたりする教材も準備し、より体感できるような講義も行う。</p> <p>③ミニテスト、アンケート、学生からの意見なども教材として取り上げ、講義を展開していく。</p> <p>④考える、議論する、主張することなどができるような雰囲気づくりを行い、受講学生の積極性なども導き出す。など</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 基本的に研究室にて月曜日、水曜日オフィスアワーを設定している。研究室訪問の際、メール: akiyoshi@kiis.ac.jpにメール連絡をしておくことを勧める。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| この科目は経営学検定試験の初級「マーケティング」部分の基礎内容にもふれている。また販売士(リテールマーケティング)受験希望者は、必ず履修することを勧める。学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入して、指定した期日までに秋吉までメール(akiyoshi@kiis.ac.jp)で提出してください。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 毎回テキスト使用&授業プリントを配布、また、ミニツツカードを配り、理解度をチェックする。新テキストは決まり次第発表する | | | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 消費者行動論 消費者・コミュニケーション戦略 | 青木幸弘他 田中洋他 | 有斐閣アルマ 有斐閣アルマ | 978-4641124639 978-4641122741 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 出席・遅刻に関しては厳しく管理し、成績に反映する。パソコン(タブレット型も含む)、携帯(スマートフォン)その他電子機器の使用は出席登録時間以外は一切禁止し、使用した場合には科目受講失格(0点)にする。基本的に座席指定を行う。 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|--|---------------------------------------|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 消費者行動論とはなにか & ガイダンス | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストもしくは資料の指定したページを読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題をミニッツペーパーに書いて提出してもらい、提出先は指示をする。(2h) |
| 第2回 | 消費者行動とマーケティング: 身近な個人個人の行動を考えよう | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストもしくは資料の指定したページを読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題をミニッツペーパーに書いて提出してもらい、提出先は指示をする。(2h) |
| 第3回 | 消費社会とはなにか①: 消費社会の誕生と発展について考えよう | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストもしくは資料の指定したページを読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題をミニッツペーパーに書いて提出してもらい、提出先は指示をする。(2h) |
| 第4回 | 消費社会とはなにか②: 日本での消費社会の発展を歴史を追って考えよう | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストもしくは資料の指定したページを読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題をミニッツペーパーに書いて提出してもらい、提出先は指示をする。(2h) |
| 第5回 | 消費者行動論の基礎理論①: 消費者行動を把握するための4つの理論について考えよう | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストもしくは資料の指定したページを読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題をミニッツペーパーに書いて提出してもらい、提出先は指示をする。(2h) |
| 第6回 | 消費者行動論の基礎理論②BMEモデル、刺激反応モデル、S-O-R理論について考えよう | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストもしくは資料の指定したページを読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題をミニッツペーパーに書いて提出してもらい、提出先は指示をする。(2h) |
| 第7回 | 消費者行動論の基礎理論③脳科学的分析方法など最新の消費者行動理論を考える | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストもしくは資料の指定したページを読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題をミニッツペーパーに書いて提出してもらい、提出先は指示をする。(2h) |
| 第8回 | ライフコース、ライフスタイル、ライフサイクルの3類型について考える | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストもしくは資料の指定したページを読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題をミニッツペーパーに書いて提出してもらい、提出先は指示をする。(2h) |

| | | |
|----------------|---|--|
| 第9回 | 国際的消費者行動論①「国際的消費者行動と文化について」 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストもしくは資料の指定したページを読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題をミニッツペーパーに書いて提出してもらい、提出先は指示をする。(2h) |
| 第10回 | 国際的消費者行動論②「現地適応化か、国際標準化か」 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストもしくは資料の指定したページを読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題をミニッツペーパーに書いて提出してもらい、提出先は指示をする。(2h) |
| 第11回 | 東アジアの文化と消費者行動論①「日本・韓国・中国の基礎文化比較と消費者行動」 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストもしくは資料の指定したページを読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題をミニッツペーパーに書いて提出してもらい、提出先は指示をする。(2h) |
| 第12回 | 消費者行動とブランド形成について①「ブランドとはなにか」 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストもしくは資料の指定したページを読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題をミニッツペーパーに書いて提出してもらい、提出先は指示をする。(2h) |
| 第13回 | 消費者行動とブランド形成について②「ブランド形成に必要なものはなにか」 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストもしくは資料の指定したページを読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題をミニッツペーパーに書いて提出してもらい、提出先は指示をする。(2h) |
| 第14回 | 消費者行動とインターネットにおける相互性について「ネット上の消費者行動」 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストもしくは資料の指定したページを読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題をミニッツペーパーに書いて提出してもらい、提出先は指示をする。(2h) |
| 第15回 | 消費者行動とライフ設計、そして「これからの消費者行動分析について」 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストもしくは資料の指定したページを読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題と科目アンケートをミニッツペーパーに書いて提出、提出先は指示をする。(2h) |
| 第16回 (定期試験) | 基本的に対面ペーパーテストを行う。試験前にループリックならびにポートフォリオの提出もしてもらい。その進捗状況も試験の一部とみなす。 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|---|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1EMN-6470-22E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| マーケティング・リサーチ | 219～ | 2年生・前期 | 2単位 | 選択 | 坂本 徹 | |
| | ～218 経営情報学科 | 3・4年生・前期 | | | | |
| 履修の前提条件 | コンピュータを大学のネットワークに接続できる状態にしておいて下さい。パスワードの有効期限は6か月ですから、有効期限のチェックや更新、再発行の手続きなど意外に時間がかかります。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>マーケティングは、顧客の集まりである市場の創設、潜在的な顧客の取り込み、人々の関心を自社製品に振り向かせる試み等にかかわる企業活動である。そのためにはどんな製品が求められているのか、納得できる価格帯は？有効な販売方法は？どのような流通経路でお客様に商品をお届けすれば良いのかといった事柄についての調査研究(リサーチ)が必要となる。この調査研究には①分析方法、②統計、③コンピューターに関する知識と技術の3つが同時に必要です。この講義ではこの3点について勉強して行きましょう。実際のリサーチにはこれに加えて調査票の設計と作成、調査の実施と集計が必要ですが、これには経験が必要で、本講義はその基礎となるものです。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | ○ |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>「家計調査年報」にアクセスして、ある品目の消費実態を観察し簡単な分析レポートを書くことができるようになること。その際に意識的に時系列とクロスセクションの双方の視点から対象にアプローチする姿勢を習得する事。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|------------|---------------|-----------------------|
| <p>授業ではコンピュータの操作を通じて、データベースへのアクセス、データの取り込み、データの編集と分析を行います。これまでに修得したコンピュータの知識・技術を総動員して、又は思い出しながら自らの経験として積み上げて行くこと。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>授業中に生じた疑問点・意見は、できるだけその場で採り上げて行きます。その他については月曜の3・4時間目(12:50～16:00)をオフィスアワーとしていますので、この時間帯は事前連絡無しでお待ちしています。</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>統計検定、マイクロソフトオフィス検定、販売士などの外部試験を受験した者は成績評価の対象とします。ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| マーケティング・リサーチ — マーケティング、コンピューター、リサーチ — | 坂本 徹 | 東筑印刷 | 私家版 授業中に配布 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| マーケティング・リサーチの実際 | 近藤光雄・小田宜夫 | 日経文庫 | ISBN978-4-532-11009-3 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>評価 = 中間レポート + 定期試験評価 4 : 6</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|----------------------|---|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | マーケティング・リサーチとは何か | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの目次に目を通して、授業の進行順序を大まかにつかんでおいて下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | フィリップ・コトラー、ピーター・ドラッカー、市場需要の創造・開拓・拡大について自身の考えをまとめておくこと。(2時間) |
| 第2回 | J.M.A. A.M.A.の定義 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストp4、p5を読んで、マーケティングの対象範囲について予見して下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 顧客満足について自身の考えをまとめておくこと。(2時間) |
| 第3回 | 企業のマーケティング1 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | J.M.A. A.M.A.の定義と企業のマーケティングの相違について学習しておいて下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 利益＝総収入－総費用を「有価証券報告書」で確認すること。(2時間) |
| 第4回 | 企業のマーケティング2 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストpp8～13を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | テキストp9図2-1中のどれか1場面を選んで自身の説明を試みて下さい。(2時間) |
| 第5回 | コンピューターについて | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ENIAC、メインフレーム、PC、インターネットの用語について事前準備をして下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | コンピューターの発生から現状までの歴史について自身の理解を確認して下さい。(2時間) |
| 第6回 | kiis networkの概要 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 1年次必修「コンピューター・リテラシー」の内容を復習しておいて下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「ネットワークの設定」、「インターネットの設定」、「kiisnwの設定」を再確認して下さい。(2時間) |
| 第7回 | 表計算ソフトウェアの概要 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 1年次必修「情報リテラシー・演習」の該当箇所を復習しておいて下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 表計算・関数ウィザード、グラフウィザード、データベースの操作について練習・確認をしておいて下さい。(2時間) |
| 第8回 | セカンダリーデータ(2次資料)とその利用 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストpp20～30を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 任意のデータベースにアクセスしてみる。(2時間) |

| | | |
|----------------|-------------------------------|--|
| 第9回 | 日本の5大センサス | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 日本の5大センサスへアクセスして、各ホームページへのハイパーリンクを試すこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 国勢調査のHPから出発してテキストp23表4-1のデータを検索して下さい。(2時間) |
| 第10回 | 国勢調査とマーケティング・リサーチ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 昨年10月の「国勢調査」について、自身の経験を確認しておいて下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | テキストp23表4-1を利用してマーケティング・リサーチに応用できる事例を考えて下さい。(2時間) |
| 第11回 | その他の重要な2次資料 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「家計調査年報」にアクセスして「世帯」、「品目別」、「用途別」の用語について調べておいて下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | テキストp27図4-6を利用し自然動態、社会動態を表す2次資料にアクセスして、太宰府市のデータをとってみましょう。(2時間) |
| 第12回 | 現状分析例(家計調査年報を利用した時系列分析) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストpp37～45を読んでおいてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | チーズの年間消費額は観察期間中、何%伸びたか、レポートしてもらいます。(2時間) |
| 第13回 | 現状分析例(家計調査年報を利用した所得階層別分析) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストpp46～53を読んでおいてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | チーズ年間消費額の伸びが、年間収入階級別にどうであるかレポートしてもらいます。(2時間) |
| 第14回 | 現状分析例(家計調査年報を利用した世帯人員数と年齢別分析) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストpp54～57を読んでおいてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | チーズ年間消費額の伸びが、家族の人数や世帯主の年齢別にどうであるかレポートしてもらいます。(2時間) |
| 第15回 | 現状分析例(家計調査年報を利用した都道府県別分析) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストpp58～62を読んでおいてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | チーズ年間消費額の伸びが、地域別にどうであるかレポートしてもらいます。(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|---|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1ENN-5070-22E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| Webサービス論 | 219～ | 2年生・後期 | 2単位 | 選択 | 秋吉 浩志 | |
| | ～218 | 3・4年生・後期 | | | | |
| 履修の前提条件 | ①マーケティング論・消費者行動論、経営戦略論を履修している学生に薦める。 ②Webに関する基本的知識を要する | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| 前半はWebサービス・広告 & マーケティングの基礎を展開し、中盤は広告計画、実践、後半はWebサービスの変化をより具体的に説明を行う。さらにはWebサービスを通じた社会的な問題もとりあげる。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| 現代のあらゆるメディア(媒体)とからむWebサービスの基礎を展開してゆく。よって、広告、放送関係業界、通販業界、企業の企画、マーケティング担当者を目指す学生に対して、知識・教養・実践力を身につけることを目標としている。Webサービスは現在あらゆるWebに関する基礎理論を紹介する。Webビジネスに興味のあるものは、選択をすすめる。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|-----------------------------|--------------------------|--|
| ①基本的にプレゼン方式で行い、学生と積極的にコミュニケーションをとりながら講義を展開する。 ②動画、テキスト以外の教材などのように実際見たり、感じたりする教材も準備し、より体感できるような講義も行う。 ③ミニテスト、アンケート、学生からの意見なども教材として取り上げ、講義を展開していく。 ④考える、議論する、主張することなどができるような雰囲気づくりを行い、受講学生の積極性なども導き出す。など | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 基本的に研究室にて月曜日、水曜日オフィスアワーを設定している。 研究室訪問の際、メール; akiyoshi@kiis.ac.jp.にメール連絡をしておくことを薦める。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 期末試験、ミニテスト、レポート、受講態度等を総合的に判断する。出席・遅刻に関しては厳しく管理し、成績に反映する。パソコン(タブレット型も含む)、携帯(スマートフォン)その他電子機器の使用は一切禁止し、使用した場合は即受講資格を失う。 資料に関してはGoogleクラスルームを活用して配布する場合もある。教員の案内に注意を払うこと。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 図解&事例で学ぶWebマーケティングの教科書 (テキストは変更の場合あり) | ショーケース・ティービー (監修) | マイナビ出版 | 978-4839955090 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| はじめてでもよくわかる! デジタルマーケティング集中講義 わかりやすい広告論 これからの広告の教科書 | カティサーク 押切 孝雄 石崎徹 佐藤達郎 | マイナビ出版 八千代出版 かんき出版 | 978-4839961619 978-4842915647 978-4761270957 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 期末試験、ミニテスト、レポート、受講態度等を総合的に判断する。出席・遅刻に関しては厳しく管理し、成績に反映する。パソコン(タブレット型も含む)、携帯(スマートフォン)その他電子機器の使用は一切禁止し、使用した場合は即受講資格を失う。 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|--|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | ガイダンスおよび「Webサービス」と「Webマーケティング」について | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。課題もある場合がある。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。(2h) |
| 第2回 | Webサービスとは①そもそもWebの目的とは何か | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。(2h) |
| 第3回 | Webサービスとは②広告としてのWebのありかた | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。(2h) |
| 第4回 | メディアを考える①四大メディアからWeb関連のメディアへ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。(2h) |
| 第5回 | メディアを考える②新たなメディアの台頭について | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。(2h) |
| 第6回 | Webメディアを考える。広告関連市場予算の大きな変化 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。(2h) |
| 第7回 | Webサービスは消費者の視点からみたメディアへ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。(2h) |
| 第8回 | Webサービスとブランド・コミュニケーションならびにブランドアイデンティティについて | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。(2h) |

| | | |
|----------------|---|---------------------------------|
| 第9回 | Webサービスと体験接点型メディア | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。(2h) |
| 第10回 | WebサービスとWeb広告関連の法規と規則 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。(2h) |
| 第11回 | グローバル化するWebサービスとメディア | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。(2h) |
| 第12回 | デジタルマーケティングの世界①デジタルマーケティングの範囲について | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。(2h) |
| 第13回 | デジタルマーケティングの世界②デジタル化の進展とネットワーク外部性の効果について | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。(2h) |
| 第14回 | デジタルマーケティングの世界③AR(仮想現実)と広告 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。(2h) |
| 第15回 | 消費者参加&発信型メディアの台頭とまとめ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。(2h) |
| 第16回 (定期試験) | 基本的に対面ペーパーテストを行う。試験前にループリックならびにポートフォリオの提出もしてもらい。その進捗状況も試験の一部とみなす。 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1EMN-5010-22E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| SNS活用と問題解決 | 219～ | 2年生・前期 | 2単位 | 選択 | 秋吉 浩志 | |
| コミュニケーションデザイン | ～218 | 3・4年生・後期 | | | | |
| 履修の前提条件 | 太宰府地区ならびにその周辺地区の方々と積極的に交流するので、書く(メモをとる)、聴く、話す、考える力を要求する。また、基本的なSNSを利用していることが条件である。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>SNSと問題解決(コミュニケーションデザイン)は主にSNSなどを利用した人間の生活・活動に密着した科目であり、生活と不即不離の関係にある。今日の情報化社会において、地域の問題解決を生産される製品や地域の情報を発信、ブランド化に繋げるなど、地域や消費者に好ましい印象を持たせるための問題解決をさぐる。よって講義とにフィールドワークによって生活者・社会人として必要なコミュニケーション能力を高める。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | ○ |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | ○ |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | ○ |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>講義とフィールドワークなどを通して、発想力を強化し、企画・立案等のコンセプトワークの作成やプレゼンテーション能力の向上ならびに個人個人の社会人としてのコミュニケーション能力(デザインとスキル)習得することができる。</p> | | | | | | |

| | | | |
|--|------------|---------------|-----------------------|
| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
| <p>①講義内では毎回ディスカッション(討論)を行なってもらう ②チームごとにプレゼンテーションを行う(3回開催予定) ③地域のフィールドワークに参加し、コミュニケーションを行い、問題解決の策定を行う(3回開催予定) ④講義は学生同士の討論とディベートを中心とするため、教員はテーマの提供とアドバイスしか行わない</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>この科目は少人数でしか運営できない科目のため、限定先着20名履修可能である。(1回目の講義で履修をやめた人数分繰りあげて受講可能:最大人数を20名とする) 予約日を掲示板で発表するので、掲示板を注意深く見ておくこと。 メールにて予約を受け付ける(先着順)ので、Web登録できたとしても、それは無効とする。 事前に内容について聴きたい学生は、予約して研究室に来ること。 予約&質問メールアドレス(共有):kojak.akiyoshi@gmail.com</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。 1年次「情報リテラシー」で使用した「イチからしっかり学ぶ! Office基礎と情報モラル」のテキストを使用する。 講義の時は必ず持参するように。 過去「SNS応用演習」を履修し、単位を取れた学生はこの科目は履修できない。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| ソーシャルメディア論(改訂版) | 藤代裕之編 | 青弓社 | ISBN978-4-7872-3449-0 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 問題解決の進め方[新訂] | 秋光 淳生他 | 放送大学教育振興会 | 978-4595319556 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>プレゼンテーション・フィールドワークの内容、課題レポート・課題作品等により評価する 評価の観点:発表、提出物の内容、創意工夫の成果、自宅学習の程度等により評価を行う。 チームによる3回のフィールドワーク参加とプレゼンテーションの発表に参加できない学生は評価の対象外となるので、同じチームの成員に迷惑をかけないように臨んでもらいたい。(無断欠席、遅刻はいかなる理由があろうとも一切認めない)。指示があるとき以外はスマートフォンなどの電子機器などの使用を禁止する。守れない場合は失格処分とする。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|--|---|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 準備学習 オリエンテーション(履修の前提条件)自己紹介&チーム決定 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。課題もある場合がある(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと(2h) |
| 第2回 | ポータルサイト「だざいふなび」推奨観光コースを活用した太宰府地区の観光、魅力発見(フィールドワーク) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。(2h) |
| 第3回 | 太宰府のコンテンツ、問題点の発見と問題解決方法のチーム発表(パワーポイント)1回目 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。(2h) |
| 第4回 | 太宰府のコンテンツ、問題点の発見と問題解決方法のチーム発表(パワーポイント)2回目 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。(2h) |
| 第5回 | 情報発信のありかたと情報発信におけるSNSの利用による問題解決 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。(2h) |
| 第6回 | 魅力あるコンテンツとWeb文章とはなにか | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。(2h) |
| 第7回 | 太宰府情報発信サイトを利用した実践的な情報発信を考える(内山地区からの問題発見) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。(2h) |
| 第8回 | 太宰府情報発信サイトを利用した実践的な情報発信を考える(内山地区の魅力発信) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。(2h) |

| | | |
|----------------|--|---------------------------------|
| 第9回 | 情報とコミュニケーションデザインの役割について | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。(2h) |
| 第10回 | 言語、視覚によるコミュニケーション法について | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。(2h) |
| 第11回 | 色彩の特質と効果およびサインとシンボルについて | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。(2h) |
| 第12回 | 図と言語、また写真や動画を使ったコンテンツ企画&作成計画について | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。(2h) |
| 第13回 | 多面的なコミュニケーションによる高大連携事業の問題発見と問題解決 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。(2h) |
| 第14回 | 高大連携事業において発見した問題をどのように解決するか、問題解決に向けての企画立案と提案 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。(2h) |
| 第15回 | 高大連携事業における問題解決と提案の発表(プレゼンテーション) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストもしくは資料の指定したページを読んでくること。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 提供する課題をミニッツペーパーに書き込んで提出のこと。(2h) |
| 第16回 (定期試験) | 基本的に対面ペーパーテストを行う。試験前にルブリックならびにポートフォリオの提出もしてもらい。その進捗状況も試験の一部とみなす。 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|---|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1EMN-5450-Z2E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 計量経済分析 | 219～ | 3・4年生・後期 | 2単位 | 選択 | 坂本 徹 | |
| 履修の前提条件 | コンピュータを大学のネットワークに接続できる状態にしておいて下さい。パスワードの有効期限は6か月ですから、有効期限のチェックや更新、再発行の手続きなど意外に時間がかかります。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| 計量経済学分野では、経済事象のモデル化とシミュレーションについて、多くの事例が報告されてきた。社会科学分野では繰り返し実験による証明ができなかったからである。そこで実際のデータを使って事象の因果関係をモデル化しシミュレーションを行い、過去の振る舞いが再現できることを確かめてから、将来の予測を行ってきたのである。近年ではコンピュータ、ネットワーク、通信手段、ビッグデータの利用などで、経済事象の振る舞いが直に観測できるようになった。光学顕微鏡で細胞レベルの観察しかできなかったことが、電子顕微鏡の出現で遺伝子、分子レベルで観察できるようになったのと同様に、交通量や人出・消費内容が個人レベルで観察・集計できるようになった。さらにAIの技術との組み合わせで経済学の実証分析の境界が格段に広がりにつつある。本講義では伝統的な分析手法でPCを利用して、自身の手で確認してみよう。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | ○ |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ |
| | 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| これまで培ってきたコンピュータの技術のある分野の知識と結び付けて、問題の解を見つける体験を是非経験してほしい。実際の計算はコンピュータに任せるとしても、統計に関する知識は経済に限らずどの分野にも必要であるから常に関心をもって、取り込んでほしい。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|------------|---------------|-------------------|
| 授業ではコンピュータの操作を通して、データベースへのアクセス、データの取り込み、データの編集と分析を行います。これまでに修得したコンピュータの知識・技術を総動員して、又は思い出しながら自らの経験として積み上げて行くこと。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 授業中に生じた疑問点・意見は、できるだけその場で採り上げて行きます。その他については月曜の3・4時間目(12:50～16:00)をオフィスアワーとしていますので、この時間帯は事前連絡無しでお待ちしています。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ & ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 太宰府キャンパスネットワーク、本学地域情報センター、国際交流センター、公開講座の諸事業に参加した者は成績評価の対象とします。 学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 地域経済論 —データベースへのアクセスと利用を中心に— | 坂本 徹 | 東筑印刷 | 私家版 授業中に配布 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| | | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 評価 = 受講姿勢 + 定期試験評価 3 : 7 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|----------------------|---|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 計量経済学の概要 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト5章産業立地の科学的な見方を読んでおいて下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 農業。工業の立地についてまとめてみて下さい。(2時間) |
| 第2回 | 地域経済学の生い立ち | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストpp2～6に目を通しておいて下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 近代日本の産業発展と住環境の整備の過程についての概要をまとめてみて下さい。(2時間) |
| 第3回 | データに関する知識の拡張 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストpp2～6に目を通しておいて下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 表形式で提供されることが多いデータベースの地域の概念についてまとめてみて下さい。(2時間) |
| 第4回 | 日本の5大センサス | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストpp22～24に目を通して、5大センサスの内どれか1つのデータベースにアクセスしてみてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | テキストpp20～21を参考に全数調査と標本調査の役割についてまとめてみて下さい。(2時間) |
| 第5回 | 商業統計・工業統計 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストpp29～33に目を通して、データの見方について下調べをしておいて下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | テキストp24に目を通して、商業統計か工業統計どれか1つのデータベースにアクセスして、その内容を確認してみてください。(2時間) |
| 第6回 | システム・ダイナミクスを使った人口モデル | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストpp25～26に目を通して、事前準備をしておいて下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 社会事象のモデル化とシミュレーションに対する感想をまとめてみて下さい。(2時間) |
| 第7回 | データ特性 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストp31に目を通して、データがもつ意味について下調べをしておいて下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 国勢調査を事例に、複数のデータの組み合わせからどのような指標が作成できて、どのような特徴を測ることができるかまとめてみて下さい。(2時間) |
| 第8回 | 産業立地の科学的な見方 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストpp34～37に目を通して、事前準備をしておいて下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 農業経営にかかわる立地の科学的な見方として「チューネンの孤立国」がその後の工業・商業の分析の出発点となっている点を中心にまとめてみて下さい。(2時間) |

| | | |
|----------------|------------------------|--|
| 第9回 | 商業の立地、グラビティ・モデル | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストpp39～40に目を通して、事前準備をしておいて下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ニュートンの「万有引力」とグラビティ・モデルに対する感想をまとめてみて下さい。(2時間) |
| 第10回 | 商業地選択の確率、ハフ・モデル | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストp41に目を通して、事前準備をしておいて下さい。(30分) |
| | 事後学習 (内容・時間) | グラビティ・モデルの2地域間の関係から、ハフ・モデルの3地域機以上の関係に拡張された点に着目して感想をまとめてみて下さい。(1時間) |
| 第11回 | 商業統計を使った指標の作成 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストp87に目を通して、事前準備をしておいて下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 複数のデータベースを利用して指標を作り、各地域の特性を測る一連の作業をまとめてみて下さい。(2時間) |
| 第12回 | ハフ・モデルを使った売上高のシミュレーション | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストpp90～94に目を通して、事前準備をしておいて下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | モデルの作成過程でどのデータベースを利用するかの一連の作業をまとめてみて下さい。(2時間) |
| 第13回 | 工業統計を使った指標の作成 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストpp82～85に目を通して、事前準備をしておいて下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 複数のデータベースを利用して指標を作り、各地域の特性を測る一連の作業をまとめてみて下さい。(2時間) |
| 第14回 | 変数間の関係性 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | Excelの「分析ツール」が必要になります。アドインの方法を調べて、出来れば組み込んでおいて下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 両変数間の関係をプロット図で確認して、相関係数の値の解釈をまとめてみて下さい。(2時間) |
| 第15回 | 回帰分析の立地選択への応用例 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 計量経済学の代表的分析ツールとして、回帰分析について下調べをしておいて下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 店舗設置の選択に際して、意思決定のための判断材料を提供する事例として、講義内容をマーケティングの視点でまとめてみて下さい。(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| ビジネス実務Ⅱ | ～218 | 2年生・後期 | 2単位 | 選択 | 鈴木 和也 | |
| 履修の前提条件 | 本科目受講希望者は、必ず前期のビジネス実務Ⅰの単位を取得しておくこと。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>「社員の言動で会社のイメージが決まる」というテーマで、社会人として感じの良い第一印象や言葉遣いを学ぶ。また、会社を代表するビジネスパーソンとして、電話対応、来客対応、ホスピタリティとサービス、慶弔時における贈答の知識などを学ぶ。なお、学習のまとめとして、実務技能検定協会主催秘書検定試験3級に合格できる知識・技能の修得を目指す。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | ○ |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | ○ |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・社会人として感じの良い第一印象や言葉遣いができるようになる。 ・会社を代表するビジネスパーソンとして、正しい電話対応や来客対応ができるようになる。 ・ホスピタリティとサービスについて理解する。 ・秘書検定試験3級に合格できる知識・技能の修得ができる。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|-----------------------|---------------|-------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・対話型の授業を心がけるので、質問など積極的な取組みを期待します。 ・授業内で実施する小テストを活用し、授業内容の理解を深めるとともに、実技演習なども取り入れて実践力の伸張を図るので、授業への積極的な参加を期待します。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>質問、相談等は研究室(553)にて受けつける。尚、オフィスアワーも積極的にご活用ください。(オフィスアワー以外で研究室にお越しの際は事前にメールなどでアポイントメントをお取りください。)</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ & ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>kiiis学修ポートフォリオ・ルーブリックの活用を図り、学修状況の把握や学生自身による自己評価、教員の評価など、双方向でのやり取りを通して講義内容の理解度や定着状況の把握を行う。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 秘書検定 集中講義3級 | 公益財団法人 実務技能 検定協会 編 | 早稲田教育出版 | 978-4-7766-1018-2 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 秘書検定 実問題集3級 2021年度版 | 公益財団法人 実務技能 検定協会 編 | 早稲田教育出版 | 978-4-7766-1443-2 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>1.定期試験(80%)、2.小テスト(5%)、3.学修課題の提出(5%)、4.授業への取組み(10%)</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|---|--------------------------|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | オリエンテーション[講義の進め方、成績評価について] 必要とされる資質[秘書の心構え] | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習課題の解答 (2.0h) |
| 第2回 | 必要とされる資質[要求される資質] | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習課題の解答 (2.0h) |
| 第3回 | 職務知識[秘書の機能と役割] | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習課題の解答 (2.0h) |
| 第4回 | 職務知識[職務上の心得と仕事の進め方] | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習課題の解答 (2.0h) |
| 第5回 | 一般知識[企業の基礎知識] | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習課題の解答 (2.0h) |
| 第6回 | 一般知識[社会常識] | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習課題の解答 (2.0h) |
| 第7回 | マナー・接遇[職場での話し方(聞き方)] | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習課題の解答 (2.0h) |
| 第8回 | マナー・接遇[電話対応] | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習課題の解答 (2.0h) |

| | | |
|----------------|---------------------------|--------------------------|
| 第9回 | マナー・接遇[接遇] | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習課題の解答 (2.0h) |
| 第10回 | マナー・接遇[交際] | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習課題の解答 (2.0h) |
| 第11回 | 技能[会議] | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習課題の解答 (2.0h) |
| 第12回 | 技能[文書の作成] | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習課題の解答 (2.0h) |
| 第13回 | 技能[文書の取り扱い] | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習課題の解答 (2.0h) |
| 第14回 | 技能[資料管理] | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習課題の解答 (2.0h) |
| 第15回 | 技能[日程管理・オフィス管理] | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習課題の解答 (2.0h) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験の実施 (まとめと振り返りを行う。) | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|---|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 財務管理論 I | ~218 経営情報学科 | 3・4年生・前期 | 2単位 | 選択 | 堀 治彦 | |
| 履修の前提条件 | <p>・経営学入門・総論、会計学入門・総論の履修しておくことが望ましい ・特に企業の「投資」、「資金調達」、「配当」などに関心を持つと、講義内容について、より深い理解が得られるため、日頃から経済ニュースにふれておくこと。</p> | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>企業が株主や社債権者などから高い評価を得るためには、企業の活動を通じてより多くの利益やキャッシュを得ることが重要です。そのために必要な知識のひとつとして、投資決定や資金調達、配当などを取り扱う財務管理という分野があります。 本講義は、経営において重要な役割を担う、企業(とりわけ公開会社)の財務管理に関する基礎的な認識と、若干応用の範囲で、各項目について授業を行います。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | ○ |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | ○ |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | ○ |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ |
| | 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>本講義では下記の到達目標を設定しています。 ・財務管理論特有の専門用語、計算規定など、講義を通じて学んだ項目について基礎的な理解・認識を修得することができる。 ・財務管理を行う立場(経営層や財務部門スタッフ)でのイメージを掴めるようになる。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|------------------|----------------------------|---|
| <p>・対話型の授業を心がけるので、質問など積極的な取組みを期待します。 ・授業内で適宜実施する小テスト・レポートを活用し、授業内容の理解を深めるとともに授業への積極的な参加を促します。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>・講義に関する質問、相談等は、講義終了後の教室又は研究室にて随時受け付けます。 ・オフィスアワー時間帯に受け付けます。オフィスアワーの時間帯以外でも必要に応じて対応します。 * 研究室にお越しの際は、事前にメールなどでご相談ください。</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>テキスト以外に必要なに応じてレジュメを配布します。その場合には、各自保管をしておいてください。 学習の確認として、ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 『図解コーポレートファイナンス[新訂2版]』 | 森 直哉 | 創成社 | 978-4794425379 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| ①『現代企業の財務戦略』 | ①丑山 優 ほか | ①ミネルヴァ書房 ②日経BP ③日経BP | ①978-4623038954 ②978-4822248604 ③978-4822248611 |
| ②『コーポレート・ファイナンス 第10版上』 | ②リチャード・A・ブリーリーほか | | |
| ③『コーポレート・ファイナンス 第10版下』 | ③リチャード・A・ブリーリーほか | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>1.定期試験(80%) 2.平常点20% * 平常点の内訳: 小テスト(10%)、授業への取組み(10%)</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|--------------------------------------|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | オリエンテーション(授業の内容と進め方)、ファイナンスの概論について | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 企業の「投資」、「資金調達」、「配当」についてメディアを使用し調べ、講義の全体像をイメージしてみましょう。また、学習予定範囲(テキスト第1章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第2回 | 投資プロジェクトの幾つかの評価方法ーバリュエーション | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第2章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第3回 | 様々な投資プロジェクトの特徴と、最適な方法ーポートフォリオ理論とCAPM | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第3章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第4回 | エクイティ・ファイナンスとは？ー証券の価格 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第4章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第5回 | 投資プロジェクト(1) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第5章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第6回 | 投資プロジェクト(2) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第6章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第7回 | 株式発行 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第7章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第8回 | 資本コストと財務レバレッジ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第8章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう(2時間) |

| | | |
|----------------|---------------------------------|---|
| 第9回 | 資本構成(1)期待キャッシュフローの計算 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第9章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第10回 | 資本構成(2)資本構成と資金調達の関係 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第10章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第11回 | 資本構成(3)負債の節税効果、株式と負債のエージェンシーコスト | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第11章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第12回 | 配当政策(1)配当政策と、投資政策の違い | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第12章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第13回 | 配当政策(2)株価の変化と株主の富の関係 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第13章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第14回 | 自社株買いー自社株の意味と役割 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第14章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第15回 | 短期ファイナンス/これまでの講義のまとめ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第15章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | これまでの講義の振り返りを行い、定期試験に向け、わからなかったところを中心に復習をしましょう(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|---|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 財務会計論Ⅱ | ～218 | 2年生・後期 | 2単位 | 選択 | 津守 常弘 | |
| 履修の前提条件 | 「簿記Ⅰ・Ⅱ」「会計学入門」「会計学総論」など会計学の初歩的な知識は勿論、とくに「財務会計論Ⅰ」の内容を習得していること。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>「財務会計論Ⅱ」では、「財務会計論Ⅰ」の講義内容を十分に理解していることを前提として、「企業会計原則」と「国際財務報告基準」、「収益・費用中心観」と「資産・負債中心観」とへの制度・理論の両極分化について学習をさらに深め、資産会計・負債会計・資本会計・損益会計、財務諸表作成および企業集団会計など主要な論点について、主に「国際財務報告基準」的な観点を常に念頭に置きながら学習します。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | ○ |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>今日、実体経済に比べ金融経済が著しく優位を占めるようになってきているため、財務会計に関する知識は誰もが身に付けていなければならない常識になっています。このような社会的要請に応えるため、先ず「財務会計論Ⅰ」では、財務諸表の読みとり方の基礎を身に付けることを目標として学習に努めて来ましたが、この「財務会計論Ⅱ」では、「財務会計論Ⅰ」の知識を前提としながら、特に「国際財務報告基準」に代表される現代の財務会計理論・制度の新しい特徴と内容を身に付けることを目標として学習します。</p> | | | | | | |

| 講義内容および講義資料の性質の応じて、適時、対話的な授業を行います。 | | | |
|--|------------|---------------|-------------------|
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 学習上の質問、相談については、講義終了後、教室または研究室(454)で受け付けます。オフィスアワー:水曜日4時限目に研究室。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 特に指定しない | | | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 講義用資料を配布します。 | | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| (1) 学期末試験を行う。(2) 必要に応じて中間試験を行う。 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|---|-------------------------------------|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 「企業会計原則」と「国際財務報告基準」との理論的構造の違いについて学習します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「財務会計論Ⅰ」において学習してきた知識を再学習し、整理しておくこと。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義資料・講義内容を復習し、自分なりに再整理すること。 |
| 第2回 | 「企業会計原則」と「国際財務報告基準」との制度的構造の違いについて学習します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布している講義資料について学習すること。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 今回の講義資料・講義内容を復習し、自分なりに再整理すること。 |
| 第3回 | 「企業会計原則」型の基準から「国際財務報告基準」型の基準への移行の歴史について学習します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布している講義資料について学習すること。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 今回の講義資料・講義内容を復習し、自分なりに再整理すること。 |
| 第4回 | 資産会計(1): 新旧の基準を対比しながら流動資産の会計について学習します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布している講義資料について学習すること。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 今回の講義資料・講義内容を復習し、自分なりに再整理すること。 |
| 第5回 | 資産会計(2): 新旧の基準を対比しながら固定資産の会計について学習します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布している講義資料について学習すること。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 今回の講義資料・講義内容を復習し、自分なりに再整理すること。 |
| 第6回 | 負債会計(1): 新旧の基準を対比しながら流動負債の会計について学習します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布している講義資料について学習すること。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 今回の講義資料・講義内容を復習し、自分なりに再整理すること。 |
| 第7回 | 負債会計(2): 新旧の基準を対比しながら固定負債の会計について学習します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布している講義資料について学習すること。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 今回の講義資料・講義内容を復習し、自分なりに再整理すること。 |
| 第8回 | 負債会計(3): リース会計について、とくに詳しく学習します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布している講義資料について学習すること。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 今回の講義資料・講義内容を復習し、自分なりに再整理すること。 |

| | | |
|----------------|---|--------------------------------|
| 第9回 | 資本会計(1): 新旧の基準を対比しながら資本会計について学習します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布している講義資料について学習すること。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 今回の講義資料・講義内容を復習し、自分なりに再整理すること。 |
| 第10回 | 資本会計(2): とくに合併会計の問題を取り上げ、新しい条件のもとでの資本会計問題について学習します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布している講義資料について学習すること。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 今回の講義資料・講義内容を復習し、自分なりに再整理すること。 |
| 第11回 | 損益会計(1): 新旧それぞれの基準で著しく異なる損益会計について学習します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布している講義資料について学習すること。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 今回の講義資料・講義内容を復習し、自分なりに再整理すること。 |
| 第12回 | 損益会計(2): 新旧基準間で著しく異なる利益概念、とくに「包括利益」概念について学習します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布している講義資料について学習すること。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 今回の講義資料・講義内容を復習し、自分なりに再整理すること。 |
| 第13回 | 商法と金融証券取引法との関係について学習します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布している講義資料について学習すること。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 今回の講義資料・講義内容を復習し、自分なりに再整理すること。 |
| 第14回 | 連結財務諸表作成基準および連結キャッシュフロー計算書について学習します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布している講義資料について学習すること。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 今回の講義資料・講義内容を復習し、自分なりに再整理すること。 |
| 第15回 | 後期講義の総括 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布している講義資料について学習すること。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 今回の講義資料・講義内容を復習し、自分なりに再整理すること。 |
| 第16回 (定期試験) | 学期末試験を行う。 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|---|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 税務会計論Ⅱ | ～218 | 2年生・後期 | 2単位 | 選択 | 春日 克則 | |
| 履修の前提条件 | 「会計学入門」や「簿記」を履修済か同程度の知識を有することが望ましいが、何よりも、税金に興味を持っていることが必要である。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| 前期の「税務会計論Ⅰ」では、租税の基本原則である租税法主義と、公平な課税を実現するために必要な租税回避への対応を学習した。後期の「税務会計論Ⅱ」では、法人税法の個別の規定をみることによって、それぞれの規定が課税所得の計算と具体的にどのように結びつくのかを理解する。なお、その際、法人税の特徴が明確となる項目を中心に学習する。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| | 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| 簿記・会計を勉強したときは、費用や収益として仕訳したのに、法人税法ではこのような処理を行わないのはなぜなのか。つまり、税法が独自に定めている項目について、その理由を理解し、具体的な計算を行うための基礎的な知識を得ることを目標としている。また、その際、実務で利用されている「別表」の作成スキルも合わせて修得できる。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|------------|---------------|-------------------|
| 授業では、毎回、事例や練習問題に取り組む時間を設けている。そこで、当該時間において、双方向で課題に対する見解を昇華させて行きたい。なお、授業の最後には成果を提出してもらい、翌週添削して返却する。成果を提出する際には、授業中に解決できなかった疑問なども記入する。返却されたペーパーには、私のコメントが書いてあるので互いわかり合えるまで、キャッチボールを行いたい。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 連絡、問い合わせ、相談等は研究室(455研究室)にて随時受け付けている。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 外部試験: 税のスペシャリスト=税理士試験の基礎となる授業である。 学習の確認: ポートフォリオシートの作成に関しては講義中に適宜指示する。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 必要に応じて指示する | | | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| よくわかる税法入門 | 三木義一 | 有斐閣 | 978-4-641-28142-4 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 定期試験40%、中間テスト20%、毎回の課題提出40%として評価する。講義の理解を深めるために、各回ごとに課題の提出、添削、返却がなされるが、この課題への取り組みは疑問点に関する質問・回答というコミュニケーションツールとして皆さんの理解の手助けとなる。 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|--------------------------------------|---|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 企業会計で計算された「利益」と、法人税法の「所得」との違い－別表1と4－ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 日本の税制、特に法人税制についてインターネットを活用して調べておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第2回 | 個人の所得税－納税義務の範囲－ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配付された資料を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第3回 | 個人の所得税－所得の分類－ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配付された資料を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第4回 | 個人の所得税－所得の概念－ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配付された資料を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第5回 | 企業の設備投資に影響する減価償却 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配付された資料を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第6回 | 法人税法上の特別規定①－償却不足と過大償却－ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配付された資料を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第7回 | 法人税法上の特別規定②－少額取得資産と一括償却－ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配付された資料を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第8回 | 中間テスト(これまで学習した項目の理解度テスト)とその解説 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 第1回から前回までの総復習を行うこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 中間テストの問題について振り返りの学習を行う。(2時間) |

| | | |
|----------------|----------------------------------|---------------------------------------|
| 第9回 | 交際費を使うと税金がかかる－荒井商事オートオークション事件－ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配付された資料を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された中間テストと授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第10回 | 税金がかからない限度額を知ろう－交際費の限度額計算(別表15)－ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配付された資料を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第11回 | 受取配当等の益金不算入額の計算－二重課税の防止－ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配付された資料を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第12回 | 給与の計算－役員・使用人兼務役員・従業員－ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配付された資料を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第13回 | 金銭債権の評価－貸倒引当金の設定－ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配付された資料を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第14回 | 国際的な税金逃れを防止する－GAFAの支払っている税金は適正か－ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配付された資料を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第15回 | まとめ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 第9回から前回までの総復習を行うこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 管理会計論 I | ~218 | 3・4年生・前期 | 2単位 | 選択 | 春日 克則 | |
| 履修の前提条件 | 「会計学入門」や「簿記」を履修済か同程度の知識を有することが望ましいが、何よりも、企業の経営・管理に興味を持つことが必要である。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>管理会計論では、企業内部の経営管理者などに対して、企業の状況を報告し、経営管理に役立つ情報を提供するための手法を学習する。このうち、「管理会計論 I」では、日常的な業務に関する計画の設定と、その計画と実績との比較から業績を評価するために必要な技法を学ぶ。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | ○ |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| | 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>経営管理のために、会計情報をどのように活用すべきかについて理解する。具体的には、日常業務について利益との関係から業績を評価する技法である、CVP分析、予算管理・統制(事業部を含む)を中心に管理会計のプロセスを理解し、計算ができるようになる。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|-------------------|---------------|-------------------|
| <p>授業では、毎回、事例や練習問題に取り組む時間を設けている。そこで、当該時間において、双方向で課題に対する見解を昇華させて行きたい。なお、授業の最後には成果を提出してもらい、翌週添削して返却する。成果を提出する際には、授業中に解決できなかった疑問なども記入する。返却されたペーパーには、私のコメントが書いてあるので互いわかり合えるまで、キャッチボールを行いたい。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>連絡、問い合わせ、相談等は研究室(455研究室)にて随時受け付けている。</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>外部試験: : 日本商工会議所簿記検定1級「原価計算」の基礎となる授業である。 学習の確認: ポートフォリオシートの作成に関しては講義中に適宜指示する。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 基本管理会計 | 建部宏明・山浦裕幸 長屋信義 | 同文館出版 | 978-4-495-1981-6 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| ・管理会計論[第六版] | 櫻井通晴 | 同文館出版 | 978-4-495-16146-0 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>定期試験40%、中間テスト20%、毎回の課題提出40%として評価する。講義の理解を深めるために、各回ごとに課題の提出、添削、返却がなされるが、この課題への取り組みは疑問点に関する質問・回答というコミュニケーションツールとして皆さんの理解の手助けとなる。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|---|---|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 学園祭「紫苑祭」で売る「お好み焼き」の値段はいくらにしたらよいかー売価・原価・利益の関係ー | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 pp.84～93 を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第2回 | 収支がつり合う価格を計算するーCVP分析ー | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 pp.94～97 を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第3回 | 餃子屋と高級フレンチ、どちらが儲かるかー商売の仕方によって値段の決め方が違うー | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 第1回目と第2回目の範囲を教科書と返却された資料で復習しておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第4回 | 粉飾の見破り方①ー経営効率を示す指標ー | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 pp.27～34 を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第5回 | 粉飾の見破り方②ー安全性の指標ー | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 pp.23～27 を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第6回 | 財務分析による総合評価ー事例研究ー | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 pp.34～39 を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第7回 | 中間テスト(これまで学習した項目の理解度テスト)とその解説 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 第1回から前回までの総復習を行うこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 中間テストの問題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第8回 | 管理会計としての原価計算ー目的に応じて原価・費用の範囲は変わるー | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 pp.42～46をを読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された中間テストと授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |

| | | |
|----------------|-------------------------|------------------------------------|
| 第9回 | 工業簿記の基礎①ー形態別計算(材料費)ー | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 pp.47～48 を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第10回 | 工業簿記の基礎②ー形態別計算(労務費・経費)ー | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 pp.48～50 を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第11回 | 製造原価・部門費の配付 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 pp.51～57 を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第12回 | 個別原価計算(原価計算表と仕掛品勘定) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 pp.57～59 を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第13回 | 総合原価計算①ー月末仕掛品の計算(材料費)ー | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 pp.60～61 を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第14回 | 総合原価計算②ー月末仕掛品の計算(加工費)ー | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 pp.61～64 を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第15回 | まとめ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 第8回から前回までの総復習を行うこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 管理会計論Ⅱ | ～218 | 3・4年生・後期 | 2単位 | 選択 | 春日 克則 | |
| 履修の前提条件 | 「会計学入門」や「簿記」を履修済か同程度の知識を有することが望ましいが、何よりも、企業の経営・管理に興味を持つことが必要である。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>「管理会計論Ⅱ」では、まず、1年を超える期間の投資計画を扱う戦略的意思決定と、日常の業務から生じる意思決定を評価する業務執行的意思決定を学ぶ。次に、管理会計の新たな分野である戦略会計、つまり、経営管理者が行う戦略策定と遂行という、新たな任務と結びついた管理会計の手法を学習する。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | ○ |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>経営管理のために、会計情報をどのように活用すべきかについて理解する。具体的には、設備投資の意思決定である戦略的意思決定と、一部品種の生産中止などの意思決定である業務執行的意思決定について理解することができる。また、製品はみな、いつか売れなくなるため、これに備え、ライフサイクル・コストニングなどの特別な意思決定のための諸技法を学ぶことができる。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|-------------------|---------------|-------------------|
| <p>授業では、毎回、事例や練習問題に取り組む時間を設けている。そこで、当該時間において、双方向で課題に対する見解を昇華させて行きたい。なお、授業の最後には成果を提出してもらい、翌週添削して返却する。成果を提出する際には、授業中に解決できなかった疑問なども記入する。返却されたペーパーには、私のコメントが書いてあるので互いわかり合えるまで、キャッチボールを行いたい。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>連絡、問い合わせ、相談等は研究室(455研究室)にて随時受け付けている。</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>外部試験: : 日本商工会議所簿記検定1級「原価計算」の基礎となる授業である。 学習の確認: ポートフォリオシートの作成に関しては講義中に適宜指示する。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 基本管理会計 | 建部宏明・山浦裕幸 長屋信義 | 同文館出版 | 978-4-495-1981-6 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| ・管理会計論[第六版] | 櫻井通晴 | 同文館出版 | 978-4-495-16146-0 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>定期試験40%、中間テスト20%、毎回の課題提出40%として評価する。講義の理解を深めるために、各回ごとに課題の提出、添削、返却がなされるが、この課題への取り組みは疑問点に関する質問・回答というコミュニケーションツールとして皆さんの理解の手助けとなる。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|--|------------------------------------|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | テストを見直さない子は成績が悪いーPlan(計画)・Do(実行)・Check(評価)・Action(改善)サイクルー | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 pp.140～145 を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第2回 | 日常業務の意思決定を支援するー業務的意思決定ー | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 pp.146～147 を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第3回 | 意思決定の具体例①部品を自製すべきか、外部購入すべきか。②安い値段でも追加注文を受けるべきか | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 pp.148～149 を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第4回 | 製品を組み合わせて利益を最大にする①ー制約条件が1つの場合ー | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 pp.150～151 を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第5回 | 製品を組み合わせて利益を最大にする②ー制約条件が2つの場合ー | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 pp.151～157 を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第6回 | 設備投資の意思決定を支援するー戦略的意思決定(原価比較法)ー | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 pp.160～161 を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第7回 | 設備投資の意思決定を支援するー戦略的意思決定(回収期間法)ー | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 pp.165～167 を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第8回 | 設備投資の意思決定を支援するー戦略的意思決定(会計的投資利益率法)ー | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 pp.167～168 を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |

| | | |
|----------------|---------------------------------|---------------------------------------|
| 第9回 | 中間テスト(これまで学習した項目の理解度テスト)とその解説 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 第1回から前回までの総復習を行うこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 中間テストの問題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第10回 | 今日の1,000円と明日の1,000円はどちらが価値がある？ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 pp.162～165 を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された中間テストと授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第11回 | お金の時間的価値を考慮する方法①ー加重平均資本コストー | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 pp.173～175 を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第12回 | お金の時間的価値を考慮する方法②ー正味現在価値法ー | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 pp.168～169 を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第13回 | お金の時間的価値を考慮する方法③ー内部利益率法ー | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 pp.171～173 を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第14回 | 製品はみな、いつか売れなくなるーライフサイクル・コストイングー | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 pp.187～192 を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第15回 | まとめ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 第10回から前回までの総復習を行うこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 | |

| | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 特別講義(会計) ファイナンシャル・プランニング初級 | 共通 | 1年生・前期 | 2単位 | 選択 | 平川 淳一 | |
| 履修の前提条件 | <ul style="list-style-type: none"> ・国家検定「3級ファイナンシャル・プランニング技能士」の取得を目標とする者。 ・受講マナーを守れる者。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>私たちのライフプランに関わってくる年金や保険、貯蓄やローン、税制、不動産、贈与、相続といった内容について包括的に学びます。国が認定する暮らしとお金の相談員ファイナンシャルプランナーの検定資格「FP技能士3級」の内容を学習範囲とします。講義ではFP3級学科試験の過去問題に取り組むことで興味と基礎的理解を深めるとともに、検定合格レベルに到達することをねらいとしています。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| | 問題解決力 Problem Solving | | ○ | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | ○ | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | ○ | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | ○ | | | |
| | 生涯学習力 Lifelong Learning | | ○ | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・国家検定「3級ファイナンシャル・プランニング技能士」の取得を志します。 ・自身のライフプラン実現のために、ファイナンシャル・プランニングが行えるようになることを目指します。 | | | | | | |

| | | | |
|--|---------------|---------------|-------------------|
| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・Checkテストは、授業でInputした内容を、Outputする機会であり、復習と理解度確認のために実施します。 ・配付したプリントは、必ずファイリングして管理するようにしてください。 ・目的を持って、自らの意思において学びとることを望みます。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 講義日、2号館1階の講師控室にお越しください。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>外部試験:FP技能検定 (試験実施機関:一般社団法人 金融財政事情研究会) 試験日:5月、9月、1月(年3回) 試験会場:主要都市で開催 受検料:学科試験 3,000円、実技試験 3,000円 URL: http://www.kinzai.or.jp/ 学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| スッキリわかるシリーズ 2020-2021年版 スッキリわかる FP技能士3級 | 白鳥 光良 | TAC出版 | 978-4813287681 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 2020-2021年版 スッキリとける 過去+予想問題 FP技能士3級 | TAC株式会社(FP講座) | TAC出版 | 978-4813287711 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価方法:平常点 20%、課題 20%、定期試験 60% ※平常点は、学習意欲、受講マナー等を見て総合的に評価する。 注)受講マナーを守れない者は、「減点」、「欠席」、「受講停止」とする場合がある。 ※後期の定期試験を1月のFP試験(外部試験)に代えることを認める。(事前に申し出ること) 合否を問わず、検定試験の得点から評価する。(試験結果の提出義務有り) ・成績評価の基準:3級FP技能検定の受験レベルに達しているか。 ライフプランニングと資金計画:年金や健康保険、住宅ローンなどについて理解しているか。 リスク管理:生命保険、損害保険などの各種保険商品について理解しているか。 金融資産運用:株式や債券、投資信託などについて理解しているか。 タックスプランニング:所得税や法人税などの税金と控除について理解しているか。 不動産:不動産の売買や法令などについて理解しているか。 相続・事業承継:相続や贈与、事業の継承について理解しているか。 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|---|---|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | オリエンテーション: 授業の概要、FP技能士試験についての説明、FP試験問題の体験 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | FPとは何か、その役割と試験の内容を調べて、ノートにまとめておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 理解不十分な社会制度や用語について調べて、ノートに記録しておくこと。(2.0h) |
| 第2回 | ライフプランニングと資金計画 ① FP業務の基本、人生の三大資金 (テキスト P. 2 ~ 30) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業範囲の内容を確認して、わからない操作用語について、調べておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 理解不十分な社会制度や用語について調べて、ノートに記録しておくこと。(2.0h) |
| 第3回 | ライフプランニングと資金計画 ② 社会保険のしくみ (テキスト P. 32 ~ 45) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業範囲の内容を確認して、わからない操作用語について、調べておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 理解不十分な社会制度や用語について調べて、ノートに記録しておくこと。(2.0h) |
| 第4回 | リスク管理 ① 生命保険 (テキスト P. 50 ~ 67) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業範囲の内容を確認して、わからない操作用語について、調べておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 理解不十分な社会制度や用語について調べて、ノートに記録しておくこと。(2.0h) |
| 第5回 | リスク管理 ② 損害保険、第三分野の保険 (テキスト P. 72 ~ 88) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業範囲の内容を確認して、わからない操作用語について、調べておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 理解不十分な社会制度や用語について調べて、ノートに記録しておくこと。(2.0h) |
| 第6回 | 金融資産運用 ① 金融資産を取り巻く環境、様々な金融商品1 (テキスト P. 90 ~ 107) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業範囲の内容を確認して、わからない操作用語について、調べておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 理解不十分な社会制度や用語について調べて、ノートに記録しておくこと。(2.0h) |
| 第7回 | 金融資産運用 ② 様々な金融商品2、金融商品の税金 (テキスト P. 112 ~ 128) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業範囲の内容を確認して、わからない操作用語について、調べておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 理解不十分な社会制度や用語について調べて、ノートに記録しておくこと。(2.0h) |
| 第8回 | Checkテスト1: ライフプランニングと資金計画、リスク管理、金融資産運用 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業範囲の内容を確認して、わからない操作用語について、調べておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 理解不十分な社会制度や用語について調べて、ノートに記録しておくこと。(2.0h) |

| | | |
|----------------|--|---|
| 第9回 | タックスプランニング ① 所得税のしくみ (テキスト P. 132 ~ 155) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業範囲の内容を確認して、わからない操作用語について、調べておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 理解不十分な社会制度や用語について調べて、ノートに記録しておくこと。(2.0h) |
| 第10回 | タックスプランニング ② 所得控除、税額控除 (テキスト P. 157 ~ 176) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業範囲の内容を確認して、わからない操作用語について、調べておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 理解不十分な社会制度や用語について調べて、ノートに記録しておくこと。(2.0h) |
| 第11回 | 不動産 ① 不動産の調査と取引 (テキスト P. 180 ~ 189) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業範囲の内容を確認して、わからない操作用語について、調べておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 理解不十分な社会制度や用語について調べて、ノートに記録しておくこと。(2.0h) |
| 第12回 | 不動産 ② 不動産に関する法律 (テキスト P. 195 ~ 216) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業範囲の内容を確認して、わからない操作用語について、調べておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 理解不十分な社会制度や用語について調べて、ノートに記録しておくこと。(2.0h) |
| 第13回 | 相続・事業継承 ① 贈与の基本、相続の基本 (テキスト P. 220 ~ 233) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業範囲の内容を確認して、わからない操作用語について、調べておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 理解不十分な社会制度や用語について調べて、ノートに記録しておくこと。(2.0h) |
| 第14回 | 相続・事業継承 ② 相続のしくみ、相続財産の評価 (テキスト P. 238 ~ 261) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業範囲の内容を確認して、わからない操作用語について、調べておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 理解不十分な社会制度や用語について調べて、ノートに記録しておくこと。(2.0h) |
| 第15回 | Checkテスト2: タックスプランニング、不動産、相続・事業継承 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業範囲の内容を確認して、わからない操作用語について、調べておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 理解不十分な社会制度や用語について調べて、ノートに記録しておくこと。(2.0h) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 ※FP本試験に準じた内容で実施します。 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 特別講義(会計) ファイナンシャル・プランニング中級 | 共通 | 2年生・前期 | 4単位 | 選択 | 平川 淳一 | |
| 履修の前提条件 | <ul style="list-style-type: none"> ・国家検定「2級ファイナンシャル・プランニング技能士」の取得を目標とする者。 ※受検資格があります。 ・受講マナーを守れる者。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>私たちのライフプランに関わってくる年金や保険、貯蓄やローン、税制、不動産、贈与、相続といった内容について包括的に学びます。国が認定する暮らしとお金の相談員ファイナンシャルプランナーの検定資格「FP技能士2級」の内容を学習範囲とします。講義ではFP2級学科と実技試験の過去問題に取り組むことで基礎的理解と応用力を養うとともに、検定合格レベルに到達することをねらいとしています。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| | 問題解決力 Problem Solving ○ | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management ○ | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense ○ | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility ○ | | | | | |
| | 生涯学習力 Lifelong Learning ○ | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・国家検定「2級ファイナンシャル・プランニング技能士」の取得を志します。 ・自身のライフプラン実現のために、ファイナンシャル・プランニングが行えるようになることを目指します。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|---------------|---------------|-------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・Checkテストは、授業でInputした内容を、Outputする機会であり、復習と理解度確認のために実施します。 ・配付したプリントは、必ずファイリングして管理するようにしてください。 ・目的を持って、自らの意思において学びとることを望みます。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 講義日、2号館1階の講師控室にお越しください。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>外部試験:FP技能検定2級 (試験実施機関:一般社団法人 金融財政事情研究会) 試験日:5月、9月、1月(年3回) ※受検資格有り:FP技能検定3級の合格者 試験会場:主要都市で開催 受検料:学科試験 4,200円、実技試験 4,500円 URL: http://www.kinzai.or.jp/ 学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出すること。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| スッキリわかるシリーズ 2020-2021年版 スッキリわかる FP技能士2級・AFP | 白鳥 光良 | TAC出版 | 978-4813287674 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 2020-2021年版 スッキリとける過去+予想問題 FP技能士2級・AFP | TAC株式会社(FP講座) | TAC出版 | 978-4813287704 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価方法:平常点 20%、課題 20%、定期試験 60% ※平常点は、学習意欲、受講マナー等を見て総合的に評価する。 注)受講マナーを守れない者は、「減点」、「欠席」、「受講停止」とする場合がある。 ※後期の定期試験を1月のFP試験(外部試験)に代えることを認める。(事前に申し出ること) 可否を問わず、検定試験の得点から評価する。(試験結果の提出義務有り) ・成績評価の基準:2級FP技能検定の受験レベルに達しているか。 ライフプランニングと資金計画:年金や健康保険、住宅ローンなどについて理解しているか。 リスク管理:生命保険、損害保険などの各種保険商品について理解しているか。 金融資産運用:株式や債券、投資信託などについて理解しているか。 タックスプランニング:所得税や法人税などの税金と控除について理解しているか。 不動産:不動産の売買や法令などについて理解しているか。 相続・事業承継:相続や贈与、事業の継承について理解しているか。 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|--|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | オリエンテーション: 授業の概要、FP技能士試験についての説明、FP試験問題の体験 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | FPとは何か、その役割と試験の内容を調べて、ノートにまとめておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 理解不十分な社会制度や用語について調べて、ノートに記録しておくこと。(2.0h) |
| 第2回 | ライフプランニング① ファイナンシャル・プランニングの倫理と関連法規、健康保険 (テキスト P. 5 ~ 30) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テーマ内容の確認と公的機関のHPから、各制度を調査して記録しておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 理解不十分な社会制度や用語について調べて、ノートに記録しておくこと。(2.0h) |
| 第3回 | ライフプランニング② 公的年金制度、企業年金等、ライフプラン策定上の資金計画 (テキスト P. 35 ~ 58) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テーマ内容の確認と公的機関のHPから、各制度を調査して記録しておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 理解不十分な社会制度や用語について調べて、ノートに記録しておくこと。(2.0h) |
| 第4回 | リスク管理① リスクマネジメント、保険制度全般の理解、生命保険 (テキスト P. 69 ~ 81) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テーマ内容の確認と公的機関のHPから、各制度を調査して記録しておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 理解不十分な社会制度や用語について調べて、ノートに記録しておくこと。(2.0h) |
| 第5回 | リスク管理② 生命保険商品、第三分野の保険、損害保険 (テキスト P. 88 ~ 105) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テーマ内容の確認と公的機関のHPから、各制度を調査して記録しておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 理解不十分な社会制度や用語について調べて、ノートに記録しておくこと。(2.0h) |
| 第6回 | 金融資産運用① マーケット環境、預貯金、金融類似商品、株式投資 (テキスト P. 113 ~ 131) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テーマ内容の確認と公的機関のHPから、各制度を調査して記録しておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 理解不十分な社会制度や用語について調べて、ノートに記録しておくこと。(2.0h) |
| 第7回 | 金融資産運用② 投資信託、外貨建て金融商品、金融派生商品とポートフォリオ (テキスト P. 138 ~ 161) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テーマ内容の確認と公的機関のHPから、各制度を調査して記録しておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 理解不十分な社会制度や用語について調べて、ノートに記録しておくこと。(2.0h) |
| 第8回 | Checkテスト① ライフプランニング、リスク管理、金融資産運用 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テーマ内容の確認と公的機関のHPから、各制度を調査して記録しておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 理解不十分な社会制度や用語について調べて、ノートに記録しておくこと。(2.0h) |

| | | |
|----------------|---|--|
| 第9回 | タックスプランニング① 所得税の基本、所得税の損益通算 (テキスト P. 169 ~ 181) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テーマ内容の確認と公的機関のHPから、各制度を調査して記録しておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 理解不十分な社会制度や用語について調べて、ノートに記録しておくこと。(2.0h) |
| 第10回 | タックスプランニング② 所得控除、税額控除、法人その他 (テキスト P. 185 ~ 206) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テーマ内容の確認と公的機関のHPから、各制度を調査して記録しておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 理解不十分な社会制度や用語について調べて、ノートに記録しておくこと。(2.0h) |
| 第11回 | 不動産① 不動産の基本、不動産に関する取引 (テキスト P. 215 ~ 223) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テーマ内容の確認と公的機関のHPから、各制度を調査して記録しておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 理解不十分な社会制度や用語について調べて、ノートに記録しておくこと。(2.0h) |
| 第12回 | 不動産② 不動産に関する法令、不動産に関する税金、不動産の有効活用 (テキスト P. 231 ~ 254) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テーマ内容の確認と公的機関のHPから、各制度を調査して記録しておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 理解不十分な社会制度や用語について調べて、ノートに記録しておくこと。(2.0h) |
| 第13回 | 相続・事業継承① 贈与の基本、贈与税、相続と法律 (テキスト P. 265 ~ 284) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テーマ内容の確認と公的機関のHPから、各制度を調査して記録しておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 理解不十分な社会制度や用語について調べて、ノートに記録しておくこと。(2.0h) |
| 第14回 | 相続・事業継承② 相続税、相続財産の評価、相続対策 (テキスト P. 289 ~ 308) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テーマ内容の確認と公的機関のHPから、各制度を調査して記録しておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 理解不十分な社会制度や用語について調べて、ノートに記録しておくこと。(2.0h) |
| 第15回 | Checkテスト② タックスプランニング、不動産、相続・事業継承 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テーマ内容の確認と公的機関のHPから、各制度を調査して記録しておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 理解不十分な社会制度や用語について調べて、ノートに記録しておくこと。(2.0h) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 ※FP本試験に準じた内容で実施します。 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 特別講義(会計) 簿記総合実践 | 共通 | 1年生・後期(集中) | 2単位 | 選択 | 平川 淳一 | |
| 履修の前提条件 | <ul style="list-style-type: none"> ・2月日商簿記検定の受験申し込みをしている人。(申込期限:1月中旬まで) ・必須道具である電卓を毎回持参。(スマートフォンの電卓NG) ・簿記の基礎ルールが身についていること。 ・受講マナーを守ること。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>日本商工会議所主催の簿記検定3級試験内容について学びます。 直近の過去問題1回と予想問題4回にチャレンジして本試験の出題傾向を掴み、解答解説によって学びを深めていきます。また、各自で弱点を把握し、苦手分野を克服することで、本試験の合格を目指します。 簿記は1日にして成らず。 本講義の受講だけで合格することは難しいので、通常講義で簿記の基礎力をしっかりと養っておいてください。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics ○ | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking ○ | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility ○ | | | | | |
| | 生涯学習力 Lifelong Learning ○ | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・日本商工会議所主催の簿記検定3級試験の合格を目指します。 ・敵を知る:本試験の出題パターンを把握します。 ・己を知る:現状の理解度を把握し、弱点を明確にします。 ・向上心:簿記3級合格を達成して、簿記2級合格の新たな目標の動機が得られます。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|-------------|---------------|--------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・授業で解いた問題の誤答箇所はもちろん、あいまいな理解で解答した箇所を解き直してください。 ・簿記をパズルゲームの感覚で楽しみながらも、本試験で「合格する」という強い気持ちを忘れないでください。 ・1回でも欠席すると定期試験と本試験に影響を及ぼします。=単位所得と資格取得の確率が低下します。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 講義日、2号館1階の講師控室にお越しください。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>外部試験:日商簿記検定3級 (試験実施機関:日本商工会議所) 試験日:6月、11月、2月(年3回) 試験会場:・福岡大学七隈本校、福岡工業大学、久留米大学 受験料:2,850円(税込) URL: https://www.kentei.ne.jp/</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 第160回日商簿記 ズバリ!3級の中 完全予想模試 | ネットスクール株式会社 | ネットスクール出版 | 未発売 ※例年:12月末に販売 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 合格するための過去問題集 日商簿記3級 | TAC株式会社 | TAC出版 | 978-4813279822 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価方法:平常点 20%、課題 20%、定期試験 60% ※平常点は、学習意欲、受講マナー等を見て総合的に評価します。 注)受講マナーを守れない者は、「減点」、「欠席」、「受講停止」とする場合があります。 ※学内で実施される『iパス・簿記コンテスト』参加した人は、平常点を加算します。 ・成績評価の基準:日商簿記検定3級の合格レベルに達しているか。 ・簿記上のルールが理解できているか。 ・簿記検定の出題パターンがわかっているか。 ・本試験レベルの問題を時間内(120分)で解答できるか。 ・簿記一巡の手続きを理解し、財務諸表作成までの計算構造を理解できているか。 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|--|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | オリエンテーション：授業の概要、簿記試験の内容、仕訳問題で既存知識の確認を行います。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 他の簿記科目で学んだ内容を、復習しておくこと。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 理解不足と感じた点や苦手分野の練習問題を解き直して復習しておくこと。(2.0h) |
| 第2回 | 過去問題チャレンジ / 日商簿記3級 第159回問題 第1問目、第2問目、第4問目 解答解説 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前の回に配付した練習問題を、授業前に解いて提出すること。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 理解不足と感じた点や苦手分野の練習問題を解き直して復習しておくこと。(2.0h) |
| 第3回 | 過去問題チャレンジ / 日商簿記3級 第159回問題 第3問目 試算表 解答解説 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前の回に配付した練習問題を、授業前に解いて提出すること。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 理解不足と感じた点や苦手分野の練習問題を解き直して復習しておくこと。(2.0h) |
| 第4回 | 過去問題チャレンジ / 日商簿記3級 第159回問題 第5問目 精算表・財務諸表 解答解説 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前の回に配付した練習問題を、授業前に解いて提出すること。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 第159回の過去問題をもう一度解き直して、理解を深めること。(2.0h) |
| 第5回 | 予想問題チャレンジ / 第1予想問題 第1問目、第2問目、第4問目 解答解説 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前の回に配付した練習問題を、授業前に解いて提出すること。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 理解不足と感じた点や苦手分野の練習問題を解き直して復習しておくこと。(2.0h) |
| 第6回 | 予想問題チャレンジ / 第1予想問題 第3問目 試算表 解答解説 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前の回に配付した練習問題を、授業前に解いて提出すること。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 理解不足と感じた点や苦手分野の練習問題を解き直して復習しておくこと。(2.0h) |
| 第7回 | 予想問題チャレンジ / 第1予想問題 第5問目 精算表・財務諸表 解答解説 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前の回に配付した練習問題を、授業前に解いて提出すること。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 第1予想問題をもう一度解き直して、理解を深めること。(2.0h) |
| 第8回 | 予想問題チャレンジ / 第2予想問題 第1問目、第2問目、第4問目 解答解説 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前の回に配付した練習問題を、授業前に解いて提出すること。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 理解不足と感じた点や苦手分野の練習問題を解き直して復習しておくこと。(2.0h) |

| | | |
|----------------|--|--|
| 第9回 | 予想問題チャレンジ / 第2予想問題 第3問目 試算表 解答解説 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前の回に配付した練習問題を、授業前に解いて提出すること。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 理解不足と感じた点や苦手分野の練習問題を解き直して復習しておくこと。(2.0h) |
| 第10回 | 予想問題チャレンジ / 第2予想問題 第5問目 精算表・財務諸表 解答解説 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前の回に配付した練習問題を、授業前に解いて提出すること。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 第2予想問題をもう一度解き直して、理解を深めること。(2.0h) |
| 第11回 | 予想問題チャレンジ / 第3予想問題 第1問目、第2問目、第4問目 解答解説 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前の回に配付した練習問題を、授業前に解いて提出すること。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 理解不足と感じた点や苦手分野の練習問題を解き直して復習しておくこと。(2.0h) |
| 第12回 | 予想問題チャレンジ / 第3予想問題 第3問目 試算表 解答解説 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前の回に配付した練習問題を、授業前に解いて提出すること。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 理解不足と感じた点や苦手分野の練習問題を解き直して復習しておくこと。(2.0h) |
| 第13回 | 予想問題チャレンジ / 第3予想問題 第5問目 精算表・財務諸表 解答解説 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前の回に配付した練習問題を、授業前に解いて提出すること。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 第3予想問題をもう一度解き直して、理解を深めること。(2.0h) |
| 第14回 | 予想問題チャレンジ / 第4予想問題 第1問目、第3問目、第4問目 解答解説 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前の回に配付した練習問題を、授業前に解いて提出すること。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 理解不足と感じた点や苦手分野の練習問題を解き直して復習しておくこと。(2.0h) |
| 第15回 | 予想問題チャレンジ / 第4予想問題 第5問目、第4問 解答解説 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前の回に配付した練習問題を、授業前に解いて提出すること。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 第4予想問題をもう一度解き直して、理解を深めること。(2.0h) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 ※模擬試験問題を出題します。 | |

専門教育科目

(経営情報学科)

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|---|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1BMB-6300-22E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| ビジネス実務 | 219～ | 2年生・前期 | 2単位 | 選択 | 鈴木 和也 | |
| ビジネス実務 I | ～218 | | | | | |
| 履修の前提条件 | 1.経営学総論Ⅰ、経営学総論Ⅱ、マーケティング論などの関連科目を履修し単位を取得していること。2.履修者は全員秘書技能検定試験(3級)を受験すること。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>この講義では、ビジネス実務の知識やスキルの習得、さらには広い視野から社会に広がるビジネス実務の諸課題を、具具体的な活動プロセスの中で探求し、実践の場で生かせるような必要な知識や方法を学習をとおして身に付けることに主眼をおいている。また体験学習を積極的に取り入れ、現場の課題に取り組む姿勢についても学習をする。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | ○ |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | ○ |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>職業人として、企業においてビジネス実務を実際に行うために必要な基礎的な考え方や知識・技能を習得する。また講義をとおして、そうすることが「なぜ」必要なのかという考え方をもち、活用できる能力を身に付ける。さらに、信頼される社会人として、ふさわしい言動や人柄を身に付ける。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|------------|---------------|-------------------|
| <p>・対話型の授業を心がけるので、質問など積極的な取組みを期待します。 ・授業内で実施するロールプレイや小テストを活用し、授業内容の理解を深めるとともに授業への積極的な参加を促します。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>質問、相談等は研究室(553)にて受けつける。尚、オフィスアワーも積極的にご活用ください。(オフィスアワー以外で研究室にお越しの際は事前にメールなどでアポイントメントをお取りください)</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>kiiis学修ポートフォリオ・ルーブリックの活用を図り、学修状況の把握や学生自身による自己評価や教員の評価など、双方向でのやり取りを通して講義内容の理解度や定着状況の把握に努める。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| ビジネス実務 —信頼を得ることの大切さ— | 藤村やよい 編著 | 樹村房 | 978-4-88367-246-2 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| ビジネスシリーズ ビジネス実務総論 | 森脇道子 編著 | 実教出版 | 978-4-407-32262-0 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 1.定期試験(80%)、2.小テスト(5%)、3.学修課題の提出(5%)、4.授業への取組み(10%) | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|-------------------------------------|--------------------------|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 授業概要(授業の進め方、評価について) 職業意識/ビジネス活動について | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習課題の解答 (2.0h) |
| 第2回 | 組織の人間関係につて/仕事をする上での心構えについて | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習課題の解答 (2.0h) |
| 第3回 | 仕事の基本/信頼を得ることの大切さについて | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習課題の解答 (2.0h) |
| 第4回 | 第一印象の大切さについて | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習課題の解答 (2.0h) |
| 第5回 | 言葉遣いの基本 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習課題の解答 (2.0h) |
| 第6回 | 電話対応の基本 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習課題の解答 (2.0h) |
| 第7回 | 来客対応の基本 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習課題の解答 (2.0h) |
| 第8回 | ホスピタリティとサービス | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習課題の解答 (2.0h) |

| | | |
|----------------|---------------------------|--------------------------|
| 第9回 | オフィス管理の基本 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習課題の解答 (2.0h) |
| 第10回 | 時間管理と出張業務 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習課題の解答 (2.0h) |
| 第11回 | 会議・会合の基本 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習課題の解答 (2.0h) |
| 第12回 | ビジネス文書の基本 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習課題の解答 (2.0h) |
| 第13回 | 情報管理について | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習課題の解答 (2.0h) |
| 第14回 | 慶弔・贈答のマナーについて | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習課題の解答 (2.0h) |
| 第15回 | 企業環境の変化と自己啓発について | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習課題の解答 (2.0h) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験の実施 (まとめと振り返りを行う。) | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1EMN-5370-U2ET | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 経営情報論Ⅱ | 219～ 経営情報学科 | 2・3年生・後期 | 2単位 | 選択 | 岸川 洋 | ○ |
| 経営情報論Ⅱ (教職関連科目 必 高等学校 情報) | ～218 | 2年生・後期 | | | | |
| 履修の前提条件 | 「経営学総論Ⅰ」「情報学入門」を履修していること。「情報テクノロジー(情報処理入門)」を履修し、ストラテジー分野について理解していることが望ましい。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| 電気通信事業会社で、社内システム開発部門やシステム営業部門(公共・金融)の業務経験がある教員が、経営環境の変化や情報技術の進展により、経営情報システムがどのように発展してきたかを解説することにより、各経営情報システムの利点・欠点・留意点について学修する。 ITパスポート試験(ストラテジー分野)から出題した小テストを毎回実施する。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| 経営情報システムの発展過程を理解し、各経営情報システムについてイメージ図を描いて考え方を説明できる。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|--------------------|---------------|--------------------------------|
| 毎回の授業で、授業内容をまとめた課題の提出があります。資料やネット検索等を活用して補足してください。意見、感想なども記入してください。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 連絡方法:メールで連絡してください。又は事務局へ伝えてください。 オフィスアワー:授業日の休憩時間等に対応いたします。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 外部試験:ITパスポート資格の未取得者は受験すること。資格取得状況を成績評価の対象とする。 学修の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に該当事項を記入して、課題と一緒に提出すること。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 情報・技術経営シリーズ10 ビジネス情報システム | 薦田憲久、水野浩孝、 赤津雅晴 | コロナ社 | 9784339026306 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 経営の基礎から学ぶ 経営情報システム教科書 経営情報システム 第3版 | 武藤明則 島田達己、高原康彦 | 同文館出版 日科技連 | 9784495384111 9784817192141 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 成績評価の方法:平常点(60%)、定期試験(40%)。平常点は授業での参加状況、毎回の課題提出状況、小テスト、レポート提出状況で総合的に判断する。 成績評価の基準:利用部門での情報リーダーに必要な、経営情報システムに関する知識がある。 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|--------------------------------------|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | オリエンテーション(授業の概要・受講上の諸注意) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「経営情報システム」についてネット検索等で調べ、疑問点を整理する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業を受講するためのネットワーク環境や資料を整備する。(2時間) |
| 第2回 | 経営情報システムの発展過程(経営情報システムの変遷について学習する) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。(2時間) |
| 第3回 | MIS(経営情報システムの考え方について学習する) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。(2時間) |
| 第4回 | OA(オフィスオートメーションの導入について学習する) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。(2時間) |
| 第5回 | EDPSとDSS(勘定系システムと情報系システムの違いについて学習する) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。(2時間) |
| 第6回 | SIS(戦略的情報システムの考え方について学習する) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。(2時間) |
| 第7回 | BPR(ビジネスプロセスリエンジニアリングの考え方について学習する) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。(2時間) |
| 第8回 | ERP(統合業務パッケージの考え方について学習する) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。(2時間) |

| | | |
|----------------|--|-----------------------------------|
| 第9回 | SCM(サプライチェーンマネジメントの考え方について学習する) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。(2時間) |
| 第10回 | CRM(顧客関係管理の考え方について学習する) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。(2時間) |
| 第11回 | POS(販売時点管理の考え方について学習する) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。(2時間) |
| 第12回 | EC(電子商取引の利点や課題について学習する) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。(2時間) |
| 第13回 | EUC(エンドユーザコンピューティングの考え方について学習する) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。(2時間) |
| 第14回 | セキュリティとリスク管理(情報システムの構築、運用の際に認識すべきことについて学習する) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。(2時間) |
| 第15回 | まとめ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 全体を振り返り、疑問点について整理する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | キーワードについて説明できるようにする。(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験等 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|---|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1AMN-6440-12E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| ベンチャービジネス入門 | 219～ 経営情報学科 | 1年生・後期 | 2単位 | 選択 | 堀 治彦 | |
| | ～218 経営情報学科 | 1年生・前期 | | | | |
| 履修の前提条件 | <ul style="list-style-type: none"> ベンチャービジネス、ベンチャー企業に関心を持っていることが望ましい。 近年では、インターネット等で多くのベンチャービジネスに関連する記事にアクセスすることができるので、関心のある内容を調べて、イメージをしておくこと。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>本講義では、ベンチャービジネスとベンチャー企業について、政策・経営・会計・財務・法務やプランニングなどの様々な角度から、総合的に学習をします。</p> <p>ベンチャー企業を題材にしていますが、講義で学ぶ内容は既存の企業や社会、ビジネスにも共通する部分が多くあります。すなわち、基本的なビジネスや企業に関連した知識の習得を通じて、企業や社会への関心を持つことや、自身の社会との関わり方を身につけることにつながるでしょう。</p> <p>また、ベンチャー企業に参画経験のある教員が担当しますので、実際の体験や最近の事例も交えて講義を行なっていきます。</p> | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ |
| 到達目標 (Objectives) | 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ |
| <p>本講義では下記の到達目標を設定しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> 企業やビジネスの意義、その仕組みを理解し、自分が社会参画した時の関わり方を思い描けるようになる。 学習した内容を活かし、実際のビジネスに応用していく意欲を養う。 将来的に必要なに応じて、ビジネスを行う上で必要な資格(簿記・販売士等)を取得し、スキル向上させていくための意識を持つようになる。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|--------------------------------|---------------------------------|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 対話型の授業を心がけるので、質問など積極的な取組みを期待します。 授業内で適宜実施する小テスト・レポートを活用し、授業内容の理解を深めるとともに授業への積極的な参加を促します。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 講義に関する質問、相談等は、講義終了後の教室又は研究室にて随時受け付けます。 オフィスアワー時間帯は●曜日●●時～、研究室(●●●)で受け付けます。オフィスアワーの時間帯以外でも必要に応じて対応します。 * 研究室にお越しの際は、事前にメール(●●●@kuis.ac.jp)などでご相談ください。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>テキスト以外に必要なに応じてレジュメを配布します。その場合には、各自保管をしておいてください。</p> <p>学習の確認として、ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 『ベンチャービジネス論』 | 太田一樹ほか | 実業出版 | 978-4407310771 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| ①『ベンチャー企業<第4版>』 ②『ベンチャー経営論』 ③『HARD THINGS 答えがない難問と困難にきみはどう立ち向かうか』 | ①松田修一 ②長谷川 博和 ③ベン ホロウィッツ | ①日本経済新聞出版社 ②東洋経済新報社 ③日経BP | ①978-4532113032 ②978-4492502969 ③978-4822250850 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>1.定期試験(80%) 2.平常点20%</p> <p>* 平常点の内訳:小テスト(10%)、授業への取組み(10%)</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|------------------------------------|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | オリエンテーション(授業の内容と進め方)、ベンチャー企業を考えてみる | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ベンチャー企業についてメディアを使用し調べ、講義の全体像をイメージしてみよう。また、学習予定範囲(テキスト第1章)を一読してみよう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところを中心に復習をしてみよう(2時間) |
| 第2回 | わが国ベンチャー企業の実態一どのようなベンチャー企業があるか | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第2章)を一読してみよう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところを中心に復習をしてみよう(2時間) |
| 第3回 | ベンチャー企業と政策 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第3章)を一読してみよう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところを中心に復習をしてみよう(2時間) |
| 第4回 | 成長企業の軌跡とマネジメント一企業の事例 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第4章)を一読してみよう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところを中心に復習をしてみよう(2時間) |
| 第5回 | 経営戦略一経営戦略について知ろう | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第5章)を一読してみよう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところを中心に復習をしてみよう(2時間) |
| 第6回 | マーケティング一マーケティングについて知ろう | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第6章)を一読してみよう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところを中心に復習をしてみよう(2時間) |
| 第7回 | 経営組織・経営管理一組織について知ろう | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第7章)を一読してみよう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところを中心に復習をしてみよう(2時間) |
| 第8回 | アカウンティング一会計知識について知ろう | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第8章)を一読してみよう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところを中心に復習をしてみよう(2時間) |

| | | |
|----------------|--------------------------------|---|
| 第9回 | ファイナンス一資金調達について知ろう | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第9章)を一読してみよう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところを中心に復習をしてみよう(2時間) |
| 第10回 | 企業形態の選択一どのような会社の形があるか知ろう | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第10章)を一読してみよう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところを中心に復習をしてみよう(2時間) |
| 第11回 | 企業経営に必要なリスクマネジメント一法的リスクについて知ろう | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第11章)を一読してみよう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところを中心に復習をしてみよう(2時間) |
| 第12回 | 企業の倒産と再建一手続きを知ろう | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第12章)を一読してみよう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところを中心に復習をしてみよう(2時間) |
| 第13回 | ビジネスプラン(1)一概要と重要性 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第13章)を一読してみよう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところを中心に復習をしてみよう(2時間) |
| 第14回 | ビジネスプラン(2)一作成手順と留意点 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第14章)を一読してみよう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところを中心に復習をしてみよう(2時間) |
| 第15回 | ビジネスプラン(3)一作成/これまでの講義のまとめ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第15章)を一読してみよう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | これまでの講義の振り返りを行い、定期試験に向け、わからなかったところを中心に復習をしよう(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|----------|---------------------|----------|
| 1AMB-5332-12C | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 経営学総論Ⅱ | 219～ 経営情報学科 | 1年生・後期 | 2単位 | 必修 | 遠藤 真紀 | ○ |
| 経営学総論 | ～218 | | | 経営 必修 | | |
| 履修の前提条件 | 経営情報学科の必修科目であり、IT人材となるための基礎として、経営情報および企業の経営・マネジメントに関心を持っている事。日頃から社会(世の中)の出来事や経済・企業に関するニュース等に関心を持つ事。 経営学総論Ⅰを履修している事。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>中小企業診断士として、企業の経営戦略立案や事業計画作成の支援等、経営コンサルタントの経験を持つ教員が担当します。企業経営のあり方等について理解するとともに、各理論の背景や意義などについても考察していきます。テキストを基に、伝統的な理論から現代の経営学まで、その形成過程や今日的課題について講義を進めます。現代企業の経営は、情報システムやネットワーク技術との関わりで進化していることから、これまでの実務経験を踏まえた実践的な議論を展開していきます。</p> <p>「経営学総論Ⅱ」では、「経営学総論Ⅰ」で理解した内容を基礎に、より理解を深めるため現実の企業経営政策・経営現象について、経営診断という視点で客観的に考察を行っていきます。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | ○ |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>1. 今日的な企業経営のあり方やあるべき姿などについての理解。</p> <p>2. 基本的なマネジメント理論(組織構造・機能、経営戦略、経営資源、マーケティング、財務、労務、環境変化への対応等)や「マネジメント」はどのようなものかの理解。</p> | | | | | | |

| | | | |
|--|------------|---------------|-------------------|
| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
| <p>基本的に対話型の講義になります。よってただ単に出席し、講義を聴いているだけでは単位取得できません。講義中に行われる教員からの質問等へ積極的に対応し、自身の意見を発言していくことが求められます。また企業経営や経営戦略に関するビデオ聴講による演習等を行います。聴講したビデオに基づき、ディスカッションを行うため、ビデオ内容の聞き取り力、メモ力、聴講した内容や関連情報との考察力を養っていきます。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>教員への講義内容および企業情報や企業経営等に関する質問および関連資格の取得方法等を含む学生生活全般に関するアドバイス・相談等は研究室で対応します。オフィスアワー以外の不在時には、研究室のメッセージボードやEメール(endo@kiis.ac.jp)等を活用してください。自主性を重要視するので「来る者拒まず、去る者追わず」のスタンスで対応しますが、「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」という格言の通りです。積極的な教員へのコンタクトおよびコミュニケーションが期待されます。</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>希望者には、必要に応じて、販売士(3級～1級)、経営学検定(マネジメント検定:初級、中級、上級)、中小企業診断士等、経営学に関連する資格試験の受験指導を行います。 宿題となる課題レポートの提出以外に、資格試験への積極的な取り組みや関連するレポートおよび学習記録(ポートフォリオ等)の提出は平常点として加味します。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 経営診断要論 | 岸川善光 | 同文館出版 | 9784495377212 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 経営管理要論 | 岸川善光 | 同文館出版 | 9784495385811 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>成績評価方法: 定期試験、平常点(出席率、ディスカッションへの参加、各種レポート提出、資格試験への取り組み、ポートフォリオ提出、教員とのコミュニケーションなど学習に対する積極性)等を総合的に考慮して評価します。 評価基準: 学習に対する積極性および企業経営の今日的なあり方やあるべき姿およびマネジメントに関する基礎的理論などについて理解が図られている。自身と企業とのかかわりが理解でき、自立的・自発的な行動への判断基準が持っている。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|---------------------------|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 講義の目的と進め方(講義内容のアウトラインの理解) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの事前確認および企業経営等に関連する事例などがWEBや雑誌等に多く掲載されているため、積極的にアクセスし、自分の挑戦材料として頭に入れておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき、ビデオ演習を含む、講義内容の復習(2時間) |
| 第2回 | 企業の目的と環境変化 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき、ビデオ演習を含む、講義内容の復習(2時間) |
| 第3回 | 経営学の生成と発展:合理性, 人間性の追求 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき、ビデオ演習を含む、講義内容の復習(2時間) |
| 第4回 | 経営学の生成と発展:システム性, 条件適応性の追求 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき、ビデオ演習を含む、講義内容の復習(2時間) |
| 第5回 | 経営学の生成と発展:戦略性, 社会性の追求 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき、ビデオ演習を含む、講義内容の復習(2時間) |
| 第6回 | 経営体の客観的評価(経営診断の意義) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき、ビデオ演習を含む、講義内容の復習(2時間) |
| 第7回 | 経営診断対象と診断プロセス | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき、ビデオ演習を含む、講義内容の復習(2時間) |
| 第8回 | 経営体の戦略適合, 顧客適合, 内部適合 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき、ビデオ演習を含む、講義内容の復習(2時間) |

| | | |
|----------------|-------------------------------|-----------------------------------|
| 第9回 | 経営管理システム | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき、ビデオ演習を含む、講義内容の復習(2時間) |
| 第10回 | 人的資源管理システム | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき、ビデオ演習を含む、講義内容の復習(2時間) |
| 第11回 | 財務管理システム | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき、ビデオ演習を含む、講義内容の復習(2時間) |
| 第12回 | 情報管理システム | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき、ビデオ演習を含む、講義内容の復習(2時間) |
| 第13回 | 業務管理システム | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき、ビデオ演習を含む、講義内容の復習(2時間) |
| 第14回 | 業種・業界特性:製造業, 卸売業, 小売業, サービス業等 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき、ビデオ演習を含む、講義内容の復習(2時間) |
| 第15回 | 講義のまとめ(講義内容全体の総括) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき、ビデオ演習を含む、講義内容の復習(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1AMN-5260-22E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 企業金融 | 219～ 経営情報学科 | 2年生・前期 | 2単位 | 選択 | 新田町 尚人 | ○ |
| 金融論 | ～218 | 2年生・後期 | | | | |
| 履修の前提条件 | 基礎的な経営学と簿記・会計学の知識があること。 経営学と簿記・会計学で使われている日本語が理解できること。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>企業が利益をあげるためには投資が必要で、投資を行うためには資金が必要である。では、経営者はどのように投資や資金調達の意思決定を行っているのだろうか。</p> <p>第1部では、企業の資金調達(コーポレート・ファイナンス)と投資(インベストメント)の理論を学ぶ。また、第2部では、国際金融の仕組みや外国為替レートなどを学ぶ。第1部、第2部ともに重要なのは、金利(利子率)の概念を理解することである。</p> <p>テキストに掲載されている理論だけでなく、証券市場及び上場企業担当の新聞記者、さらには中小企業をはじめとする経営コンサルタントの実務経験をもとに、実際に発生している課題などの紹介を通じて、生きた経済と経営を学びます。また、時事問題やニュースへの感度があげること、就職活動にもプラスになります。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | ○ |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>企業の資金調達や外国為替について書かれた日本経済新聞の記事を十分に理解できる。 ビジネスパーソンや生活者に必要な金利(利子率)の概念、外国為替を理解できている。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|---------------------------------|----------------|--|
| <p>①電卓を使い、手と頭で企業金融の理論を体得する。 ②講義時間中は、いつでも質問してかまわない。歓迎する。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>担当教員と連絡をとりたい場合は、教務課と相談すること。</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>①毎回、資料を配布する。 ②金利を計算する際には電卓を使用する(定期テストではスマートフォンの電卓は不可とするが、詳細は第1回目の講義で説明する) 学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| グロービスMBAファイナンス はじめて学ぶ国際金融論 | グロービス経営大学院 永易淳、江坂太郎、吉田 裕司 | ダイヤモンド社 有斐閣 | 978-4-478-00876-8 978-4-641-15024-9 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| | | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>基本的には定期試験で評価するが、ミニレポート等の評価も加味する。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|-----------------------------|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 第1部「企業金融」 授業ガイダンス・企業価値とは | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 『MBAファイナンス』のまえがき～pp.23を読んでおくこと(120分) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料を読んで疑問点などをまとめておくこと。講義で紹介した事例をネットで調べること(120分) |
| 第2回 | 間接金融と直接金融 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 日本経済新聞の金融の記事を一週間分読んで疑問点をまとめておくこと(120分) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料を読んで疑問点などをまとめておくこと。講義で紹介した事例をネットで調べること(120分) |
| 第3回 | 金利(利子率)について | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 日本経済新聞の金融の記事を一週間分読んで疑問点をまとめておくこと(120分) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料を読んで疑問点などをまとめておくこと。講義で紹介した事例をネットで調べること(120分) |
| 第4回 | キャッシュフロー、現在価値と将来価値 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 『MBAファイナンス』のpp.24～pp.57を読んでおくこと(120分) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料を読んで疑問点などをまとめておくこと。講義で紹介した事例をネットで調べること(120分) |
| 第5回 | リスクとリターン | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 『MBAファイナンス』のpp.58～pp.103を読んでおくこと(120分) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料を読んで疑問点などをまとめておくこと。講義で紹介した事例をネットで調べること(120分) |
| 第6回 | 資本コスト | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 『MBAファイナンス』のpp.104～pp.117を読んでおくこと(120分) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料を読んで疑問点などをまとめておくこと。講義で紹介した事例をネットで調べること(120分) |
| 第7回 | 企業価値評価(バリエーション) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 『MBAファイナンス』のpp.118～pp.149を読んでおくこと(120分) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料を読んで疑問点などをまとめておくこと。講義で紹介した事例をネットで調べること(120分) |
| 第8回 | 最適資本構成 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 『MBAファイナンス』のpp.152～pp.185を読んでおくこと(120分) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料を読んで疑問点などをまとめておくこと。講義で紹介した事例をネットで調べること(120分) |

| | | |
|----------------|--------------------------|--|
| 第9回 | オプション理論 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 『MBAファイナンス』のpp.186～pp.213を読んでおくこと(120分) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料を読んで疑問点などをまとめておくこと。講義で紹介した事例をネットで調べること(120分) |
| 第10回 | 企業金融のまとめ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 『MBAファイナンス』のpp.214～あとがきを読んでおくこと(120分) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料を読んで疑問点などをまとめておくこと。講義で紹介した事例をネットで調べること(120分) |
| 第11回 | 第2部「国際金融」 外国為替市場と為替相場 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 『はじめて学ぶ国際金融論』のはしがき～pp.41までを読んでおくこと(120分) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料を読んで疑問点などをまとめておくこと。講義で紹介した事例をネットで調べること(120分) |
| 第12回 | 購買力平価 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 『はじめて学ぶ国際金融論』のpp.43～pp.65までを読んでおくこと(120分) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 『はじめて学ぶ国際金融論』のpp.67～pp.139までを読んでおくこと(120分) |
| 第13回 | 国際通貨制度の歴史 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 『はじめて学ぶ国際金融論』のpp.141～pp.162までを読んでおくこと(120分) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料を読んで疑問点などをまとめておくこと。講義で紹介した事例をネットで調べること(120分) |
| 第14回 | 通貨・金融危機と現在の世界経済 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 『はじめて学ぶ国際金融論』のpp.163～pp.185までを読んでおくこと(120分) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 『はじめて学ぶ国際金融論』のpp.187～pp.208までを読んでおくこと(120分) |
| 第15回 | 国際金融のまとめ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 日本経済新聞の外国為替の記事を一週間分読んで疑問点をまとめておくこと(120分) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料を読んで疑問点などをまとめておくこと。講義で紹介した事例をネットで調べること(120分) |
| 第16回 (定期試験) | 定期テスト | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1AMB-6190-22E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 日本経営史 | 219～ 経営情報学科 | 2年生・前期 | 2単位 | 選択 | 鈴木 和也 | |
| 特別講義(経営)経営史 | ～218 | 3・4年・前期 | | | | |
| 履修の前提条件 | 経済学、日本事情、経営学総論Ⅰ、経営学総論Ⅱなどの科目を履修し単位を取得していること。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>歴史とは単に昔の話を知ることではない。今日おこっている日本経済・経営の諸問題 や今後の展開も、その成立過程、つまり歴史によって規定されている要素はとても多い。この講義では、近代以降の日本の企業経営はどのように展開してきたのか、その結果現在どのような特徴を持つようになったのかについて学ぶ。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・歴史を単なる過去に対する知識にとらえず、今日的な問題の源流にとらえる。 ・経済・経営の諸問題を、自分自身の身近な現象として認識し、それに対する知識や見識を深める。 ・今後社会人として、会社や社会や他国などと共有できるような知識や意識を身につける。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|------------|---------------|-------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・対話型の授業を心がけるので、質問など積極的な取組みを期待します。 ・授業内で実施する小テストを活用し、授業内容の理解を深めるとともに授業への積極的な参加を促します。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>質問、相談等は研究室(553)にて受けつける。尚、オフィスアワーも積極的にご活用ください。(オフィスアワー以外で研究室にお越しの際は事前にメールなどでアポイントメントをお取りください。)</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>kiis学修ポートフォリオ・ルーブリックの活用を図り、学修状況の把握や学生自身による自己評価、教員の評価など、双方向でのやり取りを通して講義内容の理解度や定着状況の把握を行う。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 1からの経営史 | 宮本又郎 他編著 | 碩学社 | 978-4502089008 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 企業家に学ぶ 日本経営史— テーマとケースでとらえよう | 宇田川 勝 他編著 | 有斐閣 | 978-4641184008 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 1.定期試験(80%)、2.小テスト(10%)、3.学修課題の提出(5%)、4.授業への取組み(5%) | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|-----------------------------|--------------------------|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 授業概要(授業の進め方、評価について) 江戸時代の経営 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習問題の解答 (2.0h) |
| 第2回 | 明治の企業家たち | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習問題の解答 (2.0h) |
| 第3回 | 近代産業経営の成立 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習問題の解答 (2.0h) |
| 第4回 | 財閥の多角化と組織 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習問題の解答 (2.0h) |
| 第5回 | 重化学工業化と新興財閥 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習問題の解答 (2.0h) |
| 第6回 | 技術経営の誕生 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習問題の解答 (2.0h) |
| 第7回 | 「日本型」人事管理とサラリーマンの誕生 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習問題の解答 (2.0h) |
| 第8回 | 都市型ビジネスの成立 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習問題の解答 (2.0h) |

| | | |
|----------------|---------------------------|--------------------------|
| 第9回 | 経済民主化と企業変革 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習問題の解答 (2.0h) |
| 第10回 | 大量消費社会の到来と家電メーカーの発展 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習問題の解答 (2.0h) |
| 第11回 | 企業集団とメインバンク | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習問題の解答 (2.0h) |
| 第12回 | 日本的生産システムの形成 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習問題の解答 (2.0h) |
| 第13回 | 流通のイノベーション | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習問題の解答 (2.0h) |
| 第14回 | 変貌する総合商社 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習問題の解答 (2.0h) |
| 第15回 | 日本的経営とその内容 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習問題の解答 (2.0h) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験の実施 (まとめと振り返りを行う。) | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1AMN-5390-22E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 経営組織論 | 219～ 経営情報学科 | 2年生・後期 | 2単位 | 選択 | 秋吉 浩志 | |
| 履修の前提条件 | 経営者、管理職、起業などを考える学生にとって経営組織の知識はなくてはならない | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>日常生活の中で、私たちは様々な「組織」に関わり生活をしています。しかし、日常的経験があるが故にかえって深く考えることをせず、その結果として、本質的な理解が妨げられることも多いのではないのでしょうか。</p> <p>この授業では、経営組織論の概念をもとに個人、集団、組織全体についての考察を進め、現代社会における「組織」の諸側面を深く理解すると同時に、組織における個人・集団の振る舞いや、経営組織の活動の背後にある意味を洞察する力を磨いていくことをめざします。さらには組織はすでに市場との密接な関係が深まり、消費者も組織の中に組み込まれています。そのような仕組みを「気づかせる」ことに目的を持っています。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | ○ |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | ○ |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>①経営組織に関する知識や考え方を習得する。</p> <p>②「日本の経営のメリット・デメリットを理解し、説明できるようになること。</p> <p>③日本の経営のあるべき姿を展望できるようになること。</p> <p>④劇的に変化する組織の形態に対応できるスキルを得ることができる。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|------------|---------------|-------------------|
| <p>①基本的にプレゼン方式で行い、学生と積極的にコミュニケーションをとりながら講義を展開する。</p> <p>②動画、テキスト以外の教材などのように実際見たり、感じたりする教材も準備し、より体感できるような講義も行う。</p> <p>③ミニテスト、アンケート、学生からの意見なども教材として取り上げ、講義を展開していく。</p> <p>④考える、議論する、主張することなどができるような雰囲気づくりを行い、受講学生の積極性なども導き出す。など</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>基本的に研究室(2号館5階555研究室)にて月曜日、水曜日オフィスアワーを設定している。</p> <p>研究室訪問の際、メール; akiyoshi7227@gmail.comにメール連絡をしておくことを薦める。</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>この科目は経営学検定試験の「経営の基礎知識」分野の基礎内容にもふれている。</p> <p>学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入して、4月28日までに秋吉までメール(akiyoshi7227@gmail.com)で提出してください。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 毎回テキスト使用&授業プリントを配布、また、ミニツツカードを配り、理解度をチェックする新テキストは決まり次第発表する | | | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| はじめての経営組織論(有斐閣ストウディア) | 高尾 義明 | 有斐閣 | 978-4641150683 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>出席・遅刻に関しては厳しく管理し、成績に反映する。パソコン(タブレット型も含む)、携帯(スマートフォン)その他電子機器の使用は出席登録時間以外は一切禁止し、使用した場合には科目受講失格(0点)にする。基本的に座席指定を行う。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|-------------------------------------|------------------------------------|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | ガイダンス: 授業の概要・講義の進め方・成績評価方法などを説明します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 指定のテキストの指定ページを読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 当日出された課題をミニツツペーパーに記入して後日提出のこと。(2h) |
| 第2回 | 経営組織の特徴と基礎概念(経営組織の範囲と重要性) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 指定のテキストと資料の指定ページを読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 当日出された課題をミニツツペーパーに記入して後日提出のこと。(2h) |
| 第3回 | 伝統的組織論1: テイラーの科学的管理法 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 指定のテキストと資料の指定ページを読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 当日出された課題をミニツツペーパーに記入して後日提出のこと。(2h) |
| 第4回 | 伝統的組織論2: フィヨールの管理課程論 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 指定のテキストと資料の指定ページを読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 当日出された課題をミニツツペーパーに記入して後日提出のこと。(2h) |
| 第5回 | 人間関係論: インフォーマル組織の発見 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 指定のテキストと資料の指定ページを読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 当日出された課題をミニツツペーパーに記入して後日提出のこと。(2h) |
| 第6回 | 近代組織論: バーナード革命とサイモンの意思決定論 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 指定のテキストと資料の指定ページを読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 当日出された課題をミニツツペーパーに記入して後日提出のこと。(2h) |
| 第7回 | 組織の基本形態(企業の組織形態のさまざまな種類について) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 指定のテキストと資料の指定ページを読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 当日出された課題をミニツツペーパーに記入して後日提出のこと。(2h) |
| 第8回 | 組織デザイン(組織の体制を最大限に生かせる環境をつくる) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 指定のテキストと資料の指定ページを読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 当日出された課題をミニツツペーパーに記入して後日提出のこと。(2h) |

| | | |
|----------------|---|------------------------------------|
| 第9回 | 日本的経営組織と日本的経営 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 指定のテキストと資料の指定ページを読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 当日出された課題をミニツツペーパーに記入して後日提出のこと。(2h) |
| 第10回 | 日本の経営1: リーダーシップ(組織におけるリーダーシップのありかた) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 指定のテキストと資料の指定ページを読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 当日出された課題をミニツツペーパーに記入して後日提出のこと。(2h) |
| 第11回 | 日本の経営2: CSR(企業の社会的責任) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 指定のテキストと資料の指定ページを読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 当日出された課題をミニツツペーパーに記入して後日提出のこと。(2h) |
| 第12回 | 日本の経営3: 暗黙知と知の創造 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 指定のテキストと資料の指定ページを読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 当日出された課題をミニツツペーパーに記入して後日提出のこと。(2h) |
| 第13回 | 新たな組織モデル: ティール組織について | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 指定のテキストと資料の指定ページを読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 当日出された課題をミニツツペーパーに記入して後日提出のこと。(2h) |
| 第14回 | 新たな組織モデル: 自律的・分権的ネットワーク組織論(インターネット上での組織の変化について) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 指定のテキストと資料の指定ページを読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 当日出された課題をミニツツペーパーに記入して後日提出のこと。(2h) |
| 第15回 | 企業、中間組織、市場について(ウイリアムソンの「組織と市場」より) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 指定のテキストと資料の指定ページを読んでおくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 当日出された課題をミニツツペーパーに記入して後日提出のこと。(2h) |
| 第16回 (定期試験) | 基本的に対面ペーパーテストを行う。試験前にループリックならびにポートフォリオの提出もしてもらい。その進捗状況も試験の一部とみなす。 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|---|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1AMN-5950-Z2E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 組織心理学 | 219～ 経営情報学科 | 3・4年生・前期 | 2単位 | 選択 | 長池 和代 | |
| | ～218 | 2年生・前期 | | | | |
| 履修の前提条件 | 1. 心理学の基礎知識があるという前提で授業を進めますので1年次に「心理学Ⅰ」と「心理学Ⅱ」を受講し、単位を取得していることが望ましい。 2. 遅刻は厳禁です。3. 私語は認めません。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| 1. 産業や組織における人々の心理学的な問題を明確化し、解決のための知識や理論を学ぶ。 2. グループ・ワークにより、議論を深める力、傾聴する力を体験する。 3. 自身のライフプラン・キャリアプランを見つめ直し、実行すべき目標を立て、実践する力を養う。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | ○ |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | ○ |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | ○ |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| 1. 組織の特性について基本的な知識を学修します。 2. 組織人には「社会人基礎力」が必要なことを理解し、そのための目標設定と実践の行動を起こします。 3. 組織の人的側面である集団内行動、集団間行動、リーダーシップおよび組織風土を理解し、組織の発展と崩壊について理解します。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|---------------------------|---------------|-------------------|
| 集団・組織行動としての授業クラスの活性化・生産性を高めるため、授業内容に関連する課題毎にグループワークを導入し、参加・敢献・シェアリングの課程を通して主体的問題解決力を育成します。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 連絡方法等は初回講義時に案内します。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 学習の確認: ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 産業・組織 (キーワード心理学シリーズ12) | 角山 剛 (かくやま たかし) | 新曜社 | 978-4-7885-1266-5 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 組織行動の心理学 (産業・組織心理学講座: 第3巻) | 産業・組織心理学会(企画) 角山 剛 (編) | 北大路書房 | 978-4-7628-3086-0 |
| 毎回、補助教材として、授業内容に関連したプリント資料を配付・活用します。 | | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 期末試験の成績と平素の授業中への参加度(質問・発表・グループワーク等)を総合的に評価します。両者の比重は6対4。 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|---|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | オリエンテーション:産業・組織心理学とは／組織における人間観の変遷～ホーソン実験～ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業計画に対応するテキスト・参考資料の箇所を読んでおくこと。 意味のわからない用語は辞書などで必ず調べておくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | テキスト・参考文献の指示する箇所を読んで理解しておくこと。(2h) |
| 第2回 | モチベーション (1)仕事と自己実現(何のために働くのか) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業計画に対応するテキスト・参考資料の箇所を読んでおくこと。 意味のわからない用語は辞書などで必ず調べておくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容に関連する時事問題を調べてまとめる。(2h) |
| 第3回 | モチベーション (2)期待と動機づけ／目標と動機づけ(目標設定理論) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業計画に対応するテキスト・参考資料の箇所を読んでおくこと。 意味のわからない用語は辞書などで必ず調べておくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容に関連する時事問題を調べてまとめる。(2h) |
| 第4回 | 集団内コミュニケーション -説得の原理- | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業計画に対応するテキスト・参考資料の箇所を読んでおくこと。 意味のわからない用語は辞書などで必ず調べておくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容に関連する時事問題を調べてまとめる。(2h) |
| 第5回 | 集団意思決定 (1)コンセンサス課題 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業計画に対応するテキスト・参考資料の箇所を読んでおくこと。 意味のわからない用語は辞書などで必ず調べておくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容に関連する時事問題を調べてまとめる。(2h) |
| 第6回 | 集団意思決定 (2)集団浅慮 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業計画に対応するテキスト・参考資料の箇所を読んでおくこと。 意味のわからない用語は辞書などで必ず調べておくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容に関連する時事問題を調べてまとめる。(2h) |
| 第7回 | リーダーシップ (1)リーダーの特性と行動 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業計画に対応するテキスト・参考資料の箇所を読んでおくこと。 意味のわからない用語は辞書などで必ず調べておくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容に関連する時事問題を調べてまとめる。(2h) |
| 第8回 | リーダーシップ (2)状況に対応したリーダーシップ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業計画に対応するテキスト・参考資料の箇所を読んでおくこと。 意味のわからない用語は辞書などで必ず調べておくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容に関連する時事問題を調べてまとめる。(2h) |

| | | |
|----------------|---|--|
| 第9回 | 職場におけるメンタルヘルス (1)職業性ストレスモデル | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業計画に対応するテキスト・参考資料の箇所を読んでおくこと。 意味のわからない用語は辞書などで必ず調べておくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容に関連する時事問題を調べてまとめる。(2h) |
| 第10回 | 職場におけるメンタルヘルス (2)ワークシートへの記入およびグループワークを通じた検討 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業計画に対応するテキスト・参考資料の箇所を読んでおくこと。 意味のわからない用語は辞書などで必ず調べておくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容に関連する時事問題を調べてまとめる。(2h) |
| 第11回 | 社会人基礎力としてのソーシャルスキル (1)ソーシャルスキルの理論的枠組み | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業計画に対応するテキスト・参考資料の箇所を読んでおくこと。 意味のわからない用語は辞書などで必ず調べておくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容に関連する時事問題を調べてまとめる。(2h) |
| 第12回 | 社会人基礎力としてのソーシャルスキル (2)グループワークによる実践 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業計画に対応するテキスト・参考資料の箇所を読んでおくこと。 意味のわからない用語は辞書などで必ず調べておくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容に関連する時事問題を調べてまとめる。(2h) |
| 第13回 | キャリア形成 (1)振り返る／主体性を発揮する | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業計画に対応するテキスト・参考資料の箇所を読んでおくこと。 意味のわからない用語は辞書などで必ず調べておくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容に関連する時事問題を調べてまとめる。(2h) |
| 第14回 | キャリア形成 (2)目標設定／時間管理 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業計画に対応するテキスト・参考資料の箇所を読んでおくこと。 意味のわからない用語は辞書などで必ず調べておくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容に関連する時事問題を調べてまとめる。(2h) |
| 第15回 | キャリア形成 (3)選択と自己実現 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業計画に対応するテキスト・参考資料の箇所を読んでおくこと。 意味のわからない用語は辞書などで必ず調べておくこと。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容に関連する時事問題を調べてまとめる。(2h) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験の実施:講義内容の理解度を確認する。 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1AMN-5980-Z2ET | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 知的所有権 | 219～ 経営情報学科 ～218 | 3・4年生・前期 | 2単位 | 選択 | 丹羽 崇之 | |
| 履修の前提条件 | 「法学」、「民事法」(民法Ⅰ・民法Ⅱ)を履修していることが望ましい。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>知的財産とは、人の知的な創造活動によって生み出された発明や著作物などの成果のことをいう。知的財産権とはそれら成果に対する権利の総称であり、著作権、産業財産権(特許権、実用新案権、意匠権、商標権)等がある。本講では、知的財産権に関して基礎的な知識を学ぶ。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>本科目は、以下の授業計画にしたがって知的財産権の理解を深め、「法的なものの考え方」・「リーガルマインド」の習得をはかる。そのうえで、関連法分野の知見を習得し、研修を重ねることにより、紛争処理能力を涵養する。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|------------|---------------|-------------------|
| <p>最新の事件や判例等を取りあげるので、学生諸君に法律関係や適用法令について考えてもらう。新聞には毎日目を通し、知的財産に関する記事を切り抜くなどして、記録しておくこと。また、「法学教室」や「法学セミナー」、「ジュリスト」、「法律時報」等の雑誌も確認するようにしてもらいたい。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>質問等は、授業の前後の時間やオフィスアワーを積極的に利用してもらいたい。</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>平常点(ミニテスト、レポート)30%、定期試験70%により総合評価する。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 知的財産法入門[第3版] | 茶園成樹 | 有斐閣 | 978-4641243422 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 知的財産権六法 | 角田政芳 | 三省堂 | 978-4385159362 |
| 知的財産法判例集[第2版] | 大淵哲也他 | 有斐閣 | 978-4641144682 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>平常点(ミニテスト、レポート)30%、定期試験70%により総合評価する。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|-----------------|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 知的所有権とはなにか | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書UNIT1を読み、知的財産権の意義、知的所有権法の概要を学ぶ(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書UNIT1を読み返し、知的財産権の意義、知的所有権法の概要を確認する(2時間) |
| 第2回 | 特許法(1) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書UNIT 2を読み、特許法(発明該当性)について考える(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書UNIT 2を読み返し、特許法(発明該当性)について復習する(2時間) |
| 第3回 | 特許法(2) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書UNIT 3を読み、特許法(特許要件)について考える(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書UNIT 3を読み返し、特許法(特許要件)について復習する(2時間) |
| 第4回 | 特許法(3) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書UNIT 4を読み、特許法(発明者・冒頭出願・職務発明)について考える(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書UNIT 4を読み返し、特許法(発明者・冒頭出願・職務発明)について復習する(2時間) |
| 第5回 | 特許法(4) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書UNIT 5を読み、特許法(出願・審査・審判)について考える(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書UNIT 5を読み返し、特許法(出願・審査・審判)について復習する(2時間) |
| 第6回 | 特許法(5) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書UNIT 6を読み、特許法(権利の濫用)について考える(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書UNIT 6を読み返し、特許法(権利の濫用)について復習する(2時間) |
| 第7回 | 特許法(6) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書UNIT 7を読み、特許法(特許攻防)について考える(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書UNIT 7を読み返し、特許法(特許攻防)について復習する(2時間) |
| 第8回 | 著作権法(1) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書UNIT 8を読み、著作権法(著作物性)について考える(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書UNIT 8を読み返し、著作権法(著作物性)について復習する(2時間) |

| | | |
|----------------|-----------------|---|
| 第9回 | 著作権法(2) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書UNIT 9を読み、著作権法(著作者・職務著作)について考える(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書UNIT 9を読み返し、著作権法(著作者・職務著作)について復習する(2時間) |
| 第10回 | 著作権法(3) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書UNIT 10を読み、著作権法(著作権の内容)について考える(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書UNIT 10を読み返し、著作権法(著作権の内容)について復習する(2時間) |
| 第11回 | 著作権法(4) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書UNIT 11を読み、著作権法(著作権制限)について考える(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書UNIT 11を読み返し、著作権法(著作権制限)について復習する(2時間) |
| 第12回 | 著作権法(5) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書UNIT 12を読み、著作権法(著作者人格権)について考える(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書UNIT 12を読み返し、著作権法(著作者人格権)について復習する(2時間) |
| 第13回 | 意匠法 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書UNIT 13を読み、意匠の意義、登録要件、保護主体等について考える(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書UNIT 13を読み返し、意匠の意義、登録要件、保護主体等について復習する(2時間) |
| 第14回 | 商標法 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書UNIT 14を読み、商標法の概要、商標権侵害、不正競争防止法について考える(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書UNIT 14を読み返し、商標法の概要、商標権侵害、不正競争防止法について復習する(2時間) |
| 第15回 | 不正競争防止法 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書UNIT 15を読み、不正競争防止法の目的、概要等について考える(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書UNIT 15を読み返し、不正競争防止法の目的、概要等について復習する(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1AMN-6570-Z2ET | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 労務管理論 (教職関連科目 必 高等学校 情報) | 219～ 経営情報学科 | 3・4年生・前期 | 2単位 | 選択 | 鈴木 和也 | |
| | ～218 | 2年生・前期 | | | | |
| 履修の前提条件 | 経済学、経営学総論Ⅰ、経営学総論Ⅱなどの科目を履修し単位を取得していることが望ましい。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>企業は労働力という経営資源を獲得しなければ企業活動を実現することができない。そのためにヒトの獲得や活用、定着、モチベーション、さらには労働者(従業員)と企業との間のコンフリクトの解決に関わる諸活動が必要となってくる。この講義では、人事・労務管理、あるいは人的資源管理、ヒューマン・リソース・マネジメントと呼ばれるようになった企業におけるこれらの活動の概要と経営的意義について学習を深めていく。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | ○ |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | ○ |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>企業における仕事がどのような性質を有しているか、また企業で働くことが自分の今後の生活にどのような意味をもつことになるのかを考えられるようにする。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|------------|---------------|-------------------|
| <p>・対話型の授業を心がけるので、質問など積極的な取組みを期待します。 ・授業内で実施する小テストを活用し、授業内容の理解を深めるとともに授業への積極的な参加を促します。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>質問、相談等は研究室(553)にて受けつける。尚、オフィスアワーも積極的にご活用ください。(オフィスアワー以外で研究室にお越しの際は事前にメールなどでアポイントメントをお取りください。)</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>kiis学修ポートフォリオ・ルーブリックの活用を図り、学修状況の把握や学生自身による自己評価、教員の評価など、双方向でのやり取りを通して講義内容の理解度や定着状況の把握を行う。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 人事管理 一人と企業、ともに生きるために― | 平野光俊・江夏幾多郎 | 有斐閣 | 978-4-641-15047-8 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 新しい人事労務管理 第5版 これからの職業人生に生きる 基礎知識 | 佐藤博樹 他著 | 有斐閣 | 978-4-641-22062-1 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>1.定期試験(80%)、2.小テスト(10%)、3.学修課題の提出(5%)、4.授業への取組み(5%)</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|----------------------------|--------------------------|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 授業概要(授業の進め方、評価について) 人事管理とは | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習問題の解答 (2.0h) |
| 第2回 | 組織をつくる | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習問題の解答 (2.0h) |
| 第3回 | 働くということ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習問題の解答 (2.0h) |
| 第4回 | システムとしての人事管理 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習問題の解答 (2.0h) |
| 第5回 | 社員格付け制度:雇用関係を支える仕組み | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習問題の解答 (2.0h) |
| 第6回 | 採用と退出:雇用関係を交わす | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習問題の解答 (2.0h) |
| 第7回 | 配置:仕事を割り振る | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習問題の解答 (2.0h) |
| 第8回 | 評価と報酬:報いる | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習問題の解答 (2.0h) |

| | | |
|----------------|---------------------------|--------------------------|
| 第9回 | 人事育成:「育つ」と「育てる」の交差 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習問題の解答 (2.0h) |
| 第10回 | 労使関係:従業員尊重のための人事管理 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習問題の解答 (2.0h) |
| 第11回 | 非正社員の基幹化 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習問題の解答 (2.0h) |
| 第12回 | 女性の活躍推進 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習問題の解答 (2.0h) |
| 第13回 | ワークライフ・バランスと働き方改革 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習問題の解答 (2.0h) |
| 第14回 | 高齢者雇用 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習問題の解答 (2.0h) |
| 第15回 | グローバル経営と国際的人事管理／人事管理の未来 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習問題の解答 (2.0h) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験の実施 (まとめと振り返りを行う。) | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1AMA-5350-Z2E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 経営思想 | 219～ 経営情報学科 | 3・4年生・前期 | 2単位 | 選択 | 坂上 宏 | |
| 特別講義(経営)産業社会論 | ～218 | | | | | |
| 履修の前提条件 | ①社会思想について関心を持っていること②下記の参考書に目を通しておくこと ※ 禁止事項:私語。正当な理由のない遅刻、許可のない入退室。携帯電話の使用。その他指定する事項。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>フェルディナンド・テンニースとマックス・ウェーバーの思想をとりあげて、近代社会の構造的変容と人間性の疎外の問題について考えていきます。授業の前半は、ゲマインシャフトとゲゼルシャフトの特徴について解説します。後半は、近代資本主義とキリスト教プロテスタンティズムの倫理観の関連について解説します。最後に社会における支配の正当性と官僚制について概説します。なおこの授業は、主として本学の建学の精神「至心」「報恩感謝・慈愛と奉仕」「容は心を呼び、心は容を呼ぶ。」およびカリキュラムポリシー「Ⅰ 建学の精神を理解させ、社会人として必要な態度・志向性を養うこと。」「Ⅲ 社会の諸問題についての知識・理解や汎用的技能を高めること。」に則り行われるものです。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>この授業の目標は次の二つです。第一にテンニースの所説を通じて、ゲマインシャフト(共同社会)とゲゼルシャフト(利益社会)の特徴、およびそれぞれの社会において人間はどのような存在として位置づけられているか、そして人間同士を結びつけるのは何であるか、という点について理解できるようになること。第二にウェーバーの所説を通じて、近代資本主義社会の精神的土台となった禁欲的合理主義について、そして官僚制の特徴と官僚制社会における人間のあり方について理解できるようになる。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|----------------|---------------|-------------------------------------|
| <p>対話型の授業を心がけます。学生からの積極的な発言を期待します。毎回の授業の終わりにポートフォリオ & ルーブリックへの記入をお願いします。感じたことや意見などを自由に書いてください。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>連絡、問い合わせ、相談等は研究室(363)およびメール(sakagami@g.kiis.ac.jp)にて随時受け付けます。提出物はGoogleクラスルームへ出してください。</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ & ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>学習の確認:ポートフォリオ & ルーブリックに必要事項を記入して、指定する日時までに提出してください。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| プリントを配布する。 | | | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 『ゲマインシャフトとゲゼルシャフト上下』 『資本主義の精神とプロテスタンティズムの倫理』 | テンニース ウェーバー | 岩波文庫 岩波文庫 | 4003420713 4003400000 4003420934 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>成績評価の方法:試験90%。平常点10%(毎回の授業の事前学習と事後学習の提出、ポートフォリオ & ルーブリックの提出)。 成績評価の基準:①ゲマインシャフトについて、特に個人と集団の関係、産業の特徴などについて理解しているか。②ゲゼルシャフトについて、特に個人と集団の関係、産業の特徴、交換と価値の意味、労働のあり方、都市と人間のあり方などについて理解しているか。③資本主義の精神について、特に合理主義、世俗内禁欲と職業召命観などについて理解しているか。④支配の正当性と官僚制の特徴、官僚制社会の将来と人間のあり方について理解しているか。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | |
|------------------------|--|
| テーマ Theme | |
| 第1回 | 授業の方針、テンニースの思想とウェーバーの思想について概要紹介 :プリント1 |
| | 事前学習 (内容・時間) テンニースは、近代社会がどのようにして発展してきたと考えていますか。第1回授業プリントを読んで説明してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) 経済における合理主義の特徴について、授業ではどのように述べられていましたか。(2時間) |
| 第2回 | テンニースの思想①(合理主義と歴史主義の総合、本質意志と選択意志、社会発展論、ゲマインシャフトとゲゼルシャフトの本質的概念) :プリント2 |
| | 事前学習 (内容・時間) テンニースは社会を結びつけるものについてどのように考えていますか。第2回授業プリントを見て答えてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) ゲマインシャフトとゲゼルシャフトの本質的概念について説明してください。(2時間) |
| 第3回 | テンニースの思想②(ゲマインシャフトの基本的特徴、初期的形態、父子関係、ゲマインシャフトの発展、ゲマインシャフト的意志) :プリント3 |
| | 事前学習 (内容・時間) テンニースは、ゲマインシャフトがどのように発展していくと説明していますか。第3回授業プリントを読んで答えてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) ゲマインシャフトの基本的特徴について説明してください。(2時間) |
| 第4回 | テンニースの思想③(ゲマインシャフトの成員を結びつける精神、ゲマインシャフトの重要な根本法則、ゲゼルシャフトにおける交換と価値、擬制、ゲゼルシャフト的価値と必要、個人の労働と社会の利益) :プリント4 |
| | 事前学習 (内容・時間) テンニースは、ゲゼルシャフトにおける交換と価値についてどのように述べていますか。第4回授業プリントを読んで答えてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) ゲゼルシャフト的価値と必要について説明してください。(2時間) |
| 第5回 | テンニースの思想④(ゲゼルシャフトは相互的、集団の成立、犠牲的人格、法人、ゲゼルシャフト的な法秩序の前提、「市民社会」ま、たは「交易ゲゼルシャフト」、競争と同盟) :プリント5 |
| | 事前学習 (内容・時間) ゲゼルシャフトは相互的とはどういう意味ですか。第5回授業プリントを読んで答えてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) ゲゼルシャフトにおける個人や集団の行動の特徴について説明してください。(2時間) |
| 第6回 | テンニースの思想⑤(国家のゲゼルシャフト的な発展、世界市場の成立、大都市と人間の運命、合理化の進展と人間関係の変化、世界都市と人間疎外) :プリント6 |
| | 事前学習 (内容・時間) 国家のゲゼルシャフト的な発展について、第6回授業プリントを読んで説明してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) 合理化の進展と人間関係の変化について授業ではどのように述べられていましたか。(2時間) |
| 第7回 | テンニースの思想⑥(現代の運命、人間らしい生活を取り戻せるか…)、ウェーバーの思想①(問題意識、経歴) :プリント7 |
| | 事前学習 (内容・時間) 近代資本主義に関するウェーバーの問題意識について、第7回の授業プリントを読んで説明してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) 経済における合理主義について、授業ではどのように述べられていましたか。(2時間) |
| 第8回 | ウェーバーの思想②(西洋近代の資本主義の合理的性格、資本主義の倫理観(精神)、生活態度、合理主義の特徴、プロテスタンティズムの思想) :プリント8 |
| | 事前学習 (内容・時間) プロテスタンティズム運動と思想の特徴について、第8回授業プリントを読んで説明してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) 資本主義の倫理観について授業ではどのように述べられていましたか。(2時間) |

| | |
|----------------|--|
| 第9回 | ウェーバーの思想③(信仰と救済、世俗内禁欲と職業、1647年「ウェストミンスター信仰告白」) :プリント9 |
| | 事前学習 (内容・時間) カルヴァン派の二重予定説について、第9回の授業プリントを読んで説明してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) 世俗内禁欲と職業について、授業ではどのように述べられていましたか。(2時間) |
| 第10回 | ウェーバーの思想④(救済の自己確信と職業労働、神と人間の関係、職業召命観) :プリント10 |
| | 事前学習 (内容・時間) カルヴァン派は、救済の確信をどのようにして得られると考えていますか。第10回授業プリントを読んで説明してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) 職業召命観について授業ではどのように述べられていましたか。(2時間) |
| 第11回 | ウェーバーの思想⑤(信仰と営利、利得と節約、宗教的倫理の喪失) :プリント11 |
| | 事前学習 (内容・時間) 信仰と営利について、第11回の授業プリントを読んで説明してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) カルヴァン派の世俗内禁欲の思想と資本主義のエートスについて授業ではどのように述べられていましたか。(2時間) |
| 第12回 | ウェーバーの思想⑥(新しい職業倫理の誕生、「精神のない専門人」と「心情のない享楽人」、近代的官僚制社会の特徴と将来) :プリント12 |
| | 事前学習 (内容・時間) 「独自の市民的な職業のエートス(習慣、道徳)としての「資本主義の精神」について、第12回授業プリントを読んで説明してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) ウェーバーの言葉「精神のない専門人」、「心情のない享楽人」について授業ではどのように述べられていましたか。(2時間) |
| 第13回 | ウェーバーの思想⑦(近代官僚制の重要な特徴、官僚制は必然的な支配形態、官僚の支配する社会) :プリント13 |
| | 事前学習 (内容・時間) 近代官僚制の重要な特徴としてウェーバーは4つあげています。それは何ですか。第13回授業プリントを読んで説明してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) 官僚制社会の進行が生み出すものとして、ウェーバーはどのように述べていますか。(2時間) |
| 第14回 | ウェーバーの思想⑧(支配の正統性その1) :プリント14 |
| | 事前学習 (内容・時間) 支配の正統性としてウェーバーは3つあげています。それは何ですか。第14回の授業プリントを読んで説明してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) 合法的支配の内容について説明してください。(2時間) |
| 第15回 | ウェーバーの思想⑨(支配の正統性その2) :プリント15 |
| | 事前学習 (内容・時間) 伝統的支配の内容について説明してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) 資本主義社会における人間の生き方について、あなたの考えを述べてください。(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験、ポートフォリオ & ルーブリック作成等 |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1AIN-5740-X2ET | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 情報テクノロジー (教職関連科目 選 高等学校 情報) | 219～ 経営情報学科 | 1・2年生・前期 | 2単位 | 選択 | ディンダ プラマンタ | |
| | ～218 | 1年生・前期 | | 必修 | | |
| 履修の前提条件 | 高等学校における情報関連科目など入学前までに学習した情報関連科目があれば復習しておくこと。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>前半はコンピュータの仕組み、後半はネットワークを含む情報システムの仕組みについて学びます。コンピュータの仕組みでは、全体構成からハードウェア、ソフトウェア、コンピュータの情報表現や演算処理について学び、一連の情報処理の中でそれらがどのように関わり、利用されているかを理解できるようにします。情報システムの仕組みでは、その構築に欠かせないデータベース、ネットワーク通信、プログラミング言語の概要について学び、企業と情報システムの関連やその業務に携わる職種や職業についても言及します。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | ○ |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>コンピュータや情報システムの基礎的な仕組みや構成を理解し、その知識を活用できるようにすることを目指します。具体的にはITパスポートのテクノロジー分野に出題されるような基礎的な項目を理解することを到達目標とします。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|-------------------------------|---------------|-------------------|
| <p>講義内容に関するディスカッションを行う可能性がありますので、その場合は積極的に発言するように心掛けてください。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>連絡、問い合わせ、相談などは研究室にて受け付けます。オフィスアワーの時間については掲示を確認してください。</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>講義資料を共有フォルダを介して配布するので、毎回PCを持参することが望ましい。また、KIISNW にアクセスできるように環境を整えておいて下さい。学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| コンピュータと情報システム(第2版) | 草薙 信照 | サイエンス社 | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 情報科学の基礎 改訂版 | 石田晴久監修、井内善臣、梅田茂樹、大道 卓、山本誠次郎 著 | 実教出版 | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>平常点(ミニテスト、提出物など)、中間・期末試験の総合評価</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|-------------------------------------|---|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | ガイダンスとコンピュータの歴史と性能 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 次回の学習範囲について、テキストやインターネットによって予習を行っておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義内容について独自で調べた内容などを追記して情報の幅を広げ、各項目の関連性を理解しておくこと。(2時間) |
| 第2回 | コンピュータの基礎知識1(機器構成、CPU、情報の単位と接頭辞) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 次回の学習範囲について、テキストやインターネットによって予習を行っておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義内容について独自で調べた内容などを追記して情報の幅を広げ、各項目の関連性を理解しておくこと。(2時間) |
| 第3回 | コンピュータの基礎知識2(データ表現、2進数とn進数、基数変換) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 次回の学習範囲について、テキストやインターネットによって予習を行っておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義内容について独自で調べた内容などを追記して情報の幅を広げ、各項目の関連性を理解しておくこと。(2時間) |
| 第4回 | コンピュータの基礎知識3(算術演算、補数、論理演算) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 次回の学習範囲について、テキストやインターネットによって予習を行っておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義内容について独自で調べた内容などを追記して情報の幅を広げ、各項目の関連性を理解しておくこと。(2時間) |
| 第5回 | ハードウェア1(中央処理装置と記憶装置) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 次回の学習範囲について、テキストやインターネットによって予習を行っておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義内容について独自で調べた内容などを追記して情報の幅を広げ、各項目の関連性を理解しておくこと。(2時間) |
| 第6回 | ハードウェア2(入出力装置と周辺装置) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 次回の学習範囲について、テキストやインターネットによって予習を行っておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義内容について独自で調べた内容などを追記して情報の幅を広げ、各項目の関連性を理解しておくこと。(2時間) |
| 第7回 | ソフトウェア(OS、言語、アプリケーション) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 次回の学習範囲について、テキストやインターネットによって予習を行っておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義内容について独自で調べた内容などを追記して情報の幅を広げ、各項目の関連性を理解しておくこと。(2時間) |
| 第8回 | データ形式とマルチメディア(文字コード、文字・画像・音声・動画データ) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 次回の学習範囲について、テキストやインターネットによって予習を行っておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義内容について独自で調べた内容などを追記して情報の幅を広げ、各項目の関連性を理解しておくこと。(2時間) |

| | | |
|----------------|-----------------|---|
| 第9回 | 中間試験 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 第1回～第8回を復習しておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 解けなかった問題については各自復習すること。(2時間) |
| 第10回 | 通信ネットワーク | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 次回の学習範囲について、テキストやインターネットによって予習を行っておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義内容について独自で調べた内容などを追記して情報の幅を広げ、各項目の関連性を理解しておくこと。(2時間) |
| 第11回 | インターネットとセキュリティ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 次回の学習範囲について、テキストやインターネットによって予習を行っておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義内容について独自で調べた内容などを追記して情報の幅を広げ、各項目の関連性を理解しておくこと。(2時間) |
| 第12回 | 社会や企業と情報システム | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 次回の学習範囲について、テキストやインターネットによって予習を行っておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義内容について独自で調べた内容などを追記して情報の幅を広げ、各項目の関連性を理解しておくこと。(2時間) |
| 第13回 | データベースと情報システム | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 次回の学習範囲について、テキストやインターネットによって予習を行っておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義内容について独自で調べた内容などを追記して情報の幅を広げ、各項目の関連性を理解しておくこと。(2時間) |
| 第14回 | システムの運用と管理 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 次回の学習範囲について、テキストやインターネットによって予習を行っておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義内容について独自で調べた内容などを追記して情報の幅を広げ、各項目の関連性を理解しておくこと。(2時間) |
| 第15回 | まとめ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 第10回～第14回を復習しておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義内容について独自で調べた内容などを追記して情報の幅を広げ、各項目の関連性を理解しておくこと。(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験等 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|----------|---------------------|----------|
| 1AIN-6381-U2ET | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| プログラミング入門 (教職関連科目 必 高等学校 情報) | 219～ 経営情報学科 | 2・3年生・前期 | 2単位 | 選択 | 橋爪 善光 | |
| | ～218 | 1年生・後期 | | 経営 選択 | | |
| 履修の前提条件 | 情報リテラシー演習を修得済みであることが望ましい | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| ScratchおよびVisual Basicでのプログラミングを通して、プログラミングの手順や流れを修得する。どのプログラミング言語を学ぶ上でも根本が同じであることを2種類の言語を通じて体感する。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| 順次処理、分岐処理、繰り返し処理について理解し、簡単なプログラムであれば本を見ながら自分で書くことができるようになる。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|------------|---------------|-------------------|
| 毎回各自のPCで、実際に手を動かしてプログラミングをしてください。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 連絡、問い合わせ、相談などは研究室(361)にて受け付けます。オフィスアワーの時間については掲示を確認してください。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 初回からパソコンを持参すること。原則として初回授業の欠席者の履修は認めない。やむを得ない事情で1回目授業を欠席した者は2回目授業前日までに研究室に来ること。 学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 学生のためのVisual Basic | 若山芳三郎 | 東京電機大学出版局 | 4-501-52860-5 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| Scratchではじめよう! プログラミング入門 | 杉浦学 | 日経BP社 | 978-4-8222-9774-9 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 毎回のプログラミング課題50%、定期試験50% | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|-------------------------|------------------------------------|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | ガイダンス、Scratchのインストール | |
| | 事前学習 (内容・時間) | シラバスを読み、PCがすぐに使えるようアップデート等しておく(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う(2h) |
| 第2回 | Scratchでスプライトを動かす | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業で行ったことをもう一度新たにやる(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う(2h) |
| 第3回 | 分岐処理、繰り返し処理を用いた簡単なゲーム作成 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業で行ったことをもう一度新たにやる(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う(2h) |
| 第4回 | 多分岐処理 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業で行ったことをもう一度新たにやる(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う(2h) |
| 第5回 | 乱数 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業で行ったことをもう一度新たにやる(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う(2h) |
| 第6回 | 変数 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業で行ったことをもう一度新たにやる(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う、教科書3.1を読む(2h) |
| 第7回 | コンピュータに計算をさせる | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業で行ったことをもう一度新たにやる(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う、教科書pp. 32を読む(2h) |
| 第8回 | コンピュータと対話する | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業で行ったことをもう一度新たにやる(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う(2h) |

| | | |
|----------------|---------------------|--------------------------------|
| 第9回 | Visual Basicの使い方 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第1章を読む(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う、教科書第2章を読む(2h) |
| 第10回 | 算術演算子 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業で行ったことをもう一度新たにやる(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う、教科書3.1を読む(2h) |
| 第11回 | 変数 (Visual Basic) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業で行ったことをもう一度新たにやる(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う、教科書3.2を読む(2h) |
| 第12回 | 分岐処理 (If文) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業で行ったことをもう一度新たにやる(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う、教科書pp. 44からpp. 46を読む(2h) |
| 第13回 | 分岐処理 (ElseIf) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業で行ったことをもう一度新たにやる(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う、教科書pp. 48, 49を読む(2h) |
| 第14回 | 繰り返し処理 (For...Next) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業で行ったことをもう一度新たにやる(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う、教科書pp. 64, 65を読む(2h) |
| 第15回 | 二重繰り返し処理 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業で行ったことをもう一度新たにやる(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う、教科書pp. 67, 68を読む(2h) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1AIN-6382-U2ET | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 初級プログラミング実習 (教職関連科目 必 高等学校 情報) | 219～ 経営情報学科 | 2・3年生・後期 | 2単位 | 選択 | 鷲頭 正憲 | |
| | ～218 | 1年生・後期 | | | | |
| 履修の前提条件 | 「プログラミング入門」を、同時に履修することが望ましい。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>プログラミング統合環境の基本操作から始め、コーディング、コンパイル、デバック、実行といった基本的なソフトウェア開発活動について学ぶ。さらにそれらの手順、流れを実習によって体得する。プログラミング言語としてC言語を用いて、簡単なプログラムを例として、プログラミング技法を学ぶ。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | ○ |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | ○ |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>プログラミング言語であるC言語の文法を修得すること。次にプログラミングとは何か。アルゴリズムとは何かについて、C言語を通して学習する。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|------------|---------------|-------------------|
| <p>授業内容に関して受講者が自主的にテーマを設定してレポートを作成してもらおう。対話型の授業を心がける。まず授業内容について、実習を行う前に解説します。学生自身が実習を通して積極的に授業に参加するしくみを行います。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 授業の前後を利用して下さい。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>外部試験: 情報に関する検定試験を受験すること。 学習の確認: ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入して提出すること。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 学生のための詳解C | 中村 隆一 | 東京電機大学出版局 | 978-4-501-54260-3 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 学生のためのC | 内山 章夫 他 | 東京電機大学出版局 | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>平常点(20%) 実習課題(30%) 定期試験(50%) 成績評価の基準 ①C言語の文法を理解しているか②プログラミングとは何かについて理解しているか。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|----------------------------------|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | ガイダンス、授業内容の説明、受講上の注意、プログラミングについて | |
| | 事前学習 (内容・時間) | プログラミングの概要について学習すること。テキスト1頁(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | プログラムとは何かについて理解を深めること(2時間) |
| 第2回 | プログラミング言語、C言語とは何か、C言語のスタイルについて | |
| | 事前学習 (内容・時間) | プログラムの作成手順(テキスト1頁)、構造化プログラミングについて(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 流れ図について学習する(2時間) |
| 第3回 | 文字列の出力(1)、文字列の出力(2) 演習問題 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | データの出力(テキスト4～10頁)を読んでprintf関数について学習すること(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実習問題について自宅で確認すること(2時間) |
| 第4回 | 変数と型宣言、演習問題 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト11頁、整数と実数について学習すること(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実習問題をもう一度確認すること(2時間) |
| 第5回 | 算術演算(加減乗除、剰余の計算) 演習問題 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト10～17頁を参照に目を通しておくこと(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実習問題の間違った点を確認(2時間) |
| 第6回 | 入力(1)入力(2)について 演習問題 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト13～17頁を読んで、scanf関数について学習する(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実習問題の問題点を確認すること(2時間) |
| 第7回 | 選択処理(if文)について 演習問題 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト24～33頁を読んでおくこと(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実習問題の確認(2時間) |
| 第8回 | 選択処理に関する演習問題 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 第3章選択処理に関する項目を読んでおくこと(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実習問題の問題点を確認すること(2時間) |

| | | |
|----------------|----------------------------------|--------------------------------------|
| 第9回 | くり返し処理(for文) 演習問題 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト47～50頁のfor文に関する学習(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実習問題の問題点を確認(2時間) |
| 第10回 | くり返し処理(while文) 演習問題 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト50～51頁 while文に関して事前に読んでおくこと(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実習問題の間違った点を確認(2時間) |
| 第11回 | くり返し処理(do-while文) 演習問題 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト52～53頁 do-whileに関する事前理解(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実習問題の問題点の確認(2時間) |
| 第12回 | くり返し処理に関する総合的な演習問題 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | for文、while文、do-while文について理解する事(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実習問題の問題点を確認(2時間) |
| 第13回 | 配列(1) 1次元配列について 演習問題 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 第5章 1次元配列について事前に読んでおくこと(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実習問題の問題点を確認(2時間) |
| 第14回 | 配列(2) 2次元配列について 演習問題 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト85～99頁の2次元配列について目を通しておくこと(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実習問題の間違った点をもう一度確認(2時間) |
| 第15回 | まとめ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | C言語の文法の確認(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実習問題の問題点を確認(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | プログラミング言語であるC言語の基礎的内容に関する問題を出題予定 | |

| | | | | | | |
|--|---|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
| 1AIN-6520-U2ES | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| マネージメントゲーム (教職関連科目 選 高等学校 情報) | 219～ 経営情報学科 | 2・3年生・後期 | 2単位 | 選択 | 古川 哲也 | |
| | ～218 | 2年生・後期 | | | | |
| 履修の前提条件 | 「情報リテラシー演習Ⅰ、Ⅱ」を履修済であること。「マネージメント科学」を修得済であることが望ましい。数学関連科目を受講していることが望ましい。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| 意思決定の考え方を理解し、モンテカルロシミュレーションの演習をすると共に、ゲーム理論を学習する。また、簡便なビジネスゲームを体験して、ビジネス上の意思決定をする考え方や結果をマルチメディア表現することを学習する。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | ○ |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| 乱数を使用した初歩的なシミュレーションが出来ると共に、利害が伴う相手との交渉をする場合の合理的な判断モデルを考えられるようになる。また、ビジネス上の判断の重要性を知る。 | | | | | | |

| | | | |
|---|--------------------|-------------------|---|
| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
| 学習した内容を、各自がパソコンを用いて実習する。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 連絡にはメールを用いる。 furukawa@econ.kyushu-u.ac.jp | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ & ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| ポートフォリオ「科目別履修状況チェック表」を作成し、第5回、第10回、第15回の授業時に提出する。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 必要に応じて資料を配布する。 | | | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 経営科学と情報処理 ビジネスゲームセオリー | 宮川 公男、他 御立 尚資、他 | 実教出版株式会社 日本評論社 | ISBN 4-407-02775-4 ISBN978-4-535-55557-0 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 課題とプレゼンテーションの結果(30点) + 定期試験(70点) | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|---------------------------|---|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 授業内容、授業の進め方、成績評価の仕方を説明する。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 資料を読んで、企業のマネージメントをゲームとして捉えることを理解する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 説明内容を復習し、技術用語、専門用語など不明なものは調べるなどして確認する。(2時間) |
| 第2回 | 決定理論 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 資料を読んで、決定理論の考え方を理解する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 練習問題を解き、それぞれの原理に基づく意思決定を求める。(2時間) |
| 第3回 | 待ち行列の解析的分析 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 資料を読んで、どのような手順で待ち行列を分析するのかを理解する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業で分析したデータをExcelを用いて検証する。(2時間) |
| 第4回 | モンテカルロシミュレーション | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 資料を読んで、乱数とモンテカルロシミュレーションを理解する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業で説明したExcelを用いたシミュレーションを完成する。(2時間) |
| 第5回 | モンテカルロシミュレーションの応用1 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 例題として用いるシミュレーションの内容を理解する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | サービス窓口が2つのときのシミュレーションを完成する。(2時間) |
| 第6回 | モンテカルロシミュレーションの応用2 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 例題として用いるシミュレーションの内容を理解する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 様々な状況のシミュレーションを完成し、企業の意思決定を行う。(2時間) |
| 第7回 | ゲーム理論の概要 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 資料を読んで、ビジネスをゲームとして形式化する考え方を理解する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業の内容を復習し、支配戦略とナッシュ均衡の練習問題を解く。(2時間) |
| 第8回 | ゲーム理論とその応用 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 資料を読んで、2段階ゲームと意思決定の順序がある場合を理解する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業の内容を復習し、意思決定の順序がある場合の均衡の練習問題を解く。(2時間) |

| | | |
|----------------|-------------------------------|---|
| 第9回 | ビジネスゲームとは | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 資料のビジネスゲームの概要の部分を読んでおく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ビジネスゲームで何を学習できるのかをレポートにまとめる。(2時間) |
| 第10回 | シミュレーションのための企業モデル | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 企業や市場がゲームの中でどのようなモデルで表されているかを理解する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 市場をシミュレーションするExcelのワークシートを完成する。(2時間) |
| 第11回 | モデル企業経営(練習) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 自身が所属する企業(チーム)の戦略を様々な状況をシミュレーションして考えておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 第1期、第2期の結果を分析し、各企業の戦略を評価する。(2時間) |
| 第12回 | モデル企業経営 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 練習の分析結果を基に、戦略を検討しておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 第1期、第2期の貸借対照表、在庫などから、企業(チーム)の財務状況等を把握する。(2時間) |
| 第13回 | モデル企業経営(続き) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 企業(チーム)の財務状況等、他チームの状況等から、戦略を検討しておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 最終結果を分析し、自企業(チーム)の戦略を評価する。(2時間) |
| 第14回 | マルチメディアを用いた経営結果プレゼンテーション資料の作成 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | プレゼンテーションの内容を検討しておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | プレゼンテーション資料を完成する。(2時間) |
| 第15回 | プレゼンテーションおよびビジネスゲームから知ること | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 作成した資料を点検し、プレゼンテーションの練習しておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 他の企業(チーム)のプレゼンテーションを評価し、レポートをまとめる。(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1AIN-6383-Z2ES | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| プログラミング論 | 219～ 経営情報学科 ～218 | 3・4年生・前期 | 2単位 | 選択 | 合田 和正 | |
| 履修の前提条件 | 原則として、プログラミング入門に合格していること。(編入生は別途対応) 原則として、プログラミング未経験者は受講不可。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>フローチャートや変数表を活用して第三者が作成したプログラムを理解したり、更新したりできるようにする。また、逆に第三者が理解や更新を施すのが容易なプログラムの記述方法、例えば字下げや注釈添付なども学ぶ。さらに高度なプログラムを作成し、より高品質、より高信頼のプログラム作成を目指す。高品質を実現する方法の一つとしてGUI(Graphical User Interface)を用いた、プログラム作成にも挑戦してみる。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>プログラミング入門で学習したプログラミングの基礎理論に基づいて、そしてさらにイベント駆動やオブジェクト指向といった異なるプログラミング様式にも触れながら実際に多くのプログラムを作成しつつ、プログラミング理論への理解をいっそう深める。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|------------|---------------|-------------------|
| 演習課題などを通して各自のPCで実際にプログラミングを行う。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 連絡、問い合わせ、相談などは研究室にて受け付けます。オフィスアワーの時間については掲示を確認してください。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 資料を配布します。 | | | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 昨年度以前の授業資料等を提示。 | | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 平常点として、授業への参加態度、毎回の課題、授業振り返りなどの提出状況、小テスト等、および定期試験等で総合的に判断する。 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|-------------------------|---|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 関連項目の総復習・プレースメント試験 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | プログラミング入門の内容を復習し、プレースメント試験に備える。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 不正解、不安、不明な問題について復習。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第2回 | 開発環境、文字列出力、命令文、GUI部品の基本 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | GUIとCUIについて調べる。GUI部品について調べる。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業中に終わらなかった課題を完成。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第3回 | 基本データ型と宣言文、定数、演算子 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 基本データ型について調べる。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業中に終わらなかった課題を完成。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第4回 | データ型I (整数型を中心に) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 整数型、浮動小数点数型、固定小数点数型について調べる。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業中に終わらなかった課題を完成。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第5回 | 制御文I (選択構造) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 制御文について調べる。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業中に終わらなかった課題を完成。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第6回 | データ型II (整数型以外) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 文字型、通貨型、配列について調べる。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業中に終わらなかった課題を完成。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第7回 | 制御文II (反復構造) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 繰り返し文(反復文)について調べる。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業中に終わらなかった課題を完成。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第8回 | 中間試験 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 第7回までの内容(プログラミング入門の内容を含む)を総復習して備える。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 不正解、不安、不明な問題について復習。振り返りを書く。[1.0h] |

| | | |
|----------------|------------------|--|
| 第9回 | プログラムの抽象化 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 抽象化・一般化、具体化・特殊化について調べる。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業中に終わらなかった課題を完成。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第10回 | 手続きと関数I (戻り値なし) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 手続きについて調べる。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業中に終わらなかった課題を完成。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第11回 | 手続きと関数II (戻り値あり) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 関数について調べる。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業中に終わらなかった課題を完成。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第12回 | 再帰とスタック | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 再帰、スタック、キューについて調べる。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業中に終わらなかった課題を完成。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第13回 | 応用プログラムI | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 12回までの内容をまとめる。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業中に終わらなかった課題を完成。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第14回 | 応用プログラムII | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 13回で何がよかった、足りなかったかを踏まえて準備する。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業中に終わらなかった課題を完成。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第15回 | まとめ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 14回までの内容をまとめる。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 定期試験に向けて、想定問題を作成し、解答の説明を考える。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験等 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1AIN-6384-Z2ES | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 中級プログラミング実習 (教職関連科目 選 高等学校 情報) | 219～ 経営情報学科 | 3・4年生・後期 | 2単位 | 選択 | 橋爪 善光 | |
| | ～218 | 3・4年生・前期 | | | | |
| 履修の前提条件 | 初級プログラミング実習およびプログラミング論の両方に合格していること。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>プログラムの作成仕様を満足するだけでなく、第三者にとって、理解、保守が容易なプログラムを目指す。その中で効率的なプログラミングや効果的な注釈文の書き方を体得していく。より高度なプログラミングに対応するために実習を通して配列などの複雑なデータ構造やそれらのデータを操作するための演算子への理解をさらに深める。そして、プログラムを抽象化することで見通しの良い、理解が容易なプログラムに仕上げる手法について学ぶ。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| | 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>初級プログラミング実習を基礎として、さらに高度なプログラミングに挑戦する。また、他者にも理解できるプログラミングができるようになる。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|------------|---------------|-------------------|
| <p>毎回各自のPCで、実際に手を動かしてプログラミングをしてください。また、自身が作成したプログラムについての発表もしてもらいます。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>連絡、問い合わせ、相談などは研究室(361)にて受け付けます。オフィスアワーの時間については掲示を確認してください。</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ & ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 新 わかりやすいJava 入門編 第2版 | 川場隆 | 秀和システム | 978-4-7980-5774-3 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 必要に応じて指示します。 | | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>毎回のプログラミング課題、発表への参加度合いおよび定期試験を総合的に評価する。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|------------------------|--------------------------------|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | ガイダンス、開発環境のインストール | |
| | 事前学習 (内容・時間) | シラバスを読み、PCのアップデート等がないか確認する(1h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第1章を読みながらソフトの起動をする(1h) |
| 第2回 | プログラムの書き方 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ソフトの起動の仕方の復習(1h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第2章を読みながら例題をやる(1h) |
| 第3回 | データ型、変数 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第3章、第4章を読んでおく(1h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う(1h) |
| 第4回 | 前回授業の課題の発表、演算子と演算 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第5章を読んでおく(1h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う(1h) |
| 第5回 | 前回授業の課題の発表、標準クラスのメソッド | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第6章を読んでおく(1h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う(1h) |
| 第6回 | 前回授業の課題の発表、配列とfor文 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第7章を読んでおく(1h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う(1h) |
| 第7回 | 前回授業の課題の発表、for文の使い方 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第8章を読んでおく(1h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う(1h) |
| 第8回 | 前回授業の課題の発表、条件を書くための演算子 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第9章を読んでおく(1h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う(1h) |

| | | |
|----------------|-------------------------|--------------------|
| 第9回 | 前回授業の課題の発表、while文 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第10章を読んでおく(1h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う(1h) |
| 第10回 | 前回授業の課題の発表、if文 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第11章を読んでおく(1h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う(1h) |
| 第11回 | 前回授業の課題の発表、分岐とジャンプによる制御 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第12章を読んでおく(1h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う(1h) |
| 第12回 | 前回授業の課題の発表、メソッド | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第15章を読んでおく(1h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う(1h) |
| 第13回 | 前回授業の課題の発表、オブジェクトの作成 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第16章を読んでおく(1h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う(1h) |
| 第14回 | 前回授業の課題の発表、総合演習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 課題を発表できるよう準備する(1h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題の復習を行う(1h) |
| 第15回 | 総合演習課題の発表、復習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 課題を発表できるよう準備する(1h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題の復習を行う(1h) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1AIN-5610-Z2ET | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| コンピュータグラフィックス論 (教職関連科目 必 高等学校 情報) | 219～ 経営情報学 | 3・4年生・前期 | 2単位 | 選択 | 鶴野 玲治 | |
| | ～218 | 3・4年生・前期 | | | | |
| 履修の前提条件 | テキストに従って事前学習、事後学習しておくことを推奨します。 基礎的な数学や物理学の知識、また、説明を読解するため若干の英語力が必要になります。 windowsへのソフトウェア導入と設定、基本的な操作やエラー対応などは各自で対応できるという前提で進めます。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| 三次元CG(コンピュータグラフィックス)の基礎を講義し、演習を通して体験的に学びます。CGの処理は三次元の物体や空間をコンピュータの中にどのように定義するかという「モデリング」とこれを二次元的なコンピュータ画像としてどのように表現するかという「レンダリング」に大きく分けることができます。本科目ではこの流れを概観しながら、これらを構成する技術や考え方を解説し、同時にCGソフトウェア(PovRay)を使った演習を通して体験的に学んでいきます。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | ○ |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| コンピュータグラフィックスの本質は情報科学です。コンピュータの中に人工的な空間や物体を設定し、光を計算して画像を作ります。そのために空間や被写体を実感的にとらえ、構造や配置などを論理的に考えて記述します。この一連の流れを通して知識だけでなく論理的思考力や問題解決力を身につけることが目標です。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|------------------------------|---------------|-------------------|
| 最初のうちは説明を聞いて例題を試してください。そのあとは自分なりに応用的な課題を設定し、各自で進めてください。たくさんの試行錯誤の中から問題の本質を見極めてください。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 担当教員は非常勤なので授業の時以外は学内には居ません。質問や相談は授業の時にお願いします。緊急の場合のみ、メールで受け付けます。アドレスは授業中にお伝えします。メールには必ず、所属名、授業名、氏名を記述してから問い合わせ内容を書いてください。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| インターネットからオンラインソフトウェアをダウンロードしインストールします。 これらが可能な自分専用のwindowsの入ったPCを用意してください。 学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| POV-Rayによる3次元CG制作 ーモデリングからアニメーションまでー | 鈴木広隆・倉田和夫・ 佐藤尚 | CGARTS協会 | 978-4-903474-19-9 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| コンピュータグラフィックス | コンピュータグラフィックス [改訂新版]編集委員会 | CGARTS協会 | 978-4-903474-49-6 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 毎回の授業での課題を出題し、さらに全体を通した最終課題を出題します。 最終課題をクリアしたあとで、これらに加えて平常点や理論の理解度などを考慮し、総合的に判断します。 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|--|---|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 三次元CG技法の概観。全体を構成する技術とそれによって作られる画像や映像を解説。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 一般的な事例の確認(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 紹介した技術、理論、事例の再確認(2h) |
| 第2回 | 空間座標系、モデリングとレンダリングの説明。実習ソフトウェア(povray)の説明と動作確認。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 幾何学の概念の復習、コンピュータos(windows)とソフトウェアインストール環境の確認(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | コンピュータグラフィックスの技術的視点からの考え方の復習、ソフトウェア動作確認(2h) |
| 第3回 | 空間の考え方。直交座標系の中での光源、視点、投影空間などの説明、単一のオブジェクトを描く。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 三次元空間の扱い方の復習、ソフトウェアインストールと動作確認(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ソフトウェア内での空間の扱い方の概念の復習(2h) |
| 第4回 | 空間の中でのオブジェクトの配置、シーンスクリプト(記述言語)の構成と簡単な文法を説明。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | データの入力と編集方法の予習(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | モデリング、エディティング、レンダリングの一連の動作の再確認(2h) |
| 第5回 | 反射色と発光色の概念。RGB(Red,Green,Blue)のみを使って加法混色と減法混色を表現する | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 光学系、色の表現と取扱い方法の予習(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 仮想的な色と光のモデル、発光と反射による表現実験(2h) |
| 第6回 | 座標変換。平行移動、回転移動、スケーリングの考え方と変換方法。スクリプトでの実装。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 座標変換、幾何学的変換の予習(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | アフィン変換の実験と結果の確認、オブジェクトモデリングへの適用と確認(2h) |
| 第7回 | 連続的、パラメトリックな座標変換。パラメータを使った複数オブジェクトの取り扱い方法を確認。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | モデリングとレンダリングでの定数と変数の扱い方の予習(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | パラメータ化による自動変換方法の確認(2h) |
| 第8回 | CSGモデリング。物体形状を基本立体の演算(union, difference, intersection)で表現する。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 空間内形状演算方法の予習(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 空間内形状演算の実験と結果の確認、応用モデルの試作(2h) |

| | | |
|----------------|--|--|
| 第9回 | 前半で解説、実習した内容を応用し、課題制作を行う。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 任意のオブジェクト、シーン、光源環境、動作等の構想(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 上記の表現方法、スクリプト記述方法の試行、レンダリングと結果確認(2h) |
| 第10回 | 表面模様の表現方法。マッピングの考え方を解説し、演習する。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テクスチャマッピングの概念の確認(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | スクリプトへの実装方法の復習、レンダリング結果の再確認(2h) |
| 第11回 | 材質感の表現方法。物体表面の反射モデルを説明し、石、木材、金属などの質感表現を実習する。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | マテリアル表現、反射特性の考え方の予習(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 反射モデルの分類と特性と効果の再確認(2h) |
| 第12回 | 透明で光が屈折するモデルを説明する。ガラス、水晶、水などの質感表現を実習する。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | マテリアル表現、光の透過屈折特性の考え方の予習(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 透過屈折モデルの特性とレンダリング結果の再確認(2h) |
| 第13回 | 照明モデルを説明する。平行光線、点光源、指向性光源のモデルとその効果を実習する。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ライティングの概念の予習、光源モデルの確認(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 光源モデルの与え方とスクリプトでの記述方法の復習、レンダリング結果の確認(2h) |
| 第14回 | CSG、表面反射、透明屈折、照明効果、空間文字列を加えたシーンを練習課題とする。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 具体的なシーンをイメージしそれぞれを表現する方法や記述方法を計画(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 試行錯誤を通じて具体的なシーンのレンダリングを試行する(2h) |
| 第15回 | シーン構成、データ化、レンダリング、フィードバックなど、制作の工程を想定して制作する。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 具体的なシーンを構成する個々のエレメントのデータ化を考える(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 個々の技術を考えながら全体の具体的なイメージを制作する(2h) |
| 第16回 (定期試験) | 最終課題(授業中に出题) | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1EAN-6020-22E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 中級簿記演習 I | 219～ 経営情報学科 | 2・3・4年生・前期 | 2単位 | 選択 | 宮崎 裕士 | |
| 中級簿記 I | ～218 | | | | | |
| 履修の前提条件 | 日商簿記検定3級から2級の範囲の内容理解をとおして、株式会社の経済活動に関する会計処理や簿記一巡の手続きを学びます。 履修の前提条件として ・会計学や簿記を履修していることが前提です。 ・計算問題を講義中に解きますので電卓は必ず持参してください。 ・学習効率を上げるため、後期は中級簿記演習Ⅱを履修することが望ましいです。 ・簿記一巡の流れを理解するためにもなるべく欠席をしないことが望ましいです。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| 簿記や会計の学習は、社会人になるための就職に役立つ資格試験として、また、就職活動時には、入りたい企業が継続的な企業か、将来性はあるかということ判断する材料として、さらに社会人になった後にも、日常に溢れる会計情報を自分で判断するための手段として、これからの長い人生を生きていく上で必ず役に立つスキルです。このスキルを身に付けているか否かを他者に示すための資格が簿記検定ですので、人生を豊かにするためにも検定試験の合格を目指していきます。また、簿記検定試験の学習を通じて、日常の取引と仕訳の関係についても学習していきます。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| 本講義では日本商工会議所検定2級の商業簿記の内容を中心に簿記の技術や理論を学び、株式会社の経済活動を記録、計算、整理、集計したものを活用して、財務諸表を作成することができることを目標とします。 | | | | | | |

| | | | |
|---|------------|---------------|-------------------|
| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
| 課題の問題については積極的に発表を求めます。また、グループワークを課しますので、グループ内やグループ間での相互理解を高めてください。また、講義中は講義内容の理解度をチェックしていきます。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| ・講義に関する質問、相談等は、講義終了後の教室又は研究室にて随時受け付けます。 ・オフィスアワー時間帯に受け付けます。オフィスアワーの時間帯以外でも必要に応じて対応します。 ＊ 研究室にお越しの際は、事前にメールなどでご相談ください。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入して、前期定期試験日までにメールで提出してください。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 日商簿記2級商業簿記テキスト | 資格の大原 簿記講座 | 大原出版 | 978-4-86486-337-7 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 日商簿記2級商業簿記問題集 | 資格の大原 簿記講座 | 大原出版 | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 成績評価の方法:定期試験(50%),平常点(30%),課題への取組み(20%)。 平常点は毎回の課題提出や講義への参加状況、簿記コンテスト等への参加状況等で判断します。 成績評価の基準:①取引の仕訳ができるか。②財務諸表等の作成ができるか。 日商簿記検定3級および2級の合格と簿記コンテストへの参加は成績評価の対象とします。(平常点の中に入れます) | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|--|-------------------------------|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | オリエンテーション(講義の進め方, 講義内容, 受講上の諸注意, 評価方法等を確認する。)中級簿記をとおして, 簿記に対する興味関心を持ち, 学習習慣の定着と将来に向かって時間管理や挨拶の励行等を身につける。簿記一巡の手続き, 現金及び預金, 銀行勘定調整表の作成について説明します。(P2~17)問題集(P1~6) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解説を復習する (2.0h) |
| 第2回 | 銀行勘定調整表の作成(銀行残高証明書残高と当座預金勘定残高の不一致を正す)について説明します。不一致の原因である, 時間外預け入れ, 入出金の未通知, 未取付小切手, 未渡小切手, 未取立小切手の会計処理について学習します。(P11~17)問題集(P1~6) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解説を復習する (2.0h) |
| 第3回 | 債権・債務の関係の勘定科目と, クレジット取引の会計処理, 手形取引(手形の裏書譲渡, 手形の割引及び手形更改の会計処理, 手形の不渡, 営業外受取手形, 営業外支払手形, 電子記録債権, 電子記録債務, その他の債権譲渡についての会計処理について説明します。(P20~26)問題集(P7~10) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解説を復習する (2.0h) |
| 第4回 | 債権・債務の関係の勘定科目と, クレジット取引の会計処理, 手形取引(手形の裏書譲渡, 手形の割引及び手形更改の会計処理, 手形の不渡, 営業外受取手形, 営業外支払手形, 電子記録債権, 電子記録債務, その他の債権譲渡についての会計処理について説明します。(P20~26)問題集(P7~10) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解説を復習する (2.0h) |
| 第5回 | 3分法による記帳と売上原価の計算, 棚卸減耗費と商品評価損, 仕入及び売上の割引・割り戻しの会計処理と, 商品有高帳の記入方法について説明します。(P30~37)問題集(P11~23) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解説を復習する (2.0h) |
| 第6回 | 3分法による記帳と売上原価の計算, 棚卸減耗費と商品評価損, 仕入及び売上の割引・割り戻しの会計処理と, 商品有高帳の記入方法について説明します。(P30~37)問題集(P11~23) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解説を復習する (2.0h) |
| 第7回 | 3分法による記帳と売上原価の計算, 棚卸減耗費と商品評価損, 仕入及び売上の割引・割り戻しの会計処理と, 商品有高帳の記入方法について説明します。(P30~37)問題集(P11~23) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解説を復習する (2.0h) |
| 第8回 | 有価証券で分類される売買目的有価証券, 満期保有有価証券, 子会社株式及び関連会社株式, その他有価証券の会計処理について問題集及びプリントを配布し説明します。(P44~56)問題集(P24~35) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解説を復習する (2.0h) |

| | | |
|----------------|---|-------------------------------|
| 第9回 | 有価証券で分類される売買目的有価証券, 満期保有有価証券, 子会社株式及び関連会社株式, その他有価証券の会計処理について問題集及びプリントを配布し説明します。(P44~56)問題集(P24~35) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解説を復習する (2.0h) |
| 第10回 | 有価証券で分類される売買目的有価証券, 満期保有有価証券, 子会社株式及び関連会社株式, その他有価証券の会計処理方法について教科書及びプリントを配布し説明します。(P44~56)問題集(P24~35) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解説を復習する (2.0h) |
| 第11回 | 有形固定資産の説明, 有形固定資産の取得, 減価償却の方法(直接法・間接法), 建設仮勘定, 左記の項目の精算表への記入, 有形固定資産の割賦購入, 有形固定資産の修繕費及び改良費の会計処理方法について, 教科書及びプリントを配布し説明します。(P58~63)問題集(P36~38) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解説を復習する (2.0h) |
| 第12回 | 有形固定資産の説明, 有形固定資産の取得, 減価償却の方法(直接法・間接法), 建設仮勘定, 左記の項目の精算表への記入, 有形固定資産の割賦購入, 有形固定資産の修繕費及び改良費の会計処理方法について, 教科書及びプリントを配布し説明します。(P58~63)問題集(P36~38) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解説を復習する (2.0h) |
| 第13回 | 減価償却の計算方法, 定額法, 定率法, 生産高比例法, 法人税法上の減価償却(定額法・定率法(200%償却法))について, 教科書及びプリントを配布して説明します。(P63~68)問題集(P38~39) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解説を復習する (2.0h) |
| 第14回 | 圧縮記帳, 有形固定資産の売却, 買換え, 除却, 減失等について, 教科書及び配布プリント, 問題集で説明します。(P68~78)問題集(P40~45) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解説を復習する (2.0h) |
| 第15回 | 圧縮記帳, 有形固定資産の売却, 買換え, 除却, 減失等について, 教科書及び配布プリント, 問題集で説明します。(P68~78)問題集(P40~45) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解説を復習する (2.0h) |
| 第16回 (定期試験) | 商業簿記の決算問題, 精算表・仕訳の問題中心に理解確認をします。 持ち込み可能なもの ①電卓のみです。 | |

| | | | | | | |
|---|---|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
| 1EAN-6030-22E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 中級簿記演習Ⅱ | 219～ 経営情報学科 | 2年生・後期 | 2単位 | 選択 | 宮崎 裕士 | |
| 中級簿記Ⅱ | ～218 | | | | | |
| 履修の前提条件 | 日商簿記検定3級から2級の範囲の内容理解をとおり、株式会社の経済活動に関する会計処理や簿記一巡の手続きを学びます。履修の前提条件として ・「中級簿記演習Ⅰ」を履修し単位を取得していることが望ましいです。 ・Iパス・簿記コンテンツに全員参加してください。 ・日商簿記検定試験(2級または3級)を受験してください。 ・計算問題を講義中に解きますので電卓は必ず持参してください。 ・簿記一巡の流れを理解するためにもなるべく欠席をしないことが望ましいです。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| 本講義では、日本商工会議所主催の「簿記検定試験2級(商業簿記)」の内容を学習していきます。すでに前期で学習した「中級簿記演習Ⅰ」の内容をふまえて、さらに高度な取引とその仕訳、さらには記帳方法及び財務諸表の作成などについて体系的に学習していきます。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| 本講義では中級簿記演習Ⅰに引き続き、日本商工会議所検定2級の商業簿記の内容を中心に簿記の技術や理論を学び、株式会社の経済活動を記録、計算、整理し、集計したものを活用して財務諸表が作成できることを目標とします。 | | | | | | |

| | | | |
|---|------------|---------------|-------------------|
| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
| 課題の問題については積極的に発表を求めます。また、グループワークを課しますので、グループ内やグループ間での相互理解を高めてください。また、講義中は講義内容の理解度をチェックしていきます。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| ・講義に関する質問、相談等は、講義終了後の教室又は研究室にて随時受け付けます。 ・オフィスアワー時間帯に受け付けます。オフィスアワーの時間帯以外でも必要に応じて対応します。 * 研究室にお越しの際は、事前にメールなどでご相談ください。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入して、後期定期試験日までにメールで提出してください。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 大原合格作戦シリーズ 日商簿記2級商業簿記テキスト&問題集 | 大原簿記専門学校監修 | 大原出版 | 978-4-86486-612-5 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 適宜講義中にレジュメを配布する | | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 1.定期試験(60%)、2.小テスト(10%)、3.学修課題の提出(10%)、4.授業への取り組み(10%)、5.Iパス・簿記コンテストへの参加(10%) | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|--|-------------------------------|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | オリエンテーション(講義の内容、進め方など)、固定資産(有形固定資産)の取得 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解説を復習する (2.0h) |
| 第2回 | 減価償却の記帳方法/建設仮勘定法 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解説を復習する (2.0h) |
| 第3回 | 有形固定資産の割賦購入/修繕費および改良費 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解説を復習する (2.0h) |
| 第4回 | 法人税法上の減価償却/圧縮記帳 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解説を復習する (2.0h) |
| 第5回 | 保証債務/保証債務の会計処理/差し入れ保証金/引当金/貸倒引当金 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解説を復習する (2.0h) |
| 第6回 | 貸倒見積高の算定/貸倒発生時の会計処理/商品(製品)保証引当金 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解説を復習する (2.0h) |
| 第7回 | 賞与引当金/退職給付引当金 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解説を復習する (2.0h) |
| 第8回 | 売上割戻引当金/返品調整引当金/修繕引当金 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解説を復習する (2.0h) |

| | | |
|----------------|-----------------------------|-------------------------------|
| 第9回 | 収益および費用/研究開発費/その他の費用 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解説を復習する (2.0h) |
| 第10回 | 外貨建取引/為替予約 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解説を復習する (2.0h) |
| 第11回 | 企業結合/消費税/法人税等 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解説を復習する (2.0h) |
| 第12回 | 税効果会計/決算整理/帳簿決算手続き | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第13回 | 財務諸表/連結会計/支配獲得日の連結手続き | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解説を復習する (2.0h) |
| 第14回 | 支配獲得後の連結手続き/連結会社相互間取引の相殺消去等 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解説を復習する (2.0h) |
| 第15回 | 未実現利損益の消去/連結株主資本等変動計算書 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解説を復習する (2.0h) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験の実施 (まとめと振り返りを行う。) | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|---|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1EAN-5480-22E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 原価計算論 I | 219～ 経営情報学科 | 2年生・前期 | 2単位 | 選択 | 鈴木 和也 | |
| 原価計算論 | ～218 | 3・4年生・前期 | | | | |
| 履修の前提条件 | 1.中級簿記演習 I を履修し単位を取得していること。2.履修者全員が日商簿記検定試験(2級または3級)を受験すること。3.履修者全員がIパス・簿記コンテストに参加すること。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| この講義は、日本商工会議所主催の「簿記検定2級」の内容を学習する。日商簿記検定2級の内容は、「商業簿記」と「工業簿記」から構成されるが、本講義では「工業簿記」及び「原価計算」について学習をする。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| 原価計算、工業簿記の基本的項目を体系的に整理し学習し、工企業の記録、計算、整理、集計したものを活用して、財務諸表が作成できるようになる。また日本商工会議所主催「簿記検定試験2級」に合格できる能力を養う。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|-------------|---------------|-------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・対話型の授業を心がけるので、質問など積極的な取組みを期待します。 ・授業内で実施する小テストを活用し、授業内容の理解を深めるとともに授業への積極的な参加を促します。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 質問、相談等は研究室(553)にて受けつける。尚、オフィスアワーも積極的にご活用ください。(オフィスアワー以外で研究室にお越しの際は事前にメールなどでアポイントメントをお取りください) | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| kiis学修ポートフォリオ・ルーブリックの活用を図り、学修状況の把握や学生自身による自己評価、教員の評価など、双方向でのやり取りを通して講義内容の理解度や定着状況の把握を行う。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 大原合格作戦シリーズ 日商簿記2級工業簿記テキスト&問題集 | 大原簿記専門学校監修 | 大原出版 | 978-4-86486-613-2 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 合格トレーニング日商簿記2級工業簿記Ver.8.0 | TAC簿記検定講座編著 | TAC出版 | 978-4-81326-160-5 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 1.定期試験(80%)、2.小テスト(5%)、3.学修課題の提出(5%)、4.授業への取組み(5%)、5.Iパス・簿記コンテストへの参加(5%) | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|---|--------------------------|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | オリエンテーション(講義の内容・進め方など)、工業簿記と原価計算／原価 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第2回 | 工業簿記の記帳体系／材料費会計／材料の購入原価の計算と記帳／材料費の計算と記帳 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第3回 | 労務費会計／賃金給料の支払額の計算と記帳／賃金給料の消費額の計算と記帳 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第4回 | 経費会計／経費の計算と記帳 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第5回 | 製造間接費の実際発生額／製造間接費の配賦額の計算と記帳 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第6回 | 製造間接費差異の原因別分析 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第7回 | 部門別計算／部門別計算の記帳体系／製造間接費実際発生額の部門別集計 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第8回 | 製造部門別の製造間接費予定配賦 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |

| | | |
|----------------|---|--------------------------|
| 第9回 | 工場会計／工場会計の独立／工場会計の独立の利点／工場会計を独立させた場合の記帳 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第10回 | 単純総合原価計算／単純総合原価計算における仕損 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第11回 | 工企業の財務諸表／財務諸表／損益計算書と製造原価報告書 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第12回 | 貸借対照表／工業簿記の基礎・記帳体系の要点整理／材料費会計の要点整理 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第13回 | 労務費・経費会計の要点整理／製造間接費会計の要点整理／部門別計算の要点整理 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第14回 | 工場会計独立の要点整理／単純個別原価計算の要点整理 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第15回 | 財務諸表作成の要点整理 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験の実施 (まとめと振り返りを行う。) | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1EAN-5490-22E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 原価計算論Ⅱ | 219～ 経営情報学科 | 2学年・後期 | 2単位 | 選択 | 鈴木 和也 | |
| 履修の前提条件 | 「中級簿記演習Ⅱ」「原価計算論Ⅰ」を履修し単位を取得していること。Iパス・簿記コンテストに全員参加すること。日商簿記検定試験2級を受験すること。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>この講義は、日本商工会議所主催の「簿記検定2級」の内容を学習する。前期に学習した「原価計算論Ⅰ」の内容をふまえて、さらに発展した「総合原価計算」「標準原価計算」「直接原価計算」と「原価・営業量・利益関係の分析」について学習する。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>原価計算、工業簿記の基本的項目を体系的に整理し学習し、工企業の記録、計算、整理、集計したものを活用して、さらに発展した内容が理解できるようにする。また日本商工会議所主催「簿記検定試験2級」に合格できる能力を養う。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|-------------|---------------|-------------------|
| <p>・対話型の授業を心がけるので、質問など積極的な取組みを期待します。 ・授業内で実施する小テストを活用し、授業内容の理解を深めるとともに授業への積極的な参加を促します。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>質問、相談等は研究室(553)にて受けつける。尚、オフィスアワーも積極的にご活用ください。(オフィスアワー以外で研究室にお越しの際は事前にメールなどでアポイントメントをお取りください。)</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>kiis学修ポートフォリオ・ルーブリックの活用を図り、学修状況の把握や学生自身による自己評価、教員の評価など、双方向でのやり取りを通して講義内容の理解度や定着状況の把握を行う。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 大原合格作戦シリーズ 日商簿記2級工業簿記テキスト&問題集 | 大原簿記専門学校監修 | 大原出版 | 978-4-86486-613-2 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 合格トレーニング日商簿記2級工業簿記Ver.8.0 | TAC簿記検定講座編著 | TAC出版 | 978-4-81326-160-5 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>1.定期試験(80%)、2.小テスト(5%)、3.学修課題の提出(5%)、4.授業への取組み(5%)、5.Iパス・簿記コンテストへの参加(5%)</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|---|--------------------------|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | オリエンテーション(講義の内容、進め方など)、工業簿記の記帳体系(総合原価計算) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第2回 | 総合原価計算の手続き／総合原価計算の記帳体系 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第3回 | 単純総合原価計算／完成品総合原価と完成品単位原価の計算 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第4回 | 月末仕掛品原価の計算／月末仕掛品の評価方法／平均法による月末仕掛品原価の計算 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第5回 | 先入先出法による月末仕掛品原価の計算／材料の投入形態 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第6回 | 工程別総合原価計算／工程別単純総合原価計算／工程別計算の方法／工程別計算の記帳体系 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第7回 | 工程別月末仕掛品原価の計算／組別総合原価計算／組別総合原価計算の手続き | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第8回 | 組間接費の配賦／等級別総合原価計算／等級係数／等級別総合原価計算の方法 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |

| | | |
|----------------|--|--------------------------|
| 第9回 | 減損および仕損／正常減損および正常仕損／正常減損費の処理 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第10回 | 正常減損が発生する場合の月末仕掛品原価の計算 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第11回 | 正常仕損が発生する場合の月末仕掛品原価の計算 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第12回 | 標準原価計算／標準原価計算の手続き／原価標準の設定／完成品原価および月末仕掛品原価の計算 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第13回 | 原価差異の計算／仕掛品勘定の記帳方法／直接材料費差異および直接労務費差異の原因分析 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第14回 | 製造間接費差異の原因分析／短期利益計画／損益分岐分析／原価分析 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第15回 | 直接原価計算／固定費調整 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験の実施 (まとめと振り返りを行う。) | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1EAN-5620-22E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 財務会計論 | 219～ 経営情報学科 | 2年生・前期 | 2単位 | 選択 | 津守 常弘 | |
| 財務会計論 I | ～218 | | | | | |
| 履修の前提条件 | 「簿記Ⅰ・Ⅱ」「会計学入門」「会計学総論」など会計学の初歩的な知識を習得していることが望ましい | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>「財務会計論」では、初歩的な簿記の知識を前提として、財務会計の必要性や基礎的な用語を学び、「企業会計原則」と「国際財務報告基準」、「収益・費用中心観」と「資産・負債中心観」とへの理論・制度の両極分化について初歩的に学ぶことから出発し、まず、「企業会計原則」に即した財務会計の理論的・制度的構造を、資産、負債、資本、損益の各分野にわたって詳しく学習し、最後に、「国際財務報告基準」の内容とそれが財務諸表に及ぼす主要な影響・論点について、金融構造の変化との関連を明らかにしながら学習します。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | ○ |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>今日、実体経済に比べ金融経済が益々優位を占めるようになってきているため、財務会計に関する知識はだれもが身につけていなければならない常識になっています。このような社会的要請に応えるため、「財務会計論」では、財務諸表の読み取り方の基礎をしっかりと身につけることを目標としています。「財務会計論」では、まず、「企業会計原則」的な立場で資産・負債・資本・損益に関する問題について学習し、最後に、「企業会計原則」と「国際財務報告基準」、、「収益費用中心観」と「資産負債中心観」への制度・理論の両極分化とその主要問題について学習します。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|------------|---------------|-------------------|
| 講義内容および講義資料の性質に応じて、可能な限り、対話的な授業を行います。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 学習上の質問、相談については、講義終了後、教室または研究室で受け付けます。オフィスアワー：水曜日4時限目に研究室。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 毎時間、講義資料を配布します。 | | | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 必要に応じて指示します。 | | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| (1)学期末試験を行う。(2)必要に応じて中間試験を行う。 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|--|-------------------------------------|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 現代社会では財務会計の知識が何故とくに必要なのかについて考えます。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 簿記、会計について今まで学習してきた知識を整理しておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義資料・講義内容の重点について復習すること。(2時間) |
| 第2回 | 企業会計の計算的構造について詳しく理論的に学習します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布している講義資料について学習すること。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 今回の講義資料を参考にして復習すること。(2時間) |
| 第3回 | 企業会計の制度的構造とその必要性について理論的に詳しく学習します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布している講義資料について学習すること。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 今回の講義資料を参考にして復習すること。(2時間) |
| 第4回 | 資産会計論(1): 資産の意味と分類、評価基準について学習します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布している講義資料について学習すること。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 今回の講義資料を参考にして復習すること。(2時間) |
| 第5回 | 資産会計論(2): 金銭的債権・有価証券・棚卸資産の会計について学習します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布している講義資料について学習すること。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 今回の講義資料を参考にして復習すること。(2時間) |
| 第6回 | 資産会計論(3): 有形固定資産会計について学習します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布している講義資料について学習すること。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 今回の講義資料を参考にして復習すること。(2時間) |
| 第7回 | 資産会計論(4): 無形固定資産会計、繰延資産会計について学習します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布している講義資料について学習すること。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 今回の講義資料を参考にして復習すること。(2時間) |
| 第8回 | 負債会計論(1): 負債の意味と分類、負債の会計、引当金会計について学習します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布している講義資料について学習すること。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 今回の講義資料を参考にして復習すること。(2時間) |

| | | |
|----------------|--|-------------------------------|
| 第9回 | 負債会計論(1): リース会計について学習します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布している講義資料について学習すること。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 今回の講義資料を参考にして復習すること。(2時間) |
| 第10回 | 資本会計論(1): 資本の意義と分類、資本剰余金会計について学習します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布している講義資料について学習すること。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 今回の講義資料を参考にして復習すること。(2時間) |
| 第11回 | 資本会計論(2): 資本会計の法制度的背景、資本金概念について学習します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布している講義資料について学習すること。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 今回の講義資料を参考にして復習すること。(2時間) |
| 第12回 | 損益会計論(1): 損益会計の意義と重要性について学習します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布している講義資料について学習すること。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 今回の講義資料を参考にして復習すること。(2時間) |
| 第13回 | 損益会計論(2): 損益会計の諸原則について学習します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布している講義資料について学習すること。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 今回の講義資料を参考にして復習すること。(2時間) |
| 第14回 | 「国際財務報告基準」論(1): 「国際財務報告基準」の内容と特徴について学習します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布している講義資料について学習すること。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 今回の講義資料を参考にして復習すること。(2時間) |
| 第15回 | 「国際財務報告基準」論(2): 会計基準の両極分化と「国際財務報告基準」の問題点について学習しま | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布している講義資料について学習すること。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 今回の講義資料を参考にして復習すること。(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 学期末試験 | |

| | | | | | | |
|---|---|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
| 1EAN-5630-22E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 財務管理 | 219～ 経営情報学科 | 2年生 後期 | 2単位 | 選択 | 堀 治彦 | |
| 履修の前提条件 | <p>・経営学入門・総論、会計学入門・総論の履修しておくことが望ましい</p> <p>・特に企業の「投資」、「資金調達」、「配当」などに関心を持つと、講義内容について、より深い理解が得られるため、日頃から経済ニュースにふれておくこと。</p> | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>企業が株主や社債権者などから高い評価を得るためには、企業の活動を通じてより多くの利益やキャッシュを得ることが重要です。そのために必要な知識のひとつとして、投資決定や資金調達、配当などを取り扱う財務管理という分野があります。</p> <p>本講義は、経営において重要な役割を担う、企業(とりわけ公開会社)の財務管理に関する基礎的な認識と、若干応用の範囲で、各項目について授業を行います。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | ○ |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| | 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>本講義では下記の到達目標を設定しています。</p> <p>・財務管理論特有の専門用語、計算規定など、講義を通じて学んだ項目について基礎的な理解・認識を修得すること。</p> <p>・財務管理を行う立場(経営層や財務部門スタッフ)でのイメージを掴めるようにすること。</p> | | | | | | |

| | | | |
|---|-------------------|---------------|-------------------|
| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
| <p>・対話型の授業を心がけるので、質問など積極的な取組みを期待します。</p> <p>・授業内で適宜実施する小テスト・レポートを活用し、授業内容の理解を深めるとともに授業への積極的な参加を促します。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>・講義に関する質問、相談等は、講義終了後の教室又は研究室にて随時受け付けます。</p> <p>・オフィスアワー時間帯は●曜日●●時～、研究室(●●●)で受け付けます。オフィスアワーの時間帯以外でも必要に応じて対応します。</p> <p>* 研究室にお越しの際は、事前にメール(●●●@kuis.ac.jp)などでご相談ください。</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>テキスト以外に必要なに応じてレジュメを配布します。その場合には、各自保管をしておいてください。</p> <p>学習の確認として、ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 『図解コーポレートファイナンス[新訂2版]』 | 森 直哉 | 創成社 | 978-4794425379 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| ①『現代企業の財務戦略』 | ①丑山 優 ほか | | |
| ②『コーポレート・ファイナンス 第10版上』 | ②リチャード・A・ブリーリー ほか | ①ミネルヴァ書房 | ①978-4623038954 |
| ③『コーポレート・ファイナンス 第10版下』 | ③リチャード・A・ブリーリー ほか | ②日経BP | ②978-4822248604 |
| | | ③日経BP | ③978-4822248611 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>1.定期試験(80%)</p> <p>2.平常点20%</p> <p>* 平常点の内訳: 小テスト(10%)、授業への取組み(10%)</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|--------------------------------------|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | オリエンテーション(授業の内容と進め方)、ファイナンスの概論について | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 企業の「投資」、「資金調達」、「配当」についてメディアを使用し調べ、講義の全体像をイメージしてみましょう。また、学習予定範囲(テキスト第1章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第2回 | 投資プロジェクトの幾つかの評価方法ーバリュエーション | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第2章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第3回 | 様々な投資プロジェクトの特徴と、最適な方法ーポートフォリオ理論とCAPM | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第3章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第4回 | エクイティ・ファイナンスとは？ー証券の価格 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第4章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第5回 | 投資プロジェクト(1) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第5章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第6回 | 投資プロジェクト(2) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第6章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第7回 | 株式発行 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第7章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第8回 | 資本コストと財務レバレッジ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第8章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところを中心に復習をしてみましょう(2時間) |

| | | |
|----------------|---------------------------------|---|
| 第9回 | 資本構成(1)期待キャッシュフローの計算 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第9章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第10回 | 資本構成(2)資本構成と資金調達の関係 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第10章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第11回 | 資本構成(3)負債の節税効果、株式と負債のエージェンシーコスト | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第11章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第12回 | 配当政策(1)配当政策と、投資政策の違い | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第12章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第13回 | 配当政策(2)株価の変化と株主の富の関係 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第13章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第14回 | 自社株買いー自社株の意味と役割 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第14章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第15回 | 短期ファイナンス/これまでの講義のまとめ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲(テキスト第15章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | これまでの講義の振り返りを行い、定期試験に向け、わからなかったところを中心に復習をしましょう(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1EAN-5230-Z2E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 会社法 | 219～ 経営情報学科 ～218 | 2年生・前期 | 2単位 | 選択 | 吉野 正 | |
| 履修の前提条件 | 「法学」を履修していることが望ましいです。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>会社の法的な仕組みを学んでいきます。まず、会社の法的な性質を理解できるようになった上で、会社の種類ごとの法的な性質の違いを学びます。その後、株式会社の4つの類型を学んで、株式会社の各機関(株主総会、取締役、取締役会、代表取締役、委員会等)の機能を理解できるよう授業を進めます。最後に取締役にどのような責任が課せられているかを学んでいきます。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>株式会社、持分会社についての法的な知識を修得して、ビジネス社会で必要とされる汎用的技能を身に付けます。具体的には、株式会社、持分会社の法的な知識を修得して、ニュース、新聞等の経済報道をより正確に理解できるようになることを目指します。更に株式会社の各機関の役割について知識を身に付け、役員(主に取締役)の法的な責任を深く理解することで、ビジネス社会において法的なリスクを回避できる汎用的技能の修得を目指します。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|------------------|---------------|------------------------------------|
| 株式会社について自主的にテーマを設定して、レポートを作成してもらいます。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 金曜・2時限の授業後に連絡、質問、相談等を受け付けます。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>学習の確認: 授業の最初に前回の内容について質問を行いますので、積極的な発言を期待します。 ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出すること。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 現代商法入門(第10版) デイリー六法 | 近藤光男編 大石 眞 編集 | 有斐閣 三省堂 | 9784641221208 978-4-385-15963-8 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 会社法判例百選(第3版) | 岩原紳作、神作裕之、他編 | 有斐閣 | 9.78464E+12 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>成績評価方法: 定期試験95% 平常点(レポートの提出状況等)5%。成績評価の基準: ①会社の特徴について理解をしているか。②株式会社、合名会社、合資会社、合同会社のそれぞれの性質の違いを理解しているか。③株式会社のうち取締役会を設置することで機関の権限にどのような違いが出てくるかを理解しているか。④株式会社の指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社を理解しているか。⑤取締役にどのような責任が課せられているか説明できること。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|-----------------|------------------------------|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 会社法とは | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 民法、商法、会社法、刑法の違いを事前に学ぶ(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートの復習(2時間) |
| 第2回 | 会社の法的意義 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 法人と自然人の違いを教科書で読んでおく(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートの復習(2時間) |
| 第3回 | 持分会社 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 持分会社の種類を教科書で読んでおく(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートの復習(2時間) |
| 第4回 | 持分会社の責任 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 持分会社と社員の責任を教科書で読んでおく(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートの復習(2時間) |
| 第5回 | 株式会社と持分会社の比較 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 株式会社の株主のことを教科書で読んでおく(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートの復習(2時間) |
| 第6回 | 株式会社の類型(1) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 取締役会設置会社のことを教科書で読んでおく(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートの復習(2時間) |
| 第7回 | 株式会社の類型(2) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 委員会設置会社の意味を教科書で読んでおく(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートの復習(2時間) |
| 第8回 | 株式会社の役員、機関 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 株式会社の機関の種類について教科書で読んでおく(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートの復習(2時間) |

| | | |
|----------------|--------------------|--------------------------------|
| 第9回 | 公開会社と非公開会社 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 株式譲渡の可否について教科書で読んでおく(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートの復習(2時間) |
| 第10回 | 取締役の責任(1) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 取締役の会社に対する義務について教科書で読んでおく(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートの復習(2時間) |
| 第11回 | 取締役の責任(2) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 経営判断の意味を教科書で読んでおく(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートの復習(2時間) |
| 第12回 | 取締役の責任(3) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 株主代表訴訟について教科書で読んでおく(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートの復習(2時間) |
| 第13回 | 監査役、会社参与及び会計監査人の責任 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 監査役の役割について教科書で読んでおく(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートの復習(2時間) |
| 第14回 | 株式の譲渡 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 株式譲渡の方法について教科書で読んでおく(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートの復習(2時間) |
| 第15回 | まとめ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 会社と従業員の関係について教科書で読んでおく(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートの復習(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1EAN-5240-22E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 監査論 | 219～ 経営情報学科 | 2年生・後期 | 2単位 | 選択 | 春日 克則 | |
| | ～218 経営情報学科 | 3・4年生・後期 | | | | |
| 履修の前提条件 | 簿記や会計学の基本的な知識を習得していることが望ましいが、企業の監査(スポ | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>スポーツでいえば、プレーヤー同士の行為を第三者、つまり審判に判断してもらわないと試合がスムーズに進まない。同じように、会社に資金を提供している人々と、資金を預かって活動している会社との間には利害関係があるため、両者の間に対立が生じた場合、公正な審判が必要となる。この審判の役目を果たす人はいろいろいるが(例えば、裁判官)、会社が公表する財務諸表の信頼性について判断し、私たちが安心して財務諸表を利用することができるように考え出されたシステムが監査である。講義では、このようなシステムがどのような仕組みと機能を持って運営されているかについて勉強していく。なお、皆さんに親近感を持ってもらうために、実際にあった不正事件にふれながら具体的に学んでいく。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| | 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>講義では、監査の必要性を学んだ上で、実際の手順、すなわち、実施のための準備、計画、実行、そして結果の報告を行うために必要な基礎的な理解を得ることを目標としている。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|------------|---------------|-------------------|
| <p>授業では、毎回、事例や練習問題に取り組む時間を設けている。そこで、当該時間において、双方向で課題に対する見解を昇華させて行きたい。なお、授業の最後には成果を提出してもらい、翌週添削して返却する。成果を提出する際には、授業中に解決できなかった疑問なども記入する。返却されたペーパーには、私のコメントが書いてあるので互いわかり合えるまで、キャッチボールを行いたい。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>連絡、問い合わせ、相談等は研究室(455研究室)にて随時受け付けている。</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>外部試験: 公認会計士試験の監査論と授業内容が関連している。 学習の確認: ポートフォリオシートの作成に関しては講義中に適宜指示する。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 『監査論入門[第4版]』 | 長吉眞一、伊藤龍峰他 | 中央経済社 | 978-4-502-32251-8 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 必要に応じて指示します。 | | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>定期試験60%、毎回の課題提出40%として評価する。講義の理解を深めるために、各回ごとに課題の提出、添削、返却がなされるが、この課題への取り組みは疑問点に関する質問・回答というコミュニケーションツールとして皆さんの理解の手助けとなる。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|--------------------------------|------------------------------------|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | オリエンテーションー自己証明は証明にあらずー大日本製糖事件ー | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書「はじめに」と「目次」を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第2回 | 財務諸表監査の社会的役割と公認会計士ー山陽特殊鋼事件ー | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書「第1章」を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第3回 | 監査の必要性と法定監査制度 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書「第1章」を復習しておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第4回 | 監査全体の流れー東北文化学園大事件ー | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書「第2章」を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第5回 | 監査基準ー大光相互銀行事件ー | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書「第3章」を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第6回 | リスク・アプローチ監査 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書「第4章」を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第7回 | 内部統制 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書「第5章」を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第8回 | 中間テスト(これまで学習した項目の理解度テスト)とその解説 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 第1回から前回までの総復習を行うこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 中間テストの問題について振り返りの学習を行う。(2時間) |

| | | |
|----------------|-------------------------------------|---------------------------------------|
| 第9回 | 監査上の主要な検討事項(KAMーKey Audit Mattersー) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 指定した企業の経営上の問題点について予習しておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された中間テストと授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第10回 | EDINETによる監査報告書の検索と検討 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | EDINETの検索方法について、配付資料により予習しておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第11回 | 監査の実施ー東芝事件ー | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書「第7章」を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第12回 | 監査計画ーオリンパス事件ー | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書「第6章」を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第13回 | 監査結果の報告 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書「第8章」を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第14回 | パブリック・アカウンタビリティ(公的説明責任) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書「第12章」を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第15回 | まとめ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 第9回から前回までの総復習を行うこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| コンピュータ会計 | 219～ 経営情報学科 | 2年生・前期 | 2単位 | 選択 | 岩下 昌美 | |
| コンピュータ会計 I | ～218 経営情報学科 | 3・4年生・前期 | | | | |
| 履修の前提条件 | ソフトのライセンス数により受講制限を行います。メール(masami-i@g.kiis.ac.jp)にて「受講希望 学籍番号と氏名」と送信してください。メールの先着順により受講者を決定します。また、操作に関する知識と複式簿記に関する基礎知識が必須。大学内のネットワークにログインできること。必ずテキストを購入すること。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>実社会の企業においては、会計処理(帳簿記録)もコンピュータを利用し会計ソフト(システム)で行われている場合がほとんどです。そこで、業界トップシェアの会計ソフトである「弥生会計」を用いて、会計ソフトのしくみ、メニュー構成、基本操作、各種帳票類の出力方法などを学習します。</p> <p>さらには経理担当者として必要な給料計算および税務の知識などもあわせて学習しますので、税理士事務所などでインターンシップの際に役立つ内容です。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| | 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>会計ソフトのしくみ、メニュー構成、基本操作、各種帳票類の出力、特殊機能、会計情報の活用方法について学習し、企業における会計ソフトの導入から財務諸表の作成ができる能力を身につけます。会計ソフトに関連する検定試験(電子会計実務 3級, 2級 弥生会計 2級)の取得も可能となります。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|------------|---------------|-------------------|
| <p>企業が現実に行っている会計処理などについて、各自が毎回実習を積み重ねていきますので、遅刻欠席のないようにお願いします。授業は対話型を心がけて進めていきます。不明な点や疑問などが生じた時は積極的に発言してください。毎回の授業終了時には成果物の提出をお願いします。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>質問などは、授業の前後またはオフィスアワーを利用してください。</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>会計ソフトを使用した検定試験(日本商工会議所主催電子会計実務)を推奨します。学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入して前期定期試験日に岩下までメールで提出してください。</p> | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 『令和3年度コンピュータ会計「基本」テキスト』 | 弥生スクール監修 | 実教出版 | 978-4407350999 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 必要に応じて指示します。 | | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>成績評価の方法: 定期試験(60%), レポート(10%), 平常点(30%)。平常点は科目別履修状況チェック表の提出状況、毎回の授業最後の成果物提出状況などで判断する。 成績評価の基準: ①会計ソフトのデータファイル作成, 基本操作(入力, 編集, 修正, 削除), 開始残高登録, 科目登録, 補助科目登録などができるか。②残高試算表で確認, チェックができるか。③固定資産管理ができるか, ④消費税を理解して会計処理ができていますか。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|---|---|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | オリエンテーション(講義の進め方, 講義内容, 受講上の諸注意, 評価方法などを説明します。)複式簿記の基礎知識(3級程度)を復習します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 簿記3級で学んだ簿記一巡の手続について確認しておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義時の簿記3級の問題を再度復習し確認しておくこと。(2時間) |
| 第2回 | 第1章 企業活動と会計処理: 企業経理, 会計情報の活用と作成について学習します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト第1章pp.8~24を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 企業活動と会計処理について, テキストを再度確認して理解を深める。(2時間) |
| 第3回 | 第2章 会計ソフトの操作(基礎知識)①: コンピュータの関連知識, 会計ソフトの起動, データファイル作成, バックアップ, 復元, 終了について学習します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト第2章pp.26~31を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 会計ソフトの利用方法について, テキストを再度確認して理解を深める。(2時間) |
| 第4回 | 第2章 会計ソフトの操作(基礎知識)②: 会計データの入力操作と帳簿体系, 伝票検索・印刷方法, 集計表の作成について学習します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト第2章pp.32~49を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 会計ソフトの入力操作, 帳簿体系について, テキストを再度確認して理解を深める。(2時間) |
| 第5回 | 第3章 基幹業務の内容とビジネス法務: 商取引に必要なビジネス法務, 企業の業務システムと会計処理について学習します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト第3章pp.56~59を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 企業の業務やビジネス法務について, テキストを再度確認して理解を深める。(2時間) |
| 第6回 | 第3章 業務ごとの会計処理(1) 現金預金に関連する業務, (2) 売上に関する業務について, 入力作業を行います。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト第3章pp.60~82を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 企業の業務(現金預金, 売上)について, テキストを再度確認して理解を深める。(2時間) |
| 第7回 | 第3章 業務ごとの会計処理(3) 仕入に関連する業務, (4) 経費に関する業務, (5) その他の債権・債務に関する業務について, 入力作業を行います。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト第3章pp.83~108を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 企業の業務(仕入, 経費, その他)について, テキストを再度確認して理解を深める。(2時間) |
| 第8回 | 第3章 業務ごとの会計処理(5) 給料に関する業務について, 給料計算の仕組みを学習したのち入力作業を行います。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト第3章pp.109~123を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 企業の業務(給与)について, テキストを再度確認して理解を深める。(2時間) |

| | | |
|----------------|--|---|
| 第9回 | 第4章 税金に関連する業務と会計処理: 法人税のしくみ, 消費税のしくみについて学習します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト第4章pp.124~143を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 税金に関する業務について, テキストを再度確認して理解を深める。(2時間) |
| 第10回 | 第5章 会計データの入力処理と集計①: テキスト例題(p.144~p.155)による証憑類のデータ入力を行っていきます。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト第5章pp.144~155を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義時の証憑に基づく会計処理について, テキストを再度確認して理解を深める。(2時間) |
| 第11回 | 第5章 会計データの入力処理と集計②: テキスト例題(p.156~p.175)の証憑類によるデータ入力を行っていきます。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト第5章pp.156~175を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義時の証憑に基づく会計処理について, テキストを再度確認して理解を深める。(2時間) |
| 第12回 | 第5章 会計データの入力処理と集計③: テキスト例題(p.176~p.192)の証憑類によるデータ入力を行っていきます。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト第5章pp.172~192を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義時の証憑に基づく会計処理について, テキストを再度確認して理解を深める。(2時間) |
| 第13回 | 第6章 月次決算に関連する業務と会計処理: 決算の手続き, 残高チェック, 減価償却について学習します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト第6章pp.194~203を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 月次決算について, テキストを再度確認して理解を深める。(2時間) |
| 第14回 | 第6章 年次決算と決算書出力方法について学習します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト第6章pp.204~226を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 月次決算および年次決算について, 講義時の内容を再度確認して理解を深める。(2時間) |
| 第15回 | 固定資産管理(固定資産台帳へ登録, 減価償却の自動計算)について学習します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 指示された固定資産について, 国税庁のホームページより耐用年数を調べておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 減価償却について, 講義時の内容を再度確認して理解を深める。(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 60分定期試験(実技試験を含む) | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| コンピュータ会計Ⅱ | ～218 経営情報学科 | 3・4年生・後期 | 2単位 | 選択 | 岩下 昌美 | |
| 履修の前提条件 | ソフトのライセンス数により受講制限を行います。メール(masami-i@g.kiis.ac.jp)にて「受講希望 学籍番号と氏名」と送信してください。メールの先着順により受講者を決定します。 また、操作に関する知識と複式簿記に関する基礎知識が必須。大学内のネットワークにログインできること。必ずテキストを購入すること。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>実社会の企業においては、会計処理(帳簿記録)もコンピュータを利用し会計ソフト(システム)で行われている場合がほとんどです。そこで、業界トップシェアの会計ソフトである「弥生会計」を用いて、会計ソフトのしくみ、メニュー構成、基本操作、各種帳票類の出力方法などを学習します。</p> <p>さらには経理担当者として必要な給料計算および税務の知識などもあわせて学習しますので、税理士事務所などでインターンシップの際に役立つ内容です。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>会計ソフトのしくみ、メニュー構成、基本操作、各種帳票類の出力、特殊機能、会計情報の活用方法について学習し、企業における会計ソフトの導入から財務諸表の作成ができる能力を身につけます。会計ソフトに関連する検定試験(電子会計実務 3級, 2級 弥生会計 2級)の取得も可能となります。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|------------|---------------|-------------------|
| <p>企業が現実に行っている会計処理などについて、各自が毎回実習を積み重ねていきますので、遅刻欠席のないようにお願いします。授業は対話型を心がけて進めていきます。不明な点や疑問などが生じた時は積極的に発言してください。 毎回の授業終了時には成果物の提出をお願いします。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>質問などは、授業の前後またはオフィスアワーを利用してください。</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>会計ソフトを使用した検定試験(日本商工会議所主催電子会計実務)を推奨します。 学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入して前期定期試験日に岩下までメールで提出してください。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 最新版の『コンピュータ会計(基礎)テキスト』 前期「コンピュータ会計」で使用 | | 実教出版 | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| | | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>成績評価の方法:定期試験(60%),レポート(10%),平常点(30%)。平常点は科目別履修状況チェック表の提出状況、毎回の授業最後の成果物提出状況などで判断する。 成績評価の基準:①会計ソフトの期中導入,科目登録,決算手続きができるか。②予算管理,比率分析,キャッシュフロー計算書の作成などの操作ができるか。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | |
|------------------------|---|
| テーマ Theme | |
| 第1回 | オリエンテーション(講義の進め方, 講義内容, 受講上の諸注意, 評価方法などを説明します。)講義使用の会計ソフト用データファイルの作成をし, 基本機能(入力, 修正, 印刷)を復習します。 |
| | 事前学習 (内容・時間) 「コンピュータ会計 I」の復習, 会計ソフトの基本機能を確認しておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) テキスト第2章pp.32~49を読んでおくこと。(2時間) |
| 第2回 | 配付資料1にもとづいて, 会計ソフトの期中導入の処理について学習します。データ入力時に使用する摘要辞書, 仕訳辞書, 伝票辞書の登録について学習します。 |
| | 事前学習 (内容・時間) 会計ソフトの基本機能および科目登録についてを確認しておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) 配付資料1を読み, 期中導入についての理解を深める。(2時間) |
| 第3回 | 配付資料2にもとづいて, 製造業での利用方法について学習します。 |
| | 事前学習 (内容・時間) 製造業の会計処理(工業簿記)について, 確認しておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) 配付資料2を読み, 製造業での利用方法について理解を深める。(2時間) |
| 第4回 | 配付資料3にもとづいて, 部門管理の利用方法について学習します。 |
| | 事前学習 (内容・時間) 本支店会計について, 確認しておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) 配付資料3を読み, 部門管理について理解を深める。(2時間) |
| 第5回 | 配付資料4にもとづき, 日常取引の証憑類による会計データ入力①について復習します。 |
| | 事前学習 (内容・時間) テキスト第5章pp.144~155を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) 配付資料4から当該回の会計データ入力について理解を深める。(2時間) |
| 第6回 | 配付資料4にもとづき, 日常取引の証憑類による会計データ入力②について復習します。 |
| | 事前学習 (内容・時間) テキスト第5章pp.156~171を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) 配付資料4から当該回の会計データ入力について理解を深める。(2時間) |
| 第7回 | 配付資料4にもとづき, 日常取引の証憑類による会計データ入力③について復習します。 |
| | 事前学習 (内容・時間) テキスト第5章pp.172~192を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) 配付資料4から当該回の会計データ入力について理解を深める。(2時間) |
| 第8回 | 配付資料5にもとづき決算を行い, 会計データ入力④について復習します。 |
| | 事前学習 (内容・時間) テキスト第6章pp.194~203を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) 配付資料5から当該回の決算処理について理解を深める。(2時間) |

| | |
|----------------|--|
| 第9回 | 配付資料6にもとづいて, 給与計算の方法と明細書の作成方法について学習します。 |
| | 事前学習 (内容・時間) テキスト第6章pp.109~122を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) 配付資料6から当該回の給与計算と会計処理について理解を深める。(2時間) |
| 第10回 | 配付資料7にもとづいて, 弥生会計の特殊機能の手形管理(登録, 決済), 借入金管理(登録, 返済金一覧表作成)について学習します。 |
| | 事前学習 (内容・時間) 手形取引および借入取引の会計処理について確認しておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) 配付資料7から当該回の手形および借入金の会計処理について理解を深める。(2時間) |
| 第11回 | 配付資料8にもとづいて, 弥生会計の特殊機能の比率分析(収益性, 安全性)について学習します。 |
| | 事前学習 (内容・時間) 経営分析の収益性分析, 安全性分析について確認しておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) 配付資料8から当該回の比率分析について理解を深める。(2時間) |
| 第12回 | 配付資料8にもとづいて, 弥生会計の特殊機能の比率分析(成長性, 生産性)について学習します。 |
| | 事前学習 (内容・時間) 経営分析の成長性分析, 生産性分析について確認しておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) 配付資料8から当該回の比率分析について理解を深める。(2時間) |
| 第13回 | 実在企業の財務諸表データを入力し, 比率分析機能を使って分析を行ってみます。 |
| | 事前学習 (内容・時間) 配付資料8を確認し, EDNETより実在企業のデータを入力しておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) 分析結果を同業他社と比較してレポートを作成する。(2時間) |
| 第14回 | 配付資料9にもとづいて, 資金管理およびキャッシュフロー計算書の作成方法について学習します。 |
| | 事前学習 (内容・時間) キャッシュフロー計算書の作成方法について確認しておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) 配付資料9から当該回のキャッシュフロー計算書について理解を深める。(2時間) |
| 第15回 | 配付資料10にもとづいて, 電子帳簿保存法の内容と, 電子帳簿保存法を採用した場合のデータファイルの違いについて学習します。 |
| | 事前学習 (内容・時間) 電子帳簿保存法について確認しておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) 配付資料10から当該回の電子帳簿保存法について理解を深める。(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 60分定期試験(実技試験を含む) |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|---|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1EAN-5910-Z2E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 税務会計論 | 219～ 経営情報学科 | 3・4年生・前期 | 2単位 | 選択 | 春日 克則 | |
| 税務会計論 I | ～218 | 2年生・前期 | | | | |
| 履修の前提条件 | 「会計学入門」や「簿記」を履修済か同程度の知識を有することが望ましいが、何よりも、税金に興味を持っていることが必要である。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>税は、取る者と取られる者との戦いの歴史といえる。例えば、株式会社などの所得(利益)に課せられる法人税は、国から見ると(個人)所得税や消費税と並ぶ大きな財源となっている。反面、納税者の側からは、住民税、事業税を合わせると法人所得の約40%が徴収されることになる。そこで、税務当局と納税者の利害が激しくぶつかることになる。「税務会計 I」では、この戦いをどのように終わらせ、どうしたらお互いが納得できるかの仕組みを学ぶ。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>税を学ぶ場合に、最も重要な原則は租税法律主義である。この原則は、納税者の代表が決めた法律によってしか税を課すことができないというものである。そこで、この授業では、国と納税者が争った判例をみることによって、租税法律主義を具体的に理解することを目標とする。同時に、このような理念が法人税額の計算にどのように具体的に活かされているかについても理解する。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|------------|---------------|-------------------|
| <p>授業では、毎回、事例や練習問題に取り組む時間を設けている。そこで、当該時間において、双方向で課題に対する見解を昇華させて行きたい。なお、授業の最後には成果を提出してもらい、翌週添削して返却する。成果を提出する際には、授業中に解決できなかった疑問なども記入する。返却されたペーパーには、私のコメントが書いてあるので互いわかり合えるまで、キャッチボールを行いたい。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>連絡、問い合わせ、相談等は研究室(455研究室)にて随時受け付けている。</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>外部試験: 税のスペシャリスト=税理士試験の基礎となる授業である。 学習の確認: ポートフォリオシートの作成に関しては講義中に適宜指示する。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 必要に応じて指示する | | | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| よくわかる税法入門 | 三木義一 | 有斐閣 | 978-4-641-28142-4 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>定期試験40%、中間テスト20%、毎回の課題提出40%として評価する。講義の理解を深めるために、各回ごとに課題の提出、添削、返却がなされるが、この課題への取り組みは疑問点に関する質問・回答というコミュニケーションツールとして皆さんの理解の手助けとなる。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|---|---|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | サラリーマンなのに37年間、所得税を納めなかった男－申告納税制度－ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 日本の税制、特に所得税制についてインターネットを活用して調べておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第2回 | ホステスの報酬にかかる源泉徴収事件－税を学ぶ場合に最も重要な原則「租税法律主義」－ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配付された資料を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第3回 | 1600億円をタダでもらっても税金はゼロ？(武富士事件)－租税法律主義を考える①－ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配付された資料を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第4回 | 納税者と税務署長、どちらが正しいのか(武富士事件のてんまつ)－租税法律主義を考える②－ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配付された資料を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第5回 | 税金の金額を計算してみよう－会社(法人)にかかる税金－ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配付された資料を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第6回 | 簿記・会計上の利益を所得に変換する便利な用具－別表4－ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配付された資料を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第7回 | 税金の額を計算するための便利な用具－別表1と次葉－ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配付された資料を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第8回 | 中間テスト(これまで学習した項目の理解度テスト)とその解説 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 第1回から前回までの総復習を行うこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 中間テストの問題について振り返りの学習を行う。(2時間) |

| | | |
|----------------|--------------------------------|---------------------------------------|
| 第9回 | 同族会社の判定①－特殊関係人－ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配付された資料を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された中間テストと授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第10回 | 同族会社の判定②－特殊関係法人－ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配付された資料を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第11回 | 同族会社の特別規定－行為・計算の否認と留保金の特別課税－ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配付された資料を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第12回 | 寄附金をめぐって裁判になったケース－太平洋物産売上値引事件－ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配付された資料を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第13回 | ふるさと納税をしてみよう－寄附金制度－ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配付された資料を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第14回 | 寄附をすると税金がかかる－寄附金の限度額計算(別表14)－ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配付された資料を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第15回 | まとめ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 第9回から前回までの総復習を行うこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 返却された課題と授業中の課題について振り返りの学習を行う。(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期テスト | |

| | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
| 1EAN-5900-Z2E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 税法学入門 | ~218 経営情報学科 | 2年生・前期 | 2単位 | 選択 | 丹羽 崇之 | |
| 履修の前提条件 | 「法学」、「日本国憲法」を履修済み、また「民法」、「会社法」を履修することが望ましい。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>主要な税法の概要を学び、税とは何か、生活にどう役立っているか、諸君が実生活に出てどうかかわっていくかなどを学ぶ。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ |
| | 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>税の意義、種類、仕組みなどを理解し、今後税法を学び、社会生活に活かしていくための基本を身につける。</p> | | | | | | |

| | | | |
|---|-------------|---------------|-------------------|
| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
| <p>事例・判例をとりあげ、学生諸君に適用法令や課税関係を説明してもらう。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>質問等は、授業の前後の時間やオフィスアワーを積極的に利用してもらいたい。</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>欠席した場合には、その回の授業内容を学習したレポートを提出してもらう。(提出しない場合は、定期試験の受験を認めない。) 学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出すること。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 税法入門〔第7版〕 | 金子・清永・宮谷・畠山 | 有斐閣 | 978-4641091597 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 租税法判例六法〔第4版〕 | 中里実・増井良啓編 | 有斐閣 | 978-4641001541 |
| 租税判例百選〔第6版〕 | 中里実・佐藤英明他編 | 有斐閣 | 978-4641115293 |
| プレップ租税法〔第3版〕 | 佐藤英明 | 弘文堂 | 978-4335313233 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>平常点(受講態度、小テスト、レポート提出)30%、定期試験70%により総合評価する。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|-----------------|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 租税と税法 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第1章を読み、租税とはなにか、税法とはなにか、考える。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第1章を読み返し、租税とはなにか、税法とはなにか、確認する。(2時間) |
| 第2回 | 租税の基本原則 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第2章を読み、租税の基本原則について考える。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第2章を読み、租税の基本原則について確認する。(2時間) |
| 第3回 | 国税と地方税 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第3章を読み、税源の配分について考える。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第3章を読み、税源の配分について確認する。(2時間) |
| 第4回 | 税法の解釈と適用 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第4章を読み、税法の解釈、適用について考える。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第4章を読み、税法の解釈、適用について確認する。(2時間) |
| 第5回 | 所得税 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第5章1を読み、所得税の意義、課税要件について考える。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第5章1を読み、所得税の意義、課税要件について確認する。(2時間) |
| 第6回 | 法人税 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第5章IIを読み、法人税の意義、課税要件について考える。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第5章IIを読み、法人税の意義、課税要件について確認する。(2時間) |
| 第7回 | 相続税・贈与税 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第5章IIIを読み、相続税・贈与税の意義、課税要件について考える。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第5章IIIを読み、相続税・贈与税の意義、課税要件について確認する。(2時間) |
| 第8回 | 固定資産税 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第5章IVを読み、固定資産税の意義、課税要件について考える。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第5章IVを読み、固定資産税の意義、課税要件について確認する。(2時間) |

| | | |
|----------------|----------------------------------|--|
| 第9回 | 消費税 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第5章Vを読み、消費税の意義、課税要件について考える。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第5章Vを読み、消費税の意義、課税要件について確認する。(2時間) |
| 第10回 | 登録免許税・印紙税・不動産取得税・特別土地保有税・自動車関係税等 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第5章VIを読み、各種の租税について考える。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第5章VIを読み、各種の租税について確認する。(2時間) |
| 第11回 | 国際取引的二重課税とその排除 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第6章を読み、国際取引的二重課税とその排除について考える。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第6章を読み、国際取引的二重課税とその排除について確認する。(2時間) |
| 第12回 | 国際的租税回避等の対策税制 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第6章を読み、国際的租税回避等の対策税制について考える。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第6章を読み、国際的租税回避等の対策税制について確認する。(2時間) |
| 第13回 | 租税の賦課と徴収 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第7章を読み、租税の賦課・徴収について考える。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第7章を読み、租税の賦課・徴収について確認する。(2時間) |
| 第14回 | 納税者の権利保護 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第8章を読み、納税者の権利保護について考える。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第8章を読み、納税者の権利保護について確認する。(2時間) |
| 第15回 | 租税犯とその処罰 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第9章を読み、租税犯、処罰について考える。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教科書第9章を読み、租税犯、処罰について確認する。(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|---|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 税法学 | 219～ 経営情報学科 | 3・4年生・後期 | 2単位 | 選択 | 倉地 和敏 | ○ |
| 税法学総論 | ～218 経営情報学科 | 2年生・後期 | | | | |
| 履修の前提条件 | <p>税法は、社会のルール。税法学の授業はそのルールを教える授業。従って、税法学総論を受講する者は、校則で決められたルールは必ず守っていただきたい。</p> <p>① 遅刻・欠席をしない。 ② やむを得ず遅刻をした場合は、黙って自分の席に座らずに教授のところに来て理由を述べる。 ③ 期末試験を受けるためには、2/3以上(10回以上)の出席が必要なため、それだけ出席できていなかったら、試験は受けられない。 ④ 授業中のスマホ、私語(おしゃべり)は禁止 ⑤ 居眠り禁止(起こします)</p> | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>「租税は、…およそ民主主義国家にあつては、国家の維持及び活動に必要な経費は、主権者たる国民が共同の費用として代表者を通じて定めるところにより自ら負担すべきものである(大島判決(最判:昭和60年3月27日判決))とされている。税とは何か、税による国家の活動にはどのようなものがあるかを学ぶ。</p> <p>また、身近な税である所得税・消費税を取り上げ、今後学生諸君が実生活に出てどのようにかかわっていくかなどを学ぶ。</p> <p>なお、所得税の確定申告書を作成するなど実践的な学習を行う。国税庁のHPにアクセスして、所得税の申告書作成システムを利用した所得税確定申告書の作成模擬演習を行うなど、電子機器を取り入れた授業も予定している。</p> <p>担当教員は、税理士として、所得税申告書・法人税申告書・消費税申告書・相続税申告書等を作成・提出した経験がある。</p> | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | | | | | | |
| 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | | |
| 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | | | | | | |
| コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | | |
| 数量的スキル Mathematics | | | | | | |
| 情報リテラシー Information Literacy | | | | | | |
| 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | | |
| 問題解決力 Problem Solving | | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | | | | | | |
| 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | | |
| 自己管理能力 Self-management | | | | | | |
| チームワーク Teamwork | | | | | | |
| リーダーシップ Leadership | | | | | | |
| 倫理観 Ethical Sense | | | | | | |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>①租税とは何かを理解する。 ②所得税の仕組みを理解する。 ③所得税確定申告書の作成ができるようになる。(国税庁HPを利用しての作成を含む。) ④消費税の仕組みと特色を理解する。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|------------|---------------|-------------------|
| <p>①授業中不明の点があれば積極的に質問してください。また、教授からの質問に対しては自分の考えを率直に述べてください。 ②国税庁のHPなどの情報を提供しますので、自ら閲覧するなどして知識等を広めてください。 ③毎回コメント用紙(兼出席票)を配りますので、意見や質問などを自由に書いてください。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>オフィスアワー: 木曜日3時限目～4時限目 アドレス: kurachi@kiis.ac.jp</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 税務大学校講本 (税法入門、所得税法、消費税法) | — | 国税庁HP | — |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 租税法入門[16訂版] | 川田 剛 | 大蔵財務協会 | 978-4-7547-2775-8 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>平常点(含、授業態度)、講義におけるミニテスト・質問の回答状況、学習ポートフォリオの提出状況、定期試験等により総合的に評価する。 成績評価の基準: 租税について正しく理解できているか、所得税確定申告書等の作成が正確にできるか。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|-----------------------|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 「租税の意義」 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 税大講本の税法入門(以下「税法入門」という)の1頁を読んでおく。租税に関して、見聞きしたことや感じていることをまとめておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ビデオを見た感想を記述し、講義内容について理解を深める。(2時間) |
| 第2回 | 「財政」(歳入・歳出) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 税法入門の「財政の仕組みと役割」(88-93頁)を読んでおく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 我が国における歳入・歳出の状況について、確実に理解する。(2時間) |
| 第3回 | 「租税負担率・国民負担率」及び「財政赤字」 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 国税庁ホームページ(税の学習コーナー(国の財政))を視聴して知識を深める。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 我が国の税制の状況を理解し、今後いかにすべきかを考える。(2時間) |
| 第4回 | 「租税の種類」及び「租税の原則」 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 税法入門の「租税の分類」(7-9頁)及び「租税の原則」(10-12頁)を読んでおく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で学んだことをまとめ、課題(小テスト)を解答する。(2時間) |
| 第5回 | 「租税の根拠」及び「担税力」 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 税法入門の「租税の根拠と配分」(1-3頁)及び「租税体系についての考え方」(16-18頁)を読んでおく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「担税力」、「垂直的公平」、「水平的公平」、「タックスミックス」など授業で学んだことをまとめ、課題(小テスト)を解答する。(2時間) |
| 第6回 | 「租税法律主義」及び「三権分立」 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 税法入門の「法体系の中における税法の位置づけ」及び「租税法律主義」(20-21頁)を読んでおく。「三権分立」とは何かを調べておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「三権分立という制度について、どのように考えるか」について考えをまとめ、課題(小テスト)を解答する。(2時間) |
| 第7回 | 「所得の概念」及び「所得の種類」 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 税大講本の所得税法(以下「所得税法」という)の「所得の概念」(3-4頁)並びに「所得の種類と意義」及び「各種所得の内容」(15-26頁)を読んでおく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で学んだことをまとめ、課題(小テスト)を解答する。(2時間) |
| 第8回 | 「給与収入」と「給与所得」の関係 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 所得税法の「給与所得の金額の計算」(30-31頁)を読んでおく。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「給与収入」と「給与所得」の関係を、出題された計算問題を解くことによって理解する。(2時間) |

| | | |
|----------------|--------------------------|---|
| 第9回 | 「所得控除」について | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 所得税法の「所得控除の種類と意義」及び「各種所得控除の内容」(90-112頁)を読んで所得控除の概要を理解しておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で学んだ「所得控除」について、課題(小テスト)を解答する。(2時間) |
| 第10回 | 「勤労学生控除」、「扶養控除」及び「基礎控除」 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「勤労学生控除」、「扶養控除」及び「基礎控除」の各控除について、所得税法で具体的な要件と控除額を確認しておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題(小テスト)により、「勤労学生控除」、「扶養控除」及び「基礎控除」の控除額の計算を行う。(2時間) |
| 第11回 | 「課税される所得金額」及び「税額の計算」 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 所得税法の「税額計算」(121-123頁)を読んで、税額計算の方法等を確認しておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題(小テスト)により、「税額の計算」等を行う。(2時間) |
| 第12回 | 「源泉徴収制度」 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 所得税法の「源泉徴収制度」(136-148頁)を読んで概要を理解しておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で学んだ「源泉徴収制度」等について、課題(小テスト)を解答する。(2時間) |
| 第13回 | 「納付税額の計算」及び「所得税確定申告書の作成」 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 第8回から第12回までを復習し、納付税額の計算手順を確認しておく。また、確定申告書の様式を確認しておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題で提出された設例を基に、確定申告書を作成する。(2時間) |
| 第14回 | 「消費税の仕組み」 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 税大講本の消費税法の3-10頁を読んで、消費税法の概要を確認しておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で学んだことをまとめ、課題(小テスト)を解答する。(2時間) |
| 第15回 | 電子機器を使用した所得税確定申告書の作成 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 国税庁ホームページの「スマホ申告」について、概要を確認する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業で学んだ「電子機器を使用した所得税確定申告書の作成方法」の操作要領を復習する。(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1EMN-5380-12E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 経営戦略論 | 219～ 経営情報学科 | 1年生・前期 | 2単位 | 選択 | 遠藤 真紀 | ○ |
| | ～218 | 2年生・前期 | | | | |
| 履修の前提条件 | 「経営学総論(経営学入門)」をはじめ、「マーケティング論」、「ベンチャービジネス入門」、「ベンチャー企業論」、「会計学入門」、「簿記」など、基礎的な経営学関連科目を履修し、理解していることが望ましい。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>中小企業診断士として、企業の経営戦略立案や事業計画作成の支援等、経営コンサルタントの経験を持つ教員が担当します。経営戦略に関する基本理論を体系的に理解するとともに、その理論の背景や意義などについても考察していきます。テキストを基に、伝統的な理論から現代の戦略論まで、その形成過程や今日的課題について講義を進めます。現代企業の経営戦略が、情報システムやネットワーク技術との関わりで進化していることから、これまでの実務経験を踏まえた実践的な議論を展開していきます。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>現代企業の経営における戦略の意義や必要性および主な経営戦略理論(分析型・プロセス型経営戦略, ドメイン、製品・市場戦略、経営資源、競争戦略等)について理解していること。具体的には、卒業後、就職した企業の経営戦略等が理解でき、自律的・自発的な行動への判断基準が持てるようになること。また例えば、企業物とよばれる小説またはビジネス雑誌・書籍等の理解が促進されるようになる。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|----------------------|---------------------|--|
| <p>基本的に対話型の講義になります。よってただ単に出席し、講義を聴いているだけでは単位取得できません。講義中に行われる教員からの質問等へ積極的に対応し、自身の意見を発言していくことが求められます。また企業経営や経営戦略に関するビデオ聴講による演習等を行います。聴講したビデオに基づき、ディスカッションを行うため、ビデオ内容の聞き取り力、メモ力、聴講した内容や関連情報との考察力を養っていきます。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>教員への講義内容および企業情報や企業経営等に関する質問および関連資格の取得方法等を含む学生生活全般に関するアドバイス・相談等は研究室で対応します。オフィスアワー以外の不在時には、研究室のメッセージボードやEメール(endo@kiis.ac.jp)等を活用してください。自主性を重要視するので「来る者拒まず、去る者追わず」のスタンスで対応しますが、「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」という格言の通りです。積極的な教員へのコンタクトおよびコミュニケーションが期待されます。</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>希望者には、必要に応じて、販売士(3級～1級)、経営学検定(マネジメント検定:初級、中級、上級)、中小企業診断士等、経営学に関連する資格試験の受験指導を行います。宿題となる課題レポートの提出以外に、資格試験への積極的な取り組みや関連するレポートおよび学習記録(ポートフォリオ等)の提出は平常点として加味します。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 経営戦略論要論 | 岸川善光 | 同文館出版 | 4-495-37421-4 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| よくわかる経営戦略論 戦略プロフェッショナル | 井上善海・佐久間信夫編著 三枝 匡 | ミネルヴァ書房 日経ビジネス文庫 | 978-4-623-05069-7 978-4-532-19145-0 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>成績評価方法: 定期試験、平常点(出席率、ディスカッションへの参加、各種レポート提出、資格試験への取り組み、ポートフォリオ提出、教員とのコミュニケーションなど学習に対する積極性)等を総合的に考慮して評価します。</p> <p>評価基準: 学習に対する積極性および経営戦略の意義や各経営戦略理論等について基礎的な理解が図られている。自身に関係する企業の経営戦略等が理解でき、自律的・自発的な行動への判断基準が持てている。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|--|---|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 講義の目的と進め方(講義内容のアウトラインの理解) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 企業および経営・戦略に関連する事例などがWEBや雑誌等に多く掲載されているため、積極的にアクセスし、自分の挑戦材料として頭に入れておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本講義のアウトラインについて復習, 課題への取り組み(2時間) |
| 第2回 | 経営戦略の意義 – 環境変化と経営戦略 – | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき, ビデオ演習を含む, 講義内容の復習(2時間) |
| 第3回 | 経営戦略の意義 – 経営戦略の定義, 企業と環境のかかわり方 – | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき, ビデオ演習を含む, 講義内容の復習(2時間) |
| 第4回 | 経営戦略の意義 – 将来志向的な構想, 意思決定プロセス – | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき, ビデオ演習を含む, 講義内容の復習(2時間) |
| 第5回 | 経営戦略論の生成と発展 – 経営戦略論の生成(チャンドラー, アンゾフ, スタイナー等) – | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき, ビデオ演習を含む, 講義内容の復習(2時間) |
| 第6回 | 経営戦略論の生成と発展 – 分析型経営戦略論(経験曲線, PPMほか) – | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき, ビデオ演習を含む, 講義内容の復習(2時間) |
| 第7回 | 経営戦略論の生成と発展 – プロセス型・情報創発型・社会調和型経営戦略論 – | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき, ビデオ演習を含む, 講義内容の復習(2時間) |
| 第8回 | 経営戦略論の体系 – 全体戦略と個別戦略, 経営戦略の構成要素 – | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき, ビデオ演習を含む, 講義内容の復習(2時間) |

| | | |
|----------------|--|-----------------------------------|
| 第9回 | 経営戦略の体系 – 経営戦略策定プロセス, 経営戦略の構成要素の適合性 – | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき, ビデオ演習を含む, 講義内容の復習(2時間) |
| 第10回 | の設定 – ドメインの意義, ドメイン定義の要件 – | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき, ビデオ演習を含む, 講義内容の復習(2時間) |
| 第11回 | 製品・市場戦略 – 製品・市場戦略の意義, 製品・市場マトリクス – | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき, ビデオ演習を含む, 講義内容の復習(2時間) |
| 第12回 | 製品・市場戦略 – 多角化戦略, 差別化と細分化, 新製品開発, 新市場開拓 – | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき, ビデオ演習を含む, 講義内容の復習(2時間) |
| 第13回 | 経営資源 – 経営資源と経営戦略 – | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき, ビデオ演習を含む, 講義内容の復習(2時間) |
| 第14回 | 競争戦略 – 競争戦略の意義, 価値連鎖, 競争基本戦略, 競争戦略の定石 – | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき, ビデオ演習を含む, 講義内容の復習(2時間) |
| 第15回 | 講義のまとめ(講義内容全体の総括) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき, ビデオ演習を含む, 講義内容の復習(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験等 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1AMN-5560-22E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| コマース論 I | 219～ 経営情報学科 | 2年生・前期 | 2単位 | 選択 | 鈴木 和也 | |
| 中級小売商業 I | ～218 | | | | | |
| 履修の前提条件 | 1.経営学総論Ⅰ、経営学総論Ⅱ、マーケティング論などの関連する科目を履修し単位を取得していること。2.履修者全員が販売士検定試験(2級)を受験すること。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| この講義は、多様化・高度化した顧客ニーズを的確に捉え、ニーズに合った商品やサービスの提供、商品の開発や仕入、販売、物流などを効率的かつ効果的に行うための実践的なスキルを身に付ける。さらに、2月に実施される日本商工会議所主催の販売士検定試験2級に合格するための知識を身に付ける。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | ○ |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | ○ |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| 2月に実施される日本商工会議所主催販売士検定試験2級を受験し合格を目指すことができる。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|---------------------|---------------|-------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・対話型の授業を心がけるので、質問など積極的な取組みを期待します。 ・授業内で実施する小テストを活用し、授業内容の理解を深めるとともに授業への積極的な参加を促します。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 質問、相談等は研究室(553)にて受けつける。尚、オフィスアワーも積極的にご活用ください。(オフィスアワー以外で研究室にお越しの際は事前にメールなどでアポイントメントをお取りください) | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| kiiis学修ポートフォリオ・ルーブリックの活用を図り、学修状況の把握や学生自身による自己評価や教員の評価など、双方向でのやり取りを通して講義内容の理解度や定着状況の把握に努める。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 販売士検定試験2級ハンドブック(応用編)～リテールマーケティング(販売士)検定試験2級対応 | 日本商工会議所 全国商工会連合会 | キャリアック | H00100227 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 販売士教科書 販売士(リテールマーケティング)2級一発合格テキスト&問題集 第3版 | 海光 歩 | 翔泳社 | 978-4798156675 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 1.定期試験(80%)、2.小テスト(5%)、3.学修課題の提出(5%)、4.授業への取組み(10%) | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|---|--------------------------|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 授業概要(授業の進め方、評価について、販売士検定試験について) 流通と小売業の役割 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第2回 | 小売業態変化に関する理論仮説 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第3回 | 世界の小売業の動向 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第4回 | 組織形態別小売業の運営特性－その1－ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第5回 | 組織形態別小売業の運営特性－その2－ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第6回 | 店舗形態別小売業の運営特性－その1－ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第7回 | 店舗形態別小売業の運営特性－その2－ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第8回 | 中小小売業の課題と商業集積の方向性 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |

| | | |
|----------------|---|--------------------------|
| 第9回 | マーチャンダイジングの戦略的展開 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第10回 | 商品計画の戦略的立案 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第11回 | 販売計画の戦略的立案 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第12回 | 仕入計画の策定と仕入活動の戦略的展開 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第13回 | 販売政策の戦略的展開 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第14回 | 商品管理政策の戦略的展開 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第15回 | 物流政策の戦略的展開 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験の実施 (リテールマーケティング[販売士]検定試験2級と同定程度の内容、難易度の問題で効果測定を実施する。) | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1EMN-5570-22E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| コマース論Ⅱ | 219～ 経営情報学科 | 2学年・後期 | 2単位 | 選択 | 鈴木 和也 | |
| 中級小売商業Ⅱ | ～218 | | | | | |
| 履修の前提条件 | 1.コマース論Ⅰを履修し単位を取得していること。2.履修者全員が販売士検定試験(2級)を受験すること。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| この講義は、多様化・高度化した顧客ニーズを的確に捉え、ニーズに合った商品やサービスの提供、商品の開発や仕入、販売、物流などを効率的かつ効果的に行うための実践的なスキルを身に付ける。さらに、2月に実施される日本商工会議所主催の販売士検定試験2級に合格するための知識を身に付ける。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | ○ |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | ○ |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| 2月に実施される日本商工会議所主催販売士検定試験2級を受験し合格を目指すことができる。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|---------------------|---------------|-------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・対話型の授業を心がけるので、質問など積極的な取組みを期待します。 ・授業内で実施する小テストを活用し、授業内容の理解を深めるとともに授業への積極的な参加を促します。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 質問、相談等は研究室(553)にて受けつける。尚、オフィスアワーも積極的にご活用ください。(オフィスアワー以外で研究室にお越しの際は事前にメールなどでアポイントメントをお取りください) | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| kiis学修ポートフォリオ・ルーブリックの活用を図り、学修状況の把握や学生自身による自己評価や教員の評価など、双方向でのやり取りを通して講義内容の理解度や定着状況の把握に努める。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 販売士検定試験2級ハンドブック(応用編)～リテールマーケティング(販売士)検定試験2級対応 | 日本商工会議所 全国商工会連合会 | キャリアック | H00100227 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 販売士教科書 販売士(リテールマーケティング)2級一発合格テキスト&問題集 第3版 | 海光 歩 | 翔泳社 | 978-4798156675 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 1.定期試験(80%)、2.小テスト(5%)、3.学修課題の提出(5%)、4.授業への取組み(10%) | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|--|--------------------------|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 授業概要(授業の進め方、評価について) 戦略的ストアオペレーションの展開視点 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第2回 | 店舗運営サイクルの実践と管理 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第3回 | 戦略的ディスプレイの実施方法 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第4回 | レイバースケジューリングプログラムの役割と仕組み | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第5回 | 人的販売の実践と管理 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第6回 | リテールマーケティング戦略の考え方 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第7回 | リテールマーケティング戦略の実施方法 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第8回 | 顧客戦略の展開方法 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |

| | | |
|----------------|---|--------------------------|
| 第9回 | リジョーナルプロモーションの企画と実践 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第10回 | インスタマーチャンドライジングとしてのスペースマネジメント | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第11回 | 商圈分析ならびに出店戦略の立案 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第12回 | 店舗(業態)開発の手順と実践 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第13回 | 販売管理者の法令知識 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第14回 | 販売事務管理に求められる経営分析 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第15回 | 小売業の組織体制と従業員管理/店舗施設などの維持管理 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と練習問題の解答 (2.0h) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験の実施 (リテールマーケティング[販売士]検定試験2級と同定程度の内容、難易度の問題で効果測定を実施する。) | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|---|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 上級小売商業 I | ～218 経営情報学科 | 3年生・前期 | 2単位 | 選択 | 遠藤 真紀 | ○ |
| 履修の前提条件 | <p>・来年2月の「販売士(リテール・マーケティング)」1級の受験をする事が前提です。 ・前年度までに「中級小売商業(コマース論) I および II」を履修している者または過去に2級または1級の販売士を受験している者に限ります。また関連する経営・会計の科目を多く履修している事が期待されます。(販売士の受験もしくは関連科目の履修経験のない者の単位取得は難しいと思われます)</p> | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>本講義では、中小企業診断士として対応した身近な事例や実務経験から得た知見に基づき、これまでの3級販売士受験対策や2級販売士受験対策に引きつづき、1級販売士を受験するために必要な知識(商品開発や仕入、販売、物流などを効率的かつ効果的に行うための実践的なスキル)の概要を学びます。特に前期は、小売業の種類、マーチャндаイジングを中心に学びます。 また、身近な事例や実務経験から得た知見に基づいた講義により、理論や業界特性を理解するとともに、ポイント的確にとらえた問題演習等を実施し、高得点による検定試験の合格をめざします。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | ○ |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | ○ |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>小売商業を始めとする流通業のマネジメントおよび流通・マーケティング等の知識(小売業の種類、マーチャндаイジング、ストアオペレーション、マーケティング、販売・経営管理)を修得し、翌年2月に実施される「販売士(リテール・マーケティング)検定試験」1級の合格を目指します。なお1級のレベルは、店長や経営者などが行うトップマネジメント全般に関する商品計画や商品予算の策定、マーケティング政策の立案、人事・労務・財務管理に関する知識の修得を目指します。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|----------------------|---------------|-------------------|
| <p>予習してきた内容を前提に、対話形式で講義を進めます。ただ単に出席し、講義を聴いているだけでは単位取得できません。教員からの質問等へ積極的に対応し、自身の意見を発言していくことが求められます。テキストだけでなく、WEBやTV・新聞等のニュースや流通関連記事について関心を持ち、教員や学生同志でディスカッションしていきます。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>教員への講義内容および企業情報や企業経営等に関する質問および関連資格の取得方法等を含む学生生活全般に関するアドバイス・相談等は研究室で対応します。オフィスアワー以外の不在時には、研究室のメッセージボードやEメール(endo@kiis.ac.jp)等を活用してください。自主性を重要視するので「来る者拒まず、去る者追わず」のスタンスで対応しますが、「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」という格言の通りです。積極的な教員へのコンタクトおよびコミュニケーションが期待されます。</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>「販売士(リテール・マーケティング)」とはマーケッターを目指す流通業界唯一の公的資格です。販売士資格を昇給・昇格等の人事制度にリンクさせ、課長や店長以上には2級取得を義務づけるなど、販売士資格を重要視する企業が増加しつつあります。大学卒業までに2級を取得し、できれば1級を取得することが就職や就職後に大変役立ちます。 学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 販売士検定試験1級ハンドブック | 日本商工会議所・ 全国商工会連合会 | (株)キャリアック | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 参考書・問題集等は必要に応じて指示します | | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>成績評価方法:定期試験、平常点(出席率、ディスカッションへの参加、各種レポート提出、資格試験への取り組み、ポートフォリオ提出、教員とのコミュニケーションなど学習に対する積極性)等を総合的に考慮して評価します。 評価基準:学習に対する積極性や小売商業および流通マーケティングの意義や各理論等について基礎的な理解が図られている。自身に関係する流通業の経営等が理解でき、自律的・自発的な行動への判断基準が持っている。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|------------------------------------|---|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 講義概要(科目の外観, 講義の進め方および販売士試験についての説明) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 販売士および流通業の経営・戦略等に関連する事例などがWEBや雑誌等に多く掲載されているため、積極的にアクセスし、自分の挑戦材料として頭に入れておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本講義のアウトラインについて復習, 課題への取り組み(2時間) |
| 第2回 | 1. 小売業の類型 ①流通システムの変革と小売業の新たな役割 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき, ビデオ演習を含む, 講義内容の復習(2時間) |
| 第3回 | 1. 小売業の類型 ②フランチャイズシステムの戦略的特性 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき, ビデオ演習を含む, 講義内容の復習(2時間) |
| 第4回 | 1. 小売業の類型 ③店舗形態別小売業の戦略的特性 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき, ビデオ演習を含む, 講義内容の復習(2時間) |
| 第5回 | 1. 小売業の類型 ④チェーンストアの戦略概論 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき, ビデオ演習を含む, 講義内容の復習(2時間) |
| 第6回 | 1. 小売業の類型 ⑤商店街およびショッピングセンターの戦略的特性 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき, ビデオ演習を含む, 講義内容の復習(2時間) |
| 第7回 | 1. 小売業の類型 提出レポートについての解説 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき, ビデオ演習を含む, 講義内容の復習(2時間) |
| 第8回 | 2. マーチャンダイジング ①マーチャンダイジング戦略の概論 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき, ビデオ演習を含む, 講義内容の復習(2時間) |

| | | |
|----------------|-----------------------------------|-----------------------------------|
| 第9回 | 2. マーチャンダイジング ②商品計画の選定と商品予算の実務 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| 第10回 | 2. マーチャンダイジング ③販売計画ならびに販売管理の戦略的策定 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| 第11回 | 2. マーチャンダイジング ④仕入計画と在庫管理の実務 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| 第12回 | 2. マーチャンダイジング ⑤戦略的商品管理の実務 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| 第13回 | 2. マーチャンダイジング ⑥物流システムの実務 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| 第14回 | 2. マーチャンダイジング 提出レポートについての解説 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| 第15回 | 全体のまとめと演習問題 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 上級小売商業Ⅱ | ～218 経営情報学科 | 3年生・後期 | 2単位 | 選択 | 遠藤 真紀 | ○ |
| 履修の前提条件 | <p>・来年2月の「販売士(リテール・マーケティング)」1級の受験をする事が前提です。 ・前年度までに「中級小売商業(コマース論)Ⅰ・Ⅱ」および前期までに「上級小売商業Ⅰ」を履修している者または過去に2級または1級の販売士を受験している者に限ります。また関連する経営・会計の科目を多く履修している事が期待されます。(販売士の受験もしくは関連科目の履修経験のない者の単位取得は難しいと思われます)</p> | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>本講義では、中小企業診断士として対応した身近な事例や実務経験から得た知見に基づき、これまでの3級販売士受験対策や2級販売士受験対策に引きつづき、1級販売士を受験するために必要な知識(商品開発や仕入、販売、物流などを効率的かつ効果的に行うための実践的なスキル)の概要を学びます。特に後期は、ストアオペレーション、マーケティング、販売・経営管理を中心に学びます。 また、身近な事例や実務経験から得た知見に基づいた講義により、理論や業界特性を理解するとともに、ポイント的確にとらえた問題演習等を実施し、高得点による検定試験の合格をめざします。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | ○ |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | ○ |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>小売商業を始めとする流通業のマネジメントおよび流通・マーケティング等の知識(小売業の種類、マーチャンダイジング、ストアオペレーション、マーケティング、販売・経営管理)を修得し、翌年2月に実施される「販売士(リテール・マーケティング)検定試験」1級の合格を目指します。なお1級のレベルは、店長や経営者などが行うトップマネジメント全般に関する商品計画や商品予算の策定、マーケティング政策の立案、人事・労務・財務管理に関する知識の修得を目指します。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|----------------------|---------------|-------------------|
| <p>予習してきた内容を前提に、対話形式で講義を進めます。ただ単に出席し、講義を聴いているだけでは単位取得できません。教員からの質問等へ積極的に対応し、自身の意見を発言していくことが求められます。テキストだけでなく、WEBやTV・新聞等のニュースや流通関連記事について関心を持ち、教員や学生同志でディスカッションしていきます。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>教員への講義内容および企業情報や企業経営等に関する質問および関連資格の取得方法等を含む学生生活全般に関するアドバイス・相談等は研究室で対応します。オフィスアワー以外の不在時には、研究室のメッセージボードやEメール(endo@kiis.ac.jp)等を活用してください。自主性を重要視するので「来る者拒まず、去る者追わず」のスタンスで対応しますが、「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」という格言の通りです。積極的な教員へのコンタクトおよびコミュニケーションが期待されます。</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>「販売士(リテール・マーケティング)」とはマーケッターを目指す流通業界唯一の公的資格です。販売士資格を昇給・昇格等の人事制度にリンクさせ、課長や店長以上には2級取得を義務づけるなど、販売士資格を重要視する企業が増加しつつあります。大学卒業までに2級を取得し、できれば1級を取得することが就職や就職後に大変役立ちます。 学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 販売士検定試験1級ハンドブック | 日本商工会議所・ 全国商工会連合会 | (株)キャリアック | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 参考書・問題集等は 必要に応じて指示します | | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>成績評価方法:定期試験、平常点(出席率、ディスカッションへの参加、各種レポート提出、資格試験への取り組み、ポートフォリオ提出、教員とのコミュニケーションなど学習に対する積極性)等を総合的に考慮して評価します。 評価基準:学習に対する積極性や小売商業および流通マーケティングの意義や各理論等について基礎的な理解が図られている。自身に関係する流通業の経営等が理解でき、自律的・自発的な行動への判断基準が持っている。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|--|-----------------------------------|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 3. ストアオペレーション ①店舗運営サイクルの戦略的展開 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき、ビデオ演習を含む、講義内容の復習(2時間) |
| 第2回 | 3. ストアオペレーション ②スペースマネジメントの戦略的展開 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき、ビデオ演習を含む、講義内容の復習(2時間) |
| 第3回 | 3. ストアオペレーション ③発注の戦略的展開 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき、ビデオ演習を含む、講義内容の復習(2時間) |
| 第4回 | 3. ストアオペレーション ④LSPとローコストオペレーションの戦略的展 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき、ビデオ演習を含む、講義内容の復習(2時間) |
| 第5回 | 3. ストアオペレーション ⑤人的販売と販売員指導の実際 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき、ビデオ演習を含む、講義内容の復習(2時間) |
| 第6回 | 4. マーケティング ①小売業のマイクロマーケティング戦略の実践、種類と特徴 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき、ビデオ演習を含む、講義内容の復習(2時間) |
| 第7回 | 4. マーケティング ②ライフスタイルの変化とマーケティング戦略の展開方法 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき、ビデオ演習を含む、講義内容の復習(2時間) |
| 第8回 | 4. マーケティング ③顧客戦略の実際 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき、ビデオ演習を含む、講義内容の復習(2時間) |

| | | |
|----------------|--|-----------------------------------|
| 第9回 | 4. マーケティング ④マーケティングリサーチの実際 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき、ビデオ演習を含む、講義内容の復習(2時間) |
| 第10回 | 4. マーケティング ⑤出店戦略と商圈分析の実際、販売促進とプライシングの戦略的展開 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき、ビデオ演習を含む、講義内容の復習(2時間) |
| 第11回 | 5. 販売・経営管理 ①小売業の管理組織の特徴 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき、ビデオ演習を含む、講義内容の復習(2時間) |
| 第12回 | 5. 販売・経営管理 ②小売業の従業員管理と能力開発 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき、ビデオ演習を含む、講義内容の復習(2時間) |
| 第13回 | 5. 販売・経営管理 ③小売業の戦略的キャッシュフロー経営 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき、ビデオ演習を含む、講義内容の復習(2時間) |
| 第14回 | 5. 販売・経営管理 ④小売業の店舗に関する法律 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき、ビデオ演習を含む、講義内容の復習(2時間) |
| 第15回 | 5. 販売・経営管理 ⑤小売業のリスクマネジメント | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき、ビデオ演習を含む、講義内容の復習(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|---|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1EMN-6430-U2E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| ベンチャー企業論 | 219～ 経営情報学科 | 2・3年生・後期 | 2単位 | 選択 | 遠藤 真紀 | ○ |
| | ～218 | 1年生・後期 | | | | |
| 履修の前提条件 | 「ベンチャービジネス入門」が一定の基礎となるため履修している事が望ましい。また経営学・会計学関連の科目をできるだけ多く履修している事が望ましい。「ベンチャービジネス入門」同様、社会のあらゆる事象に興味を持ち、自分の理想とする社会や仕事、働く意義ややり甲斐とは何かを考え、前向きに生きようとする事が前提です。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>中小企業診断士として、企業の経営戦略立案や事業計画作成の支援等、経営コンサルタントの経験を持つ教員が担当します。ベンチャーだけでなく、ビジネスや経営は、実際に行ってみないと本当の理解はできませんが、テキストによる基本理論の理解やビデオ等による演習を通じて疑似体験する事は可能です。これまでの実務経験を踏まえ、企業経営が身近に感じられるような講義を行い、ベンチャー企業に関する基本的な知識だけでなく、自身と社会や企業との関わりについて深く知ろうとする積極性を養っていきます。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>ベンチャー企業の社会的意義や特徴および課題等の基礎的知識を理解し、社会や企業について関心を持つようになる。大企業・大企業に執着することなく、またサラリーマン(給料のために働く人)となる事と当然とせず、自ら会社を興すなど、ビジネスマン(自分のやりたい仕事を創造し実践する人)として社会で活躍できるマインドを身につける。また社会に出てから役に立つ経営学について関心を持ち、販売士等各種の資格にも挑むようになる。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|------------|---------------|-------------------|
| <p>基本的に対話型の講義になります。よってただ単に出席し、講義を聴いているだけでは単位取得できません。講義中に行われる教員からの質問等へ積極的に対応し、自身の意見を発言していくことが求められます。またベンチャー企業や革新的企業の経営や戦略等に関するビデオの聴講およびベンチャー企業経営者による講演等による演習を行います。聴講したビデオ・講演等に基づきディスカッションを行うため、ビデオや講演内容の聞き取り力、メモ力、聴講した内容や関連情報との考察力を養っていきます。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>教員への講義内容および企業情報や企業経営等に関する質問および関連資格の取得方法等を含む学生生活全般に関するアドバイス・相談等は研究室で対応します。オフィスアワー以外の不在時には、研究室のメッセージボードやEメール(endo@kii.ac.jp)等を活用してください。自主性を重要視するので「来る者拒まず、去る者追わず」のスタンスで対応しますが、「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」という格言の通りです。積極的な教員へのコンタクトおよびコミュニケーションが期待されます。</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>希望者には、必要に応じて、販売士(3級～1級)、経営学検定(マネジメント検定:初級、中級、上級)、中小企業診断士等、経営学に関連する資格試験の受験指導を行います。宿題となる課題レポートの提出以外に、資格試験への積極的な取り組みや関連するレポートおよび学習記録(ポートフォリオ等)の提出は平常点として加味します。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 専門基礎ライブラリー ベンチャービジネス論 | 太田一樹ほか | 実業出版 | 978-4-407-31077-1 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| ベンチャー企業 | 松田修一 | 日本経済新聞出版社 | 10-4532113032 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>成績評価方法: 定期試験、平常点(出席率、ディスカッションへの参加、各種レポート提出、資格試験への取り組み、ポートフォリオ提出、教員とのコミュニケーションなど学習に対する積極性)等を総合的に考慮して評価します。</p> <p>評価基準: 広く社会や企業および仕事の意義等について理解し、自分自身のと社会やベンチャー企業等との関わりについて理解している。また各種の資格にも挑むくらい、経営学について関心を持ち、学習に対する積極性をもっていること。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|--|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 講義の目的と進め方(講義内容のアウトラインの理解) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ベンチャーや起業の体験談およびそれに関連する事例などがWEBや雑誌等に多く掲載されているため、積極的にアクセスし、自分の挑戦材料として頭に入れておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本講義のアウトラインについて復習, 課題への取り組み(2時間) |
| 第2回 | 企業の存在意義とベンチャー企業の必要性 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき, ビデオ演習を含む, 講義内容の復習(2時間) |
| 第3回 | ベンチャー企業とは:わが国のベンチャー企業の実態 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき, ビデオ演習を含む, 講義内容の復習(2時間) |
| 第4回 | ビデオ演習とディスカッションおよびレポート作成① | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき, ビデオ演習を含む, 講義内容の復習(2時間) |
| 第5回 | ベンチャー企業の特徴 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき, ビデオ演習を含む, 講義内容の復習(2時間) |
| 第6回 | ベンチャー企業の成長・発展過程(1)成長の考え方と経営戦略の論理 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき, ビデオ演習を含む, 講義内容の復習(2時間) |
| 第7回 | ベンチャー企業の成長・発展過程(2)マーケティングの重要性 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき, ビデオ演習を含む, 講義内容の復習(2時間) |
| 第8回 | ベンチャー企業の成長・発展過程(3)イグジット(出口戦略)とIPO・MBOの動向 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき, ビデオ演習を含む, 講義内容の復習(2時間) |

| | | |
|----------------|-----------------------------|-----------------------------------|
| 第9回 | ビデオ演習とディスカッションおよびレポート作成② | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき, ビデオ演習を含む, 講義内容の復習(2時間) |
| 第10回 | ベンチャー企業の活動実態と問題点(1)スタートアップ期 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき, ビデオ演習を含む, 講義内容の復習(2時間) |
| 第11回 | ベンチャー企業の活動実態と問題点(2)成長期、成熟期 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき, ビデオ演習を含む, 講義内容の復習(2時間) |
| 第12回 | ベンチャー企業の活動実態と問題点(3)安定期 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき, ビデオ演習を含む, 講義内容の復習(2時間) |
| 第13回 | ビデオ演習とディスカッションおよびレポート作成③ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき, ビデオ演習を含む, 講義内容の復習(2時間) |
| 第14回 | ベンチャー企業と政策 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき, ビデオ演習を含む, 講義内容の復習(2時間) |
| 第15回 | 講義のまとめ(講義内容全体の総括) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき, ビデオ演習を含む, 講義内容の復習(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験等 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|---|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1EMN-6040-U2E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 中小企業論 | 219～ 経営情報学科 | 2・3年生・前期 | 2単位 | 選択 | 遠藤 真紀 | ○ |
| | ～218 | 2年生・後期 | | | | |
| 履修の前提条件 | 中小企業論は、大企業に焦点をあてた一般的な経営学を中小企業にあてはめていく学問です。よってベースとなる基本的な経営学関連科目の「経営学総論(経営学入門)」や「経営戦略論」、「マーケティング論」、「会計学入門」、「簿記」などを履修し、理解しておく事が必要です。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>中小企業診断士として、企業の経営戦略立案や事業計画作成の支援等、経営コンサルタントの経験を持つ教員が担当します。中小企業は、わが国において企業数および雇用される従業員数とも圧倒的多数を占め、またわが国産業の競争力を下支えています。講義では、大企業との格差問題や下請問題のみならず、中小企業が社会や地域経済に寄与していることについて議論していきます。テキストだけでなくビデオ教材等を活用し、また実務経験を踏まえ具体的な事例を交え、構造的・政策的・実践的な議論を展開していきます。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>中小企業における基礎的知識(特性や役割および政策等)および今日的な課題(大企業との格差問題や下請問題および中小企業に必要なマネジメント等)についての知識を修得し、理解していること。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|------------------------------|-------------------------------|---|
| <p>基本的に対話型の講義になります。よってただ単に出席し、講義を聴いているだけでは単位取得できません。講義中に行われる教員からの質問等へ積極的に対応し、自身の意見を発言していくことが求められます。また中小企業の経営や戦略等に関するビデオ聴講等による演習を行います。聴講したビデオに基づき、ディスカッションを行うため、ビデオ内容の聞き取り力、メモ力、聴講した内容や関連情報との考察力を養っていきます。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>教員への講義内容および企業情報や企業経営等に関する質問および関連資格の取得方法等を含む学生生活全般に関するアドバイス・相談等は研究室で対応します。オフィスアワー以外の不在時には、研究室のメッセージボードやEメール(endo@kuis.ac.jp)等を活用してください。自主性を重要視するので「来る者拒まず、去る者追わず」のスタンスで対応しますが、「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」という格言の通りです。積極的な教員へのコンタクトおよびコミュニケーションが期待されます。</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>希望者には、必要に応じて、販売士(3級～1級)、経営学検定(マネジメント検定:初級、中級、上級)、中小企業診断士等、経営学に関連する資格試験の受験指導を行います。宿題となる課題レポートの提出以外に、資格試験への積極的な取り組みや関連するレポートおよび学習記録(ポートフォリオ等)の提出は平常点として加味します。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 中小企業経営入門 | 井上・木村・瀬戸編著 | 中央経済社 | 978-4-502-11761-9 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 現代中小企業経営論 よくわかる経営戦略論 戦略プロフェッショナル | 川上義明 井上善海・佐久間信夫編著 三枝 匡 | 税務経理教会 ミネルヴァ書房 日経ビジネス文庫 | 4-419-04660-0 978-4-623-05069-7 978-4-532-19145-0 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>成績評価方法: 定期試験、平常点(出席率、ディスカッションへの参加、各種レポート提出、資格試験への取り組み、ポートフォリオ提出、教員とのコミュニケーションなど学習に対する積極性)等を総合的に考慮して評価します。 評価基準: 学習に対する積極性および中小企業の経営についての基礎知識および今日的な課題についての知識を修得し、理解している。また企業経営に関して、今後の自身の自律的・自発的な行動への判断基準が持てている。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|---------------------------|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 講義の目的と進め方(講義内容のアウトラインの理解) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 中小企業およびそれに関連する事例などがWEBや雑誌等に多く掲載されているため、積極的にアクセスし、自分の挑戦材料として頭に入れておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本講義のアウトラインについて復習, 課題への取り組み(2時間) |
| 第2回 | 中小企業の特徴 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき, ビデオ演習を含む, 講義内容の復習(2時間) |
| 第3回 | 中小企業の歴史 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき, ビデオ演習を含む, 講義内容の復習(2時間) |
| 第4回 | 海外の中小企業 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき, ビデオ演習を含む, 講義内容の復習(2時間) |
| 第5回 | 中小企業問題と中小企業政策 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき, ビデオ演習を含む, 講義内容の復習(2時間) |
| 第6回 | 中小企業の戦略マネジメント | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき, ビデオ演習を含む, 講義内容の復習(2時間) |
| 第7回 | 下請分業構造の変容と中小企業のマネジメント | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき, ビデオ演習を含む, 講義内容の復習(2時間) |
| 第8回 | 中小企業ネットワークのマネジメント | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき, ビデオ演習を含む, 講義内容の復習(2時間) |

| | | |
|----------------|------------------------|-----------------------------------|
| 第9回 | 地域産業集積の変容と中小企業のマネジメント | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき, ビデオ演習を含む, 講義内容の復習(2時間) |
| 第10回 | グローバル経済の変容と中小企業のマネジメント | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき, ビデオ演習を含む, 講義内容の復習(2時間) |
| 第11回 | 中小企業の組織・人材マネジメント | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき, ビデオ演習を含む, 講義内容の復習(2時間) |
| 第12回 | 中小企業の事業承継マネジメント | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき, ビデオ演習を含む, 講義内容の復習(2時間) |
| 第13回 | 中小企業の製品開発・事業開発マネジメント | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき, ビデオ演習を含む, 講義内容の復習(2時間) |
| 第14回 | 中小企業の財務マネジメント | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき, ビデオ演習を含む, 講義内容の復習(2時間) |
| 第15回 | 講義のまとめ(講義内容全体の総括) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料等の事前確認および課題への取り組み(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義ノートに基づき, ビデオ演習を含む, 講義内容の復習(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験等 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1EMN-6320-Z2E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| ビジネスプランニング | 219～ 経営情報学科 | 3・4年生・後期 | 2単位 | 選択 | 遠藤 真紀 | ○ |
| | ～218 経営情報学科 | 3・4年生・前期 | | | | |
| 履修の前提条件 | 自身のビジネスアイデアを事業計画書へまとめるにあたり、「経営学総論(経営学入門)」をはじめ、「会計学入門」、「簿記」、「経営戦略論」、「マーケティング論」、「消費者行動論」、「流通経済論」、「会計学入門」など、基本的な経営学関連科目を履修し、理解している事が前提です。需要予測や資金計画・利益計画も作成するため、特に計数管理に必要な財務会計などの知識は必須となります。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>中小企業診断士として、企業の事業計画や創業計画の作成支援等、経営コンサルティング実務の経験を持つ教員が担当します。新しくビジネスを興す場合、製品・サービスの市場性等の見きわめ(市場調査・需要予測などの外部環境分析)や自社(自分)の能力評価(内部環境分析)が必要なため、過去の実務経験を踏まえ、アイデアの出し方やまとめ方および事業計画の作成方法をテキストやワークシート等を使って講義します。最終的には、自分のビジネスアイデアを事業計画書としてまとめ、その内容をプレゼンテーションしてもらいます。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | ○ |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | ○ |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | ○ |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>ビジネスの着眼点や起業して事業を成功させるために必要なマーケティングおよび資金計画・利益計画など、事前検討項目を理解するとともに、講義・演習を通じて、その検討結果を自分自身の事業計画書(ビジネスプラン)としてまとめていく能力を養成します。同時に、事業の成功や失敗のケースを学び、社会に出てから役に立つ経営学について関心を持ち、積極的に関連する資格(簿記や販売士等)にも挑むようになる。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|------------|---------------|-------------------|
| <p>基本的に対話型・演習型の講義になります。よってただ単に出席し、講義を聴いているだけでは単位取得できません。講義中に行われる教員からの質問等へ積極的に対応し、自身のビジネスアイデア・ビジネスプランについての発表が期待されます。またベンチャー企業や革新的企業の経営や戦略等に関するビデオ演習等を行います。資料やビデオ等に基づきディスカッションを行うため、ビデオ内容の聞き取り力、メモ力、聴講した内容や関連情報との考察力を養っていきます。また土日を使った集中講義や学外の企業見学および既存のお店の損益分析などのビジネスシミュレーションを行う事もあります。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>教員への講義内容および企業情報や企業経営等に関する質問および関連資格の取得方法等を含む学生生活全般に関するアドバイス・相談等は研究室で対応します。オフィスアワー以外の不在時には、研究室のメッセージボードやEメール(endo@kiis.ac.jp)等を活用してください。自主性を重要視するので「来る者拒まず、去る者追わず」のスタンスで対応しますが、「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」という格言の通りです。積極的な教員へのコンタクトおよびコミュニケーションが期待されます。</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>希望者には、必要に応じて、販売士(3級～1級)、経営学検定(マネジメント検定:初級、中級、上級)、中小企業診断士等、経営学に関連する資格試験の受験指導を行います。宿題となる課題レポートの提出以外に、資格試験への積極的な取り組みや関連するレポートおよび学習記録(ポートフォリオ等)の提出は平常点として加点します。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 事業再構築のプランニング | 井上善海ほか | 中央経済社 | 4-502-37510-1 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| さあ、発明家の出番です! | 藤村靖之 | 風媒社 | 4-8331-3134-X |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>成績評価方法:出席率、ディスカッションへの参加、各種レポート課題・ビジネスプランの提出、ポートフォリオ提出、教員とのコミュニケーションなど学習に対する積極性等を総合的に考慮して評価します。 評価基準:広く社会や企業および仕事の意義等について理解している。一貫性のあるビジネスプラン作成のプロセスおよび必要な各検討項目を理解している。自分自身のアイデアをビジネスプランとしてまとめることができる。また各種の資格にも挑むくらい、経営学について関心を持ち、学習に対する積極性をもっていること。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|------------------------------------|---|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 講義の目的と進め方(講義内容のアウトラインおよびワークシートの理解) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | シラバス, テキストの確認とビジネスアイデアの検討(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料の再確認とビジネスアイデアの検討(2時間) |
| 第2回 | 自信と企業の関係, 企業の存在意義と成長要因 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料の確認とビジネスアイデアの検討(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料の再確認とビジネスアイデアの検討(2時間) |
| 第3回 | 経営理念・事業コンセプトの重要性 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料の確認とビジネスアイデアの検討(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | テキストおよび配布資料の再確認とビジネスアイデアの検討(2時間) |
| 第4回 | 新事業計画の策定手順と記入例 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 配布資料(事業計画書ワークシート)の事前確認とビジネスアイデアの検討(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料(事業計画書ワークシート記入例)の再確認とビジネスアイデアの検討(2時間) |
| 第5回 | 事業計画ワークシートの作成－演習(1):ビジネスアイデアの抽出 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 配布資料(事業計画書ワークシート記入例)の再確認とビジネスアイデアの検討(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 自身のビジネスアイデアの検討(2時間) |
| 第6回 | 事業計画ワークシートの作成－演習(2):ビジネスアイデアの評価 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 自身のビジネスアイデアの検討と評価(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 自身のビジネスアイデアの評価とブラッシュアップ(2時間) |
| 第7回 | 事業計画ワークシートの作成－演習(3):事業コンセプトと経営理念 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 自身のアイデアの事業コンセプトの検討(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 自身のアイデアの事業コンセプトのブラッシュアップ(2時間) |
| 第8回 | 事業計画ワークシートの作成－演習(4):外部環境と内部環境の評価 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 自身の事業内容の外部環境・内部環境の検討(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 自身の事業内容の外部環境・内部環境の再検討(2時間) |

| | | |
|----------------|--------------------------------------|---------------------------------|
| 第9回 | 事業計画ワークシートの作成－演習(5):マーケティングの展開 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 自身の事業内容のマーケティングの検討(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 自身の事業内容のマーケティングの再検討(2時間) |
| 第10回 | 事業計画ワークシートの作成－演習(6):ビジネスモデルの検討 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 自身の事業内容のビジネスモデルの検討(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 自身の事業内容のビジネスモデルのブラッシュアップ(2時間) |
| 第11回 | 事業計画ワークシートの作成－演習(7):収支計画(見積損益計算書の作成) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 自身の事業内容の収支計画の検討(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 自身の事業内容の収支計画の再検討(2時間) |
| 第12回 | 事業計画ワークシートの作成－演習(8):資金計画(設備資金と運転資金) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 自身の事業内容の資金計画の検討(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 自身の事業内容の資金計画の再検討(2時間) |
| 第13回 | 事業計画ワークシートの作成－演習(9):販売計画 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 自身の事業内容の販売計画の検討(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 自身の事業内容の販売計画の再検討(2時間) |
| 第14回 | ビジネス・プレゼンテーション(プレゼンテーションとビジネスプランの評価) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 自身の事業のプレゼンテーション内容の検討(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 自身の事業のプレゼンテーション内容のブラッシュアップ(2時間) |
| 第15回 | 講義のまとめと全体総括 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 自身の事業計画書の再確認(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義のまとめと全体総括の復習(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 事業計画書(ビジネスプラン)およびプレゼンテーション資料の提出 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|---|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1EMN-5450-Z2E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 地域経済論 | ~218 経営情報学科 | 2年生・前期 | 2単位 | 選択 | 坂本 徹 | |
| 履修の前提条件 | コンピュータを大学のネットワークに接続できる状態にしておいて下さい。パスワードの有効期限は6か月ですから、有効期限のチェックや更新、再発行の手続きなど意外に時間がかかります。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>本講義ではまずデータについて学び、次いでそのデータを使った種々の物差し(指標)について学ぶ。分析の基礎となる地域のデータは、全国もれなく、長い期間にわたって、同じ内容で記録され続けている必要がある。この条件を満たすデータはそう多くはない。データについての学習ではこうした条件を満たす日本の5大センサスについて学ぶ。次にある地域の特徴をまとめたり、同地域の昔と今、または他の地域と比較するといった作業には、物差しが必要である。人々の密集している町の様子を「人口密度」で表してみるといった際の「人口密度」は人口というデータと面積というデータを組み合わせて作った物差し(指標)であるといった具合である。このようにしてできあがった指標の観察をとおして、質的变化を量的変化で表すことを学習する。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | ○ |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ |
| | 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| 日本の5大センサスにアクセスして、日本国内であればどここのデータでも収集し、簡単な分析ができるようになる事。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|------------|---------------|---------------------|
| 授業ではコンピュータの操作を通して、データベースへのアクセス、データの取り込み、データの編集と分析を行います。これまでに修得したコンピュータの知識・技術を総動員して、又は思い出しながら自らの経験として積み上げて行くこと。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 授業中に生じた疑問点・意見は、できるだけその場で採り上げて行きます。その他については月曜の3・4時間目(12:50~16:00)をオフィスアワーとしていますので、この時間帯は事前連絡無しでお待ちしています。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 太宰府キャンパスネットワーク、本学地域情報センター、国際交流センター、公開講座の諸事業に参加した者は成績評価の対象とします。 学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 地域経済論 —データベースへのアクセスと利用を中心に— | 坂本 徹 | 東筑印刷 | 私家版 授業中に配布 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 地域文分析入門 | 大友 篤 | 東洋経済新報社 | IISBN-4-492-47035-2 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 評価 = 中間レポート + 定期試験評価 4 : 6 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|---------------------------------------|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 地域経済論の生い立ち | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストpp2～4地域経済学の生い立ちを読んでおいて下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 自身が今学問体系のどの部分を進もうとしているかについてまとめてみて下さい。(2時間) |
| 第2回 | 地域の概念 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストpp9～10を読んで”地域”の概念について考えをまとめておいて下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 自分が取り扱ったことがあるデータベース(学習教材も可)の事例を挙げて下さい。(2時間) |
| 第3回 | 統計地域(行政地域、人口集中地区、大都市圏・都市圏) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストpp10～13を読んで”地域”の概念について考えをまとめておいて下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ”形式地域”と”実質地域”について理解できたこと、その1例を1つずつ挙げて下さい。(2時間) |
| 第4回 | 統計地域(農業集落、国勢統計区、地域メッシュ) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストpp14～18を読んで”地域”の概念について考えをまとめておいて下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ”形式地域”と”実質地域”について理解できたこと、その1例を1つずつ挙げて下さい。(2時間) |
| 第5回 | 産業分類 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 既存の知識で第1次産業の細分化を試してみてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ”産業分類”をキーワードにして検索し、第1次産業の細分化を試してみてください。(2時間) |
| 第6回 | 日本の五大統計調査(国勢調査、事業所統計調査、農林業センサス) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストpp22～23を読んで各データベースについて考えをまとめておいて下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | どれか1つを選んでデータベースにアクセスしてみてください。(2時間) |
| 第7回 | 日本の五大統計調査(商業統計調査、工業統計調査) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストp24を読んで各データベースについて考えをまとめておいて下さい。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | どれか1つを選んでデータベースにアクセスしてみてください。(2時間) |
| 第8回 | その他の統計(住民基本台帳人口、人口動態統計、住宅統計調査、家計調査年報) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストpp20～21を読んで”センサス”の意義を確認してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | テキストp25図3-3を利用し自然動態、社会動態を表す2次資料にアクセスして、太宰府市のデータをとってみましょう。(2時間) |

| | | |
|----------------|--|---|
| 第9回 | データ特性(量的データ、質的データ、時系列データ、横断面データ、パネル調査) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストpp29～33を読んで”データの特性”を確認してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 自身が取り扱ったデータの特性について再考してみてください。(2時間) |
| 第10回 | 産業立地の科学的な見方 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストpp34～37を読んで”産業立地”について考えてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 農業、工業の立地についてあなたの感想をまとめてみて下さい。(2時間) |
| 第11回 | 産業立地の科学的な見方 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストpp39～42を読んで”産業立地”について考えてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 商業の立地についてあなたの感想をまとめてみて下さい。(2時間) |
| 第12回 | 地域特性の測度 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストpp43～44を読んで”測度”について考えてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本稿で言う”データ”と”情報”の相違を事例を挙げて説明してみてください。(2時間) |
| 第13回 | データ分析 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストpp45～50を読んで”分析事例”について考えてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ”国勢調査”を事例に、データベースへのアクセスとコピーを実習してみてください。(2時間) |
| 第14回 | 商業統計の分析 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストpp69～76を読んで”分析事例”について予習しておいてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 商業統計を事例に、データベースへのアクセス、コピー、編集、分析の手順を確認してください。(2時間) |
| 第15回 | 工業統計の分析 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストpp77～86を読んで”分析事例”について予習しておいてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 工業統計を事例に、データベースへのアクセス、コピー、編集、分析の手順を確認してください。(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1EGN-5510-22E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 国際経営論 | 219～ 経営情報学科 | 2年生・後期 | 2単位 | 選択 | 小川 雄平 | |
| | ～218 経営情報学科 | 3・4年生・前期 | | | | |
| 履修の前提条件 | ①世界経済や多国籍企業に関心があること。 ②新聞を読むこと。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>経済のグローバル化と少子高齢化の進行に対応して、日本企業は製造業から商業・小売業に至るまで、中国やASEAN等のアジア諸国への進出を余儀なくされている。授業では、グローバル化する世界経済の実態を解明し、経済環境に対応する企業の国際経営戦略を、新聞報道による実例も取り上げて、分かり易く解説する。授業は、毎回準備するプリントとテキストを併用して行う。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>世界経済の実態を把握し、企業の国際経営戦略の課題を理解することで、より専門的な学習への橋渡しと、実生活での活用に役立つことを目指す。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|------------|---------------|-------------------|
| <p>①授業中に受講生からの質問を受けたり、受講生に質問したりする等、双方向・対話型の授業を心掛け、受講生の積極的な学習意欲を引き出したい。 ②オフィスアワーを設けて、研究室での質問を受け付ける。 ③メールによる質問も歓迎する。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>オフィスアワーは研究室(182号室)に待機しているので、気軽に訪ねてほしい。 メールによる質問も活用してほしい(メールアドレス:ogawa@kiis.ac.jp)。</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修度確認チェック表」に必要事項を記入してメールで提出すること。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 国際ビジネス論を学ぶ | 小川雄平・猿渡剛編著 | 中央経済社 | 978-4-502-35761-9 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 国際経営 第4版 | 吉原英樹 | 有斐閣 | 978-4-641-22064-5 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>定期試験を実施する。成績評価は、定期試験70%、授業中に実施する小テスト30%とする。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|---|---|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 経営と経済:株式会社の仕組みと企業経営 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | シラバスをよく読んで、注意事項をメモし、授業の全体の流れを把握しておく。 時間:2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | プリントを熟読して授業内容を振り返り、不明な個所を明らかにしておく。 時間:2時間 |
| 第2回 | 多国籍企業の経営目標と国際経営戦略:企業のグローバル展開と国内の空洞化 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | プリントをよく読んで「企業の国際展開」について事前学習しておく。 時間:2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | テキストの5章を熟読して、多国籍企業についての理解を深める。 時間:2時間 |
| 第3回 | 日本企業のグローバル展開:賃金高騰・貿易摩擦・円高の回避 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの序章をよく読んで事前学習し、疑問点を見つけておく。 時間:2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 疑問点が解消したか確認し、プリントを読んで授業内容を復習する。 時間:2時間 |
| 第4回 | 日本企業とアジアビジネス:少子高齢化の進行、アジアのボリュウムゾーン、インバウンド消費 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの4章と11章をよく読んで事前学習し、疑問点を見つけておく。 時間:2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 疑問点が解消したか確認し、プリントを読んで、授業内容を復習する。 時間:2時間 |
| 第5回 | 貿易取引の実際と多国籍企業の企業内取引 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | プリントを読んで、外国為替の仕組みを理解し、疑問点を見つけておく。 時間:2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 疑問点が解消したか確認し、授業内容を振り返って復習する。 時間:2時間 |
| 第6回 | 為替レートと企業戦略Ⅰ:為替レートの決定要因、為替レートの影響、社内レート | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの3章をよく読んで事前学習し、疑問点を見つけておく。 時間:2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 疑問点が解消したか確認し、プリントを読んで授業内容を復習する。 時間:2時間 |
| 第7回 | 為替レートと企業戦略Ⅱ:円高と生産・輸出拠点の移転・再移転 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | プリントをよく読んで事前学習し、疑問点を見つけておく。 時間:2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 疑問点が解消したか確認し、授業内容を振り返って復習する。 時間:2時間 |
| 第8回 | FTA(自由貿易協定)と企業戦略 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの2章をよく読んで事前学習し、疑問点を見つけておく。 時間:2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 疑問点が解消したか確認し、プリントを読んで授業内容を復習する。 時間:2時間 |

| | | |
|----------------|--|--|
| 第9回 | 日本のFTAⅠ:①シンガポールとのFTA ②メキシコとのFTA | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの8章をよく読んで事前学習し、疑問点を見つけておく。 時間:2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 疑問点が解消したか確認し、プリントを読んで授業内容を復習する。 時間:2時間 |
| 第10回 | 日本のFTAⅡ:メガFTA(ASEANとのFTA、EUとのFTA、TPP11、RCEP) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | プリントをよく読んで事前学習し、疑問点を見つけておく。 時間:2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 疑問点が解消したか確認し、授業内容を振り返って復習する。 時間:2時間 |
| 第11回 | メガFTAと企業戦略 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | プリントをよく読んで事前学習し、疑問点を見つけておく。 時間:2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 疑問点が解消したか確認し、授業内容を振り返って復習する。 時間:2時間 |
| 第12回 | 自動車生産・輸出基地としてのメキシコ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの7章をよく読んで、自動車生産についての理解を深めておく。 時間:2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 疑問点が解消したか確認し、プリントを読んで授業内容を復習する。 時間:2時間 |
| 第13回 | 部品調達とグローバルサプライチェーン | |
| | 事前学習 (内容・時間) | プリントをよく読んで事前学習し、疑問点を見つけておく。 時間:2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 疑問点が解消したか確認し、授業内容を振り返って復習する。 時間:2時間 |
| 第14回 | 多国籍企業とタックスヘイブン(租税回避) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | プリントをよく読んで事前学習し、疑問点を見つけておく。 時間:2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 疑問点が解消したか確認し、プリントを読んで授業内容を復習する。 時間:2時間 |
| 第15回 | 日本企業の税務戦略と移転価格税制 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | プリントをよく読んで事前学習し、疑問点を見つけておく。 時間:2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 疑問点が解消したか確認し、授業内容を振り返って復習する。 時間:2時間 |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1EGN-5530-22E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 国際情報分析 | 219～ | 2年生・後期 | 2単位 | 選択 | クリス フリン | |
| 履修の前提条件 | 英検準2級・TOEIC 550程度の英語能力が必要。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| この講義では世界のマスコミや情報源を紹介し、主に英語の情報を分析して研究する。毎週時事ニュースの記事を紹介し、研究する。世界の主な新聞、テレビ、インターネットサイトなどの記事やレポートを徹底的に分析、理解、そして議論する。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| 現代の社会では国際化・情報化がマスコミに大きな影響を与えてきた。衛星テレビ、インターネットのニュースサイトやテレビ局のon-demand動画映像などが大量の情報を供給しているが、その中から適切な情報を検索、選択する技術が求められている。またはいわれるFAKE NEWSを見分けるスキルも身に付ける | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|------------|---------------|-------------------|
| 中間試験と期末試験として、学生が新聞記事などを用意し、クラスに詳しく説明するというプレゼンテーション形式を実施する。または積極的に毎週の主なニュースを調べて、クラスに紹介する。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 連絡、問い合わせ、相談等は研究室(362)にて随時受け付けます。オフィスアワー： 火曜日2時限目と5時限目 flynn-c@g.kiis.ac.jp | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 外部試験：英検検定2～3級を受験すること。試験結果を成績評価の対象とします。 試験日 5,10,1月、会場 CDCセンター、詳細は後日連絡します。 学習の確認：ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入すること。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 毎週、新聞記事をプリントして配布する。その記事はテストの題材となる | | | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| | | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 50%授業の貢献度、50%期末レポート・試験 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|---|--------------------------------------|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | Introduction to Media Studies 国際情報分析・メディア | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 毎週、最近のニュースについて調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 記事の単語や表現のリストを作成、関連記事や動画ニュースを検索。(2hr) |
| 第2回 | The Tank Man, 戦車男 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 毎週、最近のニュースについて調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 記事の単語や表現のリストを作成、関連記事や動画ニュースを検索。(2hr) |
| 第3回 | Word of the Year 新流行語大賞(英語) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 毎週、最近のニュースについて調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 記事の単語や表現のリストを作成、関連記事や動画ニュースを検索。(2hr) |
| 第4回 | Gun Laws in Australia オーストラリアの銃規制 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 毎週、最近のニュースについて調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 記事の単語や表現のリストを作成、関連記事や動画ニュースを検索。(2hr) |
| 第5回 | Singles Day and Baby Formula 中国の独身の日と粉乳 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 毎週、最近のニュースについて調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 記事の単語や表現のリストを作成、関連記事や動画ニュースを検索。(2hr) |
| 第6回 | Most Powerful Passport パスポートランキング | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 毎週、最近のニュースについて調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 記事の単語や表現のリストを作成、関連記事や動画ニュースを検索。(2hr) |
| 第7回 | Amazon Drone Delivery アマゾンのドローン配達 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 毎週、最近のニュースについて調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 記事の単語や表現のリストを作成、関連記事や動画ニュースを検索。(2hr) |
| 第8回 | 中間テスト、これまで勉強した7回の記事についてのテスト | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 1から7の記事を復習すること。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 記事の単語や表現のリストを作成、関連記事や動画ニュースを検索。(2hr) |

| | | |
|----------------|--|--------------------------------------|
| 第9回 | Dutch Embassy in China 中国のオランダ大使館 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 毎週、最近のニュースについて調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 記事の単語や表現のリストを作成、関連記事や動画ニュースを検索。(2hr) |
| 第10回 | Japanese Idols Nazi Uniform アイドルのナチス制服 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 毎週、最近のニュースについて調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 記事の単語や表現のリストを作成、関連記事や動画ニュースを検索。(2hr) |
| 第11回 | Smoking Rates Fall in Australia オーストラリアの喫煙率低下 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 毎週、最近のニュースについて調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 記事の単語や表現のリストを作成、関連記事や動画ニュースを検索。(2hr) |
| 第12回 | Bilingual Media ニヶ国語メディア | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 毎週、最近のニュースについて調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 記事の単語や表現のリストを作成、関連記事や動画ニュースを検索。(2hr) |
| 第13回 | Case Study 1 ケーススタディ 1 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 毎週、最近のニュースについて調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 記事の単語や表現のリストを作成、関連記事や動画ニュースを検索。(2hr) |
| 第14回 | Case Study 2 ケーススタディ 2 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 毎週、最近のニュースについて調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 記事の単語や表現のリストを作成、関連記事や動画ニュースを検索。(2hr) |
| 第15回 | Presentation tests preparation テスト準備 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 毎週、最近のニュースについて調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 記事の単語や表現のリストを作成、関連記事や動画ニュースを検索。(2hr) |
| 第16回 (定期試験) | Presentation test テスト発表、 自分で選んだニュース記事(英語)を紹介して、難しい表現やコンセプトを日本語で説明する | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1EGN-5030-22ES | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 英検上級 I・TOEIC応用 I | 221～ | 2年生・前期 | 2単位 | 選択 | クリス フリン | |
| TOEIC I | 219・220 経営情報学科 | | | | | |
| 英検上級 I・TOEIC応用 I | ～218 | | | | | |
| 履修の前提条件 | ①積極的に声を出して授業に参加すること ②資格試験を積極的に受験すること ③英検3級程度の英語能力は基準 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>テキストに沿って海外旅行で使うTOEIC問題を交学びながら、日本人が苦手とする発音や文法を徹底的に学ばせる。テキストに加えて動画、オーディオ、歌、ゲームなどを使い、楽しく英語を身につけるように工夫したい。定期的にトピックについて賛成反対の主張を述べさせる。TOEICの学習としてテキストを宿題とし、講義で復習。英検の問題も入れて学習する。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>21世紀のボーダーレス時代に対応できる人々を生み出すことを目指して、英語の読み書きだけでなく、話し言葉によるコミュニケーションのツールとして英語を習得させるように指導する。多くの単語を知るよりも、数少ない単語をいかに効率よく使うかで会話を豊かにできることを体得させる。そしてそのスキルを生かして、自分の意見や主張を議論(DEBATE)できるようになることとTOEIC</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|--------------------------------------|---------------|-------------------|
| <p>会話の授業ということで積極的に発言してもらいます。ENGLISH PORTFOLIOの作成、提出あり。クラスの前に立って声を出して発言をします。Active Learning Activities に参加します。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>連絡、問い合わせ、相談等は研究室(362)にて随時受け付けます。 オフィスアワー: 火曜日2時限目と5時限目 flynn-c@g.kiis.ac.jp</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>外部試験: 英検検定2～3級を受験すること。試験結果を成績評価の対象とします。試験日 1月、会場 CDCセンター、詳細は後日連絡します。TOEICは学外で受験。 学習の確認: ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入して、1月30日までに フリン までメールで提出してください。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST 2 (4th Edition) | Atsushi Mizumoto Mark D. Stafford | 桐原書店 | 978-4-34255263-2 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| その他の教材や宿題はLANに掲載 ¥\$svr260007¥share¥flynnc¥index.htm | | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>・成績評価の方法: 定期試験30%、外部試験10%、平常点30%、レポート・提出物30% ・成績評価の基準: ①外部試験は学内・学外の英検。②定期試験はTOEICの模擬試験となる</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|--------------------------|---|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | Daily Life 品詞の違い、広告を読む | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書を事前に読んで、TOEICについてネットで調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第2回 | Places カード、通知を読む | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第3回 | People 代名詞、図表とメモを読む | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第4回 | Travel 資料と手紙を読む | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第5回 | Business 動詞の形、通知・メモを読む | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第6回 | Office 手紙を読む | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第7回 | Technology 語い関係、メモと概要を読む | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第8回 | Personnel 記事を読む | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |

| | | |
|----------------|---|---|
| 第9回 | Management 接続詞、通知を読む | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第10回 | Purchasing レシートを読む | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第11回 | Finances 時制、レシピを読む | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第12回 | Media 記事を読む | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第13回 | Entertainment Eメールを読む | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第14回 | Health FAXを読む | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第15回 | TEST 定期試験 準備 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | テスト範囲を記録し、学習する。(2hr+) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験はTOEIC TEST の形式の縮小版です。LISTENING COMPREHENSION (Part 1, Part 2, Part 3) and READING COMPREHENSION Part 4, Part 5, Part 6, Part 7). Test will be 60 Minutes | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|---|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1EGN-5040-22ES | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 英検上級Ⅱ・TOEIC応用Ⅱ | 221～ | 2年生・後期 | 2単位 | 選択 | クリス フリン | |
| TOEICⅡ | 219・220 経営情報学 科 | | | | | |
| 英検上級Ⅱ・TOEIC応用Ⅱ | ～218 | | | | | |
| 履修の前提条件 | ①積極的に声を出して授業に参加すること ②資格試験を積極的に受験すること ③英検準2級程度の英語能力は基準 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>前期に続いて、テキストに沿って海外旅行で使うTOEIC問題を交学びながら、日本人が苦手とする発音や文法を徹底的に学ばせる。テキストに加えて動画、オーディオ、歌、ゲームなどを使い、楽しく英語を身につけるように工夫したい。定期的にトピックについて賛成反対の主張を述べさせる。TOEICの学習としてテキストを宿題とし、講義で復習。英検の問題も学習する。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | ○ |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>21世紀のボーダーレス時代に対応できる人々を生み出すことを目指して、英語の読み書きだけではなく、話し言葉によるコミュニケーションのツールとして英語を習得させるように指導する。多くの単語を知るよりも、数少ない単語をいかに効率よく使うかで会話を豊かにできることを体得させる。そしてそのスキルを生かして、自分の意見や主張を議論(DEBATE)できるようになることとTOEIC 800、英検の2・準1級の2次試験を合格できるレベルを目標とする。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|--------------------------------------|---------------|-------------------|
| <p>会話の授業ということで積極的に発言してもらいます。ENGLISH PORTFOLIOの作成、提出あり。クラスの前に立って声を出して発言をします。Active Learning Activities に参加します。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>連絡、問い合わせ、相談等は研究室(362)にて随時受け付けます。 オフィスアワー: 火曜日2時限目と5時限目 flynn-c@g.kiis.ac.jp</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>外部試験: 英検検定試2～3級を受験すること。試験結果を成績評価の対象とします。 試験日 1月、会場 CDCセンター、詳細は後日連絡します。TOEICは学外で受験 学習の確認: ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入して、1月30日までに フリンまでメールで提出してください。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST 3 4th Edition | Atsushi Mizumoto Mark D. Stafford | 桐原書店 | 978-4-342-55264-9 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| その他の教材や宿題はLANに掲載 ¥\$svr260007¥share¥flynnc¥index.htm | | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>・成績評価の方法: 定期試験30%、外部試験10%、平常点30%、レポート・提出物30% ・成績評価の基準: ①外部試験は学内・学外の英検。②定期試験はTOEICの模擬試験となる</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|--------------------------|---|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | Daily Life 品詞の違い、広告を読む | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書を事前に読んで、TOEICについてネットで調べる。(2hr) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第2回 | Places カード、通知を読む | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(|
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第3回 | People 代名詞、図表とメモを読む | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(|
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第4回 | Travel 資料と手紙を読む | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(|
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第5回 | Business 動詞の形、通知・メモを読む | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(|
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第6回 | Office 手紙を読む | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(|
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第7回 | Technology 語い関係、メモと概要を読む | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(|
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第8回 | Personnel 記事を読む | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(|
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |

| | | |
|----------------|---|---|
| 第9回 | Management 接続詞、通知を読む | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(|
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第10回 | Purchasing レシートを読む | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(|
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第11回 | Finances 時制、レシピを読む | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(|
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第12回 | Media 記事を読む | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(|
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第13回 | Entertainment Eメールを読む | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(|
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第14回 | Health FAXを読む | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(|
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業に出てきた新しい単語や表現をノートに記録し、学習する。(2hr) |
| 第15回 | 定期試験の準備 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の指定する部分について、事前に読んで、わからない単語の意味や発音を調べる。(|
| | 事後学習 (内容・時間) | テスト範囲を記録し、学習する。(2hr+) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験はTOEIC TEST の形式の縮小版です。LISTENING COMPREHENSION (Part 1, Part 2, Part 3) and READING COMPREHENSION Part 4, Part 5, Part 6, Part 7). Test will be 60 Minutes | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1EGA-5520-Z2E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 国際経済論 | 219～ 経営情報学科 | 3・4年生・前期 | 2単位 | 選択 | 小川 雄平 | |
| | ～218 経営情報学科 | 3・4年生・後期 | | | | |
| 履修の前提条件 | ①世界経済に関心があること。 ②新聞を読むこと。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| 著しくグローバル化した世界経済の現状、日本と中国やアジア諸国との経済関係の実情について解説するとともに、国際経済・貿易の諸理論の紹介にも努める。 テキストは使用せず、毎回準備するプリントを基に授業を進める。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | ○ |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| グローバル化した経済の現状とその歴史的歩みや国際経済・貿易の理論を理解することで、より専門的な学習への橋渡し、あるいは実社会での活動に役立てることを目指す。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|------------|---------------|-------------------|
| ①授業中に受講生に質問し、受講生の質問にも答える等双方向・対話型の授業を心がける。 ②オフィスアワーを設けて研究室での質問を受け付ける。 ③メールによる質問も歓迎する。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| ①オフィスアワーは研究室(182研究室)に待機しているので、気軽に訪ねてほしい。 ②メールによる質問も受け付けるので、ogawa@kiis.ac.jp に送信してほしい。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修度確認チェック表」に必要事項を記入して、メールで提出すること。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 教科書に代わるプリントを準備する。 | | | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 東アジア地中海経済圏 | 小川 雄平 | 九州大学出版会 | 4-87378-918-4 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 定期試験を実施する。成績評価は、定期試験70%、授業中の小テスト30%とする。 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|--------------------------------|---|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 国際経済と世界経済 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | シラバスをよく読んで、授業の全体の流れを理解し、注意事項を確認する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | プリントをよく読んで、授業内容を振り返って復習する。(2時間) |
| 第2回 | 貿易の歴史:東西貿易 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | プリントをよく読んで予習し、疑問点があればメモしておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 疑問点が解消したか確認し、授業内容を振り返って復習する。(2時間) |
| 第3回 | 資本主義成立の前提としてのアジア貿易 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | プリントをよく読んで予習し、疑問点があればメモしておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 疑問点が解消したか確認し、授業内容を振り返って復習する。(2時間) |
| 第4回 | 貿易理論Ⅰ:スミスの貿易論 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | プリントをよく読んで予習し、疑問点があればメモしておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 疑問点が解消したか確認し、授業内容を振り返って復習する。(2時間) |
| 第5回 | 貿易理論Ⅱ:リカードの比較生産費説 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | プリントをよく読んで予習し、疑問点があればメモしておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 疑問点が解消したか確認し、授業内容を振り返って復習する。(2時間) |
| 第6回 | 貿易理論Ⅲ:ミルの相互需要説 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | プリントをよく読んで予習し、疑問点があればメモしておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 疑問点が解消したか確認し、授業内容を振り返って復習する。(2時間) |
| 第7回 | 貿易理論Ⅳ:古典学派の収支均衡メカニズム、乗数理論と貿易乗数 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | プリントをよく読んで予習し、疑問点があればメモしておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 疑問点が解消したか確認し、授業内容を振り返って復習する。(2時間) |
| 第8回 | 貿易取引と為替の原理 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | プリントをよく読んで予習し、疑問点があればメモしておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 疑問点が解消したか確認し、授業内容を振り返って復習する。(2時間) |

| | | |
|----------------|-------------------------|--|
| 第9回 | 為替レート決定と為替レート | |
| | 事前学習 (内容・時間) | プリントを読んで為替レートについて予習し、疑問点があればメモしておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 疑問点が解消したか確認し、授業内容を振り返って復習する。(2時間) |
| 第10回 | 生産性格差・賃金格差・為替レート | |
| | 事前学習 (内容・時間) | プリントをよく読んで予習し、疑問点があればメモしておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 疑問点が解消したか確認し、授業内容を振り返って復習する。(2時間) |
| 第11回 | 海外直接投資と国際収支 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | プリントを読んで国際収支について予習し、疑問点があればメモしておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 疑問点が解消したか確認し、授業内容を振り返って復習する。(2時間) |
| 第12回 | 関税 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | プリントを読んで関税について予習し、疑問点があればメモしておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 疑問点が解消したか確認し、授業内容を振り返って復習する。(2時間) |
| 第13回 | WTO(世界貿易機関)とFTA(自由貿易協定) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | WTOについて調べておき、疑問点があればメモしておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 疑問点が解消したか確認し、授業内容を振り返って復習する。(2時間) |
| 第14回 | 国際経済と物流 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | プリントをよく読んで予習し、疑問点があればメモしておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 疑問点が解消したか確認し、授業内容を振り返って復習する。(2時間) |
| 第15回 | 局地的経済圏と地域経済協力 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | プリントをよく読んで予習し、疑問点があればメモしておく。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 参考書の8章をよく読んで、授業内容を振り返って復習する。(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 | |

| | | | | | | |
|---|---|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
| 1EGA-5540-Z2E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 国際政治学 | 共通 経営情報学科 | 3・4年生・前期 | 2単位 | 選択 | 坂上 宏 | |
| 履修の前提条件 | ①「政治学」「哲学」「政治学Ⅰ・Ⅱ」をすでに受講済みであることが望ましい。②カント『永遠平和のために』を読了しておくことが望ましい。※禁止事項：不必要な私語。正当な理由でない遅刻および許可のない入退室。携帯電話の使用。その他指定する事項。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| 近代国際関係の成立に関して、その最も重要な契機となるのが1648年ウェストファリア講和会議です。この会議を経て、主権を有する国民国家を単位とする「国際関係」が生まれたと考えられています。この講義の前半では、H.JモーゲンソーおよびF.L.シューマンの所説に依拠しながら、近代国際関係の成立の背景として、中世末期から同会議に至る西ヨーロッパ世界の変遷について説明し、次に近代国際関係の主要な特徴である国家主権、国際法、勢力均衡について解説します。後半では、イマニュエル・カントの道徳論とそれに立脚する平和論について解説します。カントは、人間は自ら進んで善を行う「自律」的存在であるとし、そのような「市民」から成る国家間の連合によって平和が実現されると主張します。このようなカントの平和論の根底には、彼の哲学的に深遠な洞察があります。この講義では、そうした彼の思想についても可能な限り言及することしたいと思います。なおこの授業は、主として本学の建学の精神「至心」「報恩感謝・慈愛と奉仕」「容は心と呼び、心は容を呼ぶ。」およびカリキュラムポリシー「Ⅰ 建学の精神を理解させ、社会人として必要な態度・志向性を養うこと。」「Ⅲ 社会の諸問題についての知識・理解や汎用的技能を高めること。」に則り行われるものです。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ |
| | 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| 本講義の目標は、第一に受講者がH.JモーゲンソーおよびF.L.シューマンが説明する近代国際関係の成立とその基本的特徴について理解できるようになることです。第二にイマニュエル・カントの説く平和論の内容について理解できるようになることです。これらにより、受講者の国際政治に関する歴史的・理論的視野を広げることがさらなる目標です。 | | | | | | |

| | | | |
|---|--------------|---------------|------------------------|
| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
| 対話型の授業を心がけます。学生からの積極的な発言を期待します。毎回の授業の終わりにポートフォリオ & ルーブリックへの記入をお願いします。感じたことや意見などを自由に書いてください。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 連絡、問い合わせ、相談等は研究室(363)およびメール(sakagami@g.kiis.ac.jp)にて随時受け付けます。提出物はGoogleクラスルームへ出してください。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ & ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 学習の確認: ポートフォリオ & ルーブリックに必要事項を記入して、指定する日時までに提出してください。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| プリントを配布する。 | | | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 『永遠平和のために』 | カント | 岩波文庫 | 4003362594 |
| 『君主論』 | マキャベリ | 岩波文庫 | 4003400000 |
| 『リヴァイアサン(1)~(4)』 | ホッブズ | 岩波文庫 | 4003400410・429・437・445 |
| 『国際政治 上中下』※特に中巻 | モーゲンソー(原彬久ほか | 岩波文庫 | 4003402812・2820・2839 |
| 『国際政治 上下』※特に上巻 | 訳) | 東京大学出版 | 4130300296,413030030X |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 成績評価の方法: 試験90%。平常点10%(毎回の授業の事前学習と事後学習の提出、ポートフォリオ & ルーブリックの提出)。 成績評価の基準 ①西欧国家体系の特質について、特にウェストファリア体制の成立、国家主権、国際法、勢力均衡について理解しているか。 ②カントの平和論について、特に実践理性、平和状態と市民的体制、国際法と諸国家の連合、世界市民法と普遍的な友好に関してそれぞれの内容を理解しているか。 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|--|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 授業の方針、現代国際関係の特徴、中世ヨーロッパ社会の特徴 :プリント1 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 国際社会と国内社会の違いについて、第1回の授業プリントを読んで説明してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | シューマンは「西欧国家体系」についてどのように述べていますか。(2時間) |
| 第2回 | 中世から近代への移行(ルネサンス運動、宗教改革など) :プリント2 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 中世から近代への移行を可能にした4つの要因について、第2回の授業プリントを読んで説明してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 近代国際関係の特徴について、授業ではどのように説明されていましたか。(2時間) |
| 第3回 | ドイツ30年戦争とウェストファリア条約 :プリント3 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ドイツ30年戦争の性格について、第3回の授業プリントを読んで説明してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ウェストファリア条約成立によって生まれた国際関係の特徴について、授業ではどのように説明されていましたか。 |
| 第4回 | 国際政治とは何か、西欧国家体系を構成する概念その1(国家主権の概念について、その思想の変遷):プリント4 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | シューマンによる国際政治の定義について、第4回の授業のプリントを読んで説明してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ボーダンによる主権の定義について、授業ではどのように説明されていましたか。(2時間) |
| 第5回 | 西欧国家体系を構成する概念その1(国家主権の概念について、その思想の変遷)、西欧国家体系を構成する概念その2(国際法と国際社会):プリント5 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | グロティウスによる主権の定義について、第5回の授業のプリントを読んで説明してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 国際法の形式に関する国際司法裁判所の解釈について、授業ではどのように説明されていましたか。(2時間) |
| 第6回 | 西欧国家体系を構成する概念その2(国際法と国際社会):プリント6 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 国際法の問題点について、第6回の授業のプリントを読んで説明してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 国際法と国際社会について、授業ではどのように説明されていましたか。(2時間) |
| 第7回 | 西欧国家体系を構成する概念その3(勢力均衡とパワー・ポリティクス) :プリント7 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 勢力均衡と国家の目的について、第7回の授業のプリントを読んで説明してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 勢力均衡の基本的モデル(同盟)について、授業ではどのように説明されていましたか。(2時間) |
| 第8回 | 西欧国家体系を構成する概念その3(勢力均衡とパワー・ポリティクス) :プリント8 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 勢力均衡政策の一つである「代償」について、第8回の授業のプリントを読んで説明してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | シューマンの軍備の見方について、授業ではどのように説明されていましたか。(2時間) |

| | | |
|----------------|---|--|
| 第9回 | 西欧国家体系を構成する概念その3(勢力均衡とパワー・ポリティクス):プリント9 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 国際政治の2つのアプローチについて、第9回の授業のプリントを読んで説明してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「均衡とは一般的な社会原理」について、授業ではどのように説明されていましたか。(2時間) |
| 第10回 | 国際政治と理想主義の思想、イマニュエル・カントの思想:その生涯と思想の要点:プリント10 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 国際政治学の理想主義の基本的立場について、第10回の授業のプリントを読んで説明してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ウッドロー・ウィルソンの「平和のための14か条」の要点について、授業ではどのように説明されていましたか。(2時間) |
| 第11回 | イマニュエル・カントの思想:その生涯と思想の要点、道徳論～実践理性 :プリント11 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | カントの言葉「…感嘆と崇敬とをもって心を充たすものが二つある。それはわが上なる星の輝く空と私の内なる道徳的法則とである。」について、第11回の授業のプリントを読んで説明してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | カントの道徳法則について、授業ではどのように説明されていましたか。 |
| 第12回 | イマニュエル・カントの思想:平和論、永遠平和のための第一確定条項 :プリント12 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 市民的状态とは法的状態であるということについて、第12回の授業のプリントを読んで説明してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 永遠平和のための第一確定条項「各国家における市民的体制は、共和的でなければならない。」が、なぜ平和をもたらすのでしょうか。授業の内容を説明してください。(2時間) |
| 第13回 | イマニュエル・カントの思想:永遠平和のための第二確定条項:プリント13 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 永遠平和のための第二確定条項「国際法は、自由な諸国家の連合制度に基礎を置くべきである。」について、第13回のプリントを読んで説明してください。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | カントは、「国際連合」がなぜ平和をもたらすと考えているのでしょうか。授業の内容を説明してください。(2時間) |
| 第14回 | イマニュエル・カントの思想:永遠平和のための第三確定条項、自然の摂理と永遠平和の保証:プリント14 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 永遠平和のための第三確定条項「世界市民法は、普遍的な友好をもたらす諸条件に制限されなければならない。」について、第14回の授業のプリントを読んで説明してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | カントは、「自然の摂理」がなぜ平和を保証すると考えているのでしょうか。授業の内容を説明してください。(2時間) |
| 第15回 | イマニュエル・カントの思想④ 自然の摂理と永遠平和の保証について、道徳と政治の関係 :プリント15 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「政治の格率は法義務の純粹概念から出発しなければならない」とはどのような意味ですか。第15回の授業のプリントを読んで説明してください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「世界の過程は法の理念に向かって成長していく」とはそのような意味ですか。授業の内容を説明してください。(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験、ポートフォリオ&ルーブリック作成等 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1EGN-6280-22E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| ビジネス英語 I | 221～ | 3・4年生・前期 | 2単位 | 選択 | 藤内 響子 | |
| | 219・220 経営情報学科 | 2年生・前期 | | | | |
| | ～218 | 3・4年生・前期 | | | | |
| 履修の前提条件 | 英語の基礎力を持っていること。熱意を持って学習や発表に取り組めること。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| 商品価格や為替相場決定のメカニズムから説き起こして、関税、経済ブロック、対外債務、南北格差問題、さらには経済成長が地球環境に及ぼす影響まで。身の回りで起こっている様々な経済事象の中から、最も大きな変化をとげつつあるテーマを題材に選び、今日の世界経済を語るうえで欠かせないテーマを英語で学ぶものである。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| 基本的な経済事項を英語で理解できるようになること。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|------------|---------------|-------------------|
| 授業の内容を敷衍する形で現実に社会の中で起きている経済事象を確認し、問題点等をまとめて、授業で発表してください。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 随時研究室(272)にて受け付けます。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 外部試験として英検やTOEICの受験を推奨します。受験者には成績評価時に加点します。ポートフォリオシートは、Google Classroom を用いてやり取りを行います。必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 毎回プリントを用意して配布します | | | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 特に指定しません | | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 受講態度1割、授業中の発表および宿題2割、小テスト2割、期末テスト5割で評価します。 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|---|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | Introduction | |
| | 事前学習 (内容・時間) | |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容を復習し、解釈が正しかったかどうか確認のうえ、知らない言葉や意味のわからない概念は「マイ辞書」としてノート等にまとめ、いつでも見直せるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h) |
| 第2回 | Multimedia Revolution | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストプリントの指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。(各回ごとに2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容を復習し、解釈が正しかったかどうか確認のうえ、知らない言葉や意味のわからない概念は「マイ辞書」としてノート等にまとめ、いつでも見直せるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h) |
| 第3回 | Multimedia Revolution | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストプリントの指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。(各回ごとに2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容を復習し、解釈が正しかったかどうか確認のうえ、知らない言葉や意味のわからない概念は「マイ辞書」としてノート等にまとめ、いつでも見直せるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h) |
| 第4回 | New Information Networks | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストプリントの指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。(各回ごとに2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容を復習し、解釈が正しかったかどうか確認のうえ、知らない言葉や意味のわからない概念は「マイ辞書」としてノート等にまとめ、いつでも見直せるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h) |
| 第5回 | New Information Networks | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストプリントの指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。(各回ごとに2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容を復習し、解釈が正しかったかどうか確認のうえ、知らない言葉や意味のわからない概念は「マイ辞書」としてノート等にまとめ、いつでも見直せるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h) |
| 第6回 | The Changing Role of Japanese Trading Companies | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストプリントの指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。(各回ごとに2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容を復習し、解釈が正しかったかどうか確認のうえ、知らない言葉や意味のわからない概念は「マイ辞書」としてノート等にまとめ、いつでも見直せるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h) |
| 第7回 | Price Destruction | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストプリントの指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。(各回ごとに2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | |
| 第8回 | Untangling Japan's Distribution System | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストプリントの指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。(各回ごとに2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容を復習し、解釈が正しかったかどうか確認のうえ、知らない言葉や意味のわからない概念は「マイ辞書」としてノート等にまとめ、いつでも見直せるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h) |

| | | |
|----------------|---|--|
| 第9回 | Credit Cards and Smart Cards -A New Era- | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストプリントの指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。(各回ごとに2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容を復習し、解釈が正しかったかどうか確認のうえ、知らない言葉や意味のわからない概念は「マイ辞書」としてノート等にまとめ、いつでも見直せるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h) |
| 第10回 | Credit Cards and Smart Cards -A New Era- | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストプリントの指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。(各回ごとに2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容を復習し、解釈が正しかったかどうか確認のうえ、知らない言葉や意味のわからない概念は「マイ辞書」としてノート等にまとめ、いつでも見直せるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h) |
| 第11回 | The Importance of the Bank of Japan to the Japanese Economy | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストプリントの指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。(各回ごとに2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容を復習し、解釈が正しかったかどうか確認のうえ、知らない言葉や意味のわからない概念は「マイ辞書」としてノート等にまとめ、いつでも見直せるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h) |
| 第12回 | How the Foreign Exchange Market Works | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストプリントの指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。(各回ごとに2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容を復習し、解釈が正しかったかどうか確認のうえ、知らない言葉や意味のわからない概念は「マイ辞書」としてノート等にまとめ、いつでも見直せるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h) |
| 第13回 | APEC Takes Off | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストプリントの指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。(各回ごとに2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容を復習し、解釈が正しかったかどうか確認のうえ、知らない言葉や意味のわからない概念は「マイ辞書」としてノート等にまとめ、いつでも見直せるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h) |
| 第14回 | The Role of the World Trade Organization | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストプリントの指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。(各回ごとに2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容を復習し、解釈が正しかったかどうか確認のうえ、知らない言葉や意味のわからない概念は「マイ辞書」としてノート等にまとめ、いつでも見直せるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h) |
| 第15回 | The Role of the World Trade Organization | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストプリントの指定する部分について予習を行い、疑問点をノートにまとめておいてください。(各回ごとに2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容を復習し、解釈が正しかったかどうか確認のうえ、知らない言葉や意味のわからない概念は「マイ辞書」としてノート等にまとめ、いつでも見直せるようにしておくこと。(各回ごとに2.0h) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験等 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1EGN-6290-22E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| ビジネス英語Ⅱ | 221～ 経営情報学科 | 3・4年生・後期 | 2単位 | 選択 | 藤内 響子 | |
| | 219・220 経営情報学科 | 2年生・後期 | | | | |
| | ～218 | 3・4年生・後期 | | | | |
| 履修の前提条件 | 英語の基礎力を持っていること。熱意を持って学習や発表に取り組めること。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| 商品価格や為替相場決定のメカニズムから説き起こして、関税、経済ブロック、対外債務、南北格差問題、さらには経済成長が地球環境に及ぼす影響まで。身の回りで起こっている様々な経済事象の中から、最も大きな変化をとげつつあるテーマを題材に選び、今日の世界経済を語るうえで欠かせないテーマを英語で学ぶものである。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| 基本的な経済事項を英語で理解できるようになること。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|------------|---------------|-------------------|
| 授業の内容を敷衍する形で現実に社会の中で起きている経済事象を確認し、問題点等をまとめて、授業で発表してください。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 随時研究室(272)にて受け付けます。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 外部試験として英検やTOEICの受験を推奨します。受験者には成績評価時に加点します。ポートフォリオシートは、Google Classroom を用いてやり取りを行います。必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 毎回プリントを用意して配布します。 | | | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 特に指定しません。講義中、適宜資料を配布します。 | | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 受講態度1割、授業中の発表および宿題2割、小テスト2割、期末テスト5割で評価します。 | | | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|---|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 財務管理論Ⅱ | ～218 経営情報学科 | 3・4年生・後期 | 2単位 | 選択 | 堀 治彦 | |
| 履修の前提条件 | <ul style="list-style-type: none"> ・財務管理論Ⅰを履修しておくことが望ましい ・特に企業の「投資」、「資金調達」、「配当」などに関心を持つと、講義内容について、より深い理解が得られるため、日頃から経済ニュースにふれておくこと。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>財務管理の企業経営の中でどのような役割、機能を持っているのかを解説する。後期においては、具体的には投資、リスク、キャッシュフロー、企業の経済的価値、株主と債権者、NPV法による投資価値の測定などについての解説、計算方法などを、できる限り分かり易く、かつ基本的な理解を主眼として行う。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>本講義では下記の到達目標を設定しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・財務管理論特有の専門用語、計算規定など、講義を通じて学んだ項目について基礎的な理解・認識を修得することができる。 ・財務管理を行う立場(経営層や財務部門スタッフ)でのイメージを掴めるようになる。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|-------------------|----------------------------|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・対話型の授業を心がけるので、質問など積極的な取組みを期待します。 ・授業内で適宜実施する小テスト・レポートを活用し、授業内容の理解を深めるとともに授業への積極的な参加を促します。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・講義に関する質問、相談等は、講義終了後の教室又は研究室にて随時受け付けます。 ・オフィスアワー時間帯に受け付けます。また、オフィスアワーの時間帯以外でも必要に応じて対応します。 * 研究室にお越しの際は、事前にメールなどでご相談ください。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ & ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>テキスト以外に必要なに応じてレジュメを配布します。その場合には、各自保管をしておいてください。学習の確認として、ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 『図解コーポレートファイナンス[新訂2版]』 | 森 直哉 | 創成社 | 978-4794425379 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| ①『現代企業の財務戦略』 | ①丑山 優 ほか | ①ミネルヴァ書房 ②日経BP ③日経BP | ①978-4623038954 ②978-4822248604 ③978-4822248611 |
| ②『コーポレート・ファイナンス 第10版上』 | ②リチャード・A・ブリーリー ほか | | |
| ③『コーポレート・ファイナンス 第10版下』 | ③リチャード・A・ブリーリー ほか | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>1. 定期試験(80%) 2. 平常点20% * 平常点の内訳: 小テスト(10%)、授業への取組み(10%)</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|-------------------------------------|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | オリエンテーション(授業の内容と進め方)、ファイナンスの概論について | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 企業の「投資」、「資金調達」、「配当」についてメディアを使用し調べ、講義の全体像をイメージしてみましょう。また、学習予定範囲(テキスト第1章)を一読してみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第2回 | ファイナンスの体系、ビジネスと社会生活の関係、株式会社の組織構造・機能 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲のレジュメを配布します。一読し、予習をしてみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第3回 | 株式市場、キャッシュフロー計算書とB/S、P/Lとの関係 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲のレジュメを配布します。一読し、予習をしてみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第4回 | 将来価値、現在価値、それらの計算方法と意義 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲のレジュメを配布します。一読し、予習をしてみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第5回 | 投資とは？、投資家のリスク選好、キャッシュフローの時間価値 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲のレジュメを配布します。一読し、予習をしてみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第6回 | 企業の経済的価値、配当と内部留保の形態 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲のレジュメを配布します。一読し、予習をしてみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第7回 | 株式価格とは？ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲のレジュメを配布します。一読し、予習をしてみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第8回 | 株式分割・統合、株価をどのように認識するか？ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲のレジュメを配布します。一読し、予習をしてみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう(2時間) |

| | | |
|----------------|-------------------------|---|
| 第9回 | 資本コストとは？、株主と債権者の関係 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲のレジュメを配布します。一読し、予習をしてみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第10回 | 財務レバレッジの機能 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲のレジュメを配布します。一読し、予習をしてみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第11回 | 加重資本コスト計算とその意味 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲のレジュメを配布します。一読し、予習をしてみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第12回 | 株主資本利益率とは？、経済的利益とは？ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲のレジュメを配布します。一読し、予習をしてみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第13回 | 投資プロジェクトと、その算定・評価方法 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲のレジュメを配布します。一読し、予習をしてみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第14回 | 資本コストとは？、株主と債権者の関係 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲のレジュメを配布します。一読し、予習をしてみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で分からなかったところ、関心を持ったところなどを中心に復習をしてみましょう(2時間) |
| 第15回 | 14回までの講義内容についてのまとめ、質問受け | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習予定範囲のレジュメを配布します。一読し、予習をしてみましょう(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | これまでの講義の振り返りを行い、定期試験に向け、わからなかったところを中心に復習をしましょう(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 | |

専門教育科目

(情報ネットワーク学科)

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1AIB-6360-12C | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| プログラミング初歩 I | 219～ 情報ネットワーク学科 | 1年生・前期 | 2単位 | 必修 | 合田 和正 | |
| プログラミング入門 | ～218 情報ネットワーク学科 | 1年生・後期 | | | | |
| 履修の前提条件 | プログラミング入門(旧カリ)は情報学入門(旧カリ)に合格していること。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>プログラミングを通して、プログラミングの手順や流れを修得する。どのプログラミング言語を学ぶ上でも根本が同じであることをプログラミング言語を通じて体感する。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>簡単なフローチャートを読み書きできるようになる。基本制御構造について理解し、簡単なプログラミングができるようになる。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|------------|---------------|-------------------|
| <p>演習課題などを通して各自のPCで実際にプログラミングを行う。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>問い合わせ、報告、連絡、相談などは、担当教員の研究室で受け付けます。なお、オフィスアワーについては掲示を確認すること。また、電子メールやその他に授業中に提示するその他の方法でも受け付けます。</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ & ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>初回からノートPCを持参。ITパスポート試験、基本情報技術者試験の内容の一部を含む。授業の振り返りを毎回提出。情報処理関連の資格合格者、関連内容の模擬試験の受験者・高得点者については、その内容に応じて成績評価の際に優遇する。学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 資料を配布します。 | | | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| Scratchではじめよう！ プログラミング入門 | 杉浦学 | 日経BP社 | 978-4-8222-9774-9 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>平常点として、授業への参加態度、毎回の課題、授業振り返りなどの提出状況、小テスト等、および定期試験等で総合的に判断する。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|--------------------------------------|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | ガイダンス、プログラミング入門 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 身近なプログラムについて調べる。運動会のプログラムほか。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業の内容をまとめておく。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第2回 | プログラミング関連の用語、概念 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 概念、コンセプト、イメージについて調べる。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業の内容をまとめておく。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第3回 | フローチャート入門 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | フローチャート、流れ図、図式について調べる。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 端点、線、処理について理解を確認する。実際に描いてみる。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第4回 | フローチャートとIPOモデルの考え方 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 起承転結、序論・本論・結論、文章による説明の流れについて調べる。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | IPO(Input, Process, Output)モデルに近いものを探してみる。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第5回 | フローチャートを意識したScratchプログラミング | |
| | 事前学習 (内容・時間) | Scratchプログラム(並べたブロック)やその実行結果、実況などを調べる。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | フローチャートとScratchプログラムの類似点を確認する。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第6回 | Scratchプログラミング実習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | Scratchプログラムで簡単そうなものを探してみる(scratch.mit.edu)。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業時間内に終わらなかった課題を完成させる。類題に挑戦する。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第7回 | Scratchプログラミング、より高度な機能 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | これまでに使ったScratchのブロックとその分類についてまとめる。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | ペンに代表される拡張機能や、ブロック定義などを実際に使ってみる。[1.0h] |
| 第8回 | フローチャートを意識したScratchプログラミング(2)より高度な機能 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | IPOモデルやフローチャートの定義済み処理を意識したプログラムを考えてみる。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実際にフローチャートを描いてから、それに基づいてプログラミングしてみる。振り返りを書く。[1.0h] |

| | | |
|----------------|--------------------------------|---|
| 第9回 | 基本制御構造: 接続、選択、反復 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | プログラムの基本制御構造(接続、選択、反復)について調べる。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | Scratchの制御ブロックと選択、反復の対応を確認する。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第10回 | Scratchプログラミング実習(2)基本制御構造を意識して | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 部品化やIPOモデルを意識したプログラミングを想像してみる。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 文章、フローチャート、Scratchプログラムの順に開発してみる。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第11回 | Scratchプログラミング実習(3) 選択構造、反復構造 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 10回でプログラミングしやすかった点、しにくかった点についてまとめる。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業時間内に終わらなかった課題を完成させる。類題に挑戦する。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第12回 | プログラミングにおける再帰の考え方と反復 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 再帰、基底、帰納、反復について調べる。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 単純なプログラムで再帰と反復を比較してみる。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第13回 | 情報に関する知識とプログラミング | |
| | 事前学習 (内容・時間) | プログラミングで扱うデータ表現と情報科学の知識について調べる。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業をうけて、初めてふれたこと、なぜ調べられなかったのか考察。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第14回 | 変数と基本的データ構造とプログラミング | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 基本的データ構造、整数型、実数型、範囲、ビット数などについて調べる。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 最も基本的なデータ型一つは何か考察する。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第15回 | まとめ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 14回までの内容をまとめる。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 定期試験に向けて、準備する。中間試験の復習もする。[1.0h] |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 | |

| | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
| 1AIB-6371-12E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| プログラミング初歩Ⅱ | 219～ 情報ネットワーク学 科 | 1年生・後期 | 2単位 | 選択 | 合田 和正 | |
| 履修の前提条件 | 原則として、プログラミング初歩Ⅰに合格していること。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>フローチャートや変数表を活用して第三者が作成したプログラムを理解したり、更新したりできるようにする。また、逆に第三者が理解や更新を施すのが容易なプログラムの記述方法、例えば字下げや注釈添付なども学ぶ。さらに高度なプログラムを作成し、より高品質、より高信頼のプログラム作成を目指す。高品質を実現する方法の一つとしてGUI(Graphical User Interface)を用いた、プログラム作成にも挑戦してみる。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>プログラミング初歩Ⅰで学習したプログラミングの基礎に基づいて、さらに実際に多くのより複雑なプログラムを作成しつつ、プログラミング理論への理解をいっそう深める。</p> | | | | | | |

| | | | |
|---|------------|---------------|-------------------|
| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
| <p>演習課題などを通して各自のPCで実際にプログラミングを行う。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>問い合わせ、報告、連絡、相談などは、担当教員の研究室で受け付けます。なお、オフィスアワーについては掲示を確認すること。また、電子メールやその他に授業中に提示するその他の方法でも受け付けます。</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>初回からノートPCを持参。ITパスポート試験、基本情報技術者試験の内容の一部を含む。授業の振り返りを毎回提出。情報処理関連の資格合格者、関連内容の模擬試験の受験者・高得点者については、その内容に応じて成績評価の際に優遇する。学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 資料を配布します。 | | | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>平常点として、授業への参加態度、毎回の課題、授業振り返りなどの提出状況、小テスト等、および定期試験等で総合的に判断する。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|---------------------------------|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | ガイダンス、プレースメント試験 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | プログラミング初歩 I の内容を復習する。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 不正解、不安、不明な問題を復習。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第2回 | 開発環境 (Scratch, VBS/VBA, Python) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 開発環境、プラットフォーム、OS(基本ソフト)について調べる。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | プログラミング初歩 I の開発環境についてまとめる。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第3回 | 基本データ型 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | プログラミング初歩 I で学んだデータ型についてまとめる。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 型付き、型無し、強い型、弱い型についてまとめる。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第4回 | データ型 I | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 基本データ型、派生データ型、配列、構造体、参照型、オブジェクトについて調べる。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | VBS, VBS, Scratchにおけるデータ型の扱いを確認する。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第5回 | 制御文(選択構造) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 選択する際に、二者択一の場合と多岐選択の場合の違いを考察する。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 多岐選択が1つの部品の場合と複数の二者択一の組合せの場合と比較。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第6回 | データ型 II | |
| | 事前学習 (内容・時間) | データ型と演算子、動的型付けと静的型付けについて調べる。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | モデル化、付番、数値化について調べる。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第7回 | 制御文(反復構造) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 選択と反復の違いと特徴を確認する。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 定回反復と不定回(条件)反復、前判定と後判定についてまとめる。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第8回 | 中間試験 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 7回までの内容(プレースメント試験含む)を総復習する。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 不正解、不安、不明な問題を復習。振り返りを書く。[1.0h] |

| | | |
|----------------|-------------------|--|
| 第9回 | プログラムの抽象化 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | コンピュータの五大装置と抽象化、データ・手続きの抽象化について考察。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | マジックナンバーの排除の事例、変数・定数の導入を実習。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第10回 | 手続きと関数 I (戻り値なし) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 手続き、作業、段取り、ひとまとめについて調べる。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 手続きを含むプログラムを書いて実行してみる。ない場合と比較。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第11回 | 手続きと関数 II (戻り値あり) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 関数、変換、加工、写像について調べる。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 関数を含むプログラムを書いて実行してみる。ない場合と比較。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第12回 | 再帰とスタック | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 再帰と反復の関係、スタック、キューについて調べる。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 再帰プログラムと反復プログラムを比較。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第13回 | 応用プログラム I | |
| | 事前学習 (内容・時間) | Scratch, VBS, VBAを復習する。フローチャート、IPOモデルについて復習する。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業時間内に完成しなかった課題を完成させる。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第14回 | 応用プログラム II | |
| | 事前学習 (内容・時間) | VBS/VBA, Pythonを復習する。Scratchとの違いを意識する。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業時間内に完成しなかった課題を完成させる。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第15回 | まとめ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 14回までの内容をノートにまとめる。手書きを強く推奨。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 定期試験に向けて、想定問題を作成し、解法込で説明できるようにする。[1.0h] |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 | |

| ナンバリング(Numbering) | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1AIB-5720-22E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 情報数学Ⅱ | 219～ 情報ネットワーク学科 | 2年生・前期 | 2単位 | 選択 | 橋爪 善光 | |
| 履修の前提条件 | 特になし | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>本講義では、大量データの処理に欠かせない数学の一分野である「微分・積分」について学びます。蓄積されたデータから未来を予測するために必要な基礎知識を身に付けます。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | ○ |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| 倫理観 Ethical Sense | | | | | | |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 基本的な関数の概念を知る。 微分・積分の定義および概念を知る。 言葉・数式・図の3者の翻訳が出来るようになる。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|------------|---------------|-------------------|
| 講義内容に関する問題を解き、説明をしてもらいます。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 連絡、問い合わせ、相談などは研究室(361)にて受け付けます。オフィスアワーの時間については掲示を確認してください。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ & ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 1冊でマスター大学の微分積分 | 石井 俊全 | 技術評論社 | 978-4-7741-6545-5 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 必要に応じて指示します。 | | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 平常点(小テスト・提出物・授業中の発言など)、定期試験の総合評価 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|-----------------|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | ガイダンス | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 高校の頃に勉強した数学の復習をしておく(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う(2h) |
| 第2回 | 極限 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 高校の頃に勉強した数学の復習をしておく(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う。教科書の対応した部分を読み、別冊の問題を解く(2h) |
| 第3回 | 導関数 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う。教科書の対応した部分を読み、別冊の問題を解く(2h) |
| 第4回 | 指数関数・対数関数の微分 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う。教科書の対応した部分を読み、別冊の問題を解く(2h) |
| 第5回 | ネイピア数の微分 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う。教科書の対応した部分を読み、別冊の問題を解く(2h) |
| 第6回 | 三角関数の微分 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う。教科書の対応した部分を読み、別冊の問題を解く(2h) |
| 第7回 | 微分の証明 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う。教科書の対応した部分を読み、別冊の問題を解く(2h) |
| 第8回 | Chain rule | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う。教科書の対応した部分を読み、別冊の問題を解く(2h) |

| | | |
|----------------|-----------------|--|
| 第9回 | 微分と日本語の翻訳 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う。(2h) |
| 第10回 | 不定積分 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う。教科書の対応した部分を読み、別冊の問題を解く(2h) |
| 第11回 | 定積分 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う。教科書の対応した部分を読み、別冊の問題を解く(2h) |
| 第12回 | 面積 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う。教科書の対応した部分を読み、別冊の問題を解く(2h) |
| 第13回 | 積分と日本語の翻訳 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う。(2h) |
| 第14回 | マクローリン展開・テイラー展開 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う。教科書の対応した部分を読み、別冊の問題を解く(2h) |
| 第15回 | 総合演習と復習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業で解説した問題を自分で出来るようになるまで何度も解く。手を動かす(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う。これまでに間違えた問題を何度も解く(2h) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1AIN-5190-22E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| オペレーティングシステム論 | 219～ 情報ネットワーク学科 | 2年生・後期 | 2単位 | 選択 | 合田 和正 | |
| | ～218 | 2年生・前期 | | | | |
| 履修の前提条件 | 情報学入門に合格していること。ITパスポート試験に合格していることが望ましい。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| オペレーティングシステムの主たる機能: プロセス制御、割り込み、仮想記憶システム、ファイルの入出力を中心に解説する。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| | 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| オペレーティングシステム(OS)とは何か、どんな機能を提供しているのか、オペレーティングシステムがなかったらコンピュータはどうなるかについて理解する。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|------------|---------------|-------------------|
| 小テストや演習課題等で自主的な学習を促す。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 連絡、問い合わせ、相談などは研究室にて受け付けます。オフィスアワーの時間については掲示を確認してください。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 初回からノートPCを持参。ITパスポート試験、基本情報技術者試験の内容の一部を含む。授業の振り返りを毎回提出。情報処理関連の資格合格者、関連内容の模擬試験の受験者・高得点者については、その内容に応じて成績評価の際に優遇する。学習の確認: ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| オペレーティングシステム入門[新版] | 古市栄治 | 日本理工出版会 | 978-4-89019-482-7 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| レクチャー オペレーティングシステム | 福田晃 | 数理工学社 | 978-4864810647 |
| IT TEXT オペレーティングシステム | 野口健一郎 | オーム社 | 978-4274132506 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 平常点として、授業への参加態度、毎回の課題、授業振り返りなどの提出状況、小テスト等、および定期試験等で総合的に判断する。 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|-------------------------------|---|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | ガイダンス・プレースメント試験 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 情報学入門、ITパスポート試験のテクノロジー分野について学習しておく。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 解けなかった問題、不正解あるいは不安だった問題の復習。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第2回 | オペレーティングシステムの役割 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストがあれば、目次と本文前半を通読。なければ表題を検索してみる [3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 役割を表す文章は暗記する。振り返りを書く。 [1.0h] |
| 第3回 | プロセスの制御(1) 状態遷移 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | プログラムとプロセスについて調べる。プロセスの状態について調べる。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | プロセスの状態および状態間の遷移について図とともに理解し暗記。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第4回 | プロセスの制御(2) 排他制御 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 哲学者の食事問題について調べてまとめておく。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 排他制御がないと困る場合とそうでない場合を整理。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第5回 | プロセスのスケジューリング(1) プロセスの活動と並行動作 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 並行、並列、逐次の各用語について調べまとめておく。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 逐次実行と並行実行を比較して、利点欠点を整理。[1.0h] |
| 第6回 | プロセスのスケジューリング(2) 様々なスケジューリング | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 基本的なスケジューリングについて、弱点と必要性をまとめておく。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 基本的なスケジューリングと比較しながらまとめる。[1.0h] |
| 第7回 | 割り込みの制御(1) 外部割り込みと内部割り込み | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 割り込みの種類と説明から自分のノートPCでの事例をイメージしまとめる。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 外部割り込みと内部割り込みの具体的事例を自分のノートPCを例に考えてまとめる。[1.0h] |
| 第8回 | 割り込みの制御(2) 割り込みハンドラ、コンテキスト切替 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 実生活で作業を中断して、別作業後に円滑に元の作業に戻る工夫について考察。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実生活での工夫とOSでの情報保持について対応を考察。 [1.0h] |

| | | |
|----------------|----------------------------------|--|
| 第9回 | 仮想記憶システム(1) 主記憶と仮想記憶 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 各自の短期記憶と長期記憶とノートなどの記録との関係を整理してみる。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 各自の記憶・記録と仮想記憶とを比較して対応付けしてみる。 [1.0h] |
| 第10回 | 仮想記憶システム(2) ページング、入れ替えアルゴリズム | |
| | 事前学習 (内容・時間) | スワッピングとページングの違い、基本的なページングアルゴリズムについて整理。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | ノートやExcelで表を作成して実際に記入しながら理解を進める。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第11回 | 仮想記憶システム(3) 演習、特にFIFO, LRUアルゴリズム | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の演習問題を解いておく。 [3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 不正解、不安、不明な問題の復習。部分点を得るための工夫を整理。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第12回 | 入出力とファイルの制御(1) デバイス | |
| | 事前学習 (内容・時間) | プロセスのスケジューリングや割込みの内容と関連付ける。 [3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | プリンタやLANなど身近なデバイスと関連付けて考察。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第13回 | 入出力とファイルの制御(2) ファイルシステム、ディレクトリ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ルート、ホーム、ディレクトリ、ツリー構造について用語整理。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 相対パスと絶対パス、区切り文字、ルートディレクトリについて整理。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第14回 | 総合演習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ページングアルゴリズム、特にLRUについて復習しておく。[4.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 不正解、不安、不明な問題の復習。部分点を得るための工夫を整理。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第15回 | まとめ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 14回までの内容をまとめておく。定期試験の想定問題と解説を考えてまとめる。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 定期試験に向けて、不得意な内容、不安な内容を復習する。[1.0h] |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 | |

| ナンバリング(Numbering) | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1AIN-6341-24E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| プログラミング実践 I | 219～ 情報ネットワーク学科 | 2年生・前期 | 4単位 | 選択 | 荒平 高章 | |
| 履修の前提条件 | プログラミング初歩Iを履修していること。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>プログラミングに関する基本事項をおさえ、プログラムコードの記述方法、プログラムの実行に関する基本作法を学び、これらを実習を通して体系的に習得する。本実習ではPythonを使用する。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | ○ |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>①プログラミング言語に関する基本用語が説明できる。②サンプルプログラムを応用できる。③課題に応じて最適な処理構文を選択し、使用できる。④選択処理、反復処理の構文が列挙できる。⑤講義に参加できる。⑥課題解決のためにお互いに助け合えることができる。⑦疑問点を尋ねることができる。⑧プログラム処理のためにPCを操作できる。⑨サンプルプログラムを模倣できる。⑩プログラム作成のためにフローチャートを自分で準備できる。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|------------|---------------|-------------------|
| 聴講型講義ではなく、実習型講義を実施する。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 連絡、問い合わせ、相談などは研究室(653)にて受け付ける。オフィスアワーの時間については掲示を確認すること。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ & ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 学習の確認:ポートフォリオ・ルーブリックシートに必要事項を記入し8回目講義および最終講義時に提出すること。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| Pythonスタートブック | 辻 真吾 | 技術評論社 | 978-4774196435 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| なし | | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 実習課題と定期試験をもとに総合的に判断する。 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|--------------------|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 講義ガイダンス, プログラミング概要 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | シラバスを通読し, 受講理由を明確にする. (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載し復習する. (2.0h) |
| 第2回 | Pythonの実行環境構築 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の付録AおよびBを通読する(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに本時の内容を記載し, 講義内容を復習する. (2.0h) |
| 第3回 | Pythonプログラミング入門(1) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の当該箇所(pp.12-24)を通読する. (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに本時の内容を記載し, 講義内容を復習する. (2.0h) |
| 第4回 | Pythonプログラミング入門(2) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の当該箇所(pp.25-35)を通読する. (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに本時の内容を記載し, 講義内容を復習する. (2.0h) |
| 第5回 | プログラムの材料と道具 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の当該箇所(pp.38-61)を通読する. (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに本時の内容を記載し, 講義内容を復習する. (2.0h) |
| 第6回 | データと型 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の当該箇所を(pp.64-86)通読する. (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに本時の内容を記載し, 講義内容を復習する. (2.0h) |
| 第7回 | データ型 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の当該箇所を(pp.88-113)通読する. (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに本時の内容を記載し, 講義内容を復習する. (2.0h) |
| 第8回 | 中間課題演習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 第1回から第7回までの講義の復習をする. (0.5h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに本時の内容を記載し, 講義内容を復習する. (2.0h) |

| | | |
|----------------|-----------------------|---|
| 第9回 | 条件分岐と繰り返し(for文) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の当該箇所を(pp.118-122)通読する. (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに本時の内容を記載し, 講義内容を復習する. (2.0h) |
| 第10回 | 条件分岐と繰り返し(if文) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の当該箇所を(pp.123-128)通読する. (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに本時の内容を記載し, 講義内容を復習する. (2.0h) |
| 第11回 | 条件分岐と繰り返し(while文とエラー) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の当該箇所を(pp.129-145)通読する. (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに本時の内容を記載し, 講義内容を復習する. (2.0h) |
| 第12回 | ファイルの読み書き(1) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の当該箇所を(pp.148-167)通読する. (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに本時の内容を記載し, 講義内容を復習する. (2.0h) |
| 第13回 | ファイルの読み書き(2) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の当該箇所を(pp.148-167)通読する. (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに本時の内容を記載し, 講義内容を復習する. (2.0h) |
| 第14回 | 期末課題演習(1) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 第1回から第13回までの講義の復習をする. (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに本時の内容を記載し, 講義内容を復習する. (2.0h) |
| 第15回 | 期末課題演習(2) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回の期末課題演習の準備と復習を行う. (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに本時の内容を記載し, 講義内容を復習する. (2.0h) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験を実施する. | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1AIN-6342-24E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| プログラミング実践II | 219～ 情報ネットワーク学科 | 2年生・後期 | 4単位 | 選択 | ディンダ プラマンタ | |
| 履修の前提条件 | プログラミング実践Iを履修していること。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| Pythonプログラミングに関する基本事項を復習し、それらの知識・技能を活かして、より応用的な知識及び技能の獲得を目指す。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | ○ |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| ①プログラミング言語に関する基本用語が説明できる。②サンプルプログラムを応用できる。③課題に応じて最適な処理構文を選択し、使用できる。④講義に参加できる。⑤課題解決のためにお互いに助けられることができる。⑥疑問点を尋ねることができる。⑦プログラム作成のためにフローチャートを自分で準備できる。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|------------|---------------|-------------------|
| 聴講型講義ではなく、実習型講義を実施する。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 連絡、問い合わせ、相談などは研究室にて受け付ける。オフィスアワーの時間については掲示を確認すること。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出すること。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| Pythonスタートブック | 辻 真吾 | 技術評論社 | 978-4774196435 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| Pythonではじめるプログラミング | 小波秀雄 | 株式会社インプレ | 978-4-295-00606-0 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 実習課題と定期試験をもとに総合的に判断する。 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|--------------------------|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 講義ガイダンス, プログラミング概要 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 講義開始前までに, テキストの該当箇所を通読しておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2時間) |
| 第2回 | Pythonの実行環境構築 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 講義開始前までに, テキストの該当箇所を通読しておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 時間内にインストールできなかった人は必ず, 完成させること。(2時間) |
| 第3回 | 変数の値の取り扱い | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 講義開始前までに, テキストの該当箇所を通読しておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 時間内に作成できなかったプログラムは必ず, 完成させること。(2時間) |
| 第4回 | 関数の値の取り扱い | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 講義開始前までに, テキストの該当箇所を通読しておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 時間内に作成できなかったプログラムは必ず, 完成させること。(2時間) |
| 第5回 | Pandasライブラリのシリーズとデータフレーム | |
| | 事前学習 (内容・時間) | Webで第5回のテーマを検索し, 選んでその内容を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 時間内に作成できなかったプログラムは必ず, 完成させること。(2時間) |
| 第6回 | Pandasライブラリの基本的な使い方 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | Webで第6回のテーマを検索し, 選んでその内容を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 時間内に作成できなかったプログラムは必ず, 完成させること。(2時間) |
| 第7回 | 探索とソート | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 講義開始前までに, テキストの該当箇所を通読しておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 時間内に作成できなかったプログラムは必ず, 完成させること。(2時間) |
| 第8回 | 中間課題演習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 第1回～第7回を復習しておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 時間内に作成できなかったプログラムは必ず, 完成させること。(2時間) |

| | | |
|----------------|---|-------------------------------------|
| 第9回 | 再帰的アルゴリズム | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 講義開始前までに, テキストの該当箇所を通読しておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 時間内に作成できなかったプログラムは必ず, 完成させること。(2時間) |
| 第10回 | グラフの作成 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 講義開始前までに, テキストの該当箇所を通読しておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 時間内に作成できなかったプログラムは必ず, 完成させること。(2時間) |
| 第11回 | スクレイピング 1 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 講義開始前までに, テキストの該当箇所を通読しておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 時間内に作成できなかったプログラムは必ず, 完成させること。(2時間) |
| 第12回 | スクレイピング 2 (Beautiful Soupの活用) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 講義開始前までに, テキストの該当箇所を通読しておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 時間内に作成できなかったプログラムは必ず, 完成させること。(2時間) |
| 第13回 | データ解析: 線形回帰 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 講義開始前までに, テキストの該当箇所を通読しておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 時間内に作成できなかったプログラムは必ず, 完成させること。(2時間) |
| 第14回 | データ解析: 線形回帰 (statsmodelsとscikit-learnの活用) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 講義開始前までに, テキストの該当箇所を通読しておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 時間内に作成できなかったプログラムは必ず, 完成させること。(2時間) |
| 第15回 | 後期課題演習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 第1回～第14回を復習しておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 時間内に作成できなかったプログラムは必ず, 完成させること。(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 | |

| ナンバリング(Numbering) | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 情報システム設計 | ～218 情報ネットワーク学科 | 3・4年生・後期 | 2単位 | 選択 | 岸川 洋 | ○ |
| 履修の前提条件 | 「情報学入門」を履修していること。「情報テクノロジー(情報処理入門)」を履修し、マネジメント分野について理解していることが望ましい。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| 電気通信事業会社で、社内システム開発部門やシステム営業部門(公共・金融)の業務経験がある教員が、システム開発について解説することにより、システム設計の各種技法やプロジェクト管理等について学修する。ITパスポート試験(マネジメント分野)から出題した小テストを毎回実施する。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | ○ |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| | 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| 利用部門での情報化リーダー(システムアドミニストレータ)として、自部門に関連する情報システムを開発部門と協力して開発・運用できる。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|------------|---------------|-------------------|
| 毎回の授業で、授業内容をまとめた課題の提出があります。資料やネット検索等を活用して補足してください。意見、感想なども記入してください。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 連絡方法:メールで連絡してください。又は事務局へ伝えてください。 オフィスアワー:授業日の休憩時間等に対応いたします。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 外部試験:ITパスポート資格の未取得者は受験すること。資格取得状況を成績評価の対象とする。 学修の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に該当事項を記入して、課題と一緒に提出すること。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| システム設計論(改訂版) | 布広永示 他 | コロナ社 | 9784339028782 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 利用部門のための情報システム設計論 | 木暮仁 | 日科技連 | 9784817160546 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 成績評価の方法:平常点(60%)、定期試験(40%)。平常点は授業での参加状況、毎回の課題提出状況、小テスト、レポート提出状況で総合的に判断する。 成績評価の基準:利用部門での情報リーダーに必要な、情報系システムの企画・開発に関する知識がある。 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|--------------------------|---|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | オリエンテーション(授業の概要・受講上の諸注意) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「システム開発の工程」についてネット検索等で調べ、疑問点を整理する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業を受講するためのネットワーク環境や資料を整備する。(2時間) |
| 第2回 | システムのライフサイクル | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。(2時間) |
| 第3回 | システム開発モデル | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。(2時間) |
| 第4回 | 設計アプローチ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。(2時間) |
| 第5回 | 単純なシステムの設計 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。(2時間) |
| 第6回 | マスタファイル、イベントファイル | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。(2時間) |
| 第7回 | データの正規化 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。(2時間) |
| 第8回 | 情報システムの処理形態 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。(2時間) |

| | | |
|----------------|-----------------|-----------------------------------|
| 第9回 | クライアント/サーバシステム | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。(2時間) |
| 第10回 | Web3階層型CS | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。(2時間) |
| 第11回 | システム設計・構築 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。(2時間) |
| 第12回 | プロジェクト管理 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。(2時間) |
| 第13回 | システム分析設計技法 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。(2時間) |
| 第14回 | アプリケーション設計・構築 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。(2時間) |
| 第15回 | まとめ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 全体を振り返り、疑問点について整理する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | キーワードについて説明できるようにする。(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験等 | |

| | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| ナンバリング(Numbering) | | | | | | |
| 1AIN-6550-Z2ES | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| モバイルネットワーク (教職関連科目 選 高等学校 情報) | 共通 情報ネットワーク学科 | 3・4年生・前期 | 2単位 | 選択 | 岸川 洋 | ○ |
| 履修の前提条件 | 「情報学入門」を履修していること。「情報テクノロジー(情報処理入門)」を履修し、テクノロジー分野について理解していることが望ましい。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| 電気通信事業会社で、交換設備部門(開発、計画、設計、調達、保守)の業務経験のある教員が、モバイル通信のしくみ、今後の動向及び課題を解説することにより、第5世代・第6世代への基礎知識を学修する。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| | 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| モバイル通信のしくみを理解し、効果的にモバイル通信を活用できる。「情報通信白書」等を活用して、電気通信事業の動向を把握できる。 | | | | | | |

| | | | |
|--|------------|---------------|-------------------|
| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
| 毎回の授業で、授業内容をまとめた課題の提出があります。資料やネット検索等を活用して補足してください。意見、感想なども記入してください。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 連絡方法:メールで連絡してください。又は事務局へ伝えてください。 オフィスアワー:授業日の休憩時間等に対応いたします。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 外部試験:ITパスポート資格の未取得者は受験すること。資格取得状況を成績評価の対象とする。 学修の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に該当事項を記入して、課題と一緒に提出すること。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| モバイル通信のしくみと技術がわかる本 | 井上伸雄 | アニモ出版 | 9784897951454 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 情報通信白書(令和2年版) | 総務省 | 日経印刷株式会社 | 9784865792263 |
| 体系的に学ぶモバイル通信 | 神崎洋治、西井美鷹 | 日経BP社 | '9784822296001 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 成績評価の方法:平常点(60%)、定期試験(40%)。平常点は授業への参加状況、毎回の課題提出状況、小テスト、レポート提出状況で総合的に判断する。 成績評価の基準:利用部門での情報リーダーに必要な、モバイル通信ネットワークに関する知識がある。 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|--------------------------|---|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | オリエンテーション(授業の概要・受講上の諸注意) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「第5世代のサービス」についてネット検索等で調べ、疑問点を整理する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業を受講するためのネットワーク環境や資料を整備する。(2時間) |
| 第2回 | モバイル通信の概要 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。(2時間) |
| 第3回 | モバイル通信の歴史 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。(2時間) |
| 第4回 | モバイル通信のネットワーク | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。(2時間) |
| 第5回 | モバイル通信のつながるしくみ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。(2時間) |
| 第6回 | モバイル通信のインターネット接続 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。(2時間) |
| 第7回 | 各世代の特徴(第1世代～第3世代) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。(2時間) |
| 第8回 | 各世代の特徴(第4世代～第6世代) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。(2時間) |

| | | |
|----------------|-----------------------|-----------------------------------|
| 第9回 | モバイル通信の高速データ通信 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。(2時間) |
| 第10回 | モバイル通信のGPS等センサ機能 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。(2時間) |
| 第11回 | モバイル通信とクラウドコンピューティング | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。(2時間) |
| 第12回 | 電気通信事業法および電気通信事業者 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。(2時間) |
| 第13回 | 電気通信分野における市場の動向 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。(2時間) |
| 第14回 | モバイル通信の各産業・分野における活用事例 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの次回授業範囲を読み、疑問点について整理する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 毎回の課題であるキーワードについて説明できるようにする。(2時間) |
| 第15回 | まとめ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 全体を振り返り、疑問点について整理する。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | キーワードについて説明できるようにする。(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験等 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1ENN-5050-12E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| Webコンテンツ制作 I | 219～ 情報ネットワーク学科 | 1年生・後期 | 2単位 | 選択 | 平塚 智一 | ○ |
| Webデザイン | ～218 | 2年生・後期 | | | | |
| 履修の前提条件 | 情報リテラシー演習 I に合格済であることが望ましい。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>現在、システム開発会社でエンジニアとしてWeb制作や開発を行っている教員が実務経験を生かした授業を行う。ビジネスとインターネット、各種サービスとインターネットを概観する。ユーザ・インターフェイスと提供したいサービスの機能・構造との関係をどのようにデザインするか考察する。簡単なHTMLファイルについて学習する。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>ネットビジネスのためのサーバ構築・運営の全体像や開発工程におけるWebデザインの位置付けを理解しつつ、設計の初歩を学ぶ。エンド・ユーザ(EU)視点でWebシステムの全体像を理解、説明できるようにする。簡単なHTMLファイルを読み書きできるようになる。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|------------|---------------|-------------------|
| <p>ただ授業を受けるだけでなく、ネットショッピングサイトのデザインを目標に、学習内容をどう応用するかを意識しながら取り組む。必要に応じて、自主的に発展的内容・機能の実践・習熟に努力する。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>問い合わせ、報告、連絡、相談などは、担当教員とのメールで行う。 (メールアドレス: hiratsuka@bratech. co. jp)</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>初回からノートPCを持参。ITパスポート試験、基本情報技術者試験の内容の一部を含む。授業の振り返りを毎回提出。情報処理関連の資格合格者、関連内容の模擬試験の受験者・高得点者については、その内容に応じて成績評価の参考とする。 学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 1冊ですべて身につくHTML&CSSとWebデザイン入門講座 | Mana | SBクリエイティブ | 978-4797398892 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 基礎シリーズ 最新マルチメディア技術とその応用 | 伏見正則 | 実教出版 | 978-4407307061 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>授業への参加態度等(30%)、課題や授業振り返りなどの提出状況(30%)、小テストおよび定期試験(40%)等で総合的に判断する。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|-----------------------|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | ガイダンス | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 参考書や資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。(各回ごとに2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。授業の振り返りをまとめて提出。(各回ごとに2.0h) |
| 第2回 | Webデザイン入門、HTML入門 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 参考書や資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。(各回ごとに2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。授業の振り返りをまとめて提出。(各回ごとに2.0h) |
| 第3回 | Webデザインと開発・設計 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 参考書や資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。(各回ごとに2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。授業の振り返りをまとめて提出。(各回ごとに2.0h) |
| 第4回 | 設計・開発工程と役割分担 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 参考書や資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。(各回ごとに2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。授業の振り返りをまとめて提出。(各回ごとに2.0h) |
| 第5回 | Webデザイナーの役割と連携 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 参考書や資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。(各回ごとに2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。授業の振り返りをまとめて提出。(各回ごとに2.0h) |
| 第6回 | コミュニケーションを支援するWebデザイン | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 参考書や資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。(各回ごとに2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。授業の振り返りをまとめて提出。(各回ごとに2.0h) |
| 第7回 | 中間試験等 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 参考書や資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。(各回ごとに2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。授業の振り返りをまとめて提出。(各回ごとに2.0h) |
| 第8回 | ネットビジネスとコンテンツ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 参考書や資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。(各回ごとに2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。授業の振り返りをまとめて提出。(各回ごとに2.0h) |

| | | |
|----------------|-------------------------|--|
| 第9回 | システム全体像とクライアント・ビュー | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 参考書や資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。(各回ごとに2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。授業の振り返りをまとめて提出。(各回ごとに2.0h) |
| 第10回 | 視覚伝達デザイン(配置、色彩ほか)とGUI | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 参考書や資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。(各回ごとに2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。授業の振り返りをまとめて提出。(各回ごとに2.0h) |
| 第11回 | デザインと実現、その限界と制約 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 参考書や資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。(各回ごとに2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。授業の振り返りをまとめて提出。(各回ごとに2.0h) |
| 第12回 | バックヤードの隠蔽とビジュアル・デザイン | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 参考書や資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。(各回ごとに2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。授業の振り返りをまとめて提出。(各回ごとに2.0h) |
| 第13回 | ビジュアル・デザインとデジタル文書、処理ツール | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 参考書や資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。(各回ごとに2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。授業の振り返りをまとめて提出。(各回ごとに2.0h) |
| 第14回 | 総合演習(実習等) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 参考書や資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。(各回ごとに2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。授業の振り返りをまとめて提出。(各回ごとに2.0h) |
| 第15回 | まとめ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 参考書や資料の該当箇所を音読する。不明な個所は意味を調べておく。前回の復習をしたり、タイピング練習をしたりする。(各回ごとに2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業ノートを見直し、後で必要な情報を探しやすいようにまとめ直す。完成できなかった課題を仕上げる。授業の振り返りをまとめて提出。(各回ごとに2.0h) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験等 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1ENN-5060-22E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| Webコンテンツ制作Ⅱ | 219～ 情報ネットワーク学科 | 2年生・前期 | 2単位 | 選択 | 合田 和正 | |
| Webシステム | ～218 | 3・4年生・前期 | | | | |
| 履修の前提条件 | Webコンテンツ制作Ⅰ (Webデザイン)、データベース論に合格していることが望ましい。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>科目「Webコンテンツ制作Ⅰ (Webデザイン)」での学習を踏まえて、各種Webサービスが提供する機能とそのため の構造、それらを支える基盤技術やプログラミング技術について総合的に学習する。Web関連ファイルについて理 解を深める。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>ネットビジネスのためのサーバ構築・運営の全体像や開発工程におけるWebシステムの位置付けを理解しつつ、 システムの開発・構築について学ぶ。特に、設計に基づいた開発について、Webシステムの特徴を踏まえつつ実 践を交えて学ぶ。HTMLファイル、CSSファイルなどのWeb関連ファイルについて簡単な読み書きができるようにな る。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|------------|---------------|-------------------|
| <p>ただ授業を受けるだけでなく、ネットショッピングサイトの構築を目指して、学習内容をどう応用するかを意識しな がら取り組む。必要に応じて、自主的に発展的内容・機能の実践・習熟に努力する。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>授業科目に関する問い合わせ、報告、連絡、相談などは、担当教員の遠隔授業用メールアドレス (gouda@g.kiis.ac.jp) で受け付けます。科目名・学籍番号・氏名を必ず明記の上、問い合わせてください。</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認 (ポートフォリオ & ルーブリックの作成と提出) について | | | |
| <p>初回からノートPCを持参。ITパスポート試験、基本情報技術者試験の内容の一部を含む。 授業の振り返りを毎回提出。情報処理関連の資格合格者、 関連内容の模擬試験の受験者・高得点者については、その内容に応じて成績評価の際に優遇する。 学習の確認: ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 1冊ですべて身につくHTML & CSSとWebデザイン入門講座 | Mana | SBクリエイティブ | 978-4797398892 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| スラスラわかるHTML&CSSのきほん 第2版 | 狩野 祐東 | SBクリエイティブ | 978-4797393156 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>平常点として、授業への参加態度、毎回の課題、授業振り返りなどの提出状況、小テスト等、および定期試験等 で総合的に判断する。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|--|---|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | ガイダンス、プレースメント・テスト | |
| | 事前学習 (内容・時間) | コンピュータ技術やWebデザインについて試験対策学習 [3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 自己採点して、不明点や自信がない点は復習。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第2回 | Webシステムとシステム開発、全体像と各種要素 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | キーワード(Webシステム、システム開発、開発工程および関連語句)について調べる [1.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | スタイルを含むHTMLファイルを作成してみる。振り返りを書く。[3.0h] |
| 第3回 | Webシステムの開発工程と役割分担 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | キーワード(開発工程、職種、役割および関連語句)について調べる [1.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業で紹介した以外の開発工程について調べる。振り返りを書く。[3.0h] |
| 第4回 | 一般的なシステム開発とWebシステムの特殊性 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | キーワード(システム開発、Webシステム、開発工程および関連語句)について調べる [1.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | Webシステムの特殊性について整理。振り返りを書く。[3.0h] |
| 第5回 | Webシステムのハードウェア | |
| | 事前学習 (内容・時間) | キーワード(Webシステム、サーバ、性能、評価および関連語句)について調べる [1.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 公開されているWebサーバのスペックについて調べてみる。振り返りを書く。[3.0h] |
| 第6回 | Webシステムのソフトウェア(コンテンツ以外を中心に)、Webプログラミング | |
| | 事前学習 (内容・時間) | キーワード(Webシステム、サービス、デーモン、ツールおよび関連語句)について調べる [1.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | LAMP, XAMPPなど公開されているソフト。ツールについて整理。振り返りを書く。[3.0h] |
| 第7回 | Webシステムのコンテンツ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | キーワード(コンテンツ、ソフト、学習、商品、サービスおよび関連語句)について調べる [1.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 音楽、ゲーム、映画などコンテンツのメディアや人気分野について整理。振り返りを書く。[3.0h] |
| 第8回 | 総合演習 I | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 第7回までの内容を踏まえて、自由課題の場合にはどうするかまとめておく [1.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 制作物を完成させて提出。振り返りを書く。[3.0h] |

| | | |
|----------------|--------------------------|---|
| 第9回 | 中間試験 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 第8回までの内容を復習。第1回プレースメント試験内容を含む。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 中間試験を自己採点して、不明点や自信がない点は復習。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第10回 | サーバ/クライアント | |
| | 事前学習 (内容・時間) | キーワード(Webサービス、Webサーバ、クライアントおよび関連語句)について調べる [1.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | サーバ/クライアントの事例について整理。振り返りを書く。[3.0h] |
| 第11回 | アプリケーションサーバ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | キーワード(基本ソフト、アプリ、サービスおよび関連語句)について調べる [1.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | ゲーム、機械学習などサービスと提供形態について整理。振り返りを書く。[3.0h] |
| 第12回 | データベースサーバ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | キーワード(関係データベース、表、フィールド、カタログおよび関連語句)について調べる [1.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | ショッピングサイトで使用するデータベースについて整理。振り返りを書く。[3.0h] |
| 第13回 | 基盤技術と先端的技術 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | キーワード(HTTP、公開鍵暗号、技術、コスト、リスクおよび関連語句)について調べる [1.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 普及し始めたWeb技術とその事例について整理。振り返りを書く。[3.0h] |
| 第14回 | 総合演習 II | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 第13回までの内容を踏まえて、自由課題の場合にはどうするかまとめておく [1.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 制作物を完成させて提出。振り返りを書く。[3.0h] |
| 第15回 | まとめ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 第14回までの内容を総ざらいして、手書きで文書化してみる [1.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 定期試験(筆記試験、レポート)に向けて準備。振り返りを書く。[3.0h] |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験(筆記試験またはレポート(制作物含む)) | |

| | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| ナンバリング(Numbering) | | | | | | |
| 1ENN-5091-22E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| Webプログラミング I | 219～ 情報ネットワーク学科 | 2年生・後期 | 2単位 | 選択 | 車 炳玓 | |
| 履修の前提条件 | 「プログラミング初歩I」、「プログラミング初歩II」を履修し、単位を修得すること。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| HTML、CSSによるWebページの作成およびPHPとのデータ受け取るの仕組みについて実習を通して修得する。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| Webシステムの開発に必要な基礎概念およびスキルの修得を目標とする。本授業を履修すると、HTML,CSSおよびPHPの基礎的な内容の概念を初級レベルのネットワーク技術者、ヘルプデスク技術者およびコンピュータ技術者の業務に必要なスキルを修得できる。 | | | | | | |

| | | | |
|--|------------|---------------|-------------------|
| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
| ホームページのトレンドをつかむため、2人から4人のグループで必修技術や最新技術等をWeb上で調べ(5回以上)、ポートフォリオに記入すること。また、個人ホームページをレンタルサーバー(自己管理サーバー)上に作成し、第15回目の授業時間にそのURLを提出すること。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 連絡方法:学生番号、氏名、受講科目、内容等をメール(宛先:cha@kiis.ac.jp)で送ってください。対面相談の場合はなるべくオフィスアワーの時間を利用してください。 オフィスアワー::水曜日2、3時限、木曜日3時限 研究室:656号室 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| Web教材:アカデミックHTML4.0(http://www.tg.rim.or.jp/~hexane/ach/) | | | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| いきなりはじめるPHP | 谷藤賢一 | リックテレコム | 978-4-89797-885-7 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 定期試験(30%)、実習課題(50%)、その他(20%、レポート、外部試験の結果) | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|---------------------|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | HTMLの基礎 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | Web教材 Hello World HTML Section 1と2を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題1を行い、専用のフォルダに保存しておくこと。2時間 |
| 第2回 | Webシステムの概要、開発環境について | |
| | 事前学習 (内容・時間) | Web教材 Hello World HTML Section 3と4を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題2と3を行い、専用のフォルダに保存しておくこと。2時間 |
| 第3回 | 開発用ソフトウェアの導入、設定 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | Web教材 Hello World HTML Section 5と6を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題4から6を行い、専用のフォルダに保存しておくこと。2時間 |
| 第4回 | Webページの作成、保存、表示 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | Web教材 Hello World HTML Section 7と8を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題7と8を行い、専用のフォルダに保存しておくこと。2時間 |
| 第5回 | 文字の操作(1) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | Web教材 Hello World HTML Section 9を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題9と10を行い、専用のフォルダに保存しておくこと。2時間 |
| 第6回 | 文字の操作(2) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | Web教材 Try next HTML Section 1と2を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題11と12を行い、専用のフォルダに保存しておくこと。2時間 |
| 第7回 | リンクについて | |
| | 事前学習 (内容・時間) | Web教材 Try next HTML Section 3と4を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題13と14を行い、専用のフォルダに保存しておくこと。2時間 |
| 第8回 | 背景と罫線のデザイン | |
| | 事前学習 (内容・時間) | Web教材 Try next HTML Section 5と6を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題15から17を行い、専用のフォルダに保存しておくこと。2時間 |

| | | |
|----------------|----------------------|---|
| 第9回 | 画像の操作(1) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | Web教材 Try next HTML Section 7と8を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題18と19を行い、専用のフォルダに保存しておくこと。2時間 |
| 第10回 | 画像の操作(2) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | Web教材 Try next HTML Section 9から11を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題20から22を行い、専用のフォルダに保存しておくこと。2時間 |
| 第11回 | テーブルの操作 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | Web教材 Try next HTML Section 12と13を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題23と24を行い、専用のフォルダに保存しておくこと。2時間 |
| 第12回 | フォームの操作(1) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | Web教材 First step CSS Section 1から3を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題25と26を行い、専用のフォルダに保存しておくこと。2時間 |
| 第13回 | フォームの操作(1) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | Web教材 First step CSS Section 4から6を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題27と28を行い、専用のフォルダに保存しておくこと。2時間 |
| 第14回 | フォームデータのPHP操作の仕組み(1) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | Web教材 First step CSS Section 7から9を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題29を行い、専用のフォルダに保存しておくこと。2時間 |
| 第15回 | フォームデータのPHP操作の仕組み(2) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | Web教材 First step CSS Section 10から12を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題30を行い、専用のフォルダに保存しておくこと。2時間 |
| 第16回 (定期試験) | | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1ENN-5861-22E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| スイッチング技術 | 219～ 情報ネットワーク学科 | 2年生・前期 | 2単位 | 選択 | 車 炳玓 | |
| 履修の前提条件 | 1年次科目「情報ネットワーク入門」を70点以上の成績で単位を取得すること。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| LANスイッチングに関する技術を実習を通して修得する。具体的には、基本的なスイッチの設定をはじめ、スパンニングツリープロトコル、仮想LAN、VLAN間ルーティングなど企業内ネットワーク機器の根幹をなす機器であるスイッチに関する技術を習得する。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | ○ |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | ○ |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| 実習を中心に、情報通信ネットワークの基礎技術であるスイッチング技術を習得し、エンタープライズLANのパフォーマンスおよびセキュリティ対策として有効なVLANの運用に必要なスキル習得を目標とする。本授業を履修すると、初級レベルのネットワーク技術者、ヘルプデスク技術者およびコンピュータ技術者の業務に必要なスキルを修得できる。本講義履修と並行にCCNA (CCENT) 資格の準備を始める。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|------------|---------------|-------------------|
| 実習トポロジーごとに新しくチームを組み、実習を行うこと。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 連絡方法: 学生番号、氏名、受講科目、内容等をメール(宛先: cha@kiis.ac.jp)で送ってください。対面相談の場合はなるべくオフィスアワーの時間を利用してください。 オフィスアワー: 水曜日2、3時限、木曜日3時限 研究室: 656号室 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ & ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 外部試験: 次の試験の内一つ以上を受験すること。試験結果を成績評価の対象とする。(CCENT, CCNA, CCNP) 学習の確認: オンラインテスト及びポートフォリオ[科目別履修確認チェック表]を第12回目の授業時間に提出すること。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| シスコネットワークングアカデミーオンライン教材 (https://www.netacad.com) | | | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| CCNA/CCENT 問題集 | Gene | SBクリエイティブ | 978-4797388824 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 定期試験・オンラインテスト(40%)、実習(40%)、その他(20%、課題、チームワーク、ポートフォリオ、外部試験の結果) | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|-----------------|---|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | スイッチ導入ネットワークの概要 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストセクション1. 0を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | テキスト1. 0. 1. 2の課題を専用のノートにまとめること。2時間 |
| 第2回 | LAN設計 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストセクション1. 1を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | テキスト1. 1. 1. 6の課題を専用のノートにまとめること。2時間 |
| 第3回 | スイッチ導入環境 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストセクション1. 2と1. 3を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | テキスト1. 1. 2. 3及び1. 2. 1. 6の課題を専用のノートにまとめること。2時間 |
| 第4回 | スイッチの基本設定 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストセクション2. 0と2. 1を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実習2. 1. 1. 6をパケットトレーサーで行うこと。2時間 |
| 第5回 | スイッチの管理 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストセクション2. 2を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実習2. 2. 4. 11をパケットトレーサーで行うこと。2時間 |
| 第6回 | スイッチセキュリティ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストセクション2. 3を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | テキスト2. 3. 1. 3のトポロジーの実装をパケットトレーサーで行うこと。2時間 |
| 第7回 | VLANの概念 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストセクション3. 0を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | テキスト3. 0. 1. 2の課題を専用のノートにまとめること。2時間 |
| 第8回 | VLANセグメンテーション | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストセクション3. 1を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | テキスト3. 1. 2. 7の実習をパケットトレーサーで行うこと。2時間 |

| | | |
|----------------|-------------------------|--|
| 第9回 | VLANの設計 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストセクション3. 2を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | テキスト3. 2. 2. 5の実習をパケットトレーサーで行うこと。2時間 |
| 第10回 | VLANの実装 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストセクション3. 3を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | テキスト3. 3. 2. 2の実習をパケットトレーサーで行うこと。2時間 |
| 第11回 | VLANのセキュリティ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストセクション3. 4を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | テキスト3. 4. 1. 3のトポロジーの実装をパケットトレーサーで行うこと。2時間 |
| 第12回 | VLAN間ルーティングの設定 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストセクション5. 0と5. 1を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | テキスト5. 1. 2. 4の実習をパケットトレーサーで行うこと。2時間 |
| 第13回 | VLAN間ルーティングのトラブルシューティング | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストセクション5. 2を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | テキスト5. 2. 2. 4の実習をパケットトレーサーで行うこと。2時間 |
| 第14回 | Layer 3 スイッチング | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストセクション5. 3を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | テキスト5. 3. 2. 4の実習をパケットトレーサーで行うこと。2時間 |
| 第15回 | スイッチネットワークの実装 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストセクション5. 4を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | テキスト5. 4. 1. 2の実習をパケットトレーサーで行うこと。2時間 |
| 第16回 (定期試験) | | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| ネットワーク基礎 | ～218 情報ネットワーク学 科 | 2年生・前期 | 6単位 | 選択 | 荒巻 富士夫 | ○ |
| 履修の前提条件 | 「情報ネットワーク入門」の単位を取得し、ネットワークの基本を学習していること。当科目は「ルーティング技術」履修の前提となる。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>シスコシステムズ社のCCNAを受験するための科目です。コンピュータメーカーのSEとして銀行のオンラインシステムの構築・運用の実務経験をもとにネットワークの仕組みと構築を指導します。ネットワークの基本的な仕組み、ISP(プロバイダ)の業務、OSI参照モデルやTCP/IPの機能分類により、データの送受信のためにどのような処理や規約(プロトコル)があるかを実務経験から得た知見に基づいた講義や演習により学び、ネットワークの基本を身につけます。演習や実例を多くして理解が容易になるようにし、これらにより日常のネットワーク利用と関連付けができるようにします。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | ○ | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | ○ | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | ○ | | | |
| | 問題解決力 Problem Solving | | ○ | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | ○ | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | ○ | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>ネットワークの形態や構成する機器、OSI参照モデル、プロトコル(通信規約)、IPアドレス、伝送されるデータの形式などネットワークの基本事項について理解し、データの送信元から受信宛先までの流れを説明できるようになる。特にTCP/IPや関連のプロトコルの機能について理解し、日常的なネットワーク利用や操作と関連して考えられるようにします。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|------------|---------------|-------------------|
| <p>指示された課題やレポートは必ず提出してください。講義中に強調した用語や事項をノートに書きとめ、きちんと整理してください。返却した小テストの解答で間違った問題については必ずテキストを読み直してください。また、勉強では覚えなければならないことと、理解しなければならないことの両方があります。覚えてくださいと言ったことは必ず覚えてください。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>私の講義日で休憩時間に質問、問い合わせなど受け付けます。その他連絡方法については講義中に指示します。</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>この科目からのCCNA関連4科目を利用して受験するように2年間で計画してください。CCNAの試験にもレベルがありますから、自分の現在の準備状況に合わせて受験を考えてください。学習の確認としてポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」必要事項を記入して提出してください(提出時期については指示します)。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| ネットワークがよくわかる教科書 | 福永 勇二 | SB Creative | 978-4-7973-9380-4 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| シスコ ネットワーキングアカデミー オンライン教材 | シスコシステムズ | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>中間テストと課題 50%、定期試験 50%</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|---|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | インターネットワーキングとは、2進数とブール代数、プロトコル、TCP/IP概要、ネットワーク機器 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第1章01-03節の予習(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義内容の復習と2進数の課題の解答(2時間) |
| 第2回 | プロトコル階層モデル(OSI・TCP/IP)、ネットワーク接続形態、ピア・ツー・ピア、クライアント・サーバ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第1章04節、オンラインテキストV.4.0第3課の予習(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義内容の復習(2時間) |
| 第3回 | 通信方式、ネットワーク構成機器、ネットワークポロジ、帯域幅 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第1章05-09節の予習(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義内容の復習、帯域幅課題の解答(2時間) |
| 第4回 | TCP/IPの役割、パケットの構造、IPアドレス | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第2章01-05節の予習(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義内容の復習(特にTCPとUDPの違い、IPアドレスのクラスの違いと判別)(2時間) |
| 第5回 | パケットの送受信、ルーティング、ICMPの役割、IPv6、ポート番号、ARPの役割 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第2章06-16節の予習(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義内容の復習(2時間) |
| 第6回 | ネットワークメディアの種類、イーサネットLANの基礎(フレーム、MACアドレス、衝突、ブロードキャスト) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第3章01-05節の予習(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義内容の復習(特にイーサネットフレーム形式、MACアドレス、接続機器の理解)(2時間) |
| 第7回 | イーサネット・フレームの流れ、CSMA/CD方式、各接続機器の働きと問題点、機器の冗長化 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第3章06-08節の予習(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | CSMA/CD方式の特徴、宛先ごとのフレーム内容の分析に対する課題の解答(2時間) |
| 第8回 | IPアドレス計算とサブネット化の演習、DHCPによるIPアドレスの獲得、NATによるアドレスの変換 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第4章01-06、10節、オンラインテキストV.3.1第9.2課及び10.3課の予習(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | サブネットのアドレス計算とNATによるアドレス変換の課題の解答(2時間) |

| | | |
|----------------|--|---|
| 第9回 | TCP/IPプロトコルスイートのアプリケーション層とトランスポート層、フレームの解析演習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第4章06-10節およびオンラインテキストV.4.0の6.2節の予習(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | TCP/IPの各プロトコルの特徴と処理の流れをノートにまとめる(2時間) |
| 第10回 | ルーティング基礎(スタティックルート、ダイナミックルーティング、デフォルトルート)と演習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第4章11-12節およびオンラインテキストV.3.1の10.1-10.2節の予習(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ルーティングの課題の解答(2時間) |
| 第11回 | セキュリティと暗号化、Packet Tracerによるルーティング演習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第5章の予習(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | Packet Tracerの課題の解答(2時間) |
| 第12回 | 無線テクノロジー(1)無線デバイス、規格、無線LANの利点と問題点 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第6章01-06節の予習(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 無線LANの接続手順についての課題の解答(2時間) |
| 第13回 | 無線テクノロジー(2)接続の手順、CSMA/CA方式、SSID,認証、暗号化 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第6章07-11節の予習(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 無線LANの接続、セキュリティ対策、暗号化についての課題の解答(2時間) |
| 第14回 | ネットワークのトラブルシューティング(方法論と各層での現象と解決法) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | オンラインテキスト第9章の予習(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | トラブルシューティングの考え方、各構成要素での解決法の基本を要約する(2時間) |
| 第15回 | 総合演習(データの流とルーティング Packet Tracer)、まとめ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | パケットの流れ、Packet Tracerを使ったルーティングの演習についてまとめておく(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 演習の解答を作り提出する(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験(筆記試験) | |

| ナンバリング(Numbering) | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1ENN-5862-22E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| ルーティング技術 | 219～ 情報ネットワーク学科 | 2年生・後期 | 2単位 | 選択 | 車 炳記 | |
| 履修の前提条件 | 2年次科目「スイッチング技術」を70点以上の成績で単位を修得すること。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| LANにおけるルーティングに関する技術を実習を通して修得する。具体的には、RIP、EIGRP、OSPFなどのダイナミックルーティング技術及び高度なIPアドレッシング技法について学習する。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | ○ |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | ○ |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| 実習を中心に、情報通信ネットワークの基盤技術であるルーティング技術を習得し、エンタープライズLANの最適運用に必要なプロトコルの操作に関するスキルの習得を目標とする。本授業を履修すると、初級レベルのネットワーク技術者、ヘルプデスク技術者およびコンピュータ技術者の業務に必要なスキルを修得できる。本講義履修と並行にCCNA(CCENT)資格の準備を始める。 | | | | | | |

| | | | |
|---|------------|---------------|-------------------|
| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
| 実習トポロジーごとに新しくチームを組み、実習を行うこと。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 連絡方法: 学生番号、氏名、受講科目、内容等をメール(宛先: cha@kiis.ac.jp)で送ってください。対面相談の場合はなるべくオフィスアワーの時間を利用してください。 オフィスアワー::水曜日2、3時限、木曜日3時限 研究室:656号室 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ & ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 外部試験: 次の試験の内一つ以上を受験すること。試験結果を成績評価の対象とする。(CCENT, CCNA, CCNP) 学習の確認: オンラインテスト及びポートフォリオ[科目別履修確認チェック表]を第12回目の授業時間に提出すること。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| シスコネットワーキングアカデミーオンライン教材 (https://www.netacad.com) | | | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| CCNA/CCENT 問題集 | Gene | SBクリエイティブ | 978-4797388824 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 定期試験・オンラインテスト(40%)、実習(40%)、その他(20%、課題、チームワーク、ポートフォリオ、外部試験) | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|---------------------------------|------------------------------------|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | ルーティングの概念 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト4. 0を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題4. 0. 1. 2. を専用のノートにまとめておくこと。2時間 |
| 第2回 | ルーターの初期設定 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト4. 1を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実習4. 1. 4. 6をパケットトレーサーで行うこと。2時間 |
| 第3回 | ルーティングの決定 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト4. 2を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題4. 2. 2. 5を専用のノートにまとめること。2時間 |
| 第4回 | ルーターの動作 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト4. 3と4. 4を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題4. 3. 1. 4を専用のノートにまとめること。2時間 |
| 第5回 | スタティックルーティングの実装 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト6. 0と6. 1を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題6. 1. 2. 6を専用のノートにまとめること。2時間 |
| 第6回 | スタティックルートとデフォルトルートの設定 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト6. 2を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実習6. 2. 2. 5をパケットトレーサーで行うこと。2時間 |
| 第7回 | CIDR、VLSMとIPアドレッシング | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト6. 3を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実習6. 3. 3. 7をパケットトレーサーで行うこと。2時間 |
| 第8回 | スタティックルート及びデフォルトルートのトラブルシューティング | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト6. 4～6. 6を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実習6. 5. 2. 5をパケットトレーサーで行うこと。2時間 |

| | | |
|----------------|------------------------|--|
| 第9回 | ダイナミックルーティングプロトコル | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト7. 0と7. 1を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題7. 1. 4. 9～7. 1. 4. 11を専用のノートにまとめること。2時間 |
| 第10回 | ディスタンスベクターダイナミックルーティング | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト7. 2と7. 3を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実習7. 3. 1. 8をパケットトレーサーで行うこと。2時間 |
| 第11回 | リンクステートダイナミックルーティング | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト7. 4を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題7. 4. 2. 9を専用のノートにまとめること。2時間 |
| 第12回 | ルーティングテーブル | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト7. 5と7. 6を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題7. 5. 3. 3を専用のノートにまとめること。2時間 |
| 第13回 | シングルエリアOSPF | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト8. 0を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題8. 0. 1. 2を専用のノートにまとめること。2時間 |
| 第14回 | OSPFの特性 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト8. 1を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題8. 1. 3. 5を専用のノートにまとめること。2時間 |
| 第15回 | シングルエリアOSPFの設定 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト8. 2から8. 4を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実習8. 2. 4. 5をパケットトレーサーで行うこと。2時間 |
| 第16回 (定期試験) | | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|---|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| ルーティング技術 (教職関連科目 選 高等学校 情報) | ～218 情報ネットワーク学 科 | 2年生・後期 | 6単位 | 選択 | 荒巻 富士夫 | ○ |
| 履修の前提条件 | 「ネットワーク基礎」の単位を取得していることが前提。当科目は「イントラネット技術」、「インターネット技術」履修の前提となります。また、実習機器の数により履修者数を制限することがあります。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| ネットワーク間の通信のためにルーティングの理論と技術を学び、LANやWANの構築を学びます。ネットワークプロトコルや通信経路、トラブルシューティングについてコンピュータメーカーのSEとして銀行のオンラインシステムを担当した実務経験をもとに、遠隔地との通信の仕組みを実習を中心にして指導します。講義で学習したことをルータやスイッチを設定し、動作を確認しながらネットワークを接続して具体的に実習を通して身につけます。実習はルータやスイッチとともにPacket Tracerによるシミュレーションも使って授業外でも学習できるようにします。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | ○ | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | ○ | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | ○ | | | |
| | 問題解決力 Problem Solving | | ○ | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | ○ | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | ○ | | | |
| | チームワーク Teamwork | | ○ | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| シスコシステムズ社のCCNA試験受験のための科目です。また、システム開発などの技術を学ぶためにもネットワークの知識が必要なことがあります。この科目では、ルータやスイッチの設定、パケットの伝送経路の制御やトラブルへの対処などについて実習を通じて具体的な技術を身につけます。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|------------|---------------|-------------------|
| 指示された課題やレポートは必ず提出してください。講義中に強調した用語や事項をノートに書きとめ、きちんと整理してください。返却した小テストの解答で間違った問題については必ずテキストを読み直してください。また、勉強では覚えなければならないこと、理解しなければならないことの両方があります。覚えてくださいと言ったことは必ず覚えてください。また、Packet Tracerを使ったシミュレーションにより、自宅でも演習の学習ができます | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 私の講義日で休憩時間に質問、問い合わせなど受け付けます。その他連絡方法については講義中に指示します。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ & ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| CCNA関連4科目を利用して受験するように2年間で計画してください。CCNAの試験にもレベルがありますから、自分の現在の準備状況に合わせて受験を考えてください。学習の確認としてポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」必要事項を記入して提出してください(提出時期については指示します)。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| シスコ ネットワークアカデミー オンライン教材 | | | |
| 参考文献 | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| ネットワークがよくわかる教科書 | 福永 勇二 | SB Creative | 978-4-7973-9380-4 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 実技演習 50%、筆記小テストおよび定期試験 50% | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|--|---|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | ガイダンス、ネットワークの基礎の復習、実習用ソフトのインストールとルータの基本操作 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ネットワークの構成要素、ルーティングの復習(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ルーティングとルーティングテーブル、ルーティングプロトコルについてまとめる(2時間) |
| 第2回 | 接続方法、OSI参照モデルとTCP/IPの各層の役割、ルータの構造、LANインターフェイスの設定の実習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | オンラインテキストV.3.1第2課の予習 (IOS、ルータの構造) (2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ルータの基本操作の手順・コマンドをノートにまとめ参照できるようにしておく(2時間) |
| 第3回 | WANインターフェイスの設定とシリアル接続の実習、IOSコマンドの実習、IPアドレスのクラスとサブネット | |
| | 事前学習 (内容・時間) | オンラインテキストV.3.1第3課でルータの基本操作を予習(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ルータの起動、基本設定、シリアル接続についてまとめる(2時間) |
| 第4回 | IPアドレスの計算、サブネット化、クラスフル/クラスレスIPアドレス、ルータの操作 (IOSの回復など) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | オンラインテキストV.3.1第4課4.1でCDPの操作を予習(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 第4課のCDP実習結果を実習フォームに記入する(2時間) |
| 第5回 | CDP、TELNETセッション、ルータの種々のオプション機能 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | オンラインテキストV.3.1第4課4.2でTelnetの予習(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 第4課のTelnet実習結果を実習フォームに記入する(2時間) |
| 第6回 | ルーティングテーブルの構成、スタティックルートとデフォルトルートの設定 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | オンラインテキストV.3.1第5課4.2でブート、TFTP、パスワード回復の予習(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 第5課の実習結果を実習フォームに記入する(2時間) |
| 第7回 | ダイナミックルーティングプロトコル種類と機能、スイッチの設定とLANの構成 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | オンラインテキストV.3.1第6課6.1でスタティックルートの予習(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 第6課のスタティックルートの実習結果を実習フォームに記入する(2時間) |
| 第8回 | RIPの機能・特徴・考慮点・操作、RIPによるルーティングテーブルの構築実習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | オンラインテキストV.3.1第6課6.2、6.3でダイナミックルーティングの予習(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 第6課のダイナミックルーティングの実習結果を実習フォームに記入する(2時間) |

| | | |
|----------------|---|---|
| 第9回 | 事前学習 (内容・時間) | オンラインテキストV.3.1第7課7.2でRIPの予習(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 第7課のRIPの実習結果を実習フォームに記入する(2時間) |
| 第10回 | RIP、IGRPによるロードバランシングとデフォルトルートの伝達実習、第2回小テスト | |
| | 事前学習 (内容・時間) | オンラインテキストV.3.1第7課7.3でIGRPの予習(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 第7課のRIP,IGRPの実習結果を実習フォームに記入する(2時間) |
| 第11回 | TCP/IPプロトコルスイートの各プロトコルの機能、TELNET実習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | オンラインテキストV.3.1第8課8.3でエラーメッセージと制御メッセージの予習(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 第7課のIGRPの実習結果を実習フォームに記入する(2時間) |
| 第12回 | ネットワーク・セキュリティと基本ACL (Access Control List)の機能と設定実習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | オンラインテキストV.3.1第11課ACL (Access Control List)の予習(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 第11課のACLの実習結果を実習フォームに記入する(2時間) |
| 第13回 | 拡張ACLと名前付きACLの機能とプロトコルレベルの設定実習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ACLの課題の解決 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 第11課のACLの実習結果を実習フォームに記入する(2時間) |
| 第14回 | トラブルシューティング (構成ファイルのバックアップと回復、ネットワークコマンドによる状況把握の実習) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | オンラインテキストV.3.1第9課でトラブルシューティングの予習(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 第9課のトラブルシューティングの実習結果を実習フォームに記入する(2時間) |
| 第15回 | 総合演習 (多数のルータの接続、RIP/IGRP、インターネットシミュレーションによるネットワーク構成)、筆記試験 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ルータの操作手順、Packet Tracerを使ったシミュレーションを準備する(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 操作、シミュレーション結果をまとめて報告する(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | ルータを使った実機試験 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| イントラネット技術 | ~218 | 3年生・前期 | 6単位 | 選択 | 車 炳玓 | |
| 履修の前提条件 | 2年後期科目「ルーティング技術」を70点以上の成績で単位を取得すること。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| LANにおけるルーティングおよびスイッチング技術に関する技術を実習を通して修得する。具体的には、スパンニングツリープロトコル、仮想LAN、VTPなど企業内ネットワーク機器の根幹をなす機器であるスイッチに関する技術を習得する。さらに、OSPF、EIGRPなどの中級ルーティング技術及び高度なIPアドレッシング技法、WAN技術、トラフィックフィルタリング、トラブルシューティングについて学習する。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | ○ |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | ○ |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | ○ |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| | 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| 実習を中心に、情報通信ネットワークの基礎技術であるスイッチング及びルーティング技術を習得し、エンタープライズLANおよびWANのパフォーマンスを最大に生かすためのプロトコルを使用するのに必要なスキル習得を目標とする。本授業を履修すると、初級レベルのネットワーク技術者、ヘルプデスク技術者およびコンピュータ技術者の業務に必要なスキルを修得できる。本講義履修と並行にCCNA資格の準備を始める。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|------------|---------------|-------------------|
| 実習トポロジーごとに新しくチームを組み、実習を行うこと。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 連絡方法: 学籍番号、氏名、受講科目、内容等をメール(宛先: cha@kiis.ac.jp)で送ってください。対面相談の場合はなるべくオフィスアワーの時間を利用してください。 オフィスアワー::水曜日2、3時限、木曜日3時限 研究室: 656号室 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 外部試験: 次の試験の内一つ以上を受験すること。試験結果を成績評価の対象とする。(CCENT, CCNA, CCNP) 学習の確認: オンラインテスト及びポートフォリオ[科目別履修確認チェック表]を第12回目の授業時間に提出すること。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| シスコネットワークングアカデミーオンライン教材 (https://www.netacad.com) | | | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| CCNA/CCENT 問題集 | Gene | SBクリエイティブ | 978-4797388824 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 定期試験・オンラインテスト(40%)、実習(40%)、その他(20%、パケットトレーサー実習ファイル、専用ノート、チームワーク、ポートフォリオ、外部試験の結果) | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|-----------------|-----------------------------------|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | スイッチの概念 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト第1章を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 第1章の内容を専用のノートにまとめること。2時間 |
| 第2回 | スイッチの初期設定と設計 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト2. 1を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実習2. 1. 1. 6をパケットトレーサーで行うこと。2時間 |
| 第3回 | スイッチの実装 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト2. 2を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実習2. 2. 4. 11をパケットトレーサーで行うこと。2時間 |
| 第4回 | スイッチの管理 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト2. 3を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 第2章の内容を専用のノートにまとめること。2時間 |
| 第5回 | VLANの概念 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト3. 1を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実習3. 2. 2. 4をパケットトレーサーで行うこと。2時間 |
| 第6回 | VLANの設計 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト3. 3を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実習3. 3. 2. 2. をパケットトレーサーで行うこと。2時間 |
| 第7回 | VLANの実装 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト3. 2を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実習3. 2. 4. 9をパケットトレーサーで行うこと。2時間 |
| 第8回 | VLANのセキュリティ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト8. 2を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実習8. 3. 3. 6をパケットトレーサーで行うこと。2時間 |

| | | |
|----------------|-------------------------|---------------------------------|
| 第9回 | ルーティングの概念 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト第4章を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 第4章の内容を専用のノートにまとめること。2時間 |
| 第10回 | ルーターの初期設定 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト4. 1を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実習4. 1. 4. 7をパケットトレーサーで行うこと。2時間 |
| 第11回 | ルーティングの決定 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト4. 2を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題4. 2. 2. 5を専用のノートにまとめること。2時間 |
| 第12回 | ルーターの動作 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト4. 3を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実習4. 3. 2. 5をパケットトレーサーで行うこと。2時間 |
| 第13回 | VLAN間ルーティングの仕組み | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト第5章を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | テキスト第5章の内容を専用のノートにまとめること。2時間 |
| 第14回 | VLAN間ルーティングの設定 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト5. 1を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実習5. 1. 3. 7をパケットトレーサーで行うこと。2時間 |
| 第15回 | VLAN間ルーティングのトラブルシューティング | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト5. 2~5. 4を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実習5. 3. 2. 4をパケットトレーサーで行うこと。2時間 |
| 第16回 (定期試験) | | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| インターネット技術 | ~218 | 3年生・後期 | 6単位 | 選択 | 車 炳玓 | |
| 履修の前提条件 | 「イントラネット技術」を70点以上の成績で、単位を取得すること。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| 顧客の要求の収集方法、これらの要求に見合う設備と必要なプロトコル、および顧客のニーズに対処したネットワークポロジの設定方法などを実習を通して修得する。さらに、顧客に提案する設計をどう作成し、構築するか、その方法に習熟する。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | ○ |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | ○ |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| 小規模エンタープライズのためのLAN および WAN の設計に必要な技術力を養成することを目的とする。CCENT、CCNA、CCNPの資格取得を目指す。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|------------|---------------|-------------------|
| 実習ポロジごとに新しくチームを組み、実習を行うこと。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 連絡方法: 学籍番号、氏名、受講科目、内容等をメール(宛先: cha@kuis.ac.jp)で送ってください。対面相談の場合はなるべくオフィスアワーの時間を利用してください。 オフィスアワー: 水曜日2、3時限、木曜日3時限 研究室: 656号室 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 外部試験: 次の試験の内一つ以上を受験すること。試験結果を成績評価の対象とする。(CCENT, CCNA, CCNP) 学習の確認: オンラインテスト及びポートフォリオ[科目別履修確認チェック表]を第12回目の授業時間に提出すること。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| シスコネットワークングアカデミーオンライン教材 (https://www.netacad.com) | | | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| CCNA/CCENT 問題集 | Gene | SBクリエイティブ | 978-4797388824 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 定期試験・オンラインテスト(40%)、実習(40%)、その他(20%、チームワーク、ポートフォリオ、外部試験の結果) | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|---------------------------------|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | ルーティングの概念と初期設定 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト4. 0と4. 1を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題4. 0. 1. 2. を専用のノートにまとめておくこと。2時間 |
| 第2回 | ルーターの動作及びルーティングの決定 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト4. 2と4. 3を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題4. 3. 1. 4をパケットトレーサーで行うこと。2時間 |
| 第3回 | スタティックルーティング | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト6. 0～6. 2を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実習6. 2. 2. 5をパケットトレーサーで行うこと。2時間 |
| 第4回 | CIDR、VLSMとIPアドレッシング | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト6. 3を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実習6. 3. 3. 7をパケットトレーサーで行うこと。2時間 |
| 第5回 | スタティックルート及びデフォルトルートのトラブルシューティング | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト6. 4～6. 6を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実習6. 5. 2. 5をパケットトレーサーで行うこと。2時間 |
| 第6回 | ダイナミックルーティングプロトコルとルーティングテーブル | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト7. 0、7. 1と7. 5を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題7. 1. 4. 9～7. 1. 4. 11を専用のノートにまとめること。2時間 |
| 第7回 | ディスタンスベクターダイナミックルーティング | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト7. 2と7. 3を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実習7. 3. 1. 8をパケットトレーサーで行うこと。2時間 |
| 第8回 | リンクステートダイナミックルーティング | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト7. 4と7. 6を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題7. 4. 2. 9を専用のノートにまとめること。2時間 |

| | | |
|----------------|---------------------------|--|
| 第9回 | シングルエリアOSPF | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト8. 0と8. 1を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題8. 1. 3. 5を専用のノートにまとめること。2時間 |
| 第10回 | シングルエリアOSPFの設定 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト8. 2から8. 4を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実習8. 2. 4. 5をパケットトレーサーで行うこと。2時間 |
| 第11回 | アクセスコントロールリスト | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト9. 0と9. 1を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題9. 1. 5. 4を専用のノートにまとめること。2時間 |
| 第12回 | アクセスコントロールリストの設定 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト9. 2と9. 3を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実習9. 2. 3. 4と9. 3. 2. 13をパケットトレーサーで行うこと。2時間 |
| 第13回 | アクセスコントロールリストのトラブルシューティング | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト9. 4から9. 6を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実習9. 3. 2. 12と9. 3. 2. 13をパケットトレーサーで行うこと。2時間 |
| 第14回 | DHCP | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト第10章を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実習10. 1. 4. 4. をパケットトレーサーで行うこと。2時間 |
| 第15回 | ネットワークアドレスの変換 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト11. 0から11. 3を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実習11. 3. 1. 5をパケットトレーサーで行うこと。2時間 |
| 第16回 (定期試験) | | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1ENN-5863-Z2E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| インターネット技術 | 219～ | 3・4年生・前期 | 2単位 | 選択 | 車 炳 玦 | |
| ネットワーク演習 | ～218 | | | | | |
| 履修の前提条件 | 「ルーティング技術」又は「イントラネット技術」を70点以上の成績で単位を修得すること | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| 顧客の要求の収集方法、これらの要求に見合う設備と必要なプロトコル、および顧客のニーズに対処したネットワークポロジの設定方法などを実習を通して修得する。さらに、顧客に提案する設計をどう作成し、構築するか、その方法に習熟する。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| 小規模エンタープライズのためのLAN および WAN の設計に必要な技術力を養成することを目的とする。CCENT、CCNA、CCNPの資格取得を目指す。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|------------|---------------|-------------------|
| 実習ポロジごとに新しくチームを組み、実習を行うこと。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 連絡方法: 学籍番号、氏名、受講科目、内容等をメール(宛先: cha@kiis.ac.jp)で送ってください。対面相談の場合はなるべくオフィスアワーの時間を利用してください。 オフィスアワー: 水曜日2、3時限、木曜日3時限 研究室: 656号室 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ & ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 外部試験: 次の試験の内一つ以上を受験すること。試験結果を成績評価の対象とする。(CCENT, CCNA, CCNP) 学習の確認: オンラインテスト及びポートフォリオ[科目別履修確認チェック表]を第12回目の授業時間に提出すること。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| シスコネットワークングアカデミーオンライン教材 (https://www.netacad.com) | | | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| CCNA/CCENT 問題集 | Gene | SBクリエイティブ | 978-4797388824 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 定期試験・オンラインテスト(40%)、実習(40%)、その他(20%、チームワーク、ポートフォリオ、外部試験の結果) | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|----------------------------|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | アクセスコントロールリスト | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト9. 0を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | テキスト9. 0. 1. 1. の内容を専用のノートにまとめること。2時間 |
| 第2回 | IP アクセスコントロールリストの動作 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト9. 1を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題9. 1. 5. 4を専用のノートにまとめること。2時間 |
| 第3回 | 標準アクセスコントロールリスト | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト9. 2を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実習9. 2. 3. 4をパケットトレーサーで行うこと。2時間 |
| 第4回 | 拡張アクセスコントロールリスト | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト9. 3を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実習9. 3. 2. 13をパケットトレーサーで行うこと。2時間 |
| 第5回 | アクセスコントロールリストのトラブルシューティング1 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト9. 4を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題9. 3. 2. 7~9. 3. 2. 9を専用のノートにまとめること。2時間 |
| 第6回 | アクセスコントロールリストのトラブルシューティング2 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト9. 5を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実習9. 3. 2. 10と9. 3. 2. 11をパケットトレーサーで行うこと。2時間 |
| 第7回 | アクセスコントロールリストのトラブルシューティング3 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト9. 6を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実習9. 3. 2. 12と9. 3. 2. 13をパケットトレーサーで行うこと。2時間 |
| 第8回 | DHCP | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト第10章を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実習10. 1. 4. 4. をパケットトレーサーで行うこと。2時間 |

| | | |
|----------------|--------------------------|--------------------------------------|
| 第9回 | ネットワークアドレス変換の概要 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト11. 0を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | テキスト11. 0. 1. 1の内容を専用のノートにまとめること。2時間 |
| 第10回 | ネットワークアドレス変換の動作 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト11. 1を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実習11. 1. 2. 6をパケットトレーサーで行うこと。2時間 |
| 第11回 | ネットワークアドレス変換の設定 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト11. 2を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実習11. 2. 3. 7をパケットトレーサーで行うこと。2時間 |
| 第12回 | ネットワークアドレス変換のトラブルシューティング | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト11. 3を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実習11. 3. 1. 5をパケットトレーサーで行うこと。2時間 |
| 第13回 | LAN設計及び実装1 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 小規模LANのトポロジーを設計すること。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実装したLANに標準アクセスコントロールリストの設定を行うこと。2時間 |
| 第14回 | LAN設計及び実装2 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 中規模LANのトポロジーを設計すること。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実装したLANに拡張アクセスコントロールリストの設定を行うこと。2時間 |
| 第15回 | LAN設計及び実装3 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 大規模LANのトポロジーを設計すること。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実装したLANに拡張アクセスコントロールリストの設定を行うこと。2時間 |
| 第16回 (定期試験) | | |

| ナンバリング(Numbering) | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1ENN-5092-Z2E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| WebプログラミングⅡ | 219～ 情報ネットワーク学 科 | 3・4年生・前期 | 2単位 | 選択 | 車 炳玘 | |
| 履修の前提条件 | 「Webプログラミング1」を70点以上の成績で、単位を取得すること。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| PHPプログラミング及びMySQLの基礎及びHTMLとの連携について実習を通して取得する。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| Webシステム開発の基礎知識であるPHPプログラミング及びMySQLデータベースに関するスキルの取得を目標とする。本授業を履修すると、HTMLデータの処理方法やDBへの登録、検索、修正、削除などに必要なスキルを取得できる。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|------------|---------------|-------------------|
| 授業内容を参考に各自Webシステムの設計及び実装を行い、第15回目の授業時に完成したのを発表する。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 連絡方法: 学生番号、氏名、受講科目、内容等をメール(宛先: cha@kiis.ac.jp)で送ってください。対面相談の場合はなるべくオフィスアワーの時間を利用してください。 オフィスアワー::水曜日2、3時限、木曜日3時限 研究室: 656号室 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| いきなりはじめるPHP | 谷藤賢一 | リックテレコム | 978-4-89797-885-7 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| イラストでよくわかるPHP | 岡本雄樹 | インプレスジャパン | 978-4-8443-3295-4 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 定期試験(30%)、実習課題(50%)、その他(20%、レポート、外部試験の結果) | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|-----------------|---------------------------------------|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 入力フォームの操作(1) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト Chapter 1と2を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題1を行い、ソースプログラムを指定のフォルダに保存しておくこと。2時間 |
| 第2回 | データの受け取り | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト Chapter 3. 1から3. 3を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題2を行い、ソースプログラムを指定のフォルダに保存しておくこと。2時間 |
| 第3回 | 変数 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト Chapter 3. 4から3. 6を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題3を行い、ソースプログラムを指定のフォルダに保存しておくこと。2時間 |
| 第4回 | 入力チェック | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト Chapter 3. 7から3. 9を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題4を行い、ソースプログラムを指定のフォルダに保存しておくこと。2時間 |
| 第5回 | 入力フォームの操作(2) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト Chapter 3. 10から3. 12を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題5を行い、ソースプログラムを指定のフォルダに保存しておくこと。2時間 |
| 第6回 | 入力フォームの操作(3) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト Chapter 3. 13から3. 17を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題6を行い、ソースプログラムを指定のフォルダに保存しておくこと。2時間 |
| 第7回 | データベースの概念 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト Chapter 4. 1を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題7を行い、ソースプログラムを指定のフォルダに保存しておくこと。2時間 |
| 第8回 | MySQLの基本設定 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト Chapter 4. 2を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題8を行い、ソースプログラムを指定のフォルダに保存しておくこと。2時間 |

| | | |
|----------------|-----------------|---|
| 第9回 | データベースとテーブルの作成 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト Chapter 4. 3を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題9を行い、ソースプログラムを指定のフォルダに保存しておくこと。2時間 |
| 第10回 | データのタイプ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト Chapter 4. 4を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題10を行い、ソースプログラムを指定のフォルダに保存しておくこと。2時間 |
| 第11回 | データの検索 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト Chapter 4. 5から4. 7を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題11を行い、ソースプログラムを指定のフォルダに保存しておくこと。2時間 |
| 第12回 | データの登録 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト Chapter 4. 8と9を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題12を行い、ソースプログラムを指定のフォルダに保存しておくこと。2時間 |
| 第13回 | データの修正 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト Chapter 4. 10を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題13を行い、ソースプログラムを指定のフォルダに保存しておくこと。2時間 |
| 第14回 | データの削除 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト Chapter 4. 11と12を読んでおくこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題14を行い、ソースプログラムを指定のフォルダに保存しておくこと。2時間 |
| 第15回 | 課題の発表 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 発表内容のPPTを作成し、予行演習を行うこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 発表内容の修正及びコメントなどを取り入れ、プログラムを修正し、指定のフォルダに保存しておくこと。5時間 |
| 第16回 (定期試験) | | |

| | | | | | | |
|---|------------------------------------|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
| 1ENN-5093-Z2E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| WebプログラミングⅢ | 219～ 情報ネットワーク学 科 | 3・4年生・後期 | 2単位 | 選択 | 車 炳玓 | |
| 履修の前提条件 | 「WebプログラミングⅡ」を70点以上の成績で、単位を取得すること。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| 関数の使い方など高度なPHPプログラミング技法及びデータベースの設計や管理、セキュリティ対策スキルを、実習を通して取得する。 | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | | | | | | |
| 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | | |
| 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | | | | | | |
| コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | | |
| 数量的スキル Mathematics | | | | | | |
| 情報リテラシー Information Literacy | | | | | | |
| 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | | |
| 問題解決力 Problem Solving | | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | | | | | | |
| 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | | |
| 自己管理能力 Self-management | | | | | | |
| チームワーク Teamwork | | | | | | |
| リーダーシップ Leadership | | | | | | |
| 倫理観 Ethical Sense | | | | | | |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| 実践的Webシステム開発に必要なPHP及びMySQLスキルの取得を目標とする。本授業を履修すると、セキュリティ対策などを取り入れた安全なWebシステムの設計・実装及び運用に関するスキルを身に着けることができる。 | | | | | | |

| | | | |
|--|------------|---------------|-------------------|
| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
| 授業内容を参考に各自Webシステムの設計及び実装を行い、第10回目及び第15回目の授業時に発表する。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 連絡方法: 学生番号、氏名、受講科目、内容等をメール(宛先: cha@kiis.ac.jp)で送ってください。対面相談の場合はなるべくオフィスアワーの時間を利用してください。 オフィスアワー: 水曜日2、3時限、木曜日3時限 研究室: 656号室 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 外部試験: 次の試験の内一つ以上を受験すること。試験結果を成績評価の対象とする。(HTML5プロフェッショナル認定資格、PHP技術者認定試験、ITパスポート、基本情報技術者) 学習の確認: HTML・CSS・PHPのコマンドのテスト及びポートフォリオ[科目別履修確認チェック表]を第12回目の授業時間に提出すること。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| よくわかるPHPの教科書 | たにぐち まこと | マイナビ出版 | 978-4-83996468-9 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| | | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 定期試験(30%)、実習課題(50%)、その他(20%、レポート、外部試験の結果) | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|-----------------|--------------------------------------|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 変数 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト Chapter3-1から3-3の例題を行うこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題1を行い、ソースプログラムを指定のフォルダに保存しておくこと。2時間 |
| 第2回 | 計算結果の表示 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト Chapter3-4から3-6の例題を行うこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題2を行い、ソースプログラムを指定のフォルダに保存しておくこと。2時間 |
| 第3回 | 繰り返し文(1) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト Chapter3-7から3-9の例題を行うこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題3を行い、ソースプログラムを指定のフォルダに保存しておくこと。2時間 |
| 第4回 | 繰り返し文(2) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト Chapter3-10から3-12の例題を行うこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題4を行い、ソースプログラムを指定のフォルダに保存しておくこと。2時間 |
| 第5回 | 条件分岐(1) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト Chapter3-13から3-15の例題を行うこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題5を行い、ソースプログラムを指定のフォルダに保存しておくこと。2時間 |
| 第6回 | 条件分岐(2) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト Chapter3-16から3-18の例題を行うこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題6を行い、ソースプログラムを指定のフォルダに保存しておくこと。2時間 |
| 第7回 | 配列(1) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト Chapter3-19から3-21の例題を行うこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題7を行い、ソースプログラムを指定のフォルダに保存しておくこと。2時間 |
| 第8回 | 配列(2) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト Chapter3-22から3-25の例題を行うこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題8を行い、ソースプログラムを指定のフォルダに保存しておくこと。2時間 |

| | | |
|----------------|-----------------|---|
| 第9回 | 配列(3) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト Chapter3-26から3-28の例題を行うこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題9を行い、ソースプログラムを指定のフォルダに保存しておくこと。2時間 |
| 第10回 | 課題発表 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 発表PPTを作成し、予行練習を行うこと。3時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題10を行い、ソースプログラムを指定のフォルダに保存しておくこと。2時間 |
| 第11回 | 関数(1) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト Chapter4-3から4-5の例題を行うこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題11を行い、ソースプログラムを指定のフォルダに保存しておくこと。2時間 |
| 第12回 | 関数(2) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト Chapter4-6から4-8の例題を行うこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題12を行い、ソースプログラムを指定のフォルダに保存しておくこと。2時間 |
| 第13回 | phpMyAdmin(1) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト Chapter4-9と4-10の例題を行うこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題13を行い、ソースプログラムを指定のフォルダに保存しておくこと。2時間 |
| 第14回 | phpMyAdmin(2) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキスト Chapter4-11から4-15の例題を行うこと。2時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題14を行い、ソースプログラムを指定のフォルダに保存しておくこと。2時間 |
| 第15回 | 課題発表 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 課題発表の予行練習を行うこと。3時間 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 発表内容の修正及びコメントなどを取り入れ、プログラムを修正し、指定のフォルダに保存しておくこと。5時間 |
| 第16回 (定期試験) | | |

| | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
| 1ENN-6270-Z4ES | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| ネットワークアプリケーション構築 (教職関連科目 選 高等学校 情報) | 219～ 情報ネットワーク学 科 | 3・4年生・通年 | 4単位 | 選択 | 荒巻 富士夫 | ○ |
| 履修の前提条件 | プログラミングの経験があることが望ましいが、経験がなくても受講可。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| Webアプリケーション開発のための技術をコンピュータメーカーのSEとして銀行の勤定系・情報系システムの構築の実務経験から、アプリケーションの設計、プログラム開発を実習を含めて指導します。プログラミング言語としてはJava、Webサーバおよびアプリケーションをサーバ内で稼働させるコンテナとしてはTomcat、アプリケーションの記述としてはサーブレット、JSP、JavaBeansを学び、演習によって構築技術を具体的に身につけます。テーマの1回分を2週間で学習します。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | ○ | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | ○ | | | |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | ○ | | | |
| | 自己管理力 Self-management | | ○ | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | ○ | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| Javaによるプログラミングを通じて、アプリケーションを作成できるようになる。また、Javaを学ぶことにより、現在のシステム開発において重要なオブジェクト指向の基本を理解し説明できるようになる。今自分が利用しているWebのシステムがどのようにして構築されているかを理解し説明できるようになる。 | | | | | | |

| | | | |
|--|------------|---------------|--------------------|
| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
| システム構築の基本はプログラム作成ですから、多くのプログラムを書いて基本を習得してください。関連書籍も多く、ネット上にも多くのサンプルプログラムがあります。これらを利用してプログラミングに慣れてください。プログラムの中で命令や論理に疑問を残さず、質問してください。課題は必ず提出してください。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 私の講義日で休憩時間に質問、問い合わせなど受け付けます。その他連絡方法については講義中に指示します。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ & ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 学習の確認としてポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」必要事項を記入して提出してください(提出時期については指示します)。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 新・解きながら学ぶJava | 柴田望洋・由梨かおる | SB Creative | 978-4-7973-9050-+6 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 本格学習Java入門 基本の習得からゲームプログラミング 作成まで 改訂新版 | 佐々木 整 | 技術評論社 | 978-4-7741-4690-4 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 演習20%、毎回の課題30%、定期試験50% | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|--|---|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | ガイダンス、Javaの環境設定とプログラム作成手順、プログラムの基本スタイルおよび変数 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第1章、第2章のプログラムの説明文を読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 指定したプログラムを作成し、提出用に保存する(2時間) |
| 第2回 | 構造化プログラミング、条件判断による処理の分岐(if文、switch文) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第3章の問題3-1から問題3-21のうち指定した説明文を読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題の条件分岐のプログラムを作成し、提出用に保存する(2時間) |
| 第3回 | 繰り返し処理(1)for文による回数指定の繰り返し、while文による条件指定の繰り返し(前判断型) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第3章の問題3-1から問題3-16のうち指定した説明文を読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題の繰り返し処理のプログラムを作成し、提出用に保存する(2時間) |
| 第4回 | 繰り返し処理(2)while文による繰り返し(後判断型)、強制終了と中断再開 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第3章の問題3-17から問題3-29のうち指定した説明文を読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題の繰り返し処理のプログラムを作成し、提出用に保存する(2時間) |
| 第5回 | オブジェクト指向プログラミング(1)オブジェクト指向の考え方、メソッドの作り方 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第4章の問題4-1から問題4-17のうち指定した説明文を読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題のメソッドのプログラムを作成し、提出用に保存する(2時間) |
| 第6回 | オブジェクト指向プログラミング(2)オブジェクトとクラス、初期化(コンストラクタ) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第4章の問題4-18から問題4-33のうち指定した説明文を読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題のメソッドのプログラムを作成し、提出用に保存する(2時間) |
| 第7回 | クラスの継承、インターフェイス、パッケージの作成 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第8章のうち指定した説明文を読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題のクラスのプログラムを作成し、提出用に保存する(2時間) |
| 第8回 | 例外(エラー)処理、ストリームによるデータのコンソールやファイルからの入出力とデータ送受信 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第16章のうち指定した説明文を読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題の例外処理のプログラムを作成し、提出用に保存する(2時間) |

| | | |
|----------------|---|--|
| 第9回 | マルチスレッド(サーバーでの同時並行処理)、ソケットによるネットワークプログラミング、応用問題 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布したマルチスレッド等の資料を読んで機能の概要をつかんでおく(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題のソケットプログラムを作成し、提出用に保存する(2時間) |
| 第10回 | Webプログラミングとは、Tomcat(Webサーバとコンテナ)のインストール、設定と動作確認 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布した資料を読んでWebプログラミングの概要をつかんでおく(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 自宅で操作手順を再度実行して操作法を確認する(2時間) |
| 第11回 | サーブレットの構造とプログラミング(アプリケーション制御機能) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布した資料を読んでサーブレットプログラミングの概要をつかんでおく(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題のサーブレットプログラムを作成し、提出用に保存する(2時間) |
| 第12回 | サーブレットプログラミング演習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布した資料を読んでサーブレットプログラミングの概要をつかんでおく(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題のサーブレットプログラムを作成し、提出用に保存する(2時間) |
| 第13回 | JSPのプログラミング(データの表示機能) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布した資料を読んでJSPプログラミングの概要をつかんでおく(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題のJSPプログラムを作成し、提出用に保存する(2時間) |
| 第14回 | JSPのプログラミング演習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布した資料を読んでJSPプログラミングの概要をつかんでおく(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題のJSPプログラムを作成し、提出用に保存する(2時間) |
| 第15回 | JavaBeansのプログラミング、全体のまとめ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布した資料を読んでJavaBeansプログラミングの概要をつかんでおく(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題のJavaBeansプログラムを作成し、提出用に保存する(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験(Webプログラミング) | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1ENN-6270-Z4ES | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| ネットワークアプリケーション構築 (教職関連科目 選 高等学校 情報) | ～218 情報ネットワーク学 科 | 3・4年生・前期 | 4単位 | 選択 | 荒巻 富士夫 | ○ |
| 履修の前提条件 | プログラミングの経験があることが望ましいが、経験がなくても受講可。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| Webアプリケーション開発のための技術をコンピュータメーカーのSEとして銀行の勘定系・情報系システムの構築の実務経験から、アプリケーションの設計、プログラム開発を実習を含めて指導します。プログラミング言語としてはJava、Webサーバおよびアプリケーションをサーバ内で稼働させるコンテナとしてはTomcat、アプリケーションの記述としてはサーブレット、JSP、JavaBeansを学び、演習によって構築技術を具体的に身につけます。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | ○ | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | ○ | | | |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | ○ | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | ○ | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | ○ | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| Javaによるプログラミングを通じて、アプリケーションを作成できるようになる。また、Javaを学ぶことにより、現在のシステム開発において重要なオブジェクト指向の基本を理解し説明できるようになる。今自分が利用しているWebのシステムがどのようにして構築されているかを理解し説明できるようになる。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|------------|---------------|--------------------|
| システム構築の基本はプログラム作成ですから、多くのプログラムを書いて基本を習得してください。関連書籍も多く、ネット上にも多くのサンプルプログラムがあります。これらを利用してプログラミングに慣れてください。プログラムの中で命令や論理に疑問を残さず、質問してください。課題は必ず提出してください。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 私の講義日で休憩時間に質問、問い合わせなど受け付けます。その他連絡方法については講義中に指示します。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ & ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 学習の確認としてポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」必要事項を記入して提出してください(提出時期については指示します)。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 新・解きながら学ぶJava | 柴田望洋・由梨かおる | SB Creative | 978-4-7973-9050-+6 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 本格学習Java入門 基本の習得からゲームプログラミング 作成まで 改訂新版 | 佐々木 整 | 技術評論社 | 978-4-7741-4690-4 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 演習20%、 毎回の課題30%、 定期試験50% | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|--|---|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | ガイダンス、Javaの環境設定とプログラム作成手順、プログラムの基本スタイルおよび変数 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第1章、第2章のプログラムの説明文を読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 指定したプログラムを作成し、提出用に保存する(2時間) |
| 第2回 | 構造化プログラミング、条件判断による処理の分岐(if文、switch文) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第3章の問題3-1から問題3-21のうち指定した説明文を読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題の条件分岐のプログラムを作成し、提出用に保存する(2時間) |
| 第3回 | 繰り返し処理(1)for文による回数指定の繰り返し、while文による条件指定の繰り返し(前判断型) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第3章の問題3-1から問題3-16のうち指定した説明文を読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題の繰り返し処理のプログラムを作成し、提出用に保存する(2時間) |
| 第4回 | 繰り返し処理(2)while文による繰り返し(後判断型)、強制終了と中断再開 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第3章の問題3-17から問題3-29のうち指定した説明文を読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題の繰り返し処理のプログラムを作成し、提出用に保存する(2時間) |
| 第5回 | オブジェクト指向プログラミング(1)オブジェクト指向の考え方、メソッドの作り方 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第4章の問題4-1から問題4-17のうち指定した説明文を読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題のメソッドのプログラムを作成し、提出用に保存する(2時間) |
| 第6回 | オブジェクト指向プログラミング(2)オブジェクトとクラス、初期化(コンストラクタ) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第4章の問題4-18から問題4-33のうち指定した説明文を読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題のメソッドのプログラムを作成し、提出用に保存する(2時間) |
| 第7回 | クラスの継承、インターフェイス、パッケージの作成 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第8章のうち指定した説明文を読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題のクラスのプログラムを作成し、提出用に保存する(2時間) |
| 第8回 | 例外(エラー)処理、ストリームによるデータのコンソールやファイルからの入出力とデータ送受信 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書第16章のうち指定した説明文を読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題の例外処理のプログラムを作成し、提出用に保存する(2時間) |

| | | |
|----------------|---|--|
| 第9回 | マルチスレッド(サーバーでの同時並行処理)、ソケットによるネットワークプログラミング、応用問題 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布したマルチスレッド等の資料を読んで機能の概要をつかんでおく(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題のソケットプログラムを作成し、提出用に保存する(2時間) |
| 第10回 | Webプログラミングとは、Tomcat(Webサーバとコンテナ)のインストール、設定と動作確認 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布した資料を読んでWebプログラミングの概要をつかんでおく(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 自宅で操作手順を再度実行して操作法を確認する(2時間) |
| 第11回 | サーブレットの構造とプログラミング(アプリケーション制御機能) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布した資料を読んでサーブレットプログラミングの概要をつかんでおく(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題のサーブレットプログラムを作成し、提出用に保存する(2時間) |
| 第12回 | サーブレットプログラミング演習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布した資料を読んでサーブレットプログラミングの概要をつかんでおく(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題のサーブレットプログラムを作成し、提出用に保存する(2時間) |
| 第13回 | JSPのプログラミング(データの表示機能) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布した資料を読んでJSPプログラミングの概要をつかんでおく(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題のJSPプログラムを作成し、提出用に保存する(2時間) |
| 第14回 | JSPのプログラミング演習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布した資料を読んでJSPプログラミングの概要をつかんでおく(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題のJSPプログラムを作成し、提出用に保存する(2時間) |
| 第15回 | JavaBeansのプログラミング、全体のまとめ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布した資料を読んでJavaBeansプログラミングの概要をつかんでおく(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題のJavaBeansプログラムを作成し、提出用に保存する(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験(Webプログラミング) | |

| ナンバリング(Numbering) | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1EDN-6372-22E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| ビジネスプログラミング | 219～ 情報ネットワーク学科 ～218 | 2年生・前期 | 2単位 | 選択 | ディンダ プラマンタ | |
| 履修の前提条件 | プログラミング入門またはプログラミング初歩IIを履修していること。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| Excelを高度に利用するためにVBA(Visual Basic for Application)を使用したマクロのプログラミングを学習する。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| Excelのマクロの記録、VBAによるExcelデータに対するプログラミングの学習によってExcelの利用方法が広がり、自分独自の機能を付け加えて、今後の学習や仕事で広範囲に活用することができるようになる。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|------------|---------------|-------------------|
| 毎回各自のPCで、実際に手を動かしてプログラミングをしてください。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 連絡、問い合わせ、相談などは研究室にて受け付けます。オフィスアワーの時間については掲示を確認してください。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ & ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 学生のためのExcel VBA 第2版 | 若山芳三郎 | 東京電機大学出版局 | 978-4-501-55450-7 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 必要に応じて指示します。 | | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 毎回のプログラミング課題50%、定期試験50% | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|---|---|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | ガイダンス、自動記録によるマクロの作成と実行 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 講義開始前までにPCのセットアップや動作確認をしておいてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で行った例題を自力で解いてください。(2時間) |
| 第2回 | 簡単なマクロの作成 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 講義開始前までに行った課題・宿題およびPCのセットアップや動作確認をしておいてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で行った例題を自力で解いてください。(2時間) |
| 第3回 | 変数の使い方と計算 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 講義開始前までに行った課題・宿題およびPCのセットアップや動作確認をしておいてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で行った例題を自力で解いてください。(2時間) |
| 第4回 | セルの選択とコピー | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 講義開始前までに行った課題・宿題およびPCのセットアップや動作確認をしておいてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で行った例題を自力で解いてください。(2時間) |
| 第5回 | 条件による分岐 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 講義開始前までに行った課題・宿題およびPCのセットアップや動作確認をしておいてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で行った例題を自力で解いてください。(2時間) |
| 第6回 | 複数の条件による分岐 (If...Then...Else...End Ifステートメント) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 講義開始前までに行った課題・宿題およびPCのセットアップや動作確認をしておいてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で行った例題を自力で解いてください。(2時間) |
| 第7回 | 複数の条件による分岐 (Select Caseステートメント) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 講義開始前までに行った課題・宿題およびPCのセットアップや動作確認をしておいてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で行った例題を自力で解いてください。(2時間) |
| 第8回 | 処理の繰り返し (For...Nextステートメント) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 講義開始前までに行った課題・宿題およびPCのセットアップや動作確認をしておいてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で行った例題を自力で解いてください。(2時間) |

| | | |
|----------------|---------------------------|---|
| 第9回 | 二重の繰り返し | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 講義開始前までに行った課題・宿題およびPCのセットアップや動作確認をしておいてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で行った例題を自力で解いてください。(2時間) |
| 第10回 | 処理の繰り返し (Do While...Loop) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 講義開始前までに行った課題・宿題およびPCのセットアップや動作確認をしておいてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で行った例題を自力で解いてください。(2時間) |
| 第11回 | イベントプロシージャとSubプロシージャ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 講義開始前までに行った課題・宿題およびPCのセットアップや動作確認をしておいてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で行った例題を自力で解いてください。(2時間) |
| 第12回 | 一次元配列 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 講義開始前までに行った課題・宿題およびPCのセットアップや動作確認をしておいてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で行った例題を自力で解いてください。(2時間) |
| 第13回 | 二次元配列 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 講義開始前までに行った課題・宿題およびPCのセットアップや動作確認をしておいてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で行った例題を自力で解いてください。(2時間) |
| 第14回 | ユーザーフォームの作成 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 講義開始前までに行った課題・宿題およびPCのセットアップや動作確認をしておいてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で行った例題を自力で解いてください。(2時間) |
| 第15回 | 総合演習と復習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 講義開始前までに行った課題・宿題およびPCのセットアップや動作確認をしておいてください。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義で行った例題を自力で解いてください。(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1EDN-6092-Z2E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 多変量解析 | 219～ | 3・4年生・前期 | 2単位 | 選択 | 荒平 高章 | |
| 経営統計 | ～218 | 2年生・後期 | | | | |
| 履修の前提条件 | 統計学入門、統計学を履修していること。 (履修していない場合は、先に上記科目を履修すること。) | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| 多変量データによるデータ間の関連性の把握、予測、要因分析などを通して、新たな(潜在的な)情報を把握するため、身近で簡単な例題をもとに、代表的な手法の考え方、使い方、分析結果の見方を学びます。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | ○ |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| 【知識】 ・分析手法(回帰分析・クラスター分析・主成分分析・判別分析・因子分析)を説明できる。 【態度・習慣】 ・疑問点を尋ねることができる。・講義に参加できる。 【技能】 ・教科書の例題を模倣し、演習問題を解くことができる。・時間内で、与えられた問題を解くことができる。 ・任意のデータを適切に記述できる。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|------------|---------------|-------------------|
| Excel を用いて、相関図、重回帰分析、判別分析、数量化理論 I 類の実習を行いますので、積極的に取り組む様に心掛けてください。 また、インターネットの統計ポータルサイトから興味のあるデータをダウンロードして、実習で学んだ手法をもとに、卒業論文にも利用できるデータ解析を学びます。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 教員との連絡方法は、授業の終了後、あるいは研究室を訪ねてください。 オフィスアワーの時間は、掲示を参照して下さい。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 6回目と9回目はPCを持参することが望ましい。 また、KIISNW にアクセスできるように環境を整えておいて下さい。 学習の確認:ポートフォリオ・ルーブリックシートに必要事項を記入し8回目講義および最終講義時に提出すること。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 例題でよくわかる はじめての多変量解析 | 加藤豊 | 森北出版 | 978-4-627-08221-2 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 経営のための多変量解析法 | 本多正久・島田一明 | 産能大学出版部 | ISBN4 382-04511-8 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 演習やレポートなどの提出物、定期試験を総合的に評価する。 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|--|---|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 1章 多変量解析とは 1 (目的・準備、回帰分析、数量化の方法) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2.0h) |
| 第2回 | 1章 多変量解析とは 2 (クラスター分析、主成分分析、因子分析、判別分析) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2.0h) |
| 第3回 | 2章 統計の基礎事項の準備 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2.0h) |
| 第4回 | 3章 線形代数の基礎事項の準備 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2.0h) |
| 第5回 | 4章 単回帰分析 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2.0h) |
| 第6回 | 回帰分析のPCIによる演習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2.0h) |
| 第7回 | 5章 重回帰分析 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2.0h) |
| 第8回 | 6章 数量化I類 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2.0h) |

| | | |
|----------------|--------------------|---|
| 第9回 | 数量化理論 I 類のPCIによる演習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2.0h) |
| 第10回 | 7章 クラスター分析 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2.0h) |
| 第11回 | 8章 主成分分析1 (主成分の導出) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2.0h) |
| 第12回 | 8章 主成分分析2 (主成分分析) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2.0h) |
| 第13回 | 9章 判別分析 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2.0h) |
| 第14回 | 10章 因子分析 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2.0h) |
| 第15回 | まとめ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 習う予定のテキストをよく読んでおくこと。テキストを読んでも分からなかった箇所を抽出し、講義中に確認すること。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 習った単元の専門用語や統計的手法の考え方、手順などをテキスト、Web、その他の参考書などを通して理解しておくこと。(2.0h) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験を実施する。 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1EDN-6050-Z2E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| データ解析 | 219～ | 3・4年生・前期 | 2単位 | 選択 | 橋爪 善光 | |
| 履修の前提条件 | 統計入門, 統計学を両方とも修得していること。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>データサイエンスの基本となるデータ分析について, データの取得, 分析, 結果の解釈までを代表的な分析手法に適用し, 一連のプロセスを学ぶ. また, 最も重要な分析結果の解釈についてもクラス内で発表の機会を設ける.</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | ○ |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>データサイエンスの一連のプロセス(問題点の発見, 関連データの取得, データの精査, 分析, 結果の解釈, 問題解決)を経験・修得することを目標とする.</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|------------|---------------|-------------------|
| 各自で実際にデータ解析をして発表をしてもらいます。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 連絡、問い合わせ、相談などは研究室(361)にて受け付けます。オフィスアワーの時間については掲示を確認してください。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 入門統計学 | 栗原 伸一 | オーム社 | 978-4-274-06855-3 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 必要に応じて指示します。 | | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 平常点(課題・発表・授業中の発言など)、定期試験の総合評価 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|-----------------|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | ガイダンス | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 統計学入門および統計学の授業の復習をしておく(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う(2h) |
| 第2回 | 検定の基本 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ガイダンスを踏まえて統計学入門および統計学の授業の復習をしておく(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う。教科書の対応した部分を読み、問題を解く(2h) |
| 第3回 | 対応の無い2群の差の検定 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業の内容を復習し、教科書の対応した部分を予め読んで疑問点を整理しておく(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う。教科書の対応した部分を再度読み、問題を解く(2h) |
| 第4回 | 対応のある2群の差の検定 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業の内容を復習し、教科書の対応した部分を予め読んで疑問点を整理しておく(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う。教科書の対応した部分を再度読み、問題を解く(2h) |
| 第5回 | 等分散の検定 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業の内容を復習し、教科書の対応した部分を予め読んで疑問点を整理しておく(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う。教科書の対応した部分を再度読み、問題を解く(2h) |
| 第6回 | 一元配置分散分析 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業の内容を復習し、教科書の対応した部分を予め読んで疑問点を整理しておく(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う。教科書の対応した部分を再度読み、問題を解く(2h) |
| 第7回 | 二元配置以上の分散分析 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業の内容を復習し、教科書の対応した部分を予め読んで疑問点を整理しておく(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う。教科書の対応した部分を再度読み、問題を解く(2h) |
| 第8回 | 多重比較法 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業の内容を復習し、教科書の対応した部分を予め読んで疑問点を整理しておく(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う。教科書の対応した部分を再度読み、問題を解く(2h) |

| | | |
|----------------|-----------------|--|
| 第9回 | カテゴリデータの検定 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業の内容を復習し、教科書の対応した部分を予め読んで疑問点を整理しておく(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う。教科書の対応した部分を再度読み、問題を解く(2h) |
| 第10回 | 順位データの検定 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業の内容を復習し、教科書の対応した部分を予め読んで疑問点を整理しておく(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う。教科書の対応した部分を再度読み、問題を解く(2h) |
| 第11回 | 主成分分析 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業の内容を復習し、教科書の対応した部分を予め読んで疑問点を整理しておく(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う。教科書の対応した部分を再度読み、問題を解く(2h) |
| 第12回 | データ解析の流れ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回までの授業の内容を復習し、解析を試みるデータを用意する(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う(2h) |
| 第13回 | データ解析 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回までの授業の復習をする(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行う(2h) |
| 第14回 | 解析結果の発表(可視化) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | データ解析を行い発表の準備を行う(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 指摘された点について再度整理する(2h) |
| 第15回 | 解析結果の発表(検定) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | データ解析を行い発表の準備を行う(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 指摘された点について再度整理する(2h) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1EDN-6070-Z2E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| データモデリング | 219～ 情報ネットワーク学 科 | 3・4年生・後期 | 2単位 | 選択 | 橋爪 善光 | |
| 履修の前提条件 | 情報数学I、情報数学IIを合格する程度の線形代数および微積分の知識があること | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>本講義では、大量データの処理において欠かせないモデル作成について学びます。自然現象をモデル化し、解析する手法の紹介を通して、蓄積されたデータから未来を予測するために必要な知識を身に付けます。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>自然現象や社会現象に対して数理モデルを構築する考え方を身につける。 データに基づく考察が出来る。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|--|----------------------|--|
| 講義内容に関する応用問題を解き、説明をしてもらいます。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 連絡、問い合わせ、相談などは研究室(361)にて受け付けます。オフィスアワーの時間については掲示を確認してください。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 必要に応じて指示します | | | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 力学系入門 進化のダイナミクス 数理生物学 | Morris W. Hirsch他 Martin A. Nowak 瀬野祐美 | 共立出版 共立出版 共立出版 | 978-4320111363 978-4320056657 978-4320056565 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 平常点(提出物・授業中の発言など)、中間テスト、定期試験の総合評価 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|-----------------|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | ガイダンス | |
| | 事前学習 (内容・時間) | シラバスを読み、情報数学 I (線形代数) および情報数学 II (微分積分) の復習をする(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 情報数学 I (線形代数) および情報数学 II (微分積分) の復習をする(2h) |
| 第2回 | 微分方程式 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 高校の数Ⅲの微分方程式および情報数学 II (微分積分) の復習をする(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行い、理解できなかった数式を考えながら書き写し図を描く(2h) |
| 第3回 | ロジスティクス方程式 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業の内容をもう一度自分で行う(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行い、理解できなかった数式を考えながら書き写し図を描く(2h) |
| 第4回 | 分岐現象 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業の内容をもう一度自分で行う(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行い、理解できなかった数式を考えながら書き写し図を描く(2h) |
| 第5回 | 2次元微分方程式 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業の内容をもう一度自分で行う(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行い、理解できなかった数式を考えながら書き写し図を描く(2h) |
| 第6回 | 固有値と固有ベクトル | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業の内容をもう一度自分で行う(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行い、理解できなかった数式を考えながら書き写し図を描く(2h) |
| 第7回 | トレースと行列式 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業の内容をもう一度自分で行う(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行い、理解できなかった数式を考えながら書き写し図を描く(2h) |
| 第8回 | 中間テスト | |
| | 事前学習 (内容・時間) | これまでの授業内容を復習する(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | ノートを見ながらもう一度中間テストをやる(2h) |

| | | |
|----------------|-----------------|------------------------------------|
| 第9回 | 進化ゲーム(平衡) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 進化ゲームについてインターネットで調べる(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行い、理解できなかった数式を考えながら書き写し図を描く(2h) |
| 第10回 | 進化ゲーム(Nash均衡) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 進化ゲームについてインターネットで調べる(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行い、理解できなかった数式を考えながら書き写し図を描く(2h) |
| 第11回 | 囚人のジレンマ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 囚人のジレンマについてインターネットで調べる(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行い、理解できなかった数式を考えながら書き写し図を描く(2h) |
| 第12回 | 線形計画法 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 数学の関数についての復習をする(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行い、理解できなかった数式を考えながら書き写し図を描く(2h) |
| 第13回 | ベイズの定理 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 数学の確率についての復習をする(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行い、理解できなかった数式を考えながら書き写し図を描く(2h) |
| 第14回 | ベイズ推定 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回授業の内容を自分でもう一度行う(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行い、理解できなかった数式を考えながら書き写し図を描く(2h) |
| 第15回 | 総合演習と復習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 第9回から第14回の授業内容について復習し、疑問点を洗い出す(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 課題を行い、理解できなかった数式を考えながら書き写し図を描く(2h) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 | |

| | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| ナンバリング(Numbering) | | | | | | |
| 1EDN-6120-Z2E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 統計プログラミング | 219～ 情報ネットワーク学科 | 3・4年生・後期 | 2単位 | 選択 | ディンダ プラマンタ | |
| 履修の前提条件 | 統計学を履修していること。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| Rを用いて統計プログラミングに関する基本事項について学び、それらの知識・技能を活かして、より応用的な知識及び技能の獲得を目指す。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | ○ |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| 倫理観 Ethical Sense | | | | | | |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| ①プログラミング言語に関する基本用語が説明できる。②統計的なサンプルプログラムを応用できる。③課題に応じて最適な処理構文を選択し、使用できる。④講義に参加できる。⑤課題解決のためにお互いに助け合えることができる。⑥疑問点を尋ねることができる。 | | | | | | |

| | | | |
|---|------------|---------------|-----------------------|
| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
| 聴講型講義の他に、学生参加型の演習を行う。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 連絡、問い合わせ、相談などは研究室にて受け付ける。オフィスアワーの時間については掲示を確認すること。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ & ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出すること。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 読む統計学使う統計学 | 広田すみれ | 慶応義塾大学出版会 | ISBN978-4-7664-2036-4 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 必要に応じて指示する。 | | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 実習課題(講義中とレポート)と定期試験をもとに総合的に判断する。 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|---|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 講義ガイダンス, プログラミング概要 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 講義開始前までに, テキストの該当箇所を通読しておくこと. (2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 習った単元の専門用語や統計的手法の考え方, 手順などをテキスト, Web, その他の参考書などを通して理解しておくこと. (2時間) |
| 第2回 | Rの実行環境構築 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 pp.22~24 を読んでおくこと(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 時間内にRのインストールできなかった人は必ず, 完成させること. (2時間) |
| 第3回 | データ前処理 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | Webで第3回のテーマを検索し, 選んでその内容を読んでおくこと. (2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 時間内に作成できなかったプログラムは必ず, 完成させること. (2時間) |
| 第4回 | データの読み込み | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 pp.56~58 を読んでおくこと(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 時間内に作成できなかったプログラムは必ず, 完成させること. (2時間) |
| 第5回 | Rの反復: ロジックとフローコントロール I (IF・ELSE・ELSE IF) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | Webで第5回のテーマを検索し, 選んでその内容を読んでおくこと. (2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 時間内に作成できなかったプログラムは必ず, 完成させること. (2時間) |
| 第6回 | Rの反復: ロジックとフローコントロール II (For Loop と While Loop) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | Webで第6回のテーマを検索し, 選んでその内容を読んでおくこと. (2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 時間内に作成できなかったプログラムは必ず, 完成させること. (2時間) |
| 第7回 | グラフの作成 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 pp.58~59とpp.70~73 を読んでおくこと(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 時間内に作成できなかったプログラムは必ず, 完成させること. (2時間) |
| 第8回 | 中間課題演習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 第1回~第7回を復習しておくこと.(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「統計データを可視化するのに最適なグラフは何か」, 第9回前までにレポートを書いて送ること(自由フォーマット).(2時間) |

| | | |
|----------------|-----------------------------|---|
| 第9回 | シミュレーション: 乱数生成・線形モデル・無作為抽出 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | Webで第9回のテーマを検索し, 選んでその内容を読んでおくこと. (2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 時間内に作成できなかったプログラムは必ず, 完成させること. (2時間) |
| 第10回 | t検定 対応なし(平均を比較) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | Webで第10回のテーマを検索し, 選んでその内容を読んでおくこと. (2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 時間内に作成できなかったプログラムは必ず, 完成させること. (2時間) |
| 第11回 | t検定 対応あり(平均を比較) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | Webで第11回のテーマを検索し, 選んでその内容を読んでおくこと. (2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 時間内に作成できなかったプログラムは必ず, 完成させること. (2時間) |
| 第12回 | 分散分析(ANOVA) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | Webで第12回のテーマを検索し, 選んでその内容を読んでおくこと. (2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 時間内に作成できなかったプログラムは必ず, 完成させること. (2時間) |
| 第13回 | 機械学習に向けて: 単回帰分析 I (線形回帰) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 pp.118~119とWebで第13回のテーマ を読んでおくこと(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 時間内に作成できなかったプログラムは必ず, 完成させること. (2時間) |
| 第14回 | 機械学習に向けて: 単回帰分析 II (多重線形回帰) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | Webで第14回のテーマを検索し, 選んでその内容を読んでおくこと. (2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 時間内に作成できなかったプログラムは必ず, 完成させること. (2時間) |
| 第15回 | 後期課題演習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 第9回~第14回を復習しておくこと.(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「なぜ機械学習に統計的プログラミングが必要なのか」, 第16回前までにレポートを書いて送ること(自由フォーマット).(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 | |

| | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
| 1EDN-5251-Z2E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 機械学習 | 219～ 情報ネットワーク学科 | 3・4年生・前期 | 2単位 | 選択 | ディンダ プラマンタ | |
| 履修の前提条件 | 統計学・プログラミング実践IIを履修していること。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| 線形回帰,k近傍法, SVM, ニューラルネットワーク, Pythonベースのチュートリアルなど, 機械学習の一般的な話題を扱う。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | ○ |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| ①機械学習が説明できる。②回帰や分類における各種モデルについてその特徴および相違点を理解する。③基本的なニューラルネットワークの考え方、プログラム実装ができる。④講義に参加できる。⑤課題解決のためにお互いに助け合えることができる。⑥疑問点を尋ねることができる。 | | | | | | |

| | | | |
|---|--|---------------|-------------------|
| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
| すべての授業に出席することを期待しています。授業では教科書には載っていない内容についてもカバーするので、これは特に重要なことです。また、聴講型講義の他に、学生参加型の演習を行います。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 連絡, 問い合わせ, 相談などは研究室にて受け付けます。オフィスアワーの時間については掲示を確認してください。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ & ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| Deep Learning | Ian Goodfellow, Yoshua Bengio, Aaron Courville | The MIT Press | 978-0262035613 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| Pattern Recognition and Machine Learning. | Christopher M. Bishop | Springer | 978-0387310732 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 毎回の課題50%, 定期試験50% | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 機械学習イントロダクション | |
| | 事前学習 (内容・時間) | Webで第1回のテーマを検索し、選んでその内容を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 第1回の内容を復習しておくこと。(2時間) |
| 第2回 | 復習; 確率・統計学 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | Webで第2回のテーマを検索し、選んでその内容を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 第2回の内容を復習しておくこと。(2時間) |
| 第3回 | Python復習及びnumpy・scikit-learn環境構築 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | Webで第3回のテーマを検索し、選んでその内容を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 時間内に作成できなかったプログラムは必ず、完成させること。(2時間) |
| 第4回 | Pythonプログラミング [numpyおよびscikit-learn] | |
| | 事前学習 (内容・時間) | Webで第4回のテーマを検索し、選んでその内容を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 時間内に作成できなかったプログラムは必ず、完成させること。(2時間) |
| 第5回 | 線形回帰 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | Webで第5回のテーマを検索し、選んでその内容を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 第5回の内容を復習しておくこと。 |
| 第6回 | 線形回帰実習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | Webで第6回のテーマを検索し、選んでその内容を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 時間内に作成できなかったプログラムは必ず、完成させること。(2時間) |
| 第7回 | k近傍法 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | Webで第7回のテーマを検索し、選んでその内容を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 第7回の内容を復習しておくこと。 |
| 第8回 | サポートベクターマシン - 1 (理論) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | Webで第8回のテーマを検索し、選んでその内容を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 第8回の内容を復習しておくこと。 |

| | | |
|----------------|---|--|
| 第9回 | サポートベクターマシン - 2 (実習) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | Webで第9回のテーマを検索し、選んでその内容を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 時間内に作成できなかったプログラムは必ず、完成させること。(2時間) |
| 第10回 | パーセプトロン | |
| | 事前学習 (内容・時間) | Webで第10回のテーマを検索し、選んでその内容を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 第10回の内容を復習しておくこと。 |
| 第11回 | ニューラルネットワーク | |
| | 事前学習 (内容・時間) | Webで第11回のテーマを検索し、選んでその内容を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 第11回の内容を復習しておくこと。 |
| 第12回 | 畳み込みニューラルネットワーク(CNN) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | Webで第12回のテーマを検索し、選んでその内容を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 第12回の内容を復習しておくこと。 |
| 第13回 | オートエンコーダ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | Webで第13回のテーマを検索し、選んでその内容を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 第13回の内容を復習しておくこと。 |
| 第14回 | Kerasを用いたNN開発実習 - 1 (オートエンコーダ) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | Webで第14回のテーマを検索し、選んでその内容を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 時間内に作成できなかったプログラムは必ず、完成させること。(2時間) |
| 第15回 | Kerasを用いたNN開発実習 - 2 (確率的バイズニューラルネットワーク) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | Webで第15回のテーマを検索し、選んでその内容を読んでおくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 時間内に作成できなかったプログラムは必、完成させること。(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|---|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 1EDN-5252-Z2E | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 人工知能 | 219～ | 3・4年生・後期 | 2単位 | 選択 | 荒平 高章 | |
| 履修の前提条件 | 情報リテラシー演習を履修していること。 プログラミング実践I・II, 機械学習を履修していることが望ましい。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| 現在、人工知能技術は、私たちの生活の様々なところで使われている。本授業では、人工知能技術の基礎を体系的に学ぶ。また、基礎事項のみならず、授業の中で人工知能技術の応用例について触れ、実生活に密着してきつつある姿を垣間見る。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | ○ |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| ①人工知能に関する基本用語が説明できる。②講義に参加できる。③課題解決のためにお互いに助け合えることができる。疑問点を尋ねることができる。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|---|------------|---------------|-------------------|
| 聴講型講義と実習型講義を併用して実施する。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 連絡, 問い合わせ, 相談などは研究室(653)にて受け付ける。オフィスアワーの時間については掲示を確認すること。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 学習の確認:ポートフォリオ・ルーブリックシートに必要事項を記入し8回目講義および最終講義時に提出すること。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 基礎から学ぶ人工知能の教科書 | 小高知宏 | オーム社 | 978-4-274-22426-3 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| | | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| レポートと定期試験をもとに総合的に判断する。 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|-----------------|---|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | ガイダンス | |
| | 事前学習 (内容・時間) | シラバスを通読し, 受講理由を明確にする. (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する. (2.0h) |
| 第2回 | 人工知能とは(1) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の当該箇所(pp.2-9)を通読する. (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する. (2.0h) |
| 第3回 | 人工知能とは(2) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の当該箇所(pp.10-19)を通読する. (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する. (2.0h) |
| 第4回 | 人工知能の歴史(1) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の当該箇所(pp.21-31)を通読する. (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する. (2.0h) |
| 第5回 | 人工知能の歴史(2) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の当該箇所(pp.33-43)を通読する. (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する. (2.0h) |
| 第6回 | 機械学習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の当該箇所(pp.49-77)を通読する. (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する. (2.0h) |
| 第7回 | 知識表現と推論 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の当該箇所(pp.81-94)を通読する. (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する. (2.0h) |
| 第8回 | ニューラルネットワーク | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の当該箇所(pp.99-115)を通読する. (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する. (2.0h) |

| | | |
|----------------|-----------------|---|
| 第9回 | 深層学習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の当該箇所(pp.121-132)を通読する. (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する. (2.0h) |
| 第10回 | 進化的計算と群知能 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の当該箇所(pp.141-158)を通読する. (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する. (2.0h) |
| 第11回 | 自然言語処理 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の当該箇所(pp.165-187)を通読する. (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する. (2.0h) |
| 第12回 | 画像認識 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の当該箇所(pp.191-201)を通読する. (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する. (2.0h) |
| 第13回 | エージェントと強化学習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の当該箇所(pp.211-226)を通読する. (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する. (2.0h) |
| 第14回 | 人工知能とゲーム(1) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の当該箇所(pp.235-249)を通読する. (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する. (2.0h) |
| 第15回 | 人工知能とゲーム(2) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の当該箇所(pp.249-251, 259-265)を通読する. (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | KIIS学修ポートフォリオ・ルーブリックに受講理由を含めて本時の内容を記載する. (2.0h) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験を実施する | |

教職に関する科目

| | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
| 2TTB-5100-12ET | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 教師入門 (教職に関する科目) | 共通 | 1年生・後期 | 2単位 | 教必 | 高橋 潤子 | |
| 履修の前提条件 | ①学校教育に関心があること。②ディスカッションに意欲的に取り組むこと。 ※禁止事項: 私語。正当な理由のない遅刻、許可のない入退。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| 一人最低2回は、問題提起をしてもらいます。それに対し、グループ又は個人としての意見・疑問を出し合い討論します。最終的に、理想の教育について考えます。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | ○ |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | ○ |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ |
| | 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| この授業の目標の第一は、普通教育だけでなく不登校、生涯学習、特別支援教育、命の教育等についても幅広く理解することです。第二は、ディスカッションやチーム活動を通じて、「理想とする」学校教育や教師について考えることです。 | | | | | | |

| | | | |
|--|-------------|------------------|-----------------------------|
| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
| 多様な視点で学校教育について考え、主体的に事前事後の学習ができるようにしてください。 対話型の授業を心がけますので、意欲的な発言を期待しています。 授業の終わりには毎回コメントカードの作成・提出してください。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 連絡、問合せ先は、kimandkayl@yahoo.co.jpにて随時受け付けます。 オフィスアワーは、授業日の授業の前後の時間になります。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ & ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 学習の確認: ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入して授業の前までに高橋までメールで提出してください。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 特に指定しませんが、必要に応じて資料を配布します。 | | | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 学校の戦後史 教育言説の歴史社会学 | 木村元 広田照幸 | 岩波書店 名古屋大学出版会 | 9784004315360 481580396X |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価の方法: 定期試験50%、問題提起20%、平常点30%(ディスカッション、ポートフォリオ、レポート、コメントカードの作成等) ・成績評価の基準 ①不登校、子どもの貧困、特別支援教育、命の教育等を理解しているか。 ②創意工夫をして問題提起を行おうとしているか。ディスカッションに積極的に参加しているか。 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|--|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | オリエンテーション:授業の進め方,成績評価等についての説明等 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教職とは何かについて調べて、まとめてきてください。授業で質問します(2時間)。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義内容をwordで100字以内にまとめ、メールで送ってください。回答がないと本日の授業は欠席となりますので注意してください(2時間)。 |
| 第2回 | まず、係となった生徒が問題提起を行い、これに関する意見交換等を30分間で行います。その後、少年犯罪とマスコミの関係について解説を行います。その際、必要に応じて意見交換をします。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 身近な少年犯罪をマスコミがどう報じているかを調べ、その問題点をまとめてきてください。授業で質問します(2時間)。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義内容をwordで200字程度にまとめ、メールで送ってください。回答がないと本日の授業は欠席となりますので注意してください(2時間)。 |
| 第3回 | まず、係となった生徒が問題提起を行い、これに関する意見交換等を30分間で行います。その後、マスコミの報道が教育に与える影響について考察します。その際、必要に応じて意見交換をします。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教育改革が議論された過去の少年犯罪について、どのような議論がなされたのかを、新聞等を用いてまとめてきてください。授業で質問します(2時間)。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義内容をwordで100字程度にまとめ、メールで送ってください。回答がないと本日の授業は欠席となりますので注意してください(2時間)。 |
| 第4回 | まず、係となった生徒が問題提起を行い、これに関する意見交換等を30分間で行います。その後、教師に対する保護者の願いが、どのように変容したのかを歴史的にみていきます。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 戦後の教師の社会的立場がどのように変容していったのかを、調べてまとめてきてください。授業で質問します(2時間)。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義内容をwordで200字程度にまとめ、メールで送ってください。回答がないと本日の授業は欠席となりますので注意してください(2時間)。 |
| 第5回 | まず、係となった生徒が問題提起を行い、これに関する意見交換等を30分間で行います。その後、不登校や子どもの問題行動の背景に貧困があること、子どもの貧困に教師はどう向き合えばいいのかな等を検討します。その際、必要に応じて意見交換をします。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 子どもの貧困の解決策を考え、200字程度にまとめてきてください。授業で質問します(2時間)。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義内容をwordで100字以内にまとめ、メールで送ってください。回答がないと本日の授業は欠席となりますので注意してください(2時間)。 |
| 第6回 | まず、係となった生徒が問題提起を行い、これに関する意見交換等を30分間で行います。その後、不登校の現状と、原因から解決策を考えます。その際、意見交換をします。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 不登校の実態や原因を、まとめてきてください。授業で質問します(2時間)。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義内容をwordで100字以内にまとめ、メールで送ってください。回答がないと本日の授業は欠席となりますので注意してください(2時間)。 |
| 第7回 | まず、係となった生徒が問題提起を行い、これに関する意見交換等を30分間で行います。その後、夜間中学校の種類や機能について解説します。その際、必要に応じて意見交換をします。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 夜間中学校について、調べてまとめてきてください。授業で質問します(2時間)。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義内容をwordで100字以内にまとめ、メールで送ってください。回答がないと本日の授業は欠席となりますので注意してください(2時間)。 |
| 第8回 | まず、係となった生徒が問題提起を行い、これに関する意見交換等を30分間で行います。その後、夜間中学校の入学資格、教師の役割や指導等について解説します。その際、必要に応じて意見交換をします。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | どのような場合に夜間中学校に入学できるのか、教師はどのように学習をフォローしているか等について、調べてまとめてきてください。授業で質問します(2時間)。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義内容をwordで100字以内にまとめ、メールで送ってください。回答がないと本日の授業は欠席となりますので注意してください(2時間)。 |

| | | |
|----------------|--|--|
| 第9回 | まず、係となった生徒が問題提起を行い、これに関する意見交換等を30分間で行います。その後、定時制高校の種類や機能について説明します。その際、必要に応じて意見交換をします。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 定時制高校について、調べてまとめてきてください。授業で質問します(2時間)。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義内容をwordで100字以内にまとめ、メールで送ってください。回答がないと本日の授業は欠席となりますので注意してください(2時間)。 |
| 第10回 | まず、係となった生徒が問題提起を行い、これに関する意見交換等を30分間で行います。その後、定時制高校の入学資格、教師の役割や指導等について解説します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | どのような場合に定時制高校に入学できるのか、教師の役割は何か等について300字程度にまとめてきてください。授業で質問します(2時間)。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義内容をwordで100字以内にまとめ、メールで送ってください。回答がないと本日の授業は欠席となりますので注意してください(2時間)。 |
| 第11回 | まず、係となった生徒が問題提起を行い、これに関する意見交換等を30分間で行います。その後、日本における特別支援教育の歴史等を解説します。その際、必要に応じて意見交換をします。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 日本の特別支援教育の歴史を、300字程度にまとめてきてください。授業で質問します(2時間)。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義内容をwordで100字以内にまとめ、メールで送ってください。回答がないと本日の授業は欠席となりますので注意してください(2時間)。 |
| 第12回 | まず、係となった生徒が問題提起を行い、これに関する意見交換等を30分間で行います。その後、現在行われている特別支援教育の実践を紹介し、そして、効果的な支援とは何かを考えます。その際、意見交換をします。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 現在、どのような特別支援教育がおこなわれているかを、調べてまとめてきてください。授業で質問します(2時間)。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義内容をwordで100字以内にまとめ、メールで送ってください。回答がないと本日の授業は欠席となりますので注意してください(2時間)。 |
| 第13回 | まず、係となった生徒が問題提起を行い、これに関する意見交換等を30分間で行います。その後、命の教育が行われるようになった経緯や内容等を解説します。その際、必要に応じて意見交換をします。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | なぜ命の教育が行われるようになったのか、300字程度にまとめてきてください。授業で質問します(2時間)。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義内容をwordで100字以内にまとめ、メールで送ってください。回答がないと本日の授業は欠席となりますので注意してください(2時間)。 |
| 第14回 | まず、係となった生徒が問題提起を行い、これに関する意見交換等を30分間で行います。その後、各学校で実践されている命の教育について学び、どのような教育が効果的かについて意見交換をします。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 過去に受けた命の教育、もしくは道徳教育について200字程度でまとめてください。授業で発表してもらいます(2時間)。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義内容をwordで100字以内にまとめ、メールで送ってください。回答がないと本日の授業は欠席となりますので注意してください(2時間)。 |
| 第15回 | まず、係となった生徒が問題提起を行い、これに関する意見交換等を30分間で行います。その後、これからの時代に求められる「理想」の教師像について議論をします。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 自分なりの「理想」の教師像を、200字程度でまとめてきてください。授業で質問します(2時間)。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義内容をwordで100字以内にまとめ、メールで送ってください。回答がないと本日の授業は欠席となりますので注意してください(2時間)。 |
| 第16回 (定期試験) | マスコミと教育の関係、教師を取り巻く環境の変化、不登校、子どもの貧困、夜間教育、命の教育等の学習したすべての事柄が試験の対象となります。 | |

| | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
| 2TTB-5080-22ET | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 教育哲学 (教職に関する科目) | 共通 | 2年生・後期 | 2単位 | 教必 | 塚野 慧星 | |
| 履修の前提条件 | 教育に関して「当たり前」だと考えられていることを、根本から問い直そうとする意欲があることが望ましい。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>教育という営みは、他の営みにも比して、私たちが「当たり前」だと思い込んでいる側面を多分に含んでいます。そしてこの側面は、私たちが意識しないところで、実践上の様々な問題を生じさせています。本授業の最大の目標は、私たちが教育に関して「当たり前」だと思い込んでいるものを、根本から問い直すことのできる力を身に付けることにあります。授業ではそのために、教育および教育思想史に関する基本的理解や、教育と関わる個別のテーマに関する理解を通して、教育という営みを様々な角度から考えることが目指されます。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する基本的理解を習得する。 ・教育思想史に関する基本的理解を習得する。 ・教育における「よさ」「わるさ」を説明することができる。 ・教育の「望ましいあり方」を自分なりに考えることができる。 ・教職を目指すにあたり必要となる基本知識および態度を習得する。 | | | | | | |

| | | | |
|--|------------|---------------|-------------------|
| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
| 各回の終わりにミニレポートの作成・提出をお願いします。各回で設けるテーマについて自由に記述して頂きます。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 質問等は授業の前後の時間に受け付けます。 連絡先: ym423a@gmail.com | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 学習の確認: ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| プリント配布 | | | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 冒険する教育哲学 | 土戸敏彦 | 勁草書房 | 978-4-326-29864-8 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>成績評価の方法: 定期試験60%・平常点40%(ミニレポートを含む) 成績評価の基準: 教育に関する諸問題を論理的・倫理的に考えることができるか否か</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|------------------------------------|------------------------------|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | オリエンテーション | |
| | 事前学習 (内容・時間) | |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容に関する疑問点・論点を整理する(2時間) |
| 第2回 | 教育の基本的理解①: 学校の成立とその帰結 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業のテーマについて事前に自分の考えを整理する(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容に関する疑問点・論点を整理する(2時間) |
| 第3回 | 教育の基本的理解②: 学校を支える構造とは何か? | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業のテーマについて事前に自分の考えを整理する(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容に関する疑問点・論点を整理する(2時間) |
| 第4回 | 教育の基本的理解③: 「成長」とは「階段を登ること」か? | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業のテーマについて事前に自分の考えを整理する(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容に関する疑問点・論点を整理する(2時間) |
| 第5回 | 教育思想史に関する基本的理解①: コメニウスの教育思想 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | コメニウスについて事前に自分で調べる(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容に関する疑問点・論点を整理する(2時間) |
| 第6回 | 教育思想史に関する基本的理解②: ルソーの教育思想 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | ルソーについて事前に自分で調べる(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容に関する疑問点・論点を整理する(2時間) |
| 第7回 | 教育思想史に関する基本的理解③: カントの教育思想 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | カントについて事前に自分で調べる(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容に関する疑問点・論点を整理する(2時間) |
| 第8回 | 「主体性」をめぐる問題: 教育は子どもの主体性を養うことができるか? | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業のテーマについて事前に自分の考えを整理する(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容に関する疑問点・論点を整理する(2時間) |

| | | |
|----------------|--|-------------------------------|
| 第9回 | 「可能性」をめぐる問題: 教育は子どもの可能性を伸ばすことができるか? | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業のテーマについて事前に自分の考えを整理する(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容に関する疑問点・論点を整理する(2時間) |
| 第10回 | 「道徳性」をめぐる問題: 道徳的であるとはどのようなことか? | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業のテーマについて事前に自分の考えを整理する(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容に関する疑問点・論点を整理する(2時間) |
| 第11回 | 「人間性」をめぐる問題: 人間らしいとはどのようなことか? | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業のテーマについて事前に自分の考えを整理する(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容に関する疑問点・論点を整理する(2時間) |
| 第12回 | 教育と倫理①: 討論「教育はパーフェクト・ヒューマンをつくるべきか?」 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業のテーマについて事前に自分の考えを整理する(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容に関する疑問点・論点を整理する(2時間) |
| 第13回 | 教育と倫理②: 討論「教育はパーフェクト・ヒューマンをつくるべきか?」 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業のテーマについて事前に自分の考えを整理する(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容に関する疑問点・論点を整理する(2時間) |
| 第14回 | 教育者に求められる資質①: 「当たり前」を問い直すことの意義 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教育者に求められる資質とは何かを自分なりに考える(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容に関する疑問点・論点を整理する(2時間) |
| 第15回 | 教育者に求められる資質②: 「当たり前」を問い直す力をどのように発揮するか? | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教育者に求められる資質とは何かを自分なりに考える(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容に関する疑問点・論点を整理する(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験はレポート形式とします。 授業内で提示するレポート課題に各自で応答して頂きます。分量等の基準については授業内で指示します。 | |

| | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
| 2TTB-5060-22ET | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 教育心理学 (教職に関する科目) | 共通 | 2年生・前期 | 2単位 | 教必 | 長池 和代 | |
| 履修の前提条件 | 「心理学」Ⅰ・Ⅱを履修(単位修得)もしくは同時履修していること。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| 授業は、学校教師(本学の場合、高校教諭)としての基本的条件(専門科目知識・技能は勿論)としての役割(自己管理、対人理解・共感力・支援力)に関する知識・態度を理解し、自らの課題として自覚できるための講義とグループワークから構成される。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | ○ |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | ○ |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | ○ |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ |
| | 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| 学校教師(本学の場合、高等学校教諭)としての基本的姿勢(教師役割への積極的姿勢、責任感)と専門性(教授・指導・支援の力量)の基礎となる心理学的知識への関心が高まることと、習得される(説明できる)こと。 | | | | | | |

| | | | |
|---|-------------|---------------|-------------------|
| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
| 授業内容と関連させて、今日の学校教育をめぐる諸問題についてグループ・ディスカッションを導入する。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 初回講義時に説明する。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| はじめて学ぶ教育心理学 | 吉川成司・関田一彦・他 | ミネルヴァ書房 | 978-4-623-07448-8 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 毎回、補助教材として、授業内容に関連したプリント資料を配付・活用します。 | | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 期末試験の成績と授業中の参加度(質問・発表、グループワーク等)を総合的に評価します。両者の比重は、概ね6対4。 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|---------------------------|---|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | オリエンテーション:「教育心理学」を学ぶにあたって | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 当日の授業内容に関する教科書の該当箇所を読み、自分の体験等をメモしておく。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容等をノートに分かりやすくまとめたり、整理すること。(2h) |
| 第2回 | 教育心理学の目的と意義 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 当日の授業内容に関する教科書の該当箇所を読み、自分の体験等をメモしておく。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容等をノートに分かりやすくまとめたり、整理すること。(2h) |
| 第3回 | 教育心理学の方法:学校教師に求められる研究方法 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 当日の授業内容に関する教科書の該当箇所を読み、自分の体験等をメモしておく。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容等をノートに分かりやすくまとめたり、整理すること。(2h) |
| 第4回 | 人間の発達(1)考え方・規程要因・過程 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 当日の授業内容に関する教科書の該当箇所を読み、自分の体験等をメモしておく。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容等をノートに分かりやすくまとめたり、整理すること。(2h) |
| 第5回 | 人間の発達(2)発達の諸相 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 当日の授業内容に関する教科書の該当箇所を読み、自分の体験等をメモしておく。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容等をノートに分かりやすくまとめたり、整理すること。(2h) |
| 第6回 | 学習(1)考え方(理論) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 当日の授業内容に関する教科書の該当箇所を読み、自分の体験等をメモしておく。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容等をノートに分かりやすくまとめたり、整理すること。(2h) |
| 第7回 | 学習(3)動機づけ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 当日の授業内容に関する教科書の該当箇所を読み、自分の体験等をメモしておく。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容等をノートに分かりやすくまとめたり、整理すること。(2h) |
| 第8回 | 学習(4)学習の評価 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 当日の授業内容に関する教科書の該当箇所を読み、自分の体験等をメモしておく。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容等をノートに分かりやすくまとめたり、整理すること。(2h) |

| | | |
|----------------|------------------------|---|
| 第9回 | まとめと確認①:グループワークによる自己点検 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 当日の授業内容に関する教科書の該当箇所を読み、自分の体験等をメモしておく。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容等をノートに分かりやすくまとめたり、整理すること。(2h) |
| 第10回 | 学級集団とその指導(1)学級の心理学的構造 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 当日の授業内容に関する教科書の該当箇所を読み、自分の体験等をメモしておく。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容等をノートに分かりやすくまとめたり、整理すること。(2h) |
| 第11回 | 学級集団とその指導(2)心理教育 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 当日の授業内容に関する教科書の該当箇所を読み、自分の体験等をメモしておく。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容等をノートに分かりやすくまとめたり、整理すること。(2h) |
| 第12回 | 生徒理解と個別指導 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 当日の授業内容に関する教科書の該当箇所を読み、自分の体験等をメモしておく。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容等をノートに分かりやすくまとめたり、整理すること。(2h) |
| 第13回 | 問題行動と教育相談 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 当日の授業内容に関する教科書の該当箇所を読み、自分の体験等をメモしておく。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容等をノートに分かりやすくまとめたり、整理すること。(2h) |
| 第14回 | 特別支援教育:発達の個人差への教育的対応 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 当日の授業内容に関する教科書の該当箇所を読み、自分の体験等をメモしておく。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容等をノートに分かりやすくまとめたり、整理すること。(2h) |
| 第15回 | 定期試験(筆記試験) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | これまでの授業内容を総復習し、ノートにまとめる。(2h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 難しく感じた問題等をノートに分かりやすくまとめたり、整理すること。(2h) |
| 第16回 (定期試験) | まとめと確認②:グループワークによる自己点検 | |

| | | | | | | |
|---|---|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
| 2TTB-5050-22ET | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 教育社会学 (教職に関する科目) | 共通 | 2年生・後期 | 2単位 | 教必 | 平田 毅 | |
| 履修の前提条件 | 将来教職を目指す者に向けた授業であるので、教える＝学ぶという主客往復運動を自らの裡に作用させ主体的に取り組む姿勢と態度そして能力が求められる。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>現代社会は大きな転換期を経験している。そうした状況のなか、2020年にはCOVID-19感染症パンデミックのなか、2月末から全国の小中学校が一斉に休校するという事態も起こった。学校や教育のあり方が大きく問われ、大きな変革を迫られた。</p> <p>この授業では、そうした状況も踏まえ、転換期の教育・学校の諸相とそれを取り巻く“問題”に焦点を当て、その構造とメカニズムを社会的に考察・解明していくことを目的とする。</p> <p>一方的に私が講義する授業だけでなく、受講生のみなさんがそれぞれのテーマに基づいて作成したレポートの発表を取り入れた授業を行うので、問題意識を持って、積極的に課題に取り組んでほしい。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・教育・学校をとりまく状況を社会的に捉え、その相互関係のメカニズムを考察し理解する。 ・教職を志望するに当たって、教育・学校における諸問題・諸事象を複眼的に捉える視点と態度を養う。 | | | | | | |

| | | | |
|--|-------------------------|-----------------------|-------------------|
| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
| <p>テキスト沿ったテーマを分担して、PowerPointを用いて発表していきます。</p> <p>各自の担当テーマを十分にリサーチし、オーディエンスにも「よくわかる発表」になるようにPowerPoint原稿を作成し発表の準備をすることが重要です。また、聞き手の側は、発表テーマについて予めテキストの指定箇所を熟読し要点と疑問点を念頭に置きながら発表にしっかりと耳を傾けることが大切です。また、積極的に質問し意見を述べるなど真摯に反応していくことが、相互に学び合う場を創出していくうえで、不可欠な要素になります。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>授業終了後に声を掛けるか、もしくは研究室を訪ねてください。</p> <p>オフィスアワーの時間は、掲示案内を参照してください。</p> <p>メールアドレス: t-hirata@kiis.ac.jp</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>毎時のテーマ発表について「教育社会学 発表学習の記録」シートを記入し、今日の学びを振り返ってもらいます。</p> <p>しっかり、記入するようにしてください。</p> <p>学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| よくわかる教育社会学 | 酒井朗・多賀太・中村高康編著 | ミネルヴァ書房 (2,600円税別) | 978-4-623-06293-5 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 半径5メートルからの教育社会学 | 片山悠樹・内田良 古田和久・薪の智和 編 | 大月書店 (2,200円税別) | 978-4-272-41238-9 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>テーマ発表の内容(40%)と期末レポート(60%)により総合的に評価する。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|-----------------------------|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 授業ガイダンス 教育社会学とは何か | |
| | 事前学習 (内容・時間) | シラバスを精読し、教育社会学で学ぶことを把握しておく。自らの学校経験を振り返り、学校や教育の意味を考える。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 自らの学校経験や被教育体験を重ね合わせて、テキストを概観し、興味ある箇所を読む。 |
| 第2回 | 学校と社会 ～学校のある社会と学校のない社会 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの指定箇所をあらかじめよく読み、要点と疑問点を明確にしておくこと。テーマ発表の担当者は、発表PowerPointを作成しておくこと。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 発表・授業で明らかになったことがらを確認ノートにまとめること。テーマ発表の担当者は、発表PowerPointのリメイク作業を行うこと。[2h] |
| 第3回 | 階層と教育 ～近代化とメリトクラシー | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの指定箇所をあらかじめよく読み、要点と疑問点を明確にしておくこと。テーマ発表の担当者は、発表PowerPointを作成しておくこと。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 発表・授業で明らかになったことがらを確認ノートにまとめること。テーマ発表の担当者は、発表PowerPointのリメイク作業を行うこと。[2h] |
| 第4回 | マイノリティと教育 ～社会的排除と教育 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの指定箇所をあらかじめよく読み、要点と疑問点を明確にしておくこと。テーマ発表の担当者は、発表PowerPointを作成しておくこと。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 発表・授業で明らかになったことがらを確認ノートにまとめること。テーマ発表の担当者は、発表PowerPointのリメイク作業を行うこと。[2h] |
| 第5回 | ジェンダーと教育 ～隠れたカリキュラムとジェンダー形成 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの指定箇所をあらかじめよく読み、要点と疑問点を明確にしておくこと。テーマ発表の担当者は、発表PowerPointを作成しておくこと。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 発表・授業で明らかになったことがらを確認ノートにまとめること。テーマ発表の担当者は、発表PowerPointのリメイク作業を行うこと。[2h] |
| 第6回 | 教師の社会学 ～教師の役割と変わる教員養成 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの指定箇所をあらかじめよく読み、要点と疑問点を明確にしておくこと。テーマ発表の担当者は、発表PowerPointを作成しておくこと。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 発表・授業で明らかになったことがらを確認ノートにまとめること。テーマ発表の担当者は、発表PowerPointのリメイク作業を行うこと。[2h] |
| 第7回 | 子どもの社会学 ～子ども観の変遷と情報化のなかの子ども | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの指定箇所をあらかじめよく読み、要点と疑問点を明確にしておくこと。テーマ発表の担当者は、発表PowerPointを作成しておくこと。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 発表・授業で明らかになったことがらを確認ノートにまとめること。テーマ発表の担当者は、発表PowerPointのリメイク作業を行うこと。[2h] |
| 第8回 | ライフコース ～ライフヒストリーとライフストーリー | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの指定箇所をあらかじめよく読み、要点と疑問点を明確にしておくこと。テーマ発表の担当者は、発表PowerPointを作成しておくこと。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 発表・授業で明らかになったことがらを確認ノートにまとめること。テーマ発表の担当者は、発表PowerPointのリメイク作業を行うこと。[2h] |

| | | |
|----------------|-------------------------------|--|
| 第9回 | 教育問題の社会学 ～非行・逸脱・不登校・いじめ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの指定箇所をあらかじめよく読み、要点と疑問点を明確にしておくこと。テーマ発表の担当者は、発表PowerPointを作成しておくこと。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 発表・授業で明らかになったことがらを確認ノートにまとめること。テーマ発表の担当者は、発表PowerPointのリメイク作業を行うこと。[2h] |
| 第10回 | 教育改革 ～市場化する教育 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの指定箇所をあらかじめよく読み、要点と疑問点を明確にしておくこと。テーマ発表の担当者は、発表PowerPointを作成しておくこと。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 発表・授業で明らかになったことがらを確認ノートにまとめること。テーマ発表の担当者は、発表PowerPointのリメイク作業を行うこと。[2h] |
| 第11回 | 学校教育 ～公教育制度のなかの学校 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの指定箇所をあらかじめよく読み、要点と疑問点を明確にしておくこと。テーマ発表の担当者は、発表PowerPointを作成しておくこと。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 発表・授業で明らかになったことがらを確認ノートにまとめること。テーマ発表の担当者は、発表PowerPointのリメイク作業を行うこと。[2h] |
| 第12回 | 労働市場へのトランジション ～キャリア教育と進路指導 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの指定箇所をあらかじめよく読み、要点と疑問点を明確にしておくこと。テーマ発表の担当者は、発表PowerPointを作成しておくこと。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 発表・授業で明らかになったことがらを確認ノートにまとめること。テーマ発表の担当者は、発表PowerPointのリメイク作業を行うこと。[2h] |
| 第13回 | 教育と経済 ～人的資本論とシグナリング論、教育投資論 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの指定箇所をあらかじめよく読み、要点と疑問点を明確にしておくこと。テーマ発表の担当者は、発表PowerPointを作成しておくこと。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 発表・授業で明らかになったことがらを確認ノートにまとめること。テーマ発表の担当者は、発表PowerPointのリメイク作業を行うこと。[2h] |
| 第14回 | 今、学校・教師に求められていること ～学校と社会のつながり | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストの指定箇所をあらかじめよく読み、要点と疑問点を明確にしておくこと。テーマ発表の担当者は、発表PowerPointを作成しておくこと。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 発表・授業で明らかになったことがらを確認ノートにまとめること。テーマ発表の担当者は、発表PowerPointのリメイク作業を行うこと。[2h] |
| 第15回 | 授業の振り返りとまとめ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | これまでのテーマを振り返って、それぞれのエスプリを整理する。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 期末レポート作成に向けて、テーマを明確にしその作成に取り組む。[2h] |
| 第16回 (定期試験) | レポート課題の提出 | |

| | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
| 2TTN-5140-22ET | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 特別支援教育 (教職に関する科目) | 220 経営情報学科 | 2年生・後期 | 2単位 | 教必 | 鈴木 和也 | |
| 履修の前提条件 | 日本国憲法、心理学、教育哲学、教師入門、教育社会学、教育心理学、教育課程論を履修(あるいは単位を取得)していること。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>特別支援教育の基本理念である「障害のある子どもの自立や社会参加に向けた主体的な取り組みを支援する」という視点に立ち、教師として、子ども一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め生活や学習上の困難を改善・克服するための適切な指導と必要な支援を行うための基礎知識(法・制度理解を含む)や方法(日常の実践力)の基本を学ぶ。高等学校教諭として、特別支援学校(軽度知的障害の生徒に職業教育を行い、就労を目指す高等部のみ)の特別支援学校)に勤務した経験をふまえて、生徒の実態や教科指導の方法、保護者や地域社会との関わり方など、具体的な内容を取り入れながら、ノーマライゼーションのあり方やインクルーシブ教育の理解を深めていく。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | ○ |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | ○ |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ |
| | 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の考え方・基本的概念を理解し説明できる。(知識・理解) ・学習や生活上の困難さの原因・背景への関心をもつ。(態度・志向性) ・特別な教育的支援が必要な生徒に対して具体的な支援のアイデアと方法を提供できる。(技能) | | | | | | |

| | | | |
|---|-----------------------------|------------------|-------------------|
| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・対話型の授業を心がけるので、質問など積極的な取り組みを期待します。 ・授業内で実施する小テストを活用し、授業内容の理解を深めるとともに授業への積極的な参加を促します。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>質問、相談等は研究室(553)にて受けつける。尚、オフィスアワーも積極的にご活用ください。(オフィスアワー以外で研究室にお越しの際は事前にメールなどでアポイントメントをお取りください。)</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>kiis学修ポートフォリオ・ルーブリックの活用を図り、学修状況の把握や学生自身による自己評価、教員の評価など、双方向でのやり取りを通して講義内容の理解度や定着状況の把握を行う。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 特別支援教育の基礎・基本 2020 | 独立行政法人 国立特別支援教育総合 研究所 | 株式会社ジヤース教育 新社 | 978-4-86371-548-6 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| よくわかる 特別支援教育 | 湯浅恭正 編著 | ミネルヴァ書房 | 978-4-623-05088-8 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 1.定期試験(80%)、2.小テスト(10%)、3.学修課題の提出(5%)、4.授業への取り組み(5%) | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|------------------------------------|--------------------------|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | オリエンテーション～支援教育と特別支援教育 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習課題の解答 (2.0h) |
| 第2回 | 学校教育のシステムと個に応じた指導とは | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習課題の解答 (2.0h) |
| 第3回 | 通常学級で困っている子ども(生徒)たち | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習課題の解答 (2.0h) |
| 第4回 | 特別に支援を必要とする子ども(生徒)①知的障害 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習課題の解答 (2.0h) |
| 第5回 | 特別に支援を必要とする子ども(生徒)②発達障害(自閉性障害) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習課題の解答 (2.0h) |
| 第6回 | 特別に支援を必要とする子ども(生徒)③学習障害(LD) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習課題の解答 (2.0h) |
| 第7回 | 特別に支援を必要とする子ども(生徒)④注意欠陥多動性障害(ADHD) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習課題の解答 (2.0h) |
| 第8回 | 特別に支援を必要とする子ども(生徒)⑤その他(文化マイノリティ) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習課題の解答 (2.0h) |

| | | |
|----------------|--|--------------------------|
| 第9回 | 特別支援教育の実際と課題①学級づくり～生徒指導、教育相談 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習課題の解答 (2.0h) |
| 第10回 | 特別支援教育の実際と課題②授業づくり～目標設定と方法・評価 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習課題の解答 (2.0h) |
| 第11回 | 特別支援教育の実際と課題③保護者との連携～成長と理解 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習課題の解答 (2.0h) |
| 第12回 | 特別支援教育の実際と課題④専門機関との連携 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習課題の解答 (2.0h) |
| 第13回 | 特別支援教育の実際と課題⑤地域社会との連携 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習課題の解答 (2.0h) |
| 第14回 | 特別支援教育の実際と課題⑥就学・進路・就労支援 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習課題の解答 (2.0h) |
| 第15回 | まとめ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書の通読 (2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の内容の再確認と復習課題の解答 (2.0h) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験の実施 (振り返りを行い、特別支援教育に対する見識を深める。) | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 2TTB-5030-22ET | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 教育課程論(特別活動を含む) (教職に関する科目) | 共通 | 2年生・後期 | 2単位 | 教必 | 岡野 亜希子 | |
| 履修の前提条件 | 原則として教師入門, 教育心理学を履修していること | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>学校の教育課程とその内容について理解する。とくに特別活動の意義や基本的な性格について理解を深めるとともに, その教育課程上の位置づけ, 学習指導要領改訂の経緯などを踏まえて, 特別活動の役割について考える。さらに, 特別活動の目標や内容及び指導計画の作成と内容の取扱いについて, 高等学校学習指導要領を中心に基礎的概念の理解と具体的指導法の基礎を学ぶ。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | ○ |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | ○ |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 学校の教育課程について知る。とくに特別活動の教育課程上の位置づけとその基本的な性格について理解する。 学習指導要領における特別活動の目標や内容, 内容の取扱いについて理解する。 集団活動の教育的な意味について考える。 教育が人間と社会とをつなぐ役割をもつことを理解し, 教職を目指すうえでの基礎的な教養を身につける。 レポート作成などを通じて自分の考えを客観的な言葉で表現することができるようにする。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|------------|---------------|-------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> 授業内容に基づきテーマを設定し, ディスカッションを行います。 基本的に毎回, 授業後半で小レポートを作成します。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| mail:aokano@fuk.kindai.ac.jp 授業の前後で質問など受けつけています。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 学習の確認: ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 高等学校学習指導要領(平成30年告示) | 文部科学省 | 東山書房 | 4827815674 |
| 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 特別活動編 | 文部科学省 | 東京書籍 | 4487286352 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 新しい時代の教育課程 第4版 | 田中耕治ほか | 有斐閣 | 4641221073 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 小レポート(20%), 中間レポート(30%), 定期試験(50%)の結果を総合的に判断する。 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|---------------------------------------|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | オリエンテーション:この科目について, 授業の進め方や成績評価について | |
| | 事前学習 (内容・時間) | シラバスを読む, 指定テキストと参考図書を読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料とノートの確認, 課題レポートの作成(2時間) |
| 第2回 | 学校の教育課程についての基礎知識:教育課程, 学習指導要領, 教育関連法規 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回の配布資料とノートの確認, 前回作成したレポートの確認, 指定テキストと参考図書を読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料とノートの確認, 指定テキストや参考図書の該当部分を読む, 課題レポートの作成(2時間) |
| 第3回 | 戦後の教育課程(1)教育改革と学校教育制度 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回の配布資料とノートの確認, 前回作成したレポートの確認, 指定テキストと参考図書を読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料とノートの確認, 指定テキストや参考図書の該当部分を読む, 課題レポートの作成(2時間) |
| 第4回 | 戦後の教育課程(2)学習指導要領の登場, 高度経済成長期における学校 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回の配布資料とノートの確認, 前回作成したレポートの確認, 指定テキストと参考図書を読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料とノートの確認, 指定テキストや参考図書の該当部分を読む, 課題レポートの作成(2時間) |
| 第5回 | 戦後の教育課程(3)進学率の上昇と学校の新たな問題 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回の配布資料とノートの確認, 前回作成したレポートの確認, 指定テキストと参考図書を読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料とノートの確認, 指定テキストや参考図書の該当部分を読む, 課題レポートの作成(2時間) |
| 第6回 | 戦後の教育課程(4)学校週5日制と総合的な学習の時間 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回の配布資料とノートの確認, 前回作成したレポートの確認, 指定テキストと参考図書を読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料とノートの確認, 指定テキストや参考図書の該当部分を読む, 課題レポートの作成(2時間) |
| 第7回 | 戦後の教育課程(5)新しい学力観と今後の方向性 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回の配布資料とノートの確認, 前回作成したレポートの確認, 指定テキストと参考図書を読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料とノートの確認, 指定テキストや参考図書の該当部分を読む, 課題レポートの作成(2時間) |
| 第8回 | 現在の教育課程 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回の配布資料とノートの確認, 前回作成したレポートの確認, 指定テキストと参考図書を読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料とノートの確認, 指定テキストや参考図書の該当部分を読む, 課題レポートの作成(2時間) |

| | | |
|----------------|---|--|
| 第9回 | 前半内容の振り返りと中間レポート | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回の配布資料とノートの確認, 前回作成したレポートの確認, 指定テキストと参考図書を読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料とノートの確認, 指定テキストや参考図書の該当部分を読む, 課題レポートの作成(2時間) |
| 第10回 | 特別活動についての基本知識 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回の配布資料とノートの確認, 前回作成したレポートの確認, 指定テキストと参考図書を読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料とノートの確認, 指定テキストや参考図書の該当部分を読む, 課題レポートの作成(2時間) |
| 第11回 | 特別活動の内容(1)学級・ホームルーム活動 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回の配布資料とノートの確認, 前回作成したレポートの確認, 指定テキストと参考図書を読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料とノートの確認, 指定テキストや参考図書の該当部分を読む, 課題レポートの作成(2時間) |
| 第12回 | 特別活動の内容(2)学校行事 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回の配布資料とノートの確認, 前回作成したレポートの確認, 指定テキストと参考図書を読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料とノートの確認, 指定テキストや参考図書の該当部分を読む, 課題レポートの作成(2時間) |
| 第13回 | 特別活動の内容(3)生徒会活動 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回の配布資料とノートの確認, 前回作成したレポートの確認, 指定テキストと参考図書を読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料とノートの確認, 指定テキストや参考図書の該当部分を読む, 課題レポートの作成(2時間) |
| 第14回 | 特別活動と他の教育課程とのかかわり:各教科・科目, 総合的な学習(探究)の時間, 道徳教育, キャリア教育 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回の配布資料とノートの確認, 前回作成したレポートの確認, 指定テキストと参考図書を読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料とノートの確認, 指定テキストや参考図書の該当部分を読む, 課題レポートの作成(2時間) |
| 第15回 | 後半内容の振り返りと, 全体のまとめ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 前回の配布資料とノートの確認, 前回作成したレポートの確認, 指定テキストと参考図書を読む(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料とノートの確認, 指定テキストや参考図書の該当部分を読む, 課題レポートの作成(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 2TTB-5010-32ET | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 「情報」教科教育法Ⅰ (教職に関する科目) | 共通 | 3年生・前期 | 2単位 | 教必 | 合田 和正 | |
| 履修の前提条件 | 2年生までの教職科目・教科科目に合格済であることが望ましい。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| 教科「情報」が設置された経緯、教育目標と内容について詳説し、情報技術の進展と社会への影響を踏まえ、情報に関する幅広い知識とともに、コンピュータや情報通信ネットワークを活用する実践力と情報モラルの育成の方法について、実習を伴いながら習得し、教科「情報」に対する内容的な理解を目指す。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| 高等学校教育に教科「情報」として普通教科と専門教科の設置に始まり、共通教科情報科と専門教科情報科に再構成され、社会人として必要な情報活用能力を身につけることを狙いとした教育が実施されてきている。その中で情報化社会を主体的に生きるために必要な情報活用能力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度の育成が求められている。これらの要求に応えられる教員となるために教科設置の経緯、教科の配置、関係、構造、目的を理解するとともに、「情報」教科教育法Ⅱで実践していくための教科教育の基礎を学ぶ。 | | | | | | |

| | | | |
|--|------------|---------------|-------------------|
| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
| ただ授業を受けるだけでなく、学習指導案の作成を目標に、学習内容をどう応用するかを意識しながら取り組む。必要に応じて、自主的に発展的内容・機能の実践・習熟に努力する。また、ふだんから情報教育や教員採用に関するニュースに注意を払い、4年生での教育実習に備える。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 問い合わせ、報告、連絡、相談などは、担当教員の研究室で受け付けます。なお、オフィスアワーについては掲示を確認すること。また、電子メールやその他に授業中に提示するその他の方法でも受け付けます。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ & ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 初回からノートPCを持参。ITパスポート試験、基本情報技術者試験の内容の一部を含む。授業の振り返りを毎回提出。情報処理関連の資格合格者、関連内容の模擬試験の受験者・高得点者については、その内容に応じて成績評価の際に優遇する。学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 資料を配布します。(昨年度以前の講義資料を含む) | | | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 高等学校学習指導要領解説 情報編 | 文部科学省 | 開隆館 | 978-4304041655 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 平常点として、授業への参加態度、毎回の課題、授業振り返りなどの提出状況、小テスト等、および定期試験等で総合的に判断する。 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|---|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 概要と教育目標:教科「情報」の位置づけ、共通教科と専門教科の違い、各科目の概説 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | これまでの教職科目・教科科目で学んだ内容をまとめる [3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 共通教科・専門教科、科目「情報」の概要の復習。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第2回 | 教科「情報」の内容:「情報」教科教育法Ⅰの授業内容 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 指導要領解説を通読し、全体を大雑把に把握し、まとめておく [3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容、特に指導要領解説の内容以外を中心に複数う。振り返りを書く [1.0h] |
| 第3回 | 情報技術の進展と社会への影響:NW、DBを中心として情報技術の活用による社会の発展 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | データベース論など関連する教科科目の復習をしておく [3.0] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 情報技術の活用についての事例についてまとめる。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第4回 | 模擬講義への参加と評価 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 模擬授業の単元についてまとめておく [3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 模擬授業について振り返り、自分に不足していることをまとめる。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第5回 | 共通教科情報科目の科目と内容(1)社会と情報、および同実習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 指導要領解説と(高校)教科書の目次を参照して、概要を自分の言葉でまとめる [3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実習課題を完成させ、類題を考えてみる(作問)。振り返りを書く [1.0h] |
| 第6回 | 共通教科情報科の科目と内容(2)情報の科学、および同実習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 指導要領解説と(高校)教科書の目次を参照して、概要を自分の言葉でまとめる [3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実習課題を完成させ、類題を考えてみる(作問)。振り返りを書く [1.0h] |
| 第7回 | 共通教科情報科のまとめ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 共通教科情報科の2科目の共通する内容についてまとめておく。 [3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 自分のまとめと授業内容を比較・考察する。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第8回 | 専門教科情報科の科目と内容(1)システムの設計・管理分野の科目群 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 対応する教科科目群の概要をシラバス等を参照してまとめておく [3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 科目群に共通する考え方・指導方法についてまとめる。振り返りを書く [1.0h] |

| | | |
|----------------|---------------------------------------|---|
| 第9回 | 専門教科情報科の科目と内容(2)情報コンテンツの制作・発信分野の科目群 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 対応する教科科目群の概要をシラバス等を参照してまとめておく [3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 科目群に共通する考え方・指導方法についてまとめる。振り返りを書く [1.0h] |
| 第10回 | 専門教科情報科の科目と内容(3)情報と問題解決ほか | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 日常生活における問題解決事例と(高校)教科書の対応について考察 [3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 問題解決の流れや実行の可視化について考察。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第11回 | 社会と情報システム(1)情報システムと生活の変化 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | (高校)教科書の導入部分について、時代のギャップがあるか検証 [3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 情報システムと生活の変化の具体例・事例をまとめる。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第12回 | 社会と情報システム(2)情報の信頼性・公開・保護 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 技術・倫理・道徳・教育とソーシャルエンジニアリング事例について調べる [3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | (高校)教科書では足りない点の洗い出しと補強について考察。振り返りを書く [1.0h] |
| 第13回 | 情報教育の課題と展望(1)教育方法・環境の情報化、情報の信頼性・公開・保護 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 現状のHW,SW,コンテンツ、インフラについてGIGAスクール構想について調べる [3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 理想と現実、地域格差、経済格差などの格差について考察。振り返りを書く [1.0h] |
| 第14回 | 情報教育の課題と展望(2)最近の話題から | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 2020年度の遠隔教育について小中高について国公立・私立別に事例を調べる [3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 2022年度以降の遠隔教育、デジタル教科書について考察。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第15回 | まとめ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 14回までの内容について、特に興味を持った回次を中心にまとめる [3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 定期試験に向けて、教科教育法Ⅱに向けて、まとめる。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験等 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 2TTB-5020-32ET | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 「情報」教科教育法Ⅱ (教職に関する科目) | 共通 | 3年生・後期 | 2単位 | 教必 | 合田 和正 | |
| 履修の前提条件 | 「情報」教科教育法Ⅰに合格していること。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| 教科教育法Ⅰに引き続き、教育法の実践力を身につける。また、教科「情報」の内容に即しながら教授システムの設計、学習指導計画の立案ができるようにし、それらを実施・評価することも身につける。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| 指導案の作成及び教授法、観点別評価の理解。教育実習へ向けて、授業に必要な準備を把握する。 | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|------------|---------------|-------------------|
| ただ授業を受けるだけでなく、学習指導案の作成を目標に、学習内容をどう応用するかを意識しながら取り組む。必要に応じて、自主的に発展的内容・機能の実践・習熟に努力する。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 問い合わせ、報告、連絡、相談などは、担当教員の研究室で受け付けます。なお、オフィスアワーについては掲示を確認すること。また、電子メールやその他に授業中に提示するその他の方法でも受け付けます。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 初回からノートPCを持参。ITパスポート試験、基本情報技術者試験の内容の一部を含む。授業の振り返りを毎回提出。情報処理関連の資格合格者、関連内容の模擬試験の受験者・高得点者については、その内容に応じて成績評価の際に優遇する。学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 資料を配布します。(昨年度以前の講義資料を含む) | | | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 高等学校学習指導要領解説 情報編 | 文部科学省 | 開隆館 | 978-4304041655 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 平常点として、授業への参加態度、毎回の課題、授業振り返りなどの提出状況、小テスト等、および定期試験等で総合的に判断する。 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|----------------------------------|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 「情報」のカリキュラム構成、教科教育法 I の復習 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科教育法 I および前期の教職科目についてまとめておく。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業を受けて、各自の弱い点を補強する。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第2回 | 共通教科情報科(1)「社会と情報」 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | (高校)教科書の目次、本文を参照しつつ、教科内容についてのイメージをまとめる [3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容と自分のイメージを比較して考察、まとめる。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第3回 | 共通教科情報科(2)「情報の科学」 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | (高校)教科書の目次、本文を参照しつつ、教科内容についてのイメージをまとめる [3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容と自分のイメージを比較して考察、まとめる。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第4回 | 専門教科情報科 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 問題解決というキーワードで各分野、各科目の事例を調べる。 [3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容と事例について整理してまとめる。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第5回 | 「社会と情報」の詳細内容と評価に向けた内容・目標のマトリックス化 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | (高校)指導用教科書を参照しつつ、単元内容・単元目標についてまとめる。 [3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | マトリックス化により明らかになった濃淡・強弱に基づいて補強。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第6回 | 「社会と情報」指導書の活用 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | (高校)指導書を参照しつつ、より詳細な内容、目標、全体像についてまとめる。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 指導用教科書と指導書の使い分けや記述内容の違いについてまとめる。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第7回 | 目標と関連付けた評価 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 目標の詳細化と評価方法・基準についてまとめる。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 指導用教科書・指導書の強みと弱みについてまとめる。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第8回 | 授業展開法とメディアの利用(1)板書、黒板とホワイトボード | |
| | 事前学習 (内容・時間) | これまでに使用、見たことがある黒板、ホワイトボード、チョーク、マーカーについてまとめる。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | これからの板書と資料提示について考察する。特にデジタル化の観点。振り返りを書く。[1.0h] |

| | | |
|----------------|--------------------------------|---|
| 第9回 | 授業展開法とメディアの利用(2)投影、スライドやプロジェクタ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | OHPやプロジェクタ、大画面ディスプレイなど光による資料提示についてまとめる。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | これからの遠隔を含めた資料提示について考察する。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第10回 | 授業展開法とメディアの利用(3)メディアの特性と工夫 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 提示(伝達)、記録の観点、教師・学生の観点からメディアについて調べる。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | メディアの現状と今後について考察し、まとめる。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第11回 | 授業展開法とメディアの利用(4)コンテンツのデジタル化と活用 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 身近なデジタルコンテンツについて事例をまとめる。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 今後の動向について、現状と最先端から予測してみる。[1.0h] |
| 第12回 | 学習・教授評価と総括(1)評価について、位置と役割 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 計測と評価、主観的評価と客観的評価についてまとめる。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 評価の位置と役割についてまとめる。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第13回 | 学習・教授評価と総括(2)目的と役割、基本的性格、対象と主体 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 評価の対象と主体を中心に、目的・役割について調べてまとめる。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業をうけて、基本的性格と目的役割についてまとめる。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第14回 | 学習・教授評価と総括(3)評価のまとめ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 評価に向けての準備、シラバス、教材、試験、採点についてまとめる。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 評価についての全体的なまとめをする。振り返りを書く。[1.0h] |
| 第15回 | まとめ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 14回までの授業をまとめておく。[3.0h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 定期試験に向けて、教育実習に向けて、指導案の事例を収集分析する |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験等 | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|---|---|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 2TTB-5090-32ET | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 教育方法学 (教職に関する科目) | 共通 | 3年生・前期 | 2単位 | 教必 | 高橋 潤子 | |
| 履修の前提条件 | ①学校教育に関心があること。②学習指導案作成に意欲的に取り組むこと。 ※禁止事項: 私語。正当な理由のない遅刻、許可のない入退。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>本授業では日本において教育方法がどのように発展したのか、教育方法の特色、授業とは何か等について簡単に紹介します。その後、授業の設計方法、教材研究の方法、情報メディアの活用方法、評価方法などについて説明をします。これらをもとに模擬授業を構想し、各自が作成した学習指導案をもとに模擬授業を行います。模擬授業後には自他の授業計画や授業内容について意見を交わし、得意な点・苦手な点を自覚すると共に、教育実習に向けての姿勢を養ってもらいます。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | ○ |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | ○ |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | ○ |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>この授業の目標の第一は、授業や学習の理論、学校教育の歴史や教育のあり方など、学校教育の基礎となる主要な理論や教育方法について理解することです。その際、理解を深めるために討論等を行います。第二は、学習教材の活用や指導計画の立て方について学び、模擬授業に活かせるようになることです。最終的に模擬授業を行うことで、将来教師になった時に授業が円滑に行えるようにすることです。</p> | | | | | | |

| | | | |
|--|---------------------|------------------|--------------------------------|
| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
| <p>模擬授業終了後に、ディスカッションを行います。 対話型の授業を心がけますので、意欲的な発言を期待しています。 授業の終わりには毎回コメントカードの作成・提出をお願いします。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>連絡問合せは、kimandkayl@yahoo.co.jpにて随時受け付けます。 オフィスアワーは、授業日の授業の前後の時間になります。</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>学習の確認: ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入して授業の前までに高橋までメールで提出してください。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 特に指定しませんが、必要に応じて資料を配布します。 | | | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 教育方法の理論と実践 高等学校学習指導要領解説情報編 | 小川哲生、菱山覚一郎 文部科学省 | 明星大学出版部 開隆堂出版 | 9784895491549 9784304021633 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>・成績評価の方法: 定期試験40%、学習指導案と実技40%、平常点20%(ディスカッション、ポートフォリオ、模擬授業評価表、コメントカードの作成) ・成績評価の基準 ①教育の理論や歴史を理解しているか。 ②創意工夫をして、分かりやすい模擬授業を行おうとしているか。 ③ディスカッションに積極的に参加しているか。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|--|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 導入の講義。授業についての概要を説明します。また、模擬授業の範囲決め等を行います。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 高校時代に用いていた教科書等から、事前に模擬授業(50分間)を行う単元(教材)を決めておいてください。授業で質問します(2時間)。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 50分間の模擬授業を構想し、紙に書き出してきてください(2時間)。 |
| 第2回 | 教育方法の史的変遷を知る。 明治期より、日本の教育方法がどのような変遷をたどって発展したのかを解説します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 江戸時代までの教育方法について調べ、300字程度にまとめておいてください。授業で質問します(2時間)。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義内容をwordで200字以内にまとめ、メールで送ってください。回答がないと本日の授業は欠席となりますので注意してください(2時間)。 |
| 第3回 | 教育方法の基本原則を学ぶ。 体系的教授法、経験主義、アクティブラーニング等の基礎原理を解説します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 体系的教授法、経験主義とは何かについて調べ、500字程度にまとめておいてください。授業で質問します(2時間)。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義内容をwordで100字以内にまとめ、メールで送ってください。回答がないと本日の授業は欠席となりますので注意してください(2時間)。 |
| 第4回 | 学習指導要領の変遷について学ぶ。 戦後からの学習指導要領の変遷、効果的な教育方法、基礎的な学習評価方法を説明します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 学習指導要領とは何かについて調べてきてください。授業で質問します(2時間)。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義内容をwordで100字以内にまとめ、メールで送ってください。回答がないと本日の授業は欠席となりますので注意してください(2時間)。 |
| 第5回 | 優れた特色ある教育実践に学ぶ。 優れた教育実践についていくつか紹介します。これらの実践を通して、効果的な教育方法について考えます。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 東井義雄、斎藤喜博の教育実践について調べ、簡単にまとめてきてください。授業で質問します(2時間)。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義内容をwordで200字以内にまとめ、メールで送ってください。回答がないと本日の授業は欠席となりますので注意してください(2時間)。 |
| 第6回 | 模擬授業を構想する①。 授業の要素、授業の要件、教材研究、学習の形態について解説します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業の要素、授業の要件、教材研究、学習の形態について調べ、要点をまとめてきてください。授業で質問します(2時間)。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義内容をwordで300字以内にまとめ、メールで送ってください。回答がないと本日の授業は欠席となりますので注意してください(2時間)。 |
| 第7回 | 模擬授業を構想する② 学習指導案作成のための教材研究を行います。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 自分の模擬授業の単元を、分析してきてください。授業で質問します(2時間)。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 上記単元の教材研究をwordで作成し、メールで送ってください。回答がないと本日の授業は欠席となりますので注意してください(2時間)。 |
| 第8回 | 模擬授業を構想する③ 効果的な発問方法・板書計画・机間指導方法・評価方法等の説明をします。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 発問計画、板書計画、机間指導とは何かについて調べて、まとめてきてください。授業で質問します(2時間)。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 模擬授業の単元で、どのような発問、板書、机間指導、評価が考えられるか、wordで300字程度にまとめ、メールで送ってください。回答がないと本日の授業は欠席となりますので注意してください(2時間)。 |

| | | |
|----------------|---|---|
| 第9回 | 模擬授業を構想する④。 情報メディア(IT)の活用法について説明します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 情報メディアの長所、短所について調べてきてください。授業で質問します(2時間)。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 講義内容をwordで200字以内にまとめ、メールで送ってください。回答がないと本日の授業は欠席となりますので注意してください(2時間)。 |
| 第10回 | 学習指導案を作成する① 今まで学んだことを基礎に、実際に学習指導案を書きます。この時間で学習指導案の単元名、単元設定の理由、単元目標、単元の評価基準を完成させます。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 各自の学習指導案の、骨子をまとめてきてください。授業で質問します(2時間)。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 学習指導案の骨子をwordで完成させ、メールで送ってください。回答がないと本日の授業は欠席となりますので注意してください(2時間)。 |
| 第11回 | 学習指導案を作成する② この時間では学習指導案の生徒観、教材観、指導観を作成します。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 模擬授業の単元目標等について、学習指導要領を確認し要点をまとめてきてください。授業で質問します(2時間)。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 上記の要点をwordでまとめ、メールで送ってください。回答がないと本日の授業は欠席となりますので注意してください(2時間)。 |
| 第12回 | 学習指導案を作成する③ この時間では、本時の展開を完成させます。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前に配布した雛形をもとに、本時の展開を考えてきてください。授業で質問します(2時間)。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 本時の展開をwordで完成させ、メールで送ってください。回答がないと本日の授業は欠席となりますので注意してください(2時間)。 |
| 第13回 | 模擬授業を行う 各自の作成した学習指導案をもとに、模擬授業を行います。模擬授業終了後に、授業評価を行い模擬授業を振り返ります。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 各自の人は学習指導案を熟読し、イシュー・フィードバックをしてきてください。模擬授業を行うしてもらいます。係の人以外は、事前に配布された学習指導案を熟読してきてください(2時間)。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 模擬授業についての意見、改善点等をwordで200字程度にまとめてメールで送ってください。回答がないと本日の授業は欠席となりますので注意してください(2時間)。 |
| 第14回 | 模擬授業を行う 各自の作成した学習指導案をもとに、模擬授業を行います。模擬授業終了後に、授業評価を行い模擬授業を振り返ります。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 各自の人は学習指導案を熟読し、イシュー・フィードバックをしてきてください。模擬授業を行うしてもらいます。係の人以外は、事前に配布された学習指導案を熟読してきてください(2時間)。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 模擬授業についての意見、改善点等をwordで200字程度にまとめてメールで送ってください。回答がないと本日の授業は欠席となりますので注意してください(2時間)。 |
| 第15回 | 理想の授業を考えよう 各自模擬授業を振り返り、理想の授業とは何かを考えます。その際、討論を行います。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 各々の授業の良い点、悪い点を思い出し、まとめてきてください。発表してもらいます(2時間)。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 理想の授業とは何かをについて、wordで100字程度にまとめてメールで送ってください。回答がないと本日の授業は欠席となりますので注意してください(2時間)。 |
| 第16回 (定期試験) | 教育方法の歴史、理論、優れた実践、教材研究等の学習したすべての事柄が試験の対象となります。 | |

| | | | | | | |
|---|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
| 2TTA-5120-32ET | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 生徒指導(進路指導を含む) (教職に関する科目) | 共通 | 3年生・前期 | 2単位 | 教必 | 松尾 公孝 | |
| 履修の前提条件 | 「教育心理学」を履修済みもしくは同時履修していること | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>授業は、発達途上にある子ども達の学校教育に求められる原理及びその運用に関する制度的枠組みと教師の役割について、今日の社会情勢や生活環境条件を踏まえながら、子ども達の健康な発達と成長(キャリア形成)を支える関与・指導に必要な知見・態度・方法について考究する。授業中、受講者自身の学校生活中の体験等を素材にしながら、教師のスタンスや求められる指導のあり方について、グループ・ディスカッションを通して考える時間も設けたい。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | ○ | | | |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | ○ | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | ○ | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | ○ | | | |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | ○ | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | ○ | | | |
| | チームワーク Teamwork | | ○ | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | ○ | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | ○ | | | |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | ○ | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | ○ | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>学校教師(本学の場合、高等学校教諭)としての基本的姿勢(教師役割への積極的態、責任感)と専門性(教授・指導・支援の力量)をもって子ども達の「現実を生きる力」を引き出し育てるという学校教師の役割と責任性を確認できること。</p> | | | | | | |

| | | | |
|---|------------|---------------|-------------------|
| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
| 授業内容と関連させて、今日の学校教育をめぐる諸問題についてグループ・ディスカッションを導入する。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 授業の前後、メールmatsuo@g.kiis.ac.jpで受け付けます。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 配布資料 | | | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 生徒指導提要 | 文部科学省 | 教育図書株式会社 | 978-4-87730-274-0 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 定期試験(60%) 授業中のレポート(10%) 授業ごとの振り返り(10%) 授業で学んだことを発表する(20%) | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|-------------------------------------|---|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | オリエンテーション:「生徒指導・進路指導」を学ぶために | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 本授業のシラバスを読む。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料を読み整理する。(2時間) |
| 第2回 | 生徒指導の意義と原理1 教育課程上の位置づけ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「生徒指導提要」のP1～P13を読む。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料を読み整理する。(2時間) |
| 第3回 | 生徒指導の意義と原理2 各教科、道徳教育等との関連 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「生徒指導提要」のP23～P39を読む。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料を読み整理する。(2時間) |
| 第4回 | 生徒指導の意義と原理3 集団指導と個別指導 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「生徒指導提要」のP14～P20。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料を読み整理する。(2時間) |
| 第5回 | 進路指導・キャリア教育の必要性と意義1 教育課程上の位置づけ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「高等学校キャリア教育の手引き」P9～P35を読む。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料を読み整理する。(2時間) |
| 第6回 | 進路指導・キャリア教育の意義と理論2 キャリア教育の視点と指導の在り方 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「高等学校キャリア教育の手引き」P36～P44, P129～P152を読む。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料を読み整理する。(2時間) |
| 第7回 | 生徒指導体制 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「生徒指導提要」P75～P81, P88～P91を読む。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料を読み整理する。(2時間) |
| 第8回 | 生徒全体への指導1 指導方針、年間指導計画 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「生徒指導提要」P127～P137, P82～P83を読む。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料を読み整理する。(2時間) |

| | | |
|----------------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 第9回 | 生徒全体への指導2 ガイダンスの機能を生かした指導 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「生徒指導提要」P138～P141, P92～P93を読む。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料を読み整理する。(2時間) |
| 第10回 | 生徒全体への指導3 生活習慣の確立と規範意識、自己存在感の醸成に向けて | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「生徒指導提要」P142～P147, P9～P13。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料を読み整理する。(2時間) |
| 第11回 | 生徒全体への指導4 インターンシップとの関係 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 高等学校キャリア教育の手引きP97～P118を読む。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料を読み整理する。(2時間) |
| 第12回 | 個別の課題への対応1 生徒指導上の法令(校則、懲戒、体罰など) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「生徒指導提要」P192～P207を読む。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料を読み整理する。(2時間) |
| 第13回 | 個別の課題への対応2 生徒指導上の課題(不登校、いじめ、問題行動など) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「生徒指導提要」P152～P191を読む。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料を読み整理する。(2時間) |
| 第14回 | 個別の課題への対応3 カウンセリングとしての指導 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「生徒指導提要」P92～P126を読む。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 配布資料を読み整理する。(2時間) |
| 第15回 | まとめ・授業で学んだことを発表する。 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業で学んだことを整理して発表原稿を作る。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 他学生の発表を振り返り整理する。(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験(筆記試験) | |

| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| 2TTA-5070-32ET | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 教育相談 (教職に関する科目) | 共通 | 2年生・後期 | 2単位 | 教必 | 松尾 公孝 | |
| 履修の前提条件 | 教師入門、教育心理学を履修していること(履修規定第5条3項に基づく)。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>学校におけるいじめ、不登校、校内暴力など非社会的・反社会的問題行動をする生徒、また通常の学校生活においても悩みを抱えている生徒など、生徒のこころの問題を理解し、適応を促すために、教育相談としてどのように対応するかについて、基礎知識と実践例を紹介します。プリントやパワーポイントを中心に解説し、数回は体験型の講義も行います。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ | |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>教育相談において対応すると考えられるさまざまな問題への対応とその基礎知識を理解し、児童生徒を実際に支援していく際の具体的な方法とスキルの習得を目指します。</p> | | | | | | |

| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
|--|------------|---------------|-------------------|
| <p>毎回の授業の終わりに「授業の振り返り」の提出をお願いします。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>連絡、問い合わせ、相談などはメールにて受け付けます。 matsuo@g.kiis.ac.jp</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| プリント配布 | | | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 教室で生かす カウンセリング・マインド 教師の立場でできるカウンセリングとは | 桑原知子 | 日本評論社 | 4-535-56146-x |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>定期試験(60%) 授業の振り返り(10%) 授業中のレポート(10%) 課題レポート(20%)</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|---|---|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 授業の方針など、学校教育相談について概要紹介:プリント① | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業計画を踏まえ、関連ある事柄、語句を調べておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容を復習し、不明点は調べるなどして、次回までに明確にしておくこと。(2時間) |
| 第2回 | カウンセリングの理論と実際(来談者中心療法を中心に説明します):プリント② | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業計画を踏まえ、関連ある事柄、語句を調べておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容を復習し、不明点は調べるなどして、次回までに明確にしておくこと。(2時間) |
| 第3回 | スクールカウンセリング(スクールカウンセラーの役割、協働について):プリント③ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業計画を踏まえ、関連ある事柄、語句を調べておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容を復習し、不明点は調べるなどして、次回までに明確にしておくこと。(2時間) |
| 第4回 | 心理教育(学校で行なう心理教育を紹介し、体験します):プリント④ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業計画を踏まえ、関連ある事柄、語句を調べておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容を復習し、不明点は調べるなどして、次回までに明確にしておくこと。(2時間) |
| 第5回 | 児童生徒の精神医学的理解(児童生徒に多い精神疾患等について説明します):プリント⑤ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業計画を踏まえ、関連ある事柄、語句を調べておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容を復習し、不明点は調べるなどして、次回までに明確にしておくこと。(2時間) |
| 第6回 | 発達障害の理解と対応(発達障害について説明します):プリント⑥ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業計画を踏まえ、関連ある事柄、語句を調べておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容を復習し、不明点は調べるなどして、次回までに明確にしておくこと。(2時間) |
| 第7回 | 学校臨床の基礎理論(精神分析、学習理論についての基礎知識を説明します):プリント⑦ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業計画を踏まえ、関連ある事柄、語句を調べておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容を復習し、不明点は調べるなどして、次回までに明確にしておくこと。(2時間) |
| 第8回 | 学校臨床の基礎理論②(家族心理学の理論と、家族への対応について説明します):プリント⑧ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業計画を踏まえ、関連ある事柄、語句を調べておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容を復習し、不明点は調べるなどして、次回までに明確にしておくこと。(2時間) |

| | | |
|----------------|---|---|
| 第9回 | 思春期・青年期のこども(児童生徒の発達に関して説明します):プリント⑨ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業計画を踏まえ、関連ある事柄、語句を調べておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容を復習し、不明点は調べるなどして、次回までに明確にしておくこと。(2時間) |
| 第10回 | 不登校の理解と対応(不登校への対応の仕方、事例を紹介します):プリント⑩ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業計画を踏まえ、関連ある事柄、語句を調べておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容を復習し、不明点は調べるなどして、次回までに明確にしておくこと。(2時間) |
| 第11回 | いじめの理解と対応(いじめへの対応の仕方、事例を紹介します):プリント⑪ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業計画を踏まえ、関連ある事柄、語句を調べておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容を復習し、不明点は調べるなどして、次回までに明確にしておくこと。(2時間) |
| 第12回 | 虐待の理解と対応(虐待への対応の仕方、事例を紹介します):プリント⑫ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業計画を踏まえ、関連ある事柄、語句を調べておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容を復習し、不明点は調べるなどして、次回までに明確にしておくこと。(2時間) |
| 第13回 | 非行の理解と対応(非行生徒の理解と対応について説明します):プリント⑬ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業計画を踏まえ、関連ある事柄、語句を調べておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容を復習し、不明点は調べるなどして、次回までに明確にしておくこと。(2時間) |
| 第14回 | 学校コミュニティの危機(災害や事件、事故等による学校の混乱への対応について説明します):プリント⑭ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業計画を踏まえ、関連ある事柄、語句を調べておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容を復習し、不明点は調べるなどして、次回までに明確にしておくこと。(2時間) |
| 第15回 | 有害情報への対処(情報を介した問題等の予防、対応について事例とともに説明します):プリント⑮ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 授業計画を踏まえ、関連ある事柄、語句を調べておくこと。(2時間) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業内容を復習し、不明点は調べるなどして、次回までに明確にしておくこと。(2時間) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験(筆記試験) | |

| | | | | | | |
|--|---|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
| 2TTA-5110-42ET | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 教職実践演習(高) (教職に関する科目) | 共通 | 4年生・後期 | 2単位 | 教必 | 平田 毅 | |
| 履修の前提条件 | 将来教職を目指す者に向けた授業であるので、教える＝学ぶという主客往復運動を自らの裡に作用させ主体的に取り組む姿勢と態度そして能力が求められる。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>教職に必要な実践的総合的な能力の育成をめざすため、①自らのこれまでの教職課程での学びを振り返り、相互に交流するなかで、②教職に就いたときに直面すると考えられる学級経営や授業実践上の諸問題に模擬的に取り組み、問題解決能力を育むとともに、③教員の資質能力とは何かを自らの問題として把握しようとする態度を養うことを目的とする。</p> <p>そのため、これまでの「受動的」な姿勢での“学び”ではなく、常に具体的な一例えば、学生相互の討論やグループワーク、現場教師からの聞き取り、さらには模擬授業などの一取り組みを通して「能動的」に、つまり反省的実践的に、何ものかをしっかりと“学びとる”ことを目指した授業となる。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | ○ |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| ・教職に必要な実践的総合的な資質・能力とは何かを理解し、それを自ら培おうとする態度を身につける。 | | | | | | |

| | | | |
|---|-----------------|------------------------|-------------------|
| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
| <p>教職に関する課題について、 調べ学習・グループ討議・発表が中心の演習となります。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>授業終了後に声を掛けるか、もしくは研究室を訪ねてください。 オフィスアワーの時間は、掲示案内を参照してください。 メールアドレス: t-hirata@kiis.ac.jp</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>4年間の教職課程で学んだことを確認し、卒業後のキャリア形成に繋げていきます。 学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 新しい時代の教職入門 改訂版 | 秋田喜代美・佐藤学 編著 | 有斐閣アルマ | 978-4641220607 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| リーディングス日本の教育と社会⑧ 「いじめ・不登校」 | 伊藤茂樹 編著 | 日本図書センター (3,500円税別) | 978-4-254-30123-7 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>グループワーク・討論への取り組み、小レポート、および、期末レポート これらに基づき総合的に判断し、評価する。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|---|---------------------------------------|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | ガイダンス: 教職実践演習の目指すもの・進め方 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | これまで教職課程で学んできたことを振り返っておく。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | これまで教職課程で学んできたことを「振り返ってシート」にまとめる。[2h] |
| 第2回 | 教育実習で学んだこと(1) (グループ討論) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教育実習で学んできたことを振り返っておく。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 意見交換した内容を振り返りまとめる。[2h] |
| 第3回 | 教育実習で学んだこと(2) (各自のまとめ・総括) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教育実習簿を見直し、報告発表の下準備をする。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 発表の骨格づくり。[2h] |
| 第4回 | 教育実習で学んだこと(3) (教育実習報告会の準備・予行演習) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | PowerPoint原稿の素案を作成する。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | PowerPoint原稿を完成させる。[2h] |
| 第5回 | 教育実習で学んだこと(4) (発表・教育実習報告会発表) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | PowerPointでの発表の練習をする。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 発表を振り返り、成果と教訓を明確にする。[2h] |
| 第6回 | 教師の教育実践とはなにか(1): 授業づくり・学級づくりの重要性(生徒理解と教材研究・集団づくり) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストや参考文献等を参照し、調査や討議のための資料準備を行う。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業の内容を振り返り、次回授業に準備すべき事項について確認する。[2h] |
| 第7回 | 教師の教育実践とはなにか(3): 保護者・地域との連携と授業づくり・学級づくり・学校づくり | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストや参考文献等を参照し、調査や討議のための資料準備を行う。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業の内容を振り返り、次回授業に準備すべき事項について確認する。[2h] |
| 第8回 | 教師の教育実践とはなにか(4): 教師集団の相互理解と学校づくり | |
| | 事前学習 (内容・時間) | テキストや参考文献等を参照し、調査や討議のための資料準備を行う。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業の内容を振り返り、次回授業に準備すべき事項について確認する。[2h] |

| | | |
|----------------|---|--|
| 第9回 | 教師は教育課題にどう向き合うべきか(1): コロナショックは学校に何をもたらしたか | |
| | 事前学習 (内容・時間) | コロナ禍の学校について、ニュースや自らの体験を振り返っておく。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業での討議内容などを振り返り、問題をめぐる事実を整理する。[2h] |
| 第10回 | 教師は教育課題にどう向き合うべきか(2): ポスト・コロナ(ウィズ・コロナ)の学校の姿はどうあるべきか | |
| | 事前学習 (内容・時間) | コロナ禍後の学校・教育のあるべき姿について、自分なりにデザインしてみる。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業での討議内容などを振り返り、問題をめぐる将来像を描写してみる。[2h] |
| 第11回 | 教師は教育課題にどう向き合うべきか(3): 「いじめ」問題(1)(事例・事件に学ぶ) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「いじめ」問題について、ニュースや自らの体験を振り返っておく。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業での討議内容などを振り返り、問題をめぐる事実を整理する。[2h] |
| 第12回 | 教師は教育課題にどう向き合うべきか(4): 「いじめ」問題(2) (問題の所在について討議する) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「いじめ」問題について、ニュースや自らの体験を振り返っておく。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「いじめ」問題について、その問題の在処を整理する。[2h] |
| 第13回 | 教師は教育課題にどう向き合うべきか(5): 「いじめ」問題(3)(対応策について考え討議する) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 「いじめ」問題の対応策や解決策について、自分なりに考え整理しておく。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業での討議内容などを振り返り、問題をめぐる対応策・解決策を描写してみる。[2h] |
| 第14回 | 教師の教育実践とはなにか: 教師・学校への社会の期待と教育実践の創造 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | これまでの授業内容で学んだことをもとに教師・学校の社会的役割について考えておく。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業での討議内容などを振り返り、教師・学校への社会的期待を具体的に描写してみる。[2h] |
| 第15回 | まとめ: いま、教員に求められる資質能力とは何か | |
| | 事前学習 (内容・時間) | これまで教職課程で学んだことをもとに、これからの教師・学校に求められていることを考えておく。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | これまでのすべての“学び”を振り返り、自らが社会的に果たすべき使命について具体的にデザインする。[2h] |
| 第16回 (定期試験) | 期末レポートの提出 | |

| | | | | | | |
|--|---|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| ナンバリング (Numbering) | | | | | | |
| 2TTA-5040-43ET | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 教育実習(事前事後指導) (教職に関する科目) | 共通 | 4年生・前後期 | 3単位 | 教必 | 平田 毅 | |
| 履修の前提条件 | 教職科目と教科専門科目を規定単位数修得しておくこと。 また、情報科教育法をはじめその他の教職科目で学んだことを再度復習しておくこと。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| <p>教育実習は、短期間ではあるが、「教師」として教壇に立つという極めて実際的で影響力のあるものである。このことをしっかりと自覚し、この「事前事後指導」の時間は、主体的かつ積極的に真摯な態度で臨むことが必要とされる。</p> <p>この事前事後指導では、教育実習に赴くに当たって必要となる事柄の理解を通して、教育実習生としての心構えや態度を養うとともに、模擬授業をつくる作業を通して、基本的な授業技術の習得と授業実習の構えを身につけることを目的とする。</p> <p>“教師になる”との自覚のもと、いい加減な気持ちで取り組むことは厳に慎み、すべての活動に主体的に取り組むこと。</p> | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | ○ |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | ○ |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | ○ |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | ○ |
| | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | ○ |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | ○ |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| | 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| <p>①教育実習に赴くにあたり、その意義・目的および留意点を把握し、実習の心構えを身につける。</p> <p>②教育実習に当たって、同和教育の実践例などを通して人権教育の視点を理解する。</p> <p>③模擬授業を通して、授業づくりの基本的な視点および技術を身につける。</p> <p>④教育実習で学んだことを相互に交流することをおして、教育実習を意義あるものとして定着させる。</p> | | | | | | |

| | | | |
|--|-------------|---------------|-------------------|
| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
| <p>教育実習---これこそがアクティブラーニングそのものである。</p> <p>事前:「授業をつくる」という取り組み(教材研究・指導案づくり)を経て、模擬授業を実際に行う。</p> <p>事後:教育実習で学んだことを発表する。</p> | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| <p>研究室を訪ねてください。オフィスアワーの時間は、掲示案内を参照してください。</p> <p>メールアドレス: t-hirata@kiis.ac.jp</p> | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| <p>教育実習---実習校にとっても受講生(実習生)にとっても意義あるものにするために、事前準備と事後総括の取り組みは極めて重要である。このことを自覚して、教育実習およびその事前事後に主体的に取り組んでほしい。</p> <p>学習の確認:ポートフォリオシート「科目別履修確認チェック表」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。</p> | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| ベストをつくす教育実習 | 筒井美紀・遠藤野ゆり編 | 有斐閣 | 978-4-641-17432-0 |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 教育実習完全ガイド | 山崎英則編著 | ミネルヴァ書房 | 978-4-623-03913-5 |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| <p>教育実習校の評価、および平常学習への参加、模擬授業への取り組みをもとに、総合的に評価する。</p> | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|------------------------|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | ガイダンス～教育実習とは何か | |
| | 事前学習 (内容・時間) | これまでに履修した教職科目の授業内容について振り返っておく。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 自らの教員志望の動機を文章で記述する。[2h] |
| 第2回 | 教育実習の意義と目的 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 実習に行くに当たっての自らの抱負を文章で記述する。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教員志望の動機と教育実習の抱負をまとめなおす。[2h] |
| 第3回 | 高校にとっての教育実習と実習生 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 高校時代の被教育経験を振り返っておく。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実習先高校の概要や教育理念等について調べ、プリントに書き込む。[2h] |
| 第4回 | 人権教育の視点～ひとり一人を大切にしたい授業 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | これまでに学校等で経験した「人権に関する学習」の内容について振り返っておく。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「ひとり一人を大切にしたい授業」について小論文(1000字程度)を作成する。[2h] |
| 第5回 | 教育実習の準備と心得(1) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前配布の授業プリントの指定された箇所を読んでおく。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業プリントの本時で扱った箇所を再読してミニ課題に答える。[2h] |
| 第6回 | 教育実習の準備と心得(2) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 事前配布の授業プリントの指定された箇所を読んでおく。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業プリントの本時で扱った箇所を再読してミニ課題に答える。[2h] |
| 第7回 | 教材研究と授業構想(1) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 高校情報の教科書を概観し、模擬授業で取り上げる単元の目星をつける。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 高校情報の教科書の該当単元を熟読する。[2h] |
| 第8回 | 教材研究と授業構想(2) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当単元の授業計画を作成する。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 該当単元の授業計画を再考しリメイクする。[2h] |

| | | |
|------|---------------------------|--|
| 第9回 | 授業をつくる(1)～模擬授業に向けて | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 高校情報の教科書の該当単元を熟読し、単元の目標を作成しておく。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 高校情報の教科書の該当単元を熟読し、単元目標の内容を再考しリメイクする。[2h] |
| 第10回 | 授業をつくる(2)～学習指導(案)とは何か | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当単元のうち、模擬授業で行う「本時分」の授業のめあてを作成しておく。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 該当単元のうち、模擬授業で行う「本時分」の授業のめあてを再考しリメイクする。[2h] |
| 第11回 | 授業をつくる(3)～学習指導案作成の仕方 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 該当単元のうち、模擬授業で行う「本時分」の授業の展開イメージを作る。[2h] |
| | 事後学習 (内容・時間) | 模擬授業に必要な教材等の構想を練る。 |
| 第12回 | 授業をつくる(4)～学習指導案の作成・教材づくり① | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 模擬授業の展開を「授業構想メモ」を用いて構想を練る。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 模擬授業の展開について再考し、構想をより具体化する。 |
| 第13回 | 授業をつくる(5)～学習指導案の作成・教材づくり② | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 模擬授業の展開を「授業構想メモ」を用いてより具体的に再度練り直す。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 模擬授業の教材等を具体的にデザイン(設計)する。 |
| 第14回 | 授業をつくる(6)～模擬授業(予行練習) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 模擬授業の「授業構想」を完成させ、必要な教材等を作成する準備をする。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 模擬授業の「授業構想」と必要な教材等を完成させる。 |
| 第15回 | 授業をつくる(7)～模擬授業① | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 模擬授業の準備をする。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 模擬授業の反省をし、成果と課題、教訓を明らかにする。 |
| 第16回 | 授業をつくる(8)～模擬授業② | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 模擬授業の準備をする。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 模擬授業の内容を振り返る。 |

| | | |
|------|-------------------|--------------------------------------|
| | 授業をつくる(9)～模擬授業の総括 | |
| 第17回 | 事前学習 (内容・時間) | 模擬授業の成果と課題、教訓を明らかにする。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 他の模擬授業から学んだことも含めて、模擬授業の総括レポートにまとめる。 |
| | 教育実習簿の書き方(1) | |
| 第18回 | 事前学習 (内容・時間) | 配布された「教育実習簿」の内容を把握しておく。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「教育実習簿」の指定箇所を清書する。 |
| | 教育実習簿の書き方(2) | |
| 第19回 | 事前学習 (内容・時間) | 「教育実習簿」の「実習の心得」など指定された箇所を読んでおく。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「実習の心得」など指定された箇所を再度熟読し、指定された箇所を清書する。 |
| | 教育実習簿の書き方(3) | |
| 第20回 | 事前学習 (内容・時間) | 「教育実習簿」の「実習の心得」など指定された箇所を読んでおく。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 「実習の心得」など指定された箇所を再度熟読し、指定された箇所を清書する。 |
| | 教育実習に向けて(心構え) | |
| 第21回 | 事前学習 (内容・時間) | 教育実習の向けての抱負を確認し、自己紹介の内容を準備をする |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教育実習の向けての抱負を再確認し、自己紹介の予行練習を行う。 |
| | 教育実習(1) | |
| 第22回 | 事前学習 (内容・時間) | 実習校の指示に従った事前学習を行う。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実習校の指示に従った事後学習を行う。 |
| | 教育実習(2) | |
| 第23回 | 事前学習 (内容・時間) | 実習校の指示に従った事前学習を行う。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 実習校の指示に従った事後学習を行う。 |

| | | |
|------|--------------------|-------------------------------------|
| | 教育実習簿の提出 | |
| 第24回 | 事前学習 (内容・時間) | 「教育実習簿」を整理し、内容や誤字脱字・表現上の誤記がないか点検する。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教育実習の内容を振り返る。 |
| | 教育実習を振り返る | |
| 第25回 | 事前学習 (内容・時間) | 教育実習のまとめの発表コンテンツの構想を練る。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 他の実習先の報告も考慮して、自ら教育実習のまとめを整理する。 |
| | 教育実習の総括(1) | |
| 第26回 | 事前学習 (内容・時間) | 教育実習の報告発表のコンテンツ構想を具体化するための材料の準備をする。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 教育実習の報告会の発表コンテンツの構想をまとめる。 |
| | 教育実習の総括(2) | |
| 第27回 | 事前学習 (内容・時間) | 発表原稿の下書きを作成する。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 発表原稿を完成させ、報告発表の準備をする。 |
| | 教育実習で学んだこと(1) 報告発表 | |
| 第28回 | 事前学習 (内容・時間) | 報告発表のリハーサルをする。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 報告発表の成果と課題、教訓を明らかにする。 |
| | 教育実習で学んだこと(2)発表 | |
| 第29回 | 事前学習 (内容・時間) | 報告発表のリハーサルをする。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | 報告発表の成果と課題、教訓を明らかにする。 |
| | まとめ | |
| 第30回 | 事前学習 (内容・時間) | 教育実習で得たものをレポートにまとめる準備をする。 |
| | 事後学習 (内容・時間) | レポートを完成させ、提出する。 |
| 第31回 | 教育実習簿(レポート)の提出 | |

| | | | | | | |
|--|--|----------------------------------|---------------|-----|---------------------|----------|
| ナンバリング(Numbering) | | | | | | |
| 2TTN-5130-32ET | | | | | | |
| 科目名 Class | 入学年度 Admission Year | 開講学年・学期 School Year, Semester | 単位数 Credit | 必・選 | 授業担当者 Instructor | 実務 経験 |
| 総合的な探究の時間の指導法 (教職に関する科目) | 219～ | 3年生・前期 | 2単位 | 教必 | 津川 裕 | |
| 履修の前提条件 | 教科書として示した「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説総合的な探究の時間編」、参考文献として示した「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」を読み、総合的な探究の時間の考え方を理解しておく。 | | | | | |
| 授業概要 (Course Outline) | | | | | | |
| まず、高等学校における「総合的な探究の時間」の趣旨・意義等を理解する。次に実践事例をもとに高等学校における年間指導計画及び単元計画のあり方を理解し、各自の「母校」を想定した年間指導計画及び単元計画を作成し、それをお互いに検討・議論することを通じて「総合的な探究の時間」の指導のあり方について理解を深める。 | | | | | | |
| 授業を通して修得できる力 (Competency Goals) | | | | | | |
| 知識・理解の観点 Knowledge and Understanding | 多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture | | | | | |
| | 人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature | | | | | |
| 汎用的技能の観点 Generic Skills | コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening | | | | | ○ |
| | 数量的スキル Mathematics | | | | | |
| | 情報リテラシー Information Literacy | | | | | |
| | 論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking | | | | | |
| 態度・志向性の観点 Personal Qualities | 問題解決力 Problem Solving | | | | | ○ |
| | 建学の精神 University Founding Philosophy | | | | | |
| | 自己管理能力 Self-management | | | | | ○ |
| | チームワーク Teamwork | | | | | ○ |
| | リーダーシップ Leadership | | | | | ○ |
| | 倫理観 Ethical Sense | | | | | ○ |
| 市民としての社会的責任 Social Responsibility | | | | | ○ | |
| 生涯学習力 Lifelong Learning | | | | | ○ | |
| 到達目標 (Objectives) | | | | | | |
| 変わり続ける教育現場において、生徒の「生きる力」を育むことの重要性を理解する。課題発見・解決能力、論理的思考、コミュニケーション能力との向上を目指すために必要な知識を習得し、高等学校における「主体的・対話的で深い学び」を実現できる適切な指導のあり方を身に付ける。 | | | | | | |

| | | | |
|---|------------|---------------|-------------------|
| 能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning) | | | |
| 適宜、グループディスカッション、ディベートを取り入れる。 | | | |
| 教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour) | | | |
| 問い合わせ等はメールでお願いします。 | | | |
| その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオ&ルーブリックの作成と提出)について | | | |
| 学習の確認:「KIIS学修ポートフォリオ&ルーブリック」に必要事項を記入し最終講義時に提出して下さい。 | | | |
| 教科書 (Textbooks) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 高等学校学習指導要領(平成30年告示) 解説 総合的な探究の時間編 | 文部科学省 | | |
| 参考文献 (Reference Books) | | | |
| 書名 Title | 著者名 Author | 出版社 Publisher | ISBNコード ISBN Code |
| 今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開(高等学校編) | 文部科学省 | | |
| 成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation) | | | |
| 総合的な探究の時間の考え方や基本的な概念を理解し説明できるかを評価の基準とし、定期試験、授業への参加(出席ではない)の度合いで評価する。その比重は試験(7割)、授業参加(3割)。 | | | |

| 授業計画 (Course Schedule) | | |
|------------------------|-----------------------------------|--|
| テーマ Theme | | |
| 第1回 | 総合的な探究の時間とは (求められる能力) | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 自身の体験をもとに総合的な探究の時間の良い点、課題をノートに整理する。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業の感想,学んだこと,調べたこと,疑問に思ったこと等をノートに整理する。(2.0h) |
| 第2回 | 総合的な探究の時間の改訂の趣旨・特質 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 P.1.~10を読み、ノートに整理する。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業の感想,学んだこと,調べたこと,疑問に思ったこと等をノートに整理する。(2.0h) |
| 第3回 | 総合的な探究の時間の目標 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 P. 11~20を読み、ノートに整理する。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業の感想,学んだこと,調べたこと,疑問に思ったこと等をノートに整理する。(2.0h) |
| 第4回 | 各学校において定める目標及び内容 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 P. 21~36を読み、ノートに整理する。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業の感想,学んだこと,調べたこと,疑問に思ったこと等をノートに整理する。(2.0h) |
| 第5回 | 指導計画の作成と内容の取り扱い | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 総合的な探究の時間の特質に応じた学習のあり方を整理する。教科書 P. 37~70(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業の感想,学んだこと,調べたこと,疑問に思ったこと等をノートに整理する。(2.0h) |
| 第6回 | 高等学校における総合的な探究の時間の意義とカリキュラムマネジメント | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 P. 71~78(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業の感想,学んだこと,調べたこと,疑問に思ったこと等をノートに整理する。(2.0h) |
| 第7回 | 高等学校の実践事例の研究 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 発表の担当者は発表内容・方法の準備をする。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業の感想,学んだこと,調べたこと,疑問に思ったこと等をノートに整理する。(2.0h) |
| 第8回 | 高等学校の実践事例の研究 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 発表の担当者は発表内容・方法の準備をする。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業の感想,学んだこと,調べたこと,疑問に思ったこと等をノートに整理する。(2.0h) |

| | | |
|----------------|-------------------------------|---|
| 第9回 | 年間指導計画の作成と各学校が定める目標と内容 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 P79~102を読み、ノートに整理する。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業の感想,学んだこと,調べたこと,疑問に思ったこと等をノートに整理する。 |
| 第10回 | 年間指導計画及び単元計画の作成 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 P. 103~116を読み、ノートに整理する。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業の感想,学んだこと,調べたこと,疑問に思ったこと等をノートに整理する。(2.0h) |
| 第11回 | 総合的な探究の時間の学習指導と「主体的・対話的で深い学び」 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 P117~132を読み、ノートに整理する。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業の感想,学んだこと,調べたこと,疑問に思ったこと等をノートに整理する。(2.0h) |
| 第12回 | 総合的な探究の時間の評価 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 P. 133~138を読み、ノートに整理する。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業の感想,学んだこと,調べたこと,疑問に思ったこと等をノートに整理する。(2.0h) |
| 第13回 | 総合的な探究の時間を充実させるための体制づくり | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 教科書 P. 139~154を読み、ノートに整理する。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業の感想,学んだこと,調べたこと,疑問に思ったこと等をノートに整理する。(2.0h) |
| 第14回 | 年間指導計画および単元計画の発表および質疑応答・討論 | |
| | 事前学習 (内容・時間) | 発表の担当者は発表内容・方法の準備をする。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業の感想,学んだこと,調べたこと,疑問に思ったこと等をノートに整理する。(2.0h) |
| 第15回 | 総合的な探究の時間の指導法のまとめ | |
| | 事前学習 (内容・時間) | この授業で学んだこと,更に学びたいと思ったこと等を発表できる準備をする。(2.0h) |
| | 事後学習 (内容・時間) | 授業の感想,学んだこと,調べたこと,疑問に思ったこと等をノートに整理する。(2.0h) |
| 第16回 (定期試験) | 定期試験、まとめ | |

□専任教員

| 職名 | 氏名 | 担当科目 | 研究室(内線) |
|-------------------------|-----------|--|----------------------------------|
| 学長 教授 | 麻生 隆史 | 計測・制御論 | 1号館1階(103) 学長室 2号館3階(357) |
| 副学長 教授 | 桑野 裕文 | スポーツ理論, ウェルネス理論, 建学の精神と人生, 基礎演習, 専門ゼミⅠ, 演習Ⅱ | 1号館1階(102) 副学長室 2号館3階(359) |
| 副学長 | 麻生 尚寛 | | 1号館1階(108) 副学長室 |
| 学部長・学術・教育 研究所長 教授 | 平田 毅 | 社会学(社会学Ⅱ), 文章表現Ⅰ(大学基礎総合Ⅰ), 文章表現(文章表現Ⅱ(大学基礎総合Ⅱ)), 大学基礎総合, 教育社会学, 教職実践演習(高), 教育実習(事前事後指導), 基礎演習, 専門ゼミⅠ, 演習Ⅱ | 2号館3階(360) |
| 研究科長 教授 | 小川 雄平 | 国際経営論, 国際経済論 | 2号館1階(182) |
| 経営情報学科長 准教授 | 秋吉 浩志 | マーケティング論, 消費者行動論, Webサービス論, 経営組織論, コミュニケーションと自己発見Ⅰ・Ⅱ, 経営情報論Ⅰ, SNS活用と問題解決(コミュニケーションデザイン), プレゼミⅠ・Ⅱ, 専門ゼミⅠ・Ⅱ | 2号館5階(555) |
| 情報ネットワーク学科 長 教授 | 車 炳圀 | 情報ネットワーク入門, インtranet技術, インターネット技術(ネットワーク演習), インターネット技術, スイッチング技術, 情報セキュリティ, WebプログラミングⅠ・Ⅱ・Ⅲ, ルーティング技術, 基礎ゼミ, 専門ゼミⅠ・Ⅱ | 2号館6階(656) |
| 教務部長 教授 | 坂上 宏 | 政治学(政治学Ⅰ), 日本事情(日本事情B), 国際政治学, 経営思想(特別講義(経営)産業社会論), 哲学(政治学Ⅱ), 特別講義(キャリア)基礎教養, 基礎演習, 専門ゼミⅠ, 演習Ⅱ | 2号館3階(363) |
| 学生部長 教授 | 長友 陸富 | 簿記Ⅰ(初級簿記(簿記Ⅰ)), 簿記Ⅱ, コミュニケーションと自己発見Ⅰ・Ⅱ, 基礎演習, 専門ゼミⅠ, 演習Ⅱ | 2号館5階(556) |
| 附属図書館長 教授 | 丹羽 崇之 | 税法学入門, 民事法(民法Ⅰ(契約総論)), 民法Ⅱ(契約各論・不法行為), 知的所有権, 法学, 情報倫理, 基礎演習, 専門ゼミⅠ, 演習Ⅱ | 2号館5階(552) |
| 教授 | 丑山 優 | 演習Ⅱ | 2号館4階(451) |
| 教授 | 遠藤 真紀 | 経営戦略論, 中小企業論, ビジネスプランニング, ヘンチャー企業論, 経営学総論Ⅰ(経営学入門)・経営学総論Ⅱ(経営学総論), 上級小売商業Ⅰ・Ⅱ, プレゼミⅠ・Ⅱ, 基礎ゼミ, 専門ゼミⅠ, 演習Ⅱ | 2号館6階(655) |
| 教授 | 春日 克則 | 管理会計論Ⅰ・Ⅱ, 税務会計論(税務会計論Ⅰ), 税務会計論Ⅱ, 経営分析, 監査論, 基礎演習, 専門ゼミⅠ | 2号館4階(455) |
| 教授 | 倉地 和敏 | 税法学(税法学総論) | 2号館4階(452) |
| 教授 | クリス フリン | 英会話BasicⅠ・Ⅱ, 英会話AdvancedⅠ・Ⅱ, 国際情報分析, TOEICⅠ(英検上級Ⅰ・TOEIC応用Ⅰ), TOEICⅡ(英検上級Ⅱ・TOEIC応用Ⅱ), プレゼミⅠ・Ⅱ, 基礎ゼミ, 専門ゼミⅠ・Ⅱ | 2号館3階(362) |
| 教授 | 全 彰煥 | 日本語Ⅰ・Ⅱ, 初級韓国語, 中級韓国語, 上級韓国語, 文学, 大学基礎総合, 基礎演習, 専門ゼミⅠ, 演習Ⅱ | 2号館4階(453) |
| 教授 | 津守 常弘 | 財務会計論(財務会計論Ⅰ), 財務会計論Ⅱ | 2号館4階(454) |
| 教授 | 吉野 正 | 日本国憲法, 会社法 | 2号館3階(358) |
| 准教授 | 岩下 昌美 | コンピュータ会計(コンピュータ会計Ⅰ), コンピュータ会計Ⅱ, 簿記Ⅰ, 簿記Ⅱ(簿記演習), コミュニケーションと自己発見Ⅰ・Ⅱ, 基礎ゼミ, 専門ゼミⅠ, 演習Ⅱ | 2号館2階(270) |
| 准教授 | 合田 和正 | 「情報」教科教育法Ⅰ・Ⅱ, 情報学入門, プログラミング論, プログラミング初歩Ⅰ(プログラミング入門), プログラミング初歩Ⅱ(プログラミング論), オペレーティングシステム論, 基礎ゼミ, 専門ゼミⅠ・Ⅱ | 2号館2階(269) |
| 准教授 | 鈴木 和也 | 原価計算論Ⅰ(原価計算論), 原価計算論Ⅱ, 日本経営史(特別講義(経営)経営史), 労務管理論, コマース論Ⅰ・Ⅱ(中級小売商業Ⅰ・Ⅱ), ビジネス実務(ビジネス実務Ⅰ), ビジネス実務Ⅱ, コミュニケーションと自己発見Ⅰ・Ⅱ, 特別支援教育, プレゼミⅠ・Ⅱ, 基礎ゼミ, 専門ゼミⅠ・Ⅱ | 2号館5階(353) |
| 准教授 | 竹石 洋介 | ウェルネス(スポーツ実技Ⅰ), スポーツ(スポーツ実技Ⅱ), コミュニケーションと自己発見Ⅰ・Ⅱ, 基礎演習, 専門ゼミⅠ, 演習Ⅱ | 体育館2階(502) |
| 准教授 | 橋爪 善光 | 中級プログラミング実習, データベース論, データ解析, プログラミング入門, 情報数学(情報数学Ⅰ), 情報数学Ⅱ, 統計学入門, データモデリング, 情報リテラシー演習, 基礎ゼミ, 専門ゼミⅠ・Ⅱ | 2号館3階(361) |
| 准教授 | 藤内 響子 | 総合英語, ビジネス英語Ⅰ・Ⅱ, 英検中級・TOEIC基礎, 基礎演習, 専門ゼミⅠ | 2号館2階(272) |
| 講師 | 荒平 高章 | マルチメディア論, 情報システムの開発と管理, プログラミング実践Ⅰ, 基礎数学, 多変量解析(経営統計), 人工知能, 統計学, 情報倫理, 情報リテラシー演習(情報リテラシー演習Ⅰ), プレゼミⅠ・Ⅱ, 基礎ゼミ, 専門ゼミⅠ・Ⅱ | 2号館6階(653) |
| 講師 | 宮崎 裕士 | 会計学入門, 会計学(会計学総論), 中級簿記演習Ⅰ・Ⅱ(中級簿記Ⅰ・Ⅱ), 大学基礎総合 コミュニケーションと自己発見Ⅰ・Ⅱ | 2号館2階(273) |
| 助教 | ディンダ プラマン | ビジネスプログラミング, 情報リテラシー演習(情報リテラシー演習Ⅰ), 情報テクノロジー, 情報テクノロジー演習Ⅰ プログラミング実践Ⅱ, 機械学習, 統計プログラミング, 専門ゼミⅡ | 2号館5階(551) |
| 助教 | 堀 治彦 | 財務管理, 財務管理論Ⅰ・Ⅱ, ヘンチャービジネス入門, キャリアデザイン入門Ⅱ, コミュニケーションと自己発見Ⅰ・Ⅱ, 大学基礎総合, 情報リテラシー演習 | 2号館2階(274) |

□非常勤講師

| 職名 | 氏名 | 担当科目 | 研究室 |
|----------------------|--------|--|---------------|
| 九州産業大学 教授 | 朝廣 雄一 | 計算機システム論, アルゴリズムとデータ構造 | |
| 九州大学大学院 人文科学府 | 内田 水生 | 総合英語 | |
| | 大多 正人 | キャリアデザイン入門Ⅰ, キャリアデザインⅠ・Ⅱ | |
| 近畿大学 准教授 | 岡野 亜希子 | 教育課程論(特別活動を含む) | |
| | 喬 泰寧 | 初級中国語, 中級中国語 | |
| 国文学研究資料館(非) 研究調査員 | 進藤 康子 | 日本文化論, 日本語Ⅰ | |
| | 高橋 潤子 | 教育方法学, 教師入門 | |
| | 塚野 慧星 | 教育哲学 | |
| 前福岡教育大学教授 | 津川 裕 | 総合的な探究の時間の指導法 | |
| 九州大学大学院 芸術工学研究院教授 | 鶴野 玲治 | コンピュータグラフィックス論 | |
| 九州産業大学 非常勤 | 富田 真矢 | 基礎デザイン | |
| | 長池 和代 | 組織心理学, 教育心理学 | 2号館1階 講師控室 |
| 九州産業大学 准教授 | 新田町 尚人 | 企業金融(金融論) | |
| | 平川 淳一 | ビジネスソフト活用演習, ビジネスソフト活用演習Ⅰ・Ⅱ, 情報テクノロジー演習, 簿記Ⅰ・Ⅱ, 情報リテラシー演習(情報リテラシー演習Ⅰ), 情報リテラシー演習Ⅱ, 特別講義(会計)簿記総合実践, 特別講義(会計)FP初級, 特別講義(会計)FP中級, 情報テクノロジー演習Ⅱ | |
| 株式会社 ブラテック | 平塚 智一 | Webコンテンツ制作Ⅰ(Webデザイン), Webコンテンツ制作Ⅱ(Webシステム) | |
| | 古川 幸子 | 日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ | |
| 九州大学大学院 経済学研究院教授 | 古川 哲也 | マネジメント科学, マネジメントゲーム | |
| | 松尾 公孝 | 心理学(心理学Ⅰ), 生徒指導, 教育相談 | |
| 九州産業大学 名誉教授 | 鷲頭 正憲 | 初級プログラミング実習 | |
| 九州情報大学 名誉教授 | 荒巻 富士夫 | ネットワーク基礎, ルーティング技術, ネットワークアプリケーション構築 | |
| 九州情報大学 名誉教授 | 岸川 洋 | モバイルネットワーク, 情報システム設計, 経営情報論Ⅱ | |
| 九州情報大学 名誉教授 | 坂本 徹 | 経済学(経済学Ⅰ), 経済学Ⅱ, 計量経済分析, 地域経済論, マーケティング・リサーチ | |
| 九州情報大学 名誉教授 | 中山 彰信 | 宗教学(宗教と人生) | |

大学院
(博士前期課程)

2021 学年暦

| 期 | 行 事 | 期 日 | 備 考 |
|--|---------------|---------------------|--|
| 前 期 | 入 学 式 | 4月6日(火) | 履修登録 |
| | 新入生オリエンテーション | 4月6日(火) | |
| | 授 業 開 始 | 4月8日(木) | |
| | 休 講 日 | 4月29日(木)～5月5日(水) | |
| | 開 学 記 念 日 | 5月27日(木) ※通常授業 | |
| | 前 期 授 業 終 了 | 7月30日(金) | |
| | 夏 季 休 業 | 8月12日(木)～9月21日(火) | |
| | 合 同 ゼ ミ 研 修 | 9月7日(火)、8日(水) | |
| 後 期 | 授 業 開 始 | 9月27日(月) | 後期授業開始 1月20日固定 (土、日の場合直後の平日とする) 2月15日固定 (土、日の場合直後の平日とする) |
| | 学 園 祭 | 10月30日(土)、10月31日(日) | |
| | 補 講 日 | 12月24日(金) | |
| | 冬 季 休 業 | 12月25日(土)～1月6日(木) | |
| | 授 業 開 始 | 1月7日(金) | |
| | 修 士 論 文 締 切 | 1月20日(木) | |
| | 後 期 授 業 終 了 | 1月26日(水) | |
| | 修 士 論 文 発 表 会 | 2月15日(火) | |
| | 学 位 記 授 与 式 | 3月18日(金) | |
| | 春 季 休 業 | 3月25日(金)～31日(木) | |

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 授業 コマ数 |
|---|----------|-------------|--------------|--------------|----|-----------|
| 月 | 12 19 26 | 10 17 24 31 | 7 14 21 28 | 5 12 19 26 | | 15 |
| 火 | 13 20 27 | 11 18 25 | 1 8 15 22 29 | 6 13 20 27 | | 15 |
| 水 | 14 21 28 | 12 19 26 | 2 9 16 23 30 | 7 14 21 28 | | 15 |
| 木 | 8 15 22 | 6 13 20 27 | 3 10 17 24 | 1 8 15 22 29 | | 15 |
| 金 | 9 16 23 | 7 14 21 28 | 4 11 18 25 | 2 9 16 23 30 | | 15 |
| 土 | | | | | | |

| | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 授業 コマ数 |
|---|----|--------------|--------------|-----------|----------|----|-----------|
| 月 | 27 | 4 11 18 25 | 1 8 15 22 29 | 6 13 20 | 17 24 | | 15 |
| 火 | 28 | 5 12 19 26 | 2 9 16 23 30 | 7 14 21 | 11 18 25 | | 15 |
| 水 | 29 | 6 13 20 27 | 10 17 24 | 1 8 15 22 | 12 19 26 | | 15 |
| 木 | 30 | 7 14 21 28 | 4 11 18 25 | 2 9 16 23 | 13 20 | | 15 |
| 金 | | 1 8 15 22 29 | 5 12 19 26 | 3 10 17 補 | 7 14 21 | | 15 |
| 土 | | | | | | | |

2021年度 学年暦

| 日 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 日 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 日 | |
|----|-----|-----------------|-------------------|----------|------------|----|----|-----|----------|-----------------------|-------------|-----------|-----------------------|----|----|
| 1 | 木 | 土 休日 | 火 7 | 木 12 | 日 | 水 | 1 | 金 1 | 月 6 | 水 9 | 土 元日 | 火 | 火 | 1 | |
| 2 | 金 | 日 休日 | 水 7 | 金 12 | 月 | 木 | 2 | 土 | 火 6 | 木 10 | 日 | 水 | 水 | 2 | |
| 3 | 土 | 月 憲法記念日 | 木 8 | 土 | 火 | 金 | 3 | 日 | 水 文化の日 | 金 10 | 月 | 木 | 木 | 3 | |
| 4 | 日 | 火 みどりの日 | 金 8 | 日 | 水 | 土 | 4 | 月 2 | 木 6 | 土 | 火 | 金 | 金 | 4 | |
| 5 | 月 | 水 こどもの日 | 土 | 月 12 | 木 | 日 | 5 | 火 2 | 金 6 | 日 | 水 | 土 | 土 | 5 | |
| 6 | 火 | 入学式 オリエンテーショ | 木 4 | 日 | 火 12 | 金 | 6 | 水 2 | 土 | 月 11 | 木 | 日 | 日 | 6 | |
| 7 | 水 | | 金 4 | 月 8 | 水 12 | 土 | 7 | 木 2 | 日 | 火 10 | 金 13 授業開始 | 月 | 月 | 7 | |
| 8 | 木 | 1 大学院前期 開講 | 土 | 火 8 | 木 13 | 日 | 8 | 金 2 | 月 7 | 水 10 | 土 | 火 | 火 | 8 | |
| 9 | 金 | 1 学部前期開講 | 日 | 水 8 | 金 13 | 月 | 9 | 土 | 火 7 | 木 11 | 日 | 水 | 水 | 9 | |
| 10 | 土 | 月 4 | 木 9 | 土 | 火 | 金 | 10 | 日 | 水 6 | 金 11 | 月 成人の日 | 木 | 木 | 10 | |
| 11 | 日 | 火 4 | 金 9 | 日 | 水 | 土 | 11 | 月 3 | 木 7 | 土 | 火 13 | 金 建国記念日 | 金 | 11 | |
| 12 | 月 1 | 水 4 | 土 | 月 13 | 木 | 日 | 12 | 火 3 | 金 7 | 日 | 水 13 | 土 | 土 | 12 | |
| 13 | 火 1 | 木 5 | 日 | 火 13 | 金 | 月 | 13 | 水 3 | 土 | 月 12 | 木 14 | 日 | 日 | 13 | |
| 14 | 水 1 | 金 5 | 月 9 | 水 13 | 土 | 火 | 14 | 木 3 | 日 | 火 11 | 金 14 | 月 | 月 | 14 | |
| 15 | 木 2 | 土 | 火 9 | 木 14 | 日 | 水 | 15 | 金 3 | 月 8 | 水 11 | 土 | 火 修士論文発表会 | 火 | 15 | |
| 16 | 金 2 | 日 | 水 9 | 金 14 | 月 | 木 | 16 | 土 | 火 8 | 木 12 | 日 | 水 | 水 | 16 | |
| 17 | 土 | 月 5 | 木 10 | 土 | 火 | 金 | 17 | 日 | 水 7 | 金 12 | 月 14 | 木 | 木 | 17 | |
| 18 | 日 | 火 5 | 金 10 | 日 | 水 | 土 | 18 | 月 4 | 木 8 | 土 | 火 14 | 金 | 金 学位記授与式 | 18 | |
| 19 | 月 2 | 水 5 | 土 | 月 14 | 木 | 日 | 19 | 火 4 | 金 8 | 日 | 水 14 | 土 | 土 | 19 | |
| 20 | 火 2 | 木 6 | 日 | 火 14 | 金 | 月 | 20 | 水 4 | 土 敬老の日 | 月 13 | 木 15 修士論文締切 | 日 | 日 | 20 | |
| 21 | 水 2 | 金 6 | 月 10 | 水 14 | 土 | 火 | 21 | 木 4 | 日 | 火 12 | 金 15 | 月 | 月 春分の日 | 21 | |
| 22 | 木 3 | 土 | 火 10 | 木 海の日 | 日 | 水 | 22 | 金 4 | 月 9 | 水 12 | 土 | 火 | 火 | 22 | |
| 23 | 金 3 | 日 | 水 10 | 金 スポーツの日 | 月 | 木 | 23 | 土 | 火 勤労感謝の日 | 木 13 | 日 | 水 天皇誕生日 | 水 | 23 | |
| 24 | 土 | 月 6 | 木 11 | 土 | 火 | 金 | 24 | 日 | 水 8 | 金 補講日 | 月 15 | 木 | 木 | 24 | |
| 25 | 日 | 火 6 | 金 11 | 日 | 水 | 土 | 25 | 月 5 | 木 9 | 土 冬季休業 (12/25~1/6) | 火 15 | 金 | 金 春季休業 (3/25~3/31) | 25 | |
| 26 | 月 3 | 水 6 | 土 | 月 15 | 木 | 日 | 26 | 火 5 | 金 9 | 日 | 水 15 後期授業終了 | 土 | 土 | 26 | |
| 27 | 火 3 | 木 | 7 開学記念日 (通常授業) | 火 15 | 金 | 月 | 27 | 水 5 | 土 | 月 | 木 | 日 | 日 | 27 | |
| 28 | 水 3 | 金 | 7 学生総会 | 水 15 | 土 | 火 | 28 | 木 5 | 日 | 火 | 金 | 月 | 月 | 28 | |
| 29 | 木 | 土 昭和の日 | 火 11 | 木 | 15 学部前期終了 | 日 | 29 | 金 5 | 月 10 | 水 | 土 | X | | 火 | 29 |
| 30 | 金 | 日 休講 | 水 11 | 金 | 15 大学院前期終了 | 月 | 30 | 土 | 火 9 | 木 | 日 | | | 水 | 水 |
| 31 | X | | 月 7 | X | | 土 | 31 | 日 | 火 9 | 金 | 月 | X | | 木 | 31 |

2021年度 博士前期課程 開設授業科目及び担当教員

| 授業科目の概要 | 授業科目の名称 | | 職名 | 担当教員 | 授業を行う年次 | 単位数 | |
|-----------|-------------------|--------------|--|--|---------|-----|----|
| | | | | | | 必修 | 選択 |
| | 経営学 情報学 科目群 | 経営学部門 | 経営学特論 | 教授 | 丑山 優 | 1・2 | |
| 日本経営史特論 | | | 非常勤講師 | 加来 祥男 | 1・2 | | 2 |
| 経営組織特論 | | | 非常勤講師 | 黄 在南 | 1・2 | | 2 |
| 財政学特論 | | | 非常勤講師 | 甘 長青 | 1・2 | | 2 |
| 財務管理特論 | | | 教授 | 丑山 優 | 1・2 | | 2 |
| 経営戦略特論 | | | 教授 | 遠藤 真紀 | 1・2 | | 2 |
| 労働経済特論 | | | 非常勤講師 | 今村 寛治 | 1・2 | | 2 |
| 国際経営特論 | | | 教授 | 小川 雄平 | 1・2 | | 2 |
| ロジスティクス特論 | | | 教授 | 小川 雄平 | 1・2 | | 2 |
| 経営科学特論 | | | 非常勤講師 | 福山 博文 | 1・2 | | 2 |
| 会計学部門 | | 会計情報学特論 | 教授 非常勤講師 | 津守 常弘 伊藤 龍峰 | 1・2 | | 2 |
| | | 会計監査特論 | 非常勤講師 | 伊藤 龍峰 | 1・2 | | 2 |
| | | 税務会計特論 | 教授 | 春日 克則 | 1・2 | | 2 |
| 税法学部門 | | 税法学特論I | 教授 | 丹羽 崇之 | 1・2 | | 2 |
| | | 税法学特論II | 教授 講師 | 倉地 和敏 宮崎 裕士 | 1・2 | | 2 |
| | | 税法学特論III | 教授 講師 | 倉地 和敏 宮崎 裕士 | 1・2 | | 2 |
| | | 税法学特論IV | 教授 | 丹羽 崇之 | 1・2 | | 2 |
| | | 民事・行政訴訟特論I | 教授 | 吉野 正 | 1・2 | | 2 |
| | | 民事・行政訴訟特論II | 教授 | 吉野 正 | 1・2 | | 2 |
| 情報学部門 | | 情報科学特論 | 教授 | 車 柄圮 | 1・2 | | 2 |
| | | 情報メディア特論 | 教授 | 麻生 隆史 | 1・2 | | 2 |
| | | 情報ネットワーク特論 | 非常勤講師 | 荒巻 富士夫 | 1・2 | | 2 |
| | | 情報セキュリティ特論 | 教授 | 車 柄圮 | 1・2 | | 2 |
| | | 経営情報システム設計特論 | 非常勤講師 | 岸川 洋 | 1・2 | | 2 |
| | | データベース特論 | 准教授 | 橋爪 善光 | 1・2 | | 2 |
| | | データ解析特論 | 講師 | 荒平 高章 | 1・2 | | 2 |
| | | 数値解析特論 | 准教授 | 橋爪 善光 | 1・2 | | 2 |
| | | 人工知能特論 | 講師 | 荒平 高章 | 1・2 | | 2 |
| 演習 | | 演習 I | 丑山 優 遠藤 真紀 津守 常弘 倉地 和敏 宮崎 裕士 麻生 隆史 橋爪 善光 | 小川 雄平 春日 克則 丹羽 崇之 車 柄圮 荒平 高章 | 1 | 4 | |
| | | 特別演習 I | 演習 I に同じ | | 1 | 4 | |
| | | 演習 II | 演習 I に同じ | | 2 | 4 | |
| | | 特別演習 II | 演習 I に同じ | | 2 | 4 | |

シラバス（授業計画）

| 授業科目名 | 開講学年 | 必・選 | 単位数 | 担当教員名 |
|---|-------|-----|-----|-------|
| 経営学特論 | 1・2年生 | 選択 | 2単位 | 丑山 優 |
| 授業の到達目標及びテーマ <ul style="list-style-type: none"> 現代の経営理論の潮流と、現代企業経営の基礎的な理解を深める。 到達目標は様々な経営理論がどのような歴史的背景の中から成立してきたのかを理解すること。 | | | | |
| 授業の概要 各授業毎におけるコンセプトの理解を構造および機能の両面から捉えられるように訓練する。 | | | | |
| 授業計画 第1回 はじめに 第2回 コーポレート・ガバナンスの問題状況 第3回 現代企業の株式所有構造と支配構造（1） 第4回 現代企業の株式所有構造と支配構造（2） 第5回 現代企業の株式所有とトップ・マネジメント（1） 第6回 現代企業の株式所有とトップ・マネジメント（2） 第7回 メインバンクの経営モニタリング機能 第8回 企業のガバナンス構造とマネジメント構造（1） 第9回 企業のガバナンス構造とマネジメント構造（2） 第10回 機関投資家行動とコーポレート・ガバナンス（1） 第11回 機関投資家行動とコーポレート・ガバナンス（2） 第12回 企業の文化デザインとガバナンス（1） 第13回 企業の文化デザインとガバナンス（2） 第14回 トップ・マネジメントの正当性と行動規範 第15回 中国のコーポレート・ガバナンス 第16回 レポート作成 | | | | |
| 履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習） （事前）配布する資料および授業に関する内容については、参考文献などで必ず確認しておくこと。（2h） 講義中に質疑・討論をおこなう。 （事後）授業でおこなったことを、必ず復習して積み上げること。（2h） | | | | |
| テキスト 適宜資料を配布したり、参考文献の箇所を指定したりしておこなう。 | | | | |
| 参考書・参考文献・参考資料等 植竹晃久編要説「現代企業の所有・支配・管理」（ミネルヴァ書房） 片岡信之他「経営学」（文眞堂） JC アベグレン「新日本の経営」（日経） 大坪稔「日本企業のグループ再編」（中央経済社） | | | | |
| 成績評価の方法・基準 授業中の質疑・報告、レポートによる総合評価 | | | | |

シラバス（授業計画）

| 授業科目名 | 開講学年 | 必・選 | 単位数 | 担当教員名 |
|---|-------|-----|-----|-------|
| 日本経営史特論 | 1・2年生 | 選択 | 2単位 | 加来 祥男 |
| 授業の到達目標及びテーマ 形成期から今日に至る日本企業の発展とその特質を明らかにすることを目標とする。しかし、それにとどまらず、より一般的に企業とその発展全体像を把握する枠組みを構想できるようにしたい。 | | | | |
| 授業の概要 形成期から今日までを見通しながら、日本企業の発展とその特質について考察する。とくに第2次世界大戦後の高度成長期に重点がおかれる。 | | | | |
| 授業計画 第1回 講義のはじめに一構成と狙い 第2回 資本主義の発展と企業 第3回 企業システム把握の枠組み 第4回 日本における資本主義企業の形成 第5回 形成期日本企業の特質と類型（1） 第6回 形成期日本企業の特質と類型（2） 第7回 産業構造の高度化と巨大企業の生成 第8回 戦時経済 第9回 戦後改革 第10回 高度成長の時代 第11回 高度成長期の産業と企業（1） 第12回 高度成長期の産業と企業（2） 第13回 日本的生産システム 第14回 日本的雇用システム 第15回 法人資本主義 第16回 定期試験等 | | | | |
| 履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習） 授業では第2次世界大戦後の日本経済の高度成長を担った企業のシステムを理解することに重点がおかれるが、他の国や他の時代についても理解できるような視野の広さを養って欲しい。そのために、基本的なことがらを正確に把握することが必要である。毎時限で扱われる内容を事後的に反芻すること（2h）、次回の授業で扱われる内容を予想し、実際との異同を確認してみること（2h）が望ましい。 | | | | |
| テキスト さしあたり、宮本又郎他『日本経営史』、新版、有斐閣、2007年、をあげておく。 （変更する可能性あり） | | | | |
| 参考書・参考文献・参考資料等 香西泰『高度成長の時代』、日経ビジネス人文庫、2001年 田村正紀『消費者の歴史』、千倉書房、2011年 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 レポート。ただし、平素の講義への参加態度も重視する。 | | | | |

シラバス（授業計画）

| 授業科目名 | 開講学年 | 必・選 | 単位数 | 担当教員名 |
|--|-------|-----|-----|-------|
| 経営組織特論 | 1・2年生 | 選択 | 2単位 | 黄 在南 |
| 授業の到達目標及びテーマ 企業の競争優位をもたらす組織のインタンジブル（見えざる資産）をどう構築するかを考える。 | | | | |
| 授業の概要 本授業では、組織でリーダーがインタンジブルをどのように構築すればいいかについて考える。なぜなら、昨今、企業の競争優位と組織のインタンジブルとの関連性が注目を浴びているからである。したがって、話はかなり実践的である。とはいえ、大学院の授業であることを考え、実践的な事例に対して、事例の紹介だけに終わらず、組織論の範疇（組織行動論、組織論など）の中で理論的な解釈を加える。 各回では、インタンジブルの構造を構成する要素を提示し、それが今までどのように利用されてきたかという事例と、リーダーがインタンジブルを実現できるようにするためのツールを示す。すなわち、本授業では、インタンジブルを築き上げるためにリーダーにできること、またリーダーがすべきことを紹介することに注力する。なお、その過程の中で、学問的な研究の対象になりうる研究課題に対して、初期的な考察も行う。 | | | | |
| 授業計画 第 1 回 オリエンテーション：組織について学ぶこととは。 第 2 回 形のないインタンジブル 第 3 回 信用を築く 第 4 回 成長のための戦略を立てる（1） 第 5 回 成長のための戦略を立てる（2） 第 6 回 コア・コンピテンシーを構築する（1） 第 7 回 コア・コンピテンシーを構築する（2） 第 8 回 人材を育成する（1） 第 9 回 人材を育成する（2） 第 10 回 シェアド・マインドを作り出す 第 11 回 学習力を高める 第 12 回 説明責任を持つ 第 13 回 コラボレーションを実現する 第 14 回 リーダーシップ・ブランドを確立する（1） 第 15 回 リーダーシップ・ブランドを確立する（2） | | | | |
| 履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習） （事前）配布する資料および授業に関係する内容については、教科書などで必ず確認しておくこと。 講義中に質疑・討論をおこなう。 （事後）授業でおこなったことを、必ず復習して積み上げる事。 各回、少なくとも、1～2時間程度の事前・事後学習が必要である。 | | | | |
| テキスト ダイブ・ウルリッチ ノーム・スモールウッド（著）淡川桂子（訳）伊藤邦雄（監訳）『インタンジブル経営——競争優位をもたらす「見えざる資産」構築法』株式会社ランダムハウス講談社、2004年。 ISBN:4-270-00017-1 | | | | |
| 参考書・参考文献・参考資料等 適宜、紹介する。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 平常点：授業参加・役割履行(プレゼンテーション)、等・・・100% | | | | |

シラバス（授業計画）

| 授業科目名 | 開講学年 | 必・選 | 単位数 | 担当教員名 |
|---|-------|-----|-----|-------|
| 財政学特論 | 1・2年生 | 選択 | 2単位 | 甘 長青 |
| 授業の到達目標及びテーマ 財政学の基礎理論を理解し、日本の財政の現状と問題、そしてそれらを巡る改革の方向性等について自分の言葉で説明・議論できる。 | | | | |
| 授業の概要 財政学の一般知識、国の財政制度等を解説する。国・地方の財政の仕組みが毎年のように変わる中で、逐一フォローするのではなく、核心的な部分を把握し、大局的な見地から財政システムを解明する。 | | | | |
| 授業計画 第 1 回 財政学への旅立ち（テキスト第 1 章） 第 2 回 財政と三つのサブシステム（テキスト第 2 章） 第 3 回 財政学の生成；財政学の展開（テキスト第 3～4 章） 第 4 回 現代財政学の諸潮流（テキスト第 5 章） 第 5 回 財政のコントロール・システムとしての予算；予算の原則（テキスト第 6～7 章） 第 6 回 予算制度の構造と機能；予算過程の論理と実態；予算改革（テキスト第 8～10 章） 第 7 回 租税原則（テキスト第 11 章） 第 8 回 租税の分類と体系（テキスト第 12 章） 第 9 回 法人税の仕組みと実態（テキスト第 13 章） 第 10 回 生産物市場税の仕組みと実態（テキスト第 14 章） 第 11 回 要素市場税の仕組みと実態（テキスト第 15 章） 第 12 回 オプションとしての公債と公債原則（テキスト第 16 章） 第 13 回 貨幣支出としてのアウトプット；公共サービスの供給としてのアウトプット、 三つのサブシステムと公共支出（テキスト第 17～19 章） 第 14 回 地方財政と中央財政；地方財政の理論と実際（テキスト第 20～21 章） 第 15 回 政府としての社会保障基金；公企業と財政投融资；財政の過去から未来へ （テキスト第 22～終章） 第 16 回 定期試験等 | | | | |
| 履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習） 財政学は現代経済学の基礎であるミクロ経済学とマクロ経済学の上に成り立つ応用科目なので、この二つの科目を既に履修したうえでの受講が望まれる。 なお、授業計画は、教室での講義と受講生の自習から構成される。1 回の講義時間に対してその 2～3 倍程度の自習時間を目安として組み立てている。講義ではテキストに沿って、基礎的な理論を解説しながら日本の財政制度、実態について話す。自習では、講義の予習（2h）と復習（2h）、各単元の終了後に出される課題やレポートに取り組んでもらう。 | | | | |
| テキスト 神野直彦『財政学 改訂版』有斐閣、2007年4月 | | | | |
| 参考書・参考文献・参考資料等 『図説 日本の財政（令和 2 年度版）』、財経詳報社、2021 年 1 月 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 受講態度、課題の提出状況を踏まえて総合的に評価する。 | | | | |

シラバス（授業計画）

| 授業科目名 | 開講学年 | 必・選 | 単位数 | 担当教員名 |
|--|-------|-----|-----|-------|
| 財務管理特論 | 1・2年生 | 選択 | 2単位 | 丑山 優 |
| <p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> 現代企業の財務政策手法はめまぐるしく変化している。それらがどのような背景をもって変化してきているかを理解する。 到達目標は、個々の財務手法の論理・計量分析が出来るようにする。 | | | | |
| <p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 各授業毎に採り上げるテーマの構造的および計量的分析の訓練をおこなう。 学部レベルの金融・投資分析を所与のものとしておこなう。 | | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回 はじめに</p> <p>第2回 グローバリゼーションによる日本企業の構造転換（1）個別企業集団と連結財務制度</p> <p>第3回 グローバリゼーションによる日本企業の構造転換（2）国際会計基準と時価主義</p> <p>第4回 メインバンク・システムの展開と変遷</p> <p>第5回 持株会社と資金配分（1）その歴史的経緯</p> <p>第6回 持株会社と資金配分（2）その機能</p> <p>第7回 投資決定行動（1）ROE動向</p> <p>第8回 投資決定行動（2）EVA分析</p> <p>第9回 自己資本の制度的分析（1）その概念</p> <p>第10回 自己資本の制度的分析（2）商法改定と資本充実問題</p> <p>第11回 企業年金とファイナンス（1）年金制度の態様</p> <p>第12回 企業年金とファイナンス（2）企業資本への影響</p> <p>第13回 企業金融の制度的変遷（1）制度改革</p> <p>第14回 企業金融の制度的変遷（2）金融デリバティブ</p> <p>第15回 講義のまとめ</p> <p>第16回 レポート作成</p> | | | | |
| <p>履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習）</p> <p>（事前）各授業毎の内容を予め参考書、財務・金融辞典などで調べておく。（2時間）</p> <p>（事後）各事業毎でおこなった内容・計量などを必ず復習しておくこと。（2時間）</p> | | | | |
| <p>テキスト</p> <p>「グロービスMBAファイナンス」（ダイヤモンド社）を中心におこなうが、その他の参考文献も抜粋、コピーしながら使用する。</p> | | | | |
| <p>参考書・参考文献・参考資料等</p> <ul style="list-style-type: none"> 榑原茂樹他「現代の財務管理」（有斐閣アルマ） 丑山優他「現代企業の財務戦略」（ミネルヴァ書房） 森直哉「図解コーポレート・ファイナンス」（創成社）他 | | | | |
| <p>成績評価の方法・基準</p> <p>授業中の質議・応答、レポートなどによって総合評価する。</p> | | | | |

シラバス（授業計画）

| 授業科目名 | 開講学年 | 必・選 | 単位数 | 担当教員名 |
|--|-------|-----|-----|-------|
| 経営戦略特論 | 1・2年生 | 選択 | 2単位 | 遠藤 真紀 |
| <p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>現代企業の経営における戦略の意義や必要性および主な経営戦略理論（分析型・プロセス型経営戦略、ドメイン、製品・市場戦略、経営資源、競争戦略等）について理解していること。具体的には、企業の経営戦略等が理解でき、自身の自律的・自発的な行動への判断基準が持てるようになること。また例えば、企業物とよばれる小説またはビジネス雑誌・書籍等の理解が促進されるようになること。</p> | | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>経営戦略に関するこれまでの理論を体系的に理解すると共に、その理論の背景や意義等について考察します。このため、経営戦略論の基本的テキストを基に、現代の戦略論がどのように形成されてきたのか、そのプロセスについても考察していきます。また現代企業の経営戦略が、情報システムやネットワークおよびwebビジネス等との関わりで進化していることから、この点についても検討していきます。</p> | | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回 経営戦略とは</p> <p>第2回 経営戦略の基本 ①ミッション</p> <p>第3回 経営戦略の基本 ②ドメイン</p> <p>第4回 経営戦略の基本 ③環境・資源分析</p> <p>第5回 事例演習：ケーススタディ①</p> <p>第6回 成長戦略 ①成長ベクトル</p> <p>第7回 成長戦略 ②多角化</p> <p>第8回 成長戦略 ③ポートフォリオ・マネジメント</p> <p>第9回 成長戦略 ④成長戦略の展開</p> <p>第10回 事例演習：ケーススタディ②</p> <p>第11回 競争戦略 ①業界の競争分析</p> <p>第12回 競争戦略 ②競争の基本戦略</p> <p>第13回 競争戦略 ③バリュー・チェーン</p> <p>第14回 競争戦略 ④競争戦略の展開</p> <p>第15回 経営戦略の実行と評価</p> <p>第16回 まとめとレポート作成等</p> | | | | |
| <p>履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習）</p> <p>学部等において、経営学関連科目（経営管理論、マーケティング論、会計学等）を履修しておくことが望ましい。授業の前にはテキスト等を読み情報収集をして、担当した課題を発表するための準備をしておくこと。授業の後には、実際の事例などの関連情報をあたり、理解を深める努力を行うこと。（毎回4.0h）</p> | | | | |
| <p>テキスト</p> <p>岸川善光『経営戦略要論』同文館または井上善海ほか『経営戦略入門』中央経済社など</p> | | | | |
| <p>参考書・参考文献・参考資料等</p> <p>岸川善光ほか『ケースブック経営管理要論』同文館</p> <p>井上善海・佐久間信夫『よくわかる経営戦略論』ミネルヴァ書房</p> | | | | |
| <p>成績評価の方法・基準</p> <p>授業への積極的な参加および授業中の報告・発表、質疑・応答および提出したレポート等を総合的に評価する。</p> | | | | |

シラバス（授業計画）

| 授業科目名 | 開講学年 | 必・選 | 単位数 | 担当教員名 |
|--|-------|-----|-----|-------|
| 労働経済特論 | 1・2年生 | 選択 | 2単位 | 今村 寛治 |
| <p>授業の到達目標及びテーマ 労働力の効率的利用を目的とする労務管理の具体的展開をテーマとし、現代社会と労働を実践的な視点からイメージできるようになることが、この講義の到達目標である。</p> | | | | |
| <p>授業の概要 労働力の効率的利用を一義的な目標とする労務管理も、当然のことながら時代とともに変化する。講義では、バブル崩壊後の不況、IT 革命、グローバル化、少子高齢化の進展といった環境変化によって、近年大々的な変化をみせている日本の労務管理の実像を探る。</p> | | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回 労務管理とは何か</p> <p>第2回 雇用</p> <p>第3回 採用配置</p> <p>第4回 キャリア開発</p> <p>第5回 人事評価</p> <p>第6回 昇進・昇格</p> <p>第7回 賃金</p> <p>第8回 退職</p> <p>第9回 労使関係</p> <p>第10回 労働時間</p> <p>第11回 勤務場所</p> <p>第12回 高齢者雇用</p> <p>第13回 女性労働</p> <p>第14回 ディーセントワーク</p> <p>第15回 全体のまとめ</p> <p>第16回 定期試験等</p> | | | | |
| <p>履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習） （留意点）労務管理の専門用語を理解すること。 （準備学習） 事前：テキストを事前に読み、ポイントをまとめてくること（2時間） 事後：専門用語を簡単に説明できるかを確認すること（2時間）</p> | | | | |
| <p>テキスト 書名：経験から学ぶ人的資源管理 [新版] 著者：上林憲雄・厨子直之・森田雅也 発行所：有斐閣</p> | | | | |
| <p>参考書・参考文献・参考資料等 適宜指示する</p> | | | | |
| <p>成績評価の方法・基準 出席状況や報告内容等を総合的に評価する。</p> | | | | |

シラバス（授業計画）

| 授業科目名 | 開講学年 | 必・選 | 単位数 | 担当教員名 |
|--|-------|-----|-----|-------|
| 国際経営特論 | 1・2年生 | 選択 | 2単位 | 小川 雄平 |
| <p>授業の到達目標及びテーマ 著しくグローバル化した世界経済の実情について理解を深め、これに対応する企業の国際経営戦略上の課題を明らかにすることを目標とする。なお、授業を通して修士論文の作成にも役立てることを目指す。</p> | | | | |
| <p>授業の概要 日本企業の海外進出の進展とそれに伴う企業内貿易の展開や部品調達網の構築等の現状について解説し、為替レートの変動や急増する FTA 等国際経済環境に対応した企業経営の在り方を検討する。新聞報道から具体的な事例を取り上げてケーススタディを行う。</p> | | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 日本的経営、日本企業の対外進出と空洞化</p> <p>第3回 企業経営の国際化Ⅰ：対米貿易摩擦・円高と輸出企業による生産基地の移転、</p> <p>第4回 企業経営の国際化Ⅱ：製造業企業による国際部品供給網の構築と国際分業の深化</p> <p>第5回 企業経営の国際化Ⅲ：対米貿易摩擦・生産コストの上昇と生産基地の再移転、</p> <p>第6回 企業経営の国際化Ⅳ：中間層の増大=消費市場としてのアジア、企業の現地化と M&A</p> <p>第7回 企業経営の国際化Ⅴ：国際物流の進展とサプライチェーンマネジメント</p> <p>第8回 小括と討論</p> <p>第9回 貿易取引・決済の実際と外国為替の原理</p> <p>第10回 企業内貿易の実態Ⅰ：企業の多国籍化と企業内取引の実際</p> <p>第11回 企業内貿易の実態Ⅱ：タックス・ヘイブン(租税回避地)と移転価格税制</p> <p>第12回 小括と討論</p> <p>第13回 FTA と企業経営Ⅰ：日本の関税と FTA・EPA 戦略</p> <p>第14回 FTA と企業経営Ⅱ：メガ FTA (TPP11・EU 日・RCEP) と企業経営</p> <p>第15回 小括と討論</p> <p>第16回 まとめ</p> | | | | |
| <p>履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習） 事前学習：テキストの該当箇所及びプリントに目を通して疑問点を明確にしておくこと。(2.0h) 事後学習：講義内容の復習と授業中に指示された課題に取り組むこと。(2.0h)</p> | | | | |
| <p>テキスト 小川雄平・猿渡剛編著『国際ビジネス論を学ぶ』中央経済社、2,500円（ISBN978-4-502-35761-9） 吉原英樹著『国際経営』第4版、有斐閣、2,000円（ISBN978-4-641-22064-5） テキストの他にプリントも準備する。</p> | | | | |
| <p>参考書・参考文献・参考資料等 授業中に適宜指示する。</p> | | | | |
| <p>成績評価の方法・基準 成績は、授業への取り組み（70%）とレポート（30%）で評価する。</p> | | | | |

シラバス（授業計画）

| 授業科目名 | 開講学年・学期 | 必・選 | 単位数 | 担当教員名 |
|--|---------|-----|-----|-------|
| ロジスティクス特論 | 1・2年生 | 選択 | 2単位 | 小川 雄平 |
| 授業の到達目標及びテーマ 企業の原料調達から生産・製品販売に至るまでの物流・管理の現状について理解を深め、その課題を明らかにすることを目標とする。なお、授業を通して修士論文の作成にも役立てることを目指す。 | | | | |
| 授業の概要 ロジスティクス（Logistics）とは、元来は軍隊の兵站を意味したが、企業の部品・原料調達から生産・製品販売までの物流過程とその管理を指すようになった。経済のグローバル化に伴い企業の部品調達網（サプライチェーン）は、アジアを巻き込んで重層化・複雑化している。本講義では、主に NIE s ・ ASEAN ・中国等の東アジア経済との関連で企業の物流過程を解明し、新聞報道の事例等も取り上げて詳細に解説する。 | | | | |
| 授業計画 第1回 オリエンテーション 第2回 生産の国際化・国際分業の重層化と企業内貿易 第3回 貿易摩擦・円高と日本企業の生産・輸出基地の移転・再移転 第4回 NIE s ・ ASEAN ・中国の経済発展とサプライチェーンの構築 第5回 自動車産業に見る FTA 利用のサプライチェーン 第6回 小括と討論 第7回 輸送量の増大・効率化とコンテナリゼーション 第8回 コンテナ船の大型化と海運業の国際アライアンス 第9回 パナマ運河の拡張とパナマックス型コンテナ船・大型タンカー輸送 第10回 東アジアの港間競争の激化と中国港湾の躍進 第11回 日本企業のグローバル化と国際物流の変化 第12回 地方港湾の国際化=釜山港のハブ化と5大港湾の地位低下 第13回 小括と討論 第14回 東アジアの地域経済協力と物流協力体 第15回 シベリア鉄道・中欧班列・朝鮮半島南北間鉄道・日韓トンネル 第16回 まとめ | | | | |
| 履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習） 事前学習：配布プリントに目を通して疑問点を明らかにしておくこと。（2.0h） 事後学習：講義内容の復習と授業中に指示された課題に取り組むこと。（2.0h） | | | | |
| テキスト 苦瀬博仁編著『ロジスティクス概論』白桃書房、2,800円（ISBN978-4-561-75200-4） テキストに加え、プリントも準備する。 | | | | |
| 参考書・参考資料等 授業中に指示する。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 成績は、授業への取り組み（70%）とレポート（30%）により評価する。 | | | | |

シラバス（授業計画）

| 授業科目名 | 開講学年 | 必・選 | 単位数 | 担当教員名 |
|---|-------|-----|-----|-------|
| 経営科学特論 | 1・2年生 | 選択 | 2単位 | 福山 博文 |
| 授業の到達目標及びテーマ データ包絡分析法を学び、それを実践的に適用する能力の習得を目指します。 | | | | |
| 授業の概要 今日のような複雑な情報社会においては、企業は市場の変動に対処し、社会のニーズに応えるため、柔軟かつ迅速に意思決定をすることが求められています。もはや、勘や経験に頼ってでは対処できない時代になっているのです。複雑に激しく変化する状況に瞬時に対応するためには、収集したデータをコンピュータを用いた科学的な方法により、意思決定を行う必要があります。そこで経営科学特論では、企業や組織体などの効率性を評価して経営に役立てることができる包絡分析法を学びます。 | | | | |
| 授業計画 第1回 オリエンテーション（授業の概要を説明します。） 第2回 線形計画法モデル1（数学的準備をします。） 第3回 線形計画法モデル2（数学的準備をします。） 第4回 ソルバーの使い方（Excel ソルバーについて学びます。） 第5回 データ包絡分析法1（パフォーマンスの評価について学びます。） 第6回 データ包絡分析法2（パフォーマンスの評価について学びます。） 第7回 データ包絡分析法3（パフォーマンスの評価について学びます。） 第8回 効率比と乗数モデル1（効率比について学びます。） 第9回 効率比と乗数モデル2（効率比について学びます。） 第10回 効率比と乗数モデル3（効率比について学びます。） 第11回 DEA双対モデル1（規模の収穫一定モデルを学びます。） 第12回 DEA双対モデル2（規模の収穫一定モデルを学びます。） 第13回 DEA双対モデル3（規模の収穫可変モデルを学びます。） 第14回 スラック基準型モデル1（非比例型DEAモデルを学びます。） 第15回 スラック基準型モデル2（非比例型DEAモデルを学びます。） 第16回 経営科学のまとめと提出課題について | | | | |
| 履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習） ・EXCELの基本的操作を習得していることを前提に講義を進めます。 ・報告担当者は、配布用レジュメを作成すること。 ・次回の授業範囲を十分に予習し、講義に臨むこと。 ・事前に配布された資料がある場合には、熟読して講義に臨むこと。（2.0h） ・事後学習として受講ノートを作成すること。（2.0h） | | | | |
| テキスト Wade D. Cook and Joe Zhu（森田浩 訳）『データ包絡分析法 DEA』静岡学術出版 ISBN978-4-86474030-2 注：発行予定の教科書が講義に間に合えば、この教科書を使用します。 | | | | |
| 参考書・参考資料等 ● 刀根薫『経営効率性の測定と改善—包絡分析法 DEA による』日科技連出版社、1993、ISBN978-4817150226 ● K. Tone (ed.) Advances in DEA Theory and Applications: with Examples in Forecasting Models, Wiley, 2017. ISBN: 978-1-118-94562-9 ● Shiu-Nan Hwang, Hsuan-Shih Lee and Joe Zhu (eds.) Handbook of Operations Analytics Using Data Envelopment Analysis, Springer, 2016. ISBN 978-1-4899-7705-2 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 方法：課題レポートの評価（50%）、発表・プレゼンテーションの評価（50%） 基準：学んだ数理モデルを理解して、実証研究ができるようになる。 | | | | |

シラバス（授業計画）

| 授業科目名 | 開講学年 | 必・選 | 単位数 | 担当教員名 |
|---|-------|-----|-----|-------|
| 会計情報学特論 | 1・2年生 | 選択 | 2単位 | 伊藤 龍峰 |
| 授業の到達目標及びテーマ 到達目標：会計情報作成・開示に関する理論的・制度的知識の習得 テーマ：現代会計基準に関する主要論点の研究 | | | | |
| 授業の概要 現在、会計のグローバル化が進展し、現代経済社会を生きる私たちにとって、会計知識の習得は必須の要件となっている。この講義では、会計制度の変化と会計情報の新しい特徴を正確に理解し、企業の会計政策の決定と会計情報の分析とを行う能力を養うための専門知識を身に付けることを目的として、会計基準および概念フレームワークの主要な論点について体系的に説明し、討論する。 | | | | |
| 授業計画 第1回 会計を取り巻く環境と会計情報の意義・役割 第2回 会計情報作成・開示の仕組み－技術的な観点から 第3回 会計情報作成・開示の仕組み－理論的な観点から 第4回 企業会計制度について－会社法会計・金融商品取引法会計・税務会計 第5回 「財務会計概念フレームワーク」－収益・費用中心観と資産・負債中心観 第6回 資産会計－意義・分類・評価基準 第7回 資産会計－流動資産・固定資産・繰延資産 第8回 負債会計－意義・分類・負債性引当金 第9回 負債会計－流動負債・固定負債・負債の表示 第10回 資本金会計－意義・分類・純資産・資本金 第11回 資本金会計－資本剰余金・利益剰余金・自己株式・ 第12回 損益会計－意義・分類・諸原則 第13回 損益会計－営業収益・営業費用・営業外損益・特別損益・法人税等 第14回 包括利益と純利益 第15回 まとめ 第16回 定期試験等（課題研究レポートの提出） | | | | |
| 履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習） (留意点)簿記・会計に関する基本的な知識を有していること。 (事前学習)毎回、次回の報告予定者を指名しますが、報告予定者だけでなく、受講者全員が次回の学習領域について事前にテキストを読み、疑問点や質問事項等を整理した上で授業に参加してください。(1～2時間程度) (事後学習)講義中に理解したことを纏め、疑問点や質問事項等が解決したかどうかを確認してください。その後、授業内容に関する深掘りを行い、自分のものにしてください。(1～2時間程度) | | | | |
| テキスト 『新版 現代会計学<第3版>』新井清光・川村義則 著 中央経済社 | | | | |
| 参考書・参考文献・参考資料など (1)津守 常弘 著『会計基準形成の論理』森山書店、2002年。 (2)斎藤静稀・徳賀芳弘責任編集『企業会計の基礎概念』『体系現代会計学Ⅰ』中央経済社、2011年。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 定期試験の結果と課題研究レポートの内容(60%)、授業での報告内容や討議への参加状況(40%)を総合的に判断して評価します。 | | | | |

シラバス（授業計画）

| 授業科目名 | 開講学年 | 必・選 | 単位数 | 担当教員名 |
|---|-------|-----|-----|-------|
| 会計監査特論 | 1・2年生 | 選択 | 2単位 | 伊藤 龍峰 |
| 授業の到達目標及びテーマ 到達目標：財務諸表監査の社会的役割の理解と理論的・制度的な専門知識の習得 テーマ：財務諸表監査における枠組みと主要論点の研究 | | | | |
| 授業の概要 私たちは社会生活を営むかぎり、各種の組織や団体等と無関係ではありえません。このような組織や団体等では、必ず誰かが会計報告を作成し、また誰かがその会計報告を監査しているのです。これまで一部の人間を除いて、監査に対しては比較的無関心であったと言えるでしょう。ただ、監査は身近なところにあり、直接・間接に私たちと深い関わりを持って存在しています。とりわけ、企業と利害関係を持つ場合、企業が公表する財務諸表は、私たちと企業とを結ぶ重要な連結環であり、そのため、財務諸表が信頼できるものであるという保証があつてこそ、私たちは安心して財務諸表を利用することができることとなります。監査は、このような財務諸表の信頼性の保証に大きな役割を果たします。 会計監査特論では、公認会計士や監査法人による財務諸表の監査の役割を意識しながら講義を展開していきます。 | | | | |
| 授業計画 第1回 オリエンテーション 第2回 監査の必要性和法定監査制度 第3回 監査全体の流れ 第4回 監査基準 第5回 リスク・アプローチ監査 第6回 内部統制 第7回 監査計画 第8回 監査の実施 第9回 監査結果の報告 第10回 監査の品質管理 第11回 監査をめぐる国際的な動向 第12回 内部統制監査 第13回 公監査 第14回 財務諸表監査の周辺業務 第15回 まとめ 第16回 定期試験等（課題研究レポート） | | | | |
| 履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習） (留意点)簿記や会計学に関する学部レベルの知識を有していること。 (事前学習)毎回、次回の報告予定者を指名しますが、報告予定者ばかりではなく、受講者全員が次回の学習領域について事前にテキストを読み、疑問点や質問事項等を整理した上で授業に参加してください。(1～2時間程度) (事後学習)講義中に理解したことを纏め、疑問点や質問事項等が解決したかどうかを確認してください。その後、授業内容に関する深掘りを行い、自分のものにしてください。(1～2時間程度) | | | | |
| テキスト 『監査論入門 第4版』長吉眞一、伊藤龍峰、北山久恵 井上善弘、岸牧人、異島須賀子 著 中央経済社 | | | | |
| 参考書・参考文献・参考資料等 適宜、資料配布を行うとともに、参考書についても具体的に指示します。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 定期試験の結果と課題研究レポートの内容(60%)、授業での報告内容や討議への参加状況(40%)を総合的に判断して評価します。 | | | | |

シラバス（授業計画）

| 授業科目名 | 開講学年 | 必・選 | 単位数 | 担当教員名 |
|---|-------|-----|-----|-------|
| 税務会計特論 | 1・2年生 | 選択 | 2単位 | 春日 克則 |
| <p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>事例を研究することで、税務会計が課税所得計算の領域において、どのような特徴を有しているかを探るものである。税務会計は、企業会計、租税法、商法・会社法と密接に関連している。そこで、税務会計がこれらの学問領域に還元される単なる技法なのか、それとも独自の所得計算構造を有しているのか（有しているならその内容）について、事例（判例）研究を通じて、具体的に理解することを目標としている。</p> | | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>税務会計は、単なる所得計算のためのパッチワーク的な技法であるのか、あるいは企業会計や租税法という隣接する諸領域とは異なる独自の理論体系を有するものなのかについて、非営利法人の収益事業を含む事例研究を通じて明らかにして行く。</p> | | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 会計学との関わりから税務会計の特質を考える</p> <p>第3回 「企業会計原則」と税務会計との関係</p> <p>第4回 事例研究「リースの税務処理（福岡地裁）」「商品券の税務処理（名古屋地裁）」</p> <p>第5回 事例研究「大竹貿易事件」</p> <p>第6回 事例研究「オリックス銀行事件」</p> <p>第7回 事例研究「ビックカメラ事件」</p> <p>第8回 税務会計と企業会計との境界線</p> <p>第9回 事例研究「レーシングカー事件」「ホステス源泉徴収事件」「武富士事件」</p> <p>第10回 事例研究「治験事件」「流山事件」</p> <p>第11回 事例研究「ペット葬祭事件」</p> <p>第12回 法人区分と「所得の金額」の計算</p> <p>第13回 独立行政法人と公益法人の会計基準</p> <p>第14回 非営利法人の資本概念</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>第16回 試験等</p> | | | | |
| <p>履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習）</p> <p>（留意点）学部レベルの財務会計（会計学）の知識を有すること。</p> <p>（準備学習）</p> <p>事前：毎回、事前に資料を配付するので当該資料を学習すること。必要であれば、参考書で補いながら疑問点を整理して授業に臨むこと。（各回2時間）</p> <p>事後：ほとんどの事例が、最高裁まで争われた事件であるので、講義中はポイントのみを検討することになる。そこで、地裁、高裁を含む判決の全文を判読することにより、さらに理解が深まる。（各回2時間）</p> | | | | |
| <p>テキスト</p> <p>事前にプリントを配布する。</p> | | | | |
| <p>参考書・参考文献・参考資料等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中里実他編『租税判例百選[第6版]』有斐閣 ・金子宏『租税法』弘文堂 ・富岡幸雄『税務会計学原理』中央大学出版部 ・中里実『金融取引と課税』有斐閣 | | | | |
| <p>成績評価の方法・基準</p> <p>課題50%と試験50%の結果による評価で、60%以上を合格とする。</p> | | | | |

シラバス（授業計画）

| 授業科目名 | 開講学年 | 必・選 | 単位数 | 担当教員名 |
|---|-------|-----|-----|-------|
| 税法特論Ⅰ | 1・2年生 | 選択 | 2単位 | 丹羽 崇之 |
| <p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>租税法総論について学ぶ。報告、討論及びレポート作成等により、租税法の知識、考え方を身に付ける。</p> | | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>授業の該当テーマについて、金子宏『租税法〔第23版〕』を精読し、法令、判例、学説等の理解を深める。各テーマについてかなり速いスピードで授業が進められる。授業1回当たりのボリュームも多いため、相当の準備が不可欠である。</p> | | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回 租税の意義</p> <p>第2回 租税法の意義と特質</p> <p>第3回 わが国における租税制度の発達</p> <p>第4回 租税法の法源と効力</p> <p>第5回 租税法の基本原則(1) 租税法律主義</p> <p>第6回 租税法の基本原則(2) 租税公平主義、自主財政主義</p> <p>第7回 租税法の解釈と適用</p> <p>第8回 課税要件総論(1) 納税義務者</p> <p>第9回 課税要件総論(2) 課税物件、課税標準、税率</p> <p>第10回 納税義務の成立・承継及び消滅</p> <p>第11回 附帯税、納税者の債権</p> <p>第12回 租税手続法序説、租税確定手続(1) 確定の方式</p> <p>第13回 租税確定手続(2) 申告納税方式、更正の請求、更正・決定</p> <p>第14回 租税確定手続(3) 推計課税、賦課課税方式、確定権の除斥期間、質問検査権</p> <p>第15回 まとめ</p> | | | | |
| <p>履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習）</p> <p>憲法、行政法、民法、会社法等の知識が必要である。</p> <p>各回4～8時間程度の事前・事後学習を求める。</p> | | | | |
| <p>テキスト</p> <p>金子宏『租税法〔第23版〕』（弘文堂）</p> <p>『実務税法六法』（新日本法規出版）または『税務六法』（ぎょうせい）</p> <p>中里実他編『租税判例百選〔第6版〕』別冊ジュリスト（有斐閣）</p> | | | | |
| <p>参考書・参考文献・参考資料等</p> <p>税務大学校講本『税法入門』『国税通則法（基礎編）』</p> <p>伊藤義一『税法の読み方 判例の見方〔改訂第3版〕』（TKC出版）</p> <p>佐伯仁志・大村敦志編『ポケット六法 令和3年版』（有斐閣）</p> <p>法令用語研究会『法律用語辞典〔第5版〕』（有斐閣）</p> | | | | |
| <p>成績評価の方法・基準</p> <p>授業への取り組み（事前・事後の学習、授業での発言等）、提出物等の結果を総合勘案して評価する。</p> | | | | |

シラバス（授業計画）

| 授業科目名 | 開講学年 | 必・選 | 単位数 | 担当教員名 |
|--|-------|-----|-----|-------|
| 税 法 学 特 論 II | 1・2年生 | 選択 | 2単位 | 倉地 和敏 |
| <p>授業の到達目標及びテーマ 法人税法の法令の条文を読解でき、具体的事例に適用できる能力を身に付ける。 法人税法の体系的知識を習得する。</p> | | | | |
| <p>授業の概要 授業の進め方は、研究生が司会班、説明・回答班、質問班の3班に分かれて討議を行う方式による。 そのため、講義範囲のテキストを事前に熟読し理解しておくことが不可欠である。 討議の内容や理解度に応じて、教授が質問・解説を行う。</p> | | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回 総説</p> <p>第2回 法人所得の意義と計算（総説①）</p> <p>第3回 法人所得の意義と計算（総説②）</p> <p>第4回 法人所得の意義と計算（益金の額の計算）</p> <p>第5回 法人所得の意義と計算（損金の額の計算；売上原価～役員給与等）</p> <p>第6回 法人所得の意義と計算（損金の額の計算；寄付金～圧縮記帳、交際費、使途秘匿金）</p> <p>第7回 法人所得の意義と計算（損金の額の計算；引当金～法人組合員の損失、法人税額の計算、公益法人等関係税制）</p> <p>第8回 グループ法人税制（完全支配関係法人税制、連結納税制度）</p> <p>第9回 法人組織税制①（総説、法人の設立、合併、分割）</p> <p>第10回 法人組織税制②（非適格合併等による資産等の受入の処理～組織再編に係る行為・計算の否認）</p> <p>第11回 同族会社と所得課税</p> <p>第12回 法人課税信託の所得に対する法人税、退職年金等積立金に対する法人税、多様な事業体と投資媒体</p> <p>第13回 国際取引と所得課税①（総説～移転価格税制）</p> <p>第14回 国際取引と所得課税②（過少資本税制～クロスボーダー企業組織再編と国際的租税回避）</p> <p>第15回 住民税、事業税、地方法人特別税</p> <p>第16回 定期試験等</p> | | | | |
| <p>履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習） 簿記・会計の知識が不可欠である。 税法の読み方の基本を、伊藤義一『税法の読み方判例の見方〔改訂第3版〕』（TKC出版）」によりマスターしておくこと。 授業範囲の税法・テキストを読解しておくこと。 各回、少なくとも、2時間程度の事前学習、2時間程度の事後学習が必要である。 特に、授業等で十分理解できなかった点は、事後学習で理解を深めること。</p> | | | | |
| <p>テキスト 『実務 税法六法（法令編・通達編）〔令和2年版〕』（新日本法規出版）、金子宏『租税法〔第23版〕』（弘文堂）、『スタンダード法人税法〔第2版〕』（弘文堂）、『法人税法（基礎編）〔令和2年度版〕』（税務大学校）、伊藤義一『税法の読み方判例の見方〔改訂第3版〕』（TKC出版）、中里実ほか『租税判例百選〔第6版〕』（有斐閣）</p> | | | | |
| <p>参考書・参考文献・参考資料等 『ポケット六法』（有斐閣）、中里実ほか『租税法概説』（有斐閣）、金子宏ほか『税法入門』（有斐閣）、山本守之『体系法人税法』（税務経理協会）、渡辺淑夫『法人税法』（中央経済社）、『税法用語辞典』（大蔵財務協会）、『図解による法律用語辞典』（自由国民社）、金子宏ほか『ケースブック租税法』（弘文堂）、『新版会計法規集』（中央経済社）、川田剛『租税法入門』（大蔵財務協会）</p> | | | | |
| <p>成績評価の方法・基準 授業への取組状況（事前・事後の学習状況等）、授業での発言状況、試験等の結果を総合勘案して評価する。</p> | | | | |

シラバス（授業計画）

| 授業科目名 | 開講学年 | 必・選 | 単位数 | 担当教員名 |
|---|-------|-----|-----|-------|
| 税 法 学 特 論 III | 1・2年生 | 選択 | 2単位 | 倉地 和敏 |
| <p>授業の到達目標及びテーマ 所得税法・消費税法の法令の条文を読解でき、具体的事例に適用できる能力を身に付ける。 所得税法・消費税法の体系的知識を習得する。</p> | | | | |
| <p>授業の概要 授業の進め方は、研究生が司会班、説明・回答班、質問班の3班に分かれて討議を行う方式による。 そのため、講義範囲のテキストを事前に熟読し理解しておくことが不可欠である。 討議の内容や理解度に応じて、教授が質問・解説を行う。</p> | | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回 所得税法① 総説</p> <p>第2回 所得税法② 所得税制度の基本的仕組（納税義務者、課税標準、所得金額の統合等）</p> <p>第3回 所得税法③ 各種所得の意義と範囲（不動産所得、事業所得、給与所得、退職所得）</p> <p>第4回 所得税法④ 各種所得の意義と範囲（山林所得、譲渡所得、資産の譲渡等に関する特例）</p> <p>第5回 所得税法⑤ 各種所得の意義と範囲（利子所得、配当所得、一時所得、雑所得）</p> <p>第6回 所得税法⑥ 所得計算の通則（収入金額、必要経費①（総説～売上原価））</p> <p>第7回 所得税法⑦ 所得金額の通則（必要経費②（販管費～所得金額の計算の特例））</p> <p>第8回 所得税法⑧ 所得控除、税額の計算</p> <p>第9回 所得税法⑨ 源泉徴収制度、非居住者及び法人の納税義務</p> <p>第10回 所得税法⑩ 申告、納付及び還付</p> <p>第11回 消費税法① 総説、課税の対象</p> <p>第12回 消費税法② 非課税と免税、納税義務者と納税義務の成立</p> <p>第13回 消費税法③ 課税標準と税率、税額控除</p> <p>第14回 消費税法④ 申告納付と納税地、国、地方公共団体等に係る特例</p> <p>第15回 消費税法⑤ 個別消費税等</p> <p>第16回 定期試験等</p> | | | | |
| <p>履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習） 簿記・会計の知識が不可欠である。 税法の読み方の基本を、伊藤義一『税法の読み方判例の見方〔改訂第3版〕』（TKC出版）」によりマスターしておくこと。 授業範囲の税法・テキストを読解しておくこと。 各回、少なくとも、2時間程度の事前学習、2時間程度の事後学習が必要である。 特に、授業等で十分理解できなかった点は、事後学習で理解を深めること。</p> | | | | |
| <p>テキスト 『実務 税法六法（法令編・通達編）〔令和2年版〕』（新日本法規出版）、金子宏『租税法〔第23版〕』（弘文堂）、『スタンダード所得税法〔第2版補正2版〕』（弘文堂）、『所得税法（基礎編）〔令和2年度版〕』（税務大学校）、『消費税法（基礎編）〔令和2年度版〕』（税務大学校）、伊藤義一『税法の読み方判例の見方〔改訂第3版〕』（TKC出版）、中里実ほか『租税判例百選〔第6版〕』（有斐閣）</p> | | | | |
| <p>参考書・参考文献・参考資料等 『ポケット六法』（有斐閣）、注解所得税法研究会『注解 所得税法』（大蔵財務協会）、中里実ほか『租税法概説』（有斐閣）、金子宏ほか『税法入門』（有斐閣）、『税法用語辞典』（大蔵財務協会）、『図解による法律用語辞典』（自由国民社）、金子宏ほか『ケースブック租税法』（弘文堂）、川田剛『租税法入門』（大蔵財務協会）</p> | | | | |
| <p>成績評価の方法・基準 授業への取組状況（事前・事後の学習状況等）、授業での発言状況、試験等の結果を総合勘案して評価する。</p> | | | | |

シラバス（授業計画）

| 授業科目名 | 開講学年 | 必・選 | 単位数 | 担当教員名 |
|--|-------|-----|-----|-------|
| 税法学特論Ⅳ | 1・2年生 | 選択 | 2単位 | 丹羽 崇之 |
| <p>授業の到達目標及びテーマ 相続税法、徴収法、租税争訟法、租税処罰法について学ぶ。報告、討論及びレポート作成等により、租税法の知識、考え方を身に付ける。</p> | | | | |
| <p>授業の概要 授業の該当テーマについて、金子宏『租税法〔第23版〕』を精読し、法令、判例、学説等の理解を深める。各テーマについてかなり速いスピードで授業が進められる。授業1回当たりのボリュームも多いため、相当の準備が不可欠である。</p> | | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回 相続税(1) 総説、相続税の種類、納税義務者</p> <p>第2回 相続税(2) 課税物件、税負担の不当な減少の防止</p> <p>第3回 相続税(3) 課税標準と税額</p> <p>第4回 贈与税</p> <p>第5回 財産の評価</p> <p>第6回 事業承継税制</p> <p>第7回 固定資産税・地価税</p> <p>第8回 租税徴収手続(1) 納付と徴収①</p> <p>第9回 租税徴収手続(2) 納付と徴収②</p> <p>第10回 租税徴収手続(3) 滞納処分①</p> <p>第11回 租税徴収手続(4) 滞納処分②</p> <p>第12回 租税争訟法(1) 租税不服申立</p> <p>第13回 租税争訟法(2) 租税訴訟</p> <p>第14回 租税処罰法</p> <p>第15回 まとめ</p> | | | | |
| <p>履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習） 簿記・会計の知識が不可欠である。 民法、行政法、刑法、民事訴訟法等の知識が必要である。 各回4～8時間程度の事前・事後学習を求める。</p> | | | | |
| <p>テキスト 金子宏『租税法〔第23版〕』（弘文堂） 『実務税法六法』（新日本法規出版）または『税務六法』（ぎょうせい） 中里実他編『租税判例百選〔第6版〕』別冊ジュリスト（有斐閣）</p> | | | | |
| <p>参考書・参考文献・参考資料等 税務大学校講本『相続税法（基礎編）』『国税通則法（基礎編）』『国税徴収法（基礎編）』 伊藤義一『税法の読み方 判例の見方〔改訂第3版〕』（TKC出版） 佐伯仁志・大村敦志編『ポケット六法 令和3年版』（有斐閣） 法令用語研究会『法律用語辞典〔第5版〕』（有斐閣）</p> | | | | |
| <p>成績評価の方法・基準 授業への取り組み（事前・事後の学習、授業での発言等）、提出物等の結果を総合勘案して評価する。</p> | | | | |

シラバス（授業計画）

| 授業科目名 | 開講学年 | 必・選 | 単位数 | 担当教員名 |
|---|-------|-----|-----|-------|
| 民事・行政訴訟特論Ⅰ | 1・2年生 | 選択 | 2単位 | 吉野 正 |
| <p>授業の到達目標及びテーマ 民事訴訟、行政訴訟の裁判手続全般について基本的知識を学ぶ。 民事訴訟、行政訴訟の裁判手続の基本を理解する。</p> | | | | |
| <p>授業の概要 民事訴訟、行政訴訟の裁判手続を学ぶため、基本教科書を事前に読んでもらい、また適宜、教材を議論をしながら学ぶ。</p> | | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回 訴訟の種類と構造 民事訴訟、行政訴訟、刑事訴訟</p> <p>第2回 訴訟の客体（訴訟物）1</p> <p>第3回 訴訟の客体（訴訟物）2</p> <p>第4回 訴の種類</p> <p>第5回 訴の主体</p> <p>第6回 訴訟の主体1 訴訟の主体に関わる原則</p> <p>第7回 訴訟の主体2 受訴裁判所</p> <p>第8回 訴求の併合</p> <p>第9回 多数当事者訴訟</p> <p>第10回 弁論主義</p> <p>第11回 訴訟審理の方式Ⅰ</p> <p>第12回 訴訟審理の方式Ⅱ</p> <p>第13回 証拠</p> <p>第14回 判決の効力</p> <p>第15回 上訴</p> <p>第16回 定期試験等</p> | | | | |
| <p>履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習） 教科書を読んで予習と配布した講義ノートによる復習を1時間</p> | | | | |
| <p>テキスト 基本教科書「民事訴訟法（法学ライブラリー）」小林 秀之著 適宜、資料を配布します</p> | | | | |
| <p>参考書・参考文献・参考資料等 「民事訴訟法（法学ライブラリー）」小林 秀之著 「民事訴訟法」伊藤 眞著 「租税判例百選」 「民事訴訟判例百選」</p> | | | | |
| <p>成績評価の方法・基準 通常授業による学習態度の評価と試験を総合的に評価する。</p> | | | | |

シラバス（授業計画）

| 授業科目名 | 開講学年 | 必・選 | 単位数 | 担当教員名 |
|--|-------|-----|-----|-------|
| 民事・行政訴訟特論Ⅱ | 1・2年生 | 選択 | 2単位 | 吉野 正 |
| 授業の到達目標及びテーマ 裁判手続について、より高度の実践的知識を学ぶ。 裁判手続の詳細と実務を理解する。 | | | | |
| 授業の概要 裁判手続を学ぶため、基本教科書を事前に読んでもらい、また適宜、教材を議論をしながら学ぶ。 | | | | |
| 授業計画 第1回 当事者の確定 第2回 訴訟物論Ⅰ 第3回 訴訟物論Ⅱ 第4回 訴訟物論Ⅲ 第5回 訴訟物論Ⅳ 第6回 多数当事者訴訟Ⅰ 第7回 多数当事者訴訟Ⅱ 第8回 処分権主義と判例 第9回 弁論主義と判例 第10回 証拠調べⅠ 第11回 証拠調べⅡ 第12回 訴訟の終了 第13回 行政不服審査 第14回 行政訴訟Ⅰ 第15回 行政訴訟Ⅱ 第16回 定期試験等 | | | | |
| 履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習） 教科書を読んで予習と配布した講義ノートによる復習を1時間 | | | | |
| テキスト 基本教科書「民事訴訟法（法学ライブラリー）小林 秀之著 適宜、資料を配布します | | | | |
| 参考書・参考文献・参考資料等 「民事訴訟法（法学ライブラリー）小林 秀之著 「民事訴訟」伊藤 真著 「行政法」櫻井 敬子、橋本 博之著 「租税法」金子 宏著 「租税判例百選」 「民事訴訟判例百選」 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 通常授業による学習態度の評価と試験を総合的に評価する。 | | | | |

シラバス（授業計画）

| 授業科目名 | 開講学年・学期 | 必・選 | 単位数 | 担当教員名 |
|--|---------|-----|-----|-------|
| 情報科学特論 | 1・2年生 | 選択 | 2単位 | 車 炳玓 |
| 授業の到達目標及びテーマ 情報の収集、加工、蓄積、伝達という観点から情報科学システムを分析し、経営情報学の研究において必要となる基礎的な知識の習得を目的とする。 | | | | |
| 授業の概要 計算機の基本構成や動作原理、アルゴリズムとデータ表現、応用ソフトウェア、プログラミング言語、インターネットの仕組みおよび特徴、ウェブ検索、セキュリティ、プレゼンテーション資料の作成法などについて修得する。 | | | | |
| 授業計画 第1回 情報科学と計算機の基本構成、OS 第2回 ウェブサーフィン、情報検索 第3回 情報の表現とアルゴリズム 第4回 プログラミング言語、ファイルシステム 第5回 データベース 第6回 ウェブサーバ、HTML、PHP 第7回 インターネットの仕組み、特徴 第8回 情報セキュリティ（ファイアウォール、プロキシ） 第9回 情報セキュリティ（マルウェア、暗号技術） 第10回 ウェブ検索 第11回 LAN、WAN、プロトコル 第12回 アプリケーションソフトの紹介Ⅰ（Word、Excel、Power Point、LaTex、TeraPad） 第13回 アプリケーションソフトの紹介Ⅱ（Word、Excel、Power Point、LaTex、TeraPad） 第14回 公開鍵暗号、デジタル証明 第15回 プレゼンテーション、著作権、個人情報保護法 第16回 定期試験等 | | | | |
| 履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習） 授業計画に従ってテキストの該当箇所を熟読しておくこと。 用語の整理や参考書等を利用して授業内容の理解を深めておくこと。 各回、少なくとも、1～2時間程度の事前・事後学習が必要である。 | | | | |
| テキスト 書名：コンピュータ概論（ソフトウェア・通信ネットワーク） 著者：橋本洋志 発行所：オーム社 | | | | |
| 参考書・参考資料等 コンピュータネットワーク第5版、アンドリュース・タネンバウム、日経BP | | | | |
| 成績評価の方法・基準 発表：20%、レポート：30%、試験：50% | | | | |

シラバス（授業計画）

| 授業科目名 | 開講学年・学期 | 必・選 | 単位数 | 担当教員名 |
|---|---------|-----|-----|-------|
| 情報メディア特論 | 1・2年生 | 選択 | 2単位 | 麻生 隆史 |
| 授業の到達目標及びテーマ 現代の情報メディア、及びインターネット、ネットワークについて理解し、議論する。 | | | | |
| 授業の概要 情報メディア即ち、マルチメディアとは、複数の異なる媒介によって表現される、総合的な情報である。デジタル技術などのコンピュータ技術の急速な発展によって、現在、マルチメディアの重要性は非常に高くなってきている。本講義ではまず、マルチメディアの種類及び、特徴を述べる。さらに、インターネット、及び現代のネットワークについて述べ、その将来性について議論する。 | | | | |
| 授業計画 第1回 マルティメディア・システム 第2回 ハードウェア 第3回 ソフトウェア 第4回 メディアのデジタル化 第5回 音声メディア 第6回 画像メディア 第7回 映像メディア 第8回 インターネット 第9回 音声処理 第10回 画像処理 第11回 コンピュータ・グラフィックス 第12回 コンテンツ・デザイン 第13回 Eコマース 第14回 セキュリティー 第15回 知的財産権 第16回 定期試験等 | | | | |
| 履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習） 情報リテラシーの技能を持っていることが望ましい。 毎回授業計画に示すテーマについて事前に調べ（2時間）、知見を得ておくこと。さらに授業後にその復習をすること（2時間）。 | | | | |
| テキスト 書名：マルチメディア入門 著者：赤間世紀 発行所：工学社 | | | | |
| 参考書・参考資料等 香取淳子著『情報メディア論(メディアの系譜と開発原理)』北樹出版 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 毎回の講義での討論及びレポート、最終定期試験により評価する。 | | | | |

シラバス（授業計画）

| 授業科目名 | 開講学年 | 必・選 | 単位数 | 担当教員名 |
|---|-------|-----|-----|--------|
| 情報ネットワーク特論 | 1・2年生 | 選択 | 2単位 | 荒巻 富士夫 |
| 授業の到達目標及びテーマ 本特論では、情報サービスの基礎となる要素技術や適用事例について学ぶことを目的とする。中でもマッシュアップなどと称されるネットワークサービス統合化技術は極めて重要性が高く、本特論においても詳しく調査し、学ぶことを目指す。 | | | | |
| 授業の概要 本特論では受講生自らがインターネット環境における多種多様な情報サービスを自発的に調査し、議論を通じてその本質的な重要性を理解することを目指す。また、新しい情報サービスを発想できるよう思索を深めることを期待する。調査・学習の過程で生じた疑問点をさらに追究するなど、受講生の要望や状況などを反映させ臨機応変に対応する。 | | | | |
| 授業計画 第1回 授業全体の概要説明 第2回 情報ネットワーク社会とは 第3回 情報ネットワーク社会における情報サービス 第4回 情報サービスの基盤技術（Internet・Web） 第5回 情報サービスの基盤技術（Ubiquitous） 第6回 情報サービスの基盤技術（Data Mining） 第7回 情報サービスの統合化技術（Multi Agent System） 第8回 情報サービスの統合化技術（Agent Communication Language） 第9回 情報サービスの統合化技術（Mashup） 第10回 情報サービスの応用事例（Net Shopping） 第11回 情報サービスの応用事例（SNS） 第12回 情報サービスの応用事例（Mobile） 第13回 図書館における情報サービス事例（図書館システム） 第14回 図書館における情報サービス事例（次世代 OPAC） 第15回 まとめ 第16回 定期試験等 | | | | |
| 履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習） （留意点）情報ネットワーク、情報サービスについて概略を記した参考書を読んで予備知識を得ておくことが望ましい。 （準備学習） 事前：前回の授業で指示したテキストの部分を読んで準備をしておくこと。疑問点があれば要点をまとめておく。（1～2時間程度） 事後：講義内容の要点、議論して点および新たな疑問を数ページにまとめる。それを基に次の授業でフォローする。（2～3時間程度） | | | | |
| テキスト 必要に応じて指定する。 | | | | |
| 参考書・参考文献・参考資料等 Web 文書など必要に応じて紹介する。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 課題に対するレポートと説明により評価する。 | | | | |

シラバス（授業計画）

| 授業科目名 | 開講学年・学期 | 必・選 | 単位数 | 担当教員名 |
|--|---------|-----|-----|-------|
| 情報セキュリティ特論 | 1・2年生 | 選択 | 2単位 | 車 炳圀 |
| <p>授業の到達目標及びテーマ 個人として知っておくべき情報セキュリティの基礎知識について事例を中心に学び、情報システムのセキュリティ確保に関する最新の情報や技術の習得を目標とする。</p> | | | | |
| <p>授業の概要 IT インフラの整備およびインターネットの普及により、個人情報や機密情報の漏えい、ウイルスなどの不正プログラムによる被害が後を絶たない。本授業では、事例を中心に今日におけるセキュリティリスクの種類やその対策について修得した上で、さまざまなセキュリティ技術について修得する。</p> | | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回 情報セキュリティの概念</p> <p>第2回 インターネットにおけるセキュリティの現状</p> <p>第3回 脆弱性と攻撃</p> <p>第4回 マルウェアの種類とその対策（ウイルス、トロイの木馬、ワーム）</p> <p>第5回 マルウェアの種類とその対策（スパイウェア、ボット）</p> <p>第6回 被害事例：フィッシング詐欺、ワンクリック請求</p> <p>第7回 スマートフォン、無線 LAN における脅威と対策</p> <p>第8回 組織におけるセキュリティ対策</p> <p>第9回 セキュリティ技術（アカウント、ID、パスワード、ファイアウォール、IDS）</p> <p>第10回 暗号技術（共通鍵、公開鍵）</p> <p>第11回 暗号技術（デジタル証明）</p> <p>第12回 OS のアクセス制御とセキュリティ</p> <p>第13回 ユーザ認証技術とアクセスコントロール</p> <p>第14回 電子商取引</p> <p>第15回 セキュリティの認証と法律（サイバー法、著作権、個人情報保護法）</p> <p>第16回 定期試験等</p> | | | | |
| <p>履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習） 授業計画に従ってテキストの該当箇所を熟読しておくこと。 用語の整理や参考書等を利用して授業内容の理解を深めておくこと。 各回、少なくとも、1～2時間程度の事前・事後学習が必要である。</p> | | | | |
| <p>テキスト 書 名：情報セキュリティ読本 著 者：三輪賢一 発行所：実業出版</p> | | | | |
| <p>参考書・参考資料等 情報セキュリティ白書、情報処理推進機構、2013</p> | | | | |
| <p>成績評価の方法・基準 発表：20%、レポート：30%、試験：50%</p> | | | | |

シラバス（授業計画）

| 授業科目名 | 開講学年 | 必・選 | 単位数 | 担当教員名 |
|---|-------|-----|-----|-------|
| 経営情報システム設計特論 | 1・2年生 | 選択 | 2単位 | 岸川 洋 |
| <p>授業の到達目標及びテーマ 経営情報システムにおけるシステム開発工程全般と特にその中でも設計工程における方法論・技法を理解し、利用できるようにする。さらに、プロジェクト管理の立場から設計工程で留意すべきことについて理解し、利用できるようにする。</p> | | | | |
| <p>授業の概要 構築するシステムの特性に応じた設計法を適用することは重要である。まず、単純なシステム設計例により各種方法論・技法を理解する。さらに、プロジェクト管理の立場から設計工程で発生する失敗について理解する。</p> | | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス、システム開発工程全般と設計工程</p> <p>第2回 共通フレーム、各種設計技法</p> <p>第3回 帰納的アプローチと演繹的アプローチ</p> <p>第4回 プロセス中心アプローチ</p> <p>第5回 データ中心アプローチ</p> <p>第6回 オブジェクト指向アプローチ</p> <p>第7回 ウォータフォール型とプロトタイプ型</p> <p>第8回 単純なシステムの設計例（マスタファイル、イベントファイル）</p> <p>第9回 単純なシステムの設計例（DFD）</p> <p>第10回 プロジェクト管理</p> <p>第11回 PMBOK、WBS</p> <p>第12回 失敗例（設計者に起因）</p> <p>第13回 失敗例（プロジェクトに起因）</p> <p>第14回 失敗例（ステークホルダーに起因）</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>第16回 定期試験等</p> | | | | |
| <p>履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習） 事前学習：次回の授業内容について調べ、疑問点について整理しておくこと。（授業計画の欄を参照） （1～2時間程度） 事後学習：毎回の課題であるキーワードについて、説明できるようにする。（1～2時間程度）</p> | | | | |
| <p>テキスト その都度指示する。</p> | | | | |
| <p>参考書・参考文献・参考資料等 木暮 仁、『利用部門のための情報システム設計論』,日科技連,2007年10月</p> | | | | |
| <p>成績評価の方法・基準 毎回の授業での取組み状況及び課題の提出状況で総合的に評価する。</p> | | | | |

シラバス（授業計画）

| 授業科目名 | 開講学年 | 必・選 | 単位数 | 担当教員名 |
|---|-------|-----|-----|-------|
| データベース特論 | 1・2年生 | 選択 | 2単位 | 橋爪 善光 |
| 授業の到達目標及びテーマ 目標：リレーショナルデータベースの基礎知識を習得すること テーマ：リレーショナルデータベースのモデル | | | | |
| 授業の概要 データベースを構築し利用するための基礎的な知識を習得する。すなわち、データベースの目的や概念を理解し、データベースを構成するデータモデルを学ぶ。特に、リレーショナルデータベースについては、データベースの構成と設計、問い合わせ言語(SQL)などを詳しく学ぶ。 | | | | |
| 授業計画 第1回 オリエンテーション 第2回 データベース：データベースとは 第3回 データモデル（1）：データモデルとは 第4回 データモデル（2）：概念データモデル 第5回 リレーショナルデータベース（1）：リレーショナルデータベースとは（1） 第6回 リレーショナルデータベース（2）：リレーショナルデータベースとは（2） 第7回 リレーショナルデータベース（3）：整合性制約（1） 第8回 リレーショナルデータベース（4）：整合性制約（2） 第9回 リレーショナルデータベース（5）：正規化（1） 第10回 リレーショナルデータベース（6）：正規化（2） 第11回 リレーショナルデータベース（7）：正規化（3） 第12回 リレーショナルデータベース（8）：正規化（4） 第13回 リレーショナルデータベース（9）：SQL（1） 第14回 リレーショナルデータベース（10）：SQL（2） 第15回 リレーショナルデータベース（11）：SQL（3） 第16回 まとめ | | | | |
| 履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習） （留意点）各回担当を決め、担当の内容を講義してもらいます。 （準備学習） 事前：講義用パワーポイント資料を作成する。（3～4時間程度） 事後：自分が講義担当でない回にはレポートを課しますので、翌週の授業時に提出してください。（1～2時間程度） | | | | |
| テキスト 増永良文著「リレーショナルデータベース入門」サイエンス社、2003年 | | | | |
| 参考書・参考文献・参考資料等 たにぐちまこと著「よくわかるPHPの教科書」マイナビ、2014年 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 1. 講義の準備状況 2. 課題の提出状況 3. 授業中の質疑の状況 | | | | |

シラバス（授業計画）

| 授業科目名 | 開講学年 | 必・選 | 単位数 | 担当教員名 |
|--|-------|-----|-----|-------|
| データ解析特論 | 1・2年生 | 選択 | 2単位 | 荒平 高章 |
| 授業の到達目標及びテーマ データ解析は、社会調査や企業や人間の様々な活動によって生じたデータから有用な知見やルールを見つけだし、予測や判断に利用しようとするものです。本講義では、代表的なデータ解析手法の修得、問題解決に必要なモデル化、有用かつ多様なデータ取得などを通して、データ活用の素養を身につけることを目標とします。「実践的なデータ解析」がテーマです。 | | | | |
| 授業の概要 基本統計量や視覚化によるデータの現状や関連性の把握、問題解決のための統計的手法を用いたデータの統合や縮約、構造分析を中心に行います。さらに、1次データ（アンケートデータ）や2次データ（公開データ）の取得や活用などを通じた演習も行います。演習にはフリー統計ソフトであるRを利用します。 | | | | |
| 授業計画 第1回 データ解析とは 第2回 データの現状把握と基本統計量 第3回 データの視覚化 第4回 データの関連性と予測（相関と回帰分析） 第5回 データの種類と分析手法（多変量解析） 第6回 データの統合1（主成分分析） 第7回 データの統合2（主成分分析によるデータ解析） 第8回 データの縮約1（因子分析） 第9回 データの縮約2（因子分析によるデータ解析） 第10回 データの構造分析（共分散構造分析） 第11回 データマイニングとテキストマイニング 第12回 データの取得1（独自データの取得と精査） 第13回 データの取得2（公開データの入手と利用方法） 第14回 データの分析と解釈1 第15回 データの分析と解釈2 第16回 まとめ | | | | |
| 履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習） （留意点）入門程度の統計知識があると望ましい。 （準備学習） 事前：授業計画に沿ってテキストを通読し、必要ならば参考書で補完しておくこと。また、疑問点などを整理して、講義中に確認すること。（1～2時間程度） 事後：テキストの例題を参考にデータ解析の手法とRの利用法を修得すること。また、実際にポータルサイトなどからデータを取得し、Rを用いてデータ分析を行ってみること（2～3時間程度） | | | | |
| テキスト 書名：Rによるデータサイエンス 第2版 著者：金 明哲 発行所：森北出版 | | | | |
| 参考書・参考文献・参考資料等 ・中川 慶一郎他「データサイエンティストの基礎知識 挑戦するITエンジニアのために」リックテレコム ・本多正久・島田一明『経営のための多変量解析法』産能大学出版部 ・青木繁伸『Rによる統計解析』オーム社 ・佐藤博樹 他『社会調査の公開データ 2次分析への招待』東京大学出版会 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 課題50%とレポート50%の結果による総合評価で、60%以上を合格とする | | | | |

シラバス（授業計画）

| 授業科目名 | 開講学年 | 必・選 | 単位数 | 担当教員名 |
|--|-------|-----|-----|-------|
| 数 値 解 析 特 論 | 1・2年生 | 選択 | 2単位 | 橋爪 善光 |
| 授業の到達目標及びテーマ 微分方程式を用いて様々な自然現象のモデル化をし、その振る舞いについて議論できるようになる。 | | | | |
| 授業の概要 社会科学や自然科学における様々な現象を数式で記述するために重要な概念である力学系（Dynamical Systems）に関する概説を行う。 | | | | |
| 授業計画 第1回 力学系とは 第2回 1階微分方程式（1）解軌道と安定性 第3回 1階微分方程式（2）分岐現象 第4回 2次元線形系（1）不動点 第5回 2次元線形系（2）2次元の系 第6回 2次元線形系（3）線形代数の復習 第7回 2次元線形系（4）固有値と固有ベクトル 第8回 2次元線形系（5）線形微分方程式の解 第9回 2次元線形微分方程式の相図（1）異なる2つの実固有値と解軌道 第10回 2次元線形微分方程式の相図（2）複素固有値と解軌道 第11回 2次元線形微分方程式の相図（3）重複した固有値と解軌道 第12回 2次元線形微分方程式の分類 第13回 個体群動態の数理モデリング 第14回 競争系ダイナミクス 第15回 餌-捕食者系ダイナミクス 第16回 定期試験等 | | | | |
| 履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習） （留意点）ある程度数式が読めること、高校レベルの微積およびベクトル演算を理解していることが望ましい （準備学習） 事前：授業内容に沿ってテキストの数式を書き写しながら通読し、疑問点などを整理して、講義中に質問すること。（2時間程度） 事後：自身で数式を作成したり、そのグラフや相線を描いたりして理解を深めること。（2時間程度） | | | | |
| テキスト Morris W. Hiesch ら著「力学系入門—微分方程式からカオスまで」共立出版、2007年 | | | | |
| 参考書・参考文献・参考資料等 瀬野祐美著「数理生物学 個体群動態の数理モデリング入門」共立出版、2007年 Martin A. Nowak 著「進化のダイナミクス 生命の謎を解き明かす方程式」共立出版、2008年 巖佐庸ら著「数理生態学」共立出版 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 小テストや試験の結果を総合的に評価する。 | | | | |

シラバス（授業計画）

| 授業科目名 | 開講学年 | 必・選 | 単位数 | 担当教員名 |
|---|-------|-----|-----|-------|
| 人工知能特論 | 1・2年生 | 選択 | 2単位 | 荒平 高章 |
| 授業の到達目標及びテーマ 現在、人工知能技術は、私たちの生活の様々なところで使われている。本授業では、人工知能技術の基礎を体系的に学ぶ。また、基礎事項のみならず、授業の中で人工知能技術の応用例について触れ、実生活に密着してきつつある姿を垣間見る。 | | | | |
| 授業の概要 本授業では、テキストの内容について講義および討論を行う。その結果にもとづいて、レポートの作成を行う。 | | | | |
| 授業計画 第1回 人工知能の歴史、研究分野 第2回 問題解決 第3回 系統的探索と発見的探索 第4回 問題分解法とゲーム探索 第5回 記号論理 第6回 導出原理と論理プログラミング 第7回 意味ネットワークとオントロジー 第8回 フレーム理論とオブジェクト指向 第9回 プロダクションシステム 第10回 知識の不確実性の取り扱い 第11回 機械学習 第12回 ニューラルネットワーク 第13回 遺伝的アルゴリズム 第14回 エージェント 第15回 自然言語処理 第16回 まとめ | | | | |
| 履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習） 事前学習に関しては、各授業回の見出しはテキストの各章に対応しているので、テキストの該当箇所を通読しておくこと。（各回ごとに2.0h） 事後学習に関しては、授業で学んだことを整理し、各自の研究生活へ役立てていくこと。（各回ごとに2.0h） | | | | |
| テキスト 小林一郎著「人工知能の基礎」サイエンス社、2008年 | | | | |
| 参考書・参考文献・参考資料等 特に指定はしないが、適宜補助教材を配布する場合がある。 | | | | |
| 成績評価の方法・基準 成績は①授業への参加状況および②レポートの提出状況によって評価する。 ②レポートの提出状況とは、提出期限の遵守だけでなく、レポート内容も含むことに注意すること。 | | | | |

講義等の内容（博士前期課程）

| 授業科目名 (担当者名) | 講義等の内容 |
|------------------------|--|
| 演習Ⅰ 特別演習Ⅰ (麻生隆史) | 近年、情報技術が様々な分野で普及している中、その基礎理論をアナログとデジタルを比較することにより学ぶ。その際、デジタル信号処理の基本的な概念を中心に、具体例を挙げて説明し、さらに情報機器を使用して実践的にシミュレーションを行う。また、研究を進めるにあたっての必要な文献調査の方法や論文の読み方を指導する。 |
| 演習Ⅰ 特別演習Ⅰ (丑山優) | 現代の企業経営は、企業を取り巻く環境変化に常に対応することを求められてきている。他方企業に求められている社会的位置づけも十分に経営者が認識して経営を行っていかなければならない。こうした事柄を、必要な文献・資料等を通して、より深くボウリングすることのために少人数の演習がある。修士論文のための課題設定、分析方法を指導する。 |
| 演習Ⅰ 特別演習Ⅰ (小川雄平) | 経済のグローバル化が進展した結果、企業経営は、変化の激しい経済環境に対応した国際経営戦略の下に遂行せざるを得なくなっている。演習Ⅰでは、多くの日本企業が事業展開している東アジア地域を中心に、企業を取り巻く国際経済環境を考察し、それに対応する企業の国際経営戦略を理論的・実証的に検証する。 特別演習Ⅰでは、各自の個別研究課題の設定・明確化を図り、修士論文のスケルトンの作成を目指す。 |
| 演習Ⅰ 特別演習Ⅰ (倉地和敏) | 租税は国民生活の基盤を支える重要なものであり、日本国憲法をはじめ各租税法等においてその義務と手続きについて定められている。 日本国における税制について、現行法の状況、立法趣旨、判例・学説の動向を研究する。 具体的には、演習Ⅰでは、主要な租税判例について判例の原文（地裁から最高裁まで）を基に討議を行う。そのためには、伊藤義一『税法の読み方判例の見方 [改訂第3版]』（TKC出版）などで判例の読み方を理解した上で、事前に原告・被告の主張（争点）、裁判所の判断を整理し、理解しておくことが必要である。毎週異なった判例を取り上げ、年間で30事例の判例を研究する。 特別演習Ⅰでは、修士論文の研究対象として選んだテーマの文献収集・読解、論点の取りまとめを、指導教員との議論を通じて行っていく。 |
| 演習Ⅰ 特別演習Ⅰ (車柄玟) | 演習Ⅰでは、最近インターネット技術の進歩やパソコンおよびデジタルカメラの普及により多くの分野において情報発信手段として用いられているカラー画像の処理技術、つまりデジタル画像処理の基盤技術およびその最新研究動向を把握するのを目的とする。また、MATLABによる画像情報処理の基礎的な関数について演習を行う。 |
| 演習Ⅰ 特別演習Ⅰ (津守常弘) | 「会計基準の国際的統一化」と「財務会計概念フレームワーク」の設定とによって生み出される現代の新しい会計制度のきわめて重要な特徴は、会計政策決定の制度的枠組みを強化することによって政策決定における恣意性を排除することであり、いいかえれば会計的意思決定のソフト面の制度化、会計システムのソフト面のハード化にはかならない。「演習Ⅰ」では、最新の会計基準のもとでマイクロ会計政策の決定者（経営者）の視点から、政策決定上どのような制度的制約と主体的可能性が与えられているかを、具体的事例を用いて研究する。 |

| 授業科目名 (担当者名) | 講義等の内容 |
|------------------------|--|
| 演習Ⅰ 特別演習Ⅰ (橋爪善光) | ヒトは無意識のうちに様々な運動学習をおこなっており、その内容を意識し、言語化して他者に伝えることは難しい。演習Ⅰでは様々な運動のコツを明らかにするために実際に各自のテーマに沿った運動計測実験を行い、そのデータ解析を行う。 |
| 演習Ⅰ 特別演習Ⅰ (丹羽崇之) | 演習Ⅰでは、重要判例の検討を行う。各判決（決定）について、第一審からの全文を読み込んだ上で、事実、争点に対する当事者の主張、それに対する裁判所の判断、判決（決定）の意義及び課題について討論、研究することにより、法的思考力、紛争処理能力を涵養する。 特別演習Ⅰでは、各人の研究課題に取り組む。 |
| 演習Ⅰ 特別演習Ⅰ (荒平高章) | 工学的手法や情報学的手法は、様々な分野で使用され、新たな技術が次々と創出している。そこで、これらの手法を用いて生体医工学・生体情報学に関連する諸問題にアプローチする研究を実施する。具体的には、組織工学に基づく材料設計、in vitro 実験、生体工学に基づく数値解析などである。 |
| 演習Ⅰ 特別演習Ⅰ (春日克則) | いわゆる会計ビッグバン以降、わが国の会計基準ないし制度の多様化・複雑化が進展しており、これを受け会計学もまた、大学の4年間では修得できない程その研究領域が拡大している。そこで、演習Ⅰではこの拡大した領域について大学院生として求められる知識（とりわけ財務会計分野）の習得と、修士論文のテーマ設定に有用な研究を行うことを目的としている。 特別演習Ⅰは、修士論文の作成に必要な、問題意識の明確化、先行研究のレビュー、そして当該先行研究に対する自らの研究の位置付けを行っていく。 |
| 演習Ⅰ 特別演習Ⅰ (遠藤真紀) | コロナ禍への対応など企業の経営環境は激変しており、市場環境の認識と経営戦略の重要性が増している。演習Ⅰでは、様々な企業の具体的な事例（社会人においては自社の経営戦略等）について考察し、基本的な戦略理論について概観・理解するとともに、修士論文のテーマ設定に必要な研究を行う。特別演習Ⅰでは、自身の研究テーマに必要な文献・資料の収集・考察等を通して、問題意識（仮説・視座等）の設定・明確化と修士論文の骨子について検討する。 机上での学習・研究だけでなく、必要に応じてフィールドワークを行う事がある。 |
| 演習Ⅰ 特別演習Ⅰ (宮崎裕士) | 演習Ⅰでは、年間で30の主要な租税法判例研究を通じた租税法における基礎概念の定着、および法条文の読み方、判例研究のやり方と研究課題の選定を目標とする。 具体的には、テキスト等による租税法理論の事前学習と理論の実証場面としての判例研究を対応させながら、課題研究を報告してもらい、それに対するコメントを付すという形式で行っていく。 特別演習Ⅰでは、実際に自分の研究課題について取り組んでもらい、自身の研究課題と研究計画のアップデートを計画的に行っていく。その際、資料収集の方法等の指導も行う。社会人、特に会計事務所勤務の方が大半を占める環境の中で、一般的な閑散期である6月から11月までの期間で集中的に資料収集や研究の基礎を形作ること、各自の効率的な研究の発展に寄与することを狙う。 研究とは、基本的には一人で行うものであるが、対話により発展するものでもある。院生同士、あるいは教員と自由闊達に議論を行うことで、院生自身の知識の定着と、知識の論理への発展を期待する。 |

| 授業科目名 (担当者名) | 講義等の内容 |
|------------------------|--|
| 演習Ⅱ 特別演習Ⅱ (麻生隆史) | 情報技術を駆使して実際に利用されているソフトウェア・ハードウェアを調査し、プログラミング技術やハードウェアの開発プロセスを学び、それをどのような手法を用いて応用するかを指導する。特にソフトコンピューティングの基礎については詳細に説明する。同時に文献調査や英文論文読解も行う。また、情報科学の分野における論文作成手法を指導する。 |
| 演習Ⅱ 特別演習Ⅱ (丑山優) | 演習Ⅰおよび特別演習Ⅰにおいて各自設定した課題について、修士論文作成への具体的アプローチについての指導を行う。その際に基礎的および基本的文献の網羅・整理・内容の正確な把握を行う。 |
| 演習Ⅱ 特別演習Ⅱ (小川雄平) | 演習Ⅰ・特別演習Ⅰで設定・明確化した各自の個別研究課題を深く掘り下げ、先行研究を検証した上で、修士論文の完成を目指す。 |
| 演習Ⅱ 特別演習Ⅱ (倉地和敏) | 演習Ⅱ及び特別演習Ⅱでは、指導教員の指導を受けて修士論文の作成に取り組む。 具体的には、論点の整理の仕方、論理展開の進め方、先行研究の引用の仕方、文章の作成の仕方など、修士論文の作成に必要な事項について、一つ一つ指導を受けながら習熟した上で、修士論文の完成を目指す。研究結果を論文等にまとめる能力を向上し、充実した内容と整った形式を備えた論文の作成を目指す。 |
| 演習Ⅱ 特別演習Ⅱ (車柄玘) | 演習Ⅱでは、演習Ⅰに引き続き人間の色覚情報に基づいたデジタル画像処理に関する演習を行う。具体的には、画像の特徴抽出及び領域分割、色変換などの諸手法について MATLAB を用いて演習を行い、色覚バリアフリー社会の実現に向けた高汎用性の新しい手法の提案を試みる。 |
| 演習Ⅱ 特別演習Ⅱ (津守常弘) | 「演習Ⅰ」がマイクロ会計政策の決定者（経営者）の視点からのアプローチであるのに対し、「演習Ⅱ」では、会計情報の利用者の視点、ことに外部利用者の視点からの研究を行う。ここでは、経営分析の手法を用いて、投資決定上、ならびに経営管理上の意思決定と会計情報との関連について追究する。 |
| 演習Ⅱ 特別演習Ⅱ (橋爪善光) | 演習Ⅰに引き続いて実験、解析を繰り返すだけでなく、学会など様々な機会でも種多様なバックグラウンドの研究者とのディスカッションを行う。 |
| 演習Ⅱ 特別演習Ⅱ (丹羽崇之) | 演習Ⅱ・特別演習Ⅱでは、各人の研究課題をさらに深め、修士論文に結実させる。 |
| 演習Ⅱ 特別演習Ⅱ (荒平高章) | 演習Ⅰ・特別演習Ⅰを受け、自身の研究内容について国内外での位置づけを明確にした上で、引き続き研究を継続し、実験データを整理し、考察を進める。得られた結果をもとに国内外の学会での発表や論文投稿を積極的に行う。 |

| 授業科目名 (担当者名) | 講義等の内容 |
|------------------------|---|
| 演習Ⅱ 特別演習Ⅱ (春日克則) | 演習Ⅱと特別演習Ⅱは、修士論文の作成（完成）を目的としている。 具体的には、①自らの研究に係わる先行研究を過不足なく取り上げること、②仮説の提示、③論文の中核である仮説の検証・論証テスト、④結論、の各要素を意識しながら仕上げることである。なお、論文には、結論の新規性、分析の独自性、そして、インプリケーションが求められていることも念頭に置く必要がある。 |
| 演習Ⅱ 特別演習Ⅱ (遠藤真紀) | 演習Ⅰおよび特別演習Ⅰで設定した各自の問題意識（仮説、視座等）を掘り下げるとともに、修士論文作成に必要な分析・検証手法を含めた研究方法等について指導する。文献・資料やフィールドワーク等を通して得られた情報を考察していき、修士論文の完成を目指す。 |
| 演習Ⅱ 特別演習Ⅱ (宮崎裕士) | 演習Ⅱおよび特別演習Ⅱでは、指導教員の指導を受けながら修士論文の作成に取り組んでもらう。 具体的には、修士論文の作成に必要な事項や留意すべき点について講義中に指導をし、また、論文を実際に作成しながらそれらを習熟してもらうことで、修士の学位に相応しいのみならず、社会一般に寄与するような研究を目指してもらいたい。 |

大学院
(博士後期課程)

2021年度 博士後期課程 開設授業科目及び担当教員

| | 授 業 科 目 の 名 称 | 職 名 | 担 当 教 員 | 授 業 を 行 う 年 次 | 単 位 数 | | | |
|---------------------------------|------------------|--------------|--------------|---------------------------------|------------------------|-------|---|---|
| | | | | | 必 修 | 選 択 | | |
| 授 業 科 目 の 概 要 | 経 営 | 経営学特別研究 | 教 授 | 丑山 優 | 1・2・3 | | 2 | |
| | | 日本経営史特別研究 | 非常勤講師 | 加来 祥男 | 1・2・3 | | 2 | |
| | | 企業経済分析特別研究 | 教 授 | 丑山 優 | 1・2・3 | | 2 | |
| | | 国際経営特別研究 | 教 授 | 小川 雄平 | 1・2・3 | | 2 | |
| | 情 報 | 会計情報学特別研究 | 教 授 (講 師) | 春日 克則 (宮崎 裕士) | 1・2・3 | | 2 | |
| | | 会計監査論特別研究 | 非常勤講師 | 伊藤 龍峰 | 1・2・3 | | 2 | |
| | | 情報科学特別研究 | 教 授 | 車 炳圻 | 1・2・3 | | 2 | |
| | 学 科 目 群 | 情報メディア特別研究 | 教 授 | 麻生 隆史 | 1・2・3 | | 2 | |
| | | 情報セキュリティ特別研究 | 教 授 | 車 炳圻 | 1・2・3 | | 2 | |
| | | 情報・信号処理特別研究 | 准教授 | 橋爪 善光 | 1・2・3 | | 2 | |
| | | 数値解析特別研究 | 講 師 | 荒平 高章 | 1・2・3 | | 2 | |
| | 要 | 演 習 | 応用数値解析特別研究 | 准教授 | 橋爪 善光 | 1・2・3 | | 2 |
| | | | 人工知能特別研究 | 講 師 | 荒平 高章 | 1・2・3 | | 2 |
| | | | 演習 I | 丑山 優 小川 雄平 津守 常弘 荒平 高章 | 麻生 隆史 車 炳圻 橋爪 善光 | 1 | 4 | |
| | 演習 II | 演習 I に同じ | | 2 | 4 | | | |
| | 演習 III | 演習 I に同じ | | 3 | 4 | | | |

講義等の内容（博士後期課程）

| 授業科目名 | 講義等の内容 |
|-----------------------|--|
| 経営学特別研究 (丑山優) | 現代経営学における主要な概念についてのコンセプトと問題点を解明する。 |
| 日本経営史特別研究 (加来祥男) | 第2次世界大戦後の日本企業の発展とその仕組みにみられる特徴を、生産システム、雇用システム、株式会社制度を中心に、国際比較を念頭におきながら考察する。 |
| 企業経済分析特別研究 (丑山優) | 企業経営・企業経済分析・経営財務分野における、新たな展開について、その制度的および法的変遷・理論的分析を綿密に整理しながら、各自の研究課題を見いだすべく指導を行う。その際常に現実の企業経営が、どのように社会変化と関わり合いながら、どのような方向性を辿りつつあるかを見つけて出す訓練を行う。 |
| 国際経営特別研究 (小川雄平) | グローバル化が進化した世界経済の現状の分析・把握と、それに伴う変容著しい国際経営環境に日々直面・対応している個別企業の国際経営戦略を理論的・実証的に考察する。 |
| 会計情報学特別研究 (春日克則) | 会計学の一分野である税務会計を対象とした研究を行う。即ち、これまで税務会計は、申告書上の加算・減算を行うだけの技術、ないしは内面的に課税所得決定の論理を持たない不完全、不徹底な学問との批判を受けてきた。つまり、会計情報を適切に作成するための手段が不完全であったとするものである。このような従来の見解について、批判的に検討することにより、税務会計独自の課税所得概念（会計情報）及び所得計算構造（情報作成過程）について、これらを会計主体論及び資本概念と関連づけながら研究する。 |
| 会計監査論特別研究 (伊藤龍峰) | 我が国の会計監査論の先行研究を整理しながら、企業の財務諸表に対する公認会計士・監査法人による監査制度を中心に、その問題点を解明します。絶えず、財務諸表監査制度の本質とは何かという問題意識を持ちながら研究を進めてください。 |
| 情報科学特別研究 (車炳玟) | 大量の情報がネットワーク上に存在し、今後も爆発的に増大する。広大な情報の海から、求める情報を捜し出すために、膨大な情報を収集・分析し、再構築する必要がある。ネットワークの広域性、データの多様性・分散性・不均一性を考慮した広域情報検索システムについて研究する。また、ネットワーク接続された計算資源を用いて大規模分散計算を行う Grid コンピューティングの研究も行う。国内外の研究組織とも協力しつつ、計算問題分割、計算資源の分散管理、自動スケジューリング等を研究する。 |
| 情報メディア特別研究 (麻生隆史) | デジタル画像処理に関する様々な研究をまとめ、演習・シミュレーションで得られた成果を基に、論文作成のための研究のまとめ方、研究の細部に関する検証、情報科学の分野での直近の研究成果の調査をする。 |
| 情報セキュリティ特別研究 (車炳玟) | 組織における情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS) の設計・導入・運用・見直しについて事例を中心に考察する。 |

| 授業科目名 | 講義等の内容 |
|-----------------------|---|
| 情報・信号処理特別研究 (橋爪善光) | 多くの実験データには様々なノイズが乗る為、フィルタを通すなどそれぞれ適切な処理を実施することでノイズを除去し、その後何らかの知見を得る為のデータ処理を行っている。各自の研究テーマの関連研究においてどのような情報処理もしくは信号処理を利用しているかについて議論し、情報処理および信号処理についての理解を深める。 |
| 数値解析特別研究 (荒平高章) | 自然科学系では偏微分方程式等で記述された数理モデルが多く存在し、その数値解析手法もかなり確立されている。近年では、社会科学系についても同様なモデル化が盛んに行われている。数値解析特別研究では、このような数理モデルについて色々な基準による分類を試み、それらの特徴や一般的な解法、解析条件などについて調査研究する。また、楕円型 Laplace 方程式について、数値解析手法の1つである有限要素法の代表的な離散化手法を修得し、具体的な境界値問題について解析システムを利用したシミュレーションを試みる。 |
| 応用数値解析特別研究 (橋爪善光) | 数値解析特別研究を踏まえて、自然科学系では数多く利用されている微分方程式の解の振る舞いの求め方について調査研究する。解の周期性や安定性、カオスなどについて検討し、それぞれ実世界でどのような事例の数理モデルとなるかなどについても深く考察する。 |
| 人工知能特別研究 (荒平高章) | 1950年代頃から本格的に発展してきた人工知能技術は、今日も様々な分野で応用されている。本研究は、どのような人工知能技術があるかについて、様々な分野の研究事例を通して議論し、考察をすすめる。 |
| 演習 I (麻生隆史) | 情報科学の分野でも近年特に注目を浴びている、デジタル画像処理技術を詳細に解説する。特にフィルタリング処理や領域分割等を学び、それをデジタル画像処理へ応用しシミュレーションする。その際必要である様々なプログラミング技術 (MATLAB 等を含む) もあわせて学ぶ。さらに論文作成に必要な様々なアイデアを討論し、研究の進め方を指導する。 |
| 演習 I (丑山優) | 特別研究において指導した内容から、各自のテーマを具体的に設定し、そのための文献指導、文献整理、資料分析方法の訓練を行う。 |
| 演習 I (小川雄平) | 各自の研究テーマの具体化・明確化を図り、修士論文を再検討してリライトし、学会誌・学術誌への掲載に堪える論文に仕上げることを目標とする。そのための文献・資料の収集・解析等研究の進め方を指導する。 |

| 授業科目名 | 講義等の内容 |
|---------------|--|
| 演習Ⅰ (車炳玓) | インターネット技術や計算能力の進化に伴い、高機能、高性能の知的情報処理に関する研究にますます関心が高まっている。演習Ⅰでは、人間の視聴覚情報処理に関する最新の研究動向について視野を広げるために、画像、映像、音声などを中心とするメディア情報の知的処理に関する基礎理論や先端技術等について知識を広め、研究に必要な基礎知識を習得する。 |
| 演習Ⅰ (津守常弘) | 演習Ⅰは、博士論文作成に必要な会計理論に関する体系的知見の整理と深化を目的とする。そのため、「古典的アプローチ」と対比しながら、「意思決定・有用性アプローチ」の特徴を整理し、「財務会計概念フレームワーク」の主要な論点、とりわけ「公正価値会計情報」に関する理論的研究を深める。演習は、予め指定した英文テキスト・その都度配布する英文テキストの購読および問題点についてのディスカッションを中心に系統的に進める。 |
| 演習Ⅰ (橋爪善光) | ヒトは無意識のうちに様々な運動学習を行っており、その内容を意識したり言語化したりすることは難しい。様々な運動に熟練したヒトの運動のばらつきの様子を観察することで、これまで気づけなかった、脳が身体制御において重視している運動のコツを探り出せる可能性がある。演習Ⅰでは論文作成に必要なアイデアを討論し、研究の進め方を指導する。 |
| 演習Ⅰ (荒平高章) | 工学的手法や情報学的手法は、様々な分野で使用され、新たな技術が次々と創出している。そこで、これらの手法を用いて生体医工学・生体情報学に関連する諸問題にアプローチする研究を実施する。具体的には、組織工学に基づく材料設計、in vitro 実験、生体工学に基づく数値解析などである。 |
| 演習Ⅱ (麻生隆史) | 高度なデジタル画像処理技術を詳細に解説する。特にニューラルネットワーク、ファジィ理論、カオス理論等のソフトコンピューティング技術を学び、それをデジタル画像処理へ応用しシミュレーションする。FPGA 等を用いたハードウェア技術もあわせて学ぶ。さらに論文作成に必要な様々なアイデアをさらに討論し、高度な研究の進め方を指導する。 |
| 演習Ⅱ (丑山優) | 前半を、演習Ⅰで行ったことを引き続き行いながら、後半では各自の研究テーマに沿った構成を暫定的に確定することと、各構成要素にしたがって論理化するための要旨の作成の指導・訓練を行う。 |
| 演習Ⅱ (小川雄平) | 演習Ⅰに引き続いて研究の進め方を指導し、研究成果を関係学会で報告させる。学会報告の内容を基にした学術論文をもう一編完成させることに目標を置いて指導する。 |
| 演習Ⅱ (車炳玓) | 演習Ⅰで習得した知識をベースに博士後期課程で行う研究のテーマを決め、その関連資料の収集及び輪読、追実験などを中心に研究を進めるとともにその研究成果を随時論文にまとめ、発表する。また、研究課程で出てきた諸問題点の検討および改良を行う。 |

| 授業科目名 | 講義等の内容 |
|---------------|--|
| 演習Ⅱ (津守常弘) | 演習Ⅱは、博士論文作成に必要な会計制度に関する体系的知見の整理と深化を目的とする。そのため、日、米、英、独など主要諸国における会計規制方式、コーポレート・ガバナンスの在り方の相違と国際的な趨勢について整理し、主に「マクロ会計政策」に関する理論的研究を深める。演習Ⅱは、演習Ⅰの場合と同様に、予め指定した英文テキスト・その都度配布する英文テキストの購読および問題点についてのディスカッションを中心に系統的に進める。 |
| 演習Ⅱ (橋爪善光) | 演習Ⅰを受けて、関連した学術論文を収集しつつ、運動計測実験の被験者数を増やし研究を進めるとともに、その研究成果を随時論文にまとめ発表する。 |
| 演習Ⅱ (荒平高章) | 演習Ⅰを受け、自身の研究内容について国内外での位置づけを明確にした上で、引き続き研究を継続し、実験データを整理し、考察を進める。得られた結果をもとに国内外の学会での発表や論文投稿を積極的に行う。 |
| 演習Ⅲ (麻生隆史) | デジタル画像処理に関する様々な研究をまとめ、演習・シミュレーションで得られた成果を基に、論文作成のための研究のまとめ方、研究の細部に関する検証、情報科学の分野での直近の研究成果の調査をする。さらに論文作成に必要な様々なアイデアを再検討し、より高度な研究の進め方・まとめ方を指導する。具体的には、研究の新規性・学術的なレベル・社会への貢献等を検証する。 |
| 演習Ⅲ (丑山優) | 各自の研究テーマに沿って、学位論文のための文章化を進めるが、各構成要素ごとに報告を演習内で行い、かつ外部での報告も試みる。なお学位論文として完成することが、それぞれの研究分野においてオリジナリティーをもって貢献することを期待する。 |
| 演習Ⅲ (小川雄平) | 演習Ⅰ及びⅡで作成した2編の学術論文を核に学位論文のスケルトンを検討・確立し、関係学会での報告を経て、学位論文にまとめ上げるように指導する。 |
| 演習Ⅲ (車炳玓) | 演習Ⅱで進めてきた研究をまとめ、研究成果を学会発表及びジャーナル論文として投稿する。また、研究課程で出てきた諸問題の改良を進めるとともに知的メディア情報処理に関する知見をまとめ、より高度な知的処理手法の開発を目指す。 |

| 授業科目名 | 講義等の内容 |
|---------------|--|
| 演習Ⅲ (津守常弘) | 演習Ⅲは、受講者が選択する会計情報関連の特定テーマに関する博士論文の作成を具体的に指導することを目的とする。すなわち、この演習では、演習Ⅰにおける会計理論研究、演習Ⅱにおける会計制度・「マクロ会計政策」の研究を土台に据えながら、特定テーマに関する具体的な研究を行う。その場合、とくに会計実務の実態の把握、「マクロ会計政策」と「ミクロ会計政策」との関係を重要な研究課題として課し、また、実証研究的な手法を重視する。演習は、各受講者が選択した特定の研究テーマに関する研究報告とそれをめぐるディスカッションを中心にして進める。 |
| 演習Ⅲ (橋爪善光) | 演習Ⅱで進めてきた研究をまとめ、その研究成果を随時論文にまとめ発表する。学位論文としてこれまでに投稿してきた複数の論文をきちんと1つの筋の通ったストーリーを作ってまとめ上げる。 |
| 演習Ⅲ (荒平高章) | 演習Ⅱを受け、博士論文執筆のために自身の研究内容について国内外での位置づけを明確にした上で、必要な実験データを取得・整理し、考察を進める。得られた結果をもとに国内外の学会での発表や論文投稿を積極的に行う。 |

□専任教員

| 氏名 | 担当科目 |
|-------|---|
| 麻生 隆史 | 情報メディア特論, 演習Ⅰ・Ⅱ, 特別演習Ⅰ・Ⅱ 情報メディア特別研究, 演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ |
| 丑山 優 | 経営学特論, 財務管理特論, 演習Ⅰ・Ⅱ, 特別演習Ⅰ・Ⅱ 経営学特別研究, 企業経済分析特別研究, 演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ |
| 倉地 和敏 | 税法学特論Ⅱ・Ⅲ, 演習Ⅰ・Ⅱ, 特別演習Ⅰ・Ⅱ |
| 車 炳玓 | 情報科学特論, 情報セキュリティ特論, 演習Ⅰ・Ⅱ, 特別演習Ⅰ・Ⅱ 情報科学特別研究, 情報セキュリティ特別研究, 演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ |
| 津守 常弘 | 会計情報学特論, 演習Ⅰ・Ⅱ, 特別演習Ⅰ・Ⅱ, 演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ |
| 丹羽 崇之 | 税法学特論Ⅰ・Ⅳ, 演習Ⅰ・Ⅱ, 特別演習Ⅰ・Ⅱ |
| 吉野 正 | 民事・行政訴訟特論Ⅰ・Ⅱ |
| 遠藤 真紀 | 経営戦略特論, 演習Ⅰ・Ⅱ, 特別演習Ⅰ・Ⅱ |
| 小川 雄平 | 国際経営特論, ロジスティクス特論, 演習Ⅰ・Ⅱ, 特別演習Ⅰ・Ⅱ 国際経営特別研究, 演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ |
| 春日 克則 | 税務会計特論, 演習Ⅰ・Ⅱ, 特別演習Ⅰ・Ⅱ, 会計情報学特別研究 |
| 橋爪 善光 | データベース特論, 数値解析特論, 演習Ⅰ・Ⅱ, 特別演習Ⅰ・Ⅱ 応用数値解析特別研究, 情報・信号処理特別研究, 演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ |
| 荒平 高章 | データ解析特論, 人工知能特論, 演習Ⅰ・Ⅱ, 特別演習Ⅰ・Ⅱ 数値解析特別研究, 人工知能特別研究, 演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ |
| 宮崎 裕士 | 税法学特論Ⅱ・Ⅲ, 演習Ⅰ・Ⅱ, 特別演習Ⅰ・Ⅱ, 会計情報学特別研究 |

□非常勤講師

| 氏名 | 担当科目 |
|--------|-----------------------------|
| 荒巻 富士夫 | 情報ネットワーク特論 |
| 今村 寛治 | 労働経済特論 |
| 伊藤 龍峰 | 会計情報学特論, 会計監査特論, 会計監査論特別研究, |
| 甘 長青 | 財政学特論 |
| 加来 祥男 | 日本経営史特論, 日本経営史特別研究 |
| 岸川 洋 | 経営情報システム設計特論 |
| 黄 在南 | 経営組織特論 |
| 福山 博文 | 経営科学特論 |

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表《省令で定める単位数等の基準数相当分》

| 担当教員名 | 授業科目名 | 学科 | 履修学年 | 単位数 | 授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業を行うか) |
|-------|--------------|------|-------|-----|---|
| 大多 正人 | キャリアデザイン入門 I | 学科共通 | 2・必前期 | 2 | キャリアコンサルタントとして多くの大学でのキャリア教育や就業支援に取り組む一方、人事採用コンサルタントとして企業の採用支援を担ってきた講師が、実社会で必要となる能力・資質を示し、大学生活を充実させることでそれらを磨くよう促します。この講座は、様々なグループワークや体験を通じて、自分で考え、行動し、周りと協働して結果を出すことで、「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」といった社会人基礎力を少しずつ修得していく構成としています。学生が自らの将来を主体的に「キャリアデザイン」できるようサポートします。 |
| 大多 正人 | キャリアデザイン I | 学科共通 | 3・選前期 | 2 | 「何のために働くのか?」「働くことで何が得られるのか?」「どんな仕事があるのか?」「働くうえで大切にしたいことは何か?」「社会に出るうえで学生生活を通してどんな準備をすればいいのか?」地場中小企業の経営者6人の講話から「生の声」を聴くことができる貴重な「体験」の機会です。経営理念や指針、ビジネスの現場の具体事例などに触れ、実社会で求められる思考特性・行動特性の理解を深めます。複数の企業を経験の後、キャリアコンサルタントとして多くの大学でのキャリア教育や就業支援を豊富に経験し、更に人事採用コンサルタントとして企業の採用支援を担ってきた講師が、経営者と学生との間に立ち理解がより深まるように講演をコーディネートします。また、経営者の講話を受けて学生同士でディスカッションするアクティブラーニングの場を通じ、「学んだこと・発見したことを今後どう活かすか」を共有し、語り合うことで、自分ではキャッチできなかったメッセージに気づく「目からウロコ体験」の機会にもなります。ここでも、学生が相互に気づきを共有し、自分の糧として活かせるように、講師がこれまでのキャリアコンサルタントとしての知識・経験を活かして導きます。これらのアプローチを通して、「社会を知る」ことはもちろん、大学生活をさらに充実したものにし、自身の「キャリアデザイン」に磨きをかけていくことに必ずつながります。 |
| 大多 正人 | キャリアデザイン II | 学科共通 | 3・選後期 | 2 | キャリアコンサルタントとして多くの大学でのキャリア教育や就業支援に取り組む一方、人事採用コンサルタントとして企業の採用支援を担ってきた講師が、進路決定する上で必要な最新の情報を提供するとともに、実践的な就職活動の準備をエスコートします。悔いのない進路選択、納得のいく就職先に進むための準備講座です。キャリア科目の集大成となる「実戦」的なアプローチで、直前に迫った就職活動に自信を持って臨めるよう最新情報でチューンナップしていきます。そのためには、正しくリアルな情報を手にして、コツコツと準備し、模擬体験を重ねることが必要で、それにより自信をもって採用の場に臨むことができます。就職を希望する3年生には是非とも履修して欲しい科目です。 |

| 担当教員名 | 授業科目名 | 学科 | 履修学年 | 単位数 | 授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業を行うか) |
|--------|--------|------|-------|-----|--|
| 遠藤 真紀 | 経営学総論Ⅰ | 学科共通 | 1・必前期 | 2 | 中小企業診断士として、企業の経営戦略立案や事業計画作成の支援等、経営コンサルタントの経験を持つ教員が担当します。企業経営に関する基本理論を体系的に理解するとともに、その理論の背景や意義などについても考察していきます。テキストを基に、伝統的な理論から現代の経営学まで、その形成過程や今日的課題について講義を進めます。現代企業の経営は、情報システムやネットワーク技術との関わりで進化していることから、これまでの実務経験を踏まえた実践的な議論を展開していきます。「経営学総論Ⅰ(経営学入門)」では、企業と社会についての基本的な視点から考察を進めます。 |
| 学科共通 計 | | | | 8 | |

| 担当教員名 | 授業科目名 | 学科 | 履修学年 | 単位数 | 授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業を行うか) |
|-------|------------|------|---------|-----|--|
| 遠藤 真紀 | 経営学総論Ⅱ | 経営情報 | 1・必後期 | 2 | 中小企業診断士として、企業の経営戦略立案や事業計画作成の支援等、経営コンサルタントの経験を持つ教員が担当します。企業経営のあり方等について理解するとともに、各理論の背景や意義などについても考察していきます。テキストを基に、伝統的な理論から現代の経営学まで、その形成過程や今日的課題について講義を進めます。現代企業の経営は、情報システムやネットワーク技術との関わりで進化していることから、これまでの実務経験を踏まえた実践的な議論を展開していきます。「経営学総論Ⅱ」では、「経営学総論Ⅰ」で理解した内容を基礎に、より理解を深めるため現実の企業経営政策・経営現象について、経営診断という視点で客観的に考察を行っていきます。 |
| 遠藤 真紀 | ビジネスプランニング | 経営情報 | 3・4・選後期 | 2 | 中小企業診断士として、企業の事業計画や創業計画の作成支援等、経営コンサルティング実務の経験を持つ教員が担当します。新しくビジネスを興す場合、製品・サービスの市場性等の見きわめ(市場調査・需要予測などの外部環境分析)や自社(自分)の能力評価(内部環境分析)が必要なため、過去の実務経験を踏まえ、アイデアの出し方やまとめ方および事業計画の作成方法をテキストやワークシート等を使って講義します。最終的には、自分のビジネスアイデアを事業計画書としてまとめ、その内容をプレゼンテーションしてもらいます。 |

| 担当教員名 | 授業科目名 | 学科 | 履修学年 | 単位数 | 授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業を行うか) |
|-------|----------|------|---------|-----|---|
| 遠藤 真紀 | 上級小売商業Ⅰ | 経営情報 | 3・選前期 | 2 | <p>本講義では、中小企業診断士として対応した身近な事例や実務経験から得た知見に基づき、これまでの3級販売士受験対策や2級販売士受験対策に引きつづき、1級販売士を受験するために必要な知識(商品開発や仕入、販売、物流などを効率的かつ効果的に行うための実践的なスキル)の概要を学びます。特に前期は、小売業の類型、マーチャンダイジングを中心に学びます。</p> <p>また、身近な事例や実務経験から得た知見に基づいた講義により、理論や業界特性を理解するとともに、ポイントを的確にとらえた問題演習等を実施し、高得点による検定試験の合格をめざします。</p> |
| 遠藤 真紀 | 上級小売商業Ⅱ | 経営情報 | 3・選後期 | 2 | <p>本講義では、中小企業診断士として対応した身近な事例や実務経験から得た知見に基づき、これまでの3級販売士受験対策や2級販売士受験対策に引きつづき、1級販売士を受験するために必要な知識(商品開発や仕入、販売、物流などを効率的かつ効果的に行うための実践的なスキル)の概要を学びます。特に後期は、ストアオペレーション、マーケティング、販売・経営管理を中心に学びます。</p> <p>また、身近な事例や実務経験から得た知見に基づいた講義により、理論や業界特性を理解するとともに、ポイントを的確にとらえた問題演習等を実施し、高得点による検定試験の合格をめざします。</p> |
| 遠藤 真紀 | ベンチャー企業論 | 経営情報 | 2・3・選後期 | 2 | <p>中小企業診断士として、企業の経営戦略立案や事業計画作成の支援等、経営コンサルタントの経験を持つ教員が担当します。ベンチャーだけでなく、ビジネスや経営は、実際に行ってみないと本当の理解はできませんが、テキストによる基本理論の理解やビデオ等による演習を通じて疑似体験する事は可能です。これまでの実務経験を踏まえ、企業経営が身近に感じられるような講義を行い、ベンチャー企業に関する基本的な知識だけでなく、自身と社会や企業との関わりについて深く知ろうとする積極性を養っていきます。</p> |
| 遠藤 真紀 | 経営戦略論 | 経営情報 | 1・選前期 | 2 | <p>中小企業診断士として、企業の経営戦略立案や事業計画作成の支援等、経営コンサルタントの経験を持つ教員が担当します。経営戦略に関する基本理論を体系的に理解するとともに、その理論の背景や意義などについても考察していきます。テキストを基に、伝統的な理論から現代の戦略論まで、その形成過程や今日的課題について講義を進めます。現代企業の経営戦略が、情報システムやネットワーク技術との関わりで進化していることから、これまでの実務経験を踏まえた実践的な議論を展開していきます。</p> |

| 担当教員名 | 授業科目名 | 学科 | 履修学年 | 単位数 | 授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業を行うか) |
|----------|-------|------|---------|-----|--|
| 遠藤 真紀 | 中小企業論 | 経営情報 | 2・3・選前期 | 2 | 中小企業診断士として、企業の経営戦略立案や事業計画作成の支援等、経営コンサルタントの経験を持つ教員が担当します。中小企業は、わが国において企業数および雇用される従業員数とも圧倒的多数を占め、またわが国産業の競争力を下支えています。講義では、大企業との格差問題や下請問題のみならず、中小企業が社会や地域経済に寄与していることについて議論していきます。テキストだけでなくビデオ教材等を活用し、また実務経験を踏まえ具体的な事例を交え、構造的・政策的・実践的な議論を展開していきます。 |
| 倉地 和敏 | 税法学 | 経営情報 | 3・4・選後期 | 2 | 「租税は、…およそ民主主義国家にあつては、国家の維持及び活動に必要な経費は、主権者たる国民が共同の費用として代表者を通じて定めるところにより自ら負担すべきものである(大島判決(最判:昭和60年3月27日判決))とされている。税とは何か、税による国家の活動にはどのようなものがあるかを学ぶ。 また、身近な税である所得税・消費税を取り上げ、今後学生諸君が実生活に出てどのようにかかわっていくかなどを学ぶ。 なお、所得税の確定申告書を作成するなど実践的な学習を行う。国税庁のHPにアクセスして、所得税の申告書作成システムを利用した所得税確定申告書の作成模擬演習を行うなど、電子機器を取り入れた授業も予定している。 担当教員は、税理士として、所得税申告書・法人税申告書・消費税申告書・相続税申告書等を作成・提出した経験がある。 |
| 新田町 尚人 | 企業金融 | 経営情報 | 2・選前期 | 2 | 企業が利益をあげるためには投資が必要で、投資を行うためには資金が必要である。では、経営者はどのように投資や資金調達の意思決定を行っているのだろうか。 第1部では、企業の資金調達(コーポレート・ファイナンス)と投資(インベストメント)の理論を学ぶ。また、第2部では、国際金融の仕組みや外国為替レートなどを学ぶ。第1部、第2部ともに重要なのは、金利(利子率)の概念を理解することである。 テキストに掲載されている理論だけでなく、証券市場及び上場企業担当の新聞記者、さらには中小企業をはじめとする経営コンサルタントの実務経験をもとに、実際に発生している課題などの紹介を通じて、生きた経済と経営を学びます。また、時事問題やニュースへの感度があがることで、就職活動にもプラスになります。 |
| 経営情報学科 計 | | | | 18 | |

| 担当教員名 | 授業科目名 | 学科 | 履修学年 | 単位数 | 授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業を行うか) |
|--------|------------------|----------|-------------|-----|---|
| 荒巻 富士夫 | ネットワークアプリケーション構築 | 情報ネットワーク | 3・4・選 通年 | 4 | Webアプリケーション開発のための技術をコンピュータメーカーのSEとして銀行の勘定系・情報系システムの構築の実務経験から、アプリケーションの設計、プログラム開発を実習を含めて指導します。プログラミング言語としてはJava、Webサーバおよびアプリケーションをサーバ内で稼働させるコンテナとしてはTomcat、アプリケーションの記述としてはサーブレット、JSP、JavaBeansを学び、演習によって構築技術を具体的に身につけます。テーマの1回分を2週間で学習します。 |
| 荒巻 富士夫 | ネットワーク基礎 | 情報ネットワーク | 2・選 前期 | 6 | シスコシステムズ社のCCNAを受験するための科目です。コンピュータメーカーのSEとして銀行のオンラインシステムの構築・運用の実務経験をもとにネットワークの仕組みと構築を指導します。ネットワークの基本的な仕組み、ISP(プロバイダ)の業務、OSI参照モデルやTCP/IPの機能分類により、データの送受信のためにどのような処理や規約(プロトコル)があるかを実務経験から得た知見に基づいた講義や演習により学び、ネットワークの基本を身につけます。演習や実例を多くして理解が容易になるようにし、これらにより日常のネットワーク利用と関連付けができるようにします。 |
| 荒巻 富士夫 | ルーティング技術 | 情報ネットワーク | 2・選 後期 | 6 | ネットワーク間の通信のためにルーティングの理論と技術を学び、LANやWANの構築を学びます。ネットワークプロトコルや通信経路、トラブルシューティングについてコンピュータメーカーのSEとして銀行のオンラインシステムを担当した実務経験をもとに、遠隔地との通信の仕組みを実習を中心にして指導します。講義で学習したことをルータやスイッチを設定し、動作を確認しながらネットワークを接続して具体的に実習を通して身につけます。実習はルータやスイッチとともにPacket Tracerによるシミュレーションも使って授業外でも学習できるようにします。 |
| 岸川 洋 | モバイルネットワーク | 情報ネットワーク | 3・4・選 前期 | 2 | 電気通信事業会社で、交換設備部門(開発、計画、設計、調達、保守)の業務経験のある教員が、モバイル通信のしくみ、今後の動向及び課題を解説することにより、第5世代・第6世代への基礎知識を学修する。 |
| 岸川 洋 | 情報システム設計 | 情報ネットワーク | 3・4・選 後期 | 2 | 電気通信事業会社で、社内システム開発部門やシステム営業部門(公共・金融)の業務経験がある教員が、システム開発について解説することにより、システム設計の各種技法やプロジェクト管理等について学修する。 ITパスポート試験(マネジメント分野)から出題した小テストを毎回実施する。 |

| 担当教員名 | 授業科目名 | 学科 | 履修学年 | 単位数 | 授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業を行うか) |
|--------------|-------------|----------|-------------|-----|--|
| 岸川 洋 | 経営情報論Ⅱ | 情報ネットワーク | 2・3・選 後期 | 2 | 電気通信事業会社で、社内システム開発部門やシステム営業部門(公共・金融)の業務経験がある教員が、経営環境の変化や情報技術の進展により、経営情報システムがどのように発展してきたかを解説することにより、各経営情報システムの利点・欠点・留意点について学修する。 ITパスポート試験(ストラテジー分野)から出題した小テストを毎回実施する。 |
| 平塚 智一 | Webコンテンツ制作Ⅰ | 情報ネットワーク | 1・選 後期 | 2 | 現在、システム開発会社でエンジニアとしてWeb制作や開発を行っている教員が実務経験を生かした授業を行う。 ビジネスとインターネット、各種サービスとインターネットを概観する。ユーザ・インターフェイスと提供したいサービスの機能・構造との関係をどのようにデザインするか考察する。簡単なHTMLファイルについて学習する。 |
| 情報ネットワーク学科 計 | | | | 24 | |
| 経営情報学部 合計 | | | | 50 | |